

宮城県文化財調査報告書第246集

山王遺跡Ⅶ

— 三陸沿岸道路建設に伴う八幡・伏石地区発掘調査報告書 —

第2分冊

F区、G区、J区、L区の調査編

平成30年3月

宮城県教育委員会
国土交通省東北地方整備局

宮城県文化財調査報告書第246集

山王遺跡Ⅶ

— 三陸沿岸道路建設に伴う
八幡・伏石地区発掘調査報告書 —

第2分冊

平成三十年三月

宮城県教育委員会
国土交通省東北地方整備局

山王遺跡Ⅶ

— 三陸沿岸道路建設に伴う八幡・伏石地区発掘調査報告書 —

第2分冊

F区、G区、J区、L区の調査編

例 言

1. 本書は、国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所が担当する復興関連事業の、三陸沿岸道路塩塩道路4車線化と多賀城IC建設工事に伴い、平成24年度から平成26年度に実施した山王遺跡・市川橋遺跡八幡地区の発掘調査成果をまとめたものである。本書の題名は、2遺跡が隣接して同一の性格をもつことから、山王遺跡としたが、本文中では遺跡地図に準拠してそれぞれの遺跡名を使用している。なお、地区名は小字に準拠した。調査区との関係は、G区が伏石地区、それ以外の調査区は八幡地区である。
2. 調査成果は、現地説明会、宮城県遺跡成果発表会、古代城柵官衙遺跡検討会、多賀城市遺跡成果報告会、文化財保護課ウェブサイトなどで、その内容の一部を公開しているが、本書と内容が異なる場合は、本書がこれに優先する。
3. 発掘調査は、宮城県教育委員会が主体となり、宮城県教育庁文化財保護課が担当した。調査にあたっては、他県市からの自治体派遣職員と宮城県多賀城跡調査研究所職員、東北歴史博物館職員の協力を得ている。
4. 発掘調査と報告書作成にあたって、国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所、会津若松市教育委員会、多賀城市教育委員会、東北歴史博物館、宮城県多賀城跡調査研究所から多大な協力をいただいた。また、以下の方からご指導・ご助言を賜った（敬称略、所属は当時）。
相沢清利（多賀城市埋蔵文化財調査センター）、今泉隆雄（東北歴史博物館）、及川規（東北歴史博物館）、大橋泰夫（島根大学）、佐川正敏（東北学院大学）、高橋義行（利府町教育委員会）、千葉孝弥（多賀城市教育委員会）、辻秀人（東北学院大学）、芳賀文絵（東北歴史博物館）、林部均（国立歴史民俗博物館）、松崎哲也（奈良文化財研究所）、松本秀明（東北学院大学）、箕浦幸治（東北大学）、山田努（東北大学）、吉野武（宮城県多賀城跡調査研究所）
5. 本書の遺跡位置図は、国土交通省国土地理院発行の1/25,000地形図を複製して使用した。
6. 本書における平面図は、東日本大震災後の世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。方位Nは座標北を表す。
7. 本書で使用した遺構略号は、以下の通りである。
SA：柵跡・材木堀跡 SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡・河川跡 SE：井戸跡 SF：畑跡（小溝状遺構群） SI：竪穴住居跡 SK：土坑 SP：ピット・柱穴 SX：道路跡・整地層・その他遺構
8. 掘立柱建物跡の柱穴の位置は、東西南北の側柱列をそれぞれE・W・S・N、隅柱を1とし、両者の組合せで表している。たとえば、南東隅柱はS1E1で、東側柱列の北から3個目の柱穴はE1N3となる。
9. 土色の記載は、『新版標準土色帳』（小山忠・竹原秀雄1973、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修・日本色研事業株式会社発行）に依拠した。
10. 遺構図および遺物図の縮尺は、それぞれスケールを付して示している。

11. 土師器の記述にある「ロクロ調整」とは、製作に際してロクロを使用したことを意味し、「非ロクロ調整」とは、製作に際してロクロを用いなかったことを意味する。
12. 土器実測図のうち、黒色処理・煤痕・被熱痕などの表現は以下のとおりである。また、礫石器・転用砥の矢印は磨面の範囲を示している。



13. 軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦の分類と記載は、同一の瓦類が出土してその基準となっている多賀城跡分類（多賀城跡調査研究所 1982a『多賀城跡 政庁跡本文編』）に依拠している。
14. 文中・表中の「大戸産」とは、福島県会津若松市大戸窯跡群の製品を指す。
15. 大戸産須恵器の同定は、会津若松市教育委員会から提供を受けたサンプルと照合しながら行った。また、その一部は同教委の承諾のもと、第 14 章第 14 節（4）に写真を掲載している（平成 29 年 9 月 7 日付け 29 会教文第 503 号）。

16. 出典のうち、特に引用の多い機関名については以下のとおり記載している。

「宮城県教委」：宮城県教育委員会

「多賀研」：宮城県多賀城跡調査研究所

「多賀城市教委」：多賀城市教育委員会

「多賀城市埋文センター」：多賀城市埋蔵文化財調査センター

17. 註は各節の末尾に記載している。

18. 航空写真撮影と遺物写真撮影は、以下の機関に委託して行った。

航空写真：(株)日本特殊撮影

遺物写真：(株)アートプロフィール、(株)仙台ぼど

19. 本書の自然科学分析は以下の機関に委託して行った。

火山灰分析：火山灰考古学研究所

種子同定：古代の森研究所

20. 本書の整理作業は、村田晃一・熊谷宏規・齋藤和機・黒田智章（当課職員）、高橋透（宮城県多賀城跡調査研究所職員）、岡本泰典（岡山県教育委員会）のほか、安齊香・伊藤幸恵・伊藤康子・大沼美代子・長田由佳・岸柳あきら・木村奈保美・小林由美・佐々木みゆき・佐藤沙織・佐藤せい子・柴田とみ子・高橋智佳子・瀧澤恵子・只木一美・千田敦子・千葉栄子・千葉千恵・遠山寛美・長沼雅子・中島敦子・伏見裕美子・古川史佳・真壁智美・山中留理・與名本京子・渡邊祐子（当課臨時職員）が行った。

21. 本書の執筆は担当職員の協議を経て以下の分担で行い、村田晃一が編集した。

第I章：齋藤和機

第II章：齋藤和機（1節）

村田晃一（2節）

第III章：齋藤和機

第IV章：村田晃一・齋藤和機

第V章：村田晃一・齋藤和機（1～9・11節）

西村力（10節・動物遺存体）

齋藤和機（10節・木製品、骨角製品）

村田晃一（その他の10節）

第VI～XI章：村田晃一・齋藤和機

第XII章：齋藤和機

第XIII章：火山灰考古学研究所（1節）

古代の森研究舎 吉川純子（2節）

第XIV章：村田晃一（1～4・12・14節）

西村力（5節）

村田晃一・齋藤和機（6節・11節（2））

齋藤和機（7～9・13節）

齋藤和機・村田晃一（10・11節（1））

第XV章：村田晃一

22. 発掘調査の記録や出土遺物は、宮城県教育委員会が保管している。

目 次

(第1分冊)

例言

調査要項

第Ⅰ章 調査に至る経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第Ⅱ章 遺跡の概観

1. 遺跡の位置と地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2. 歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第Ⅲ章 調査の方法と経過

1. 東日本大震災の復興事業に伴う調査基準の弾力的運用について・・・・ 13

2. 平成24年度の調査経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

3. 平成25年度の調査経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

4. 平成26年度の調査経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

5. 基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

6. 発見した遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

第Ⅳ章 道路跡

1. 北2道路跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

2. 北2a道路跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

3. 西6a道路跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

4. 西4道路跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53

5. 西5道路跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74

6. その他の道路跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83

7. 道路上の第Ⅱ層出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84

第Ⅴ章 D区

1. 整地層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89

2. 区画施設跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105

3. 溝跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 112

4. 掘立柱建物跡・掘立柱塼跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120

5. 竪穴住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 133

6. 竪穴建物跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150

7. 井戸跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 160

8. 土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 167

9. 畑跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 173

10. SD100・SD2050B 河川跡	
(1) 古墳時代中期と後期の河川跡の概要	175
(2) 調査概要	175
(3) 層序	177
(4) 出土遺物	
A. 土器	187
B. 土製品	247
C. 石製品	252
D. 凝灰岩切石	252
E. 木製品・樹皮製品	252
F. 骨角製品	274
G. 動物遺存体	299
11. 遺構外出土遺物	331

(第2分冊)

第Ⅵ章 F区

1. 溝跡	3
2. 掘立柱建物跡	3
3. 竪穴住居跡	19
4. 土坑	45
5. 遺構外出土遺物	45

第Ⅶ章 G区

1. 区画施設跡	51
2. 溝跡	69
3. 掘立柱建物跡	73
4. 竪穴住居跡	83
5. 井戸跡	84
6. 土坑	90

第Ⅷ章 J区

1. 整地層	97
2. 区画施設跡	99
3. 溝跡	115
4. 掘立柱建物跡・掘立柱塼跡	117
5. 周溝をもつ建物跡	149
6. 竪穴住居跡	152

7. 円形周溝跡	166
8. 井戸跡	168
9. 土坑	180
10. 畑跡	195

第IX章 L区

1. 整地層	205
2. 区画施設跡	223
3. 溝跡	262
4. 掘立柱建物跡・掘立柱塼跡	268
5. 竪穴住居跡	298
6. 円形周溝跡	326
7. 井戸跡	326
8. 土器埋設遺構	345
9. 土坑	345
10. 畑跡	366
11. 遺構外出土遺物	369

(第3分冊)

第X章 M区

1. 区画施設跡	5
2. 溝跡	22
3. 掘立柱建物跡	23
4. 土坑	27
5. 畑跡	30

第XI章 N区

1. 区画施設跡	35
2. 溝跡	35
3. 畑跡	40

第XII章 第V層の水田跡

第V層の水田跡	43
---------	----

第XIII章 自然科学分析

1. 山王遺跡から出土した火山灰分析	
(1) はじめに	51
(2) テフラ検出分析	51
(3) テフラ組成分析(火山ガラス比分析・重鉱物組成分析)	52
(4) 屈折率測定(火山ガラス・屈折率測定)	56

(5) 考察	58
(6) まとめ	59
2. 山王遺跡から出土した大型植物遺体	
(1) はじめに	61
(2) 試料と同定結果	61
(3) 考察	65
(4) 出土した大型植物遺体の特筆すべき分類群の形態記載	67
第XIV章 総括	
1. 古墳時代中期の土器	
(1) 土師器の分類	75
(2) 土器の共存関係と年代	79
(3) 七北田川下流域における古墳時代中期土器の変遷	84
2. 古墳時代後期の土器	
(1) 土師器の分類	93
(2) 土器の共存関係と年代	98
(3) 7世紀から8世紀の土師器製作について	109
(4) 仙台平野北東部における7世紀の須恵器生産	115
3. 奈良・平安時代の土器	
(1) 主な遺構出土土器の年代	120
(2) 多賀城周辺における5世紀から10世紀の土器変遷	138
4. 奈良・平安時代の土石製品	
(1) 硯	140
(2) 凝灰岩切石と切石組カマド	140
5. 動物質資源利用の特徴と古墳時代後期の生業	
(1) 動物遺存体群の構成	144
(2) 貝層の形成と漁撈環境の変化	148
(3) 大型獣の処理と廃棄	148
(4) 山王・市川橋遺跡における古墳時代後期生業の特徴	149
6. 遺構の特徴と年代	
(1) 道路跡	151
(2) 区画施設跡	152
(3) 掘立柱建物跡	158
(4) 竪穴住居跡	166
(5) 竪穴建物跡	171
(6) その他の建物跡	171

(7) 井戸跡	172
(8) 溝跡	176
(9) 土器埋設遺構	177
(10) 土坑	177
(11) 畑跡	179
7. 古墳時代前期の八幡・伏石地区	
(1) 水田の構造	180
(2) 水田の形態	183
(3) 水田域の広がりとう居住域	183
8. 古墳時代中期の八幡・伏石地区	
(1) 区画施設の検討	188
(2) 「布掘り底面から支柱掘方を掘り下げる」崩跡について	190
(3) 竪穴鍛冶遺構について	191
(4) 東北地方の古墳時代中期鍛冶遺構	192
(5) 竪穴鍛冶遺構と区画施設の関係	195
(6) 出土遺物からみた区画内の生産活動	196
(7) 古墳時代中期の八幡・伏石地区の歴史的評価	196
9. 古墳時代後期の八幡・伏石地区	
(1) 集落の区画	198
(2) 竪穴住居跡	201
(3) 集落の生業活動	208
(4) 集落の存続年代	209
10. 古代（方格地割成立以前）の八幡・伏石地区	
(1) 区画Ⅰ期の様相	210
(2) 区画Ⅱ期の様相	213
11. 古代（方格地割成立以後）の八幡・伏石地区	
(1) 道路について	216
(2) 街区の様相	227
12. 古墳時代の七北田川下流域と砂押川流域	
(1) 前期	243
(2) 中期	249
(3) 後期	256
(4) まとめ—古墳時代における七北田川下流域と砂押川流域の動態—	263
13. 多賀城南面の国府域について	
(1) 多賀城南面方格地割の検討	266

(2) 陸奥国府域の建物配置	271
(3) 方格地割施工後の竪穴住居	281
(4) 水田・畑	281
14. 出土遺物からみた陸奥国府	
(1) 官衙的器種	282
(2) ミガキ須恵器	283
(3) 須恵器壺C	289
(4) 大戸産須恵器	291
(5) 硯	302
(6) 腰帯具	319
(7) まとめ	323
第XV章 まとめ	325
引用・参考文献	331
報告書抄録	349

付図

図版目次

第1分冊

巻頭図版1 航空写真1

巻頭図版2 航空写真2

巻頭図版3 土器・土製品・石製品

巻頭図版4 古墳時代後期河川跡出土骨角製品

図版1	遺跡周辺の微地形分類図	3
図版2	仙台平野北部の微地形環境と主な遺跡の位置	4
図版3	陸奥国府多賀城跡と方格地割、遺跡の分布	6
図版4	調査区的位置	16
図版5	調査と現地説明会の様子	18
図版6	基本順序1一模式図	21
図版7	基本順序2一写真	22
図版8	SX12221東西道路跡(北2道路)・12100東西道路跡断面図1	26
図版9	SX12221東西道路跡(北2道路)・12100東西道路跡断面図2	27
図版10	SX12221東西道路跡(北2道路)・12100東西道路跡平面図1(J区)	28
図版11	SX12221東西道路跡(北2道路)・12100東西道路跡平面図2(J区)	29
図版12	SX12221東西道路跡(北2道路)・12100東西道路跡	30
図版13	SX12221東西道路跡(北2道路)出土遺物1	32
図版14	SX12221東西道路跡(北2道路)出土遺物2	33
図版15	SX390・710東西道路跡(北2a道路)断面図	34
図版16	SX390・710東西道路跡(北2a道路)	35
図版17	SX710東西道路跡(北2a道路)	36
図版18	D区平面図1	37
図版19	D区平面図2	38
図版20	SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物1	39
図版21	SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物2	40
図版22	SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物3	41
図版23	SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物4	42
図版24	SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物5	43
図版25	SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物6	44
図版26	SX710東西道路跡(北2a道路)出土遺物	46
図版27	SX12092道路跡(西6a道路)1	48

図版28	SX12092道路跡(西6a道路)、SD5601D溝跡断面図	49
図版29	SX12092道路跡(西6a道路)、SD5601D溝跡平面図(J区)	50
図版30	SX12092道路跡(西6a道路)2	51
図版31	SX12092道路跡(西6a道路)出土遺物	52
図版32	SX2652南北道路跡断面図	53
図版33	SX700・750南北道路跡(西4道路)断面図1	54
図版34	SX700・750南北道路跡(西4道路)断面図2	55
図版35	SX750南北道路跡(西4道路)	56
図版36	SX700・750南北道路跡(西4道路)	57
図版37	D区平面図3	58
図版38	D区平面図4	59
図版39	D区平面図5	60
図版40	SX750南北道路跡(西4道路)出土遺物1	62
図版41	SX750南北道路跡(西4道路)出土遺物2	63
図版42	SX750南北道路跡(西4道路)出土遺物3	64
図版43	SX750南北道路跡(西4道路)出土遺物4	65
図版44	SX750南北道路跡(西4道路)出土遺物5	66
図版45	SX750南北道路跡(西4道路)出土遺物6	67
図版46	SX700南北道路跡(西4道路)出土遺物1	70
図版47	SX700南北道路跡(西4道路)出土遺物2	71
図版48	SX700南北道路跡(西4道路)出土遺物3	72
図版49	SX700南北道路跡(西4道路)出土遺物4	73
図版50	SX400南北道路跡(西5道路)断面図	75
図版51	SX400南北道路跡(西5道路)	76
図版52	SX400南北道路跡(西5道路)平面図1(M区)	77
図版53	SX400南北道路跡(西5道路)平面図2(M区)	78
図版54	SX400南北道路跡(西5道路)出土遺物1	80
図版55	SX400南北道路跡(西5道路)出土遺物2	81
図版56	SX11794波板状凸凹面	82
図版57	SX11794波板状凸凹面出土遺物	83
図版58	SX12100東西道路跡出土遺物	83
図版59	西4道路・北2a道路上堆積層出土遺物1	84
図版60	西4道路・北2a道路上堆積層出土遺物2	85
図版61	SX12221東西道路跡(北2道路)上堆積層出土遺物	86
図版62	整地層・道路跡と河川跡の関係	89
図版63	SX7001整地層	90

图版64	D区全体图	91 · 92	图版101	SI821A · B 竖穴住居跡 2	135
图版65	SX7001 整地層出土遺物 1	93	图版102	SI821 竖穴住居跡出土遺物 1	136
图版66	SX7001 整地層出土遺物 2	94	图版103	SI821 竖穴住居跡出土遺物 2	137
图版67	SX7001 整地層出土遺物 3	95	图版104	SI821 竖穴住居跡出土遺物 3	138
图版68	SX7001 整地層出土遺物 4	96	图版105	SI823 竖穴住居跡	140
图版69	SX7001 整地層出土遺物 5	97	图版106	SI823 竖穴住居跡出土遺物	140
图版70	SX7001 整地層出土遺物 6	98	图版107	SI827 · 839 竖穴住居跡 1	141
图版71	SX7001 整地層出土遺物 7	99	图版108	SI827 · 839 竖穴住居跡 2	142
图版72	SX7025 · 7033 整地層	99	图版109	SI705 · 715 · 716 · 737 竖穴住居跡出土遺物	143
图版73	SX7025 整地層出土遺物 1	101	图版110	SI884 · 886 · 7005 · 7043 竖穴住居跡出土遺物	144
图版74	SX7025 整地層出土遺物 2	102	图版111	SI705 · 715 · 716 · 737 · 886 · 7043 竖穴住居跡出土遺物	145
图版75	SX7033 整地層出土遺物	102	图版112	D区平面圖11	146
图版76	SX7026 整地層断面圖	103	图版113	D区平面圖12	147
图版77	SX7026 整地層出土遺物	104	图版114	D区平面圖13	148
图版78	SD7007 区画溝跡、SX7010 洪水槽	105	图版115	SX7013 竖穴建物跡	151
图版79	SD7007 区画溝跡出土遺物 1	106	图版116	SX7013 竖穴建物跡出土遺物 1	152
图版80	SD7007 区画溝跡出土遺物 2	107	图版117	SX7013 竖穴建物跡出土遺物 2	153
图版81	SD7007 区画溝跡出土遺物 3	108	图版118	SX7013 竖穴建物跡出土遺物 3	154
图版82	SD7007 区画溝跡出土遺物 4	109	图版119	SX7013 竖穴建物跡出土遺物 4	155
图版83	SD7007 区画溝跡出土遺物 5	110	图版120	SX7013 竖穴建物跡出土遺物 5	156
图版84	SD7007 区画溝跡出土遺物 6	111	图版121	SX7013 竖穴建物跡出土遺物 6	157
图版85	D区溝跡断面圖 1	112	图版122	SX7013 竖穴建物跡出土遺物 7	158
图版86	D区溝跡断面圖 2	113	图版123	SX7013 竖穴建物跡出土遺物 8	159
图版87	D区溝跡出土遺物 1	114	图版124	SE709 井戶跡	160
图版88	D区溝跡出土遺物 2	115	图版125	SE709 井戶跡出土遺物	160
图版89	D区溝跡出土遺物 3	116	图版126	SE712 井戶跡	161
图版90	D区溝跡出土遺物 4	117	图版127	SE712 井戶跡出土遺物	162
图版91	SB7086 孤立柱建物跡出土遺物	121	图版128	SE798 井戶跡	163
图版92	SB1605 · 1606 · 7086 · 7153 孤立柱建物跡	123	图版129	SE798 井戶跡出土遺物	163
图版93	D区平面圖 6	124	图版130	SE837 井戶跡	164
图版94	SB7035 · 7040 · 7155 · 7156 · 7157 · 7160 孤立柱建物跡	125	图版131	SE837 井戶跡出土遺物	165
图版95	D区平面圖 7	126	图版132	SE844 井戶跡出土遺物	165
图版96	D区平面圖 8	127	图版133	SE844 井戶跡	166
图版97	D区平面圖 9	128	图版134	D区土坑	169
图版98	SB7045 · 7161 · 7162 孤立柱建物跡断面圖	129	图版135	D区土坑出土遺物 1	170
图版99	D区平面圖 10	130	图版136	D区土坑出土遺物 2	171
图版100	SI821A · B 竖穴住居跡 1	134	图版137	D区土坑出土遺物 3	172

図版138	SF809烟跡出土遺物	173	図版176	SD2050B河川跡2層上面出土土器5	220
図版139	SF801・809烟跡	174	図版177	SD2050B河川跡2層上面出土土器6	221
図版140	SD100・2050B河川跡と周辺遺構	176	図版178	SD2050B河川跡2層上面出土土器7	222
図版141	SD100・2050B河川跡断面図1	178	図版179	SD2050B河川跡2層上面出土土器8	223
図版142	SD100・2050B河川跡断面図2	179	図版180	SD2050B河川跡2層上面出土土器9	224
図版143	SD100・2050B河川跡1	180	図版181	SD2050B河川跡1層出土土器1	227
図版144	SD100・2050B河川跡2	181	図版182	SD2050B河川跡1層出土土器2	228
図版145	SD100・2050B河川跡3	182	図版183	SD2050B河川跡1層出土土器3	229
図版146	SD100・2050B河川跡4	183	図版184	SD2050B河川跡1層出土土器4	230
図版147	SD100・2050B河川跡5	184	図版185	SD2050B河川跡1層出土土器5	231
図版148	SD100・2050B河川跡6	185	図版186	SD2050B河川跡1層出土土器6	232
図版149	SD100・2050B河川跡7	186	図版187	SD2050B河川跡1層出土土器7	233
図版150	SD2050B河川跡4・5層出土土器1	189	図版188	SD2050B河川跡1層出土土器8	234
図版151	SD2050B河川跡4・5層出土土器2	190	図版189	SD2050B河川跡1層出土土器9	235
図版152	SD2050B河川跡4・5層出土土器3	191	図版190	SD2050B河川跡1層出土土器10	236
図版153	SD2050B河川跡4・5層出土土器4	192	図版191	SD2050B河川跡1層出土土器11	237
図版154	SD2050B河川跡4・5層出土土器5	193	図版192	SD2050B河川跡1層出土土器12	238
図版155	SD100河川跡4層出土土器1	195	図版193	SD2050B河川跡1層出土土器13	239
図版156	SD100河川跡4層出土土器2	196	図版194	SD2050B河川跡1層出土土器14	240
図版157	SD2050B河川跡3層、4層上面出土土器1	197	図版195	SD100・2050B河川跡堆積出土土器1	242
図版158	SD2050B河川跡3層、4層上面出土土器2	198	図版196	SD100・2050B河川跡堆積出土土器2	243
図版159	SD2050B河川跡3層、4層上面出土土器3	199	図版197	SD100・2050B河川跡堆積出土土器3	244
図版160	SD2050B河川跡3層、4層上面出土土器4	200	図版198	SD100・2050B河川跡遺構確認面出土土器1	245
図版161	SD100河川跡3層出土土器	202	図版199	SD100・2050B河川跡遺構確認面出土土器2	246
図版162	SD100・2050B河川跡合流地点3層出土土器1	203	図版200	SD100・2050B河川跡出土ミニチュア土器1	248
図版163	SD100・2050B河川跡合流地点3層出土土器2	204	図版201	SD100・2050B河川跡出土ミニチュア土器2	249
図版164	SD100・2050B河川跡合流地点3層出土土器3	205	図版202	SD100・2050B河川跡出土土玉1	250
図版165	SD100・2050B河川跡合流地点3層出土土器4	206	図版203	SD100・2050B河川跡出土土玉2	251
図版166	SD2050B河川跡2層出土土器1	208	図版204	SD100・2050B河川跡出土土器製品1	253
図版167	SD2050B河川跡2層出土土器2	209	図版205	SD100・2050B河川跡出土土器製品2	254
図版168	SD2050B河川跡2層出土土器3	210	図版206	SD100・2050B河川跡出土土器製品3	255
図版169	SD2050B河川跡2層出土土器4	211	図版207	SD100・2050B河川跡出土土器製品4	256
図版170	SD2050B河川跡2層出土土器5	212	図版208	SD100・2050B河川跡出土土器製品5	257
図版171	SD100河川跡1・2層出土土器	214	図版209	SD100・2050B河川跡出土土器製品6	258
図版172	SD2050B河川跡2層上面出土土器1	216	図版210	SD100・2050B河川跡出土土器製品7	259
図版173	SD2050B河川跡2層上面出土土器2	217	図版211	SD100・2050B河川跡出土土器製品8	260
図版174	SD2050B河川跡2層上面出土土器3	218	図版212	SD100・2050B河川跡出土土器製品1	261
図版175	SD2050B河川跡2層上面出土土器4	219	図版213	SD100・2050B河川跡出土土器製品2	262

図版214	SD100・2050B河川跡出土木製品3	263	図版249	SD100・2050B河川跡出土動物遺存体5ーニホンジカ(2)・ウマ・ウシ・ウミガメ	323
図版215	SD100・2050B河川跡出土木製品4	266	図版250	SD100・2050B河川跡出土動物遺存体6ーイノシシ	326
図版216	SD100・2050B河川跡出土木製品5	267	図版251	D区遺構外出土遺物1	331
図版217	SD100・2050B河川跡出土木製品6	268	図版252	D区遺構外出土遺物2	332
図版218	SD100・2050B河川跡出土木製品7	269	図版253	D区遺構外出土遺物3	333
図版219	SD100・2050B河川跡出土木製品8	270			
図版220	SD100・2050B河川跡出土木製品9	271			
図版221	SD100・2050B河川跡出土木製品10	272			
図版222	SD100・2050B河川跡出土木製品11	273			
図版223	SD100・2050B河川跡出土骨角製品1	277	第2分冊		
図版224	SD100・2050B河川跡出土骨角製品2	278	図版254	SD11537溝跡出土遺物	3
図版225	SD100・2050B河川跡出土骨角製品3	279	図版255	F区全体図	4
図版226	SD100・2050B河川跡出土骨角製品4	280	図版256	SB5300掘立柱建物跡	5
図版227	SD100・2050B河川跡出土骨角製品5	281	図版257	SB5300掘立柱建物跡礎板1	6
図版228	SD100・2050B河川跡出土骨角製品6	282	図版258	SB5300掘立柱建物跡礎板2	7
図版229	SD100・2050B河川跡出土骨角製品7	283	図版259	SB5300掘立柱建物跡礎板3・柱材	8
図版230	SD100・2050B河川跡出土骨角製品8	284	図版260	SB5302・11601・11602・11603・11604・11605・11606掘立柱建物跡断面図	10
図版231	SD100・2050B河川跡出土骨角製品9	285	図版261	SB11603・11604・11605・11606掘立柱建物跡断面写真	11
図版232	SD100・2050B河川跡出土骨角製品10	286	図版262	F区平面図1	13
図版233	SD100・2050B河川跡出土骨角製品11	287	図版263	F区平面図2	14
図版234	SD100・2050B河川跡出土骨角製品12	288	図版264	F区平面図3	15
図版235	SD100・2050B河川跡出土骨角製品13	289	図版265	F区平面図4	16
図版236	SD100・2050B河川跡出土骨角製品14	290	図版266	F区全景	17
図版237	SD100・2050B河川跡出土骨角製品15	291	図版267	SI11503竪穴住居跡1	20
図版238	SD100・2050B河川跡出土骨角製品16	292	図版268	SI11503竪穴住居跡2	21
図版239	SD100・2050B河川跡出土骨角製品17	293	図版269	SI11503竪穴住居跡3	22
図版240	SD100・2050B河川跡出土骨角製品18	294	図版270	SI11503竪穴住居跡出土遺物1	23
図版241	SD100・2050B河川跡出土骨角製品19	295	図版271	SI11503竪穴住居跡出土遺物2	24
図版242	SD100・2050B河川跡出土骨角製品20	296	図版272	SI11503竪穴住居跡出土遺物3	25
図版243	SD100・2050B河川跡出土骨角製品21	297	図版273	SI11503竪穴住居跡出土遺物4	26
図版244	SD100・2050B河川跡出土骨角製品22	298	図版274	SI11503竪穴住居跡出土遺物5	27
図版245	SD100・2050B河川跡出土動物遺存体1ー貝類	303	図版275	SI11503竪穴住居跡出土遺物6	28
図版246	SD100・2050B河川跡出土動物遺存体2ー魚類・ウニ・カニ・両生類・爬虫類	306	図版276	SI11503竪穴住居跡出土遺物7	29
図版247	SD100・2050B河川跡出土動物遺存体3ー鳥類・中小型哺乳類	312	図版277	SI11503竪穴住居跡出土遺物8	30
図版248	SD100・2050B河川跡出土動物遺存体4ーニホンジカ(1)	322	図版278	SI11503竪穴住居跡出土遺物9	31
			図版279	SI11503竪穴住居跡出土遺物10	32
			図版280	SI11503竪穴住居跡出土遺物11	33
			図版281	SI11503竪穴住居跡出土遺物12	34

图版282	SH1503竖穴住居跡出土遺物13	35	图版319	G区平面图5	78
图版283	SH1503竖穴住居跡出土遺物14	36	图版320	G区平面图6	79
图版284	SH1503竖穴住居跡出土遺物15	37	图版321	G区平面图7	80
图版285	SH1503竖穴住居跡出土遺物16	38	图版322	G区孤立柱建物跡1	81
图版286	SH1501竖穴住居跡1	40	图版323	G区孤立柱建物跡2	82
图版287	SH1501竖穴住居跡2	41	图版324	SH11172・11173竖穴住居跡	83
图版288	SH1501竖穴住居跡出土遺物1	42	图版325	SH11173竖穴住居跡出土遺物	83
图版289	SH1501竖穴住居跡出土遺物2	43	图版326	SE11001井戸跡	84
图版290	SH1502竖穴住居跡出土遺物	44	图版327	SE11001井戸跡出土遺物1	85
图版291	F区遺構外出土遺物1	45	图版328	SE11001井戸跡出土遺物2	86
图版292	F区遺構外出土遺物2	46	图版329	SE11016井戸跡	88
图版293	G区全体图	49・50	图版330	SE11016井戸跡出土遺物	88
图版294	SA3158材木堀跡	51	图版331	SE11061井戸跡	89
图版295	G区平面图1	52	图版332	SE11061井戸跡出土遺物	90
图版296	SA11170孤立柱堀跡1	53	图版333	SE11174井戸跡	91
图版297	SA11170孤立柱堀跡2	54	图版334	SE11174井戸跡出土遺物	91
图版298	G区平面图2	55	图版335	SK11017・11207土坑出土遺物	92
图版299	SA11170孤立柱堀跡出土遺物	56	图版336	J区全体图	95・96
图版300	SA11170孤立柱堀跡出土柱材	57	图版337	SX11900・12089整地層断面图	97
图版301	SD11011区画溝跡	58	图版338	SX11900・12089整地層出土遺物	98
图版302	SD11011区画溝跡出土遺物	58	图版339	SA12612材木堀跡	99
图版303	SD11007A・B区画溝跡	60	图版340	SA12614材木堀跡	100
图版304	G区北西部全景	60	图版341	SA12614材木堀跡出土遺物	100
图版305	SD11007A・B区画溝跡出土遺物1	61	图版342	SD12324A・B区画溝跡	101
图版306	SD11007A・B区画溝跡出土遺物2	62	图版343	SD12324A・B区画溝跡出土遺物	102
图版307	SD11007A・B区画溝跡出土遺物3	63	图版344	SD12613区画溝跡	103
图版308	SD11007A・B区画溝跡出土遺物4	64	图版345	SD12613区画溝跡出土遺物	104
图版309	SD11008区画溝跡出土遺物	65	图版346	SD12113A・B区画溝跡断面图	105
图版310	SD11008区画溝跡、SD11009堀跡	66	图版347	SD12113A・B区画溝跡出土遺物	106
图版311	SD11164区画溝跡	66	图版348	SD12161・12162区画溝跡断面图	106
图版312	SD11164区画溝跡出土遺物	68	图版349	J区平面图1	107
图版313	SD11009堀跡出土遺物	69	图版350	J区平面图2	108
图版314	G区溝跡	70	图版351	SD11910区画溝跡	109
图版315	G区溝跡出土遺物	71	图版352	SD11910区画溝跡出土遺物	110
图版316	SB11065・11067・11301・11303・11304・11306孤立柱建物跡	75	图版353	SD12337・12338区画溝跡	111
图版317	G区平面图3	76	图版354	SD12337区画溝跡出土遺物	111
图版318	G区平面图4	77	图版355	J区平面图3	112
			图版356	J区溝跡断面图	113

图版357	J区溝跡断面写真	114	图版391	SI12305A・B型穴住居跡 1	156
图版358	SB11924・12091・12616掘立柱建物跡、SA12617掘立柱堀跡断面図	117	图版392	SI12305A・B型穴住居跡 2	157
图版359	J区平面图 4	118	图版393	SI12305A・B型穴住居跡 3	158
图版360	J区平面图 5	119	图版394	SI12305型穴住居跡出土遺物	159
图版361	J区平面图 6	121	图版395	SI12331型穴住居跡 1	160
图版362	SB12258・12267・12279・12497・12498掘立柱建物跡	122	图版396	SI12620・12621型穴住居跡	161
图版363	SB12585・12586・12615・12643掘立柱建物跡	124	图版397	SI12331型穴住居跡 2	162
图版364	SB12586掘立柱建物跡出土遺物	124	图版398	SI12331B型穴住居跡出土遺物	163
图版365	SB12584・12618・12619掘立柱建物跡断面図	125	图版399	SI12333型穴住居跡	165
图版366	J区北東部全景 1	125	图版400	SI12333型穴住居跡出土遺物	165
图版367	J区平面图 7	126	图版401	SX11905・12173・12538円形周溝跡断面図	167
图版368	SB12638掘立柱建物跡	128	图版402	SX12538円形周溝跡出土遺物	168
图版369	J区北東部全景 2	128	图版403	SE12164井戸跡	169
图版370	J区平面图 8	129	图版404	SE12164井戸跡出土遺物	170
图版371	J区平面图 9	130	图版405	SE11934井戸跡	171
图版372	SB12563・12564・12632掘立柱建物跡、SA12640掘立柱堀跡	131	图版406	SE11934井戸跡出土遺物	172
图版373	SB12563掘立柱建物跡出土遺物	131	图版407	SE11935井戸跡	172
图版374	J区平面图 10	133	图版408	SE11935井戸跡出土遺物	173
图版375	SB11970・12022・12023掘立柱建物跡	134	图版409	SE11967井戸跡	173
图版376	SB12024・12026・12027・12039・12040・12041・12053・12056・12059掘立柱建物跡断面図	137	图版410	SE11967井戸跡出土遺物	174
图版377	SB11981・12031・12045・12046・12048掘立柱建物跡	139	图版411	SE12192井戸跡	174
图版378	J区平面图 11	140	图版412	SE12192井戸跡出土遺物	175
图版379	J区平面图 12	141	图版413	SE12205井戸跡	175
图版380	SB12216掘立柱建物跡断面図	143	图版414	SE12205井戸跡出土遺物 1	177
图版381	SB12217・12218掘立柱建物跡断面図	143	图版415	SE12205井戸跡出土遺物 2	178
图版382	J区平面图 13	144	图版416	SE12205井戸跡出土遺物 3	179
图版383	J区南部空撮写真	145	图版417	J区土坑 1	181
图版384	SB12150掘立柱建物跡断面図	145	图版418	J区土坑 2	182
图版385	J区平面图 14	146	图版419	J区土坑 3	183
图版386	SB11938建物跡	150	图版420	J区土坑 4	184
图版387	SX12566外周溝跡	151	图版421	J区土坑 5	185
图版388	SI11978・11979型穴住居跡 1	153	图版422	J区土坑 6	186
图版389	SI11978・11979型穴住居跡 2	153	图版423	J区土坑出土遺物 1	187
图版390	SI11978・11979型穴住居跡出土遺物	155	图版424	J区土坑出土遺物 2	188
			图版425	J区土坑出土遺物 3	189
			图版426	J区土坑出土遺物 4	190
			图版427	J区土坑出土遺物 5	191
			图版428	J区土坑出土遺物 6	192

图版429	SF12085烟跡断面图	196	图版467	SA7176·7755·7756材木脚跡	233
图版430	SF12085·12232烟跡	196	图版468	SA7176·7155·7756材木脚跡出土遺物	234
图版431	SF12237烟跡	198	图版469	SA7176材木脚跡出土遺物	234
图版432	SF12238烟跡断面图	198	图版470	SD2561区画溝跡断面图	236
图版433	J区平面图15	199	图版471	SD7940区画溝跡	236
图版434	SF12149烟跡断面图	200	图版472	L区平面图7	237
图版435	L区全体图	203·204	图版473	SD7940区画溝跡出土遺物	238
图版436	SX7103·7124·7128整地層断面图	205	图版474	SD7836A·B区画溝跡	238
图版437	SX7103整地層出土遺物1	207	图版475	SD7836A·B区画溝跡出土遺物	239
图版438	SX7103整地層出土遺物2	208	图版476	SD7847·7848区画溝跡	240
图版439	SX7103整地層出土遺物3	209	图版477	L区平面图8	241
图版440	SX7103整地層出土遺物4	210	图版478	SD7848区画溝跡出土遺物	242
图版441	SX7103整地層出土遺物5	211	图版479	SD7842·7844·7845·7881区画溝跡	243
图版442	SX7103整地層出土遺物6	212	图版480	SD7881·7842·7844·7845区画溝跡出土遺物1	244
图版443	SX7103整地層出土遺物7	213	图版481	SD7881·7842·7844·7845区画溝跡出土遺物2	245
图版444	SX7103整地層出土遺物8	214	图版482	SD461区画溝跡	246
图版445	SX7103整地層出土遺物9	215	图版483	SD461区画溝跡出土遺物1	247
图版446	SX7103整地層出土遺物10	216	图版484	SD461区画溝跡出土遺物2	248
图版447	SX7128整地層出土遺物1	217	图版485	SD461区画溝跡出土遺物3	249
图版448	SX7128整地層出土遺物2	218	图版486	SD461区画溝跡出土遺物4	250
图版449	SX7128整地層出土遺物3	219	图版487	SD461区画溝跡出土遺物5	251
图版450	SX7128整地層出土遺物4	220	图版488	SD461区画溝跡出土遺物6	252
图版451	SX7124整地層、SK7125土坑出土遺物	220	图版489	SD461区画溝跡出土遺物7	253
图版452	L区平面图1	221	图版490	SD461区画溝跡出土遺物8	254
图版453	L区平面图2	222	图版491	SD461区画溝跡出土遺物9	255
图版454	SA7784材木脚跡	223	图版492	SD461区画溝跡出土遺物10	256
图版455	L区平面图3	224	图版493	SD461区画溝跡出土遺物11	257
图版456	L区平面图4	225	图版494	SD461区画溝跡出土遺物12	258
图版457	L区平面图5	226	图版495	SD7100区画溝跡	259
图版458	SA7781材木脚跡	227	图版496	L区平面图9	260
图版459	L区西部空撮写真	227	图版497	SD7100区画溝跡出土遺物1	261
图版460	SA7781材木脚跡出土遺物	227	图版498	SD7100区画溝跡出土遺物2	262
图版461	SA7782材木脚跡	228	图版499	L区溝跡1	263
图版462	SA7782材木脚跡出土遺物	228	图版500	L区溝跡2	264
图版463	SA7838材木脚跡	229	图版501	L区溝跡出土遺物1	265
图版464	SA7839材木脚跡	230	图版502	L区溝跡出土遺物2	266
图版465	SA7621材木脚跡	230	图版503	L区溝跡出土遺物3	267
图版466	L区平面图6	231			

図版504	L区溝跡出土遺物 4	268	図版540	SI7221・7257竪穴住居跡 2	315
図版505	SB7822・7828掘立柱建物跡	271	図版541	SI7221竪穴住居跡出土遺物	316
図版506	SB7659・7660・7763・7764・7900・7926掘立柱建物跡	272	図版542	SI7364竪穴住居跡	317
図版507	L区平面図10	274	図版543	SI7364竪穴住居跡出土遺物	318
図版508	L区西部の建物跡	275	図版544	SI7212竪穴住居跡出土遺物	319
図版509	SB7760・7776掘立柱建物跡	277	図版545	SI7212竪穴住居跡	320
図版510	L区平面図11	278	図版546	L区竪穴住居跡出土遺物 1	323
図版511	SB7251・7283・7454・7757・7927・7932・7951掘立柱建物跡断面図	279	図版547	L区竪穴住居跡出土遺物 2	324
図版512	L区平面図12	281	図版548	SI7098竪穴住居跡出土遺物	325
図版513	L区平面図13	282	図版549	SE7105井戸跡	327
図版514	SB7295・7330掘立柱建物跡	283	図版550	SE7105井戸跡出土遺物 1	328
図版515	L区平面図14	285	図版551	SE7105井戸跡出土遺物 2	329
図版516	SB7347・7448・7682・7933・7935掘立柱建物跡断面図	286	図版552	SE7105井戸跡出土遺物 3	330
図版517	L区平面図15	287	図版553	SE7105井戸跡出土遺物 4	331
図版518	SB7286・7308・7901掘立柱建物跡断面図	288	図版554	SE7105井戸跡出土遺物 5	332
図版519	L区平面図16	290	図版555	SE7105井戸跡出土遺物 6	333
図版520	SB7380・7381・7409掘立柱建物跡断面図	291	図版556	SE7105井戸跡出土遺物7	334
図版521	L区平面図17	292	図版557	SE7105井戸跡出土遺物8	335
図版522	L区平面図18	294	図版558	SE7105井戸跡出土遺物 9	336
図版523	SB7144・7233・7241・7267掘立柱建物跡	295	図版559	SE7258・7434井戸跡	337
図版524	SB7180・7236・7266・7272掘立柱建物跡	295	図版560	SE7258井戸跡出土遺物	338
図版525	SI7171竪穴住居跡	299	図版561	SE7292井戸跡	339
図版526	SI7171竪穴住居跡出土遺物	300	図版562	SE7292井戸跡出土遺物	340
図版527	SI7172竪穴住居跡	301	図版563	SE7758井戸跡	341
図版528	SI7172竪穴住居跡出土遺物	301	図版564	SE7758井戸跡出土遺物 1	342
図版529	SI7173竪穴住居跡出土遺物	301	図版565	SE7758井戸跡出土遺物 2	343
図版530	SI7173・7174竪穴住居跡	302	図版566	SE7758井戸跡出土遺物 3	344
図版531	SI7208竪穴住居跡 1	304	図版567	L区土器埋設遺構	346
図版532	SI7208竪穴住居跡 2	305	図版568	L区土坑 1	348
図版533	SI7208竪穴住居跡出土遺物	306	図版569	L区土坑 2	349
図版534	SI7219竪穴住居跡 1	308	図版570	L区土坑 3	350
図版535	SI7219竪穴住居跡 2	309	図版571	L区土坑 4	351
図版536	SI7219竪穴住居跡出土遺物 1	310	図版572	L区土坑 5	352
図版537	SI7219竪穴住居跡出土遺物 2	311	図版573	L区土坑出土遺物 1	353
図版538	SI7219竪穴住居跡出土遺物 3	312	図版574	L区土坑出土遺物 2	354
図版539	SI7221・7257竪穴住居跡 1	314	図版575	L区土坑出土遺物 3	355
			図版576	L区土坑出土遺物 4、土器埋設遺構出土遺物	356
			図版577	L区土坑出土遺物 5、土器埋設遺構出土遺物	357

図版578	L区土坑出土遺物 6	358
図版579	L区土坑出土遺物 7	359
図版580	L区土坑出土遺物 8	360
図版581	L区土坑出土遺物 9	361
図版582	L区土坑出土遺物10	362
図版583	L区土坑出土遺物11	363
図版584	L区土坑出土遺物12	364
図版585	SF7277・7802・7803烟跡	367
図版586	L区平面図19	368
図版587	L区出土動物遺存体	369
図版588	L区遺構外出土土器 1	370
図版589	L区遺構外出土土器 2	371
図版590	L区遺構外出土土器 3	372
図版591	L区遺構外出土土器 4	373

第3分冊

図版592	M区全体図	3・4
図版593	M区平面図 1	6
図版594	M区平面図 2	7
図版595	SD180A・B区南溝跡断面図	8
図版596	SD180区南溝跡	9
図版597	SD180B区南溝跡出土遺物 1	10
図版598	SD180B区南溝跡出土遺物 2	11
図版599	SD180B区南溝跡出土遺物 3	12
図版600	SD180B区南溝跡出土遺物 4	13
図版601	SD180B区南溝跡出土遺物 5	13
図版602	SD180B区南溝跡出土遺物 6	14
図版603	SD180B区南溝跡出土遺物 7	15
図版604	SD180B区南溝跡出土遺物 8	16
図版605	SD180B区南溝跡出土遺物 9	17
図版606	M区平面図 3	18
図版607	M区平面図 4	19
図版608	SD11739A・B区南溝跡	20
図版609	SD11739B区南溝跡出土遺物	20
図版610	SD11781A・B・C区南溝跡断面図	21
図版611	SD11781A・B・C区南溝跡出土遺物	21
図版612	SB11770・11771・11772・11773掘立柱建物跡	24

図版613	SB11772掘立柱建物跡出土遺物	24
図版614	M区平面図 5	25
図版615	M区平面図 6	26
図版616	M区中央東側全景	27
図版617	SK11726・11769土坑	28
図版618	SK11726・11769土坑出土遺物	29
図版619	M区平面図 7	31
図版620	SF11791烟跡	32
図版621	SF11793烟跡	32
図版622	N区全体図	36
図版623	N区土層断面図 1	37
図版624	N区土層断面図 2	38
図版625	SD11854溝跡断面図	39
図版626	SD11855区南溝跡、N区遺構外出土遺物	39
図版627	N区全景	40
図版628	J区第V層水田跡平面図	44
図版629	SF12230水田跡 1	45・46
図版630	SF12230水田跡 2	47
図版631	山王遺跡火山灰分析写真 1	53
図版632	山王遺跡火山灰分析写真 2	54
図版633	山王遺跡のテフラ組成ダイヤグラム	55
図版634	古墳時代後期の集落と試料採取地点	61
図版635	山王遺跡出土の大型植物遺体 1	68
図版636	山王遺跡出土の大型植物遺体 2	69
図版637	メロン仲間種子長 3型の出土比率	70
図版638	古墳時代中期土器分類図 1	76
図版639	古墳時代中期土器分類図 2	77
図版640	八幡地区SI11503竪穴住居跡出土土器	80
図版641	八幡地区SI5287・5288・5306住居跡出土土器	81
図版642	八幡地区SX230遺物包含層出土土器 1	82
図版643	八幡地区SX230遺物包含層出土土器 2	83
図版644	町地区SI1234・2983・3012・3022住居跡出土土器	86
図版645	館前地区SX1744・1745落ち込み、SX5025廃棄跡出土土器	87
図版646	鴻ノ巣遺跡SI6・8住居跡出土土器	88
図版647	鴻ノ巣遺跡SI9・11住居跡出土土器	89
図版648	鴻ノ巣遺跡1号住、SI10・13住居跡出土土器	90

図版649	湖ノ東遺跡SI19・20住居跡出土土器	91	図版678	山王遺跡多賀前地区SK503土器類、千刈田地区SX543土器類出土土器	135
図版650	古墳時代後期土器分類図1	94	図版679	八幡地区SE12205井戸跡出土土器	136
図版651	古墳時代後期土器分類図2	95	図版680	多賀城跡の池地区第7層出土土器	137
図版652	SD2050B河川跡 平成4・5年調査第6・7層出土土器	100	図版681	多賀城行政跡SK058土坑出土土器	138
図版653	SD2050B河川跡 平成4・5年調査第1層出土土器	101	図版682	凝灰岩切石組カマドと切石	142
図版654	SD100・2050B河川跡出土土器1-4層上面・4・5層	102	図版683	古墳時代後期集落と河川跡の位置	148
図版655	SD100・2050B河川跡出土土器2-3層	103	図版684	SD180A区画溝跡出土土器	155
図版656	SD100・2050B河川跡出土土器3-1層・2層上面・2層	104	図版685	古墳時代中・後期における主要遺構の変遷	169
図版657	SD100・2050B河川跡出土土器4-1層・2層上面・2層	105	図版686-1	古代における主要遺構の変遷(D・F・G・M区)	174
図版658	八幡地区SI491・2246住居跡、SK7102土坑出土土器	106	図版686-2	古代における主要遺構の変遷(J・L区)	175
図版659	伏石地区SD6517区画溝跡出土土師器	107	図版687	古墳時代前期の水田跡	181
図版660	伏石地区SD6517区画溝跡出土須恵器	108	図版688	山王遺跡の水田模式図	182
図版661	伏石地区SK6777大土坑出土土器	109	図版689	古墳時代前期の山王・市川橋遺跡	183
図版662	土師器食器の製作痕跡	110	図版690	水田跡柱状図	185
図版663	土師器鉢・壺・甕・瓶の器形1	112	図版691	古墳時代中期の遺構配置図	187
図版664	土師器鉢・壺・甕・瓶の器形2	113	図版692	東日本の堀・溝を有する豪族居館と竪穴遺構(古墳時代中期)	189
図版665	土師器における器形の共有	114	図版693	八幡・伏石地区出土の鉄製品と鍛冶関連遺物	191
図版666	高崎古墳群SR32竪跡、高崎遺跡SR1678竪跡出土須恵器	117	図版694	北関東・東北地方における古墳時代中期の竪穴遺構	194
図版667	輝堂遺跡1~4号墳、八幡崎B遺跡Ⅲ層出土須恵器	119	図版695	山王遺跡における古墳時代後期の集落	200
図版668	八幡地区SD180B区画溝跡出土土器	121	図版696	竪穴住居の規模とカマド位置	204
図版669	八幡地区SD461区画溝跡出土土器	123	図版697	八幡地区の大型竪穴住居跡	205
図版670	八幡地区SK7090土坑、SX7124・7128整地層出土土器	124	図版698	大型竪穴住居跡の出土遺物	206
図版671	八幡地区SD180B区画溝跡 平成2年度調査出土土器	126	図版699	大型と中小型竪穴住居と井戸の関係	207
図版672	八幡地区SD677溝跡、SD2124区画溝跡出土土器	127	図版700	区画Ⅰ期の様相	211
図版673	八幡地区SI7043・7212竪穴住居跡、SE11001井戸跡、SK7093土坑、SD786溝跡出土土器	128	図版701	区画Ⅱ期の様相	214
図版674	館前地区SX1351C河川跡2層出土土器	130	図版702	D区整地層と道路との関係	219
図版675	高平地区SK236土坑、館前地区SX1351D河川跡3層出土土器	131	図版703	西5道路における側溝の対応関係	221
図版676	多賀城跡大畑地区SE2101B井戸跡Ⅲ層、五万崎地区SK2272土坑出土土器	132	図版704	北3西5区・北3西6区の変遷	222
図版677	多賀城跡五万崎地区SK2270土坑、大畑地区SK2321土坑4~6層出土土器	134	図版705	方格地割Ⅰ期の様相	230
			図版706	方格地割Ⅱ-A期の様相	233
			図版707	方格地割Ⅱ-B期の様相	236
			図版708	Ⅱ-B期における道路・区画施設の変化	236
			図版709	方格地割Ⅲ期の様相	239
			図版710	八幡・伏石地区の変遷-区画Ⅰ期~方格地割Ⅲ期	241・242
			図版711	古墳時代前期の七北田川下流域遺跡群	244

図版712	沼向遺跡古墳時代前期の集落……………	246	図版731	陸奥国府出土のミガキ須恵器……………	284
図版713	沼向遺跡SI904・1011竪穴住居跡、SI928竪穴遺構出土土跡……………	246	図版732	陸奥国府域におけるミガキ須恵器・壺G・大戸産須恵器の分布……………	285
図版714	古墳時代前期における周溝をもつ建物跡……………	248	図版733	多賀城跡におけるミガキ須恵器・壺Gの分布……………	286
図版715	町・町部地区出土古墳時代中期の須恵器と統織文土器……………	250	図版734	陸奥国府出土の壺G……………	289
図版716	古墳時代中期の七北田川下流域遺跡群……………	251	図版735	大戸窯跡群の変遷1—MH33・KA12期……………	294
図版717	古墳時代中期の円筒施設……………	252	図版736	大戸窯跡群の変遷2—MH19～KA112期……………	295
図版718	山王SX230遺物包含層出土骨角製品・木製品……………	253	図版737	大戸窯製品の特徴・胎土1……………	296
図版719	古墳時代後期の七北田川下流域遺跡群……………	257	図版738	大戸窯製品の特徴・胎土2……………	297
図版720	山王・市川橋遺跡出土古墳時代後期の木製品……………	258	図版739	陸奥国府域出土の大戸産須恵器……………	298
図版721	山王・市川橋遺跡出土古墳時代後期の骨角製品……………	259	図版740	円面硯の各部名称……………	303
図版722	山王・市川橋遺跡出土古墳時代後期の須恵器……………	260	図版741	陸奥国府および窯跡出土の円面硯……………	304
図版723	沼向遺跡出土古墳時代後期の須恵器……………	262	図版742	陸奥国府出土の風字硯……………	307
図版724	方格地割造営の検討1……………	268	図版743	陸奥中部の城柵・官衙・居宅跡および窯跡出土の風字硯……………	308
図版725	方格地割造営の検討2……………	270	図版744	陸奥国府域における硯・腰帯具の分布……………	310
図版726	方格地割造営の検討3……………	270	図版745	陸奥国府域出土の形象硯……………	313
図版727	方格地割の変遷……………	272	図版746	多賀城跡における硯・腰帯具の分布……………	316
図版728	建物配置の類型1……………	274	図版747	陸奥国府出土の腰帯具1—鈎帯……………	320
図版729	建物配置の類型2……………	275	図版748	陸奥国府出土の腰帯具2—石帯……………	321
図版730	多賀城南面国府域の様相(9～10世紀)……………	279・280			

表目次

第1分冊

表1 図版3掲載遺跡地名表	7
表2 山王・市川橋遺跡の大規模発掘調査一覧	13
表3 八幡・伏石地区の調査面積	14
表4 東日本大震災による八幡・伏石地区の地殻変動量	15
表5 D区溝跡属性表	118~120
表6 D区掘立柱建物跡属性表	131~133
表7 D区掘立柱礎跡属性表	133
表8 D区竪穴住居跡属性表	149・150
表9 D区井戸跡属性表	166
表10 D区土坑属性表	167・168
表11 D区畑跡属性表	174
表12 土壌サンプル採取状況	300
表13 詳細分析サンプルと分析率	300
表14 出土種各表	301
表15a 貝類出土状況 (N I S P)	304
表15b 貝類出土状況 (重量)	304
表16 目視/4mm試料における各魚種出土状況	305
表17a 細分析サンプルにおける各魚種出土状況 (1)	307
表17b 細分析サンプルにおける各魚種出土状況 (2)	308
表18 爬虫類・両生類・ウニ・カニ出土状況	311
表19 鳥類出土状況	311
表20 ニホンジカ各部位におけるMN I	311
表21 ニホンジカ胎構成	311
表22a ニホンジカ頭蓋骨出土状況	314
表22b ニホンジカ下顎骨出土状況	316・317
表22c ニホンジカ部位出土状況	318・319
表23 ニホンジカ各部位におけるダメージ	320・321
表24 その他の哺乳類出土状況	321
表25a イノシシ下顎骨出土状況	324
表25b イノシシ部位出土状況	325
表25c イノシシ頭蓋骨出土状況	325
表26 イノシシ各部位におけるダメージ	327
表27a ウマ出土状況 (1)	328
表27b ウマ出土状況 (2)	329

表28 遺構出土その他の動物	329
表29 ウマ各部位におけるダメージ	329
表30a 計測値表 (1)	329
表30b 計測値表 (2)	330

第2分冊

表31 F区掘立柱建物跡属性表	18
表32 F区竪穴住居跡属性表	44
表33 F区土坑属性表	45
表34 G区溝跡属性表	72
表35 G区掘立柱建物跡属性表	82
表36 G区竪穴住居跡属性表	83
表37 G区井戸跡属性表	92
表38 G区土坑属性表	92
表39 J区溝跡属性表	115・116
表40 J区掘立柱建物跡属性表	147・148
表41 J区掘立柱礎跡属性表	149
表42 J区竪穴住居跡属性表	166
表43 J区周溝をもつ建物跡・円形周溝跡属性表	168
表44 J区井戸跡属性表	176
表45 J区土坑属性表	193~195
表46 J区畑跡属性表	200
表47 L区溝跡属性表	269・270
表48 L区掘立柱建物跡属性表	296・297
表49 L区掘立柱礎跡属性表	298
表50 L区竪穴住居跡属性表	320~323
表51 L区井戸跡属性表	344
表52 L区土坑・土器埋設遺構属性表	364~366
表53 L区畑跡属性表	369

第3分冊

表54 M区溝跡属性表	22
表55 M区掘立柱建物跡属性表	27
表56 M区土坑属性表	29
表57 M区畑跡属性表	32
表58 N区溝跡属性表	39
表59 山王遺跡のテフラ検出分析結果	51
表60 火山ガラス比分析結果	56

表61	重鉱物組成分析結果	56
表62	屈折率測定結果	57
表63	山王遺跡出土大型植物遺体一覧表1	62
表64	山王遺跡出土大型植物遺体一覧表2	63
表65	山王遺跡出土大型植物遺体一覧表3	64
表66	山王遺跡出土大型植物遺体 地点・層位別集計表	66
表67	山王・市川橋遺跡と溝ノ渠遺跡における古墳時代中期の主要遺構出土土器	85
表68	古墳時代後期土器分類と宮城県文化財報告書第186集、村田分類2007との対応関係	97
表69	古墳時代後期の主要遺構出土土器	98
表70	多賀城周辺における5～10世紀の土器変遷	139
表71	本書で報告した硯	141
表72	詳細分析サンプルにおける主要貝類生息域別NISP	144
表73	各地点における全4mm試料貝類の分類群構成	145
表74	目視・4mm試料における魚種組成	145
表75	詳細分析サンプルにおける魚種組成	145
表76a	各詳細分析サンプルにおける魚類出土量(復元NISP)	146
表76b	貝組成タイプごとにみた各魚種復元NISPと海水/淡水比	146
表77	時期別鳥獣類出土量	147
表78	時期別鳥獣類組成	145
表79-1	掘立柱建物跡・堀跡の時期と方向(区画1期～方格地割Ⅱ-A期)	164
表79-2	掘立柱建物跡・堀跡の時期と方向(方格地割Ⅱ-B期～中世)	165
表80	山王遺跡と新田遺跡における古墳時代前期の水田跡	184
表81	東日本の堀・溝を有する豪族居館	190
表82	東北地方の竪穴澁治遺構	193
表83	古墳時代中期前葉の豪族居館から出土した各種遺物	197
表84	山王・市川橋遺跡における古墳時代後期の竪穴住居跡1	202

表85	山王・市川橋遺跡における古墳時代後期の竪穴住居跡2	203
表86	古墳時代後期集落から出土した各種遺物	209
表87	8世紀の竪穴住居跡	212
表88	8世紀後半の井戸跡	216
表89	西4道路跡側溝と北2a道路跡側溝の対応関係	220
表90	北2道路跡側溝と西6a道路跡側溝の対応関係	225
表91	八幡・伏石地区における道路の変遷	226
表92	古墳時代前期から奈良時代における七北田川下流域と砂押川流域遺跡群の動態	245
表93	古墳時代前期の周溝をもつ建物跡	249
表94	古墳時代中期における集落の特徴	254
表95	区画施設と比較	254
表96	陸奥国府における地区別・街区別ミガキ須恵器出土数	286
表97	陸奥国府出土のミガキ須恵器1	287
表98	陸奥国府出土のミガキ須恵器2	288
表99	陸奥国府出土の壺G	290
表100	陸奥国府における地区別・街区別壺G出土数	290
表101	大戸窯跡群における生産器種	292
表102	八幡・伏石・多賀前地区出土の大戸産須恵器1	299
表103	八幡・伏石・多賀前地区出土の大戸産須恵器2	300
表104	陸奥国府域における街区別大戸産須恵器出土数	301
表105	陸奥国府出土門面破の分類	305
表106	図版741観察表	305
表107	陸奥国府域における街区別礎出土数	311
表108	多賀城跡における地区別礎出土数	317
表109	陸奥国府出土の腰帯具	322
表110	陸奥国府における地区別・街区別腰帯具出土数	323

調 査 要 項

遺 跡 名：山王遺跡八幡・伏石地区（宮城県遺跡地名表登録番号：18013）

市川橋遺跡八幡・伏石地区（宮城県遺跡地名表登録番号：18008）

遺跡記号：山王遺跡 FI

市川橋遺跡 ES

所 在 地：宮城県多賀城市南宮字八幡、山王字伏石、市川字中谷地

調査原因：三陸沿岸道路仙塩道路4車線化建設工事・多賀城IC建設工事（復興事業）

調査面積：山王遺跡 15,200㎡

市川橋遺跡 9,400㎡

調査期間：平成 24 年（2012）3月 26 日～平成 25 年（2013）3月 7 日

平成 25 年（2013）3月 16 日～平成 26 年（2014）3月 28 日

平成 26 年（2014）4月 7 日～6月 27 日

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

調 査 員：〔平成 24 年度調査〕

文化財保護課職員：古川一明、村田晃一、白崎恵介、齋藤圭一、瀧中一道、大坂拓、鈴木啓司

東北歴史博物館（協力）：柳澤和明

宮城県多賀城跡調査研究所（協力）：三好秀樹

自治法派遣職員：阿部明彦（山形県）、高橋保雄（新潟県）、末木啓介（埼玉県）、伴瀬宗一（埼玉県）、田口明子（山梨県）、小淵忠司（岐阜県）、家原圭太（京都市）、上田健太郎（兵庫県）、西岡誠司（神戸市）、西岡巧次（神戸市）、中川寧（鳥根県）、山下平重（香川県）、遠藤武（愛媛県）

：〔平成 25 年度調査〕

文化財保護課職員：生田和宏、山中信宏、齋藤和機、傳田惠隆

東北歴史博物館（協力）：相原淳一

自治法派遣職員：阿部明彦（山形県）、矢口裕之（群馬県）、佐々木好直（奈良県）、鈴木久史（京都市）、岡本泰典（岡山県）、上山佳彦（山口県）、蔵本晋司（香川県）、和田理啓（宮崎県）、中村幸弘（熊本県）

：〔平成 26 年度調査〕

文化財保護課職員：遠藤則靖、齋藤和機

宮城県多賀城跡調査研究所（協力）：高橋透

自治法派遣職員：西口正純（埼玉県）、井上主税（奈良県）、岡本泰典（岡山県）

調査協力：国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所、多賀城市教育委員会、東北歴史博物館、

宮城県多賀城跡調査研究所

整理作業：〔平成 26 年度整理作業〕

文化財保護課職員：村田晃一、西村力、齋藤和機

自治法派遣職員：岡本泰典（岡山県）

：〔平成 27 年度整理作業〕

文化財保護課職員：熊谷宏規、齋藤和機、高橋透（多賀城跡調査研究所協力）

：〔平成 28 年度整理作業〕

文化財保護課職員：村田晃一、西村力、熊谷宏規、齋藤和機、黒田智章

：〔平成 29 年度整理作業〕

文化財保護課職員：村田晃一、西村力、齋藤和機

第Ⅵ章 F 区



F区全景（西から）



古墳時代中期の竪穴住居跡 (S111503) 調査風景

F区では溝跡3条、掘立柱崩跡1条、掘立柱建物跡31棟、竪穴住居跡5棟、土坑4基などを確認した(図版255)。本区は、橋脚DP87・PD1部分のみが本発掘調査の対象であり、他は遺構確認にとどめ、必要に応じて断ち割りを行っている。以下、主な遺構について特徴を述べるが、その中で〔重複〕の(古)・(新)は、記述した遺構に対する新旧関係を示している。なお、番号が5000番台のものは多賀城市第12次調査で確認した遺構である。

1. 溝跡

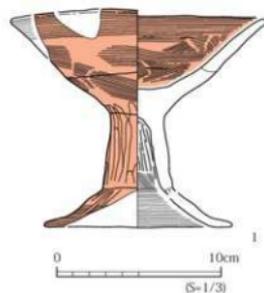
溝跡は3条確認した。そのうち、SD11537の出土遺物のみ図示した(図版254)。SD11537は多賀城市調査F区で確認したSD5213と一連で、南側の多賀城市調査G区で確認したSD5906と同一とみられる。

2. 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡を31棟、掘立柱崩跡1条を確認した。以下、建物跡の全体を確認し、柱穴の断ち割りを行った8棟(SB5300・5302・11601～11606)について説明する。すべての建物跡の属性は表31にまとめている。また、SA5535・5536は、SX300東西道路跡(北2道路)とSX700南北道路跡(西4道路)の交差点南西コーナーに合わせてL字状に延びる一連の掘立柱崩跡であるが、今回の調査では柱穴1個を確認したにとどまるため、個別の説明は行わない(図版255・265)。

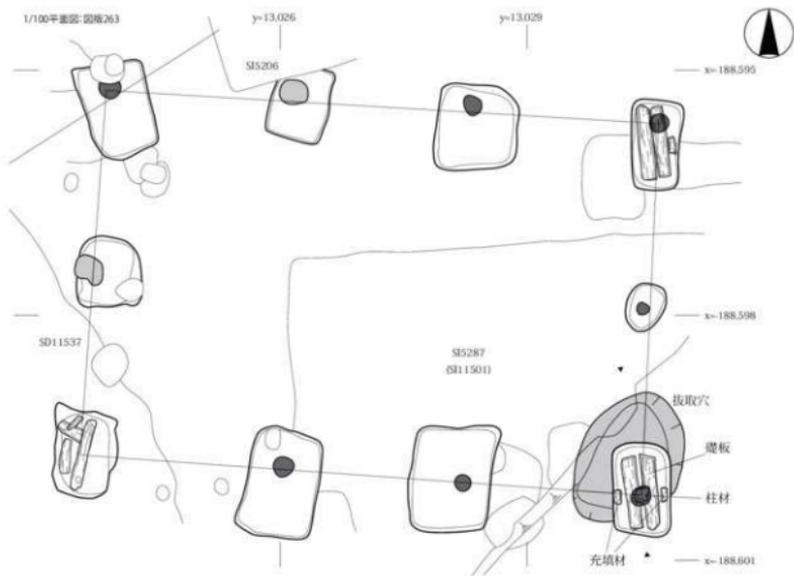
【SB5300掘立柱建物跡】(図版256・263)

調査区西部で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟建物跡である。今回は南東隅柱穴を調査した。本建物跡は、多賀城市第12次調査では2時期(SB5300A・B)と報告されたが(多賀城市埋文センター1992a)、南東隅柱では掘方と柱抜取穴のみ確認したことから、建替えはなかったと考えられる。以下、市教委分も合わせて述べる。

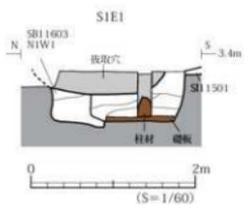


No.	器種	層位	図号	口径(cm)	胴径(cm)	高さ(cm)	残存	分級	備考	登録
1	土罎器・高杯	埋	外面：〔新〕ナデ→ヨコナデ 内面：〔新〕ヨコナデ→ナデ	15.6	(11.4)	13.3	3/4	A3	赤彩、腰部小穴。輪軸痕あり。 胎土に黒炭屑粒を含む	1176

図版254 SD11537溝跡出土遺物



SB5300-N1E1 断面 (南から)

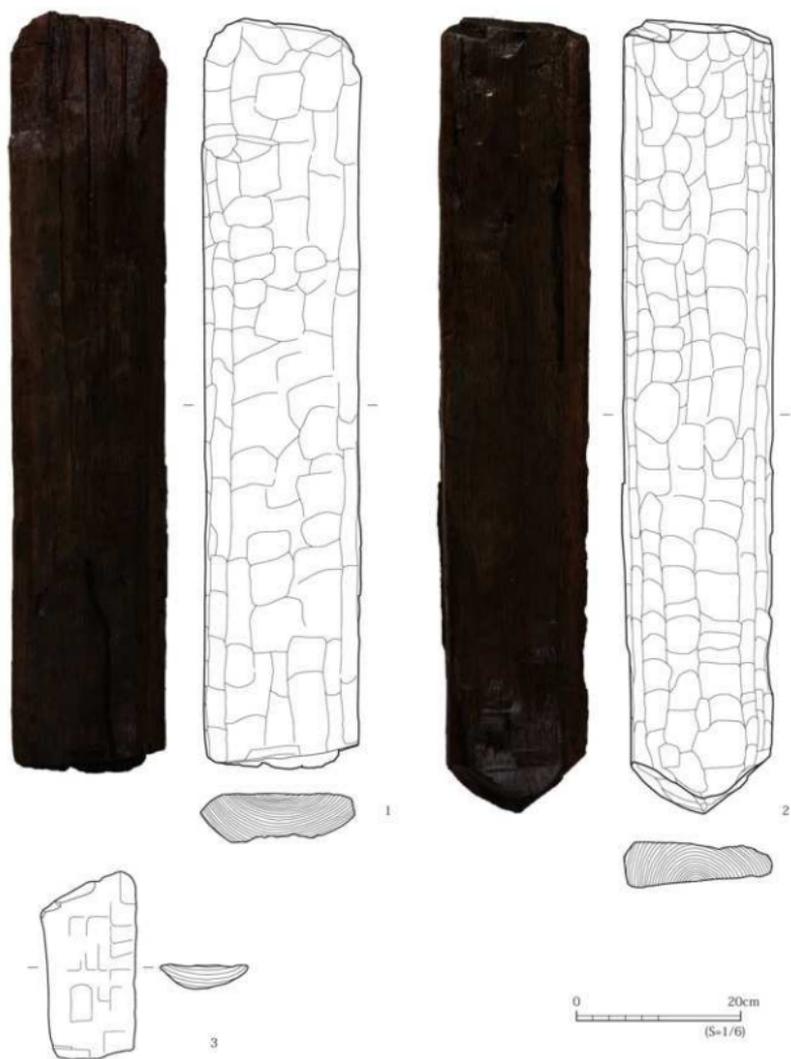


SB5300-S1E1 断面 (西から)



SB5300-S1E1 礎板と柱材 (西から)

図版256 SB5300掘立柱建物跡



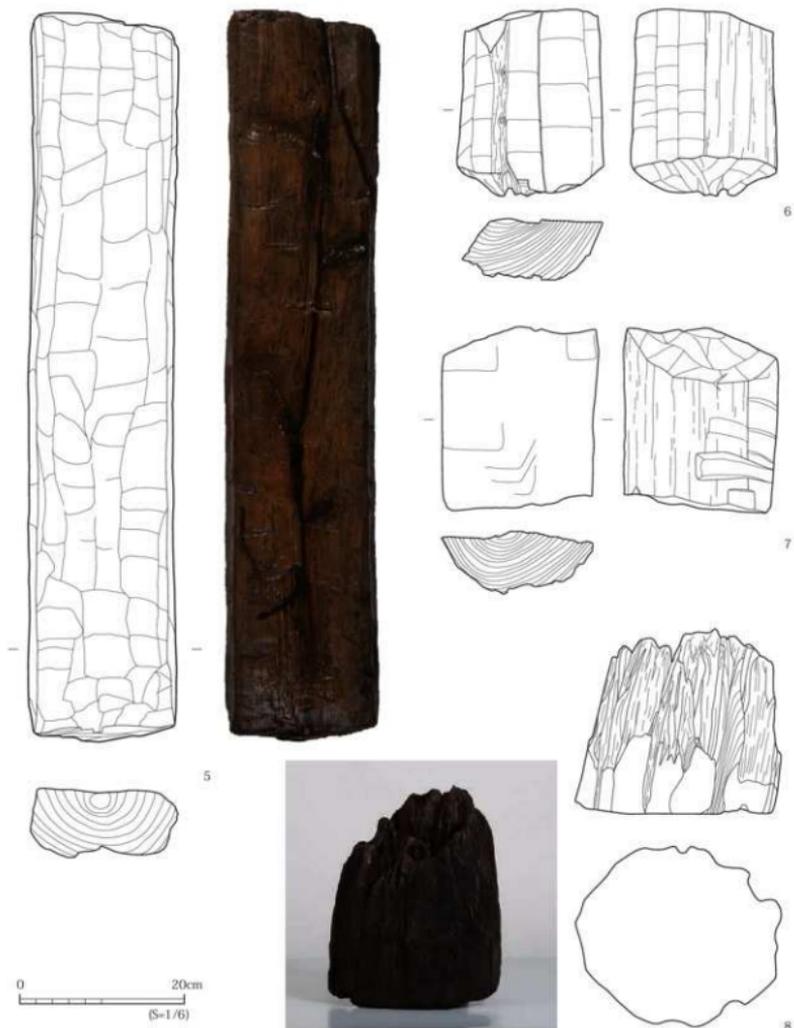
No.	名称	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	径 (cm)	残存	備考	登録
1	礎板	北条岡村	91.1	18.8	5.2	—	完形		2624
2	礎板	北条岡村	96.8	18.0	5.5	—	完形		2625
3	礎板	北条岡村	22.8	10.5	2.8	—	完形		2626

図版257 SBS300掘立柱建物跡礎板1



No.	品種	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	径 (cm)	残存	備考	登録
4	礎板	南東隅柱	90.8	18.2	8.2	-	完形		2630

図版258 SB5300掘立柱建物跡礎板2



No.	形種	位置	長軸 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	径 (cm)	残存	備考	登録
5	礎板	南条彌柱	88.8	17.5	7.4	—	完形		2631
6	礎板	南条彌柱	22.1	17.0	—	—	完形		2632
7	礎板	南条彌柱	22.2	18.4	—	—	完形		2629
8	柱材	南条彌柱	22.6	—	—	21.2	一部		2679

図版259 S85300掘立柱建物跡礎板3・柱材

〔重複〕(古) SB5530・11602・11603、SD5543、SI11501

(新) SB5528・5529、SD11537、SI5206

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると2.2m等間で、総長は6.6mである。梁行は、東妻でみると北から2.3m・2.2mで、総長は4.5mである。方向は北側柱列で測るとE-3°-Sである。

〔柱痕跡・礎板〕直径0.3mほどの円形である(図版259-8)。北東と南東の隅柱では柱材の根元が遺存しており、掘方底面に敷かれた2本の礎板の上に据えていた。礎板は長さを掘方長軸に合わせ、両脇には木片を充填して横ズレを防いでいる(図版256~259)。こうしたあり方は、南西隅柱穴でも認められることから、本建物は少なくとも隅柱については同様の礎板が用いられたと考えられる。

〔柱穴〕一辺1.5~2.3mの隅丸方形で、深さは0.7mである。掘方埋土は、地山ブロックを含むにぶい黄褐色・黒褐色・灰黄褐色の粘土質シルトや砂質シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器高環・甕などが出土した。

〔SB5302掘立柱建物跡〕(図版260・264)

調査区中央で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古) SB11603、SI11501・11503

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から1.8m・1.9m・2.0m、総長は5.7mである。梁行は、東妻でみると北から2.2m・2.4m、総長は4.6mである。方向は、北側柱列で測るとE-2°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形で、沈下している。

〔柱穴〕直径0.4~0.6mの不整形円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む暗褐色~にぶい黄褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から、土師器環・甕、須恵器環・甕が出土した。須恵器環は回転糸切りである。

〔SB11601掘立柱建物跡〕(図版260・263・264)

調査区中央で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SB11602、SI11501・11504、SK11534 (新) SB11603

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から3.8m(2間分)・2.1mで、総長は5.9mとみられる。梁行は、南妻でみると西から1.8m・1.7mで、総長は3.5mである。方向は、西側柱列で測るとN-9°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。

〔柱穴〕一辺0.4~0.8mの隅丸方形で、深さは0.3mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む黒褐色粘土質シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕が出土した。

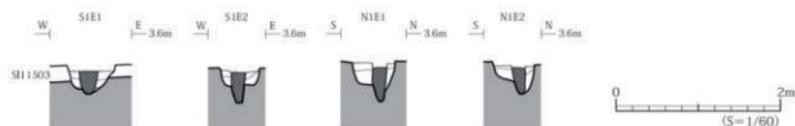
〔SB11602掘立柱建物跡〕(図版260・263)

調査区中央で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。

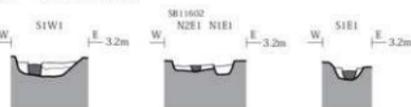
〔重複〕(古) SI11501 (新) SB5300・11601・11603、SK11534

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると3.6m(2間分)・2.7m、総長は6.3mである。

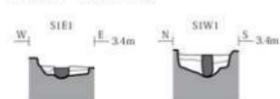
SB5302 平面圖：図帳 264



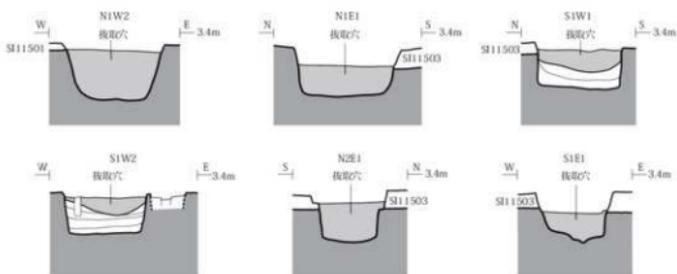
SB11601 平面圖：図帳 263・264



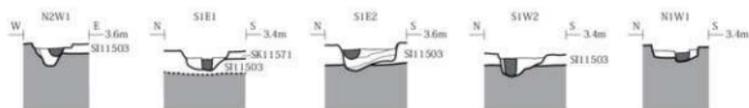
SB11602 平面圖：図帳 263



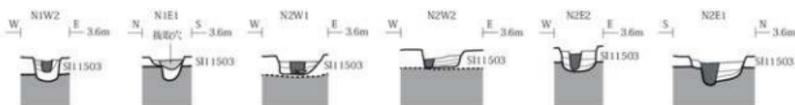
SB11603 平面圖：図帳 264



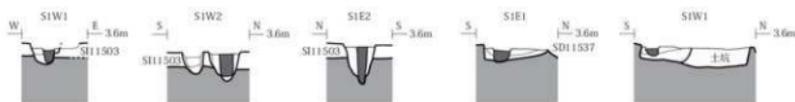
SB11604 平面圖：図帳 264



SB11605 平面圖：図帳 264



SB11606 平面圖：図帳 263



図版260 SB5302・11601・11602・11603・11604・11605・11606掘立柱建物跡断面図

梁行は、南妻で西から2.0m・1.7m、総長は3.7mである。方向は、西側柱列で測るとN-6°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕一辺0.6～0.7mの隅丸方形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・高環・甕、須恵器環・蓋・甕が出土した。須恵器環はヘラ切りである。

【SB11603掘立柱建物跡】(図版260・261・264)

調査区中央で確認した桁行4間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古)SB11601・11602、SI11501・11503 (新)SB5300・5302・11605

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると7.5m(4間分)である。梁行は、西妻でみると4.7m(2間分)である。方向は、北側柱列で測るとE-9°-Nとみられる。

〔柱痕跡〕すべて抜き取られ不明である。

〔柱穴〕長軸0.7～1.2mの隅丸長方形で、深さは0.7mである。掘方埋土は、地山ブロックを含むにぶい黄褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕、須恵器環・高台環、柱抜取穴からは土師器環・高環・壺・甕などが出土した。須恵器環はヘラ切りである。



SB11603-N1E1 断面(西から)



SB11604-N1W1 断面(西から)



SB11605-N2W1 断面(南から)



SB11606-S1E1 断面(東から)

図版261 SB11603・11604・11605・11606掘立柱建物跡断面写真

【SB11604 掘立柱建物跡】(図版260・261・264)

調査区中央で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古) SI11503、SD5543、SK11571、SX11593

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から1.4m・2.0m・1.7mで、総長は5.1mとみられる。梁行は、西妻でみると北から1.9m・2.2mで、総長は4.1mである。方向は、南側柱列で測るとE-3°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。

〔柱穴〕一辺0.4～0.6mの隅丸方形で、深さは0.3mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・高環・甕などが出土した。

【SB11605 掘立柱建物跡】(図版260・261・264)

調査区中央で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟総柱建物跡である。

〔重複〕(古) SB11603、SI11503、SX11593

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から2.5m・1.7m・1.5m、総長は5.7mとみられる。梁行は、西妻でみると北から1.9m・2.4mで、総長は4.3mとみられる。方向は、北側柱列で測るとE-1°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。

〔柱穴〕直径0.3～0.7mの円形や楕円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む黒褐色～暗褐色のシルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・高環・甕、須恵器環・甕などが出土した。須恵器環はヘラ切りである。

【SB11606 掘立柱建物跡】(図版260・261・263)

調査区西部で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟建物跡である。

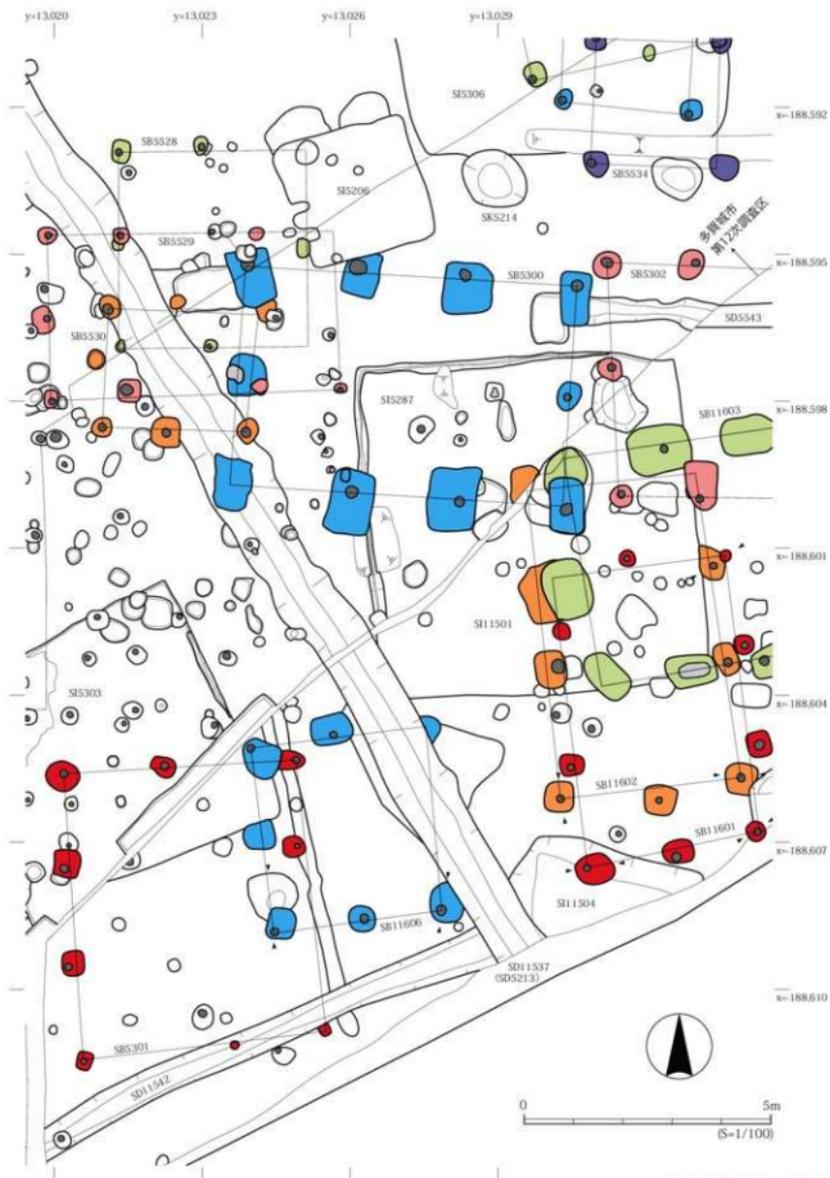
〔重複〕(古) SB5301、SI5303 (新) SD11537

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると3.8m(2間分)である。梁行は、南妻でみると西から1.8m・1.6mで、総長は3.4mである。方向は西側柱列で測るとN-7°-Wである。

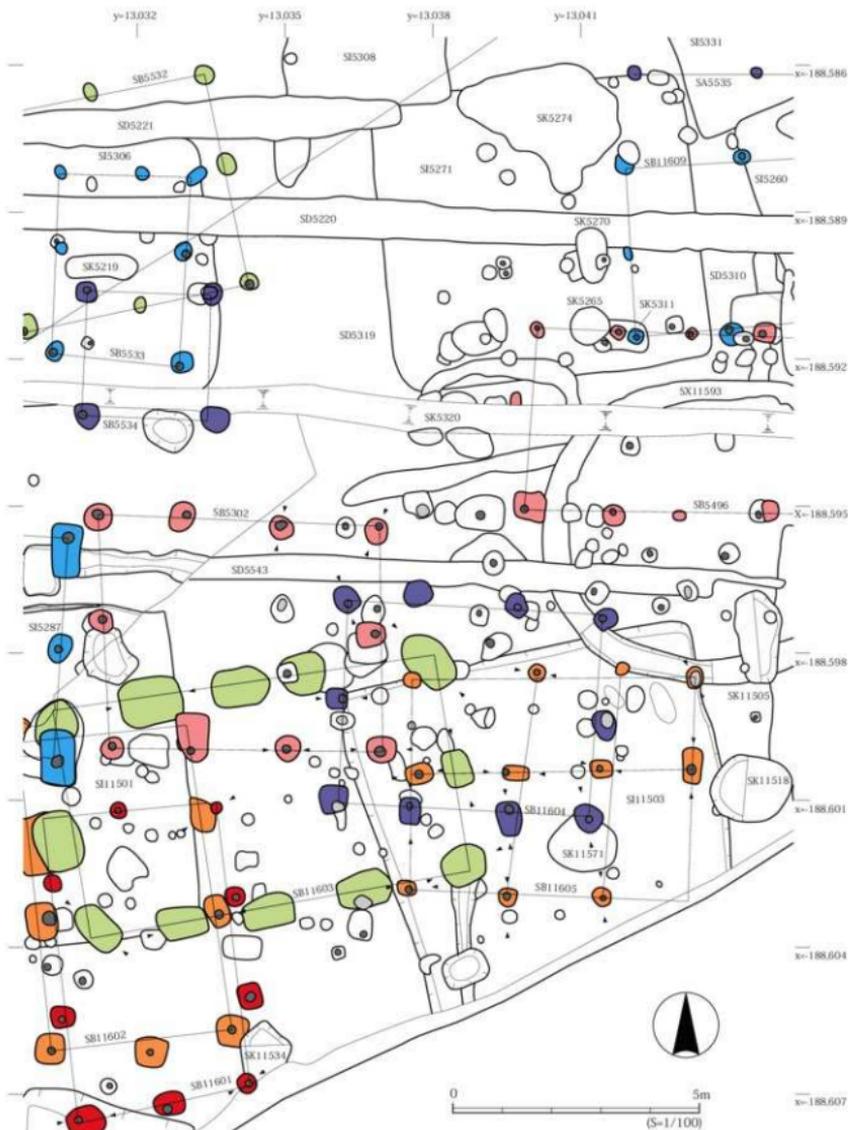
〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。

〔柱穴〕一辺0.5～0.8mの隅丸方形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを含むにぶい黄橙色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・高環・甕、須恵器環が出土した。

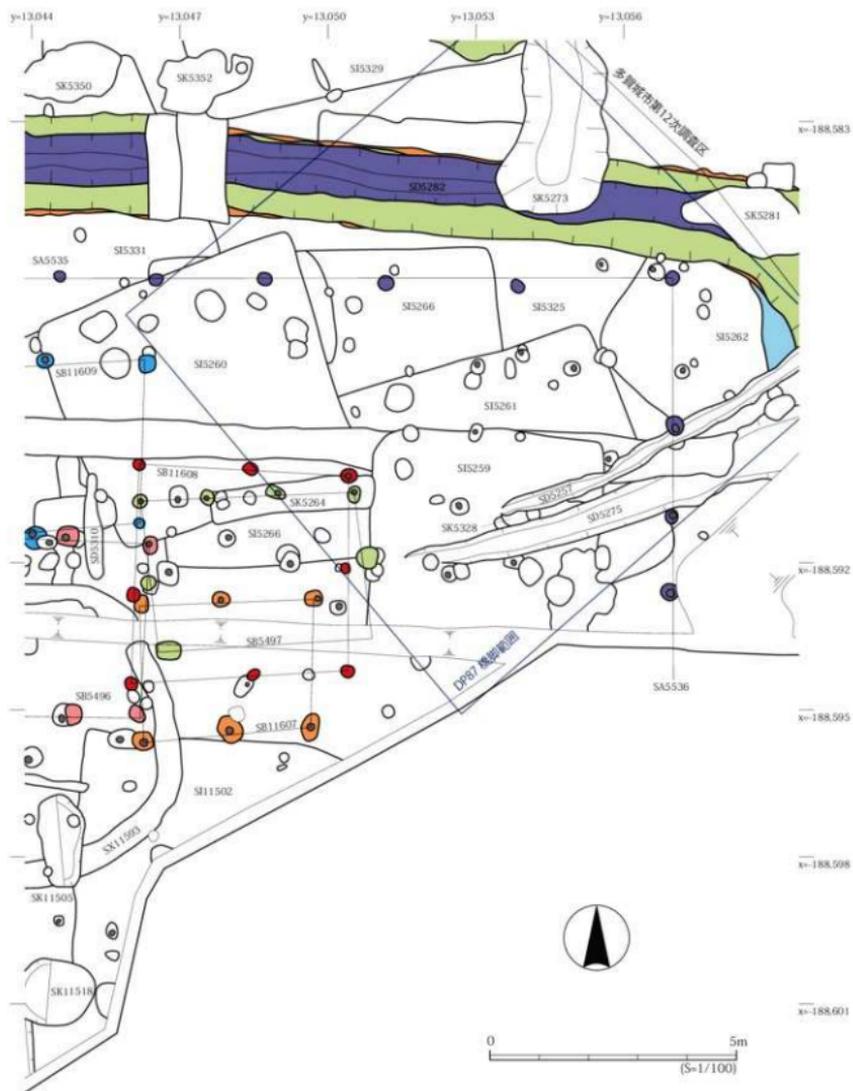


図版263 F区平面図2



図版264 F区平面図3

(F区の図制は図版255を参照)



図版265 F区平面図4

(F区の図割は図版255を参照)



F区全景(西から)



F区航空写真(上から)

図版266 F区全景

建物名 (棟名)	用途	建物階数	建物方向	平面規模 (m)						建物方向		柱間隔		柱次方向	新旧関係	面積		
				桁行			並行			角度	計測 注列	柱間隔 (m)	平面					
棟号	階数	桁行	並行	延長	測定	柱間寸法	延長	測定	柱間寸法									平面
SBS222 (東園)	確認	3	3	南北	5.5	東	1.9・1.6・2.0	5.7	南	1.0・1.8、廊の出2.0	廊の 出2.0	N-1'- W	東	0.2 0.8	隅丸方形 相印形	SS288→SD5212→SA5226・ SB5290・S324→SB5222	262	-
SBS289	確認	3	2	東西	4.3	南	4.3 [2間分]	5.2	東	2.7・2.5		E-8'- N	北	0.4 0.5	隅丸方形 相印形	SS288→SD5212→SA5226→ SB5289	262	-
SBS290	確認	3	2	東西	7.4	北	2.6・2.5・2.3	4.0	東	1.8・2.2		E-6'- N	北	0.5 0.7	隅丸方形 相印形	SS288→SD5212→SA5226・ SB5292→SB5290→SB5222	255 + 262	-
SBS291	確認	2	2	東西	4.2	北	2.3・(1.9)	3.1	東	3.1 [2間分]		E-1'- N	北	0.3 0.6	隅丸方形 相印形	SS288→SD5212→SA5226・ SB5291→SB5324→SB5222	255 + 262	-
SBS292	確認	3	3	南北	4.3	西	2.3・2.0	4.7	北	1.6・3.1 [2間 分]		N-2'- W	西	0.2 0.5	相印形	SD5212→SB5292→SB5290	262	-
SBS294	確認	3	2	南北	4.5	西	3.0 [2間分] +1.5	3.4	南	3.4 [2間分]		N-1'- W	西	0.3 0.5	隅丸方形 相印形	SA5226→SB5294	262	-
SBS295	確認	3	2	南北	4.7	西	1.5・1.6・1.6	3.3	南	1.6・1.7		N-2'- W	西	0.2 0.6	隅丸方形 相印形	SA5226→SB5295	262	-
SBS296	確認	3	2	東西	4.7	北	1.5・1.7・1.5	3.4	西	1.8・1.6		E-7'- N	北	0.2 0.5	隅丸方形 相印形	SB5309→SB5296	262	-
SBS297	確認	4	2	南北	7.1	西	1.6・1.5・4.0 [2間分]	3.8	南	1.8・2.0		N-8'- W	西	0.3 0.6	隅丸方形 相印形		262	-
SBS300	平換	3	2	東西	6.6	北	2.2等間	4.5	東	2.3・2.2		E-3'- S	北	0.3 2.3	隅丸方形 相印形	SB5303・SB11301→SB11602・ SB11603・SB5543→SB5309・ SB11537・SB5528→SB5529・ SB5206	256 + 263	256
SBS301	確認	3	2	南北	5.9	西	2.0・2.0・1.9	4.7	北	2.0・2.7		N-4'- W	西	0.2 0.3	隅丸方形 相印形	SB5303→SB5301→SB11544・ SB11606	263	-
SBS302	平換	3	2	東西	5.7	北	1.8・1.9・2.0	4.6	東	2.2・2.4		E-2'- S	北	0.4 0.6	不整形 相印形	SB11501・11503→SB11603・ SB5302	264	260
SBS324	確認	3	2	南北	4.9	西	(1.2) +1.5・2.2	2.8	北	(2.8 [2間分])		N-6'- W	西	0.2 0.6	隅丸方形 相印形	SS288・SB5291→SB5324→ SB5222	262	-
SBS496	確認	4	2	東西	6.3	北	1.6・1.5・1.5・1.7	3.7	西	3.7 [2間分]		E-2'- S	北	0.2 0.6	隅丸方形 相印形	SB5260・S271・ SB11593→SB5496	264 + 265	-
SBS497	確認	3	2	東西	4.3	北	1.3・1.5・1.5	3.1	西	(1.7) + (1.4)		E-2'- N	北	0.2 0.5	相印形	SB5260→SB5260・SB5264→ SB5497	265	-
SBS528	確認	2	2	南北	4.0	西	(4.0 [2間分])	3.8	北	1.7・(2.1)		N-0'- W	西	0.2 0.5	相印形	SB5260→SB5528→SB5529	263	-
SBS529	確認	3	2	東西	5.9	南	1.6・4.3 [2間分]	3.4	西	1.7等間		E-2'- N	南	0.2 0.5	隅丸方形 相印形	SB5300・S528→SB5529→ SB5206	263	-
SBS530	確認	2	2	東西	2.9	南	1.3・1.6	2.4	西	2.4 [2間分]		E-2'- S	南	0.4 0.6	隅丸方形 相印形	SB5530→SB5300	263	-
SBS532	確認	2	2	東西	4.7	南	(4.7 [2間分])	4.4	東	(4.4 [2間分])		E-12'- N	南	0.3 0.5	相印形	SB5306→SB5532	255 + 264	-
SBS533	確認	2	2	南北	3.9	東	(1.6) +2.3	2.6	南	2.6 [2間分]		N-4'- E	東	0.3 0.4	相印形	SB5306→SB5533	264	-
SBS534	確認	1	1	南北	2.5	西	-	2.5	北	-		N-3'- E	西	0.3 0.5	相印形	SB5306→SB5534	264	-
SB11601	平換	3	2	南北	5.9	西	3.8 [2間分] + 2.1	3.5	南	1.8・1.7		N-9'- W	西	0.4 0.8	隅丸方形 相印形	SB11504・11501→SB11602・ SB11534→SB11601→SB11605	263 + 264	260
SB11602	平換	3	2	南北	6.3	西	3.6 [2間分] + 2.7	3.7	南	2.0・1.7		N-6'- W	西	0.6 0.7	隅丸方形 相印形	SB11501→SB11602→SB5300・ SB11534→SB11601→SB11605	263	260
SB11603	平換	4	2	東西	7.5	北	-	4.7	西	-		E-9'- N	北	0.7 1.2	隅丸方形 相印形	SB11501・11503→SB11602・ SB11601→SB11603→SB5300・ S302・J1605	264	260
SB11604	平換	3	2	東西	5.1	南	(1.4) + 2.0 + 1.7	4.1	西	1.9・(2.2)		E-3'- S	南	0.4 0.6	隅丸方形 相印形	SB11503→SB11571・ SB11593→SB5543→SB11604	264	260
SB11605 (東柱)	平換	3	2	東西	5.7	南	2.5 + 1.7 + (1.5)	4.3	西	(1.0) + 2.4		E-1'- W	北	0.3 0.7	戸形・ 相印形	SB11503→SB11603・ SB11593→SB11605	264	260
SB11606	平換	2	2	南北	3.8	西	-	3.4	南	1.8・1.6		N-7'- W	西	0.5 0.8	隅丸方形 相印形	SB5303→SB5301→SB11606→ SB11537	263	260
SB11607	確認	2	1	東西	3.4	南	1.8・1.6	2.6	東	-		E-5'- N	南	0.3 0.6	相印形	SB11502→SB11607→SB11608	265	-
SB11608	確認	2	2	南北	4.5	西	-	4.3	北	-		N-2'- E	西	0.2 0.3	相印形	SB5260→SB5264→SB5497・ 11607→SB11608	265	-
SB11609	確認	2	2	東西	4.4	北	-	3.4	西	-		E-3'- N	北	0.2 0.4	相印形	SB5260・S271→SB5311→ SB11609	264 + 265	-
SB11610	確認	2	2	東西	3.7	北	3.7 [2間分]	3.2	東	1.6・1.6		E-30'- N	北	0.2 0.3	隅丸方形 相印形		262	-

- ・柱間寸法は東西方向が西から、南北方向は北から行った。ただし、西側や北側が不明な場合は東から、南から計測している
- ・柱間隔が無い、または柱間から柱間隔が1つ以上ずれの場合は、2間(場合によっては3間分)の粗和表記している
- ・桁間寸法の表記で柱位置が不明な場合は、() 書きとしている
- ・建物名称の省略が不明なものは、数字前に、を記入している

表31 F区掘立柱建物跡属性表

3. 竪穴住居跡

竪穴住居跡は5棟(SI5303・11501～11504)確認した。以下、古墳時代中期の3棟(11501～11503)について説明を行う。それらの属性は表32にまとめている。

【SI11503竪穴住居跡】(図版264・267～269)

調査区中央で確認した。調査は床面段階までとし、掘方や炉の断ち割りには行っていない。床面で複数の焼面と炭化物の広がりが認められ、鉄滓や砥石9点、金床石が出土したことから、鍛冶工房と考えられる。堆積土は回収していないため、鍛造剥片の有無や分布は不明である。

〔重複〕(新)SB5302・11603・11604・11605、SK11518・11571、SX11593

〔規模・平面形〕東西7.3m・南北6.3m以上で、平面形は正方形もしくは長方形である。

〔壁〕最も残りのよいところで0.2mある。

〔周溝〕なし。

〔床面〕半截した柱穴断面でみると、掘方に灰黄褐色砂質シルトを10cmほど埋め戻して床としている。床面上は北西側を中心として全体的に炭化物が広がる。

〔炉・鍛冶炉〕焼面は4箇所で認められた(焼面1～4)。このうち、中央北側に位置する焼面1は最も焼土や炭化物の範囲が広いことから、鍛冶炉と考えられる。また、焼面3もすぐ脇から金床石(図版278・50)が出土したことから鍛冶炉であり、焼面1と同時期に機能したとみられる。その場合、併存する2基の鍛冶炉は、鍛冶工程によって使い分けられていた可能性が考えられる。焼面1・3は不整楕円形を呈し、わずかに窪んでいるが、掘方の有無は不明である。焼面2・4については、性格の特定ができない。床面や堆積土から土器が多く出土したことから、鍛冶炉と生活用の炉が併存していた可能性が高い。

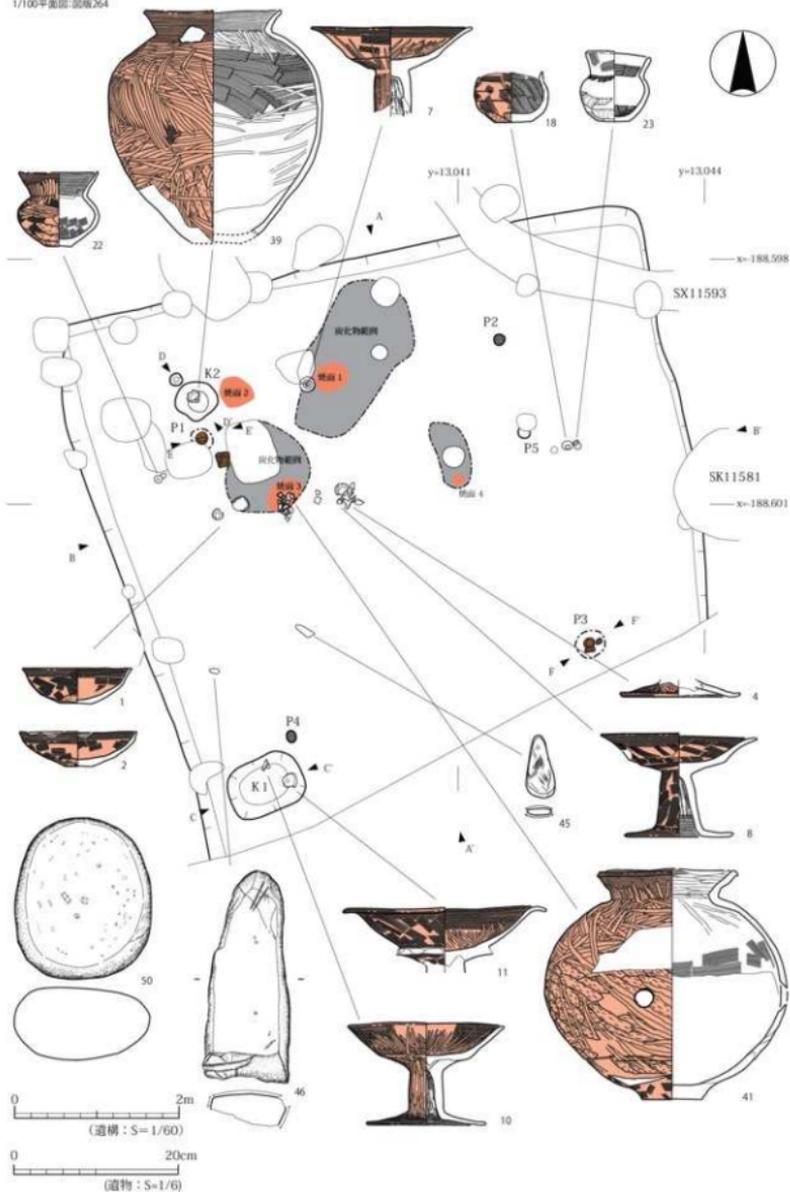
〔主柱・柱穴〕柱痕跡を5個確認した。このうち、4個は対角線状に配置されたことから、主柱と考えられる(P1～P4)。P1とP3については断ち割りを行ったところ、直径0.15mほどの柱が残存しており、前者は芯持ち材であった(図版279・52)。また、掘方の下で柱穴を確認したため、主柱を立てた後に床を構築したことがわかった。柱穴は直径0.30～0.40mほどの円形で、深さは0.70～0.90mあり、P1は柱の沈下を防ぐため、木片の上に立てていた。さらに、P5はP2とP3を結ぶ線状にあること、対称の位置に柱がないことから、補修材と考えておきたい。

〔付属施設〕貯蔵穴は南西側(K1)と、北西側(K2)1基ずつ認められた。K1は平面形が隅丸方形で、K2は不整楕円形である。後者は頸部を穿孔し、胴下半の片側と底部を取り去った土師器大型甕が、穿孔部分を上、口縁部を住居外に向けて斜めに据えられていた。

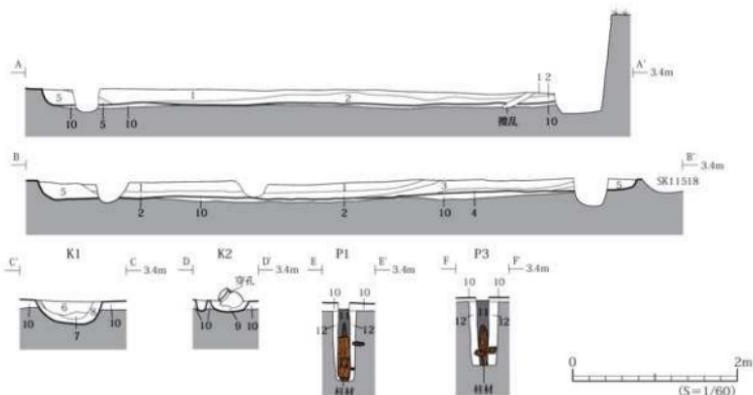
〔方向〕北辺で測ると、E - 13° - Nである。

〔出土遺物〕(図版270～285)

床面からは土師器環(1・2)・高環(4・7・8)・小型壺(18・22・23)・大型壺(41)、石製模造品(44)、砥石(45・46)、金床石(50)、鉄鏝、鉄滓などが出土した。41は胴部中央に穿孔が認められる。46は置き砥である。貯蔵穴のK1からは高環(10・11)、砥石(48)などが出土した。11は突帯を意図的に打ち欠いている。K2からは、頸部に穿孔された大型甕(39)が出土した。



図版267 SI11503竪穴住居跡1



層位	土色	土性	遺人物など	備考
1	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	燧山粘土質ブロックを多く含む。部分的に黒褐色シルトブロックを多く含む	
2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	炭化物・焼土・土器を非常に多く含む	
3	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	砂質シルト	炭化物を少し含む	住居内埋積土
4	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト		
5	黒灰色 (10YR4/1)	砂質シルト		
6	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	2層・3層のプロックや炭化物を含む	
7	黒色 (10YR1.7/1)	粘土質シルト	炭化物を多く含む	K1 埋積土
8	黒灰色 (10YR4/1)	粘土質シルト	炭土・炭化物を多く含む	
9	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を含む	K2 埋積土
10	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト		住居部外埋土
11	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	シルト		P1・P3 柱礎跡
12	灰色 (10Y5/1) ~ にぶい黄色 (2.5Y6/3)	シルト		P1・P3 掘方埋土



住居北側中央部の焼面と炭化物 (西から)



住居中央部焼け面と炭化物 (西から)

図版268 SI11503竅穴住居跡2

1~3層からは土師器環・高環 (3・5・6・9・12~15)・小型鉢 (25)・小型壺 (16・17・19~21・24)・大型壺 (29~31・35・36・41)・小型甕 (26)・甕 (27)・大型甕 (28・32~34・37~40・42)・石製模造品 (43)・砥石 (47)・金床石 (49・51)・鉄鏃 (54)・不明鉄製品・鉄滓 (53) などが出土した。鉄滓には下部に土が溶着している。

土師器の大きな特徴として、内外に赤彩が施された赤彩土器 (1・2・4・5・7~12・15・17・18・22・25・27~29・37~42) や胎土に赤色粒子を多く含んで橙色を呈した赤色土器 (3・6・14・20・21・26) が多い点があげられる。図示点数に対する割合は、42点中30点 (赤色土器24点、



SI11503、2層上面
遺物出土状況(西から)



SI11503 全景(西から)

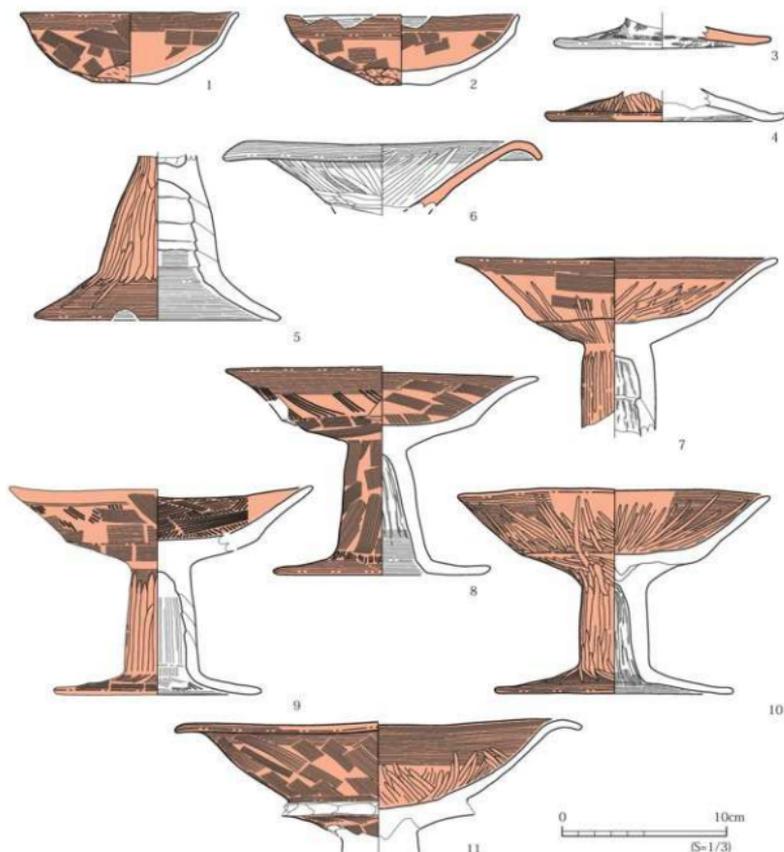


SI11503-P3 断面(南から)



SI11503-K1 断面(北から)

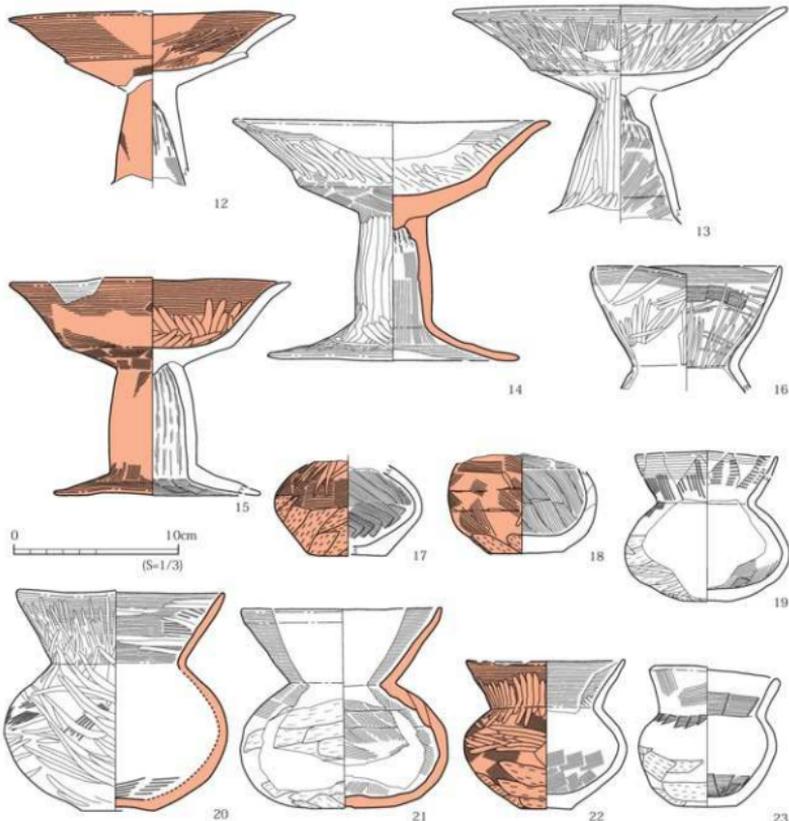
図版269 SI11503竪穴住居跡3



No.	器種	部位	図章	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	分級	備考	登録
1	土師器・鉢	片面	外面：[□] ヨコナデ [体] ナデ [底] ヘラケズリ 内面：[□] ヨコナデ [体] ナデ	13.1	3.1	4.3	完形	A	赤彩	301
2	土師器・鉢	片面	外面：[□] ヨコナデ [体] ナデ [底] ヘラケズリ 内面：ヨコナデ・ナデ	14.0	3.3	4.3	完形	A	赤彩	302
3	土師器・高鉢	2類	外面：ハケメ→ヨコナデ 内面：ハケメ	—	13.2	—	一部	—	赤色	1119
4	土師器・高鉢	片面	外面：ヨコナデ→ハラミガキ 内面：ハラミガキ	—	14.6	—	一部	—	赤彩	1105
5	土師器・高鉢	3類	外面：ヨコナデ→ハラミガキ 内面：ヨコナデ→ナデ	—	15.0	—	1/2	—	赤彩、脚部中空、胴径：7.6cm	1139
6	土師器・高鉢	2類	外面：ヨコナデ・ナデ→ハラミガキ 内面：ヨコナデ→ハラミガキ	(19.3)	—	—	一部	B	赤色 胎土に海綿状針含む	1126
7	土師器・高鉢	片面	外面：[□] ヨコナデ [体→脚] ナデ→ハラミガキ 内面：[環] ヨコナデ・ナデ→ハラミガキ [脚] シボリ	19.1	—	—	2/3	A3	赤彩、脚部中空、環部有枕、胴径：4.5cm	1106
8	土師器・高鉢	片面	外面：ハケメ→ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	19.0	13.1	—	3/4	A3	赤彩、脚部中空、胴径：5.2cm	1104
9	土師器・高鉢	3類	外面：[環] ハケメ→ヨコナデ・ナデ [脚] ナデ→ヨコナデ→ハラミガキ 内面：[環] ハケメ [脚] シボリ→ハケメ→ヨコナデ	18.4	12.7	12.5	完形	A3	赤彩、脚部中空、胴径：4.4cm	1143
10	土師器・高鉢	K1	外面：ヨコナデ→ハラミガキ 内面：[環] ヨコナデ→ハラミガキ [脚] ヨコナデ→ナデ	(18.8)	(14.5)	12.5	2/3	A3	赤彩、脚部中空、胴径：(4.2cm)	1100
11	土師器・高鉢	K1	外面：ヨコナデ→ナデ→ヨコナデ 内面：ヨコナデ→ハラミガキ	(24.7)	—	—	1/3	B	赤彩	307

単位は四取288に基づく

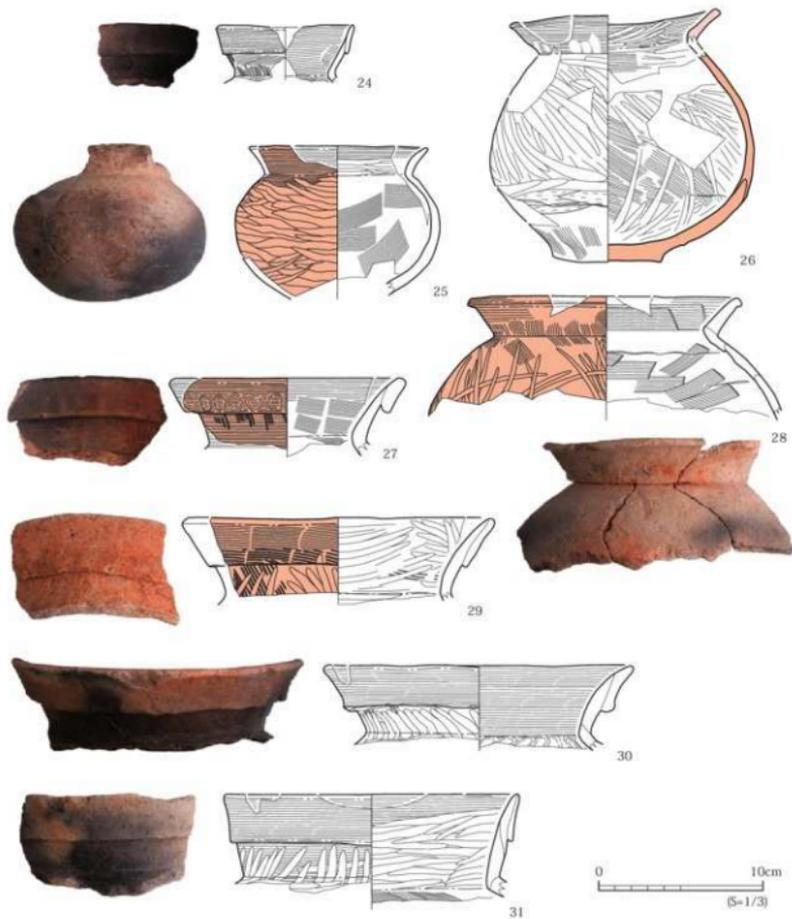
図版270 SI1503竅穴住居跡出土遺物 1



No.	名称	層位	説明	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	分器	備考	登録
12	土師器・高杯	2層	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：[灰] ヨコナデ・ヘラミガキ [藍] シボリーナデ	17.2	—	—	2/3	A3	赤彩。頸径4.5cm	1112
13	土師器・高杯	3層	外面：[灰] ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ [藍] ヘラミガキ 内面：[灰] ヨコナデ・ヘラミガキ [藍] シボリーナデ	20.4	—	—	2/3	A2	腹部中央。頸径：7.2cm	1142
14	土師器・高杯	2層	外面：[灰・藍] ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ 内面：[灰] ヨコナデ・ヘラミガキ [藍] シボリーナデ・ヨコナデ	(18.8)	(15.4)	14.7	2/3	A3	赤色。腹部中央(腹部中央)。 頸径：(4.8cm)	306
15	土師器・高杯	2層	外面：[灰] ヨコナデ・ナデ 内面：[灰] ヨコナデ・ヘラミガキ [藍] ヨコナデ・ヘラミガキ	16.9	12.5	13.3	完形	A3	赤彩。腹部中央。頸径：5.3cm	1111
16	土師器・小形壺	1層	外面：ヨコナデ・ヘラミガキ 内面：ヨコナデ・ヘラミガキ	(11.4)	—	—	1/4	A		1145
17	土師器・小形壺	2層	外面：ナデ・ヘラミガキ・ヘラミガキ 内面：ナデ・ヘラミガキ	—	(4.7)	—	1/4	—	赤彩	1146
18	土師器・小形壺	1層	外面：ナデ・ヘラミガキ・ヘラミガキ 内面：ヨコナデ・ヘラミガキ	—	4.5	—	3/4	—	赤彩	1099
19	土師器・小形壺	2層	外面：[口] ハケメ・ヨコナデ [底下] ヘラミガキ・ヘラミガキ 内面：[口] ハケメ [底下] ヘラミガキ	(8.5)	(2.0)	9.1	1/2	B		1131
20	土師器・小形壺	2層	外面：[口] ヨコナデ・ヘラミガキ [体] ハケメ・ヘラミガキ 内面：[口] ハケメ・ヨコナデ・ヘラミガキ [体] ハケメ	12.4	4.5	13.5	完形	A	赤色	305
21	土師器・小形壺	1層	外面：ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ 内面：ヨコナデ・ナデ	(12.0)	(4.2)	(12.2)	2/3	A	赤色	1137
22	土師器・小形壺	1層	外面：[口] ヨコナデ・ヘラミガキ [体] ナデ・ヘラミガキ・ヘラミガキ 内面：[口] ヨコナデ・ヘラミガキ [体] ナデ	9.5	3.0	9.1	完形	A	赤彩	304
23	土師器・小形壺	1層	外面：ナデ・ヘラミガキ・ヘラミガキ [口] ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	7.4	3.8	8.6	完形	A		303

単位はmm 268に基づく

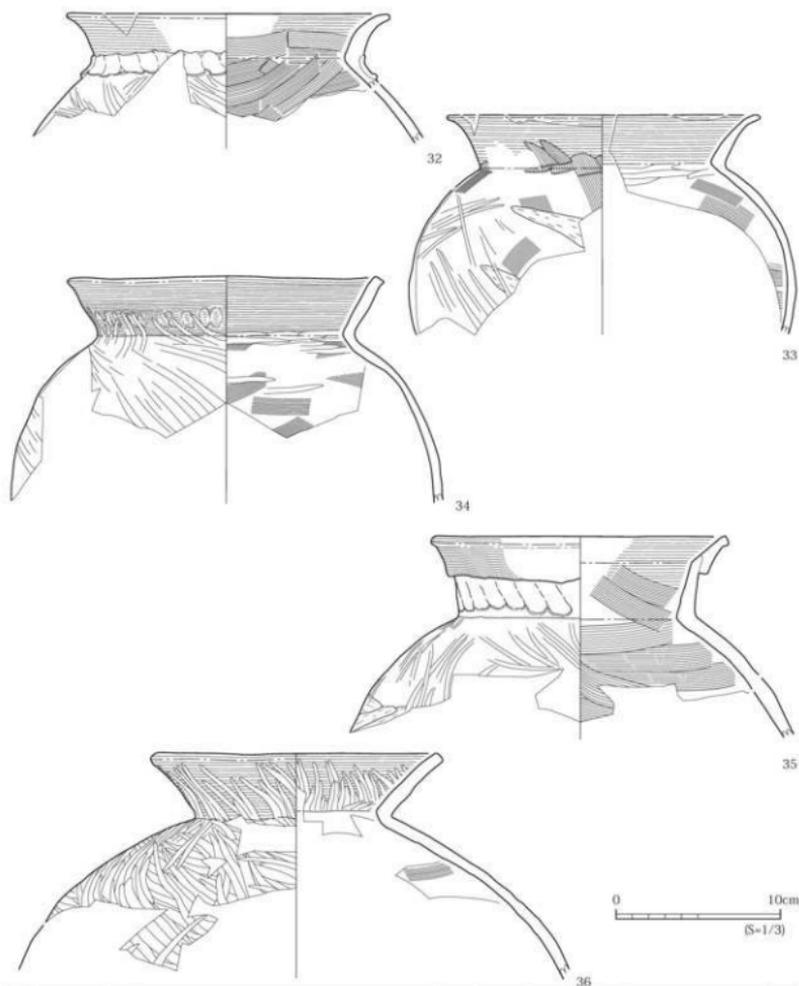
図版271 S11503竪穴住居跡出土遺物2



No.	器種	層位	図案	口径 (cm)	口縁 (cm)	器高 (cm)	残存	分積	備考	登録
24	土師器・小型壺	2層	外面：[□] ヨコナデ [縦] ハケメ→ナデ 内面：ヨコナデ→ナデ	(8.1)	—	—	一部	B	胎土に海綿骨針含む	1147
25	土師器・鉢	3層	外面：[□] ヨコナデ [体] ヨコナデ→ヘラミガキ 内面：[□] ヨコナデ→ヘラミガキ [体] ナデ	(10.6)	—	—	1/4	C	赤彩	1144
26	土師器・小型壺	2層	外面：[□] オサエ→ヨコナデ [縦] ナデ→ヘラミガキ 内面：[縦] ヘラミガキ 内面：ヨコナデ→ナデ→ヘラミガキ	12.3	6.1	15.5	3/4	B	赤色	1115
27	土師器・甕	2層	外面：[□] ヨコナデ→横圧痕 [縦] ハケメ→ヨコナデ 内面：ヨコナデ→ナデ	(14.4)	—	—	一部	—	赤彩	1141
28	土師器・大型壺	2層	外面：ヨコナデ→ナデ→ヘラミガキ 内面：ヨコナデ→ヘラミガキ	(16.8)	—	—	1/4	A	赤彩	1122
29	土師器・大型壺	2層	外面：[□] ハケメ→ヨコナデ [縦] ハケメ→ヘラミガキ 内面：ハケメ→ヘラミガキ	(18.4)	—	—	一部	A	赤彩。胎土に海綿骨針含む	1134
30	土師器・大型壺	2層	外面：[□] ヨコナデ→ヘラミガキ [縦] ハケメ→ヘラミガキ 内面：ヨコナデ→横圧痕	(18.6)	—	—	一部	A	胎土に海綿骨針含む	1133
31	土師器・大型壺	2層	外面：ヨコナデ→ヘラミガキ 内面：ヨコナデ→ヘラミガキ	(17.7)	—	—	一部	A	胎土に海綿骨針含む	1132

層位は同図268に基づつ

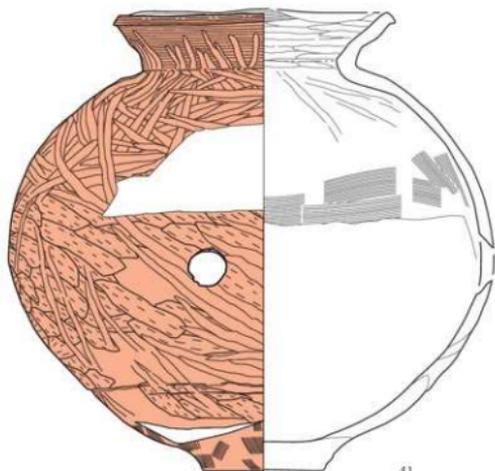
図版272 S11503竅穴住居跡出土遺物 3



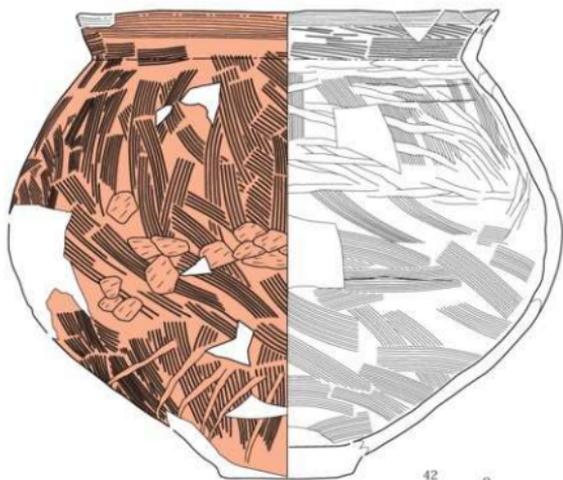
No.	器種	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存 分額	備考	登録
32	土師器・大型甕	2層	外面：[口] ヨコナデ [胴] ヘラミガキ [頸] 指圧刷 内面：ヨコナデ・ナデ	19.5	—	—	一部 A		1128
33	土師器・大型甕	2層	外面：[口] ヨコナデ・ヘラナデ [胴] ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ 内面：[口] ヨコナデ [胴] ヘラナデ・ナデ・一部ヘラミガキ	18.5	—	—	1/4 A	甕土に陶輪付斜を穿む	1118
34	土師器・大型甕	2層	外面：[口] 指圧刷・ヨコナデ・ヘラミガキ [胴] ヘラミガキ 内面：ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	18.2	—	—	1/2 A		1129
35	土師器・大型甕	2層	外面：[口] ヨコナデ [胴] ヘラケズリ・ヘラミガキ [頸] 指ナデ 内面：ヨコナデ・ヘラナデ	17.7	—	—	一部 A		1127
36	土師器・大型甕	2層	外面：[口] ヨコナデ・ヘラミガキ [胴] ヘラミガキ 内面：[口] ヨコナデ・ヘラミガキ [胴] ヘラミガキ	17.0	—	—	1/4 B		1130

層位は990c 268に基づく

図版273 S11503竪穴住居跡出土遺物4



41



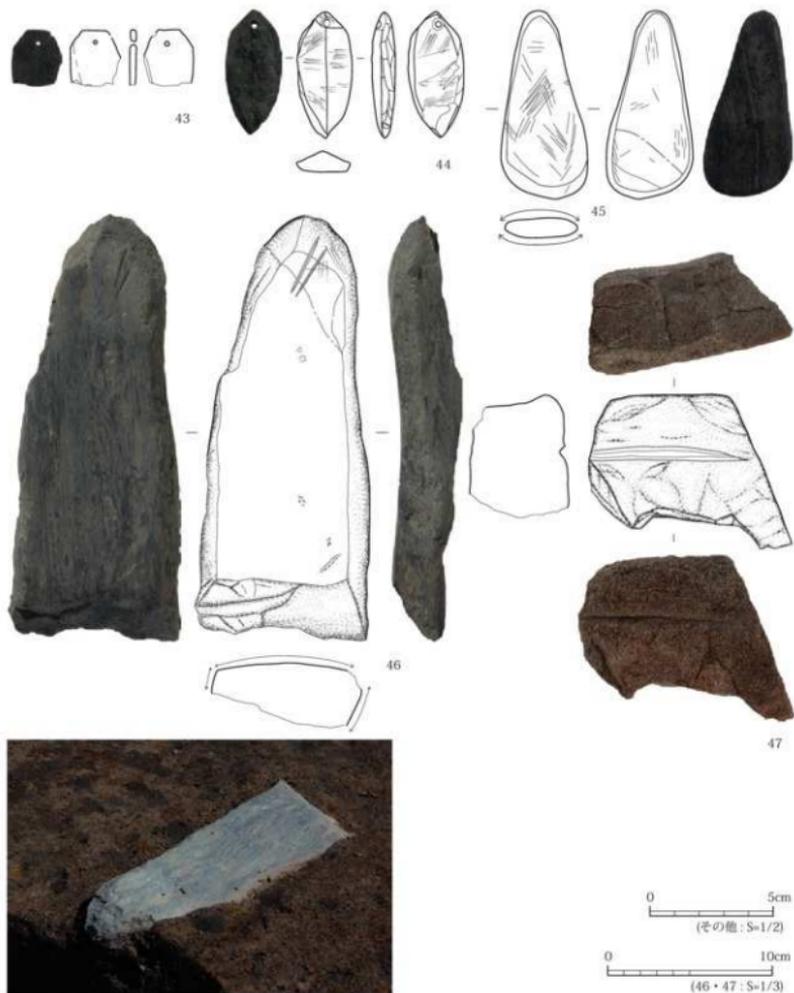
42



No.	器種	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	分類	備考	登録
41	土師器・大型壺	床面	外面：[口]ヨコナデ→ヘラミガキ [胴]ヘラケズリ→ヘラミガキ [胴下]ナデ 内面：[口]ヨコナデ→ヘラミガキ [胴]ナデ→ヘラナデ→ヘラミガキ	17.0	7.4	28.0	完形	A	赤彩。胴部穿孔（外から）。胎土に海綿状針を含む。最大径：29.6cm	1103
42	土師器・大型壺	2期	外形：[口]ハケメ→ヨコナデ [胴]ハケメ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：[口]ハケメ→ヨコナデ [胴]ナデ→ヘラミガキ	25.3	8.0	28.8	完形	D	赤彩。最大径：33.6cm	1109

層位は図版 208 に基づく

図版275 S11503竪穴住居跡出土遺物6



圖版(46) 出土状況(西から)

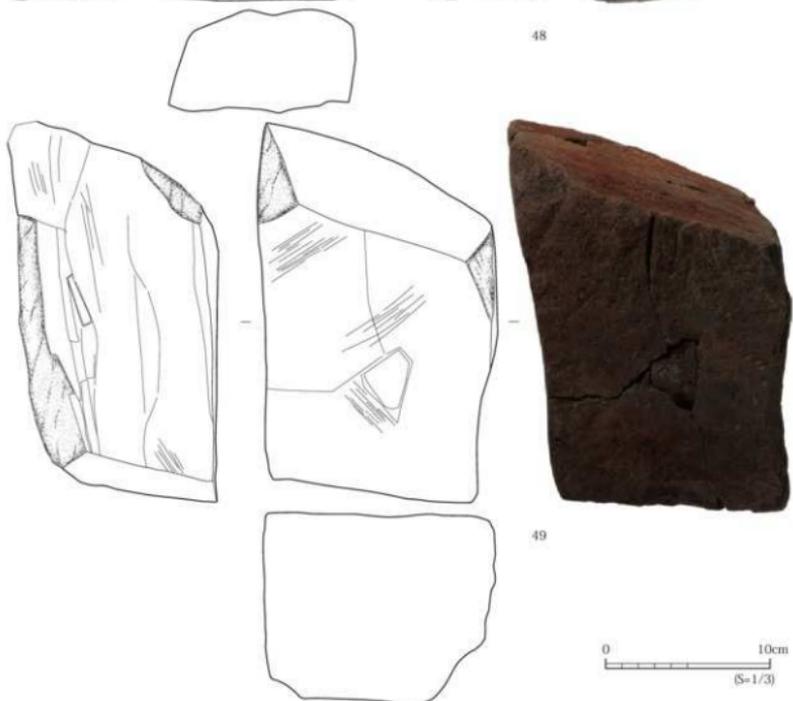
No.	器種	層位	特徴	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	残存	備考	登録
43	石製棒状品	3層		2.2	2.1	0.2	2.2	—	銅製	209
44	石製棒状品	床面		5.2	2.3	0.9	13.3	—	銅製	208
45	石製品・燧石	床面		7.6	3.5	0.8	26.0	—		202
46	石製品・燧石	床面		25.4	9.1	3.7	11000	—	銅製	201
47	石製品・燧石	2層		12.1	9.4	5.9	8250	—	銅製	1175

層位は図版268に基づき

図版276 S11503竪穴住居跡出土遺物7



48

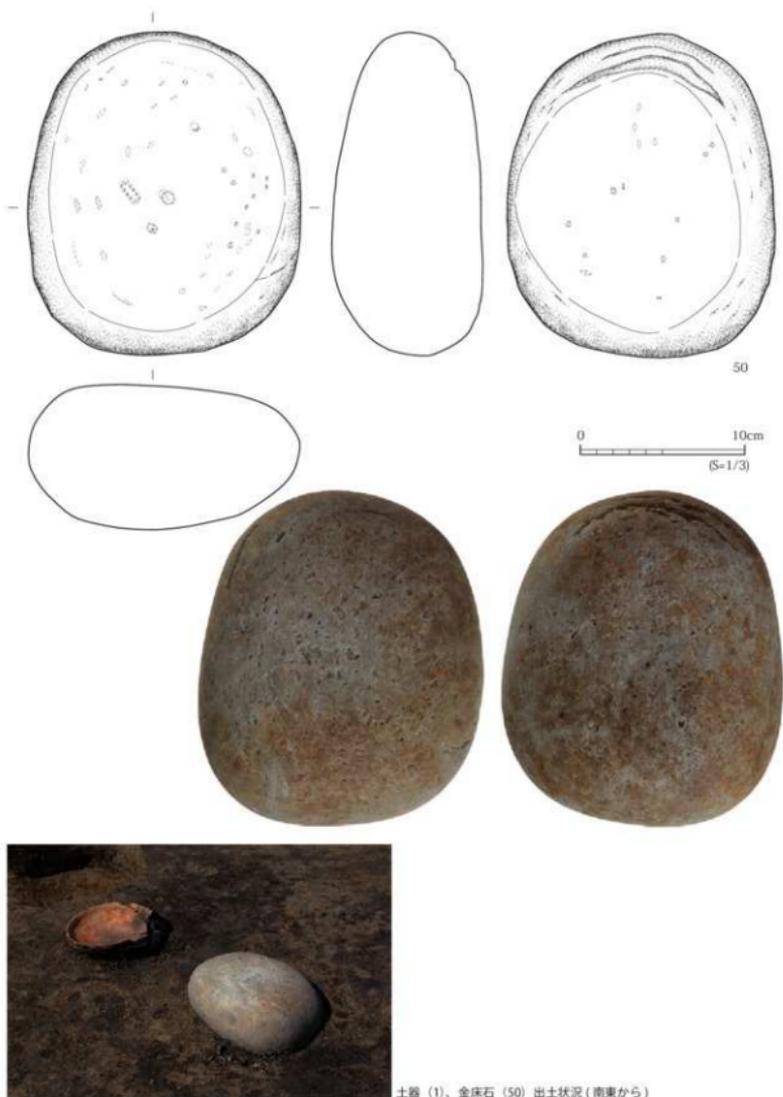


49

No.	名称	層位	特徴	高さ(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	現存	備考	登録
48	右側面・裏面	Ⅱ		24.4	14.1	6.9	3500.0	—		1108
49	正面面・左側面	Ⅱ		21.8	14.1	11.5	5100.0	—		1124

割合は0.000 268 に基づく

図版277 S111503竪穴住居跡出土遺物 8

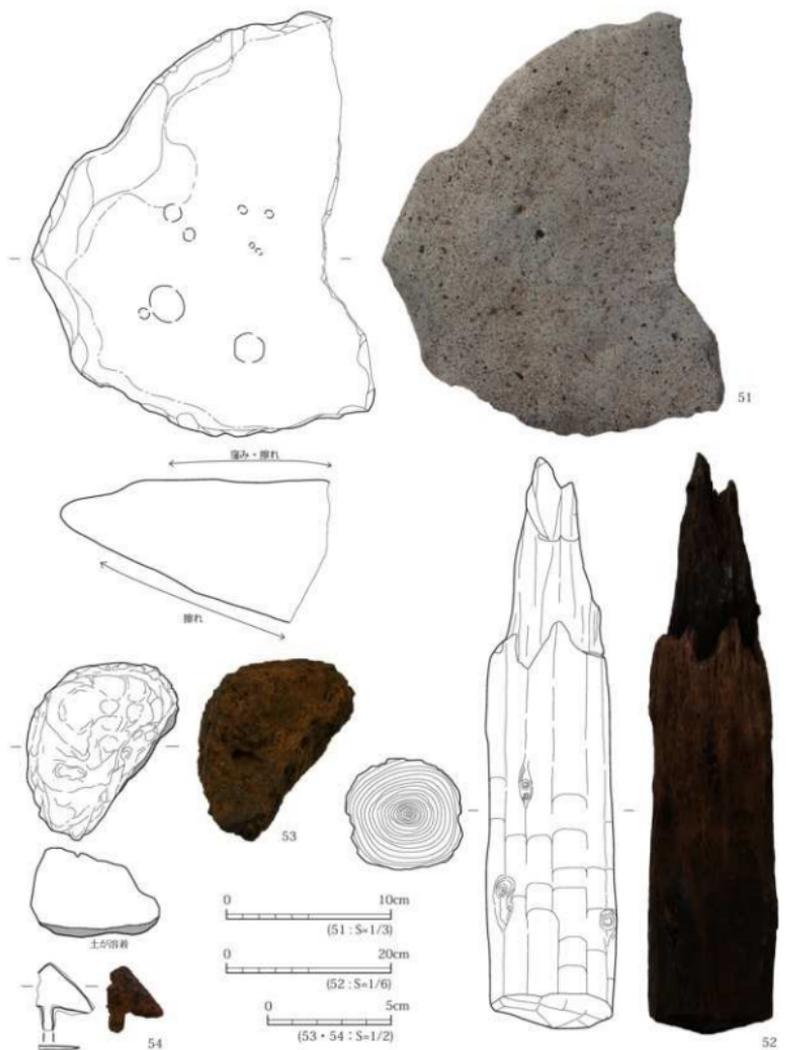


土器 (1)、金床石 (50) 出土状況 (南東から)

No.	品種	層位	特徴	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	残存	備考	登録
50	石製品・金床石	灰土		19.7	16.5	8.8	407.0	—	銀行版	1107

層位は同版 268 に基づく

図版278 SI11503竪穴住居跡出土遺物 9



No.	品種	層位	特徴	高軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	残存	備考	登録
51	石製品・金床石	1層		25.6	17.2	8.6	43700	—	縦1面・横1	1138
52	木製品・柱材	P3		△70.0	—	—	—	—	直径：13.5cm	2623
53	鏡片	2層		7.9	5.2	3.5	—	—	土が溶着	1189
54	鉄製品・鏃	3層		—	—	—	—	—	—	1190

層位490a 208に基づく

図版279 SI11503竅穴住居跡出土遺物10



1



2



5



6



7



8



9



10



11

圖版280 S11503豎穴住居跡出土遺物11



12



13



14



15



17



18



19



20



21



22

圖版281 SI11503豎穴住居跡出土遺物12



图版282 S111503竖穴住居跡出土遺物13



35



36



37



38

圖版283 S111503 整穴住居跡出土遺物14



39 穿孔部



K2-土器 39 出土状況(西から)



39



40

図版284 S11503竪穴住居跡出土遺物15



41



42

図版285 S111503豎穴住居跡出土遺物16

赤色土器6点)で、全体の7割以上を占める。また、高坏11は、坏下部の凸帯や脚部が取り除かれ、大型甕39、大型壺41は頸部や胴部中央が穿孔されており、こうした器の機能を転化・喪失させているのは、何らかの祭祀に伴う行為と考えられる。

【SI11501 竪穴住居跡】(図版263・286・287)

調査区西部で確認した。多賀城市第12次調査で確認した住居跡(SI5287)の南半にあたる(多賀城市埋文センター1992b)。今回は精査を行っていないが、全容が判明したため報告する。住居内では2箇所で焼面を確認した。鉄製品も出土したことから、焼面の一方が鍛冶炉であった可能性がある。また、堆積土2層(図版286断面図2)に灰白色シルトが認められたことから、火山灰の可能性を考えて2地点より試料を採取して分析を依頼した結果(試料1・2)、複数のテフラに由来するテフラの2次堆積の可能性が指摘されている(第XIII章第1節)。

〔重複〕(新)SB5300・5302・11601・11602・11603、SD11537

〔平面形〕東西6.6m・南北6.9mの正方形である。

〔周溝〕床面まで下げた北辺と西辺で確認されたことから、全周していたとみられる。断面形は逆三角形である。

〔壁〕最もよく残るところで0.1mである。

〔床面〕掘方に灰黄褐色砂質シルトを入れて床としている。

〔炉・鍛冶炉〕住居中央の北壁より0.4m南で炉が確認された(多賀城市教委1992)。さらに、断面写真から住居中央付近の床面とみられる位置で焼面が観察できた。2基の炉は併存していたと考えられ、中央の焼面は鍛冶炉とみられる。

〔主柱〕市教委の調査で北西主柱が確認された。主柱は対角線状に4本配置されたとみられるが、通常より壁側に柱位置が寄っている。その理由としては、鍛冶炉を有するため、中央の空間を広くしたと考えられる。

〔方向〕東辺で測ると、 $N-4^{\circ}-W$ である。

〔出土遺物〕(図版288・289)

堆積土から土器器高坏(1・2)・大型壺(3)・大型甕もしくは壺(4)、石製模造品(5)などが出土した。このほか、市教委調査で土器器高坏・坏・小型壺、石製模造品(有孔円盤・勾玉)、不明鉄製品などが出土した(多賀城市埋文センター前掲)。

【SI11502 竪穴住居跡】(図版265)

調査区中央で住居の北西部を確認した。精査は行っていない。

〔重複〕(新)SB11607、SK11505・11518、SX11593

〔規模・平面形〕東西5.2m以上・南北5.1m以上で、平面形は正方形とみられる。

〔方向〕北辺で測ると、 $E-5^{\circ}-S$ である。

〔出土遺物〕(図版290)

確認面から土器器高坏(1)・小型壺(2)・大型甕(3)などが出土した。



1～3層：住居内埋藏土

4層：住居外埋藏土

※多賀城市文化財報告書第30集、1992「山王遺跡・第12次調査概報（仙塩道路建設に伴う八幡地区調査）・第8回をトレース。

図版286 SI11501竪穴住居跡 1

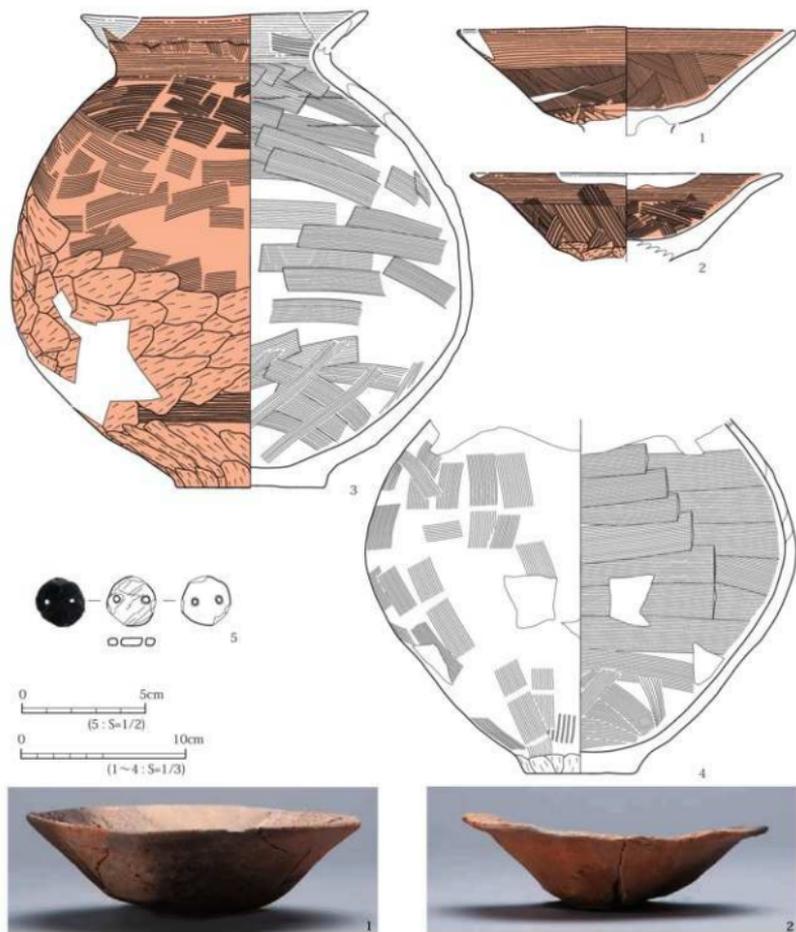


SI11501 全景 (北から)



SI11501 断面 (西から)

図版287 SI11501竪穴住居跡2

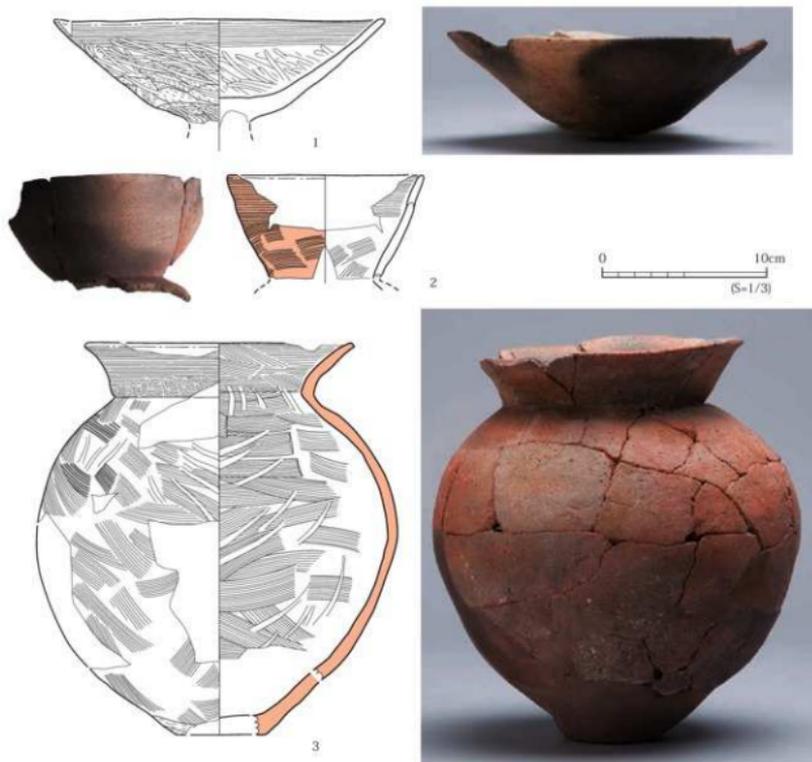


No.	器種	層位	図説	口径 (cm)	口径 (cm)	器底 (cm)	器厚 (cm)	残存	分體	備考	登録
1	土師器・高杯	堆	外面：ナデーヨコナデーヘラミガキ 内面：ナデーヨコナデー	20.6	-	-	-	3/4	A	赤彩。胎土に海綿状針孔を有	1167
2	土師器・高杯	堆	外面：ハケメーヨコナデー 内面：ハケメーナデーヨコナデー	(19.0)	-	-	-	3/4	A	赤彩	1168
3	土師器・大型甕	堆	外面：[口] ヨコナデーナデー [脚] ハケメーナデーヘラケズリ 内面：[口] ハケメーヨコナデー [脚] ヘラナデーナデー	17.5	8.9	20.0	-	完形	A	赤彩。最大径：28.0cm	1165
4	土師器・大型甕 or 甕	堆	外面：ハケメーナデーヘラケズリ 内面：ヘラヘラケズリ	-	6.6	-	-	2/3	-	内部に輪筋あり。最大径：25.2cm	1166
5	石製模造品	堆		-	-	-	-	-	-	双孔片板。重さ：2.2 g	203

図版288 S111501竈穴住居跡出土遺物 1



图版289 SI11501竖穴住居跡出土遺物2



No.	名称	層位	器物	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	分類	備考	登録
1	土師器・高杯	確認層	外面:ヨコナデ・ハラムミガキ 内面:ヨコナデ・ハラムミガキ	(20.2)	—	—	1/3	A	片断有残。胎土に海綿状針を含む	1169
2	土師器・小型壺	確認層	内外面:ヨコナデ・ナデ	(12.0)	—	—	一部	B	赤彩。胎土に海綿状針を含む	1171
3	土師器・大型壺	確認層	外面:[口] 赤任敷→ヨコナデ [胴] ハラムミガキ→ハラムミガキ 内面:ヨコナデ・ハラムミガキ	16.0	(5.4)	(24.0)	2/3	A	赤色。口縁部にモミ残	1170

図版290 SI1502竪穴住居跡出土遺物

遺構名	調査	平面形状	規模 東西×南北 (m)	方向/ 計測法	床	支柱			扉	付属施設	新旧関係	出土遺物	図版	
						数	材種・径/径	柱間穴					平面	断面
SI1501	確認	正方形	6.6 × 6.9	N-4° -W/ 東	割方埋土	4?	丸 /15cm	×	2/割方 割方?	×	SI1501→SI11602→ SI11601→SI11603→ SI3300・3302→ SI1537	[床] 土師器高杯・大型壺・大型甕、右製練 造品	263・ 286	286
SI1502	確認	正方形?	3.2 × 3.1	E-5° -S/北	—	—	—	—	—	—	SI1502→SI11607・ SI1593・SI1505・ 11518	[床] 土師器高杯・小型壺・大型甕	265	—
SI1503	床面直 で精査	正方形 or 長方 形	7.3 × 6.3	E-13° -N/北	割方埋土	4	丸 /15cm	×	4/割方 割方+ 割方?	貯蔵穴 2	SI1503→ SI1593・SI3300・ 11903・11905・ SI1518・11571→ SI1604	[床面] 土師器高杯・高杯・小型壺・大型壺・甕、 右製練造品・磁石・赤灰石、黒漆・割方 貯蔵穴] 土師器高杯・大型甕、右製練 造品・磁石 [床] 土師器高杯・高杯・小型壺・大型壺・大 型壺・小型甕・甕・大型甕、右製練造品・磁石・ 赤灰石、黒漆、不明製造品、割方	264・ 267	268

・建物全体の規模が不明なものは、数値に「?」を加えている

・(出土遺物) [床]: 遺構確認出土。[床]: 層検出土。[破]: 破片資料

表32 F区竪穴住居跡属性表

4. 土坑

土坑は4基確認した。これらの属性は表33にまとめている。

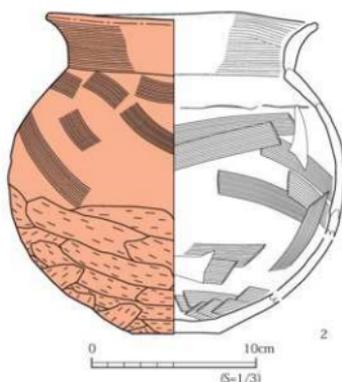
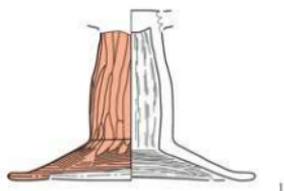
遺構名	調査	平面形状	断面形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋積土	新旧関係	出土遺物	図版	
										平面	断面
SK11505	平坑	不整形楕円形	浅いレンズ形	2.0	1.0	0.2	人為埋積	SI11502→SK11503→SK11505	[埋]土師器赤ロクロ弁・甕(破)、須恵器杯・甕(破)	264・265	—
SK11518	平坑	楕円形	浅いレンズ形	1.7	1.4	0.1	自然埋積	SI11502・11503→SK11518	[埋]土師器赤ロクロ弁・ロクロ弁・甕(破)、須恵器杯・弁・甕・甕(破)、石製模造品	264	—
SK11534	平坑	不整形楕円形	—	1.1*	1.0	—	—	SB11602→SK11534→SB11601	[埋]土師器甕(破)、須恵器杯(ヘラ切)、甕(破)	264	—
SK11571	確認	楕円形	—	1.4	1.3*	—	—	SI11503→SK11571→SB11604	[埋]土師器高弁・甕(破)	264	—

・縦横が不明なものは、数値に*を付している
 ・(出土遺物) [埋]:遺構確認面出土、[埋]:埋積土出土、(破):破片資料

表33 F区土坑属性表

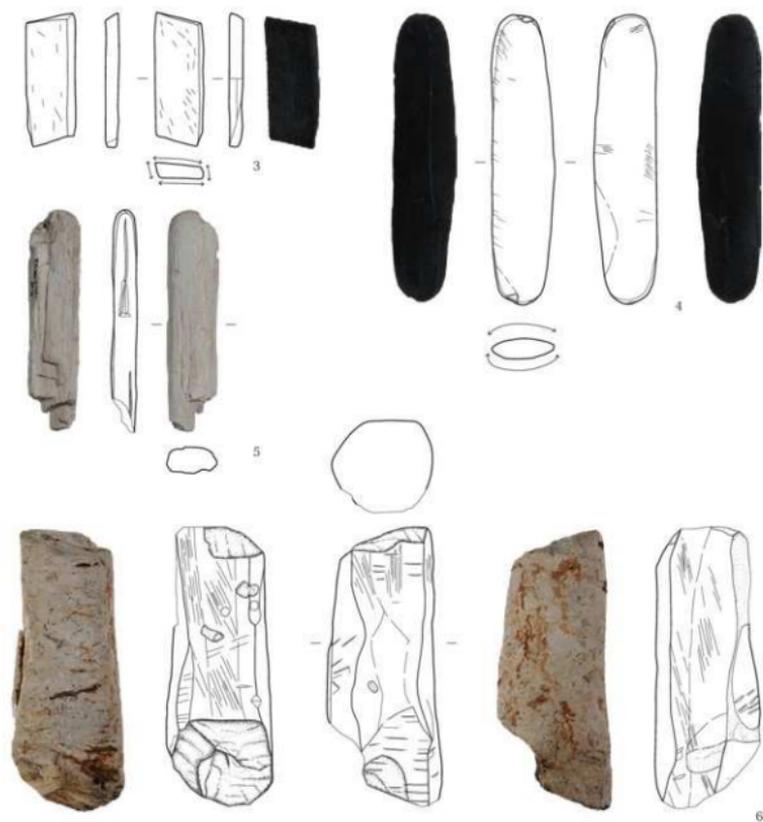
5. 遺構外出土遺物

F区の第I層～第III層(遺構確認面)から、土師器高弁(1)・小型甕(2)、砥石(3～6)などが出土した(図版291・292)。



No.	器種	層位	調査	口径(cm)	胴径(cm)	高さ(cm)	残存	分類	備考	図版
1	土師器・高弁	I～III層	外面:ヨコナデナデ・ヘラミガキ 内面:[脚]シボリ→ヨコナデ・ヘラミガキ [弁]ナデ	—	(13.0)	—	1/2	—	赤彩。腹部中空。胎土に海綿状鉄質を含有。胴径(5.0)cm	1173
2	土師器・小型甕	I～III層	外面:[口]ヨコナデ [胴]ナデ・ヘラミガキ 内面:[口]ヨコナデ [胴]ヘラミガキ	16.1	5.3	19.6	完形	A	赤彩。最大径:20.4cm。胎土に海綿状鉄質を含有	1174

図版291 F区遺構外出土遺物 1



No.	器種	層位	高輪 (cm)	短軸 (cm)	最厚 (cm)	重さ (g)	備考	登録
3	石製品・礫石	1～基層	8.2	3.0	0.8	41.0		2270
4	石製品・礫石	1～基層	17.7	3.8	1.3	171.0		2268
5	石製品・礫石	1～基層	13.6	3.1	1.5	66.0	珪化木	2269
6	石製品・礫石	1～基層	16.9	6.5	5.7	791.0		2273

図版292 F区遺構外出土遺物 2

0 10cm
(5=1/3)

第Ⅶ章 G 区



G区全景（東から）



G区作業風景（北西から）



図版293 G区全体圖

G区では道路跡1条、区画溝跡6条（掘直しを含む）、堀跡1条、溝跡11条、材木堀跡1条、掘立柱堀跡1条、掘立柱建物跡14棟、竪穴住居跡3棟、井戸跡4基、土坑17基、畑跡などを確認した（図版293）。本区は、橋脚DP84～85、PD2・PD3の建設部分が本発掘調査の対象であり、他は確認調査にとどめ、必要に応じて断ち割りを行っている。なお、個別記載を行った遺構の説明で〔重複〕の（古）・（新）は、記載している遺構に対しての前後関係を表している。

1. 区画施設跡

材木堀跡1条、掘立柱堀跡1条、区画溝跡6条（掘直しを含む）、堀跡1条を確認した。

〈堀跡〉

【SA3158 材木堀跡】（図版294・295・319）

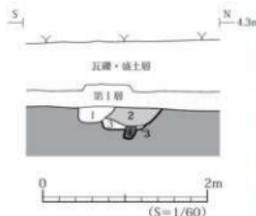
調査区南部で確認した、布掘り掘方の中に材木を立て並べた東西方向の材木堀跡である。西側の多賀城市第21・24次調査SA5636と同一遺構である。本遺構の南には6m離れてSD11011区画溝跡が並行する。今回の検出長は14.2mで、前回検出した分とSA5636を含めると東西81.2mになる。方向はE-21°-Nである。また、SA3158は多賀城市第12次調査の南北方向のSA5226と一体となってL字状の区画施設を構成したと指摘しており、本遺構は南辺、SA5226は西辺にあたる（宮城県教委1996・2009）。

〔重複〕（新）SD11007A・B、SD11008・11009・11022

〔掘方〕上幅0.3～0.4mで、深さは0.3mである。断面は逆台形である。埋土は地山ブロックを含むにぶい黄褐色砂質シルトである。

〔材痕跡〕直径0.2mほどの円形もしくは楕円形で、溝状の抜取穴が作う。材痕跡の間隔は、0.1～0.4m

調査区西壁断面
平面図：図版319



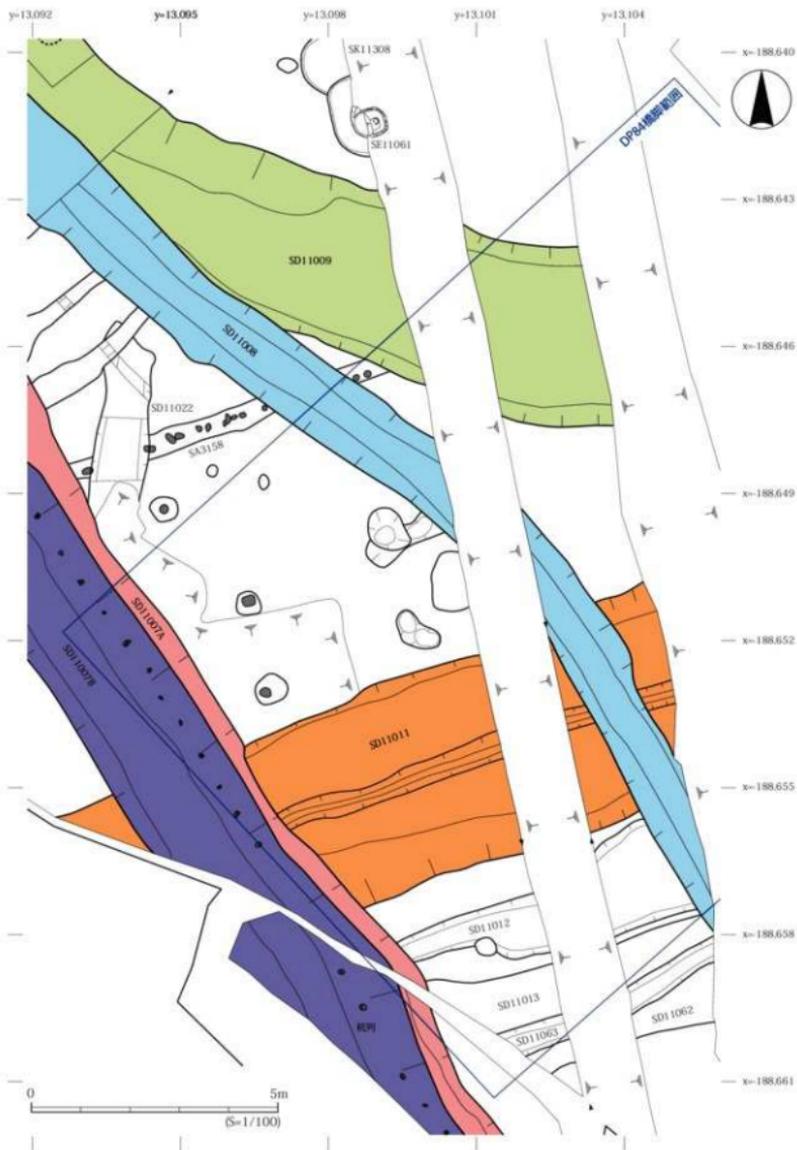
SA3158 断面（東から）



SA3158(東から)

遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
Pw	1	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト		掘方埋土
	2	黒褐色 (10YR3/3)	砂質シルト		後述の埋土
SA3158	3	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	砂質シルト	地山ブロック含む	掘方埋土
	4	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		材痕跡

図版294 SA3158材木堀跡



(G区の図部は図版293を参照)

図版295 G区平面図1

である。

〔出土遺物〕なし。

【SA11170掘立柱塼跡】(図版296・297・298)

調査区北西部で確認した、布掘り掘方の底面に一定間隔で支柱の掘方が伴う南北方向の掘立柱塼跡である。支柱の間隔は2.5～3.0mである。総長は17.1mで、方向はN-15°-Eである。本塼の東側には3.2m離れてSD11164区画溝跡が並行する。さらに、本塼の西側には同時期の竪穴住居群があることから、SA11170とSD11164は区画施設の東辺を構成すると考えられる。なお、本塼の南北への延びについては、北側はSD11164がD区まで延びるが、多賀城市調査F区やD区では確認していない。南側についても多賀城市第21・24次調査で確認していない。

〔重複〕(新) SI11166、SD11085・11086・11171、SX700

〔掘方〕布掘り掘方は上幅0.5～0.7m・下幅0.3～0.5mで、深さは0.5m前後である。断面は箱形で上部に溝状の抜き穴が認められる。埋土は地山ブロックを含むにぶい黄褐色・オリーブ灰色のシルトである。埋土はオリーブ灰色シルト質砂である。塼材はすべて抜き取られている。また、掘方埋土は支柱と布掘りで異なることから、支柱を立てて埋め戻した後、塼材を布掘りに据えたと考えられる。

〔支柱〕布掘り掘方底面で、支柱の掘方を7基(P1～P7)確認した。支柱はP3・P4が近接するほかは、2.6～3.0mの間隔で立てられている。隣り合うP3・P4は、部分的な補修と考えられる。支柱の掘方は平面形が楕円形で、径は0.4～0.6m、深さは最も深いもので0.7mである。

支柱は、すべての柱穴で遺存していた(図版297・300)。直径0.1～0.2mの円形・楕円形で、心持ち材(10)と分割材(8・9・11～14)の双方が認められる。また、それらの上部には切取痕があるため、支柱は塼材の抜き取り時に下端を残して抜き取られたと考えられる。

〔塼構造〕支柱には心持ち材と分割材があり、直径0.1～0.2mと細いこと、側面に横板を落とし込む溝がないことから、支柱間に渡した横材で縦板を押さえた縦板塼と考えられる。

〔出土遺物〕(図版299)

塼材抜き穴から土師器高坏(3)、小型壺(4・5)、小型甕(7)、大型壺(6)、羽口(2)、炉底(1)などが出土している。このうち、炉底は鉄滓の下に本体の粘土が付着している。羽口は高坏の脚部を転用しており、脚部上端がガラス化して鉄滓が溶着している。



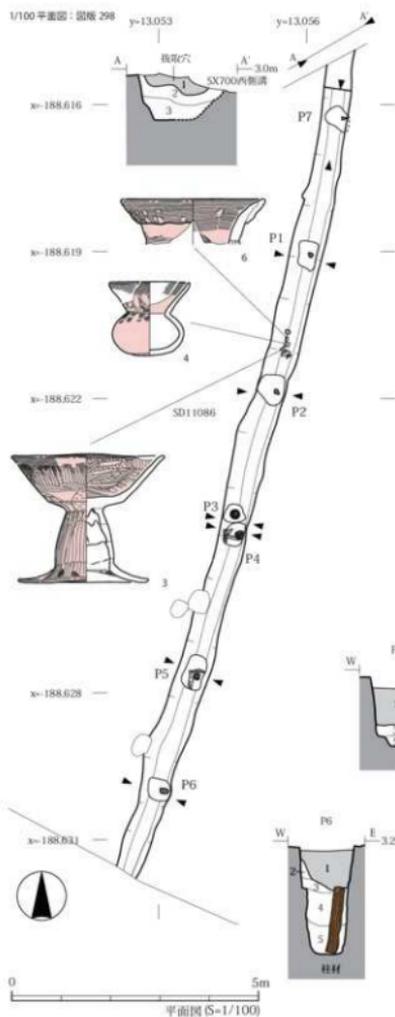
SA11170 抜き穴遺物出土状況(東から)



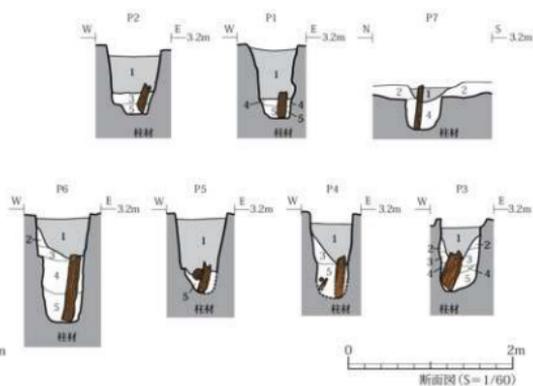
SA11170-P7 断面(西から)

図版296 SA11170掘立柱塼跡1

1/100 平面図：図版 298

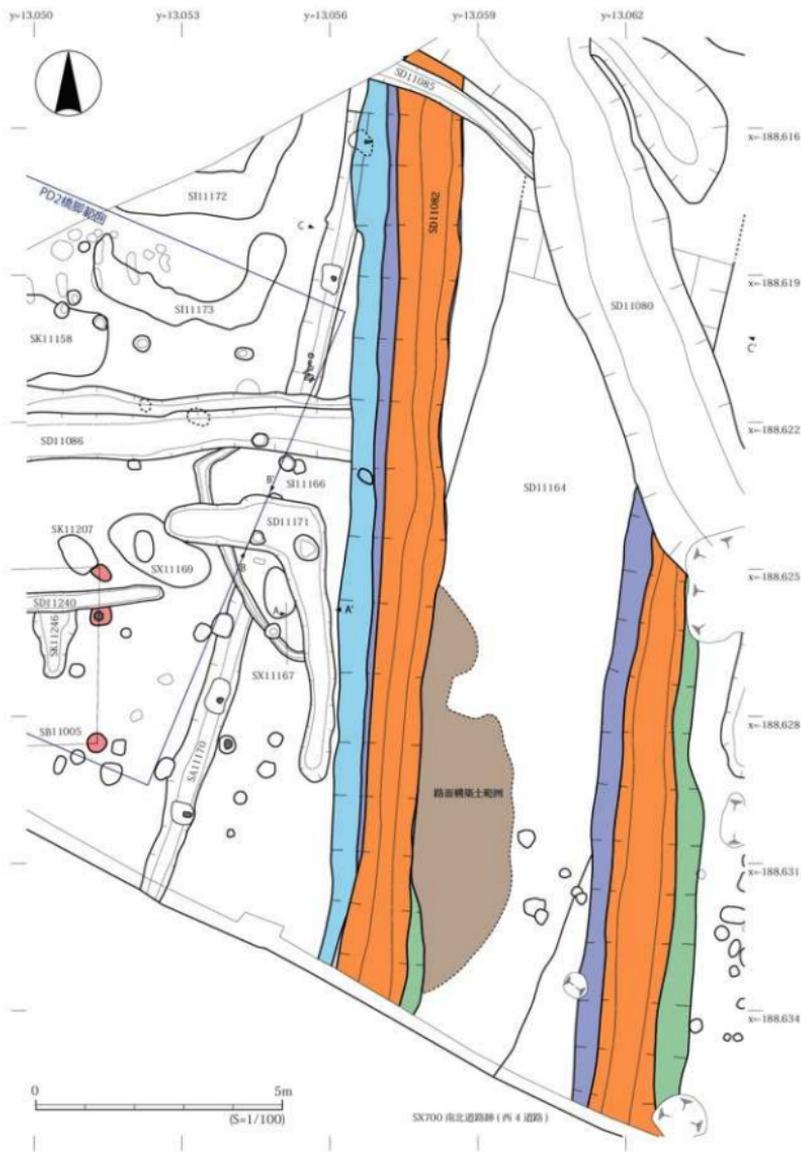


SA11170 全景 (南から)



層位	土色	土性	遺人物など	備考
1	オリーブ灰色 (5GY5/1)	シルト質砂		掘取穴
2	にじみ黄褐色 (10YR5/3)	砂質シルト	物山砂を多く含む。炭化物を少し含む	布張り版方埋土
3	オリーブ灰色 (5GY5/1)	シルト質砂	炭化物を少し含む	
4	オリーブ灰色 (5GY5/1)	シルト質砂		支柱側方埋土
5	オリーブ灰色 (5GY5/1)	砂		

図版297 SA11170掘立柱墳跡2



図版298 G区平面図2



No.	名称	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	分割	備考	登録
1	小皿	表取穴		—	—	—	一部	—		995
2	土師器・羽口	表取穴	外面：ヨコナデ・ハラクズリ 内面：ヨコナデ	—	—	—	一部	—	赤彩、高环部を転用、鉄高着	312
3	土師器・高杯	表取穴	外面：ヨコナデ・ハラクズリ・ヘラミガキ 内面：[杯] ヨコナデ・ヘラミガキ [脚] ハケメ・ヨコナデ	(18.2)	(15.8)	(15.7)	2/3	A2	赤彩、脚部中央、脚径：7.1cm	308
4	土師器・小型壺	表取穴	外面：ヨコナデ・ナデ・オサエ 内面：ヨコナデ	(8.8)	—	9.0	完形	A	赤彩	310
5	土師器・小型壺	表取穴	外面：[口] ヨコナデ [脚] ナデ [底] ヘラクズリ 内面：ヨコナデ・ナデ	5.6	—	—	1/2	A		998
6	土師器・大型壺	表取穴	外面：ヨコナデ・オサエ・ヘラミガキ 内面：ヨコナデ・ナデ	(17.0)	—	—	一部	A	赤彩、二重口縁	999
7	土師器・小型壺	表取穴	外面：ハケメ・ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ 内面：ヨコナデ・ハラクズリ・ナデ	(15.0)	—	—	一部	A	赤彩	1000

図版299 SA11170掘立柱罫跡出土遺物



No.	種類	位置	奥軸 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	径 (cm)	残存	備考	登録
8	支柱	P1	35.1	9.7	—	9.1	一部	断面：ケズリ 上面：切取面	2680
9	支柱	P2	36.0	12.1	—	9.0	一部	断面：ケズリ 上面：切取面	2681
10	支柱	P3	51.2	16.5	—	15.7	一部	断面：ケズリ 上面：切取面	2682
11	支柱	P6	79.0	14.7	7.7	—	一部	断面：ケズリ 上面：切取面	2634
12	支柱	P7	54.8	13.4	7.2	—	一部	断面：ケズリ 上面：切取面	2689
13	支柱	P4	49.0	13.5	—	11.6	一部	断面：ケズリ 上面：切取面	2683
14	支柱	P5	41.7	13.8	—	13.8	一部	断面：ケズリ 上面：切取面	2686

図版300 SA11170掘立柱塚跡出土柱材

〈区画溝跡〉

【SD11011区画溝跡】(図版293・295・301)

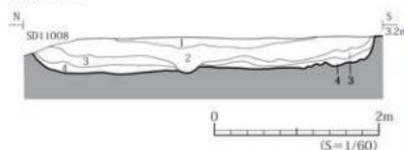
調査区南部で確認した東西溝跡である。西側の多賀城市第21・24次調査で確認したSD5633、東側の宮城県教委平成5・6年度調査で確認したSD3014と同一遺構である。本溝の北には6m離れてSA3158材木堀跡が並行する。今回の検出長は8.3mで、SD5633・SD3014を含めると80m以上になる。方向はE-21°-Nである。また、SD11011は多賀城市第21・24次調査区の西側で南北溝のSD180に繋がり、SA3158、SA5636材木堀と一体となってL字状の区画施設を構成しており、その南辺にあたる(宮城県教委1997・2009)。

また、本溝の壁面で基本層位第IV層に含まれる灰白色シルトが認められたことから、火山灰の可能性を考えて分析を依頼した結果、複数のテフラに由来するテフラの2次堆積の可能性が指摘されている(試料4、第XIII章第1節)。

〔重複〕(新) SD11007A・B、SD11008

〔規模・堆積土〕上幅4.2m・下幅3.7mで、深さは0.4mである。断面形は浅い皿形で、中央部分が

平面図：図版 295

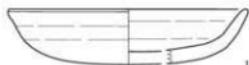


層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	シルト	炭化物を少し含む	自然堆積土
2	褐色(10YR4/1)	シルト	炭化物を少し含む	
3	灰黄褐色(10YR5/2)	砂質シルト		
4	灰黄褐色(10YR6/2)	砂質シルト	燧石・アモナイトを多く含む	



SD11011 断面(西から)

図版301 SD11011区画溝跡



1



2



No.	名称	層位	調整	口径(cm)	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	備考	登録
1	浅鉢部・坪	坪	内外面：ロクロナデ 底部：楕圓により調整不明	(14.4)	—	(3.3)	1/3	胎土に海陸性砂を含む	1164
2	土師部・坪	坪	外面：ロクロナデ 底面：ヘラケズリ 内面：ヘラミナキ→栗色処理	(15.2)	—	3.9	1/3	有段	1163

図版302 SD11011区画溝跡出土遺物

凹む。堆積土は黒褐色・灰黄褐色・褐灰色などのシルトで、自然堆積である。

〔出土遺物〕(図版302)

堆積土から非口クロ調整の土師器環(2)・甕、須恵器環(1)・甕が出土した。須恵器環は胎土に海綿骨針を含む。

【SD11007A・B区画溝跡】(図版295・303・304・317～319)

調査区中央を縦断する南北溝跡で、2時期ある(A→B)。本溝は北に延びてD区のSD7007、平成4年の県道調査I区のSD2230に繋がる。当調査区での検出長は66.8mで、SD2230・7007を含めると205.8m以上になる。G区北端で「く」字状に東へ屈曲する。方向は、屈曲部より北側がN-18°-W、南側はN-49°-Wである。B期は、両岸に護岸用の杭列が施され、北側の西岸を中心にD区で確認したSX7010洪水堆積層が認められる。

SD2230・7007・11007のうち、SD2230は「北の屋敷跡」に伴う堀跡と報告した(宮城県教委1994・2009)。一方、SD11007について昭和24年(1949)の米軍撮影航空写真と照合したところ、圃場整備以前の砂押川へつながる農業用水路として機能した溝であることが判明したこと、堆積土出土遺物に近世のものが多く含まれることから、SD2230・7007・11007は近世以降の区画溝跡と考えられる。

〔重複〕(古)SA3158、SB11065・11066・11067、SD11011・11012・11013・11022・11164A・B、SK11014、SX700

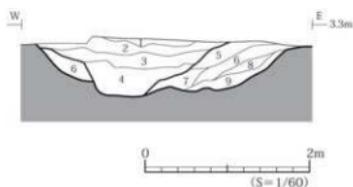
〔規模・堆積土〕B期は上幅2.4m・下幅0.5m・深さ0.7mで、断面は逆台形である。堆積土は地山ブロックを含む灰黄褐色・褐灰色などの粘土質シルト～シルトで、自然堆積ののち埋め戻されている。

A期は上幅0.9m以上・下幅0.8m以上・深さ0.6mで、断面は椀形である。堆積土は褐灰色・黒褐色などの粘土質シルト～シルトで、自然堆積である。

〔出土遺物〕(図版305～308)

A期堆積土から土師器環・高環・甕、須恵器環(1)・壺蓋(2)・長頸壺・転用砥(4)・円盤(3)、土玉(5)、瓦転用砥(6)、丸瓦・平瓦、鉄滓などが出土した。

B期溝跡底面からは陶器折縁皿(14)、堆積土から染付磁器蕎麦猪口(8)・碗(9・10)、陶器腰折碗(12)・皿・壺(17)・鉢(19・23)・片口鉢(22)・播鉢(16)・甕(11・20・21)・焙烙、青磁碗(7)、灰軸陶器碗(13)、土師器、須恵器、土鍾(15)、方割石(18)、銭貨(24～26)、漆器椀(27・29)・盃(28)・箸(30)、木製品白木椀・杓文字(31)・柄杓(32～34)・木鍾(35)・槽・曲物・自在鉤(36)・部材(37・38)・連歯下駄(40)・戸車などが出土した。このほか、確認面から連歯下駄(39)などが出土している。



SD11007 断面 (南から)

遺構名	層位	土色	土性	遺人物など	備考
SD11007B	1	灰褐色 (10YR4/2)	シルト	地山ブロックを少し含む。炭化物をわずかに含む	人為堆積土
	2	褐色 (7.5YR4/1)	シルト	礫・炭化物をわずかに含む	
	3	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	砂をブロック状に少し含む	自然堆積土
	4	褐色 (10YR4/1)	シルト質粘土	地山ブロックをわずかに含む	
SD11007A	5	褐色 (10YR5/1)	シルト	砂を少し含む。炭化物をわずかに含む	自然堆積土
	6	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	炭化物をわずかに含む	
	7	黒褐色 (10YR3/1)	粘土	炭化物・砂をわずかに含む	
	8	褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト	炭化物・砂をわずかに含む	
	9	褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト	砂を少し含む。炭化物をわずかに含む	

図版303 SD11007A・B区画溝跡



図版304 G区北西部全景(南東から) 手前がSD11007A・B区画溝跡



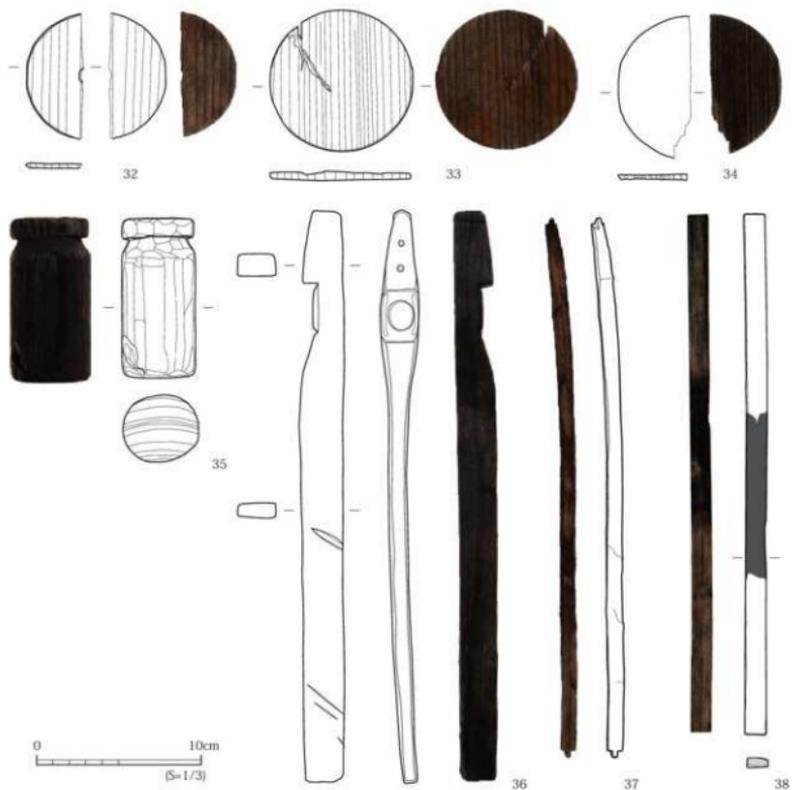
No.	品種	出土遺構	層位	形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	須恵器・杯	SD11007A	埋	内外面: ロクロナデ 底部: 目取糸切り	—	(6.2)	(0.8)	一部	底面に書画「」上。胎土に海綿状針を含む	1063
2	須恵器・豆鉢	SD11007A	埋	内外面: ロクロナデ	—	—	(2.6)	一部	大口足の器体欠損。直径 2.1cm	1064
3	須恵器・平鉢	SD11007A	埋	—	—	—	—	一部	大口足の器体欠損。直径 2.1cm	1061
4	須恵器・転写鉢	SD11007A	埋	外面: 平行タタキ 内面: 同心円状アナタ具	—	—	—	一部	器内底。器体用	1065
5	土製局・土玉	SD11007A	埋	縦化著しく調物不明	—	—	2.2	完形	口径: 2.6cm 孔径: 0.6~1.2cm	217
6	瓦・転写紙	SD11007A	埋	外面: ナデ・布目 内面: 縦骨直→布目→ナデ 輪巻き作り	—	—	—	一部	多割破分断。平瓦 1 A 輪巻転写。胎土に海綿状針を含む	1066
7	青磁・碗	SD11007B	埋	内外面: ロクロナデ→輪軸 (青磁輪)	—	—	—	一部	中国産	1021
8	磁器・高直鉢	SD11007B	埋	内外面: ロクロナデ→染付→輪軸 (透明輪) 底部: 染の目直付	(7.6)	(6.2)	5.9	1/3	肥前産・物産定	1008
9	磁器・碗	SD11007B	埋	内外面: ロクロナデ→染付→輪軸 (透明輪) 底部: 染り直付	(7.8)	(3.4)	4.9	1/2	瀬戸式遺産 (10 世紀)	1002
10	磁器・碗	SD11007B	埋	内外面: ロクロナデ→染付→輪軸 (透明輪) 底部: 染り直付	(8.0)	(3.4)	5.4	1/2	—	1001
11	陶器・甕	SD11007B	埋	内外面: ロクロナデ→輪軸 (灰輪)	—	—	—	一部	—	1019
12	陶器・腰形甕	SD11007B	埋	内外面: ロクロナデ→輪軸 (灰輪)	—	—	—	一部	大塚相馬産	1016
13	灰輪陶器・甕	SD11007B	埋	内面: ロクロナデ 底部: 目取ヘラズリ→高直骨付→ナデ	—	—	—	一部	脇投産。K30 窯式別	1094
14	陶器・高直鉢	SD11007B	埋	内外面: ロクロナデ→輪軸 底部: 染り直付	(10.4)	(5.6)	2.1	1/2	瀬戸式遺産 (16 世紀)	1093
15	土製局・土罨	SD11007B	埋	内外面: ナデ	8.0	3.4	3.4	完形	孔径: 1.1cm	1029
16	陶器・扇鉢	SD11007B	埋	内外面: ロクロナデ→輪軸 (灰輪)	—	—	—	一部	—	1017
17	陶器・壺	SD11007B	埋	内外面: ロクロナデ→輪軸 (灰輪)	—	—	—	一部	古瀬戸	1022
18	石製品・方筒	SD11007B	埋	—	—	幅 6.7cm	2.6	—	重さ 252.0g	1034

図版305 SD11007A・B区画跡跡出土遺物 1



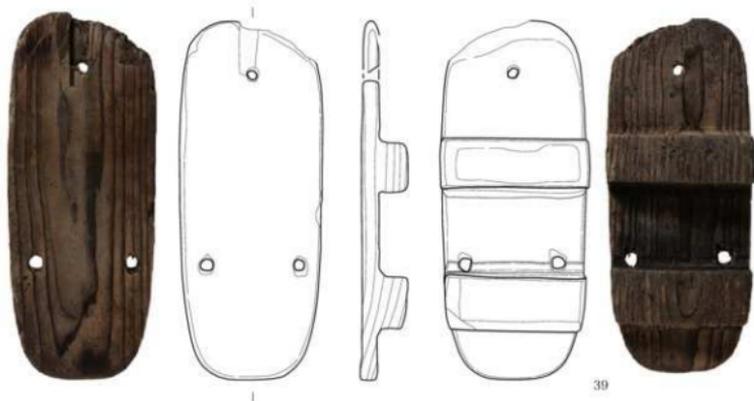
No.	名称	出土遺跡	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
19	陶器・鉢	SD11007B	埋	内外面: ロケロナデ・胎輪	—	—	(5.5)	一部		1069
20	陶器・鉢	SD11007B	埋	内外面: ナデ	—	—	—	一部	胎輪産	1072
21	陶器・鉢	SD11007B	埋	—	—	—	—	一部	胎輪産	1073
22	陶器・片立鉢	SD11007B	埋	ロケロナデ・中胎ヘラケズリ→ケズリ出し高付・胎輪	(14.8)	(8.6)	7.85	1/2		1086
23	陶器・鉢	SD11007B	埋	—	(20.6)	—	—	一部	胎輪	1087
24	銅貨	SD11007B	埋	—	—	—	—	—	定刻 天元感定	1089
25	銅貨	SD11007B	埋	—	—	—	—	—	定刻 寶永感定 (新寶永)	1090
26	銅貨	SD11007B	埋	—	—	—	—	—	定刻 寶永感定 (新寶永)	1091
27	漆器・碗	SD11007B	埋	内外面: 赤漆	(9.6)	(5.3)	—	2/3	高付裏に蓋「口」	2568
28	漆器・盆	SD11007B	下埋	外面: 黒漆 内面: 赤漆	10.8	4.8	3.3	定輪		2567
29	漆器・碗	SD11007B	埋	外面: 黒漆 内面: 赤漆	(11.8)	(6.2)	—	1/3		2570
30	漆器・箸	SD11007B	埋	赤漆	—	—	—	1/2	長さ: 17.6 幅: 0.6 厚さ: 0.6cm	2565
31	木製品・杵文子	SD11007B	埋	—	—	—	3/4	長さ: 23.4 厚さ: 0.6cm		2660

図版306 SD11007A・B区画溝跡出土遺物 2

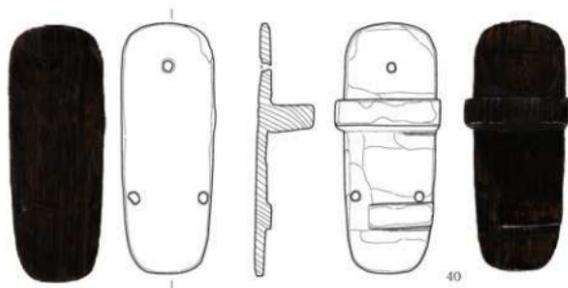


No.	器種	出土遺構	層位	長軸 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	径 (cm)	残存	備考	登録
32	本製品・柄杓	SD11007B	地	—	3.5	0.3	7.7	—	底板	2649
33	本製品・柄杓	SD11007B	地	—	8.7	0.6	8.7	—	底板	2642
34	本製品・柄杓	SD11007B	地	—	4.1	0.3	8.6	—	底板	2644
35	本製品・木罎	SD11007B	地	9.7	4.6	—	4.1	—	完形	2661
36	本製品・自在脚	SD11007B	地	35.0	2.1	1.4	—	—	—	2658
37	本製品・芯材	SD11007B	地	33.0	5.0	1.0	—	—	—	2693
38	本製品・芯材	SD11007B	地	63.8	2.5	1.2	—	—	又久付着	2652

図版307 SD11007A・B区画溝跡出土遺物 3



39



40

0 10cm
(S-1/3)



39



40

No.	器種	出土遺構	層位	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	残存	備考	登録
39	木製品・下駄 (漆面)	SD11007B	縁芯地	21.8	8.8	1.1	—	面の厚さ：2.7cm	2054
40	木製品・下駄 (漆面)	SD11007B	下層	15.3	5.6	0.8	—	面の厚さ：3.0cm	2066

図版308 SD11007A・B区画溝跡出土遺物 4

【SD11008区画溝跡】 (図版295・310・317～320)

調査区中央を縦断する南北溝跡で、検出長は51.9mである。緩やかに蛇行しており、方向は調査区北側がN-33°-W前後、中央から南側はN-42°-W前後である。このSD11008は永楽通宝が出土したSD3181・SD3150と一連のSD11009堀跡より新しい。

〔重複〕(古) SA3158、SB11065・11066・11067、SD11009・11011・11012・11013・11063、SE11016

〔規模・堆積土〕上幅1.7m・下幅0.6m・深さ0.4mで、断面はレンズ形である。堆積土は褐灰色・灰黄褐色などの砂質シルトで、上層が人為堆積、下層が自然堆積である。

〔出土遺物〕(図版309)

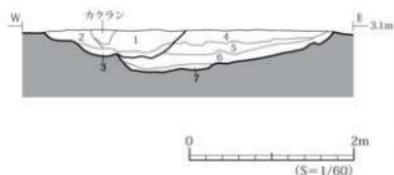
堆積土上層から土師器環・甕、須恵器環・高台杯・長頸壺・甕、平瓦・丸瓦、砥石、鉄滓などが出土した。下層からは土師器甕、須恵器杯(1・2)・平瓶(3)・長頸壺(4)・壺(6)、瓦転用甕(5)などが出土した。須恵器平瓶は湖西産、長頸壺は大戸産である。



No.	器種	層位	形状	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
1	須恵器・杯	下層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(13.4)	(7.0)	3.7	一部		1045
2	須恵器・杯	下層	内外面：ロクロナデ 底部：別紙承切り	(15.0)	(7.8)	3.4	1/3	底部ヘラ掻き「X」	1044
3	須恵器・平瓶	下層	内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	湖西産、三段接合	1048
4	須恵器・長頸壺	下層	外面：ロクロナデ→半転ヘラケズリ→高台彫付 内面：ロクロナデ 底部：ナデ	—	7.7	—	一部	大戸産、環形段台の痕跡	1053
5	瓦・転用甕	下層	外面：ナデ→布目 内面：布目→ナデ 輪巻き作り	—	—	—	一部	多数破片類：平瓦1A瓶を転用	1054
6	須恵器・壺	下層	外面：ロクロナデ→縞線状文・沈線 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部		1047

図版309 SD11008区画溝跡出土遺物

平面図：図版 295

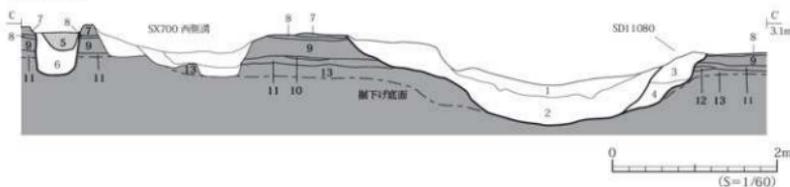


SD11008・11009断面(南から)

遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SD11008	1	灰褐色 (10YR4/1)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む。炭化物を少し含む	人為堆積土
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	炭化物・地山ブロックを少し含む	自然堆積土
	3	灰褐色 (10YR4/1)	シルト質砂		
SD11009	4	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト質砂	炭化物・地山ブロックを少し含む	自然堆積土
	5	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	炭化物・地山ブロックを少し含む	人為堆積土
	6	灰褐色 (10YR4/1)	シルト質砂	炭化物・地山ブロックを少し含む	
	7	灰褐色 (10YR6/1)	シルト質砂		自然堆積土

図版310 SD11008区画溝跡、SD11009堀跡

平面図：図版 298



遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SD11164B	1	オリーブ灰色 (5GY5/1)	シルト-砂	下部に未分解腐植物あり	自然堆積土
	2	灰色 (N5/1)	砂質シルト	灰・砂を含む。炭化物を少し含む	
SD11164A	3	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	シルト	炭化物を少し含む	掘穴
	4	オリーブ灰色 (5GY5/1)	シルト	炭化物をわずかに含む	
SA11170	5	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	砂質シルト	地山砂を多く含む。炭化物を少し含む	布張り版方埋土
	6	オリーブ灰色 (5GY5/1)	シルト質砂	灰白色シルトを少し含む。炭化物を少し含む	
	7	灰黄褐色 (10YR6/2)	シルト		
	8	灰白色 (10YR8/1)	シルト	テフラ? 分析結果は第XⅢ章第1節	
	9	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	シルト		
	10	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	粘土		
	11	灰褐色 (10YR5/1)	シルト	M跡の下部に堆積するやや暗い層	
	12	灰黄褐色 (10YR6/2)	シルト		
	13	灰黄褐色 (10YR6/2)	シルト-砂		



SD11164 断面(北東から)



G区北西部全景(南から)

図版311 SD11164区画溝跡

【SD11164A・B区画溝跡】(図版298・311)

調査区北西部で確認した南北溝跡で、2時期ある(A→B)。北はD区南端部まで延びる。G区の検出長は17.2mで、D区を含めると総長は72m以上になる。方向はG区でN-15°-E、D区はN-7°-Wである。D区のSD11164の北側には、同時期のSD777河川跡があることから、本溝は河川に接続したと考えられる(3分冊、図版691)。一方、南側については多賀城市第21・24次調査区で確認していないが、さらに南へ延びたと考えられる。

SD11164の西には、3.2m離れてSA11170掘立柱塼跡が並行する。その西には同時期の竪穴住居群があることから、SD11164とSA11170は一体の区画施設で、東辺を構成していたと考えられる。

〔重複〕(新) SD11080・11085、SX700・7010 (SX11007B洪水層)

〔規模・堆積土〕B期は上幅3.8m・下幅1.6m・深さ1.1mで、断面は逆台形である。堆積土はオリブ灰色・灰色などのシルト～砂である。A期は上幅0.9m以上・下幅0.5m以上で、深さは最も深いところで0.8mである。堆積土にはふい黄褐色・オリブ灰色の砂質シルトやシルト質砂である。

〔出土遺物〕(図版312)

堆積土から土師器高坏・大型甕もしくは壺(2)、石製品模造品(1)、木製品部材などが出土した。

◀堀跡

【SD11009堀跡】(図版295・310・318～320)

調査区東部で確認した堀跡で、検出長は20.4mである(註1)。宮城県教委平成5・6年度調査の中世屋敷「伏石地区の屋敷跡」の堀跡(SD3181・SD3150)と同一で、その西辺にあたる。方向は、南北がN-13°-E前後である。屋敷跡は方形を基調とするが、南西コーナー付近は隅丸である。

〔重複〕(古) SA3158 (新) SD11008

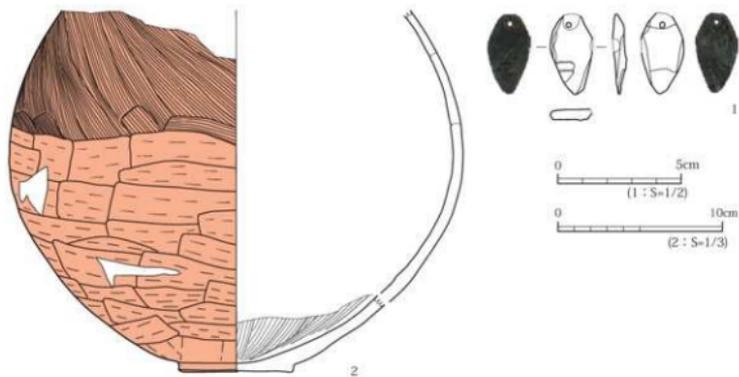
〔規模・堆積土〕上幅3.6m、下幅2.8m、深さ0.5mで、断面はレンズ形である。堆積土は地山ブロック・炭化物を含む灰黄褐色・褐灰色などの砂質シルトで、上層が人為堆積土、下層が自然堆積土である。同一遺構で、堀の南辺にあたるSD3150は上部が開いたU字形で深さ0.6～1.2m、北辺のSD3181は皿形で深さ0.7mであり(宮城県教委1997)、堀の南辺が最も深い。

〔出土遺物〕(図版313)

堆積土から漆器椀(7・8)、漆裂櫛(6)、木製箸(5)などのほか、土師器環・甕・壺、須恵器環(1・2)・高台坏・壺・甕(4)・鉢、転用砥(3)、石製紡錘車(10)、砥石(11)、石製模造品(9)、丸瓦・平瓦、炉底、鉄滓などが出土した。

註

註1 中世の溝跡のうち、幅が3mを超えるものは堀と呼んでいる。



No.	器種	層位	図章	口径 (cm)	胴径 (cm)	器高 (cm)	残存	分類	備考	登録
1	石製模造品	墳		—	—	—	定形	—	胴径、幅：1.8cm 重さ：3.4g	211
2	土師器 + 大型甕 or 甕	墳	内外面：ヘラナデ→ヘラケズリ	—	7.0	—	1/2	—	赤彩、胴大径：(27.6cm)、甕土に海綿状針孔 含む。底部内面に炭化物付着	1161

図版312 SD11164区画溝跡出土遺物



No.	器種	部位	調整	口径 (cm) 底径 (cm) 高さ (cm)	残存	備考	登録
1	須恵器・杯	壁	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り→ナデ	(13.0) (7.2) 3.7	1/3		1037
2	須恵器・杯	壁	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り→ナデ	— 8.2 —	一部	底面にヘラ書き「×」	1040
3	須恵器・私用碗	壁	外面：ロクロナデ→ナデ→平行タタキ 内面：ロクロナデ 一縦方向にヘラ書き・ナデ、同心円アノ具	— — —	一部	竪軸用	1035
4	須恵器・盤	壁	外面：ロクロナデ→ナデ 内面：無文アノ具→ナデ	— — —	一部	筋土に海綿付針を含む	1036
5	木製品・箸	壁		— — —	一部	径：0.6cm	2675
6	漆製品・櫛	壁	外面：赤漆	— — —	一部	幅：△3.8cm 高さ：4.2cm 歯の数：9本	2673
7	漆器・椀	壁	外面：赤漆 内面：無漆	(4.3) — 11.4	2/3		2671
8	漆器・椀	壁	内外面：無漆	(5.0) 4.2 10.0	完整		2672
9	石製押込品	土層		— — —	完整	網距、幅1.6cm 重さ：3.6g	1043
10	石製局・防蹠車	壁		— — —	完整	径4.1cm 重さ：50.1g	1041
11	石製局・砥石	壁		— — —	—	幅2.9cm 重さ：26.7g	1042

図版313 SD11009堀跡出土遺物

2. 溝跡

溝跡は11条確認した。主な出土遺物は図版315に示している。すべての溝跡の属性は表34にまとめた。

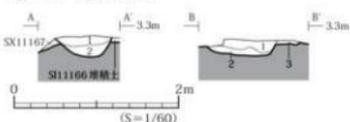
SD11012・11013・11063・11062 平面図:図版 295



SD11086 平面図:図版 321



SD11171 平面図:図版 296



SD11080 平面図:図版 293



遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SD11012	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山小ブロックをやや多く含む	
SD11063	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	灰白色火山灰・炭化物を少し含む	自然埋積土
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化物を少し含む。地山砂をブロック状に含む	自然埋積土
SD11013	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	地山ブロックをやや多く含む	人為埋積土
SD11062	5	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化物をごく少量含む。2層より細かい	自然埋積土
	6	灰黄褐色 (10YR5/2)	砂質シルト	地山ブロックをやや多く含む	
SD11086	1	褐色 (10YR4/1)	シルト	炭化物・灰白色火山灰を少し含む	
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化物・地山ブロックを少し含む	
	3	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	シルト	地山ブロックを多く含む。炭化物を少し含む	
SD11171	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化物・地山砂を少し含む	自然埋積土
	2	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む。炭化物をごく少量含む	人為埋積土
	3	褐色 (10YR3/3)	シルト	炭化物・地山ブロックを少し含む	
SD11080	1	褐色 (10YR4/1)	シルト	炭化物・砂を少し含む	自然埋積土
	2	褐色 (10YR6/1)	シルト	炭化物を少し含む。地山砂をブロック状に含む	人為埋積土
	3	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	地山砂を多く含む	



SD11012 断面 (西から)



SD11013・11062・11063 断面 (西から)

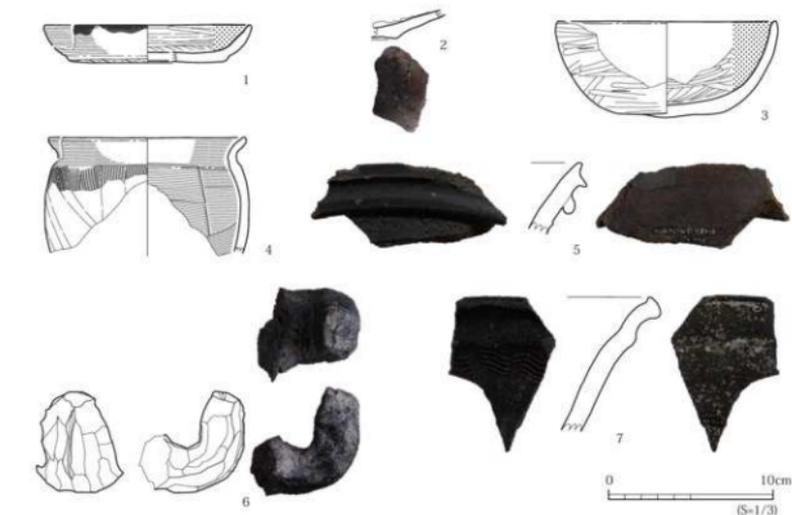


SD11171 断面 (北から)



SD11080 断面 (南から)

図版314 G区溝跡



No.	器種	出土遺構	層位	装璜	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・杯	SD11086		外面：ヨコナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底面：ヘラケズリ	(12.4)	(9.6)	2.3	1/3	口縁部に油障け付着物、胎土に海貝殻片を含む	1149
2	土師器・皿	SD11086			—	—	—	一部	内面に黒煙痕	1152
3	土師器・碗	SD11012	壇	外面：[口]ヨコナデ→ヘラミガキ [底]ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヨコナデ→ヘラミガキ→黒色処理	(13.2)	(6.0)	5.8	1/3	胎土に海貝殻片を含む	1162
4	土師器・小笠	SD11086		外面：ヨコナデ→ハケメ→ナデ 内面：ヘラナデ	(11.8)	—	—	一部		1150
5	須恵器・甕	SD11080	土層	外面：ロウロナデ→横線状文 内面：オキメ→ロウロナデ	—	—	—	一部	把手のみ	1160
6	須恵器・甕	SD11086	層	内外面：ナデ	—	—	—	一部		1154
7	須恵器・甕	SD11080		外面：ロウロナデ→横線状文 内面：ロウロナデ	—	—	—	一部	口縁下に鉄帯、筈11001(974・975)と同一体	1159

図版315 G区溝跡出土遺物

遺構名	調査	検出長 (m)	断面形状	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	方向	堆積土	前記関係	出土遺物	図番 平面 断面	
SD11007	完掘	66.8	A: 楕円形 B: 逆台形	A: 0.9 B: 2.4	A: 0.8 B: 0.5	A: 0.6 B: 0.7	N-18~49 -W	A: 自然堆積 B: 自然堆積 →人為堆積	SD11164→SA3158- SD11011・SX700・ SD11065・11090・ 11067・SK11014・ SD11012・11013・ 11022→SD11007	[A 智恵] 土師器杯・高杯・甕(甕)、須恵器杯・ 長頸壺・赤器(甕)・付録・瓦胎用磁、土土、 丸瓦・平瓦(甕)、鉄片、 [B 附埋] 陶器片緑土・磁石・破折碗、土、 銅鉢・鉢・壺・甕、銅(銅器蓋・土質)、 木製板瓦文字、木鏝・自在石、下蓋、漆片、 漆器碗・文・丸・鉄片、白木桶(甕)、漆(甕)、 漆物(甕)、瓦片、須恵器杯・瓦胎用、土 鏝、灰釉陶器碗(量粒X90 完成用)、青磁碗、 中須恵器碗、石製品方銅石	295・ 304・ 317 ~ 310	303
SD11008	断面	51.9	レンズ形	1.7	0.6	0.4	N-33~42 -W	自然堆積→ 人為堆積	SA3158・SD11011・ 11063・11013・ 11012・11009・ SB11065・11066・ 11067・SE11016→ SD11008	[土層] 土師器杯・甕(甕)、須恵器長頸壺・杯・ 高台杯・甕(甕)、石製品磁石(甕)、平瓦(甕)、 丸瓦、鉄片 [下層] 須恵器赤土切杯、へろ切杯、長頸 壺(大口産)・壺・平盤(畿内産)、土師器 甕(甕)、配用磁(平瓦1A類転用)	295・ 317 ~ 320	310
SD11009	断面	20.4	レンズ形	3.6	2.8	0.5	E-22~47* -S・N-13* -E	自然堆積→ 人為堆積	SA3158・SD11009→ SD11008	[土層] 土師器杯・甕・壺(甕)、須恵器杯・ 配用磁・高台杯・壺・鉢・鉢、漆器碗・ 壺、木製蓋、石製粘漆・磁石・石製模造品、 丸瓦・平瓦(甕)、銅、鉄片	295・ 318・ 319・ 320	310
SD11011	完掘	8.3	浅い楕円形	4.2	3.7	0.4	E-21*-N	自然堆積	SD11011→SD11007・ 11008	[埋] 土師器杯・甕(甕)、須恵器杯・甕(甕) [土層] 土師器杯・甕(甕)、須恵器甕(甕) [下層] 土師器杯・甕(甕)	295	301
SD11012	完掘	5.7	平盤楕円形	1.7	1.3	0.2	E-18*-N	-	SD11012→SD11007・ 11008	[埋] 土師器碗、非ロクロ甕(甕)、須恵器杯・ 蓋(甕)、平瓦(甕)	295	314
SD11013	完掘	5.7	レンズ形	0.9	0.4	0.3	E-15*-N	人為堆積→ 自然堆積	SD11013→SD11003→ SD11007・11008	[埋] 土師器ロクロ杯(甕)、須恵器杯・赤 切杯・甕(甕)、平瓦(甕)	295	314
SD11022	断面	3.7	レンズ形	1.1	0.7	0.05	N-7*-E	人為堆積?	SA3158→SD11022→ SD11007	[埋] 土師器杯・甕(甕)、須恵器杯・甕(甕)、 丸平瓦(甕)	295	-
SD11062	完掘	3.8	レンズ形	1.2	0.6	0.3	E-20*-N	人為堆積→ 自然堆積	SD11062→SD11063		295	314
SD11063	完掘	4.3	レンズ形	0.6	0.4	0.1	E-26*-N	自然堆積	SD11013・11062→ SD11063→SD11008	[埋] 土師器甕(甕)、須恵器甕(甕)、平瓦(甕)	295	314
SD11064	完掘	6.0	レンズ形	1.9	1.4	0.1	E-2~36*-N	自然堆積		[底層] 土師器高杯	320	-
SD11080	完掘	17.3	レンズ形	2.5	1.2	0.6	N-6*-E~ N-13*-W	人為堆積→ 自然堆積	SD11164→SX700→ SD11085→SD11080	[埋] 土師器陶輪切杯・ロクロ甕・赤器高 杯、二重口陶甕(甕)、須恵器長頸壺(大口 産)・壺・甕・壺(甕)、平瓦(甕)、鉄片 [土層] 土師器杯・高杯・甕(甕)、須恵器 杯・蓋(甕)、丸瓦・平瓦(甕)	293・ 298・ 317	314
SD11085	完掘	3.6	-	-	-	-	E-25~41* -S	-	SX700→SD11085→ SD11080	土師器ロクロ杯・ロクロ高台杯・ロクロ甕 (甕)、須恵器甕(甕)	298	-
SD11086	完掘	18.1	浅い楕円形	1.8	1.5	0.2	E-1*-N	人為堆積→ 自然堆積	SA11170→S11166→ SD11086→SX700	土師器有段杯・非ロクロ小型甕・相備(銅 付着)・高杯・非ロクロ甕(甕)、須恵器 少切杯・甕・小型壺・鉢(甕)、丸平瓦(甕) [埋] 土師器非ロクロ杯・非ロクロ甕(甕)、 須恵器甕	298・ 321	314
SD11164	断面	17.2	逆台形	A: 0.9 B: 3.8	A: 0.5 B: 1.6	A: 0.8 B: 1.1	N-15*-E	人為堆積→ 自然堆積	SD11164→SX700→ SD11085→SD11080	[埋] 土師器高杯(甕)・大型甕 or 壺、石製 模造品、木製品漆片(甕)	298	311
SD11171	完掘	8.0	逆台形→ レンズ形	0.8	0.3~ 0.7	0.2~ 0.3	N-3*-W~ E-2*-S	人為堆積→ 自然堆積	SA11170→S11166→ SK11167・11169→ SD11171		298	314
SD11240	完掘	7.1	レンズ形	0.4	0.2	0.1	E-2*-N	自然堆積	SK1246→SD11240→ SE902		298・ 321	-

・規模が不明なものは、数値に「-」を加工している
・(出土遺物) [埋]：遺構確認面出土。[埋]：堆積土出土。(甕)：破片資料

表34 G区溝跡属性表

3. 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡を14棟確認した。以下、建物跡の全体を確認し、柱穴の断割りを行った8棟(SB11005・11065・11067・11301～11305)について説明する。すべての建物跡の属性は表35にまとめている。

【SB11005掘立柱建物跡】(図版321)

調査区北西隅で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古)SD11240

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると5.4m(3間分)である。梁行は、西妻でみると北から1.3m・2.3mで、総長は3.6mである。方向は、南側柱列で測るとE-2°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.2mの円形である。

〔柱穴〕長軸0.3～0.5mの楕円形や隅丸方形で、深さは不明である。掘方埋土は、地山ブロックを含む灰黄褐色～黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から須恵器坏などが出土した。坏は回転系切りである。

【SB11065掘立柱建物跡】(図版316・318・323)

調査区北部で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(新)SD11007A・B、SD11008

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると2.7m等間で、総長は8.1mである。梁行は、西妻でみると2.4m等間で、総長は4.8mとみられる。方向は、北側柱列で測るとE-1°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.2～0.3mの円形である。

〔柱穴〕一辺0.9mの隅丸方形で、深さは0.3mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器坏・甕、須恵器甕などが出土した。

【SB11067掘立柱建物跡】(図版316・318・323)

調査区北部で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(新)SD11007A・B、SD11008

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列で6.6m(3間分)である。梁行は、東妻でみると2.4m等間で、総長は4.8mとみられる。方向は、南側柱列で測るとE-2°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.2mの円形である。

〔柱穴〕一辺0.5～0.8mの隅丸方形で、深さは0.4～0.6mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む暗褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器坏・甕、須恵器甕などが出土した。土師器甕はロクロ調整である。

【SB11301掘立柱建物跡】(図版316・317)

調査区中央西側で確認した桁行2間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古)SB11304 (新)SB11302・11303、SK11010

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列で4.8m(2間分)とみられる。梁行は、東妻で4.5m

(2間分)とみられる。方向は、東妻で測ると真北を向くとみられる。

〔柱痕跡〕直径0.2mの円形である。

〔柱穴〕一辺0.8～1.0mの隅丸方形で、深さは0.5mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む灰黄褐色～暗褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器甕、須恵器壺などが出土した。

〔SB11302 掘立柱建物跡〕(図版317)

調査区中央西側で確認した桁行3間・梁行3間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SB11301

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から1.8m・4.9m(2間分)で、総長は6.7mとみられる。梁行は、南妻でみると西から3.2m(2間分)・1.6mで、総長は4.8mとみられる。方向は、東側柱列で測るとN-1°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.2mの円形である。

〔柱穴〕長軸0.5～1.0mの楕円形で、深さは不明である。掘方埋土は、地山ブロックを含む灰黄褐色～暗褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から須恵器環などが出土した。環は回転糸切りである。

〔SB11303 掘立柱建物跡〕(図版316・317)

調査区中央西側で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SB11301

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から2.0m・2.0m・1.9mで、総長は5.9mである。梁行は、北妻でみると西から1.8m・2.0mで、総長は3.8mとみられる。方向は、東側柱列で測るとN-1°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.2mの円形である。

〔柱穴〕長軸0.4～0.7mの楕円形や隅丸方形で、深さは0.3mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む灰黄褐色～暗褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕、須恵器環・甕などが出土した。

〔SB11304 掘立柱建物跡〕(図版316・317)

調査区中央西側で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟建物跡である。

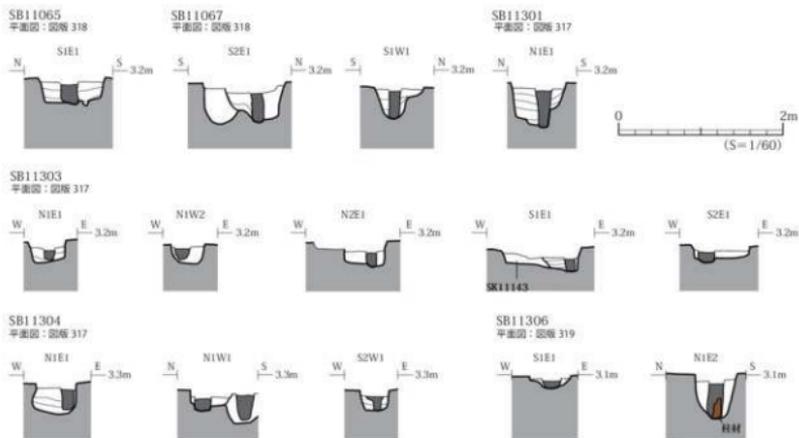
〔重複〕(新) SB11301

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から2.6m・2.3mで、総長は4.9mである。梁行は、北妻でみると1.8m・1.9mで、総長は3.7mである。方向は、西側柱列で測ると真北を向く。

〔柱痕跡〕直径0.2mの円形である。

〔柱穴〕一辺0.4～0.5mの隅丸方形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを含むにぶい黄褐色～黄褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕、須恵器環などが出土した。須恵器環はヘラ切りである。



SB11065-S1E1 断面 (西から)

SB11067-S2E1(東から)

図版316 SB11065・11067・11301・11303・11304・11306掘立柱建物跡

【SB11305掘立柱建物跡】 (図版319・322)

調査区中央西側で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟総柱建物跡である。

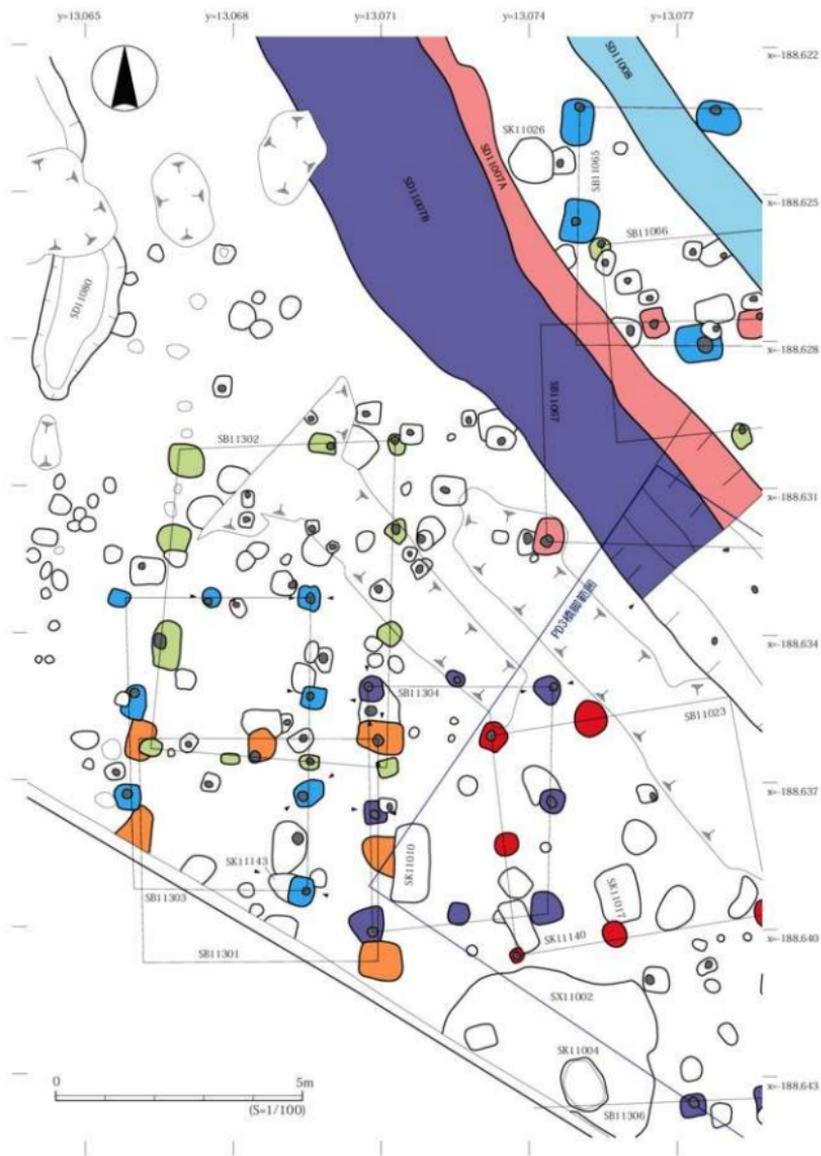
〔重複〕(新) SK11054

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から2.1m・2.0m・2.1mで、総長は6.2mである。梁行は、東妻でみると2.8m・2.2mで、総長は5.0mである。方向は、北側柱列で測るとE-3°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.2～0.3mの円形である。

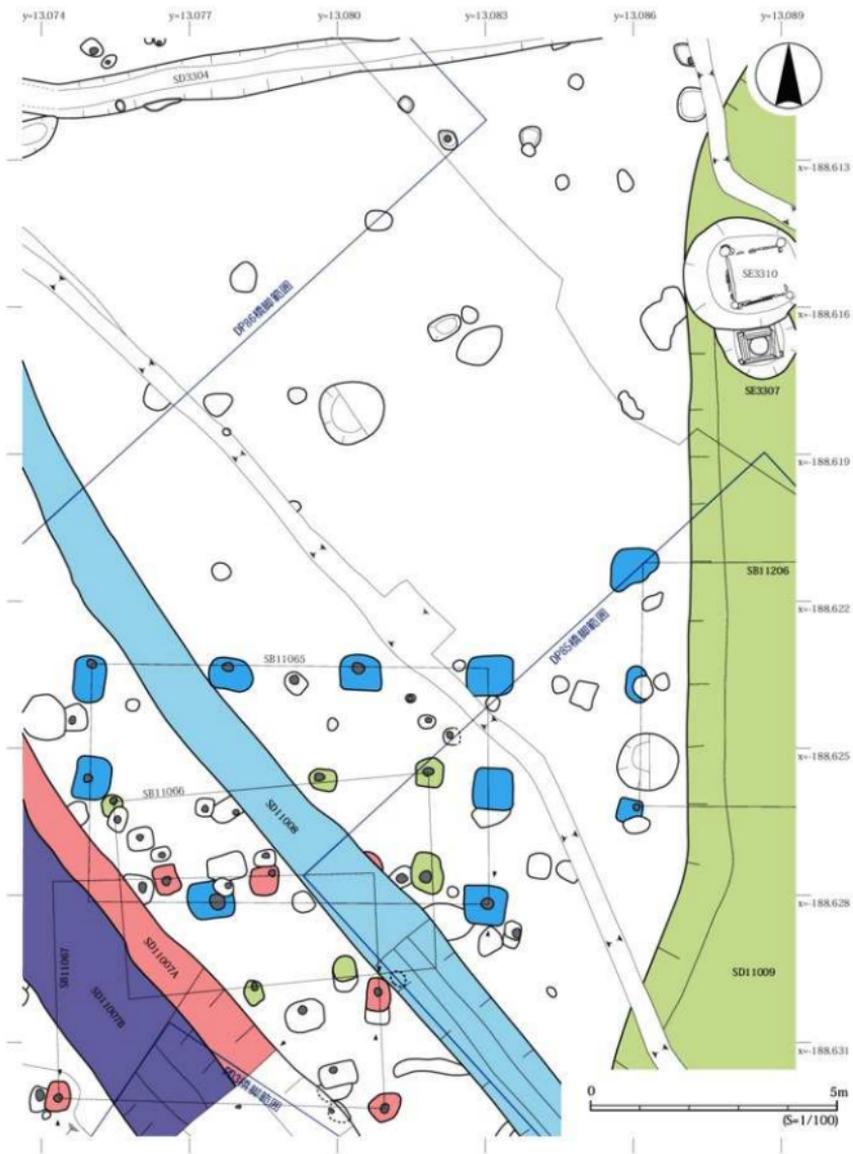
〔柱穴〕長軸0.6～0.8mの楕円形や隅丸方形で、深さは不明である。掘方埋土は、地山ブロックを含むにぶい黄褐色～黄橙色シルトである。

〔出土遺物〕なし。



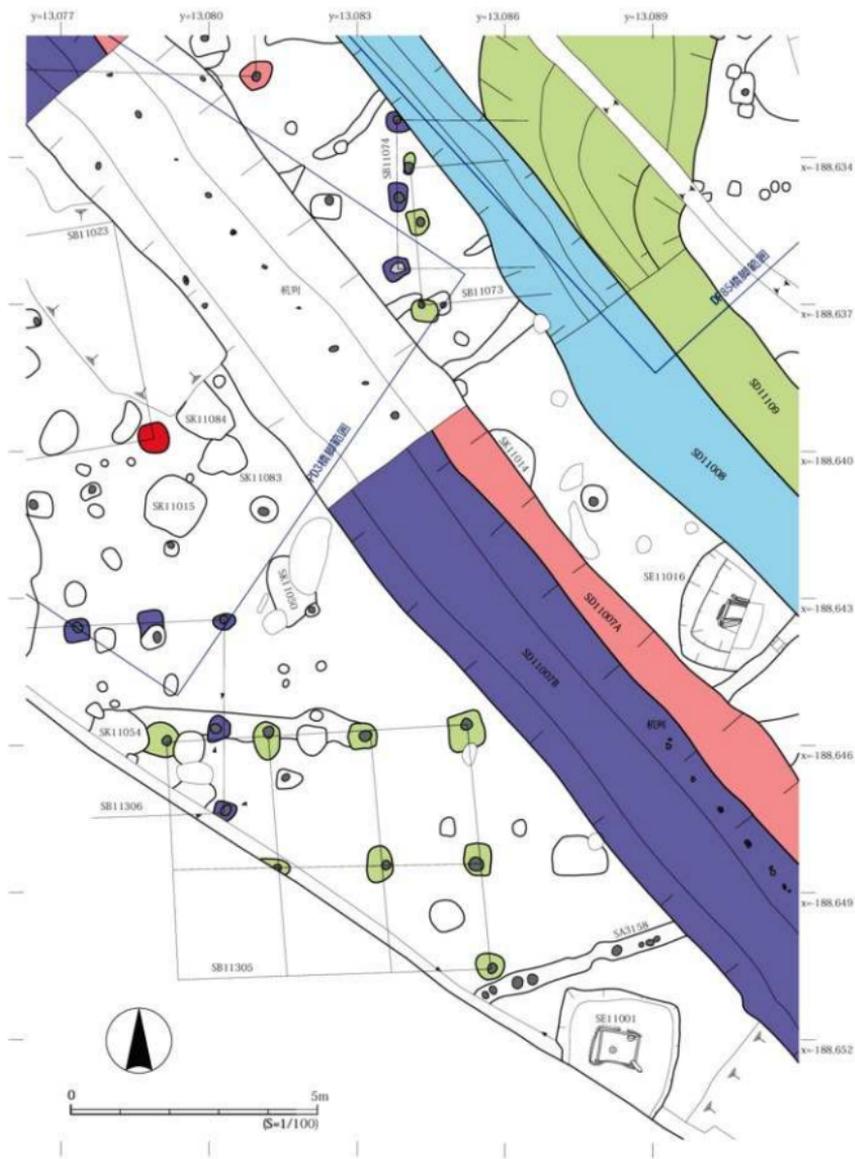
(G区の図別は図版293を参照)

図版317 G区平面図3



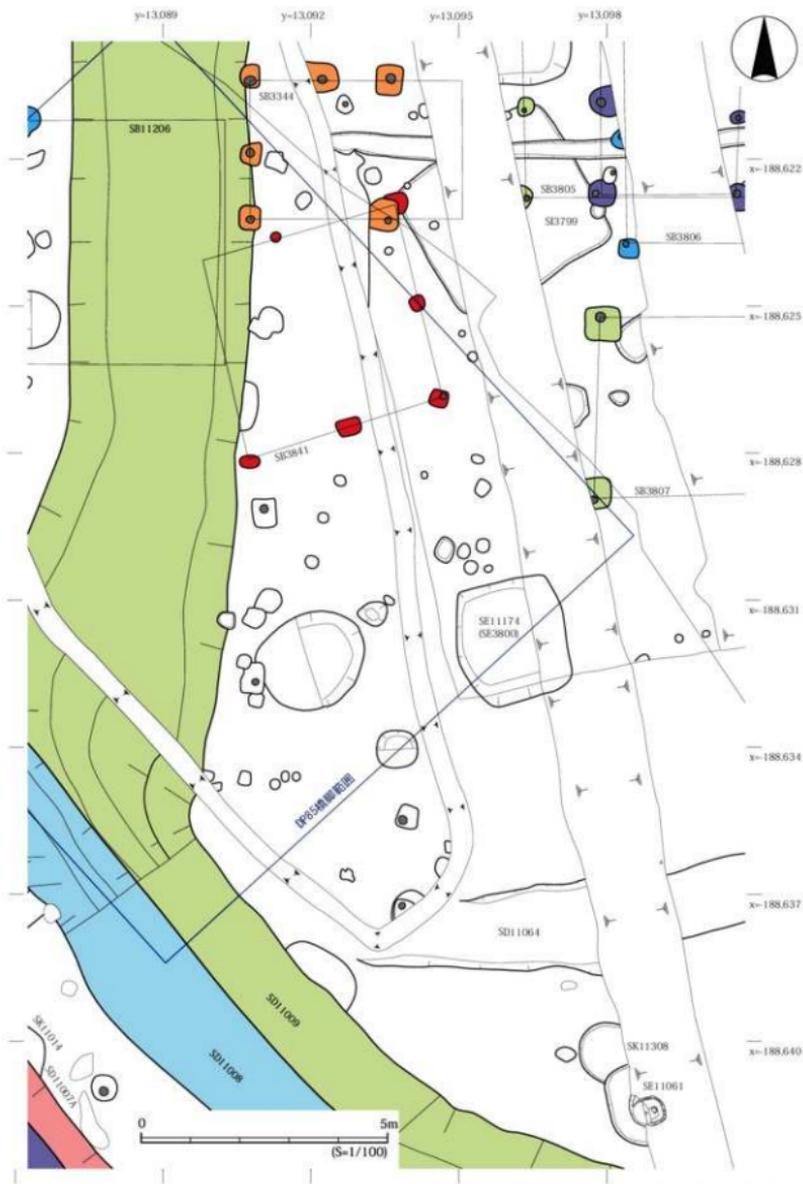
図版318 G区平面図4

(G区の図別は図版293を参照)



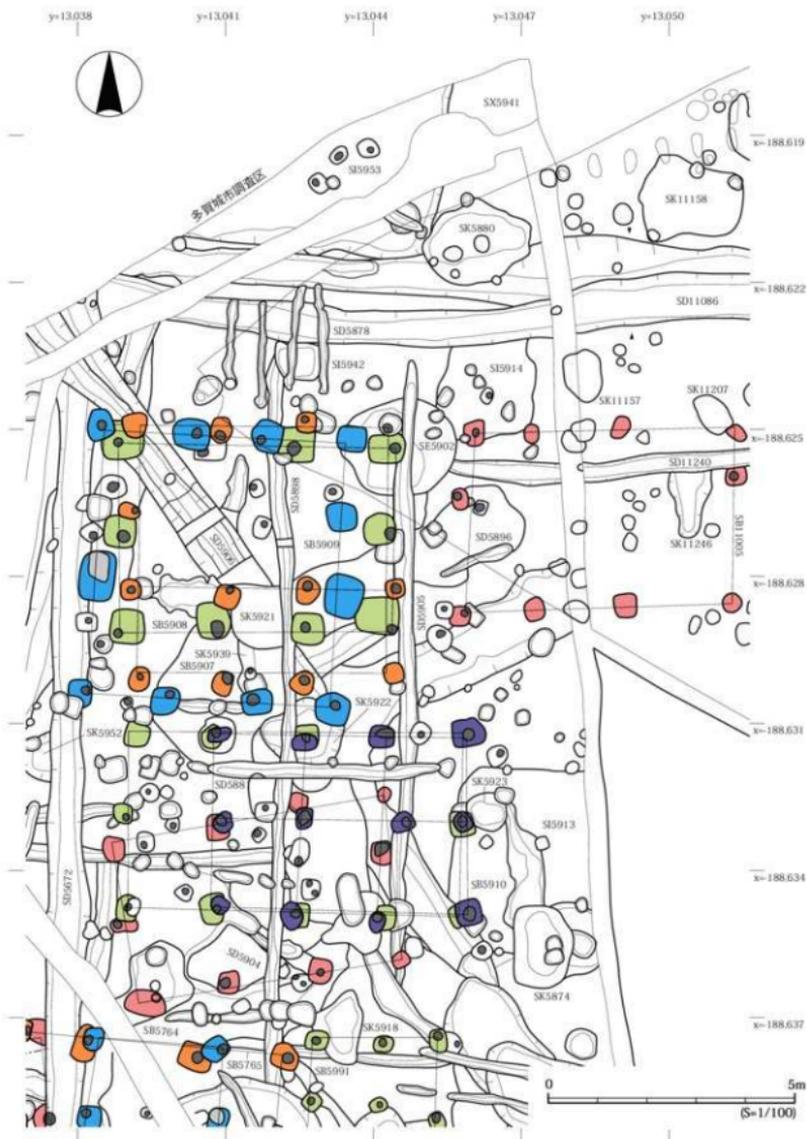
(G区の図例は図版293を参照)

図版319 G区平面図5



(G区の図例は図版293を参照)

図版320 G区平面図6



(G区の図別は図版293を参照)

図版321 G区平面図7



G区西側掘立柱建物跡群全景(西から)



SB11305全景(東から)

図版322 G区掘立柱建物跡1



SB11065・11066・11067 掘立柱建物跡全景(西から)
図版323 G区掘立柱建物跡2

遺構名	調査	建物形状	層行	層行	層行	平面規模 (m)				建物方向			柱穴配置		新旧関係	平面	断面	
						層行		層行		角度	計測	柱径	規模	平面形				
						延長	幅	延長	幅									
SB11005	平瓦	3	2	東西	5.4	南	—	3.6	西	1.3×2.3	E-2°-N	南	0.2	0.3~0.5	隅丸方形・楕円形	SB11005 → SD11240	321	—
SB11023	確認	2	2	東西	5.2	南	(2.0) × (3.2)	4.5	西	(2.3) × 2.2	E-8°-N	南	0.1~0.2	0.3~0.7	隅丸方形・円形	SK11140・11017 → SB11023	317・319	—
SB11065	平瓦	3	2	東西	8.1	北	(2.7等間)	4.8	東	(2.4等間)	E-1°-S	北	0.2~0.3	0.9	隅丸方形	SB11065 → SD11097・11008	318	316
SB11066	平瓦	3	2	東西	6.4	北	(4.2 [2間分]) × 2.2	4.1	東	(2.2) × (1.9)	E-5°-N	北	0.2	0.6~0.9	隅丸方形・楕円形	SB11066 → SD11097・11008	318	—
SB11067	平瓦	3	2	東西	6.6	南	—	4.8	東	(2.4等間)	E-2°-S	南	0.2	0.5~0.8	隅丸方形	SB11067 → SD11097・11008	318	316
SB11073	平瓦	2	1+	—	2.8	西	1.1×1.7	—	—	—	N-2°-W	西	0.1~0.2	0.4~0.5	楕円形・隅丸方形	SB11073 → SD11009 → SD11008	319	—
SB11074	平瓦	2	1+	—	3.0	西	1.6×1.4	—	—	—	N-0°-E	西	0.1~0.2	0.6~0.7	隅丸方形	SB11074 → SD11009 → SD11008	319	—
SB11206	確認	2	1+	—	5.0	西	—	—	—	—	N-1°-E	東	0.2	0.5~1.0	隅丸方形・楕円形	SB11206 → SD11009	318	320
SB11301	平瓦	2	2	東西	4.8	北	—	4.5	東	—	N-0°-E	西	0.2	0.8~1.0	隅丸方形	SB11304 → SB11301 → SB11302・11303・SK11010	317	316
SB11302	平瓦	3	3	南北	6.7	東	1.8+ (4.9 [2間分])	4.8	南	(3.2 [2間分]) × 1.6	N-1°-E	東	0.2	0.5~1.0	楕円形	SB11301 → SB11302	317	—
SB11303	平瓦	3	2	南北	5.9	東	2.0-2.0+1.9	3.8	北	(1.8) × 2.0	N-1°-E	東	0.2	0.4~0.7	隅丸方形・楕円形	SB11301 → SB11303	317	316
SB11304	平瓦	2	2	南北	4.9	西	2.6-2.3	3.7	北	1.8+1.9	N-0°-E	北	0.2	0.4~0.5	隅丸方形	SB11304 → SB11301	317	316
SB11305 (廊下)	平瓦	3	2	東西	6.2	北	2.1+2.0+2.1	5.0	東	2.8-2.2	E-3°-N	北	0.2~0.3	0.6~0.8	隅丸方形・楕円形	SB11305 → SK11054	319	—
SB11306	平瓦	2+	2	東西	3.0+	北	(3.0 [2間分])	4.0	東	2.2+1.8	N-0°-E	東	0.2	0.5~0.6	隅丸方形・不整楕円形	SB11306 → SK11052 → SK11004	319	316

・柱間寸法は東西方向が西から、南北方向は北から行った。ただし、西側や北側が不明な場合は東から、南から計測している
 ・柱間寸法が無い、または柱間から柱間隔が1つ以上ずれる場合は、2間(場合によっては3間)の総長を表記している
 ・柱間寸法の表記で柱位置が不明な場合は、() 書きとしている
 ・建物全体の規模が不明なものは、数字値に+を加えている

表35 G区掘立柱建物跡属性表

4. 竪穴住居跡

竪穴住居跡は3棟 (SI11166・11172・11173) 確認したが、壁は削平されて周溝や掘方埋土のみ残存する (図版298・324)。このうち、SI11173の出土遺物を図示した (図版325)。3棟の属性は表36にまとめている。

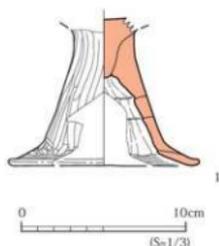


SI11172 検出状況 (北から)



SI11173 検出状況 (北から)

図版324 SI11172・11173竪穴住居跡



No.	器種	層位	図説	口径 (cm)	高さ (cm)	残存	分類	備考	図版
1	土師器・高杯	確認面	外面：ヨコナデ・ヘラケ文字 内面：ヨコナデ	—	11.60	1/4	—	赤色。遺土部中央	1078

図版325 SI11173竪穴住居跡出土遺物

遺構名	調査	平面形	規模 (m) 東西×南北	方向/計測辺	床	柱石 (m)			カマド			付属 施設	新旧関係	出土遺物	図版	
						数	柱石形状/径	後設穴	位置	構築材	本体					煙道
SI11166	確認	正方形?	1.0 × 4.7	N-27°-W/西	—	—	—	—	—	—	—	—	SI1170 ~ SI1166 → SD11086・11171 → SK700		298	—
SI11172	確認	正方形?	2.9 × 2.2	N-24°-E/東	掘方埋土	—	—	×	—	—	—	—		[礎：土師器杯・高杯・壺 (鏡)]	298	—
SI11173	確認	正方形?	3.6 × 2.5	N-23°-E/東	掘方埋土	—	—	×	—	—	—	—		[礎：土師器杯・高杯・壺 (鏡)]	298	—

- ・規模が不明なものは、数値に・を加えている
- ・カマド本体が柱石内部にあるものを内側、外へ張り出すものを外面とする
- ・長さが0.9 m以上を長煙道、0.7 m以下を短煙道とする
- ・[出土遺物]：[礎]：遺構確認面出土。[礎]：埋積土出土。[礎]：鏡片資料

表36 G区竪穴住居跡属性表

5. 井戸跡

側を有する4基を確認した。これらの属性は表37にまとめている。

【SE11001井戸跡】(図版319・326)

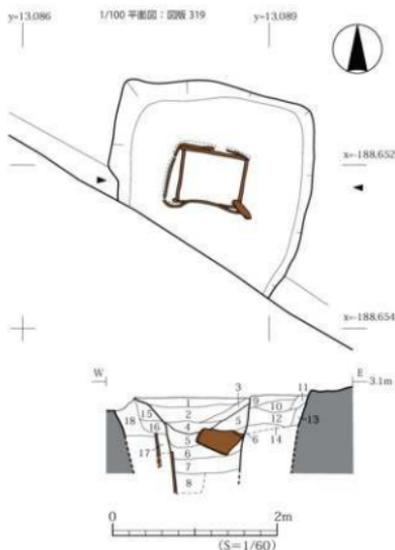
調査区南部西側で確認した、方形の側を持つ井戸跡である。安全性を優先し側内は1.2m、掘方は0.5mほど下げたところで調査を止めている。

〔重複〕なし。

〔堆積土〕1～4層は褐色・灰黄褐色などの粘土質シルトで、側抜き後の埋土である。5～8層は黒色や黒褐色の粘土質シルトで、側内の自然堆積土である。

〔掘方〕掘方の規模や平面形は長軸2.6m以上、短軸2.5mの方形で、深さは1.2m以上ある。断面は円筒形とみられる。裏込土(9～18層)は、地山ブロックを含むにぶい黄褐色などの粘土質シルトやシルトである。

〔側〕確認面から0.7m下で側を検出した。内法は長軸0.8m・短軸0.6mの方形である。掘方中央に



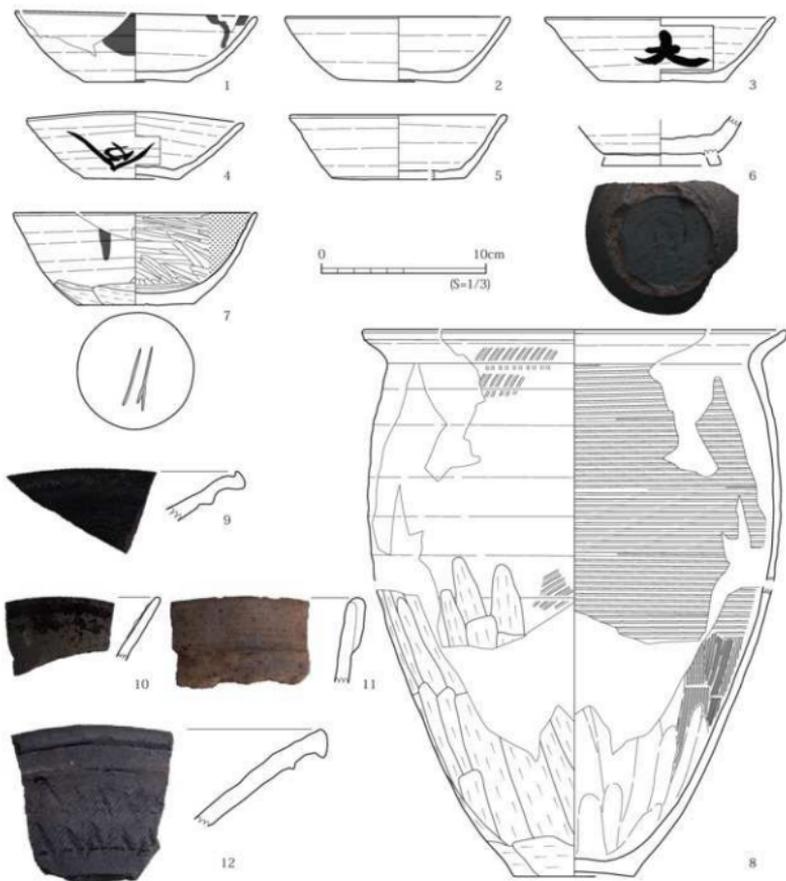
SE11001 断面(北から)



SE11001(北から)

層位	土色	土性	遺入物など	備考	層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト			10	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山ブロックを多く含む	
2	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト		側抜き後埋土	11	にぶい黄褐色(10YR6/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	
3	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト			12	にぶい黄褐色(10YR6/4)	シルト	地山ブロックを多く含む	
4	褐色 (10YR5/1)	粘土質シルト			13	灰黄褐色 (10YR6/2)	シルト	地山ブロックを多く含む	
5	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト			14	にぶい黄褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む	裏込土
6	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト		側内埋積土	15	褐色 (7.5YR4/2)	粘土質シルト	地山ブロック含む	
7	黒褐色 (7.5YR3/2)	粘土質シルト			16	黒褐色 (7.5YR4/1)	粘土質シルト	地山ブロック含む	
8	黒褐色 (7.5YR3/1)	粘土質シルト			17	オリーブ灰色 (7.5Y3/1)	粘土質シルト	地山ブロック含む	
9	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	裏込土	18	黄褐色 (2.5YR3/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	

図版326 SE11001井戸跡



No.	器種	層位	図型	口径(cm)	底径(cm)	体高(cm)	残存	備考	図録
1	須恵器・杯	5層	内外面:ロクロナデ 底面:凹形糸切り	14.5	6.3	4.3	完形	口縁部に油障・縹付着。引火部	968
2	須恵器・杯	6層	内外面:ロクロナデ 底面:凹形糸切り	(13.5)	7.1	4.0	1/2	SK11004 堆積土出土層付と一致	1084
3	須恵器・杯	7層	内外面:ロクロナデ 底面:へら切り・幅目状圧痕	13.8	7.6	3.9	完形	体部に墨書「大」(正位)	965
4	須恵器・杯	7層	内外面:ロクロナデ 底面:凹形糸切り	13.0	5.9	4.1	完形	体部に墨書「白」(側位)。胎土に海陸骨針を含む	966
5	須恵器・杯	14層	内外面:ロクロナデ 底面:へら切り→ナデ	(13.0)	(8.2)	3.9	1/2	胎土に海陸骨針を含む	984
6	須恵器・壺	9層	内外面:ロクロナデ 底面:へら切り→ナデ	—	—	—	一部		985
7	土師器・杯	7層	外面:ロクロナデ 底面:静止糸切→手持へらケズリ 内面:へらミガキ→黒色乾焼	14.6	7.6	5.6	完形	口縁部に油障・縹付着。底部にへら書き「一」	964
8	土師器・大型鉢	6層	外面:[口→胴上] 平行タタキ→ロクロナデ [胴下] タタキ 内面:[口 ロクロナデ [胴上] 凸キメ→ナデ [胴下] 凸キメ→ナデ 底面:ナデ	(25.4)	7.2	—	一部		967
9	須恵器・壺	2層	外面:ロクロナデ→縹織状文 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部		975
10	須恵器・碗	2層	内外:ロクロナデ	—	—	—	一部	内面に縹付着	973
11	土師器・鉢	4層	内外:ロクロナデ	—	—	—	一部	墨?	971
12	須恵器・壺	2層	外:ロクロナデ→縹布・縹織状文・沈灰 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部		974

図版327 SE11001井戸跡出土遺物 1



1



7



2



3



4



5



8



ほぞ

<側外の縦板>



ほぞ

<側外の縦板>



図版328 SE11001井戸跡出土遺物2

据えられており、横板を2段確認した。横板は両端にほぞを切って井籠組している。内側に横棧と支柱が認められたことから、支柱間を繋ぐ横棧で補強して側を保持したと考えられる。また、側の外側には土圧を低減するための縦板材が据えられていた。縦板材にはほぞが認められることから、不要となった部材を転用したと考えられる（図版328一下段）。

〔出土遺物〕（図版327・328）

側内堆積土（5～8層）からは土師器環（7）・大型甕（8）、須恵器環（1～4）・長頸壺、羽口、側抜取穴（1～4層）からは土師器環・鉢（11）、須恵器環・埴（10）・甕（9・12）、刀子、裏込土（9～18層）からは土師器環・甕、須恵器環（5）・高台環・壺（6）・甕などが出土した。土師器環は、非ロクロ調整が主体である。須恵器環の中には、体部に墨書「大」（正位）（3）、「合」（倒位）（4）が認められるものがある。

【SE11016 井戸跡】（図版319・329）

調査区中央で確認した、方形の側を持つ井戸跡である。

〔重複〕（新）SD11008

〔堆積土〕1層は地山ブロックを含む黒褐色のシルトで、側抜取りの埋土である。2層は黒褐色などのシルトで、側内の自然堆積土である。

〔掘方〕規模は径2.7mほどの不整形円形とみられる。断面は円筒形とみられる。裏込土（3～5層）は、地山ブロックを含む褐色シルトや砂質シルトである。

〔側〕側は確認面から0.3m下で検出した。内法は一辺0.4mほどの正方形である。掘方中央に据えられており、各辺1枚ずつの縦板で構成されていた。西辺の内側に北辺と南辺の板がT字状に組み入れ、南北辺は上下2箇所まで横棧が認められた。このことから、東西の縦板を南北の縦板で、後者は前者に差し込まれた横棧で保持した構造と考えられる。

〔出土遺物〕（図版330）

底面から土師器環（1）、側内堆積土（2層）から土師器環・甕、須恵器環・甕、平瓦、裏込土（3～5層）から土師器環・甕、須恵器環・甕、隅切瓦（2）・丸瓦・平瓦、瓦転用低などが出土した。土師器はすべて非ロクロ調整である。隅切瓦は多賀城分類IA・類aタイプで、多賀城第1期のものである。平瓦は多賀城第2期のII B類が含まれる。

【SE11061 井戸跡】（図版295・320・331）

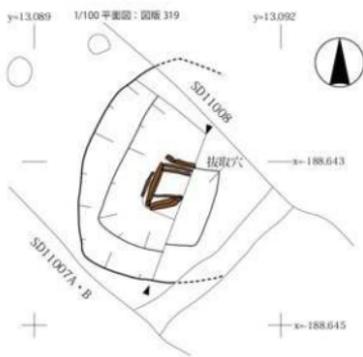
調査区中央東側で確認した楕円形の側を有する井戸跡である。側内は底面まで掘り下げたが、掘方は中ほどで調査を止めている。

〔重複〕（古）SK11308

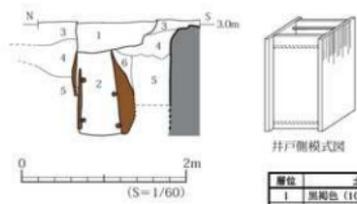
〔堆積土〕側内（1～3層）は黒褐色粘土～粘土質シルトで、自然堆積土である。

〔掘方〕掘方の規模は長軸1.2m、短軸0.7m以上の楕円形である。深さは1.7mで、断面は円筒形とみられる。裏込土（4～7層）は、地山ブロックを含む褐色色やにぶい黄褐色のシルト～砂質シルトである。

〔側〕井戸側は確認面近くまで残存していた。掘方の中央南側に据えられており、2枚の刎抜き材を



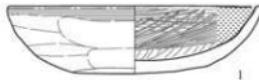
SE11016断面(西から)



SE11016井戸側(南から)

層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	炭化物・地山アブロックを少し含む	人為堆積土 (成坑内)
2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	炭化物・地山アブロックを少し含む	自然堆積土 (坑内堆積土)
3	紫灰色 (10YR4/1)	砂質シルト	地山アブロック含む。炭化物を少し含む	裏込土
4	にぶ・黄棕色 (10YR6/3)	砂質シルト	地山アブロックを多く含む	
5	紫灰色 (10YR5/1)	砂質シルト	地山アブロック含む。炭化物を少し含む	
6	紫灰色 (10YR4/1)	シルト	炭化物を少し含む	

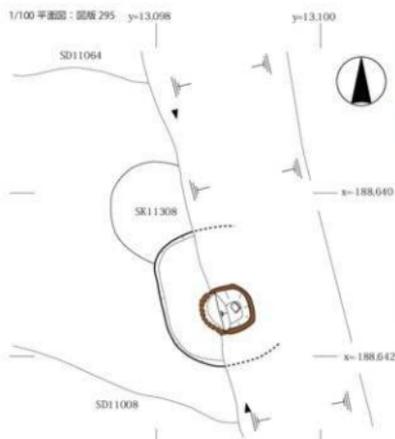
図版329 SE11016井戸跡



0 10cm (S=1/3)

No.	品名	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録	
1	土師器・杯	底土	外面: [口] ヨコナデ [株] 磨滅 内面: ヘタミガキ→黒色処理	15.0	8.1	4.1	完形	平底	958	
2	瓦・破片	裏込土		--	--	--	--	一辺	多賀城1期, I.A.跡-a	994

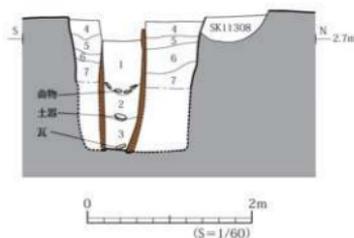
図版330 SE11016井戸跡出土遺物



SE11061 断面 (南東から)

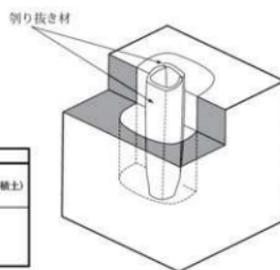


SE11061 遺物出土状況 (東から)



層位	土色	土性	遺人物など	備考
1	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	下部に曲げ物破片を含む	自然堆積土 (胸内埋積土)
2	黒褐色 (10YR3/1)	粘土	下部に瓦形土器を3点含む	
3	黒褐色 (10YR3/2)	粘土	底部に瓦片破片含む	
4	黒灰色 (10YR4/1)	シルト	地山ブロックを多く含む	順込土
5	黒灰色 (10YR4/1)	シルト	地山ブロックを多く含む	
6	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	
7	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	

図版331 SE11061井戸跡

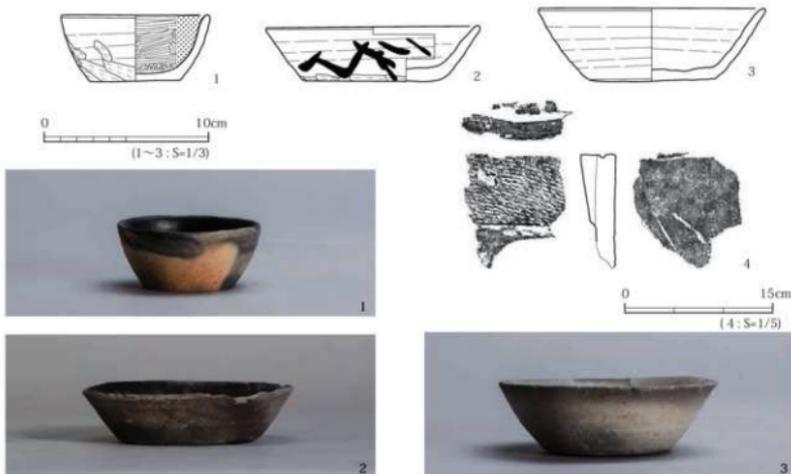


井戸模式図

合わせて側としている。内法は、径軸0.6mほどの円形である。

〔出土遺物〕(図版332)

1・2層からは土師器小型環(1)・埴・甕、須恵器環(2・3)・稜埴・甕、平瓦、曲物、3層からは軒平瓦(4)などが出土した。土師器小型環はロクロ調整で手持ちヘラケズリ、須恵器環は2点ともヘラ切りで、2には手持ちヘラケズリが施された。軒平瓦は多賀城第II期の単弧文(多賀城分類640)である。2は体部に墨書が認められる。



No.	器種	層位	説明	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
1	土師器・小型杯	2層	外面:ロクロナデ(体下~底) 手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色地埋	8.8	5.6	4.1	完形		990
2	須恵器・杯	2層	内外面:ロクロナデ 底部:ヘラ切り→手持ちヘラケズリ	12.8	8.1	3.4	完形	体部に黒塗「」, 全体に黒ずむ。胎土に海綿骨針を含む	991
3	須恵器・杯	2層	内外面:ロクロナデ 底部:ヘラ切り→ナデ	13.6	7.7	4.5	完形		992
4	瓦・軒平瓦	3層		---	---	---	一部	多賀城2期。早稲文(64)	999

図版332 SE11061井戸跡出土遺物

【SE11174井戸跡】(図版320・333)

調査区中央東側で確認した側を有する井戸跡である。側はすべて抜き取られている。

〔重複〕なし。

〔堆積土〕1・2層は黒褐色シルト～砂質シルトで、側抜き後の埋土である。

〔掘方〕長軸2.5m・短軸2.2mの方形である。深さは0.7mで、断面は碗形である。裏込土(3～5層)は、炭化物・地山ブロックを含む灰黄褐色・オリーブ灰色などの砂質シルト～シルト質砂である。

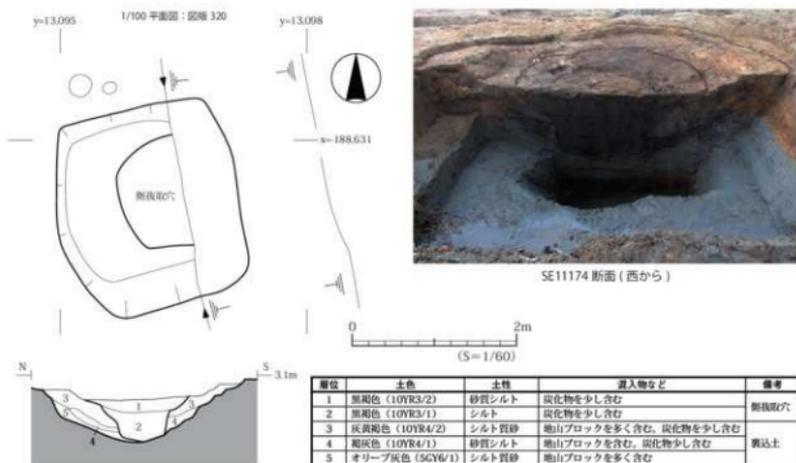
〔側〕抜き穴から、掘方中央より東側に据えられたと考えられる。

〔出土遺物〕(図版334)

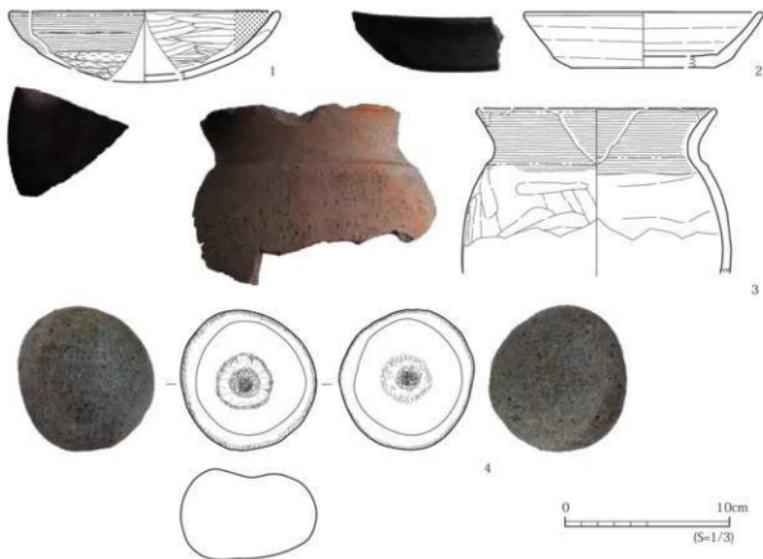
側抜き穴(1・2層)から土師器杯(1)・広口壺(3)、須恵器杯(2)、凹石(4)などが出土した。土師器杯は非ロクロ調整で有段である。須恵器杯は皿形で回転ヘラケズリが施された。

6. 土坑

土坑は17基確認し、4基について完掘または半掘した。このうち、SK11017・11207の出土遺物を図示し(図版335)、すべての土坑の属性は表38にまとめている。



図版333 SE11174井戸跡



No.	器種	層位	図解	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・環	掘取穴	外面：ヨコナデ→手持ちケズリ 内面：ヘウミガキ→栗色染付	(16.0)	—	(4.2)	一部	右段、輪縁あり	983
2	須恵器・環	掘取穴	内外面：ロクロナデ 底部：10枚ヘラケズリ	(14.2)	(8.8)	3.4	一部	胎土に海綿状針を含む	981
3	須恵器・応心器	掘取穴	外面：[口] ヨコナデ [胴] ナデ 内面：[口] ヨコナデ [胴] ナデ	(14.2)	—	1/3	—	—	982
4	石製品・卵石	掘取穴	—	—	—	—	完形	輪：8.3cm 重さ：621.0 g	980

図版334 SE11174井戸跡出土遺物

遺構名	調査	構造	平面形	断面形	規模 (m)			増積土	新旧関係	出土遺物	段階	
					幅(内)	幅(外)	高さ				平面	断面
SE11001	上部のみ、下部は未調査	横板組	方形	円筒形	長:2.6 短:2.5	-	1.2	自然増積→ 人為増積		[内側] 土師器環・大型甕、須恵器環・瓦、須恵器、引口 [側面北口] 土師器環・鉢、須恵器環・埴、甕、刀子 [裏込土] 土師器環・甕、須恵器環・高台環・甕・甕	319・ 326	326
SE11016	側内半瓦、側方 上部のみ	縦板組	不整形円形	円筒形	径:2.7	-	1.4	自然増積→ 人為増積	SE11016 → SD11008	[底面] 土師器非口クロ口環 [側内面] 土師器環・甕、須恵器環・埴、甕、平瓦 [裏込土] 土師器環・甕、須恵器環・埴、須恵器瓦・丸瓦・平 瓦・瓦軸用瓦	319・ 329	329
SE11061	側内半瓦、側方 上部のみ	縦板組	方形	円筒形	長:1.2 短:0.7	1.0	1.7	自然増積	SK11308 → SE11061	[側内面] 土師器小形埴・埴・甕、須恵器環・埴、甕、高 甕、平瓦・軒平瓦(単瓦文640・政庁目黒)	295・ 320・ 331	331
SE11174	完整	木組 (壁不明)	方形	桶形	長:2.5 短:2.2	0.8	0.7	人為増積		[瓦葺] 土師器非口クロ口環、引口甕、須恵器環、石質 品四石	320・ 333	333

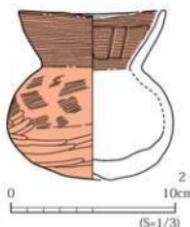
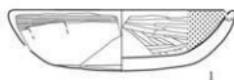
・規模が不明なものは、数値に、を加えている
 ・(出土遺物) [内]:遺構確認面出土、[側]:増積土出土、(甕):破片資料

表37 G区井戸跡属性表

遺構名	調査	平面形状	断面形状	真軸 (m)	短軸 (m)	高さ (m)	増積土	新旧関係	出土遺物	段階	
										平面	断面
SK11004	完整	楕円形	浅い皿形	1.2	0.9	0.1	自然増積	SB11306→SK11002→ SK11004	[内] 土師器環・甕(破)、須恵器環・甕(破)	317	-
SK11010	確認	圓丸方形	-	1.6	0.8	-	-	SB11301→SK11010		317	-
SK11014	確認	楕円形	-	1.4	0.5+	-	-	SK11014→SD11007A・B		319	-
SK11015	確認	圓丸方形	-	1.2	1.1	-	-		[内] 土師器環・甕、須恵器環・高台環・甕・ 鉢・甕(破)	319	-
SK11017	確認	圓丸方形	-	1.2	0.9	-	-	SK11017→SB11023	[内] 土師器環・非口クロ口甕(破)、須恵器環・ 甕(破)、丸瓦(破)	317	-
SK11026	確認	不整形円形	-	0.9	0.9	-	-		[内] 土師器環・甕(破)、須恵器環(破)	317	-
SK11030	確認	不整形円形	-	1.3	0.8	-	-		[内] 土師器甕(破)、須恵器へう切→ナ字埴 器・甕(破)	319	-
SK11034	確認	不整形円形	-	1.2+	1.0+	-	-	SB11305→SK11504		319	-
SK11083	確認	不整形円形	-	1.0	0.8+	-	-	SK11083→SK11084	[内] 土師器環・甕(破)、須恵器甕(破)	319	-
SK11084	確認	圓丸方形	-	1.1+	0.9	-	-	SK11083→SK11084	[内] 土師器甕(破)、須恵器へう切→ナ字埴 (破)、平瓦(破)	319	-
SK11140	確認	圓丸方形	-	1.2	0.5	0.2	人為増積	SK11140→SB11023	[内] 土師器甕(破)	317	-
SK11143	平瓦	不整形円形	浅い皿形	0.6+	0.4	0.2	人為増積	SK11143→SB11303	[内] 土師器小形埴・埴・高台環・甕	296・321	-
SK11207	確認	不整形円形	-	0.9	0.6	-	-		[内] 土師器小形埴・埴・高台環・甕	296・321	-
SK11246	確認	不整形円形	-	1.3+	0.9	-	-	SK11246→SD11240	[内] 土師器環・甕・甕、須恵器環(破)	321	-
SK11157	確認	不整形円形	-	1.1	0.8	-	-		[内] 土師器環・高台環・甕・甕	296・321	-
SK11158	確認	圓丸方形	-	2.1	1.3	-	-		[内] 土師器環・高台環・甕・甕	296・321	-
SK11308	平瓦	円形	桶形	1.2	0.9+	0.3	人為増積	SK11308→SE11061		295・320	-

・規模が不明なものは、数値に、を加えている
 ・(出土遺物) [内]:遺構確認面出土、[側]:増積土出土、(甕):破片資料

表38 G区土坑属性表



No.	種類	出土遺物	層位	図号	口径 (cm)	口径 (cm)	高さ (cm)	残存	分級	備考	登録
1	土師器・埴	SK11017	埴	外面:ヨコナデへうタテリ 内面:へうミガキ→黒色処理	-	-	-	1/4	-		1097
2	土師器・小形埴	SK11207	埴	外面:ヨコナデ・ナデへうミガキ 内面:ヨコナデへうナデ	8.8	1.9	10.5	完形	並	赤沢、円底	311

図版335 SK11017・11207土坑出土遺物

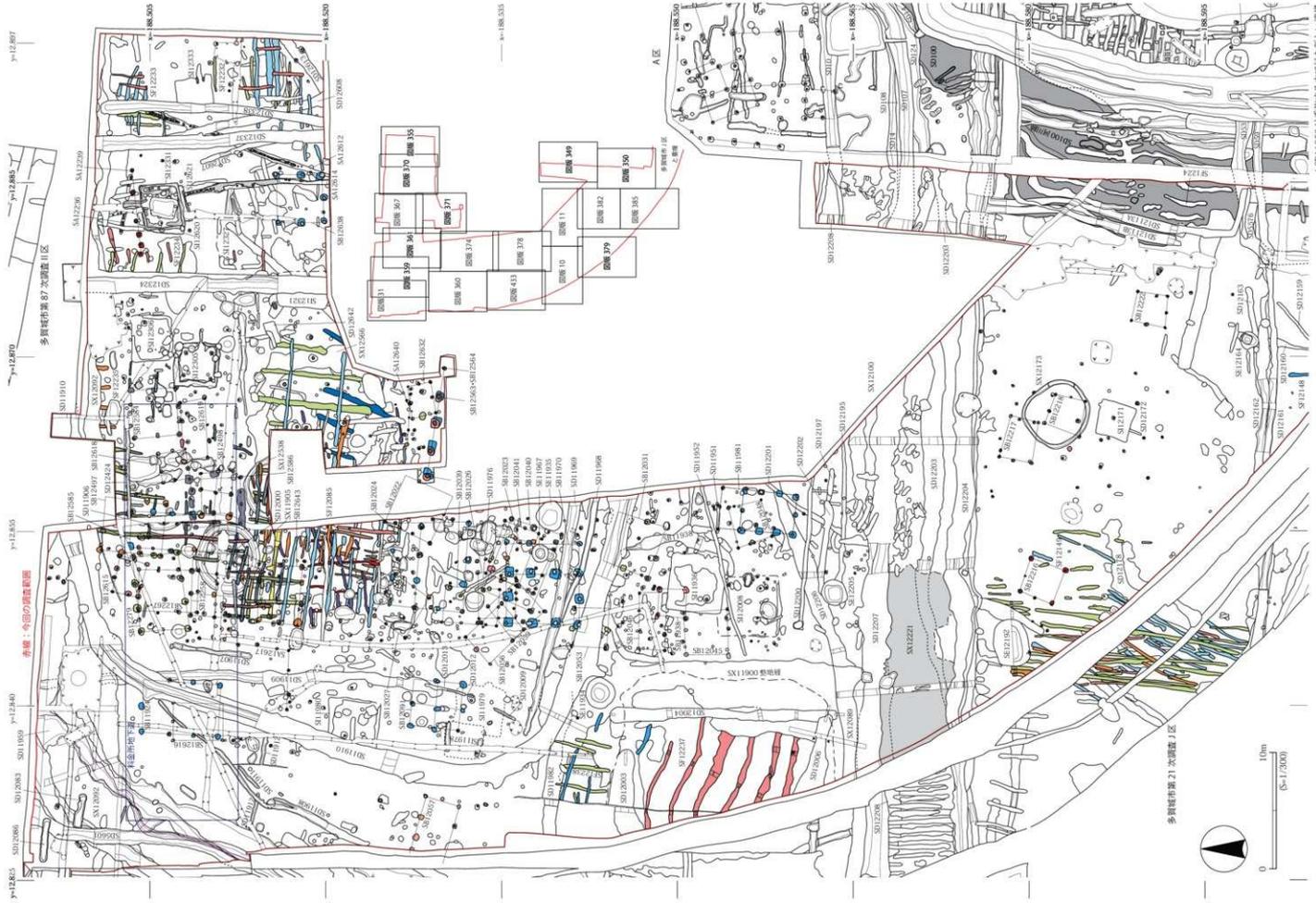
第Ⅷ章 J 区



J区全景（南西から） 左上の丘陵は多賀城跡



J区北部の建物跡群（東から）



図版336 山全体図

※SD11959は旧版を若干訂正し直し再編

J区では道路跡3条、整地層2面、区画溝跡10条（掘直しを含む）、溝跡40条（掘直しを含む）、材木塚跡2条、掘立柱塚跡3条、掘立柱建物跡42棟、周溝をもつ建物跡2棟、竪穴住居跡16棟、円形周溝跡3基、井戸跡6基、土坑90基、畑跡10面などを確認した（図版336）。本区は、料金所棟と関連施設の建設部分のみが本発掘調査の対象である。その他については確認にとどめ、必要に応じて断割りを行った。以下、調査した遺構について種別ごとに説明する。〔重複〕の（古）・（新）は記載している遺構に対しての前後関係を表している。なお、以下の記述にはA・E・K・M区の一部が含まれるが、一括してJ区として報告する。

1. 整地層

【SX11900整地層】（図版10・336・337・433）

SX12221北2道路跡上から北側で確認した整地層である。SX12221の北側溝D期を覆うが、本層を掘り込む遺構は確認していない。また、本層はSX12089整地層の上に広がり、両者の間には、SD12003・12004・12006が介在する。

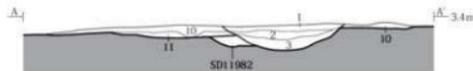
〔重複〕（古）SD12003・12004・12006、SF12237、SX12089・12221

〔規模・埋土〕東西12m以上・南北20mに広がり、層厚は最も厚いところで0.1mほどである。埋土は地山ブロックを含む褐色シルトである。

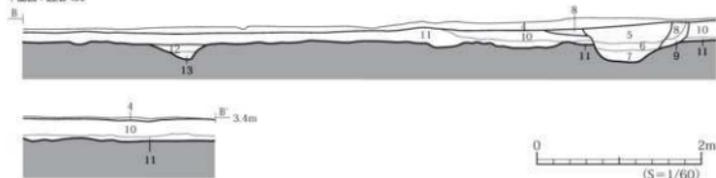
〔出土遺物〕（図版338）

埋土から土師器・甕・蓋・高坏・高台坏、須恵器（1～3）・甕・壺・小型壺（4）・三足壺

SD11910・SX12089
平面図：図版360・433

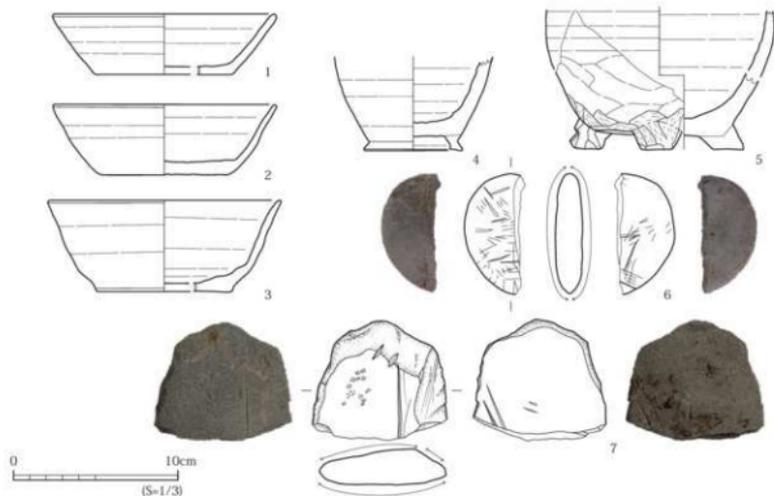


SX11900・SD12004・SX12089・SF12237
平面図：図版433



遺構名	層位	土色	土性	混入物など	備考
SD11910	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	マンガン・磁鉄を含む。地山ブロックを少し含む	人為増殖土
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	磁鉄含む。地山ブロックを多く含む	自然増殖土
	3	黒褐色 (2.5Y3/1)	粘土	私件産。磁鉄含む。黄灰色細砂をラミナ状に含む	人為増殖土
SX11900	4	褐色 (10YR5/1)	シルト	私件産。磁鉄・マンガンを含む。地山ブロックを少し含む	人為増殖土
SD12004H	5	褐色 (10YR4/1)	砂質シルト	磁鉄を含む。炭化物を少し含む	自然増殖土
	6	黄褐色 (2.5Y4/1)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	人為増殖土
SD12004A	7	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	磁鉄含む	自然増殖土
	8	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	磁鉄・地山ブロック含む	
	9	褐色 (10YR4/1)	砂質シルト	磁鉄含む	自然増殖土
SX12089	10	灰黄褐色 (10YR6/2)	砂質シルト	地山ブロック・褐色色砂質シルトブロックを塊状に多く含む	
	11	灰褐色 (2.5Y6/2)	砂質シルト	褐色色砂質シルトブロックを散在に多く含む	人為増殖土
SF12237	12	黄褐色 (2.5Y5/1)	シルト	地山ブロックを少し含む	
	13	黄褐色 (2.5Y5/1)	シルト	地山ブロックを多く含む	人為増殖土

図版337 SX11900・12089整地層断面図



1



2



3



4



5

No.	品名	通称番号	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	須恵器・灰	SX11900	埋土	内外面：ロケロナデ 底部：静止糸切り→ナデ	(13.6)	(8.4)	3.7	一部		3403
2	須恵器・灰	SX11900	埋土	内外面：ロケロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(13.6)	7.6	4.3	1/3		3404
3	須恵器・灰	SX11900	埋土	内外面：ロケロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(14.2)	(8.4)	5.6	1/3		3403
4	須恵器・小型壺	SX11900	埋土	内外面：ロケロナデ 底部：ヘラ切り→高台取付→ナデ	—	6.0	—	1/3	大戸産	3406
5	須恵器・三足壺	SX11900	埋土	内外面：ロケロナデ 底部：膝取付→手持ちヘラケズリ	—	(8.8)	—	1/4		3407
6	石製品・小石	SX11900	埋土		—	—	—	—	重さ：47.5 g	3409
7	石製品・砥石	SX12089	埋土		—	—	—	—	石材：砂岩、両面に磨面、片面に端打痕。重さ：173.5 g	3416

図版338 SX11900・12089整地層出土遺物

(5)、赤焼土器環・高台環、丸瓦・平瓦、砥石(6)・磨石などが出土した。土師器は環に回転糸切りがあり、甕はロクロ調整である。須恵器環はヘラ切り(2・3)と、静止糸切り(1)がある。須恵器壺には大戸産が含まれる。

【SX12089整地層】(図版10・336・337・360・432・433)

SX12221北2道路上から北側で確認した整地層である。本層からSD12003・12004・12006などが掘り込まれ、その上をSX11900整地層が覆う。

〔重複〕(古)SD11982、SF12237・12238、SX12221

(新)SE11934、SD11910・11969・12003・12004・12006、SK12193・12194、SX11900

〔規模・堆積土〕東西13.7m以上・南北27.4mに広がる。整地層の厚さは最も厚いところで0.2～0.3mである。堆積土は地山ブロックを含む灰黄褐色などの砂質シルトである。

〔出土遺物〕(図版338)

埋土から土師器環、須恵器環・甕・壺・盤・円面硯、赤焼土器環、灰軸陶器壺、丸瓦・平瓦、砥石(7)などが出土している。土師器環はロクロ調整を含む。須恵器環はヘラ切りと回転糸切りがある。須恵器壺には大戸産が含まれる。円面硯はSK11934出土遺物と同一個体である。

2. 区画施設跡

材木堀跡2条、区画溝跡10条(掘直しを含む)を確認した。区画施設は調査区北東側で確認したもののから順に記載している(図版336)。なお、調査区北部で検出したSD5601D区画溝跡は、N区のSD11855と同一遺構であることから、そちらで説明する。

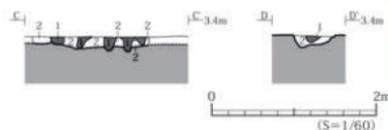
〈材木堀跡〉

【SA12612材木堀跡】(図版339・355・370)

調査区北東部で確認した、布掘り掘方内に材木を立て並べた南北方向の材木堀跡である。検出長は19.2mで、方向はN-19°-Eである。堀材は抜き取られている。本堀に並行する溝跡は確認できなかった。

〔重複〕(新)SB12638、SD12607・12608・12337・12238、SF12233、SX12092

平面図：図版355・370



層位	土色	土性	埋入物など	備考
1	黒褐色(10YK3/1)	砂質シルト	地山ブロックを含む	材堀跡
2	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	地山ブロックを含む	掘方埋土



SA12612南北断面(西から)

図版339 SA12612材木堀跡

〔掘方〕上幅0.4～0.6m、下幅0.3m、深さ0.2mで、横断面形は椀状である。埋土は地山ブロックを含む灰黄褐色の砂質シルトである。

〔材採取穴〕直径0.1～0.2mの円形もしくは楕円形である。

〔出土遺物〕なし。

【SA12614材木堀跡】(図版340・370)

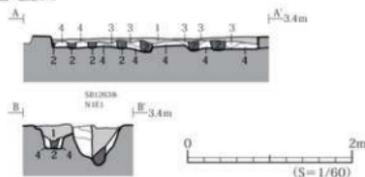
調査区北東部で確認した、布掘りの中に材木を立て並べた南北方向の材木堀跡である。検出長は15mで、中ほどで西に屈折しており、方向は南側がN-5°-W、北側はN-17°-Wである。本堀に並行する溝跡は確認できなかった。

〔重複〕(新) SB12638、SI12331・12620・12621、SX12092

〔掘方〕上幅0.3～0.8m、下幅0.2m、深さは0.2mで、横断面形は逆台形である。埋土は地山ブロックを含む暗灰黄色の砂質シルトや暗オリーブ褐色の粘土質シルトである。

〔材痕跡〕溝状の採取穴の底面で、直径0.1～0.2mの材痕跡が認められた。0.2～0.5m間隔で掘方

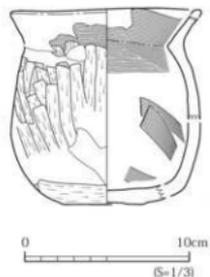
平面図：図版370



SA12614南北断面(西から)

層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘質シルト	地山ブロックを少し含む。腐葉を含む	採取穴
2	黒褐色(10YR2/3)	粘質シルト	地山ブロックをわずかに含む	材痕跡
3	暗灰黄色(2.5Y4/2)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	
4	暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)	粘質シルト	地山ブロックを多く含む	掘方埋土

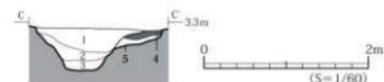
図版340 SA12614材木堀跡



No.	器種	層位	図号	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	備考	登録
1	土師器・ミニチュア	採取穴	外面：ヨコナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ヨコナデ→ヘラナデ 底面：木葉痕→手持ちヘラケズリ(上底尻)	(11.7)	4.8	11.8	4/5	歪形	4020

図版341 SA12614材木堀跡出土遺物

平面図：図版370



遺構名	層位	土色	土性	埋入物など	備考
SD12324B	1	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト		自然堆積土
	2	黒褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	地山ブロックを含む	
	3	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	砂質シルト	地山砂を多く含む	
SD12324A	4	黒褐色 (2.5Y3/1)	粘質シルト	地山ブロック・灰白色火山灰を含む	
	5	オリーブ褐色 (2.5Y4/6)	砂質シルト	地山砂を含む	



SD12324 断面 (南から)

図版342 SD12324A・B区画溝跡

中央に並んでいる。材痕跡の高さは0.2m以下であることから、堀材はすべて抜き取られたと考えられる。

〔出土遺物〕(図版341)

材採取穴から土師器甕や須恵器甕、確認面から土師器ミニチュア(壺形)(1)が出土した。

〈区画溝跡〉

【SD12324A・B区画溝跡】(図版342・370)

調査区北東部で確認した、SX12092南北道路跡(西6a道路)南側溝に取り付く南北溝跡である。検出長は21.0mで、方向はN-1°-Wである。2時期あり、B期が新しい。A期がSX12092南側溝B期、B期が南側溝C期に接続する。街区内を細分する区画施設で、本溝を境に東西で建物の密度が異なる。

〔重複〕(古)SF12234、SI12321、SK12587

〔規模・堆積土〕B期は上幅1.4~1.9m・下幅0.5~0.6mで、深さは0.5mである。断面は逆台形で、堆積土は黒褐色などの砂質シルトである。A期は上層に灰白色火山灰を含む。

〔出土遺物〕(図版343)

B期堆積土(1~3層)と確認面から土師器杯・甕、須恵器杯(1)・甕、丸瓦・平瓦、磨石(2)・敲石(3)などが出土した。

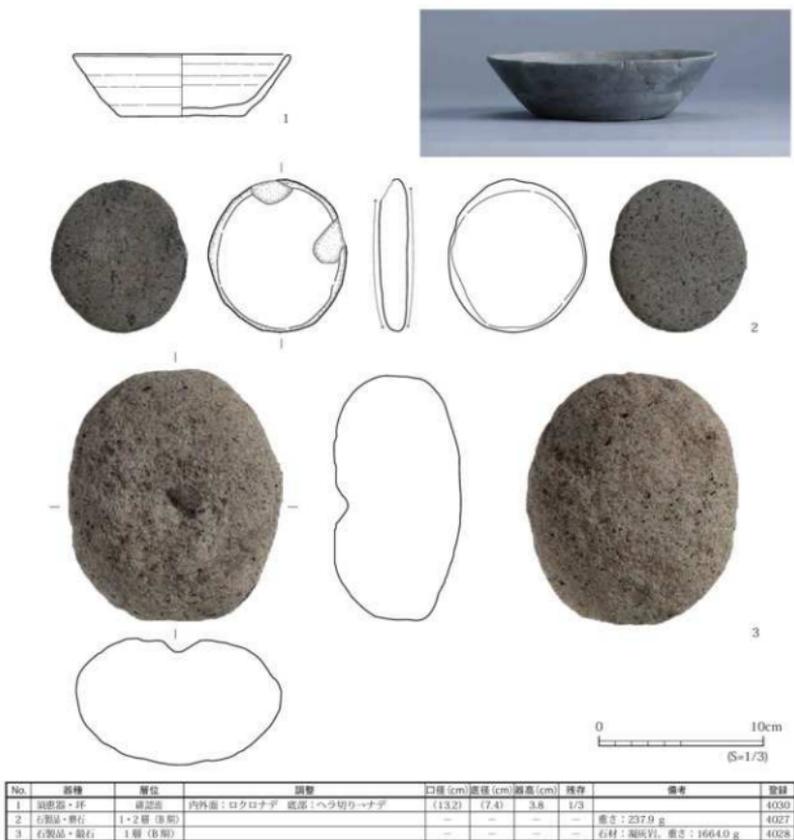
【SD12613区画溝跡】(図版344・355)

調査区北東隅で確認した北東へ延びる溝である。検出長は5.2mで、方向はE-36°-Nである。このまま北側へ35m延ばすと、M区のSD180と直交する。

SD180はL字型で溝の東側を区画する施設であったと指摘したが(宮城県教委1997ほか)、その西側でもE区のSB5151など同時期の掘立柱建物跡が確認されており(多賀城市埋文センター1991b)、本溝はSD180西側の区画施設であったと考えられる。

〔重複〕(古)SD12608

〔規模・堆積土〕上幅0.8m・下幅0.6mで、深さは0.2mである。断面は浅い皿形で、堆積土は黒褐色砂質シルトなどの自然堆積である。

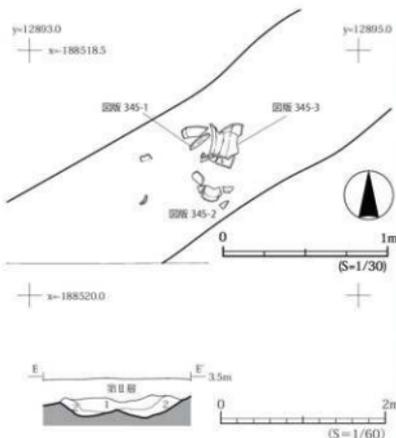


図版343 SD12324A・B区画溝跡出土遺物

〔出土遺物〕(図版345)

1層や確認面から土師器環(1)・盤(2)・広口壺(3)・甕などが出土した。土師器環はロクロ調整で底部が静止糸切りのち手持ちヘラケズリが施された。盤は非ロクロ調整で内外面をヘラミガキ・黒色処理されている。

1/100 平面図：図版 355



SD12613 遺物出土状況 (北から)



SD12613 断面 (北西から)

層位	土色	土性	遺人物など	備考
1	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	炭化物を多く含む	自然堆積土
2	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	

図版344 SD12613区画溝跡

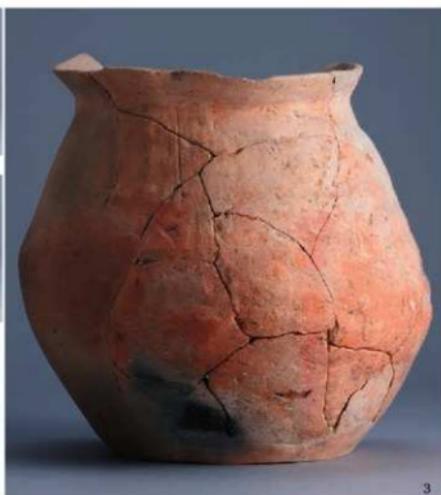
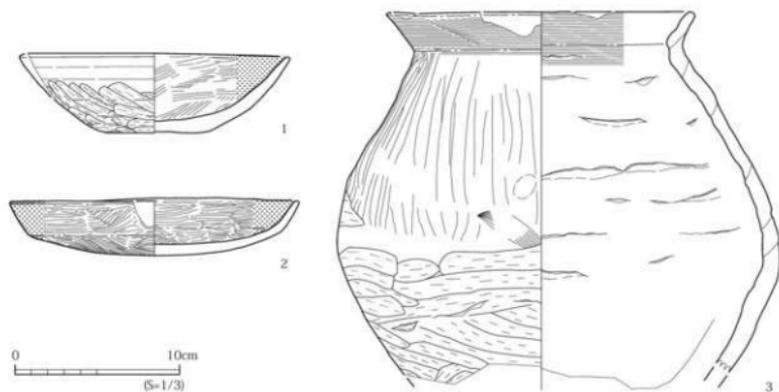
【SD12113A・B区画溝跡】 (図版346・349・350)

調査区南東隅で確認した、SX12221 東西道路跡 (北2道路) 南側溝に接続する南北溝跡である。2時期あり、B期が新しい。A期はSX12221 東西道路跡南側溝A期に、B期が南側溝B期に接続する。上層に灰白色火山灰が堆積するSX12221 南側溝C期には認められないため、火山灰降下前に廃絶したと考えられる。検出長はA期が41.3m、B期が16.4mである。A期は北2道路から南へ約20m延びたところで東-南とクランク状に折れて、多賀城市第21次調査で確認されたSD5578に繋がる。東への折れは3mほどである。B期は、北2道路から約16m延びたところで不明となっており、多賀城市調査区では対応する溝が確認されていない。方向はA期が北2道路から屈折部までがN-7°-E、東へ延びる3m分はE-15°-S、屈折部の南はほぼ真北を向く。B期はN-10°-Eである。

本溝は、SX5150 南北道路跡 (西5道路) 西側溝から約57m西に位置していることから、北2西6区の内部を、東西に2分する区画溝であったと考えられる。また、本溝は同区を南北に分割するSD12161・SD12162より古く、SD12162は火山灰堆積段階で機能していたと考えられる。これを北2道路の時期と対応させると、SD12113がA・B期に、SD12161・SD12162はC期と考えられ、北2道路A・B期とC期では、北2西6区の分割のあり方が大きく異なる (3分冊 図版706・707)。

〔重複〕(古) SD100 (新) SD12161・12162

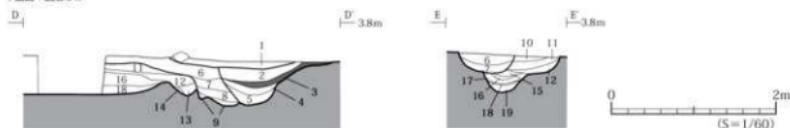
〔規模・堆積土〕B期が上幅0.7~0.8m、下幅0.3~0.4mで、深さは0.2mである。断面は椀形である。A期は上幅0.6m~2.2m、下幅0.4~0.8mで、深さ0.2~0.3mである。堆積土は黒褐色粘土質シルト



No.	器種	部位	調査	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・平	1部	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底面：木炭燻→手持ちヘラケズリ	(16.4)	(6.8)	4.9	1/3		4022
2	土師器・平	1部	外面：手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色処理 内面：ヘラミガキ→黒色処理	17.6	—	3.5	完好		4021
3	土師器・広口壺	1部	外面：[口] 直コナデ [底] ヘラミガキ、ヘラケズリ 内面：[口] 直コナデ	(18.6)	—	—	1/2		4023

図版345 SD12613区画溝跡出土遺物

平面図：図版 349



遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SD12204C (南側溝C期)	1	褐色 (10YR4/4)	シルト		
	2	暗褐色 (10YR3/4)	シルト	炭化物含む	
	3	褐色 (10YR4/4)	シルト	灰白色火山灰を含む	自然堆積土
	4	暗褐色 (10YR3/3)	シルト質粘土		
	5	黒褐色 (10YR2/2)	粘土	地山ブロック含む	
SD12204B (南側溝B期) SD12113B	6	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト		
	7	黒褐色 (10YR3/3)	シルト		自然堆積土
	8	暗褐色 (10YR3/3)	シルト質粘土		
	9	暗褐色 (10YR3/3)	シルト質粘土	地山ブロック含む	
SD12204A (南側溝A期) SD12113A	10	暗褐色 (10YR3/3)	シルト		
	11	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロック含む	
	12	黒褐色 (10YR2/2)	粘土	砂粒含む	
	13	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト質粘土	地山ブロック含む	
	14	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	シルト質粘土	地山ブロック多く含む	
	15	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト		自然堆積土
	16	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山ブロック含む	
	17	褐色 (10YR4/3)	粘土		
	18	褐色 (10YR4/4)	シルト質粘土	地山ブロック含む	
19	褐色 (10YR4/4)	シルト			

図版346 SD12113A・B区画溝跡断面図

などで、自然堆積である。

〔出土遺物〕(図版347)

A期堆積土(11～13層)から、土師器杯・甕、須恵器杯(1・2)・コップ形土器(3)・鉢・壺・甕、軒平瓦(5)・平瓦(6)、動物遺体(馬歯)などが出土した。土師器甕はロクロ調整を含む。須恵器杯は切り離し不明で回転ヘラケズリ調整のもの(1)と、回転糸切り(2)があり、2の底面には墨書が施された。須恵器甕は大戸産である。軒平瓦は単弧文(多賀城分類640)、平瓦はⅡB類で、ともに多賀城第Ⅱ期である。確認からは須恵器長頸壺(4)などが出土した。4は大戸産で、胴下部に环形焼台痕が認められる。

〔SD12161・SD12162区画溝跡〕(図版348・385)

調査区南端で確認した東西溝跡である。2時期あり、同位置で重複することから、新しいSD12162が掘り直しと考えられる(A期:SD12161→B期:SD12162)。西側の多賀城市第21次調査で確認したSD5882、東側のA区で確認したSD59、SD94、SD82と同一遺構である。SX12221東西道路跡(北2道路)南側溝から約24m南に離れて併行する。検出長はSD12161が22.6m、SD12162が12.8mで、方向は西側からSE12164付近までがE-5°-S、その東側はE-3°-Nである。

北2西6区を南北に分割した溝で、同区の南北幅が約120mであったとすれば、北から1/5の位置にあたる。また、本溝はSD12113区画溝跡より新しく、SD12162は灰白色火山灰の降下時に機能していたと考えられる。したがって、SD12113は北2道路A・B期に、SD12161・SD12162はC期となり、北2道路A・B期とC期では北2西6区の分割が異なる。

〔重複〕(古)SD5576・12113AB・12160・12163 (新)SE12164、SK12165・12166

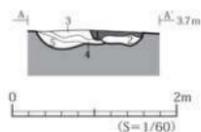
〔規模・堆積土〕SD12162は上幅0.7m、下幅0.5mで、深さは0.2mである。SD12161は上幅0.7m以上、



No.	器種	層位	調整	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
1	須恵器・杯	11~13層 (A期)	内外面:ロクロナデ 底部:切離し不明→回転ヘラケズリ	(14.3)	(7.8)	3.6	1/3	杯形焼台皿	3393
2	須恵器・杯	11~13層 (A期)	内外面:ロクロナデ 底部:回転糸切り→ナデ→磨面	—	(6.4)	—	1/5	底部に磨面「□」	3387
3	須恵器・コップ形土器	11~13層 (A期)	外面:ロクロナデ→〔体下部〕回転ヘラケズリ 内面:ロクロナデ 底部:切離し不明→回転ヘラケズリ	—	5.1	—	1/4		3388
4	須恵器・長脚壺	確認層	外面:高台胎付→ロクロナデ 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部	大戸産。杯形焼台皿	3390
5	瓦・軒平瓦	11~13層 (A期)	凸部:縄中き目 端部:ヘラケズリ	—	—	—	一部	多賀城Ⅱ期。平瓦文 640	3389
6	瓦・平瓦	11~13層 (A期)	凸部:縄タタキ目→ナデ 凹部:布目転→ナデ 端部:ヘラケズリ 一枚作り	—	—	—	2/3	多賀城分類:平瓦Ⅱ B類	3386

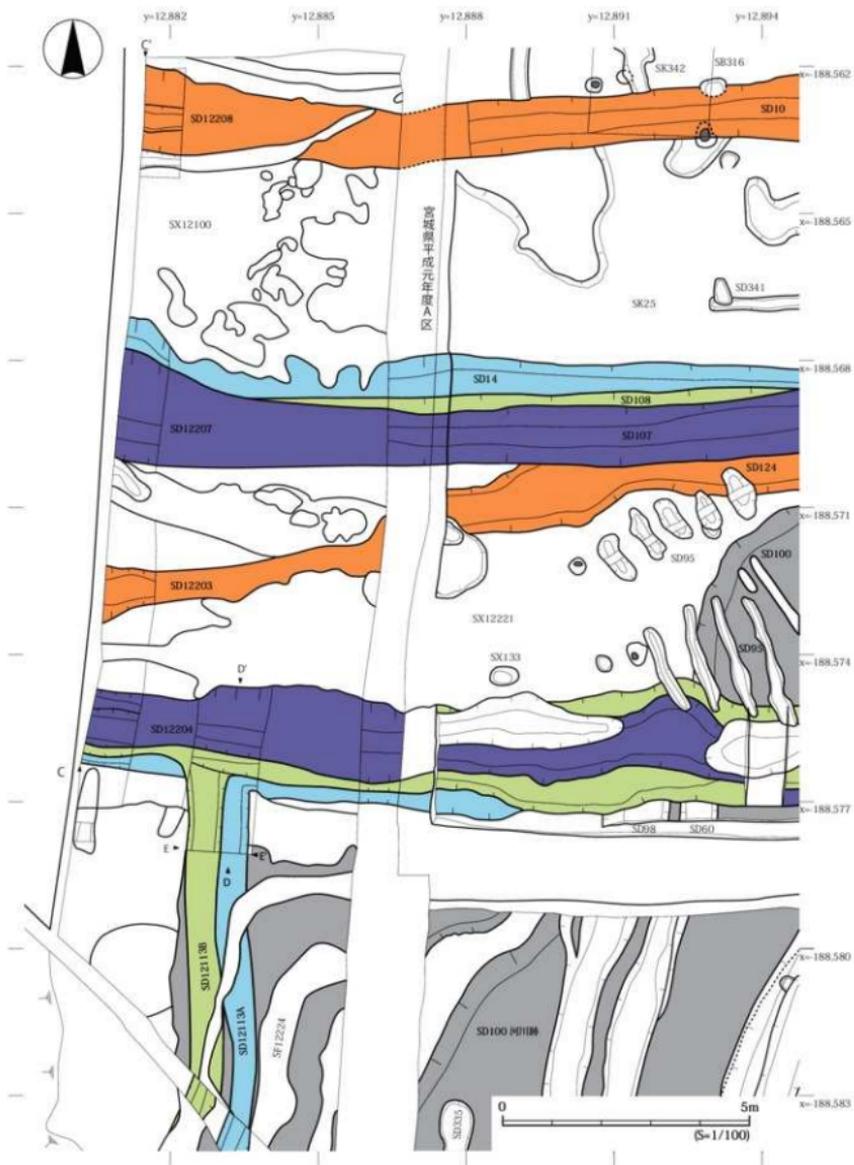
図版347 SD12113A・B区画溝跡出土遺物

平面図:図版 385



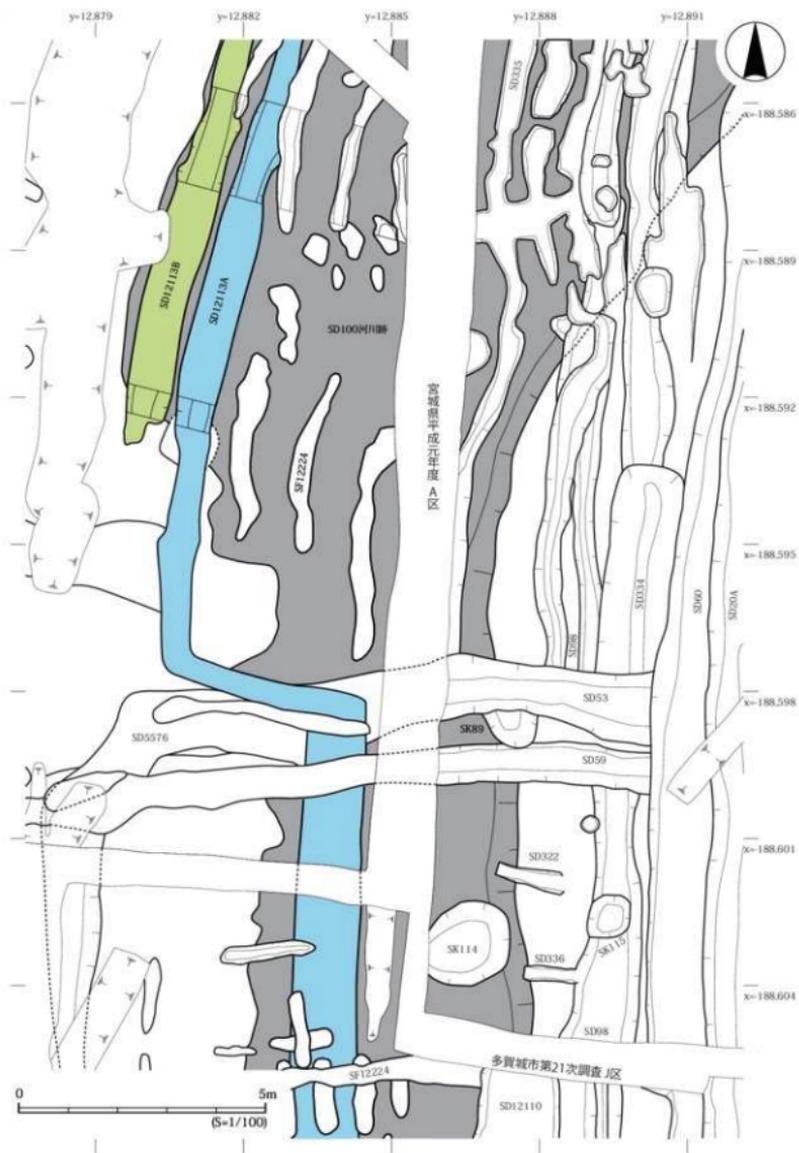
遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SD12162	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	動物糞、灰白角太山石を含む	自然堆積土
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む	
	3	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	陶器・地山ブロックを含む	
SD12161	4	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	しまり岩。地山ブロック多く含む	自然堆積土
	5	灰白色 (2.5Y7/1)	砂質シルト	しまり岩。地山ブロック多く含む	

図版348 SD12161・12162区画溝跡断面図



図版349 J区平面図1

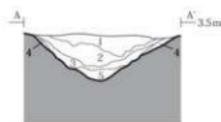
(J区の図例は図版336を参照)



(J 区の図割は図版336を参照)

図版350 J区平面図2

平面図：図版 359



層位	土色	土性	混入物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	シルト	マンガン・腐鉄を含む。地山ブロック少し含む	人為増積土
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	腐鉄含む。地山ブロック多く含む	
3	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土	粘性強。腐鉄含む。黄灰色細砂化ラミナ状に含む	
4	黒褐色(2.5Y3/2)	シルト	炭化物少し含む。地山ブロック少し含む	自然増積土
5	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土	粘性強。腐鉄含む	



層位	土色	土性	混入物など	備考
1	黒褐色(2.5Y3/2)	シルト	粘性弱。炭化物・地山ブロック少し含む。マンガン・腐鉄含む	人為増積土
2	黒色(10YR2/1)	粘土	腐鉄含む。地山ブロック少し含む	
3	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土	地山ブロック多く含む	
4	黒褐色(7.5Y3/1)	粘土	地山ブロックやや多く含む	
5	黄灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	地山ブロック少し含む	
6	黒褐色(10YR3/1)	粘土	粘性強。地山ブロック少し含む	自然増積土
7	黄灰色(7.5Y4/1)	粘土	地山ブロック少し含む	崩落土



SD11910 北例断面 (南から)



SD11910 南例断面 (南から)



SD11910 検出状況 (南東から)

図版351 SD11910区画溝跡

下幅0.5m以上で、深さは0.2mである。断面形は両方ともレンズ状である。堆積土は黒褐色の粘土質シルトなどで、自然堆積である。SD12162堆積土には灰白色火山灰層が認められる。

〔出土遺物〕SD12161堆積土から土師器甕、SD12162から土師器環・甕、須恵器環・甕が出土している。

【SD11910区画溝跡】(図版336・337・351・359・360・367・374・378・433)

調査区北部で確認したコ字状の溝跡で、検出長は72.6mである。北東部で確認したSD12337と一連の施設で、東西54m以上、南北45m以上の区画を隅丸台形状に囲む。また、本溝と並行するSD11969は、時期違いの区画溝とみられる。堆積土は基本層位Ⅱ層を基調としており、こうした特徴は、A区で確認した「八幡地区の屋敷跡」を構成するSD28・20と類似する(宮城県教委1997)。

〔重複〕(古)SB11924・11938周溝・11970・12031・12053・12616、SD11909・11982、SI11980、SK11937、SX12092・12089

〔規模・堆積土〕上幅1.7～1.9m、下幅0.2～0.5mで、深さは0.6～0.8mである。断面は逆台形もしくは逆三角形である。堆積土は黒褐色などの粘土やシルトである。下層(4～7層)は滞水状況下で壁面の崩落を伴いながら自然堆積し、上層(1～3層)は埋め戻されている。

〔出土遺物〕(図版352)

下層からは土師器甕、須恵器環・高台環・甕、赤焼土器環、丸瓦(2)などが、上層からは土師器環・甕、須恵器環・高台環・甕、平瓦、磨石(1)などが出土している。



No.	遺種	層位	調整	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	残存	備考	登録
1	石製品・磨石	上層		—	7.4	5.4	1/2	石材:砂岩。重さ:540.9g	3342
2	瓦・丸瓦	下層	凸部:ロケロナデ 凹部:布目 傷部:ヘラズリ 粘土結晶含有	—	—	1.9	一部	形状:半筒形。丸瓦ⅡⅡ型	3343

図版352 SD11910区画溝跡出土遺物

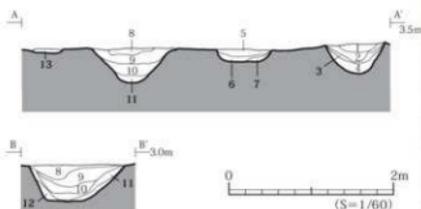
【SD12337区画溝跡】 (図版353・355)

調査区北東部で確認した南北溝跡である。SD11910と一体の施設で、東西54m以上、南北45m以上の区画を隅丸台形状に囲む。その東辺にあたり、検出長は19.5m、方向はN-2°-Wである。また、本溝と併行するSD12338は時期違いの区画溝とみられる。堆積土は基本層位第Ⅱ層を基調としており、こうした特徴は、A区で確認した「八幡地区の屋敷跡」を構成するSD28・20と類似する(宮城県教委1997)。

〔重複〕(古) SA12612、SD12607・12608、SF12232、SX12092

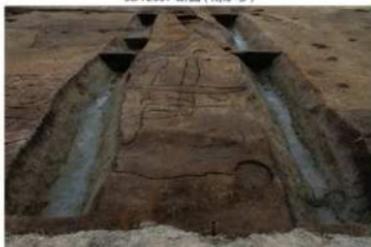
〔規模・堆積土〕規模は、上幅0.9~1.3m、下幅0.2~0.4mで、深さは0.4mである。断面は椀形である。堆積土は黒褐色・暗褐色などの粘土質シルト~砂質シルトで、下層が自然堆積、上層は人為堆積である。

平面図：図版355



SD12337断面(南から)

遺構名	層位	土色	土性	混入物など	備考
SD12338	1	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト		自然堆積土
	2	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト		
	3	黒褐色(10YR3/2)	砂質シルト		
SD12608	4	黒褐色(10YR3/4)	砂質シルト	地山砂を多く含む	人為堆積土
	5	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	炭化物・地山砂を含む	
	6	オリーブ褐色(2.5Y5/3)	シルト	地山砂を多く含む	
	7	黄褐色(2.5Y5/3)	微細砂	地山砂を多く含む	
SD12337 上層	8	黒褐色(10YR3/2)	砂質シルト		人為堆積土
	9	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト		
SD12337 下層	10	暗灰黄色(2.5Y4/2)	砂質シルト	地山砂を含む	自然堆積土
	11	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土質シルト		
SD12607	12	暗灰色(10YR4/1)	砂質シルト		人為堆積土
	13	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む	



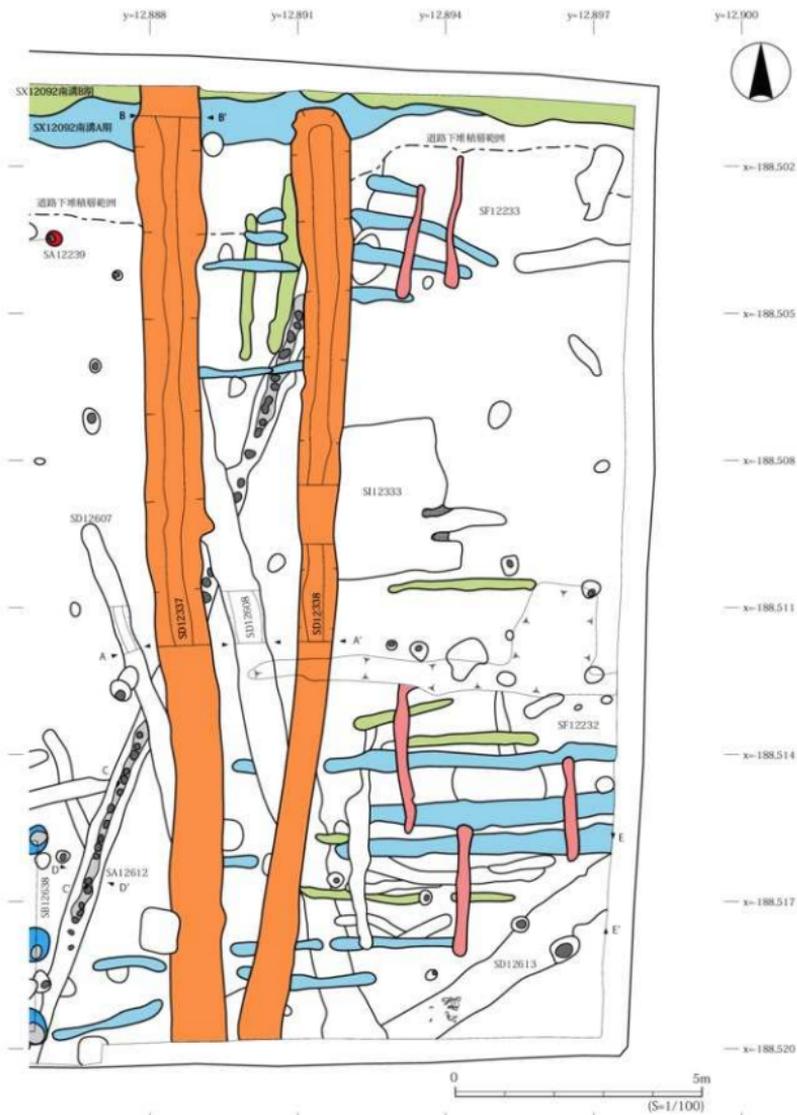
SD12337・12338完掘状況(北から)

図版353 SD12337・12338区画溝跡



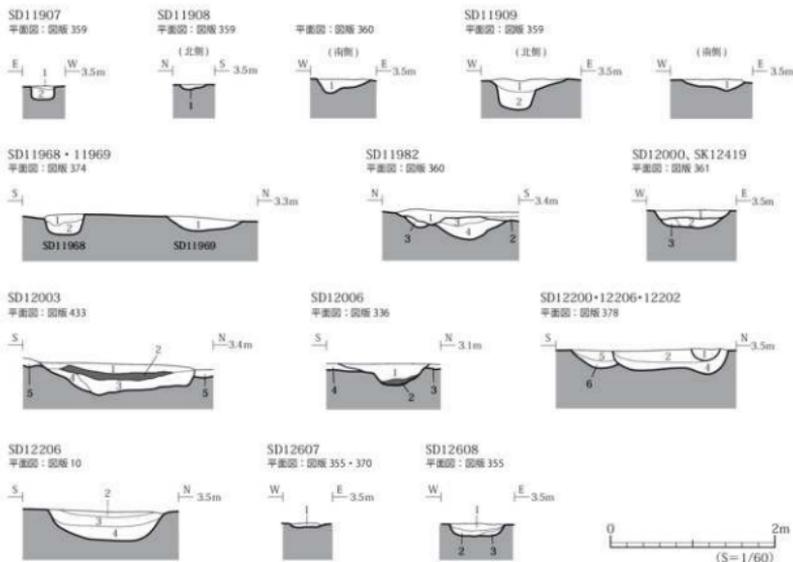
No.	遺構	層位	調整	口幅(cm) 底幅(cm) 高さ(cm)	残存	備考	登録	
1	須賀岡・高台坪	上層	内外面: ロクロナデ 底面: 切離し平明・中輪ヘラケズリ→高台船付→ナデ	-	-	-	一部 底部に切離し「大」。粘土に海綿骨片を含む	4026

図版354 SD12337区画溝跡出土遺物



(J区の図別は図版336を参照)

図版355 J区平面図3



通称名	層位	土色	土性	遺人物など	備考
SD11907	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	粘性强、細砂をやや多く含む。マンガンを含む	
	2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	ブロック土を多く含む。根跡を含む	
SD11908	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	ブロック土を多く含む。根跡を含む	
	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	炭化物細粒を少し含む。マンガン・根跡を含む	
SD11909	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	ブロック土をやや多く含む。マンガンを含む。底付近で流石下堆積の可能性のある薄い灰白色細砂層の堆積を認める	自然堆積土
	2	黒褐色 (10YR4/1)	砂質シルト		
SD11968	1	暗灰色 (10YR3/1)	シルト	根跡を含む	
	2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト		
SD11969	1	黄灰色 (2.5Y4/1)	シルト		
	1	灰黄褐色 (10YR6/2)	砂質シルト	地山ブロック・暗灰色砂質シルトブロックを混状に多く含む	SX12089
SD11982	2	灰黄色 (2.5Y6/2)	砂質シルト	暗灰色砂質シルトブロックを混状に多く含む	SX12089
	3	黄灰色 (2.5Y5/1)	砂質シルト	根跡を含む。地山ブロックを多く含む	
	4	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	砂質シルト	地山ブロック・暗灰色砂質シルトブロックを混状に多く含む	
SD12000	1	暗灰色 (10YR3/1)	砂質シルト	マンガンを多く含む。炭化物を少し含む	
	2	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	マンガンを多く含む。炭化物を少し含む	
SK12419	3	にじみ黄褐色 (2.5Y6/3)	シルト質砂	暗灰色砂質シルトブロックを含む	
	1	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	砂質シルト	根跡を含む	
SD12003	2	黒褐色 (2.5Y3/1)	シルト	灰白色火山灰を少し含む	火山灰堆積層
	3	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	砂質シルト	炭化物を含む	
	4	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト	地山ブロックを含む	
	5	灰黄褐色 (10YR6/2)	砂質シルト	地山ブロック・暗灰色砂質シルトブロックを混状に多く含む	SX12089
	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	地山ブロックを混状に含む	
SD12006	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	粘性强。火山灰を含む。地山ブロックを混状に含む	
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	地山ブロック・暗灰色砂質シルトブロックを混状に多く含む	SX12089
	4	灰黄色 (2.5Y6/2)	砂質シルト	暗灰色砂質シルトブロックを混状に多く含む	SX12089
SD12200	1	暗褐色 (10YR3/3)	粘質シルト	地山ブロックを少し含む	
	2	黒色 (10YR1/7)	シルト		
SD12206	3	灰黄色 (2.5Y6/2)	シルト	じまり強・粘性强。黒褐色シルトブロックを多く含む	
	4	灰黄色 (2.5Y7/2)	シルト	じまり強・粘性强。黒色シルト(腐植質ないし炭化物)をラミネート状に含む	
SD12202	5	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	じまり弱・粘性强	
	6	にじみ黄褐色 (10YR4/2)	シルト	じまり弱・粘性强。5層を混状に含む	
SD12607	1	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む	人為堆積土
	1	灰黄褐色 (10YR4/1)	砂質シルト	炭化物・地山粒を含む	人為堆積土
SD12608	2	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	シルト	地山粒を多く含む	
	3	黄褐色 (2.5Y5/3)	微細砂	地山粒を多く含む	人為堆積土

図版356 J区溝跡断面図



SD11907 断面 (北から)



SD11908 断面 (南西から)



SD11909 断面 (南から)



SD11968 断面 (東から)



SD11982 断面 (西から)



SD12000 断面 (南から)



SD12200・12202・12206 断面 (東から)



SD12206 断面 (東から)

図版357 J区溝跡断面写真

〔出土遺物〕(図版354)

下層からは土師器環・甕、須恵器環・高台環・甕・壺、丸瓦・平瓦などが、上層からは、土師器環・甕、須恵器高台環(1)・甕・壺などが出土した。須恵器高台環は、底部に刻書「大」が認められる。

【SD12338区画溝跡】(図版353・355)

調査区北東部で確認した南北溝跡である。検出長は19.1mで、方向はN-0°~9°-Eである。併行するSD12337は時期違いの区画溝とみられる。堆積土は基本層位第Ⅱ層を基調としており、こうした特徴は、A区で確認した「八幡地区の屋敷跡」を構成するSD28・20と類似する(宮城県教委1997)。

〔重複〕(古) SA12612、SD12608、SI12333、SF12232・12233、SX12092

〔規模・堆積土〕上幅0.6~1.2m、下幅0.2~0.5mで、深さは0.4mである。断面は椀形である。堆積土は黒褐色などの粘土質シルト~砂質シルトで、自然堆積である。

〔出土遺物〕堆積土から赤焼土器環、土師器環・甕、須恵器環・甕・蓋が出土した。

3. 溝跡

溝跡は40条(掘直しを含む)確認した。すべての溝跡の属性は表39にまとめている。

溝跡名	調査	検出長 (m)	断面形	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	方向	堆積土	新旧関係	出土遺物	回数	
											平面	断面
SD11855 (SD5601D)	完掘	18.0	逆台形	0.8 ~ 2.3	0.4 ~ 1.0	0.4	N-0° ~ N-40°-E	自然堆積	SK12092 → SD11855 → SD11950	堀] ロクロ土師器、須恵器環・甕・壺(破)	29	-
SD11906	完掘	2.0	浅い皿形	0.5	0.2	0.1	-	人為堆積	SB12497 → SD1106 → SF12805	-	361	-
SD11907	完掘	6.8	箱形	0.5	0.5	0.2	N-7°-E	-	-	-	359	356
SD11908	完掘	22.1	浅い皿形	0.3	0.1 ~ 0.2	0.1	N-20°-E ~ N-44°-E	-	SD11912 → SD11908	堀] 須恵器環・甕(破)、赤焼土器環(破)	29・359	356
SD11909	一部完掘	34.7	逆台形	0.6 ~ 0.9	0.4	0.2 ~ 0.3	N-9°-E ~ N-1°-W	自然堆積	SB11924・12091 → SD11909 → SD11910・12013	堀] 須恵器環・甕(破)、赤焼土器環・甕(破) 堀] 土師器甕(破)、須恵器環・甕(破)	350・360	356
SD11910	一部完掘	72.6	逆台形・逆三角形	1.7 ~ 1.9	0.2 ~ 0.5	0.6 ~ 0.8	-	自然堆積 人為堆積	SB11924・11938・11970・12031・12053・12016・SD11909・11982・SD11980・SK11937・SF12238 → SD11910、SX12092 → SD12089 → SD11910	堀] 須恵器環・甕(破)、須恵器環・甕(破) 堀] 土師器甕(破)、須恵器環・甕(破)	359・360・367・374・378・433	337・351
SD11911	完掘	2.6	レンズ形	0.2 ~ 0.3	0.1	0.1	N-43°-E	自然堆積	-	-	29・359	-
SD11912	完掘	8.0	浅い皿形	0.2	0.1	0.1	E-10°-S	自然堆積	SD11912 → SD11908	-	29	-
SD11951	確認	2.4	-	0.2	-	-	E-4°-S	-	SD11951 → SB11981	堀] 須恵器甕(破)	378	-
SD11952	確認	15.0	-	0.4	-	-	E-14°-N	-	SB12008 → SB11938・12045 → SD11936 → SD11952	-	378	-
SD11959	完掘	22.8	逆台形	1.2	0.5 ~ 0.6	0.3 ~ 0.4	N-28° ~ N-50°-E	自然堆積	SK11958 → SK12092 → SD11855 → SD11959	-	29	-
SD11968	完掘	11.2	箱形	0.4 ~ 0.6	0.3 ~ 0.5	0.3	E-16°-S	-	SB11970 → SD11968 → SD11969	-	374	356
SD11969	完掘	20.6	浅い皿形	0.4 ~ 1.0	0.3 ~ 0.6	0.2	E-11°-S	-	SB11970 → SD11968 → SD11969	陶器碗、染付磁器皿、軒瓦瓦	360・374	356
SD11976	確認	4.4	-	0.3	-	-	N-32°-W	自然堆積	SB12026 → SD11976	堀] 軒瓦瓦(破)	374	-
SD11982	掘削	9.8	浅いU字形	1.0 ~ 1.5	0.3	0.3	E-6°-S	-	SD11982 → SF12238 → SD11910	-	360・433	356
SD12000	完掘	3.4	浅い皿形	0.7 ~ 1.0	0.5 ~ 0.7	0.1	N-15°-E	-	SK12419 → SB12258・12643 → SD12000 → SK11905 → SF12085	-	361	356
SD12003	掘削	7.3	浅い逆台形	1.6 ~ 2.2	1.1	0.4	E-21°-N ~ E-6°-S	人為堆積 自然堆積	SX12089 → SD12003 → SK11900	堀] 土師器甕(破)、平瓦(破)	433	356

表39-1 J区溝跡属性表1

遺構名	調査	検出長 (m)	断面形状	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	方向	地層土	新旧関係	出土遺物	埋没 平面	数値
SD1204A-B	新測	19.4	逆台形	0.8~1.4	0.5	0.4	N-1°-E	自然堆積→ 人為堆積	SF1237→SK12089→ SD1204A-B→SD12006→ SK11900	[埋] 円筒瓦 [埋] 土師器(碗)、須恵器(鉢・ 鉢) (碗)	433	337
SD12006	新測	7.4	楕円形	0.8~2.1	0.4	0.3	E-11°-S	人為堆積	SK12089→SD12004A-B SD12006→SK11900	土師器(鉢・碗)、須恵器(鉢・ 碗)、軒平瓦(多賀城田~9期)	433	356
SD12009	完測	2.1	レンズ形	0.2	0.1	0.1	N-27°-E	自然堆積	SI11979→SD12009	[埋] 須恵器(へら切)+ナデテ(碗)	360	-
SD12012	完測	0.6	レンズ形	0.2	0.1	0.1	N-13°-E	自然堆積	SD11979→SK12018→ SD12012	[埋] 土師器(碗)	360	-
SD12013	一部完 測	3.6	レンズ形	0.2	0.1	0.1	N-13°-E	自然堆積	SD11909→SD11979→ SD12013		360	-
SD12083	完測	3.0	レンズ形	0.6	0.5	0.2	E-9°-S	自然堆積	SK12092→SD12083		29	-
SD12086	完測	4.4	浅い楕円形	0.6	0.5	0.1	E-5°-S	人為堆積?	SD11855→SD12086		29	-
SD12110	完測	3.5	逆台形	1.8	1.4	0.2	N-7°-E	人為堆積	S090→SF1224→SD1210	[埋] 土師器(鉢・碗)、須恵器(鉢・ 碗)	350	-
SD12113A-B	新測	41.3 [A] 16.4 [B]	楕円形	0.6~2.2 [A] 0.7~0.8 [B]	0.4~0.8 [A] 0.3~0.4 [B]	0.2~0.3 [A] 0.2 [B]	N-7°-E/ N-15°-5 [A] N-10°-E [B]	自然堆積		[A埋] 土師器(鉢・碗)、須恵器(鉢・ コップ形土皿・鉢・香・蓋(碗)、 軒平瓦、平瓦(碗)、動物遺体 [埋] 須恵器(土師器)	349・ 350	346
SD12159	確認	8.1	-	0.2	-	-	E-38°-N	-	SD12159→SF12148		385	-
SD12160	確認	3.6	-	0.6~1.0	-	-	N-11°-E	-	SD12160→SD12161→ SD12162		385	-
SD12161	確認	22.6	レンズ形	0.7*	0.5*	0.2	E-4.6°-S~ E-3°-N	自然堆積	S0576+I2100+I2163→ SD1213AB→SD12161→ SD12162→SE12164・ SK12165+I2166	[埋] 土師器(碗)	385	348
SD12162	新測	12.8	レンズ形	0.7	0.5	0.2	E-4.6°-S~ E-3°-N	自然堆積	S0576+I2100+I2163→ SD1213AB→SD12161→ SD12162→SE12164・ SK12165+I2166	[埋] 土師器(鉢・碗)、須恵器(鉢・ 碗)	385	348
SD12163	確認	9.5	-	-	-	-	E-7°-N	-	SD12163→SD12162→ SE12164+SK12165		385	-
SD12172	確認	1.1	-	0.2	-	-	N-20°-E	-	SD12172→SD12171		382	-
SD12178	確認	6.9	-	1.57	-	-	E-42°-N~ E-7°-N	自然堆積	SK12176→SD12178→ SF12149		379	-
SD12195	確認	14.2	-	0.3	-	-	E-6°-S~E -1°-N	-	SD12201→SD12195→ SF12205→SK12198	[埋] 須恵器(底部埋方「□」)	11・ 378	-
SD12197	確認	42.3	-	0.4	-	-	E-5°-S	-			11・ 378	-
SD12200	新測	13.2	楕円形	0.4	0.2	0.1	E-5°-S	-	SD12206→SD12201→ SD12200		378	356
SD12201	確認	7.8	-	0.5	-	-	N-34°-E	-	SD12202→SD12206→ SD12201→SK11981・ SD12195+I2200+I2202		378	-
SD12202	新測	8.1	楕円形	0.5~0.8	0.3	0.2	E-5°-S	-	SD12202→SD12206→ SD12201→SE12205	土師器(碗)、須恵器(鉢・ 碗)、丸平瓦(碗)	378	356
SD12206	新測	26.3	逆台形	0.8~1.7	0.7	0.4	E-1°-N~ E-20°-N	-	SD12202→SD12206→ SK12205→SK12221・ SD12201→SK11981・ SD12200		10・ 378	356
SD12324A-B	一部完 測	21.0	逆台形	1.4~1.9	0.5~0.6	0.5	N-1°-W	人為堆積→ 自然堆積	SI12321→SK12587・ SF12234→SD12324A-B	[1~3期] 土師器(コップ形、コウ 口蓋(碗)、須恵器(高台形杯・香 蓋(碗)、石皿(碗・皿)・磨石・ 四石、丸瓦・平瓦(碗)) [埋] 土師器(人字蓋、須恵器(鉢	370	342
SD12337	一部完 測	19.5	楕円形	0.9~1.3	0.2~0.4	0.4	N-2°-W	自然堆積→ 人為堆積	SK12612→SD12607・I2609 →SF12232→SD12337・ SK12392→SD12337	[土層] 土師器(鉢・碗)、須恵 器(高台形杯・高台形杯・香・蓋(碗)) [下層] 土師器(鉢・碗)、須恵 器(高台形杯・香・蓋(碗)、丸瓦・平 瓦(碗)) [埋] 土師器(鉢・碗)、須恵器 高台形杯・香(碗)	355	353
SD12338	一部完 測	19.1	楕円形	0.6~1.2	0.2~0.5	0.4	N-0°~ N-9°-E	自然堆積	SK12612→SD12608→ SI12333→SF12232+I2203 →SD12338・SK12392→ SD12338	[埋] 須恵器(鉢・香(碗)、土 師器(鉢・碗)、赤鉄土(碗)、 丸平瓦(碗)	355	353
SD12594	一部完 測	8.8	逆台形	0.4	0.36	0.1	E-3°-N	人為堆積	SK12588→SD12594		367	-
SD12607	新測	6.6	浅い楕円形	0.4~0.5	0.17	0.1	N-18°-W	人為堆積	SA12612→SD12607→ SD12337		355・ 370	353・ 356
SD12608	新測	13.8	逆台形	0.6~1.2	0.5~0.6	0.2	N-15°-W	人為堆積	SA12612→SD12613→ SD12608→SF12232→ SD12337+I2338		355	353・ 356
SD12613	新測	5.2	浅い楕円形	0.8	0.6	0.2	E-36°-N	自然堆積	SD12608→SD12613	[1期] 土師器(鉢・皿口蓋・香・ 鉢(碗)・蓋(碗))	355	344
SD12642	確認	2.4	-	0.8	-	-	E-12°-N	-	SD12642→SF12085	土師器(鉢・碗)	371	-

* 規模が不明なものは、数値に+を付して示している
 (・出土遺物) [埋]：遺構埋没出土土、[埋]：埋積出土土、(碗)：碗片資料

表39-2 J区溝跡属性表2

4. 掘立柱建物跡・掘立柱塼跡

掘立柱建物跡を42棟、掘立柱塼跡を3条確認した。建物跡は調査区北側に集中する傾向がある。以下、全体がわかる建物跡39棟、塼跡3条について説明する。すべての建物跡や塼跡の属性は表40・41にまとめた。

〈掘立柱建物跡〉

【SB11924 掘立柱建物跡】(図版358・359)

調査区北西部で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(新) SD11909・11910

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から2.4m・4.0m(2間分)で、総長は6.4mとみられる。梁行は、南妻でみると2.2m等間で総長は4.4mとみられる。方向は、西側柱列で測ると $N-4^{\circ}-E$ である。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。柱抜取穴が認められる。

〔柱穴〕長軸0.3～0.6mの楕円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む黒褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB12091 掘立柱建物跡】(図版358・360)

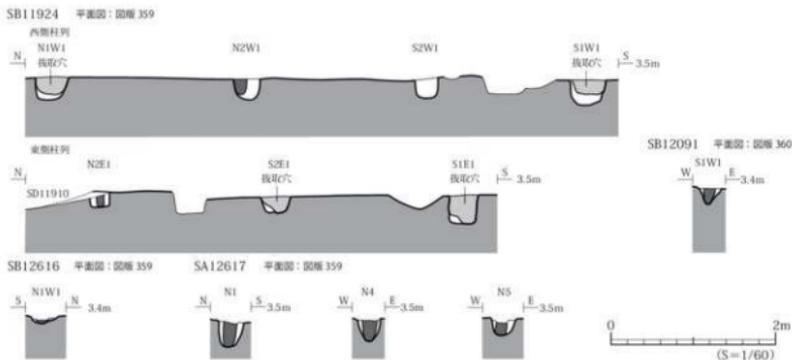
調査区北西部で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟総柱建物跡である。

〔重複〕(古) SI11978・11979、SK12016 (新) SD11909

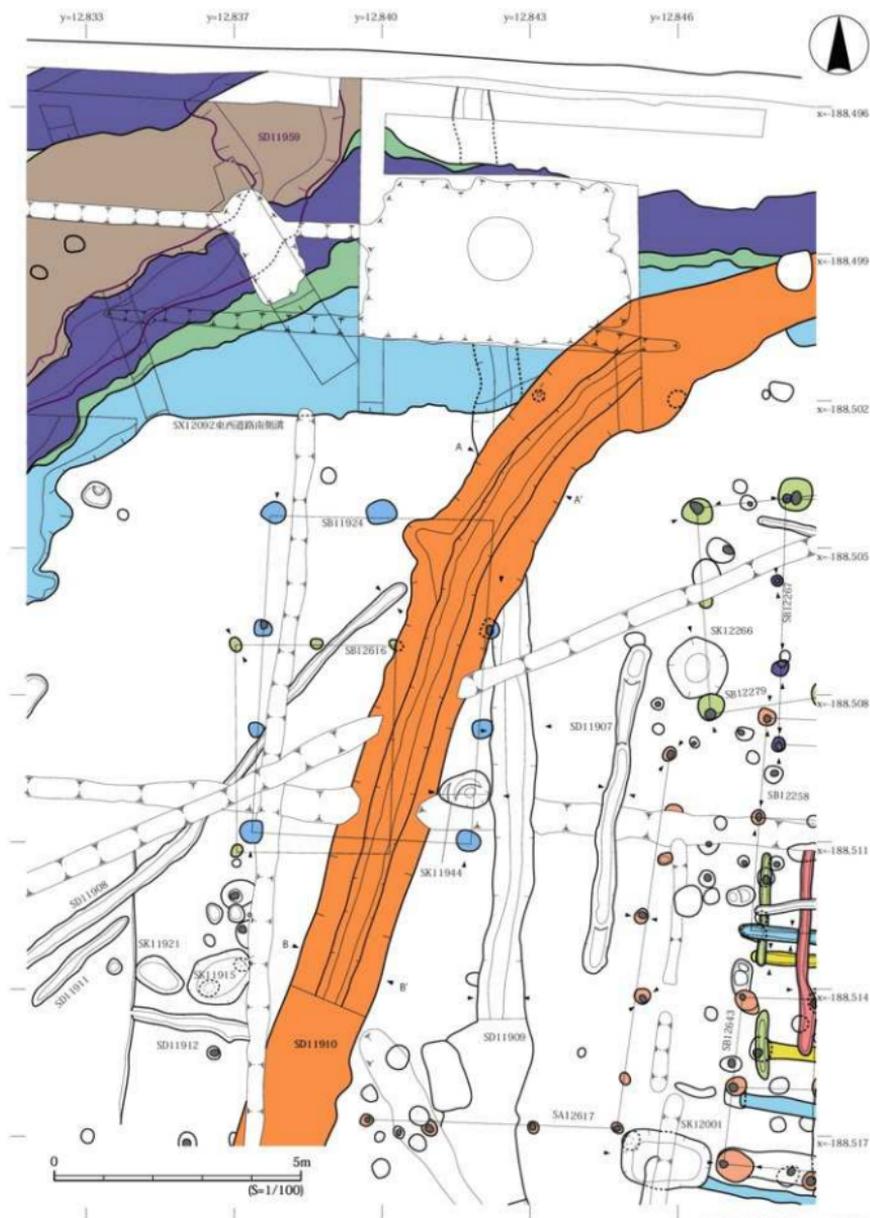
〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると2.1m等間で総長は4.2mとみられる。梁行は、北妻でみると西から1.9m・2.1mで、総長は4.0mとみられる。方向は、西側柱列で測ると $N-6^{\circ}-E$ である。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。

〔柱穴〕長軸0.4～0.6mの楕円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを含む暗褐色砂



図版358 SB11924・12091・12616掘立柱建物跡、SA12617掘立柱塼跡断面図



図版359 J区平面図 4
 図版359 J区平面図 4

(J区の図例は図版336を参照)
 *SD11959は最も新しい遺構



図版360 J区平面図5
図版360 J区平面図5

(J区の図割は図版336を参照)

質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

〔SB12258 掘立柱建物跡〕 (図版361・362)

調査区北部中央で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟総柱建物跡である。

〔重複〕(新) SB12585、SD12000、SK12265・12419、SF12085、SX11905

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から2.0m・1.9m・1.8mで、総長は5.7mとみられる。梁行は、西妻でみると北から2.0m・2.4mで、総長は4.4mとみられる。方向は北側柱列で測るとE-3°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形で、柱抜取穴が認められる。

〔柱穴〕長軸0.3~0.6mの楕円形で、深さは0.5mである。掘方埋土は地山ブロックを含む褐灰色砂質シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器甕などが出土した。

〔SB12267 掘立柱建物跡〕 (図版361・362)

調査区北部中央で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SB12279 (新) SX11905

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から1.7m・1.7m・1.6mで、総長は5.0mである。梁行は、南側柱列でみると1.8m等間で総長は3.6mである。方向は東側柱列で測るとN-1°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕直径0.3~0.4mの円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は地山ブロックを含む暗灰色・灰色などの砂質シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環などが出土した。

〔SB12279 掘立柱建物跡〕 (図版359・361・362)

調査区北部中央で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古) SK12266 (新) SB12267

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から2.0m・2.2m・2.2mで、総長が6.4mとみられる。梁行は、東妻でみると北から1.9m・2.0mで、総長は3.9mとみられる。方向は北側柱列で測るとE-7°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。

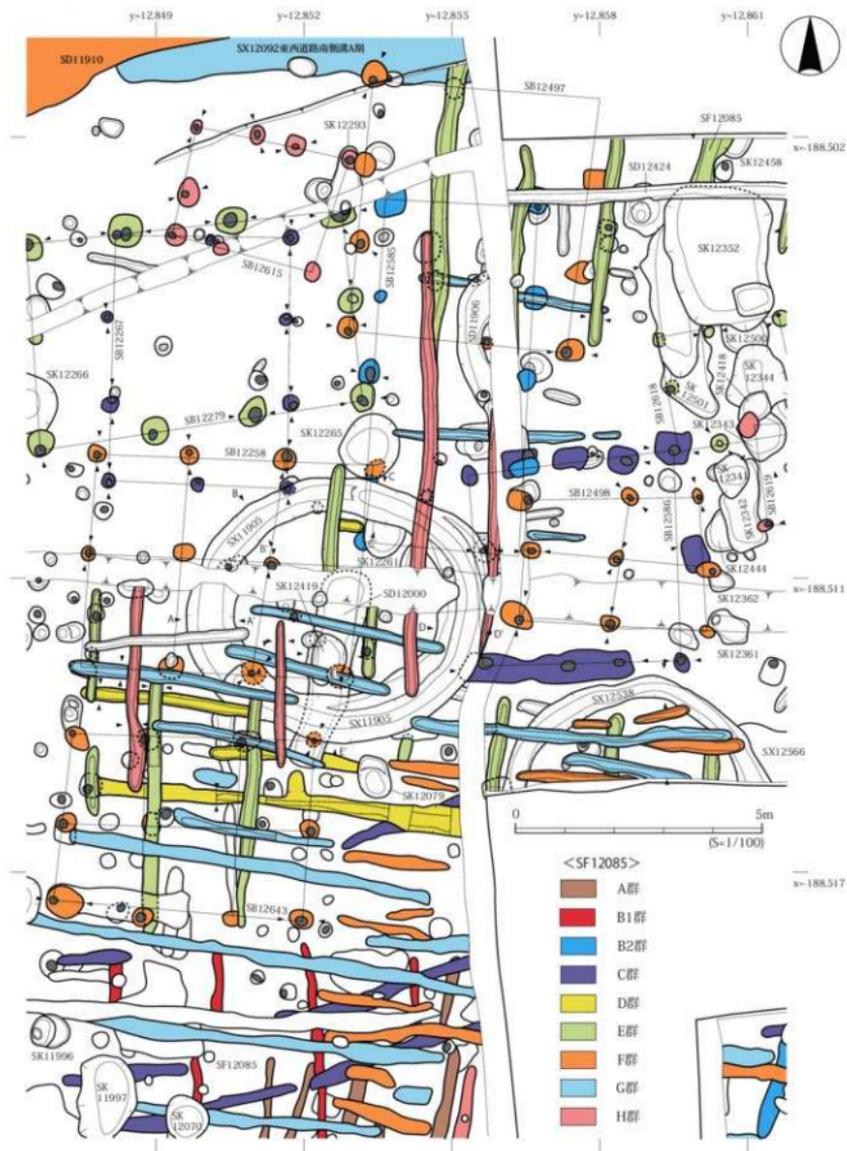
〔柱穴〕長軸が0.5~0.7m楕円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む褐灰色砂質シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から須恵器環などが出土した。

〔SB12497 掘立柱建物跡〕 (図版361・362)

調査区北部中央で確認した桁行3間・梁行3間の南北棟建物跡である。

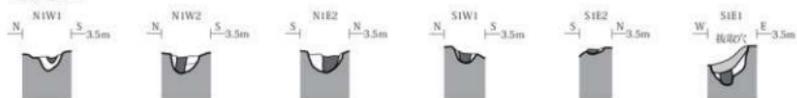
〔重複〕(古) SB12615、SK12293、SX12092 (新) SD11906、SF12085



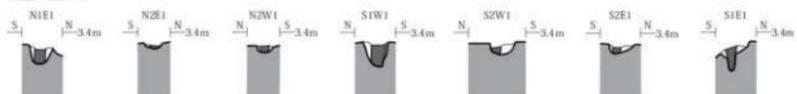
図版361 J区平面図6

(J区の図別は図版336を参照)

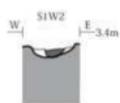
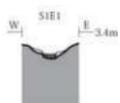
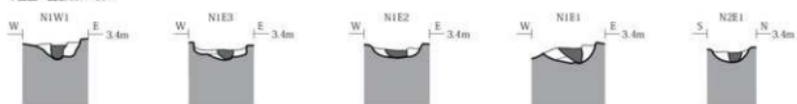
SB12258
平面図：図版 361



SB12267
平面図：図版 361

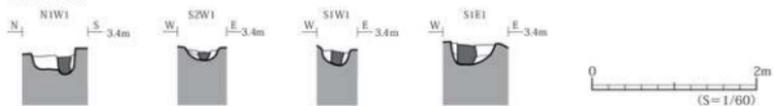


SB12279
平面図：図版 359・361

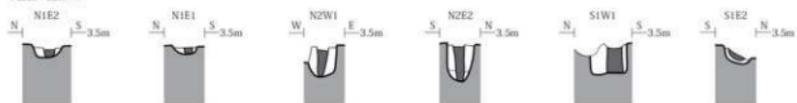


SB12279 半断面状況 (東から)

SB12497
平面図：図版 361



SB12498
平面図：図版 361



図版362 SB12258・12267・12279・12497・12498掘立柱建物跡

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から3.4m（2間分）・1.8mで、総長は5.2mである。梁行は、南妻でみると西から2.9m（2間分）・1.6mで、総長は4.5mである。方向は西側柱列で測るとN-6°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕長軸が0.4～0.6mの楕円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は地山ブロックを含む褐灰色などの砂質シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から須恵器環などが出土した。

【SB12498掘立柱建物跡】（図版361・362）

調査区北部中央で確認した桁行2間・梁行2間の東西棟総柱建物跡である。

〔重複〕（古）SB12586

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から2.1m・1.4mで総長が3.5m、梁行は西妻でみると北から1.1m・1.4mで総長は2.5mである。方向は北側柱列で測るとE-3°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。

〔柱穴〕長軸0.3～0.7m楕円形で、深さは0.5mである。掘方埋土は地山ブロックを多く含むにぶい黄褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB12585掘立柱建物跡】（図版361・363）

調査区北部中央で確認した桁行4間・梁行1間の南北棟建物跡である。

〔重複〕（古）SB12258・12586（新）SK12261・12265、SF12085、SX11905

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から3.6m（2間分）・3.5m（2間分）で、総長は7.1mとみられる。梁行は北妻で2.9mである。方向は西側柱列で測るとN-4°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕長軸0.4～0.7mの楕円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は地山ブロックを含む暗灰黄色などの砂質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB12586掘立柱建物跡】（図版361・363）

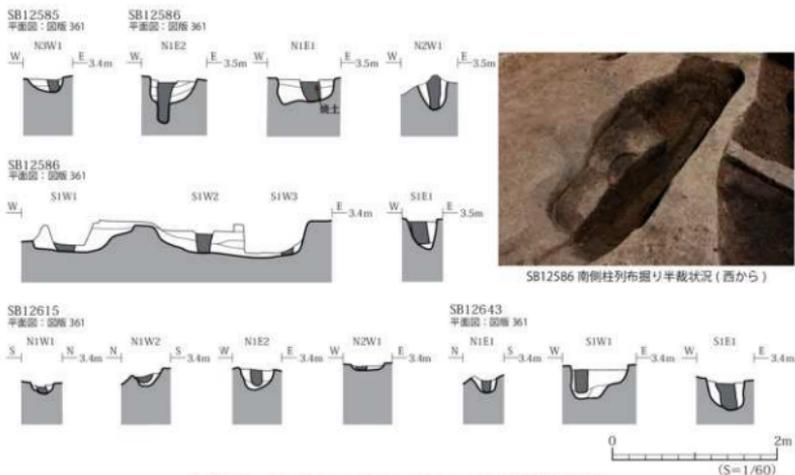
調査区北部中央で確認した桁行4間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕（新）SB12498・12585、SX11905

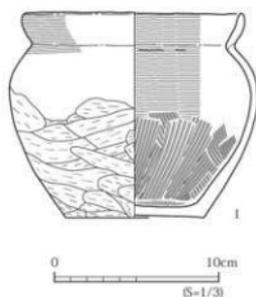
〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から1.8m（2間分）・1.0m・1.2mで総長が4.0m、梁行は、西側柱列でみると北から1.5m・2.4mで、総長は3.9mとみられる。方向は北側柱列で測るとE-4°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.2～0.3mの円形で、沈下が認められるものがある。

〔柱穴〕長軸0.4～0.7m隅丸方形で、深さは0.5mである。南側柱列の西から2間分は布掘り掘方となっている。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色などの砂質シルトである。



図版363 SB12585・12586・12615・12643掘立柱建物跡



No.	器種	層位	図号	口径(cm)	胴径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録	
1	土師器・広口壺	掘方埋土	外面：〔I〕ヨコナデ 内面：〔II〕ヨコナデ	〔体～底面〕手持ちヘラケズリ 〔底〕ナイフノケ	(13.5)	8.6	12.5	2/3		4039

図版364 SB12586掘立柱建物跡出土遺物

〔出土遺物〕(図版364)

掘方埋土から土師器環・広口壺(1)・小型甕・甕、須恵器甕などが出土した。

【SB12615掘立柱建物跡】(図版361・363)

調査区北部中央で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古)SK12297(新)SB12497

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列のみと西から1.2m・0.8m・1.1mで、総長は3.1m、



図版365 SB12584・12618・12619掘立柱建物跡断面図



図版366 J区北東部全景1(北東から)

梁行は西表でみると、北から1.4m・0.9mで、総長は2.3mである。方向は北側柱列で測るとE-12°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。

〔柱穴〕長軸0.3～0.5mの不整楕円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを含む褐灰色などの砂質シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器裏などが出土した。

【SB12643掘立柱建物跡】 (図版361・363)

調査区北部中央で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟総柱建物跡である。

〔重複〕(新) SD12000、SF12085、SX11905

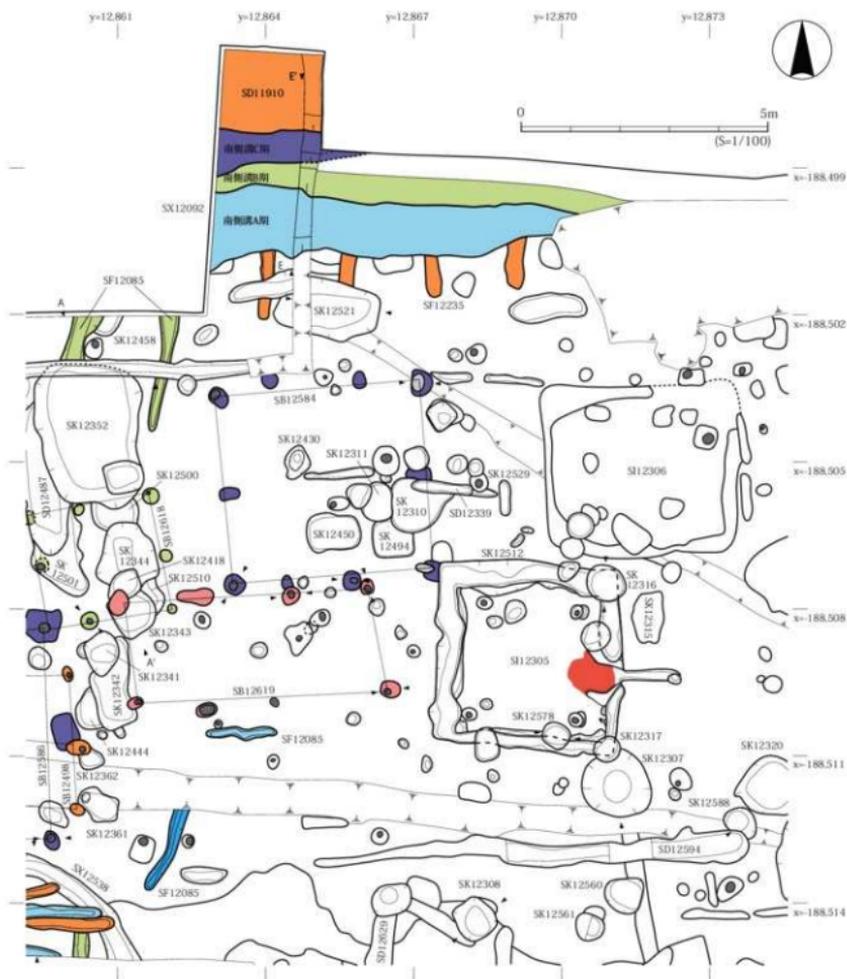
〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から1.6m・1.9m・1.4mで総長が4.9m、梁行は西側柱列でみると、北から1.8m・1.7mで総長は3.5mである。方向は北側柱列でみるとE-1°

-Sである。

〔柱痕跡〕 直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕 長軸0.4～0.8mの楕円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色などの砂質シルトである。

〔出土遺物〕 なし。



図版367 J区平面図7

(J区の図例は図版336を参照)

【SB12584 掘立柱建物跡】(図版365・367)

調査区北部中央で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(新) SB12619、SI12305、SK12310

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から2.5m(2間分)・1.6mで総長が4.1mである。梁行は、西妻でみると3.9m(2間分)である。方向は北側柱列で測るとE-5°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形で、すべて抜き取られている。

〔柱穴〕長軸0.3～0.5mの楕円形で、深さは0.5mである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色などの砂質シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕などが出土した。

【SB12618 掘立柱建物跡】(図版361・365・367)

調査区北部中央で確認した桁行2間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(新) SB12586、SD12487、SK12501

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から1.0m・1.5mで、総長は2.5mとみられる。梁行は、西妻でみると北から1.3m・1.0mで、総長は2.3mである。方向は北側柱列で測るとE-11°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形で、抜き取られている。

〔柱穴〕長軸0.3～0.4mの楕円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを含む暗灰黄色などのシルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB12619 掘立柱建物跡】(図版365・367)

調査区北部中央で確認した桁行3間・梁行1間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古) SK12342・12343・12418

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から3.4m(2間分)・1.6mで、総長は5.0mとみられる。梁行は、東妻でみると2.2mである。方向は北側柱列で測るとE-2°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほど円形である。

〔柱穴〕0.4～0.8mの楕円形で、深さは0.2mである。掘方埋土は地山ブロックを含む暗褐色などの砂質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB12638 掘立柱建物跡】(図版368・370)

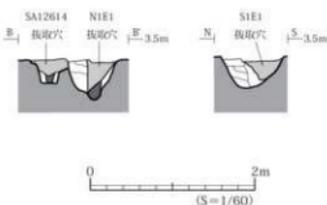
調査区北東部で確認した桁行2間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古) SA12162・12164

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から2.1m・2.0mで、総長は4.1mとみられる。梁行は、東妻でみると北から2.1m・1.9mで、総長は4.0mとみられる。方向は南側柱列で測るとE-2°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形で、すべて抜き取られている。

平面図：図版 370



図版368 SB12638掘立柱建物跡



図版369 J区北東部全景2 (北西から)

〔柱穴〕長軸0.6～0.8mの不整楕円形で、深さは0.5mである。掘方埋土は地山ブロックを含むオリープ褐色などのシルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕などが出土した。

【SB12563掘立柱建物跡】(図版371・372)

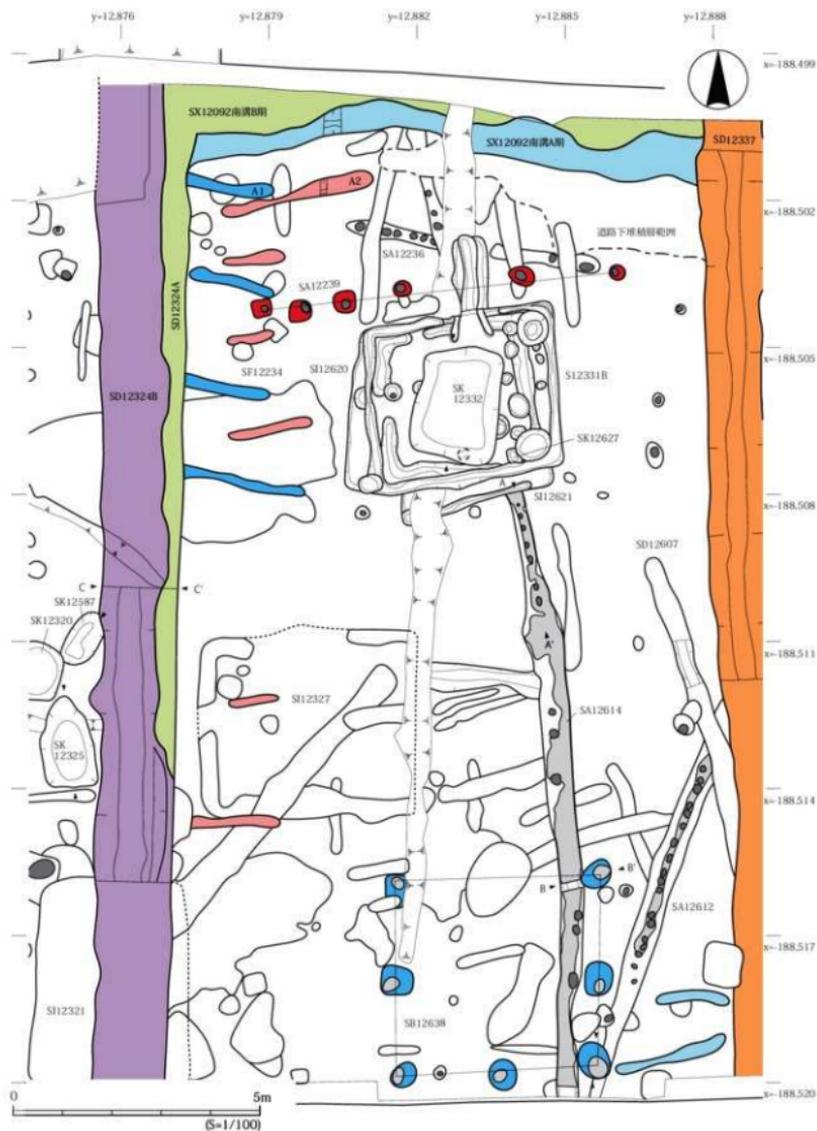
調査区北部で確認した梁行3間の南北棟とみられる建物跡である。北妻のみ検出した。

〔重複〕(新) SB12564

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、2.3m前後で総長は6.9mとみられる。方向は、北妻で測るとE-9°-Sである。

〔柱痕跡〕SB12564に壊されて不明である。

〔柱穴〕一辺0.8～1.3mの隅丸方形で、深さは0.7mである。掘方埋土は地山ブロックを多く含むにぶい黄灰色などの砂質シルトである。



(J区の図例は図版336を参照)

図版370 J区平面図8



<SF12085>



B2群



C群



E群



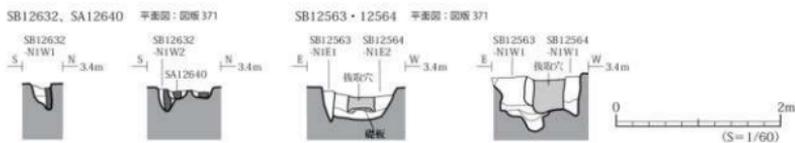
F群



G群

(J区の図割は図版336を参照)

図版371 J区平面図9



SB12563・12564-N1W1 断面 (北から)

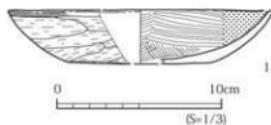


SB12563-N1E1・12564-N1E2 断面 (北から)



SB12563・12564・12632、SA12640 写真 (東から)

図版372 SB12563・12564・12632掘立柱建物跡、SA12640掘立柱礎跡



No.	器種	層位	図説	口径 [cm] 底径 [cm] 器高 [cm]	残存	備考	登録
1	土師器・杯	新方層土	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→褐色処理	(18.0) (18.0) 3.3	一部		4037

図版373 SB12563掘立柱建物跡出土遺物

〔出土遺物〕(図版373)

掘方埋土から土師器環(1)、赤焼土器環などが出土した。

〔SB12564 掘立柱建物跡〕(図版371・372)

調査区北部で確認した梁行4間の南北棟とみられる建物跡である。北妻のみの検出で、東に廂が付く。本建物は、廂の柱穴が身舎に較べて小さいことから、身舎非一体型の廂(下屋)もしくは縁と考えられる。また、SB12563は本建物の柱穴と同位置で重複することから同一建物の可能性があり、その場合、建替え後に廂が付設されたと考えられる。

〔重複〕(古) SB12563

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、梁行が北妻でみると西から2.2m・2.4m・2.3mで総長6.9m、廂の出が2.5mである。方向は、北妻で測るとE-9°-Sである。

〔柱痕跡〕身舎は直径0.2~0.3m前後の円形で、廂は直径0.1mほどの円形である。すべて抜き取られており、入側柱列北端の柱抜取穴の下では礎板とみられる板を確認した。

〔柱穴〕身舎の柱穴は、一辺0.7~0.8mの隅丸方形で深さは0.4mである。廂の柱穴は長軸0.3mの楕円形である。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黄灰色砂質シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環などが出土した。

〔SB12632 掘立柱建物跡〕(図版371・372)

調査区北部で確認した桁行2間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(新) SA12640

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から1.3m・1.5mで、総長は2.8mとみられる。梁行は西妻でみると2.1m(2間分)である。方向は北側柱列で測るとE-8°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.1mほどの円形である。

〔柱穴〕直径0.3~0.7mの円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色などの粘土質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

〔SB11970 掘立柱建物跡〕(図版374・375)

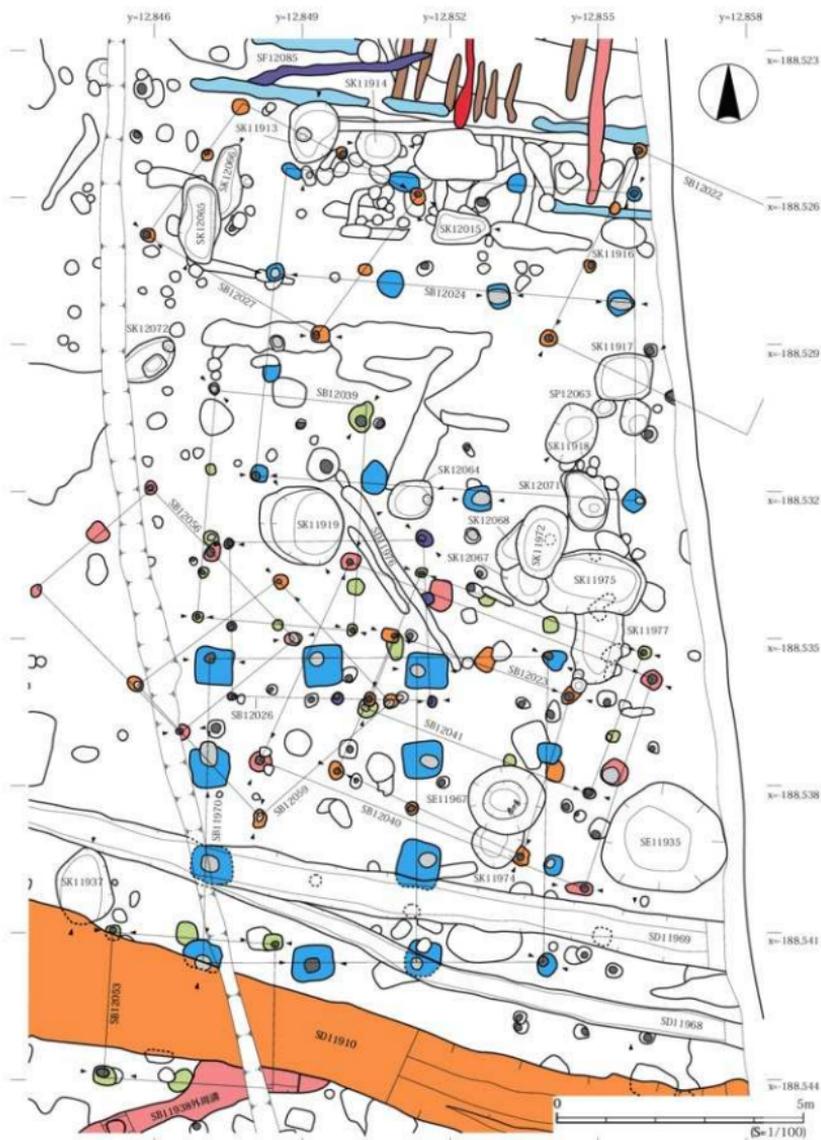
調査区北部で確認した桁行3間・梁行3間の東廂付南北棟建物跡である。本建物は、身舎と廂の柱痕跡や柱穴に大きな違いが認められないことから、身舎一体構造の廂と考えられる。

〔重複〕(古) SB12023・12053 (新) SD11910・11968・11969

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から2.1m・2.0m・2.0mで、総長が6.1mである。梁行は、南妻でみると2.2m等間で総長4.4m、廂の出は2.6mである。方向は西側柱列でみるとN-2°-Eである。

〔柱痕跡〕身舎は直径0.3m前後の円形で、沈下し、すべて抜き取られている。廂は直径0.2mの円形である。

〔柱穴〕身舎の柱穴は一辺0.7~1.0mの隅丸方形、廂の柱穴は長軸0.5mの楕円形である。深さはともに0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色砂質シルトである。



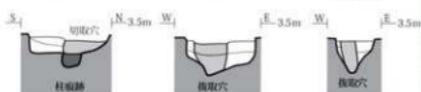
<SF12085>

- A群
- B1群
- C群
- G群
- H群

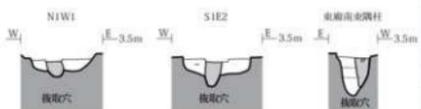
図版374 J区平面図10

(J区の図例は図版336を参照)

SB11970
平面図：図版374
N2W1

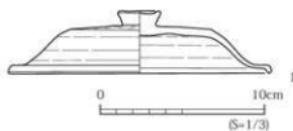


SB11970-N1W1 断面 (南から)



SB11970 検出状況 (北から)

SB11970 出土遺物

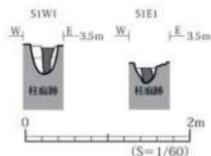
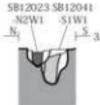
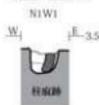


No.	器種	層位	図案	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	銅器蓋・蓋	東方埋土	外面：ロクロナデ→回転ヘラクズリ→ツマミ付→ナデ 内面：ロクロナデ	(14.8)	-	4.8	1/2	火葬。 埋土鉄ツマミ径：2.6cm	3429

SB12022
平面図：図版374



SB12023
平面図：図版374



図版375 SB11970・SB12022・SB12023掘立柱建物跡

〔出土遺物〕(図版375)

掘方埋土から土師器環・甕、須恵器環・蓋(1)・甕、柱抜取穴から土師器甕・須恵器甕などが出土した。

【SB12023 掘立柱建物跡】(図版374・375)

調査区北部で確認した桁行2間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古)SB12041 (新)SB11970、SK11974

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から1.7m・2.4mで、総長は4.1mである。梁行は西妻でみると、北から1.4m・1.6mで、総長は3.0mである。方向は南側柱列で測るとE-25°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.1mほどの円形である。

〔柱穴〕長軸0.3～0.5mの楕円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB12024 掘立柱建物跡】(図版374・376)

調査区北部で確認した桁行3間・梁行3間の北廂付東西棟建物跡である。

〔重複〕(古)SB12039 (新)SB12027

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から4.6m(2間分)・3.2mで、総長が7.8mとみられる。梁行は、西妻でみると南から4.2m(2間分)で、廂の出は2.1mとみられる。方向は南側柱列で測るとE-4°-Sである。

〔柱痕跡〕身舎は直径0.2mの円形、廂は直径0.1mの円形で、柱は沈下し、すべて抜き取られている。

〔柱穴〕身舎は長軸0.4～0.7mの不整楕円形で、深さは0.6mである。廂は直径0.3mの円形である。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色などの砂質シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器甕、須恵器環、鉄製刀子などが出土した。

【SB12026 掘立柱建物跡】(図版374・376)

調査区北部で確認した桁行2間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古)SB12040 (新)SD11976、SK11919

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から2.1m・1.9mで、総長が4.0mである。梁行は、西妻でみると北から1.7m・1.4mで、総長は3.1mである。方向は南側柱列で測るとE-2°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.1mほどの円形である。

〔柱穴〕長軸0.3～0.4mの楕円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB12027 掘立柱建物跡】(図版374・376)

調査区北部で確認した桁行2間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古) SB12024

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から2.3m・1.7mで、総長は4.0mである。

梁行は東妻でみると3.5m(2間分)である。方向は北側柱列で測るとE-28°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.1mほどの円形である。

〔柱穴〕直径0.3～0.4mの円形で、深さは0.5mである。掘方埋土は地山ブロックを含むオリーブ褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環、須恵器環・甕などが出土した。

【SB12039 掘立柱建物跡】(図版374・376)

調査区北部で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(新) SB12024・12056

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から3.7m(2間分)・0.9mである。梁行は、南妻でみると西から1.6m・1.5mで総長は3.1mとみられる。方向は西側柱列で測るとN-4°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.1m前後の円形で、すべて抜き取られている。抜取穴には焼土粒が含まれる。

〔柱穴〕直径が0.2～0.3mの円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB12040 掘立柱建物跡】(図版374・376)

調査区北部で確認した桁行2間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(新) SB11970・12026

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると6.6m(2間分)である。梁行は、東妻でみると北から2.1m・2.5mで、総長は4.6mとみられる。方向は北側柱列で測るとE-20°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.1～0.2mの円形で、すべて抜き取られている。

〔柱穴〕長軸0.4～0.6mの楕円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む暗オリーブ褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕、須恵器壺、赤焼土器環などが出土した。

【SB12041 掘立柱建物跡】(図版374・376)

調査区北部で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(新) SB12023、SE11967

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると4.8m(3間分)である。梁行は、東妻でみると北から1.8m・1.2mで、総長は3.0mである。方向は北側柱列で測るとE-20°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.1～0.2mの円形で、すべて抜き取られている。

〔柱穴〕長軸0.3～0.6mの円形や楕円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む



図版376 SB12024・12026・12027・12039・12040・12041・12053・12056・12059掘立柱建物跡断面図

む暗褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB12053掘立柱建物跡】(図版374・376)

調査区北部で確認した桁行2間・梁行2間とみられる東西棟建物跡である。

〔重複〕(新) SB11938・11970、SD11910

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると3.3m(2間分)、梁行は西妻でみると、3.0m(2間分)である。方向は北側柱列で測るとE-4°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.1~0.2mの円形で、抜き取られている。

〔柱穴〕長軸0.3~0.6mの方形や楕円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色などの砂質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB12056 掘立柱建物跡】(図版374・376)

調査区北部で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SB12039

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から1.8m・2.4mで、総長が4.2mである。梁行は北妻でみると西から1.7m・1.4mで、総長は3.1mとみられる。方向は東側柱列で測るとN-43°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.1～0.2mの円形である。

〔柱穴〕長軸0.3～0.4mの楕円形で、深さは0.2mである。掘方埋土は地山ブロックを含む暗オリーブ褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB12059 掘立柱建物跡】(図版374・376)

調査区北部で確認した桁行1間・梁行1間の建物跡である。

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、南北が西側柱列で3.5m、東西は北側柱列で3.6mである。方向は西側柱列でみるとN-42°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.1～0.2mの円形で、すべて抜き取られている。

〔柱穴〕長軸0.3～0.4mの楕円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は地山ブロックを含むオリーブ褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB11981 掘立柱建物跡】(図版377・378)

調査区中央部で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。北妻に廂が付く。本建物の廂は妻側にあり、その柱穴が身舎に較べて小さいことから、身舎非一体型(下屋)と考えられる。

〔重複〕(古) SD11951・12201・12206

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から1.5m・3.1m(2間分)で、総長は4.6m、廂の出は1.8mである。梁行は、北入側柱列でみると1.8m等間で、総長は3.6mである。方向は東側柱列で測るとN-7°-Eである。

〔柱痕跡〕身舎が直径0.2m、廂は直径0.1mの円形で、すべて抜き取られている。

〔柱穴〕身舎は一辺0.4m前後の隅丸方形で、深さは0.4mである。廂は直径0.2～0.3mの楕円形である。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒色や黒褐色のシルトである。

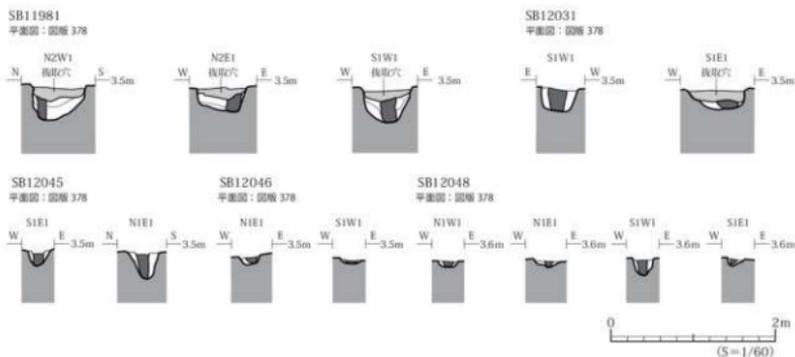
〔出土遺物〕掘方埋土から土師器杯・甕、須恵器杯・短頸壺、砥石などが出土した。

【SB12031 掘立柱建物跡】(図版377・378)

調査区中央部で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(新) SD11910

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から1.9m・2.7m(2間分)で、総長は4.6mとみられる。梁行は西妻でみると4.1m(2間分)とみられる。方向は南側柱列でみるとE-20°-Sである。



SB12031-S1W1 断面(北から)



SB11981-N2W1 断面(西から)

SB11981 検出写真
(北から)

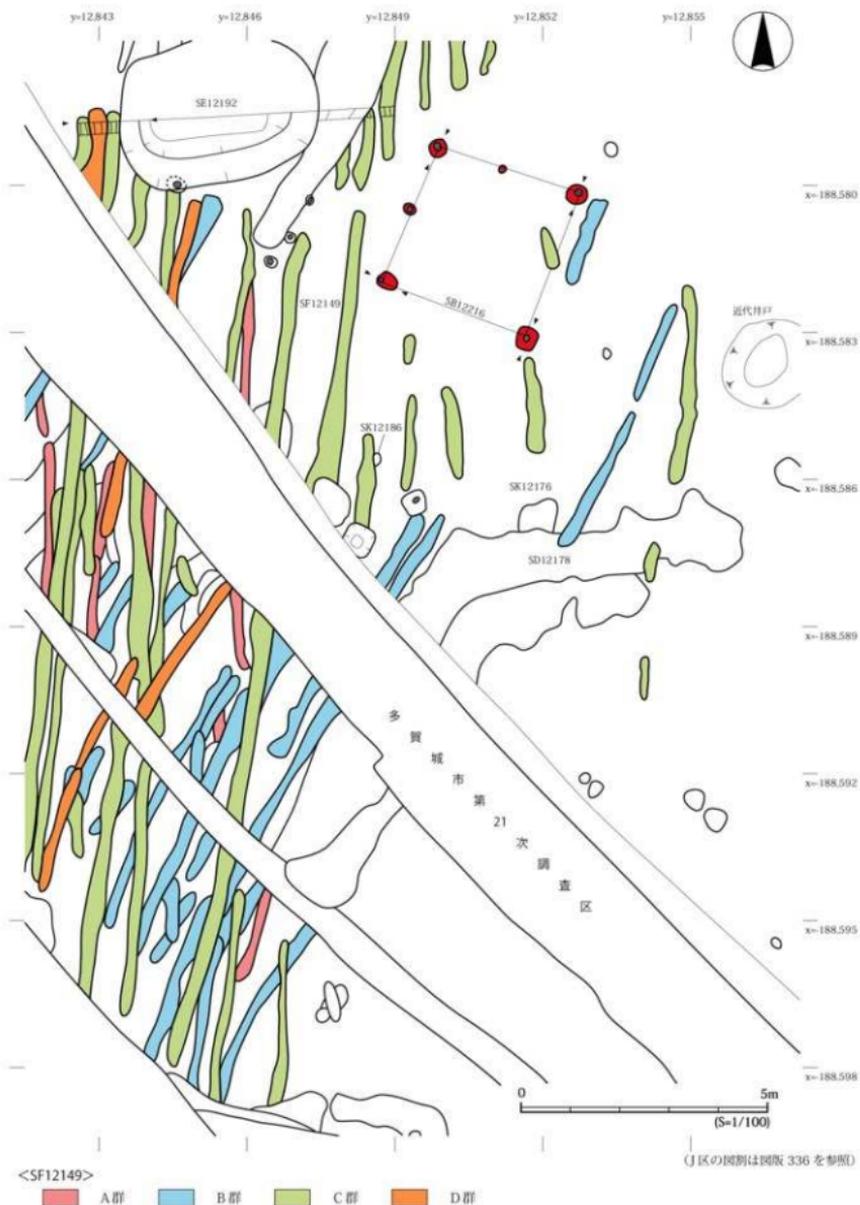


図版377 SB11981・12031・12045・12046・12048掘立柱建物跡



(J区の図例は図版 336 を参照)

図版378 J区平面図11



図版379 J区平面図12

〔柱痕跡〕 直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕 一辺0.5～0.6mの隅丸方形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕 掘方埋土から土師器甕、須恵器坏などが出土した。

【SB12045 掘立柱建物跡】(図版377・378)

調査区中央部で確認した桁行2間・梁行1間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(新) SD11952、SI11936

〔柱間寸法・方向〕 柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から2.2m・1.7mで、総長は3.9mとみられる。梁行は東妻で3.7mである。方向は南側柱列で測るとE-3°-Nである。

〔柱痕跡〕 直径0.1mほどの円形で、すべて抜き取られている。

〔柱穴〕 長軸0.3～0.5mの楕円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを含む灰黄色砂質シルトである。

〔出土遺物〕 なし。

【SB12046 掘立柱建物跡】(図版377・378)

調査区中央部で確認した桁行3間・梁行1間の東西棟建物跡である。

〔柱間寸法・方向〕 柱間寸法は、桁行が北側柱列で4.9m(3間分)、梁行は西側柱列で2.2mである。方向は北側柱列で測るとE-1°-Sである。

〔柱痕跡〕 直径0.1mほどの円形で、すべて抜き取られている。

〔柱穴〕 長軸0.2～0.4mの楕円形で、深さは0.4mである。

〔出土遺物〕 なし。

【SB12048 掘立柱建物跡】(図版377・378)

調査区中央部で確認した桁行2間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔柱間寸法・方向〕 柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から2.0m・1.6mで、総長は3.6mである。梁行は、西妻でみると北から1.5m・1.6mで、総長は3.1mである。方向は北側柱列で測るとE-17°-Nである。

〔柱痕跡〕 直径0.1mの円形である。

〔柱穴〕 長軸0.2～0.4mの楕円形で、深さは0.2mである。掘方埋土は地山ブロックを含むにぶい黄色砂質シルトである。

〔出土遺物〕 なし。

【SB12216 掘立柱建物跡】(図版379・380)

調査区南部で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔柱間寸法・方向〕 柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から1.4m・1.6mで、総長は3.0mである。梁行は、北妻でみると西から1.3m・1.6mで、総長は2.9mである。方向は西側柱列で測るとN-23°-Eである。

〔柱痕跡〕 直径0.1mの円形で、すべて抜き取られている。抜取穴に灰白色火山灰の2次堆積が認め

られる。

〔柱穴〕 一辺0.3～0.5mの隅丸方形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを含むオリープ褐色などの砂質シルトである。

〔出土遺物〕 なし。

【SB12217 掘立柱建物跡】 (図版381・382)

調査区南部で確認した桁行1間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔柱間寸法・方向〕 柱間寸法は、桁行が南側柱列で3.5m、梁行は、西妻でみると北から1.2m・1.6mで総長は2.8mである。方向は南側柱列でみるとE-12°-Sである。

〔柱痕跡〕 直径0.1m前後の円形である。

〔柱穴〕 直径0.2～0.3mの円形で、深さは0.1mである。掘方埋土は地山ブロックを含む褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕 なし。

【SB12218 掘立柱建物跡】 (図版381・382)

調査区南部で確認した桁行2間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕 (新) SX12173

〔柱間寸法・方向〕 柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から1.4m・1.5mで、総長は2.9mである。梁行は、東側柱列でみると1.3m等間で、総長は2.6mである。方向は北側柱列で測るとE-17°-Sである。

〔柱痕跡〕 直径0.1mの円形である。

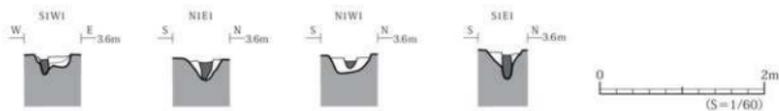
〔柱穴〕 直径0.2～0.4mの円形で、深さは0.2mである。掘方埋土は地山ブロックを含む暗灰黄色砂質シルトである。

〔出土遺物〕 なし。

【SB12222 掘立柱建物跡】 (図版382)

調査区南部で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟建物跡である。

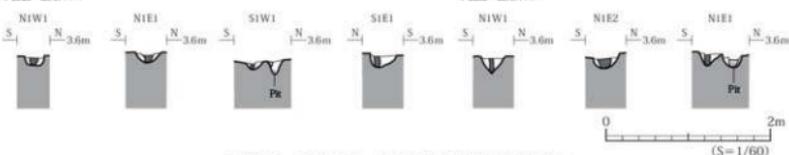
平面図：図版379



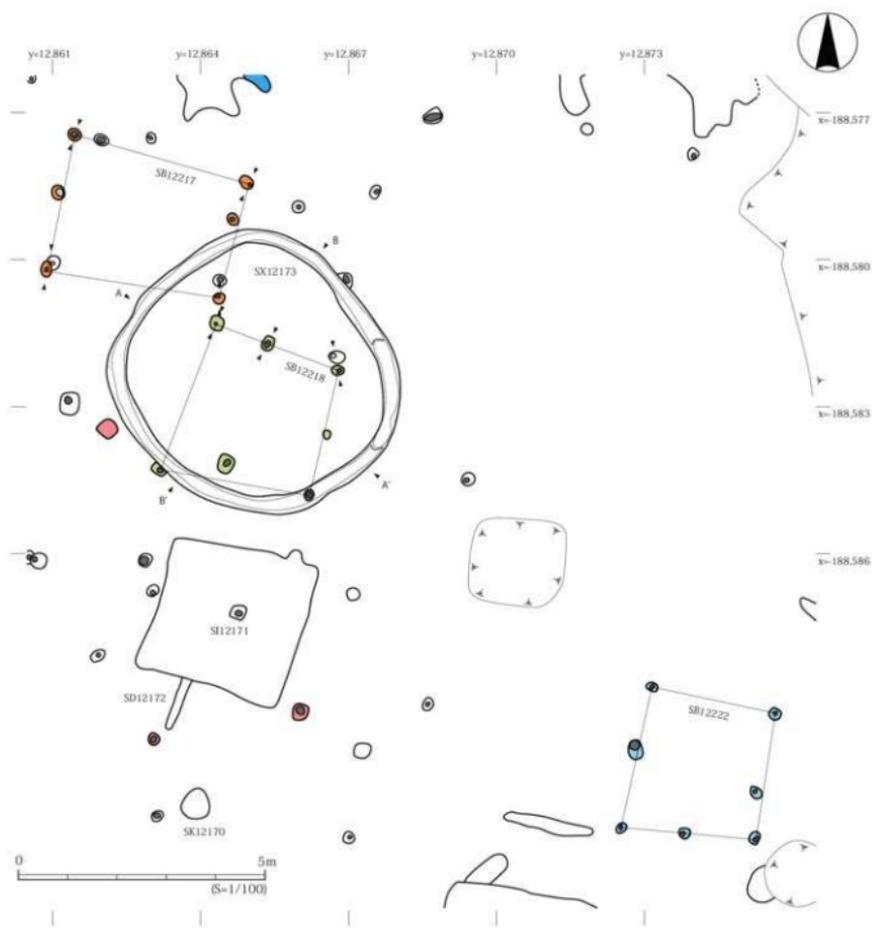
図版380 SB12216掘立柱建物跡断面図

SB12217
平面図：図版382

SB12218
平面図：図版382



図版381 SB12217・12218掘立柱建物跡断面図



(J区の図例は図版336を参照)

図版382 J区平面図13

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から1.2m・1.7mで、総長は2.9mである。梁行は、南妻でみると1.2m・1.5mで、総長は2.7mである。方向は西側柱列で測るとN-12°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.1mの円形である。

〔柱穴〕直径0.2～0.4mの円形である。確認調査のみであるため、深さ・掘方埋土の様相は不明である。

〔出土遺物〕なし。



図版383 J区南部空撮写真（南から）

【SB12150掘立柱建物跡】（図版384・385）

調査区南端で確認した桁行2間・梁行1間の東西棟建物跡である。

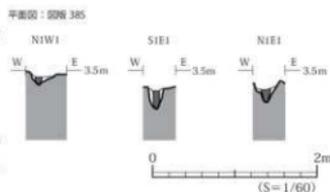
〔重複〕（古）SF12148

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列で3.4m（2間分）、梁行は東妻で2.2mである。方向は北側柱列で見るとE-11°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.1m前後の円形で、すべて抜き取られている。

〔柱穴〕直径0.2～0.3mの円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は暗褐色などの砂質シルトである。

〔出土遺物〕なし。



図版384 SB12150掘立柱建物跡断面図

〈掘立柱塀跡〉

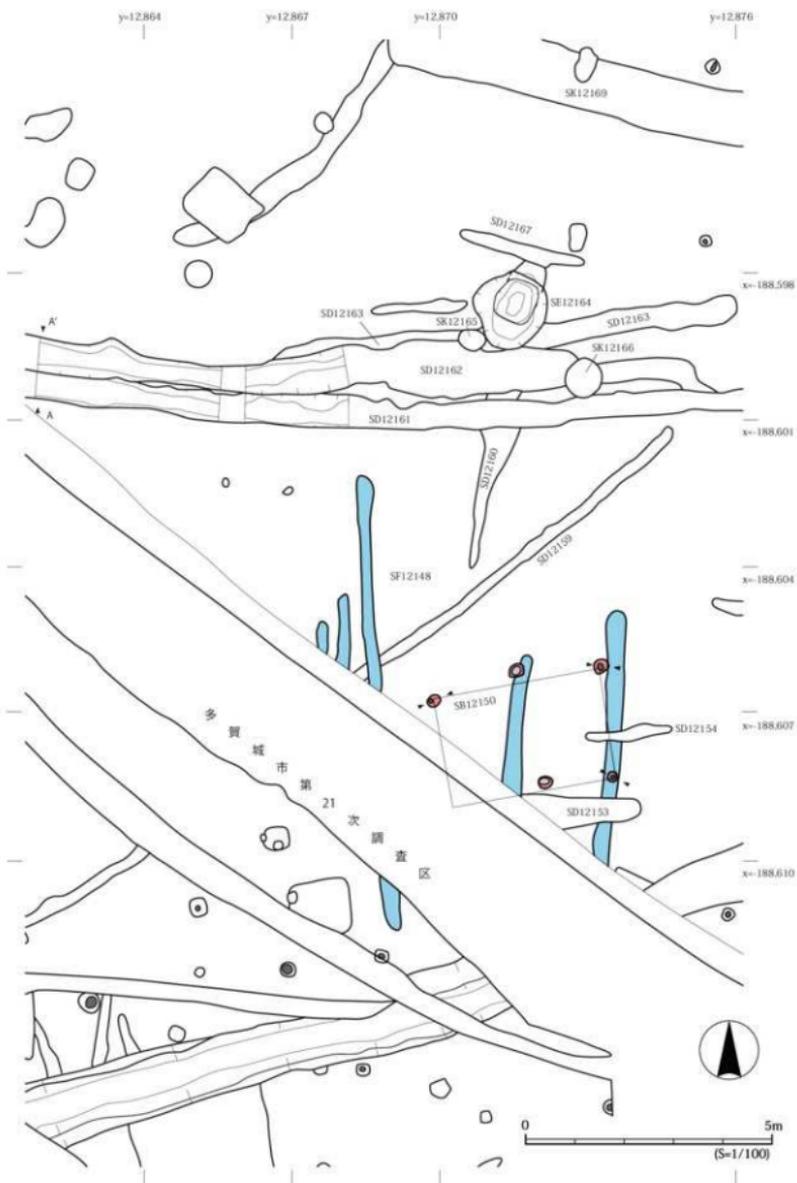
【SA12617掘立柱塀跡】（図版358・359）

調査区北西部で確認した東西3間・南北6間の逆「L」字状の掘立柱塀跡である。

〔柱間寸法・方向〕塀跡は北から6間目で西に曲がる。柱間寸法は南北が北から3.3m（3間分）・1.7m・2.7m（2間分）で、総長は7.7mである。東西は西から1.3m・2.1m・1.7mで総長は5.1mである。方向は、南北がN-9°-E、東西がE-2°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.1mほどの円形である。

〔柱穴〕直径0.3mの円形で、深さは0.2mである。掘方埋土は褐色などの砂質シルトである。



(J区の図例は図版336を参照)

図版385 J区平面図14

遺構名	調査	建物階数 併行/並行	棟方向	平面規模 (m)						建物方向		柱穴方位		基礎 平面 断面				
				桁行			並行			角度	計測 柱列	柱基礎 (m)	平面形		新旧関係			
				延長	測定	柱間寸法	延長	測定	柱間寸法									
SB11924	穴掘	3	2	南北	6.4	西	(2.4) + (4.0) [2間分]	(4.4)	南	(2.2等間)	N-4°-E	西	0.2	0.3 ~ 0.6	楕円形	SD11909 → SB11924 → SD11910	359	358
SB11970 [北堀]	平掘	3	3	南北	6.1	西	(2.1) + (2.0) + (2.0)	4.4	南	4.4 [2.2等間]、廊の出2.6	N-2°-E	西	0.3	0.7 ~ 1.0	隅丸方形	SB12023・12053 → SB11970 → SD11910・ 11968・11969・	374	375
SB11981 [北堀]	平掘	3	2	南北	4.6	東	(1.5) + (3.1 [2間分])、廊の出1.8	3.6	北	(1.8等間)	N-7°-E	東	0.2	0.4	隅丸方形	SD11951・12206 → SD12201 → SB11981	378	377
SB12022	平掘	3	1+	-	4.3	西	(1.3) + (1.3) + 1.7	2.8+	南	2.8	N-25°-E	西	0.1	0.3	円形・楕円形	SF12085 → SB12022	374	375
SB12023	平掘	2	2	東西	4.1	南	1.7+2.4	3.0	西	1.4+1.6	E-25°-S	南	0.1	0.3 ~ 0.5	楕円形	SB12041 → SB12023 → SB11970・ SK11974	374	375
SB12024 [北堀]	平掘	3	3	東西	7.8	南	(4.6 [2間分]) + 3.2	4.2	西	(4.2 [2間分])、廊の出(2.1)	E-4°-S	南	0.2	0.4 ~ 0.7	不整形円形	SB12039 → SB12024 → SB12027	374	376
SB12026	平掘	2	2	東西	4.0	南	2.1+1.9	3.1	西	1.7+1.4	E-2°-S	南	0.1	0.3 ~ 0.4	楕円形	SB12040 → SB12026 → SK11919・ SD11976	374	376
SB12027	平掘	2	2	東西	4.0	北	(2.3) + 1.7	3.5	東	-	E-28°-S	北	0.1	0.3 ~ 0.4	円形	SB12024 → SB12027	374	376
SB12031	平掘	3	2	東西	4.6	南	1.9+2.7 [2間分]	4.1	西	-	E-20°-S	南	0.2	0.5 ~ 0.6	隅丸方形	SB12031 → SD11910	378	377
SB12039	平掘	3	2	南北	4.6	西	(3.7 [2間分]) + 0.9	3.1	北	(1.6) + (1.5)	N-4°-E	西	0.1	0.2 ~ 0.3	円形	SB12039 → SB12024・12056	374	376
SB12040	平掘	2	2	東西	6.6	北	-	4.6	東	(2.1) + (2.5)	E-20°-S	北	0.1 ~ 0.2	0.4 ~ 0.6	楕円形	SB12040 → SB1170・12026	374	376
SB12041	平掘	3	2	東西	4.8	北	-	3.0	東	(1.8) + (1.2)	E-20°-S	北	0.1 ~ 0.2	0.3 ~ 0.6	円形・楕円形	SB12041 → SB12023・ SE1167	374	376
SB12045	平掘	2	1	東西	3.9	南	(2.2) + (1.7)	3.7	東	-	E-3°-N	南	0.1	0.3 ~ 0.5	楕円形	SB12045 → SB11936 → SD11952	378	377
SB12046	平掘	3	1	東西	4.9	北	-	2.2	西	-	E-1°-S	北	0.1	0.2 ~ 0.4	楕円形		378	377
SB12048	平掘	2	2	東西	3.6	北	-	3.1	西	1.5+1.6	E-17°-N	北	0.1	0.2 ~ 0.4	楕円形		378	377
SB12053	平掘	2	2	東西	3.3	北	-	3.0	西	-	E-4°-S	北	0.1	0.3 ~ 0.6	楕円形・方形	SB12053 → SB11970・ 11938 → SD11970	374	376
SB12056	平掘	2	2	南北	4.2	東	1.8+ (2.4)	3.1	北	(1.7) + (1.4)	N-43°-W	東	0.1 ~ 0.2	0.3 ~ 0.4	楕円形	SB12039 → SB12056	374	376
SB12057	平掘	3+	2	東西	4.7+	北	(1.1) + (1.8) + (1.8)	2.9	東	(1.4) + (1.5)	E-16°-S	北	0.1	0.3 ~ 0.5	楕円形		360	-
SB12059	平掘	1	1	南北	3.5	西	-	3.6	北	-	N-42°-W	西	0.1 ~ 0.2	0.3 ~ 0.4	楕円形		374	376
SB12091 [堀柱]	平掘	2	2	南北	4.2	西	(2.1等間)	4.0	北	(1.9) + (2.1)	N-6°-E	西	0.2	0.4 ~ 0.6	楕円形	SI11979 → SK12016・ SI1978 → SB12091 → SD11909	360	358
SB12150	平掘	2	1	東西	3.4	北	-	2.2	東	-	E-11°-N	北	0.1	0.2 ~ 0.3	円形	SF12148 → SB12150	385	384
SB12216	平掘	2	2	南北	3.0	西	(1.4) + (1.6)	2.9	北	(1.3) + (1.6)	N-23°-E	西	0.1	0.3 ~ 0.5	隅丸方形		379	380
SB12217	平掘	1	2	東西	3.5	南	-	2.8	西	1.2+1.6	E-12°-S	南	0.1	0.2 ~ 0.3	円形		382	381
SB12218	平掘	2	2	東西	2.9	北	1.4+1.5	2.6	東	(1.3等間)	E-17°-S	北	0.1	0.2 ~ 0.4	円形	SB12218 → SK12173	382	381
SB12222	確認	2	2	南北	2.9	西	1.2+1.7	2.7	南	1.2+1.5	N-12°-E	西	0.1	0.2 ~ 0.4	円形		382	-
SB12258 [堀柱]	穴掘	3	2	東西	5.7	北	2.0+1.9+ (1.8)	4.4	西	2.0+ (2.4)	E-3°-S	北	0.2	0.3 ~ 0.6	楕円形	SB12258 → SB12585 → SK12265・12419 → SD12000 → SK11905 → SF12085	361	362
SB12267	穴掘	3	2	南北	5.0	東	1.7+1.7+1.6	3.6	南	1.8等間	N-1°-E	東	0.2	0.3 ~ 0.4	円形	SB12279 → SB12267 → SK11905	361	362
SB12279	穴掘	3	2	東西	6.4	北	2.0+2.2+2.2	3.9	東	(1.9) + (2.0)	E-7°-N	北	0.2	0.5 ~ 0.7	楕円形	SK12266 → SB12279 → SB12267	359・ 361	362

表40-1 J区掘立柱建物跡属性表1

遺構名	調査	建物間数		棟方向	平面積 (m)				建物方向		柱高 (m)	柱穴形状		新旧関係	位置			
		前行	後行		前行		後行		角度	計測柱列		縦横 (m)	平面形		平面	断面		
					延長	測定	柱間寸法	延長									測定	柱間寸法
SB12497	完掘	3	3	南北	5.2	西	(3.4 [2間分]) + 1.8	4.5	南	2.9 [2間分] + 1.6	N-6°-E	西	0.2	0.4~0.6	楕円形	SB12497 → SB12210 → SB12815、SB12924 → SB12497 → SB11905 → SB12085	361	362
SB12498 (副柱)	完掘	2	2	東西	3.5	北	2.1+1.4	2.5	西	1.1+1.4	E-3°-N	北	0.2	0.3~0.7	楕円形	SB12586 → SB12498	361	362
SB12563	平掘	-	3	南北	-	-	-	6.9	北	(2.3等間)	E-9°-S	北	-	0.8~1.3	隅丸方形	SB12563 → SB12564	371	372
SB12564 (東堀)	平掘	-	4	南北	-	-	-	6.9	北	(2.2) + (2.4) + (2.3)、堀の距 (2.5)	E-9°-S	北	0.2	0.7~0.8	隅丸方形	SB12563 → SB12564	371	372
SB12584	完掘	3	2	東西	4.1	南	(2.5 [2間分]) + (1.6)	3.9	西	-	E-5°-N	北	0.2	0.3~0.5	楕円形	SB12584 → SB12610 → SB12305 → SB12310	367	365
SB12585	完掘	4	1	南北	7.1	西	(3.6 [2間分]) + (3.5 [2間分])	2.9	北	-	N-4°-E	西	0.2	0.4~0.7	楕円形	SB12258、12586 → SB12285 → SB11905 → SB12085	361	363
SB12586	完掘	4	2	東西	4	南	(1.8 [2間分]) + (1.0) + (1.2)	3.9	西	1.5+2.4	E-4°-N	北	0.2	0.4~0.7	隅丸方形 + 高部は布張り版	SB12586 → SB12498、12585 → SB1105	361	363
SB12613	完掘	3	2	東西	3.1	北	1.2+0.8+1.1	2.3	西	1.4+0.9	E-12°-S	北	0.2	0.3~0.5	不整形楕円形	SB12207 → SB12613 → SB12497	361	363
SB12616	完掘	37	2	南北	4.2	西	-	3.2	北	(1.6等間)	N-0°-E	西	0.1	0.3	楕円形	SB12616 → SB11910	359	358
SB12618	完掘	2	2	東西	2.5	北	(1.0) + (1.5)	2.3	東	(1.3) + (1.0)	E-11°-N	北	0.2	0.3~0.4	楕円形	SB12618 → SB12586、SB12501 → SB12487	361、367	365
SB12619	完掘	3	1	東西	5.0	北	(3.4 [2間分]) + 1.6	2.2	東	-	E-2°-N	北	0.2	0.4~0.8	楕円形	SB12342、12343 → SB12418 → SB12619	367	365
SB12632	平掘	2	2	東西	2.8	北	1.3+1.5	2.1	西	-	E-8°-N	北	0.1	0.3~0.7	円形	SB12632 → SA12640	371	372
SB12638	平掘	2	2	東西	4.1	南	(2.1) + (2.0)	4.0	東	(2.1) + (1.9)	E-2°-N	南	0.2	0.6~0.8	不整形楕円形	SA12612、12614 → SB12638	370	368
SB12643 (副柱)	平掘	3	2	東西	4.9	北	1.6+1.9+1.4	3.5	西	1.8+1.7	E-1°-S	北	0.2	0.4~0.8	楕円形	SB12643 → SB11905 → SB12080 → SB12085	361	363

・柱間寸法は東西方向が西から、南北方向は北から行った。ただし、西側や北側が不明な場合は東から、南から計測している
 ・柱痕跡が無い、または柱痕から柱痕跡が1つ以上ずれる場合は、2間 (場合によっては3間分) の距離を表記している
 ・柱間寸法の表記で柱位置が不明な場合は、() 裏きとしている
 ・建物全体の面積が不明なものは、数字裏に、+を記入している

表40-2 J区掘立柱建物跡属性表2

〔出土遺物〕なし。

【SA12239掘立柱崩跡】(図版370)

調査区北東部で確認した東西5間の掘立柱崩跡である。

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、西から0.9m・0.8m・1.1m・2.4m・2.0mで、総長は7.2mである。方向はE-6°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.1~0.2mの円形である。

〔柱穴〕一辺0.4~0.5mの隅丸方形である。確認調査のみで深さ・掘方埋土の様相は不明である。

〔出土遺物〕なし。

【SA12640掘立柱崩跡】(図版371・372)

調査区北部で確認した東西5間以上の掘立柱崩跡である。

〔重複〕(古) SB12632

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、西から1.3m・1.1m・1.2m・0.8m・1.1mとみられ、総長は5.5mである。方向はE-5°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.1m前後の円形である。

〔柱穴〕直径0.2~0.3mの円形で、深さは0.2mである。掘方埋土は暗褐色などの砂質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

遺構名	調査	柱間 (m)			方向	柱礎跡 (m)	柱穴		前後関係	遺版	
		柱間	柱間寸法	柱間寸法			規模 (m)	平面形		平面	断面
SA12239	礎石	7.2	0.9・0.8+1.1・2.4+2.0		E-6°-N	0.2	0.4~0.5	楕円形		370	-
SA12617	平礎	南北 7.7 東西 5.1	南北 (3.3 (3間分)) +1.7+ (1.7) +1.0 東西 1.3+2.1+1.7		N-0°-E E-2°-S	0.1	0.3	円形		359	358
SA12640	平礎	5.5	(1.3) +1.1+1.2+0.8+ (1.1)		E-5°-S	0.1	0.2~0.3	円形	SB12632→SA12640	371	372

・柱間寸法は東西方向が西から、南北方向は北から行った。ただし、西側や北側が不明な場合は東から、南から計測している
 ・柱礎跡が無い、または柱礎から柱間距離が1つ以上ずれる場合は、2間（場合によっては3間分）の総和を表記している
 ・柱間寸法の表記で柱位置が不明な場合は、() 書きとしている

表41 J区掘立柱礎跡属性表

5. 周溝をもつ建物跡

SB11938は建物の外を周溝が方形に囲んでおり、「外周溝を伴う施設跡」（加美町教委2010）、「周溝をもつ建物跡」などと呼ばれるものと共通する（飯島2008、中川2016など）。また、SX12566は内部施設が不明であるが、周溝の特徴はSB11938と共通しており、建物が削平で失われたと理解できることから、本節で述べる。遺構の属性は表43にまとめた。

【SB11938建物跡】（図版378・386）

調査区中央で確認した、外周溝を伴う桁行1間・梁行1間の南北棟建物跡である。

〔重複〕（古）SB12053（新）SD11910・11952、SI11936

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列で2.5m、梁行は東妻で2.3mである。方向は、南側柱列で測るとE-2°-Sである。

〔柱礎跡〕直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕長軸0.4~0.6mの楕円形で、深さは0.2mである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黄灰色や明灰黄色の砂質シルトである。

〔外周溝〕南辺中央が開口していたと考えられ、南北10.5m、東西9.5mの範囲を囲む。上幅0.3~1.6m、下幅0.2~0.5m、深さは0.2~0.3mで、断面は逆台形である。外周溝の幅は一定でないが、外側に較べて内側の形は整う。堆積土は炭化物・焼土塊を多く含む灰黄褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕外周溝の堆積土から土師器環・甕、須恵器環・高台環・鉢・甕が出土した。須恵器環は回転ヘラケズリ調整である。

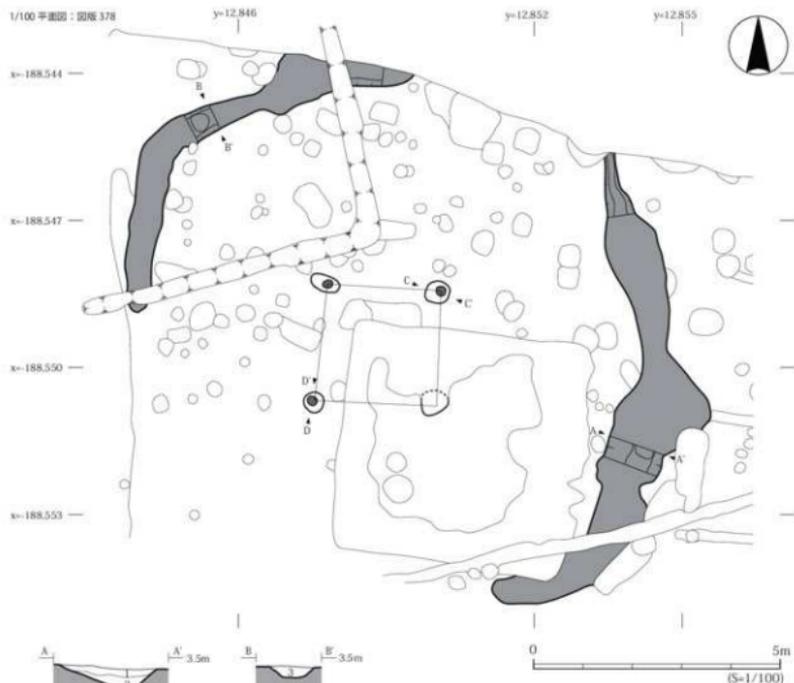
【SX12566外周溝跡】（図版371・387）

調査区北部で確認した方形の外周溝跡で、内部施設は不明である。

〔重複〕（新）SK12308・12557、SF12085、SX12538

〔外周溝〕南辺中央が開口しており、南北9.0m・東西8.5m以上の範囲を囲む。上幅0.5~2.4mで、断割り部分の下幅は1.6m、深さが0.2mである。断面は底面に凹凸を持つ浅い皿形である。外周溝の幅は一定でないが、外側に較べて内側の形は整う。堆積土は暗灰黄色シルトを多く含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕外周溝の堆積土から土師器環・甕、須恵器環・甕が出土した。



遺構名	層位	土色	土性	埋入物など	備考
外周溝	1	灰黒期色 (10YR4/2)	砂質シルト	炭化物・焼土塊を多く含む。土器・瓦片を多く含む	
	2	黄灰色 (10YR4/1)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む。炭化物を少し含む	
	3	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む。炭化物・焼土塊を含む	
柱礎穴	4	黄灰色 (10YR4/1)	砂質シルト	炭化物を少し含む	柱礎跡
	5	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	
	6	明灰黄色 (2.5Y5/2)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	掘方埋土

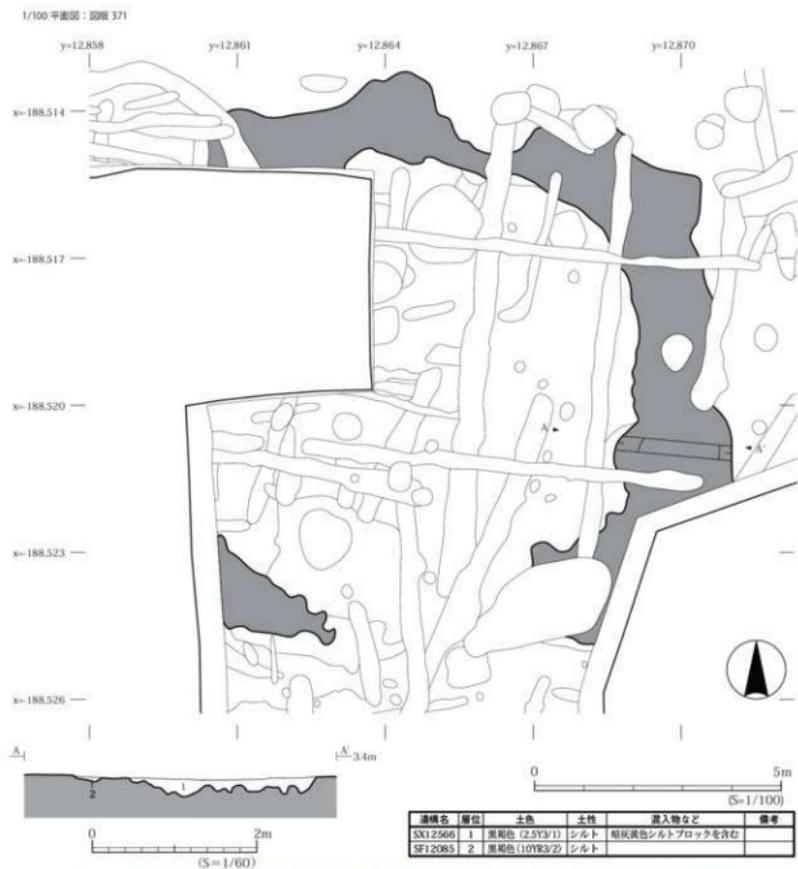


SB11938 外周溝様状状況 (東から)



SB11938 外周溝断面 (南から)

図版 386 SB11938 建物跡



SX12566 検出状況 (南東から)



SX12566 断面 (南から)

図版387 SX12566外周溝跡

6. 竪穴住居跡

竪穴住居跡は16棟確認した（建替えを含む）。このうち、精査を行った9棟について説明する。すべての竪穴住居跡の属性は表42にまとめている。

【SI11978 竪穴住居跡】（図版360・388・389）

調査区中央部で確認した。削平のため壁は残存せず、周溝や柱穴は認められない。

〔重複〕（古）SI11979、SK12058（新）SB12091、SK12014

〔平面形〕東西3.0m、南北3.2mの正方形である。

〔床面〕掘方は南北辺側と中央が深く、暗褐色シルトで埋め戻し床としている。

〔カマド〕東辺中央に付設された。本体は残っていないが、燃烧部の焼面と焚口補強材の抜取穴を確認した。それらの位置から、本体は壁の内側にあったと考えられる。補強材の抜取穴から、焚口幅は0.2mと考えられる。焼面は長軸0.5m・短軸0.2mの楕円形で、焚口の外側まで広がっており、その先から土師器小型甕（図版390-4）が出土した。煙道は確認できなかった。補強材は、抜取穴の形状から棒状に加工された凝灰岩切石であったと考えられる。焼面の下には、住居掘方埋土を掘込むカマド掘方があり、焼土や炭化物を含む黒褐色シルトで埋め戻された。

焚口補強材が抜き取られていたこと、側壁が残存していなかったこと、火前の床面から小型甕が出土したことから、本体は住居廃絶時に破壊された可能性が高い。

〔方向〕東辺で測るとN-7°-Eである。

〔出土遺物〕（図版390）

床面から土師器小型甕（4）・甕・坏、須恵器坏・蓋（3）・壺（1）・甕、丸瓦などが出土した。土師器甕はロクロ調整のものを含み、須恵器坏はヘラ切りである。須恵器蓋は、SE12164井戸跡5層出土と遺構間接合した。

【SI11979 竪穴住居跡】（図版360・388・389）

調査区中央部で確認した。削平のため壁や床面は残っておらず、周溝は確認していない。

〔重複〕（新）SB12091、SD12009・12012・12013、SI11978、SK12010・12018・12058

〔平面形〕東西4.0m、南北4.2mの正方形である。

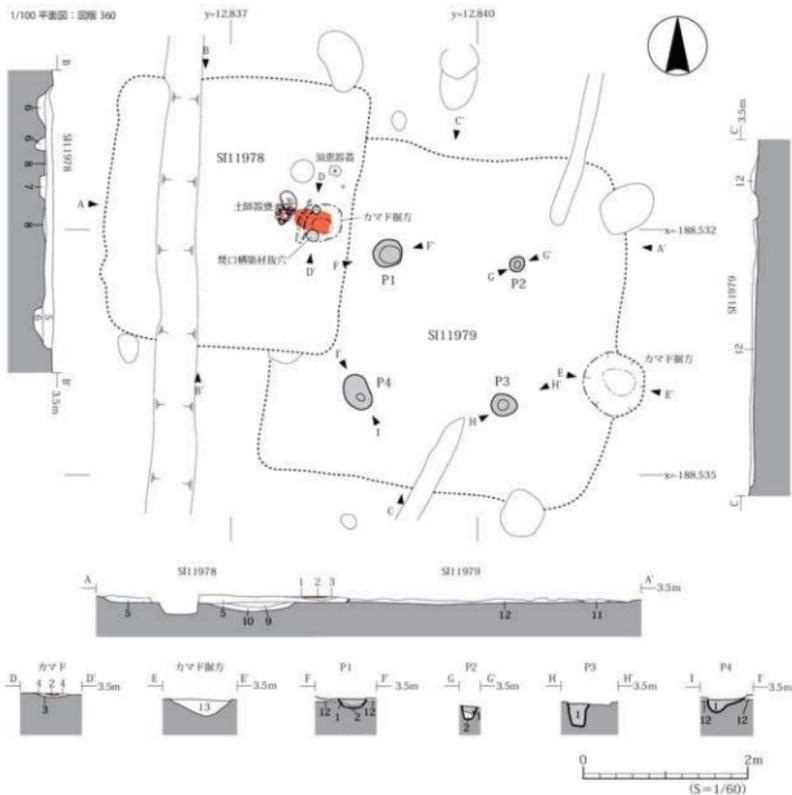
〔床面〕掘方全体を暗褐色シルトで埋め戻し、床としている。

〔カマド〕東辺南側に付設され、掘方のみ残存する。掘方は長さ、幅とも0.8mで、壁から0.4m張出す。灰黄褐色シルトで埋め戻された。煙道は認められない。

〔柱穴〕主柱穴は対角線上に配置された4基を確認した（P1～P4）。主柱はすべて抜き取られており、径や形は不明である。

〔方向〕東辺で測ると、N-8°-Eである。

〔出土遺物〕掘方埋土から円面碗（図版390-2）などが出土した。



遺構名	層位	土色	土性	遺入物	備考
SI11978	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	灰化物を多く含む	カマド内積土
	2	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	粘土質シルト		カマド側方埋土
	3	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	焼土・灰化物を含む	カマド内積土
	4	黒褐色 (5YR2/2)	粘土質シルト	灰化物を含む	カマド内積土 (横断材)
	5	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	灰化物・焼土・砂粒を含む	
	6	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト		
	7	灰褐色 (10YR4/1)	砂質シルト		
	8	灰黄褐色 (10YR6/2)	砂質シルト	地山ブロックを塊状に含む	住居側方埋土
	9	にぶい赤褐色 (10YR4/3)	シルト	灰化物をわずかに含む	
	10	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	灰化物・砂・土器片を含む	
SI11979	11	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	焼土・灰化物・マンガンを含む	
	12	暗褐色 (10YR3/4)	シルト	地山砂を多く含む。焼土・灰化物・マンガン・靫鉄を含む	
	13	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	マンガン・灰化物を含む。地山砂を多く含む	カマド側方埋土
	14	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	地山砂を含む。焼土・灰化物を少し含む	竈取穴
P1 (SI11979 北西土柱)	15	暗褐色 (10YR3/3)	シルト		側方埋土
	16	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	灰化物をわずかに含む。地山砂を多く含む	竈取穴
P2 (SI11979 北東土柱)	17	暗褐色 (10YR3/3)	シルト		側方埋土
	18	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	しまり餅。地山砂を多く含む	
P4 (SI11979 南西土柱)	19	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	しまり餅。地山砂を多く含む。	竈取穴

図版388 SI11978・11979竈穴住居跡1



SI11978・11979 完備状況 (西から)



SI11978 遺物出土状況 (西から)

図版389 SI11978・11979竪穴住居跡2

【SI12305A・B竪穴住居跡】(図版367・391～393)

調査区北部中央で確認した。新旧2時期あり、B期が新しい。

〔重複〕(古) SB12584 (新) SK12316・12317・12578

<SI12305A>

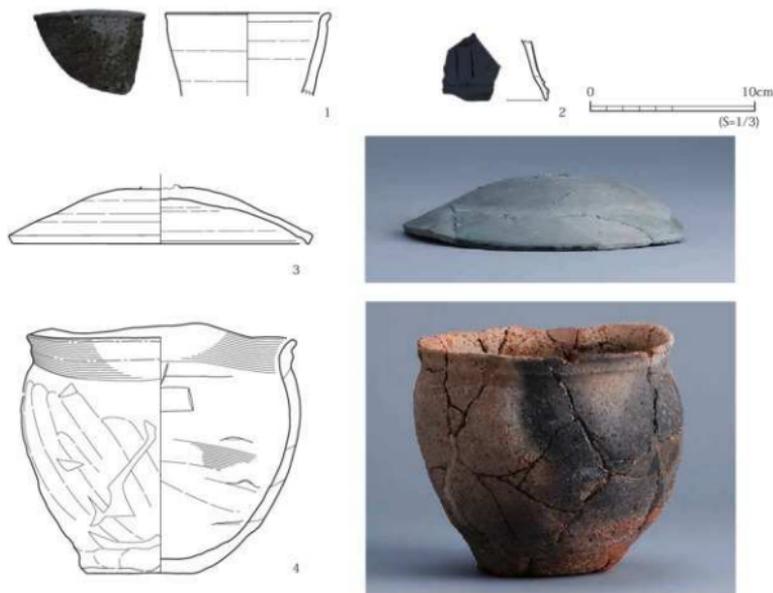
〔平面形〕東西3.7m、南北3.9mの正方形である。

〔壁〕東辺で0.2m残存する。

〔周溝〕カマド部分を除いて全周する。幅0.4～0.7、深さ0.1～0.2mである。壁材痕は確認していない。

〔床面〕掘方全体を黄褐色シルトで埋め戻し、床としている。掘方は南東隅および壁際が深く、底面で掘削痕が確認できた(図版392)。

〔カマド〕東辺中央の住居内につくられた。本体は黒褐色粘土質シルトで、奥壁は地山である。煙道



No.	図種	遺構番号	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	備考	登録
1	須恵器・壺	SI11978	床面	内外面:ロクロナデ	(10.0)	—	—	一部	器段痕あり。コップ形土器布。自然釉	3265
2	須恵器・円筒器	SI11979	12層	外面:ロクロナデ・胎質・縦位浅線 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部	腰足部	3266
3	須恵器・蓋	SI11978	床面	外面:ロクロナデ→胎質ヘラケズリツツミ取付ナデ 内面:ロクロナデ	18.3	—	—	2/3		3264
4	土師器・小壺	SI11978	床面	外面:[口]ヨコナデ [体]ナデ 内面:[口]ヨコナデ [体]ナデ・ヘラナデ 底面:木炭灰	16.0	6.5	15.2	完形		3263

図版390 SI11978・11979竪穴住居跡出土遺物

部はSI12305Bによって壊されている。焚口幅0.7m、奥行き0.8mで、焼面は0.9m×0.7mあり、焚口外まで広がる。燃焼部の下には掘方があり、灰黄色や黄褐色の粘土質シルトで埋め戻された。

〔柱穴〕主柱穴4基を確認した（P5～P8）。対角線上に配置されたが、東側のP6・P8は、カマドとの関係から南北の間隔を広げている。柱は抜き取られており、径や形は不明である。

〔付属施設〕北側中央で土坑（K1）を確認した。長軸0.5mの楕円形で、深さは0.1mである。

〔方向〕南辺で測ると、E-4°-Sである。

〔出土遺物〕（図版394）

カマド内堆積土から土師器杯・甕、周溝堆積土から土師器杯・甕、平瓦、羽口、住居埋戻し土から土師器杯・甕、須恵器杯・甕、砥石（1・2）、丸瓦・平瓦などが出土した。須恵器杯はヘラ切りで、砥石のうち2は掘り砥である。

<SI12305B>

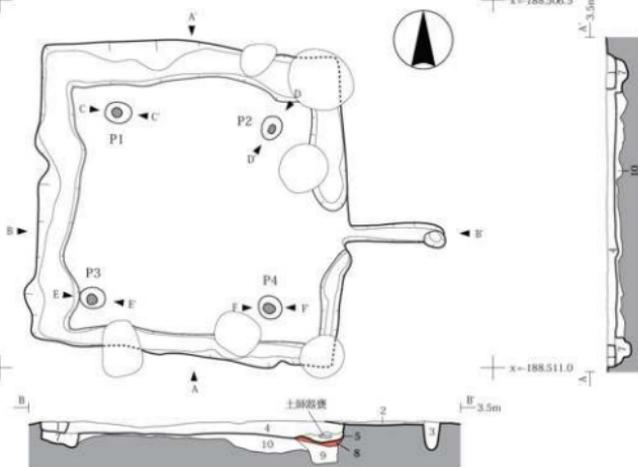
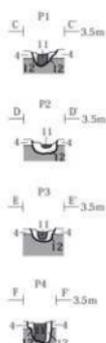
削平のため、壁や床面、カマド本体は残存していない。

SI12305B
1/100 平面図：図版 367

y=12.867

y=12.873

x=188.506.5

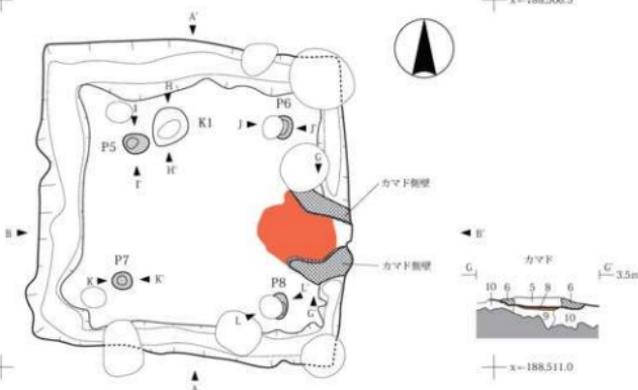
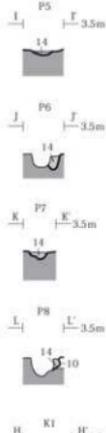


SI12305A

y=12.867

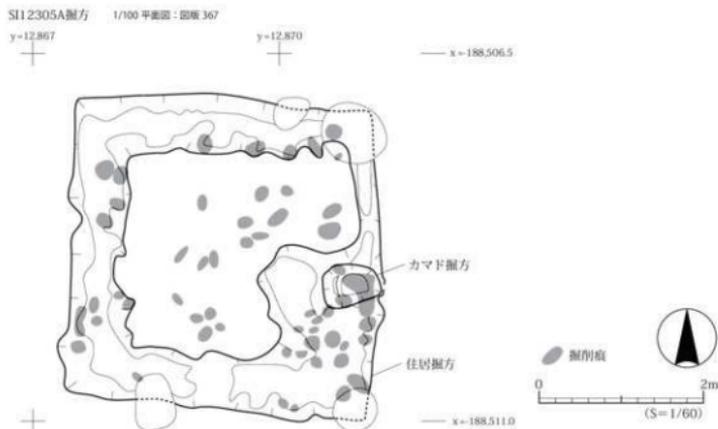
y=12.873

x=188.506.5



遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SI12305B	1	黒褐色 (2.5Y3/2)	シルト		岡澤堆積土
	2	黒褐色 (2.5Y3/2)	シルト		埋道内堆積土
	3	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	シルト		
SI12305A	4	黒褐色 (2.5Y3/1)	シルト	炭・灰化物をカマド付近に多く含む	埋土
	5	灰黄色 (2.5Y6/2)	粘土質シルト	地山ブロック含む	カマド内堆積土
	6	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	細砂含む。地山ブロック含む	カマド内壁積土
	7	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	シルト	地山ブロック含む	岡澤堆積土
	8	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロック多く含む	カマド壁方埋土
	9	黄褐色 (2.5Y5/3)	シルト	地山ブロック含む	
	10	黄褐色 (2.5Y5/3)	シルト	地山ブロック含む	
P1～P4 (B 竈主柱)	11	黒褐色 (2.5Y3/2)	シルト		付随跡
	12	黒褐色 (2.5Y4/2)	シルト		埋方埋土
P5～P6 (A 竈主柱)	13	灰黄色 (10YR4/2)	シルト	灰化物含む	B 埋方埋土
	14	暗灰色 (10YR4/1)	シルト	地山ブロック含む	灰取穴

図版391 SI12305A・B竈穴住居跡1



図版392 SI12305A・B竪穴住居跡2

〔平面形〕東西3.7m、南北3.9mの正方形である。

〔周溝〕カマド部分を除いて全周する。規模は幅0.2～0.5m、深さ0.1mである。壁材痕は確認していない。

〔床面〕A期の床を黒褐色シルトで埋め戻して床としている。

〔カマド〕東辺中央の住居内につくられた。本体は残っていないが、煙道部を確認した。煙道部は長さ1.1m、幅0.2mで、先端に直径0.2mのピットを伴う。煙道部は燃烧部底面より少し低かったと考えられる。

〔柱穴〕対角線上やや壁際に配置された主柱穴4基を確認した（P1～P4）。柱痕跡は直径0.1mの円形である。掘方は径0.3m前後の楕円形で、深さが0.2～0.3mである。

〔方向〕南辺で測るとE-4°-Sである。

〔出土遺物〕(図版394)

周溝堆積土から土師器環・甕・小型甕(3)、須恵器環、平瓦が出土した。土師器甕はロクロ調整で、須恵器環はヘラ切りである。

【SI12331A・B竪穴住居跡】(図版370・395～397)

調査区北東部で確認した。新旧2時期あり、B期が新しい。

〔重複〕(古) SA12614、SI12620・12621 (新) SK12332

<SI12331A竪穴住居跡>

〔平面形〕東西3.1m、南北3.2mの正方形である。SI12331Bより一回り小さい。

〔周溝〕部分的に途切れるが、カマド部分を除き全周したとみられる。幅0.2～0.4m、深さ0.1mである。壁材痕は確認していない。



SI12305B 全景 (西から)



SI12305A 完成状況 (西から)



SI12305A カマド (西から)



SI12305B P1 断面 (南から)

図版393 SI12305A・B 竪穴住居跡 3



No.	器種	遺体番号	層位	図説	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	石製品・硯石	SI12305A	埋土		-	-	-	-	重さ：20.7 g	4003
2	石製品・硯石	SI12305A	埋土	中央に穿孔	-	-	-	-	股付け碗。右材：黒灰岩、側面之面に埋土。重さ：68.8 g	4002
3	土器器・小型器	SI12305B	埋土層	外面：ロクロナデ・手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	11.4	-	-	1/4	外面に焼熱痕	4001

図版394 SI12305竪穴住居跡出土遺物

〔壁〕壁は東辺で0.2m残存する。

〔床面〕住居掘方全体をにぶい黄色シルトで埋め戻して床としている。

〔カマド〕北辺中央の住居内に付設された。煙道とカマド掘方が残る。焼面は確認できなかったが、煙道底面は床面より0.2m高いことから、燃焼部底面より一段高かったと考えられる。煙道部は長さ1.1m、幅0.3mで、深さは0.1mである。燃焼部下で掘方を確認した。長軸0.8m、短軸0.5mの楕円形で、深さは0.2mである。地山ブロックを含む黒褐色砂質シルトで埋め戻された。

〔付属施設〕床でピット3基を確認したが（P6～P8）、配置に規則性がなく柱痕跡も認められないため、主柱穴ではないと考えられる。

〔方向〕北辺で測るとE-6°-Nである。

〔出土遺物〕なし。

<SI12331B竪穴住居跡>

〔平面形〕東西3.8m・南北3.4mの長方形である。

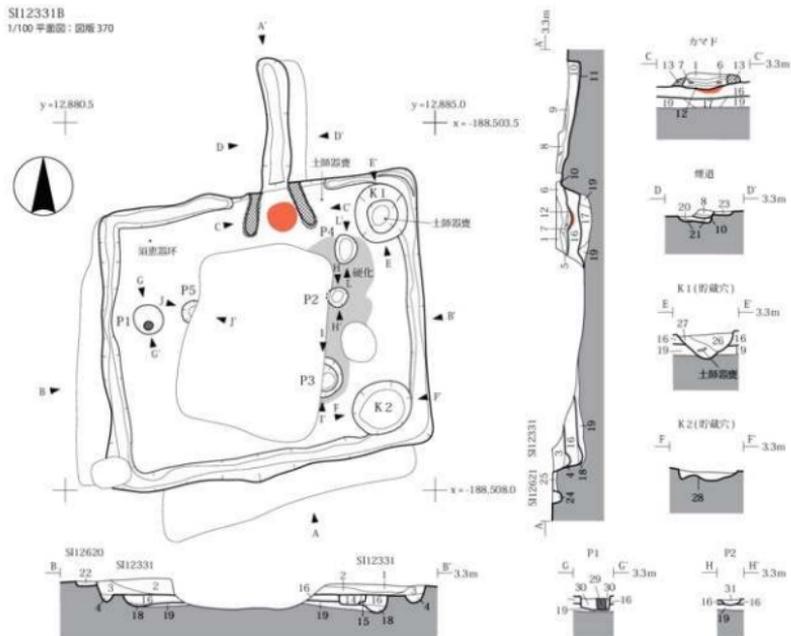
〔周溝〕カマド部分を除いて全周している。幅0.1～0.3m、深さ0.1～0.2mである。壁材痕は確認していない。

〔壁〕壁は南辺で0.2m残存する。

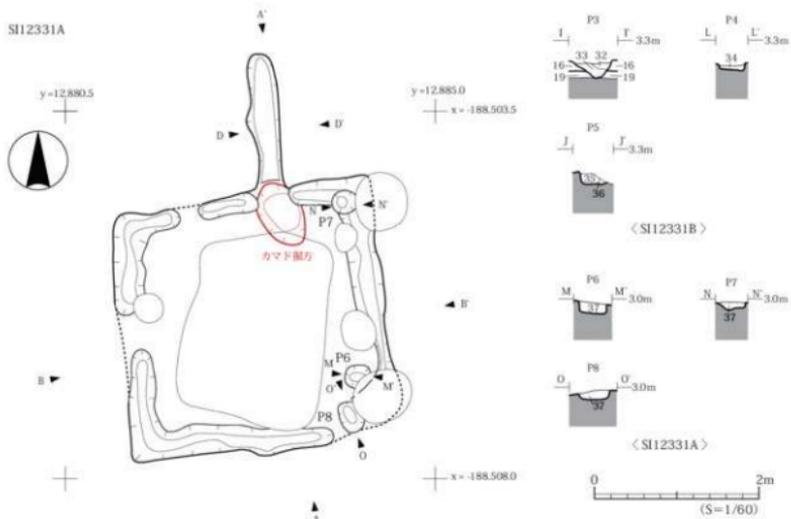
〔床面〕A住に対し、にぶい黄色シルトで埋め戻して床としている。一部に硬化面が認められた。

〔カマド〕北辺中央の住居内に付設された。煙道からみてA住より中央側に位置をずらしている。燃焼部と煙道部を確認した。本体は暗褐色砂質シルトでつくられ、奥壁は地山である。焚口幅は0.6m、

SI12331B
1/100 平面図：図版 370

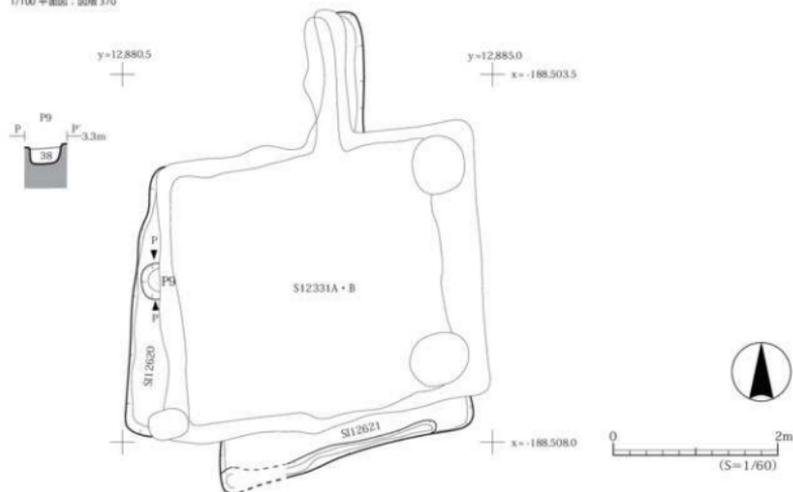


SI12331A



図版395 SI12331竈穴住居跡1

SI12620・12621
1/100 平面図：図幅 370



遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SI12331B	1	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	砂質シルト	地山ブロック・炭化物・焼土を含む	
	2	暗オリーブ (2.5Y3/2)	砂質シルト	地山ブロックをわずかに含む。炭化物含む	自然堆積土
	3	黒褐色 (2.5Y3/2)	砂質シルト	地山ブロックをやや多く含む	
	4	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	粘質シルト	地山ブロックを多く含む	埋蔵堆積土
	5	黒褐色 (7.5YR3/2)	粘質シルト	焼土を少し含む。マンガン含む	
	6	黒褐色 (10YR2/2)	粘質シルト	焼土を多く含む。炭化物含む	カマド内埋積土
	7	黒褐色 (10YR2/2)	砂質シルト	焼土・土器含む	
	8	黒褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	炭化物をやや多く含む	
	9	黒色 (10YR1.7/1)	細砂	炭化物をやや多く含む	埋蔵内埋積土
	10	黒褐色 (10YR3/4)	砂質シルト	地山ブロックをやや多く含む	
	11	黒色 (10YR1.7/1)	細砂	炭化物をやや多く含む	
	12	暗赤褐色 (5YR3/2)	砂質シルト	炭化物をやや多く含む	カマド内埋積土
	13	黒褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	カマド埋積土
	14	黒褐色 (10YR2/3)	粘質土	炭化物含む	
	15	黒褐色 (10YR2/3)	粘質土	地山ブロックをわずかに含む	P6
	16	にぶい黄色 (2.5Y3/1)	粘質シルト	地山ブロックを含む	住居埋土
SI12331A	17	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	カマド下方埋土
	18	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	埋蔵堆積土
	19	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	砂質シルト	地山ブロックを含む	住居下方埋土
	20	黒褐色 (10YR2/2)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	埋蔵内埋積土
	21	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	
SI12620	22	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)	砂質シルト		自然堆積土
	23	黒褐色 (7.5YR3/2)	粘質シルト		埋蔵内埋積土
SI12621	24	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	地山ブロック・炭化物を含む	埋蔵埋土
	25	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	住居埋土
K1 (貯蔵穴)	26	黒褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	地山ブロック・炭化物を含む	自然堆積土
	27	黒褐色 (2.5Y3/2)	粘質シルト	地山ブロックを少し含む	人為堆積土
K2	28	黒褐色 (10YR2/2)	粘質シルト	地山ブロックを多く含む	人為堆積土
	29	黒褐色 (10YR2/2)	粘質シルト	地山ブロックをわずかに含む	住居跡
P1	30	黒褐色 (10YR3/3)	粘質シルト	地山ブロックを多く含む	飯方埋土
	31	黒褐色 (2.5Y3/1)	粘質シルト	地山ブロックを少し含む	飯方埋土
P2	32	黒褐色 (2.5Y3/2)	粘質シルト	雑草含む	自然堆積土
	33	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	粘土	地山ブロックを多く含む	人為堆積土
P4	34	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	地山ブロックを少し含む	自然堆積土
	35	黒色 (2.5Y2/1)	粘質シルト	雑草含む	自然堆積土
P5	36	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)	粘質シルト		人為堆積土
	37	黒褐色 (10YR2/2)	粘質シルト	地山ブロックを少し含む	人為堆積土
P6 ~ P8	38	黒褐色 (10YR2/2)	粘質シルト	地山ブロックを多く含む	人為堆積土

図版396 SI12620・12621 竈穴住居跡



SI123318 全景 (南から)



SI12331A・B 完掘前景
(南から)

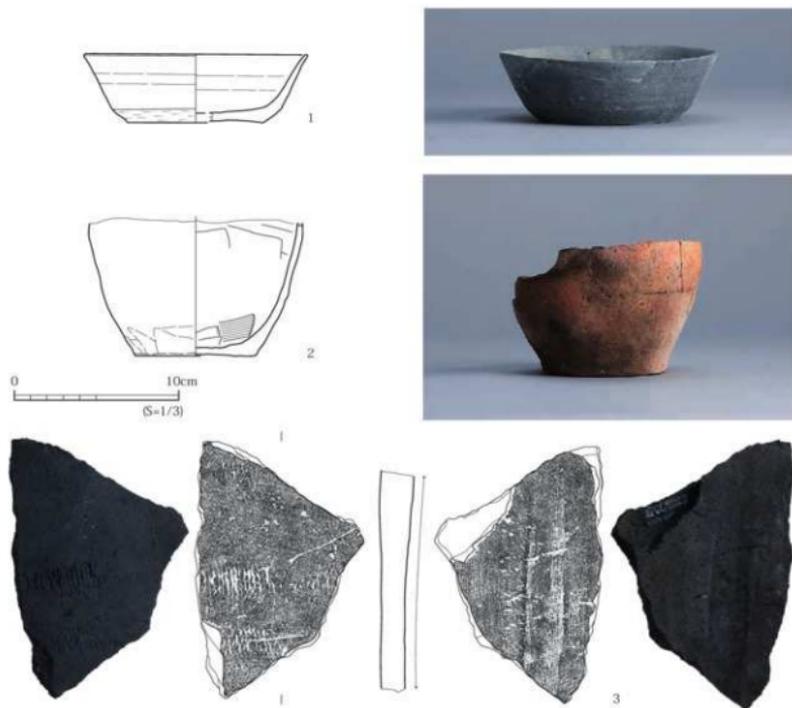


SI123318 カマド (南から)



SI123318・K1 断面 (東から)

図版397 SI12331 竪穴住居跡2



No.	器種	遺構番号	層位	胎土	寸法 (cm) 口径 (cm) 底径 (cm) 残存	備考	登録
1	須恵器・灰	SI12331B	1層	内外面：ロケロナデ 底面：明確し不明→明確→ラケズワ	(13.3) (8.3) 4.1 1/2		4006
2	土師器・甕	SI12331B	2層	外面：ナデ・磨滅 内面：ヘラナデ 底面：木炭燻	— 7.4 — 1/3		4005
3	瓦・転用瓦	SI12331B	宮マダ6層	凸面：縄タタキ柱・ナデ 凹面：右柱・ナデ 縁部ききり	— — — 一部	本図版9枚：平瓦1・A型5枚、凹面に転用瓦	4004

図版398 SI12331B竪穴住居跡出土遺物

奥行き0.5mである。焼部底面はやや窪んでおり、そこに径0.3mの焼面が認められた。煙道部は長さ1.5m、深さ0.1mあり、底面がより一段高く、先端に向けて緩やかに下がる。

〔付属施設〕床面で貯蔵穴2基 (K1・K2)、柱穴5基 (P1～P5) を確認した。K1はカマド右あり、直径0.7mの円形で、深さは0.3mである。K2は南東隅にあり、直径0.7mの円形で、深さは0.1mである。P1は直径0.1mの柱痕跡があるが、対応する柱がないことから主柱となるか不明である。

〔方向〕北辺で測るとE-6°-Nである。

〔出土遺物〕(図版398)

堆積土(1～3層)から土師器環・甕(2)、須恵器環(1)・甕、カマド内堆積土から土師器環・甕、須恵器甕、平瓦、転用瓦(3)、貯蔵穴から土師器甕などが出土した。須恵器環は低い逆台形で回転ヘラケズワ調整、転用瓦は多賀城第1期の平瓦IA類を利用している。

【SI12620 竪穴住居跡】(図版370・395～397)

調査区北東部で確認した。大部分をSI12331に壊されており、西壁周辺が残る。周溝は確認していない。

〔重複〕(古)SA12612 (新)SI12331A・B

〔平面形〕南北3.2mで、東西長と平面形は不明である。

〔壁〕西壁で0.1mほど残る。

〔床面〕地山を床とする。

〔カマド〕SI12331A住の煙道部東側で、古い煙道の一部を確認した。本住居もしくはSI12621のものと考えられる。本住居とした場合、カマドは北辺東より付設されたとみられる。煙道部は長さ1.0m以上、幅0.2m以上、深さは0.1mである。

〔付属施設〕西壁の中央付近で直径0.4m、深さ0.2mのピット1基を確認した(P9)。支柱穴となるかは不明である。

〔方向〕西辺で測るとE-6°-Eである。

〔出土遺物〕なし。

【SI12621 竪穴住居跡】(図版370・395～397)

調査区北東部で確認した。大部分をSI12331に壊されており、南壁周辺が残る。壁は残っていない。

〔重複〕(古)SA12614 (新)SI12331A・B

〔平面形〕東西3.1mで、南北長と平面形は不明である。

〔周溝〕南辺で確認した。壁材痕は確認していない。

〔床面〕掘方に暗褐色シルトを入れて床としている。

〔カマド〕SI12331A住の煙道部東側で、古い煙道の一部を確認した。本住居もしくはSI12620のものと考えられる。本住居のものとした場合、カマドは北辺中央に付設されたとみられ、住居の平面形は南北に長い長方形となる。煙道部は長さ1.0m以上、幅0.2m以上、深さは0.1mである。

〔方向〕南辺で測るとE-16°-Nである。

〔出土遺物〕煙道堆積土から土師器環・甕が出土している。

【SI12333 竪穴住居跡】(図版355・399)

調査区北東部で確認した。精査は行っていない。

〔重複〕(新)SD12338

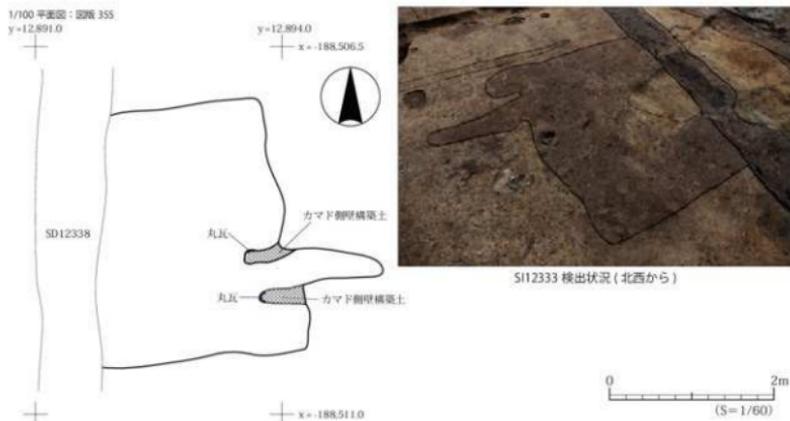
〔平面形〕東西3.0m、南北3.1mの正方形と考えられる。

〔床面〕SD12338の側壁でみると、地山を床としている。

〔カマド〕東辺南側の住居内に付設されている。本体は暗褐色粘土質シルトで構築しており、焚口幅0.4m、奥行き0.6mである。また、焚口の先端は丸瓦で補強している。煙道部の長さは1.0mである。

〔方向〕東辺で測るとN-10°-Wである。

〔出土遺物〕堆積土から須恵器甕などが出土した。カマド焚口の補強材には、多賀城分類ⅡB類aタイプの丸瓦が使われた(図版400)。



図版399 SI12333竪穴住居跡



No.	器種	層位	調整	厚さ (cm)	残存	備考	登録
1	瓦・丸瓦	カマド左壁	凸面：縄タタキ目→ロケロナデ 凹面：布目→ナデ 粘土継ぎ合わせ作り	2.4	1/4	多賀城分館：丸瓦目B類-a	4007
2	瓦・丸瓦	カマド右壁	凸面：縄タタキ目→ロケロナデ 凹面：布目 粘土継ぎ合わせ作り	1.6	1/5	多賀城分館：丸瓦目B類-a	4008

図版400 SI12333竪穴住居跡出土遺物

遺構名	調査年度	平面形状	規模 (m) 東西×南北	方向/計測辺	床	主柱 (m)			カマド				付属施設	新旧関係	出土遺物	遺跡	
						数	柱成り状/径	柱間欠	位置	構築材	形状	構造				平面	断面
SI1936	確認	正方形	4.8 × 4.6	E-7'-S' 北	—	—	—	—	東辺 南側	粘土	内側	短	—	S112043・ S111938→ S111935→ S111952		378	—
SI1978	完備	正方形	3.0 × 3.2	N-7'-E' 東	縦方埋土	×	×	×	東辺 中央	粘土・両袖 芯材(石)	内側	—	床下 土坑	S111979→ S112058→ S111978→ S112014→ S112001	[床] 土跡部小型礎・環・井(礎) 須恵器部・赤・灰(礎)、丸瓦(礎) [カマド埋] 土跡器礎、須恵器環・ 礎(礎)	360 ・ 388	388
SI1979	完備	正方形	4.0 × 4.2	N-8'-E' 東	縦方埋土	4	×	○	東辺 南側	—	—	突出	—	S111979→ S112058→ S111978→ S112001・ S112009・ I2013	[埋] 須恵器門面礎	360 ・ 388	388
SI1980	確認	正方形	3.0 × 4.3	N-6'-E' 東	—	(4)	(丸 0.2)	×	—	—	—	—	—	S111980→ S111910		360	—
SI2008	確認	正方形 部?	5.0 × 4.5	E-2'-S' 南	地山?	4	丸 0.2	×	南辺 中央	—	—	—	—	S112008→ S112045→ S111936→ S111952		378	—
SI2171	確認	正方形	3.0 × 3.0	N-17'-E' 東	—	—	—	—	北辺 東側	—	—	—	—	S112172→ S112171		382	—
SI2306A	完備	正方形	3.7 × 3.9	E-4'-S' 南	縦方埋土	4	丸 0.1	○	東辺 中央	粘土質シルト	内側	—	土坑	S112584→ S112305A S112305B→ S112316・ I2317・ I2378	[埋土] 土跡部環・費(礎)、須恵器環・ 費(礎)、丸瓦・平瓦(礎)、砥石 [カマド] 土跡部環・費(礎) [周溝] 土跡部小型礎・環・費(礎) 土跡部平瓦、平瓦・丸瓦(礎)	367 ・ 391 ・ 392	301
SI2308	完備	正方形	3.7 × 3.9	E-4'-S' 南	A住居埋 し土	4	—	×	東辺 中央	—	内側	長/1.1 (埋出 穴)	—	S112584→ S112305A S112305B→ S112316・ I2317・ I2378	[床] 土跡部環・費(礎)、須恵器環・ 費(礎)、右袖芯材、丸瓦(礎) [周溝] 土跡部小型礎・環・費(礎) 須恵器平瓦、平瓦・丸瓦(礎)	367 ・ 391	301
SI2306	確認	長方形	3.4 × 3.8	E-2'-南 北	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		367	—
SI2321	確認	長方形	1.2 × 3.9	N-4'-E' 西	—	—	—	—	—	—	—	—	—	S112321→ S112324		370	—
SI2327	確認	長方形	4.2 × 3.8	E-3'-N' 北	—	—	—	—	—	—	—	—	—	S112327→ S112324		370	—
SI2331A	完備	長方形	3.1 × 3.2	E-6'-N' 北	縦方埋土	0	×	×	北辺 中央	—	内側	長/1.1	ビツ	SA12614→ S112620→ S112621→ S112331A→ S112331B→ S112332		370 ・ 395	395
SI2331B	完備	長方形	3.8 × 3.4	E-6'-N' 北	縦方埋 土・基礎 土?	—	—	×	北辺 中央	粘土	内側	長/1.5	前蔵 穴2 ビツ	SA12614→ S112620→ S112621→ S112331A→ S112331B→ S112332	[埋] 土跡部小型礎・環・費(礎)、 須恵器部(枕)へラケズリ環・費(礎) 礎(礎) [カマド] 土跡部環・費(礎)、須 恵器部(礎)、平瓦(礎)・粘用瓦(平 瓦) [貯蔵穴] 土跡器礎(礎)	370 ・ 395	395
SI2333	確認	正方形	3.0 × 3.1	N-10'- W/東	—	—	—	—	東辺 南側	粘土・両袖 芯材(瓦)	内側	長/1.0	—	S112338→ S112333	[埋] 須恵器礎(礎) [カマド脚礎] 丸瓦	355 ・ 399	—
SI2620	完備	—	3.2 × 1.9	N-6'-E' 南	地山	—	—	—	—	—	—	(長 /1.0)	—	SA12612→ S112620→ S112331AB		370 ・ 396	395
SI2621	完備	—	3.1 × 0.6	E-16'-N' 南	縦方埋土	—	—	—	北辺 中央	—	内側	(長 /1.0)	—	SA12614→ S112621→ S112331AB	[埋] 須恵器部(礎)・費(礎)	370 ・ 396	395

・ 規模が不明なものは、数値に「を」を加えている ・ カマド本体が住居内部にあるものを内側、外へ張り出すものを突出とする ・ 破片資料
・ 長さが0.9m以上を長径値、0.7m以下を短径値とする ・ (出土遺物) [礎]：遺構確認面出土、[埋]：埋土出土、(礎)：礎片資料

表42 区Ⅱ穴住居跡属性表

7. 円形周溝跡

円形または隅丸方形に巡る溝跡で、3基確認した。これらは溝が全周する点、内部に柱穴等の明確な付属施設が認められない点が共通する。類似する遺構は、L区のSX7945・7946円形周溝跡のほか、仙台市長町駅東遺跡(仙台市教委2014a)や加美町壇の越遺跡(加美町教委2004)などに認められ、

内部に柱穴を伴う、もしくは溝自体が壁の据え方となる平地建物とみられる。すべての円形周溝跡の属性は表43にまとめている。

【SX11905円形周溝跡】(図版361・401)

調査区北部中央で確認した。

〔重複〕(古) SB12258・12267・12585・12586・12643、SD12000、SK12261

(新) SF12085

〔規模・堆積土〕溝で囲まれた内径は3.8～4.5mである。溝の上幅は0.6～1.1m、下幅0.3～0.5m、深さは0.4mで、断面は皿形である。堆積土は褐灰色シルトである。

〔出土遺物〕堆積土から土師器環・甕、須恵器環・高台環・蓋・甕などが出土した。須恵器環はヘラ切り、高台環は静止糸切りである。

【SX12173円形周溝跡】(図版382・401)

調査区南部中央で確認した。

〔重複〕(古) SB12218

〔規模・堆積土〕溝で囲まれた内径は4.8～5.2mである。溝の上幅は0.2～0.3m、下幅0.1～0.2m、深さは0.1mで、断面は浅いU字形である。堆積土は暗褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕堆積土から土師器高環・甕などが出土した。

【SX12538円形周溝跡】(図版361・401)

調査区北部中央で確認した。

〔重複〕(古) SX12566 (新) SF12085

〔規模・堆積土〕溝で囲まれた内径は4.2mほどとみられる。溝の上幅は0.4m、下幅0.2m、深さは0.2mで、断面は皿形である。堆積土は黒褐色や暗オリーブ褐色の砂質シルトで、炭化物や地山ブロックを含む。

〔出土遺物〕堆積土から土師器環・甕、須恵器環・転用碗(図版402)、平瓦などが出土した。

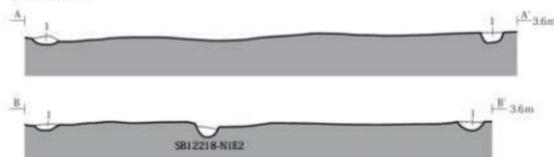
SX11905

平面図：図版361



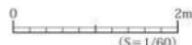
SX12173

平面図：図版382



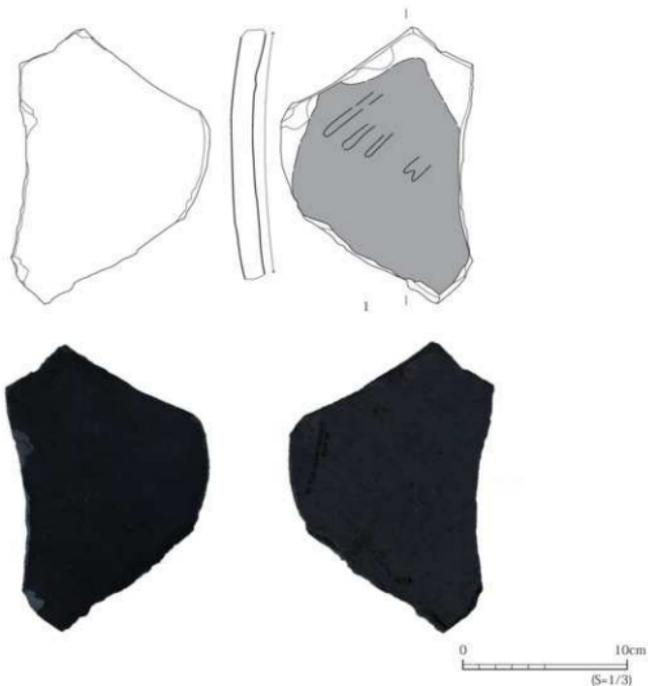
SX12538

平面図：図版361



遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SX11905	1	褐灰色 (10YR5/1)	シルト	地山ブロックをわずかに含む	自然堆積土
	2	褐灰色 (10YR5/1)	シルト	地山ブロックをやや多く含む	
SX12173	1	褐灰色 (10YR3/3)	砂質シルト	粘性炭、靱鉄を含む	自然堆積土
SX12538	1	黒褐色 (2.5Y3/1)	粘質シルト	地山ブロックを少し含む、炭化物を含む	
	2	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)	砂質シルト	地山ブロック主体、炭屑土を少し含む	

図版401 SX11905・12173・12538円形周溝跡断面図



図版402 SX12538円形周溝跡出土遺物

No.	図種	層位	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	残存	備考	登録
1	周溝跡・転用痕	原積土	16.3	11.7	1.4	一部	遺を転用。内面：凹陥。使用痕	4024

遺構名	調査	規模 (m)					埋積土	新旧関係	出土遺物	位置	
		外径	内径	上幅	下幅	深さ				平面	断面
SB11938	確認	9.5 ~ 10.5	9.8 ~ 10.0	0.3 ~ 1.6	0.2 ~ 0.5	0.2 ~ 0.3	自然埋積	SB12033 → SB11938 → SI11936 → SD11952・11910	[周溝] 土師器坪・甕、瓦器器坪・高台坪・鉢・甕	378・386	386
SX12566	確認	9	(8.5)	0.5 ~ 2.4	~ 1.6	0.2	自然埋積	SX12566 → SX12538・SK12308・12257・SF12085	[周溝] 土師器坪・甕、瓦器器坪・甕	371・387	387
SX11905	完測	5.5 ~ 6.0	3.8 ~ 4.5	0.6 ~ 1.1	0.3 ~ 0.5	0.4	自然埋積	SB12298 → SK12261・SB12585・12643 → SD12000 → SX11905 → SF12085, SB12586 → SX11905	[溝] 土師器坪・甕 (破)、瓦器器坪へラ切 → ナ字坪・静止系切高台坪・甕 (破)・蓋 (破)	361	401
SX12173	完測	5.5 ~ 5.7	4.8 ~ 5.2	0.2 ~ 0.3	0.1 ~ 0.2	0.1	自然埋積	SB12218 → SX12173	[溝] 土師器高坪・甕 (破)	382	401
SX12538	完測	5.2*	4.2*	0.4	0.2	0.2	-	SX12566 → SX12538 → SF12085	[溝] 土師器坪・甕 (破)、瓦器器坪 (破)、転用痕、平瓦 (破)	361	401

*規模が不明なものは、数値に+を加えている

表43 J区周溝をもつ建物跡・円形周溝跡属性表

8. 井戸跡

井戸側を有する1基と素掘り5基を確認した。これらの属性は表44にまとめている。

〈側を有する井戸〉

【SE12164井戸跡】(図版385・403)

調査区南部中央で確認した。側は抜き取り後、埋め戻されている。

〔重複〕(古) SD12162・12163

〔掘方〕長軸1.9m・短軸1.5mの楕円形で、深さは0.8mである。北側は、底から0.2m上の位置に幅の狭い段を持つ。裏込土は、地山ブロックを多く含む黒褐色砂質シルトである。

〔井戸側〕掘方に段が付く位置で、丸木を長方形に組んだ枠を確認した。内法は0.5×0.3mであり、丸木は両端を目違い柄に仕上げられて組んでおり、側の横桟と考えられる(図版404-3・4)。側はすべて抜き取られているが、縦板とみられる。また、南西隅で縦に打ち込まれた丸木は、横桟を押さえるための部分的な補強とみておきたい。

〔堆積土〕側内部の堆積土(6~8層)は、暗灰黄色や黒褐色などの砂質シルトである。

〔抜取穴〕1.5×1.4mの不整楕円形で、深さは0.4mある。埋土は地山ブロックを多く含む暗褐色シルトである。

〔出土遺物〕(図版404)

堆積土から土師器環・甕、須恵器環(2)、ひょうたん、裏込土から須恵器小型壺(1)などが出土した。須恵器環は皿形で、手持ちヘラケズリ調整が施される。

1/100 平面図：図版 385

y=12,870

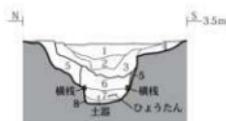


y=12,873

x=188,597.4



x=188,549.8



0 2m
(S=1/60)



SE12164 断面(西から)



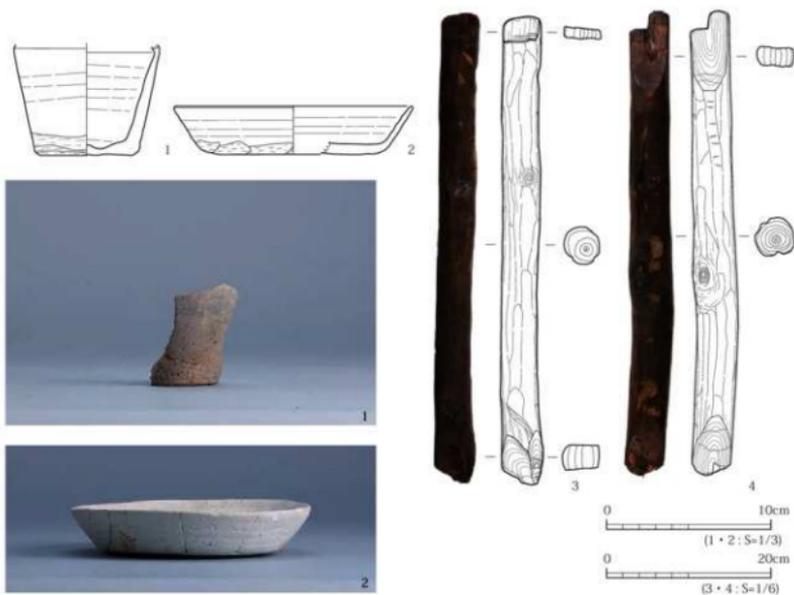
SE12164 横桟検出状況(西から)



SE12164 横桟見取り図

層位	土色	土性	混入物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	しまり強、細砂含む	側板取穴
2	黒褐色(10YR3/4)	粘土質シルト	しまり強、細砂含む	
3	黒褐色(10YR3/3)	砂質シルト	地山ブロックを少し含む	埋込土
4	黒褐色(10YR3/3)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	井戸堆積土
5	黒褐色(2.5Y3/2)	砂質シルト	しまり弱、地山ブロックを多く含む	
6	暗灰黄色(2.5Y4/2)	砂質シルト	しまり弱、粘性弱	
7	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土質シルト	しまり弱	
8	暗灰色(10YR4/1)	砂質シルト	しまり弱・粘性弱。有機物(木枝・葉)含む	

図版403 SE12164井戸跡



No.	器種	層位	調整	口径(cm)	器径(cm)	器高(cm)	残存	備考	登録
1	須恵器・小型壺	5層	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：ヘラ切りナデ	—	(6.2)	—	1/5		3401
2	須恵器・坏	5層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切りナデ	(14.6)	(9.0)	2.9	1/4		3300
3	木製品・井戸杵			—	—	—	完形	縦径：長さ：56.9cm 幅：3.9cm 径：4.5cm 加工部(脚)：1.2cm 加工部(丸)：3.0cm	3469
4	木製品・井戸杵			—	—	—	完形	縦径：長さ：56.4cm 幅：4.4cm 径：4.7cm 加工部2.4cm	3468

図版404 SE12164井戸跡出土遺物

〈素掘りの井戸〉

【SE11934井戸跡】(図版405・433)

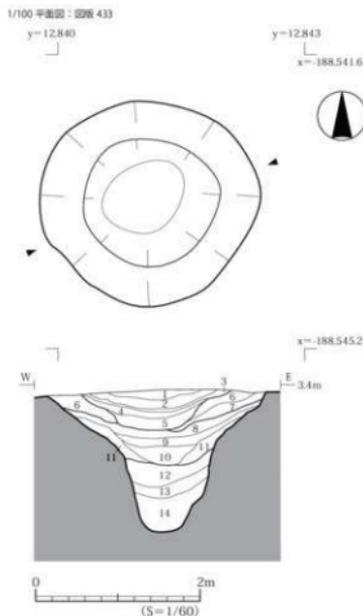
調査区中央部で確認した素掘りの井戸である。

〔重複〕(新) SX12089

〔規模・堆積土〕2.7×2.5mの円形で、深さは1.7mである。断面は漏斗形である。堆積土は下層(3～14層)が自然堆積、上層(1・2層)が人為堆積である。

〔出土遺物〕(図版406)

下層からは土師器坏(2・4)・甕、須恵器坏(3)・蓋・甕・壺・円面硯(1)、赤焼土器坏、平瓦、木製品部材(5)などが出土した。土師器坏や須恵器坏は、回転系切りである。円面硯は硯部がドーム状で、脚部は方形透かしが巡る。上層からは、土師器坏・甕、須恵器坏・甕・壺、赤焼土器坏などが出土した。



SE11934 断面（南から）

層位	土色	土性	遺人物など	備考
1	黄灰色 (7.5YR4/1)	砂質シルト	小礫・炭化物を少し含む	人為堆積土
2	黄灰色 (2.5Y4/1)	シルト	灰黄色 (2.5Y6/2)シルトと黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質シルトを混状に含む	
3	黒色 (10YR2/1)	粘土	炭化物を多く含む	
4	黒色 (2.5Y2/1)	粘土	炭化物を多く含む。黄灰色 (2.5Y4/1) シルトを混状に含む。特に黒色が濃い層	
5	黒褐色 (2.5Y3/1)	シルト		
6	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト	中心ほど粘質で末端では砂質が強まる	
7	にぶい黄灰色 (2.5Y6/3)	微砂	地山とほぼ同質。黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質シルトを混状に含む	自然堆積土
8	黄灰色 (2.5Y5/1)	粘土	部分的に灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質シルトを含む。中心ほど粘質で末端では砂質が強まる	
9	黄灰色 (2.5Y4/1)	粘土	中心ほど粘質で末端では砂質が強まる	
10	灰色 (5Y4/1)	粘土		
11	灰色 (7.5Y5/1)	砂質シルト	灰色 (5Y4/1) シルトを認められた含む	
12	灰色 (7.5Y4/1)	粘土		
13	オリーブ灰色 (5GY6/1)	砂質シルト	灰色 (7.5Y4/1) 粘土を混状に含む	
14	オリーブ黒色 (5Y3/1)	粘土		

図版405 SE11934井戸跡

【SE11935 井戸跡】（図版374・407）

調査区中央部で確認した素掘りの井戸である。

〔規模・堆積土〕2.5×2.2mの不整形で、深さは1.0mである。断面は逆台形である。堆積土は下層（3～10層）が自然堆積、上層（1・2層）は人為堆積である。

〔出土遺物〕（図版408）

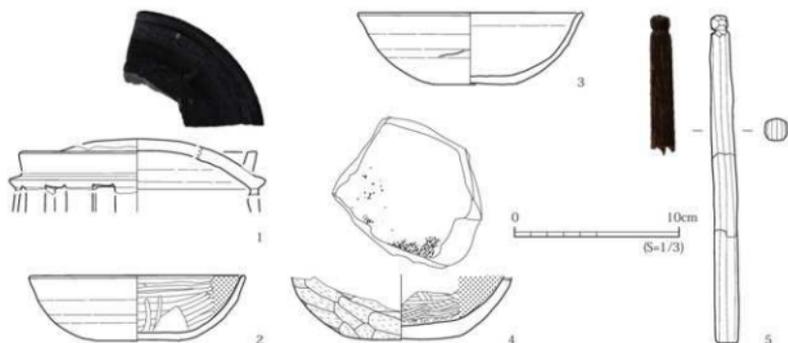
4層を除くすべての層から出土した。下層から土師器甕、須恵器環・甕・壺・広口壺・転用碗、置碇（1）、平瓦・丸瓦、桃種子などが出土している。土師器甕はロクロ調整で、須恵器広口壺は大戸産である。上層から土師器環・甕、須恵器環・甕・壺、平瓦などが出土した。

【SE11967 井戸跡】（図版374・409）

調査区中央部で確認した素掘りの井戸である。

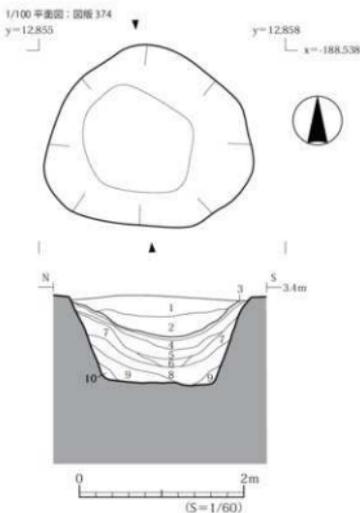
〔重複〕（古）SB12041、SK11974

〔規模・堆積土〕直径1.6mの円形で、深さは0.8mである。断面は上が大きく開く逆台形である。堆積土は下層（2～6層）が自然堆積、上層（1層）は人為堆積である。下層の壁面で確認した3本の木杭は、古墳時代中期以前のもものとみられる。



No.	器種	層位	調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	備考	登録
1	須恵瓦・内面焼	8・9層	内外面：ロクロナデ スカシ：方彫	(16.4)	—	—	一部	腰足焼。跡部ドーム状に繋付着	3280
2	土師器・坏	10・11層	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色地埋 底面：回転糸切り	(13.2)	(5.2)	4.0	2/3	—	3279
3	須恵器・坏	14層	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→コテ仕上げ 底面：回転糸切り	13.8	5.2	4.4	完形	内面に黒ね焼きの地跡(黒床)	3277
4	土師器・坏	14層	外面：手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色地埋 底面：手持ちヘラケズリ	—	(7.2)	—	1/4	内面に漆付着	3278
5	木製品・部材	14層	—	—	—	—	—	長さ：20.0cm 幅：1.2cm 厚0.8cm	3467

図版406 SE11934井戸跡出土遺物



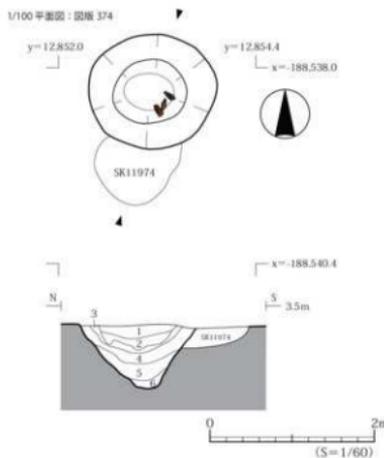
SE11935 断面(西から)

層位	土色	土性	混入物など	備考
1	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	白色粉を多く含む。木炭を少し含む	人為堆積土
2	黄褐色 (2.5Y4/1)	砂質シルト	浅褐色 (5Y7/3) シルトのブロック・黄褐色 (2.5Y3/1) シルトを混入に多く含む	
3	黒色 (2.5Y2/1)	シルト	腐化物を多く含む	自然堆積土
4	灰色 (5Y4/1)	シルト	—	
5	黒色 (5Y2/1)	シルト	腐化物を多く含む。木炭ではなく草のような質感	
6	灰色 (5Y4/1)	シルト	ブロック状に入る土	
7	灰オリーブ色 (5Y5/2)	微砂	腐化物を少し含む。灰色 (5Y5/1) 微砂を部分的に含む	埋戻土
8	オリーブ黒色 (5Y3/1)	シルト	—	
9	灰オリーブ色 (5Y6/2)	微砂	—	
10	灰色 (5Y5/1)	シルト	—	—

図版407 SE11935井戸跡



図版408 SE11935井戸跡出土遺物



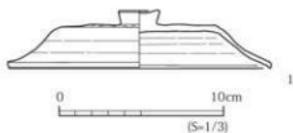
SE11967 断面 (西から)



SE11967 下層木材出土状況 (西から)

層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト		人為堆積土
2	黒褐色 (2.5Y2/1)	砂質シルト		自然堆積土
3	黒色 (2.5Y2/1)	シルト	炭化物を多く含む	
4	黄灰色 (2.5Y4/1)	シルト	部分的に炭砂を含む	
5	灰色 (5Y4/1)	シルト	部分的に炭砂を含む	
6	灰色 (5Y5/1)	微砂	5層をブロック状に含む	

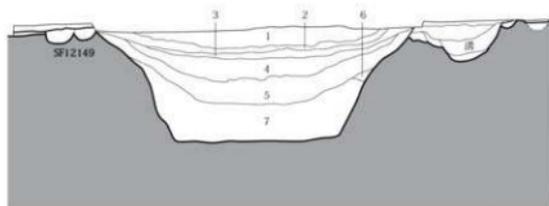
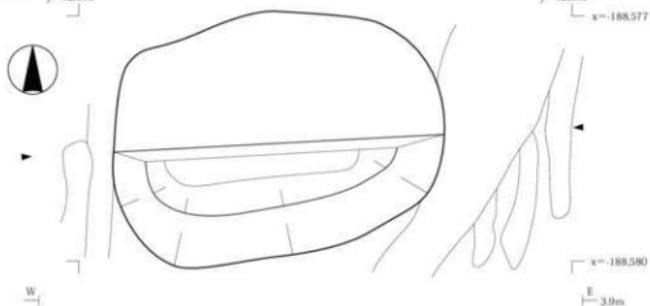
図版409 SE11967井戸跡



No.	器種	層位	調整	口径(cm)	底径(cm)	底高(cm)	残存	備考	登録
1	須恵皿・器	5層	内面:ロクロナデ→縄へラケツリツマミ削付→ナデ 外面:ロクロナデ	(16.0)	-	(3.5)	1/3	断面径ツマミ径:2.5cm, 内外面に火障	3298

図版410 SE11967井戸跡出土遺物

1/100 平面図: 図版379
y=12.843

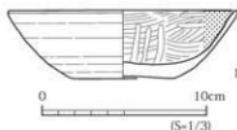


層位	土色	土性	混入物など	備考
1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土	地山ブロック・第Ⅱ層ブロックをやや多く含む。炭屑含む	人為堆積土
2	黒色 (10YR2/1)	粘土		自然堆積土(第Ⅱ層)
3	黒灰色 (10YR4/1)	粘土		自然堆積土
4	黒褐色 (10YR3/1)	粘土	植物をやや多く含む。グライ化	
5	オリーブ灰色 (5GY6/1)	粘土	グライ化	自然堆積土(崩落土)
6	黒灰色 (10YR4/1)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む。グライ化	
7	オリーブ灰色 (5GY5/1)	粘土	暗オリーブ灰色 (5GY3/1) 粘土との互層。グライ化	自然堆積土



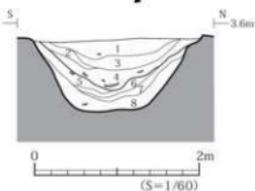
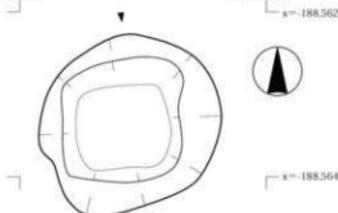
SE12192 断面 (南西から)

図版411 SE12192井戸跡



No.	器種	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・杯	下層	形状: ロケロナデ 内面: ヘタミ字キ→黒色彫刻 底部: 回転木切り→ナデ	(14.0)	6.2	(4.2)	1/3		3301

図版412 SE12192井戸跡出土遺物

 1/100 平面図: 図版 378
 y=12,848.4


SE12205 断面 (東から)



SE12205 4層遺物出土状況 (東から)

層位	土色	土性	遺人物や遺物	備考
1	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	しまり強・粘性強。遺物・炭化物を含む	人海塚積土
2	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	しまり強。炭化物・地山ブロックをわずかに含む	
3	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化物・地山ブロックを多く含む	
4	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	しまり弱・粘性強。灰黄褐色 (10YR4/2) 土と地山のまざり。炭化物・遺物を多く含む	
5	暗褐色 (10YR3/3)	粘質シルト		自然堆積土
6	褐色 (2.5YR7/6)	砂質シルト		自然堆積土
7	赤黒色 (2.5YR2/1)	シルト		(炭化物層)
8	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	遺物含む	自然堆積土

図版413 SE12205井戸跡

〔出土遺物〕(図版410)

下層から土師器環・甕、須恵器環・甕・蓋(1)、丸瓦などが出土した。土師器環はロクロ調整で、須恵器蓋は擬宝珠つまみである。

【SE12192井戸跡】(図版379・411)

調査区南西部で確認した素掘りの井戸である。底面形が隅丸長方形となるため、井戸ではない可能性も考えられる。

〔重複〕(古) SF12149

〔規模・堆積土〕4.0×3.0mの楕円形で、深さは1.5mである。断面は逆台形である。堆積土は下層(2～7層)が自然堆積、上層(1層)が人為堆積である。

〔出土遺物〕(図版412)

下層から土師器環(1)・甕、須恵器環・甕・鉢・壺、上層から土師器環・甕、須恵器環などが出土した。土師器環は回転系切りである。

【SE12205井戸跡】(図版378・413)

調査区南部で確認した素掘りの井戸である。

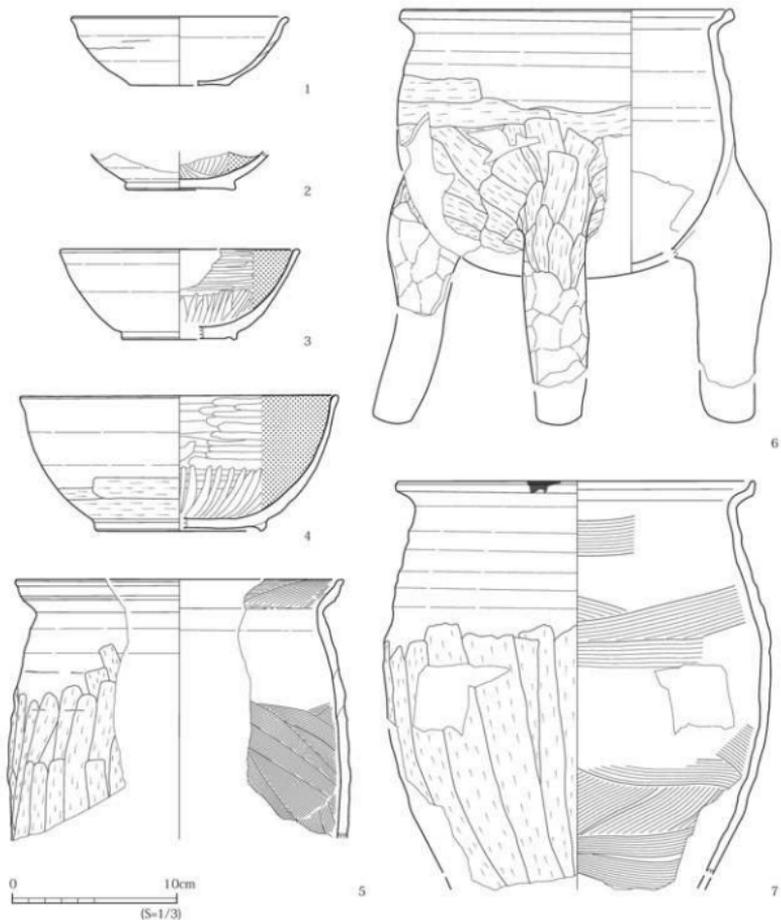
〔重複〕(古) SD12195・12202・12206

〔規模・堆積土〕2.4×2.1mの不整形形で、深さは0.9mである。断面は逆台形である。底面付近が隅丸方形であることから、本来は側を有した井戸であった可能性が残る。堆積土は下層(5～8層)が自然堆積、上層(1～4層)が人為堆積である。

遺構名	調査	構造	平面形	断面形	規模 (m)			堆積土	新旧関係	出土遺物	位置	
					幅	長さ	高さ				平面	断面
SE11934	完掘	素掘	円形	扇形	2.7	2.5	1.7	自然堆積 → 人為堆積	SE11934 → SX12089	1層] 土師器甕(甕)、須恵器環・甕(甕)、赤焼土器環(甕) 2層] 土師器甕(甕)、須恵器環・甕(甕) 3～4層] 土師器環・甕(甕)、須恵器環・甕・壺(甕) 6～7層] 土師器回転系切環・甕(甕)、須恵器環・甕(甕)、平瓦(甕) 8～9層] 土師器環・甕(甕)、須恵器環面切環・甕(甕)、赤焼土器環(甕) 10～11層] 土師器回転系切環、須恵器環・甕(甕) 12～13層] 土師器回転系切環(甕) 14層] 土師器環・甕(甕)、須恵器回転系切環・甕・壺(甕)、赤焼土器環(甕)、平瓦(甕)、木製品部材	405 ・ 405	
SE11935	完掘	素掘	不整形 円形	逆台形	2.5	2.2	1.0	自然堆積 → 人為堆積		1・2層] 土師器環・甕(甕)、須恵器環・甕・壺(甕)、平瓦(甕) 3～6層] 須恵器環・甕・壺(甕)、転形瓦、石製品部材 7～10層] 土師器ロクロ甕(甕)、須恵器環・甕(甕)、植物遺体 種子 8～10層] 須恵器口蓋(大戸甕)・坪・甕(甕)、石製品破石、丸瓦 平瓦(甕)	374 ・ 407	407
SE11967	完掘	素掘	円形	逆台形	1.6	1.4	0.8	自然堆積 → 人為堆積	SD12041・ → SE11974 → SE11967	2層] 土師器環・甕(甕)、須恵器環・甕(甕)、丸瓦(甕) 3層] 須恵器甕(甕) 4層] 土師器ロクロ甕・甕(甕)、須恵器環・甕(甕) 5層] 須恵器蓋	374 ・ 400	408
SE12164	完掘	木掘	楕円形	段を付 逆台形	1.9	1.5	0.8	自然堆積 → 人為堆積	SD12163 → SD12612 → SE12164	[層] 土師器環・甕(甕)、須恵器環、ひょうたん、 黄粘土] 須恵器小形甕	385 ・ 403	403
SE12192	平掘	素掘	楕円形	逆台形	4.0	3.0	1.5	自然堆積 → 人為堆積	SF12149 → SE12192	上層] 土師器環・甕(甕)、須恵器環(甕) 下層] 土師器環(甕)・甕(甕)、須恵器環・甕(甕)・甕・鉢(甕)	379 ・ 411	411
SE12205	完掘	素掘	不整形 円形	逆台形	2.4	2.1	0.9	自然堆積 → 人為堆積	SD12195・12202 → SD12206 → SE12205	1層] 土師器環・甕(甕)、須恵器環・甕(甕)、赤焼土器環・高台壇(甕)、 平瓦(甕) 2層] 土師器甕(甕)、須恵土器深鉢 3層] 土師器環・ロクロ甕(甕)、須恵器環・甕(甕)、赤焼土器環(甕)、 石製品破石、丸瓦・平瓦(甕) 4層] 土師器環・高台壇・ロクロ甕・高台壇・二足土器、須恵器環・甕・ 壺(甕)、赤焼土器高台壇・坪(甕)、平瓦 5～9層] 土師器環・高台壇・人型甕、須恵器回転系切環・甕・壺(甕)、 赤焼土器環・小皿、平瓦	378 ・ 413	413

・(出土遺物) [甕]: 遺構確認面出土。[壺]: 堆積土出土。(甕): 破片資料

表44 J区井戸跡属性表



No.	器種	層位	装飾	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	赤焼土器・杯	5層	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→コウ仕上げ 底部：回転糸切り	(13.6)	(6.0)	4.2	1/3		3302
2	土師器・高台碗	4層	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り (右回転) →ロクロナデ (高台つまみ出し)	—	(6.4)	—	1/4		3306
3	土師器・高台碗	5層	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り→ロクロナデ (高台つまみ出し)	(14.5)	(7.2)	5.5	1/3		3305
4	土師器・高台碗	4層	外面：ロクロナデ→「床下」回転ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り→高台筋付け→ナデ	(19.2)	(10.1)	8.2	1/3		3304
5	土師器・大空碗	5層	外面：ロクロナデ→ヘラケズリ 内面：ロクロナデ→ヘラケズリ	(19.8)	—	—	一部	内面に縞行首	3303
6	土師器・三足土器	4層	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ→磨面融合→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	20.4	—	(23.1)	2/3	胴部全体に磨面	3307
7	土師器・大空碗	4層	外面：ロクロナデ→ヘラケズリ 内面：ロクロナデ→ヘラケズリ	21.5	—	—	一部		3308

図版414 SE12205井戸跡出土遺物1



No.	器種	層位	調整	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚 (cm)	残存	備考	登録
8	石製品・磨石	3層		-	-	-	1/2	石材：安山岩、重量：4798 g	3311
9	瓦・平瓦	3層	凸面：縄タタキ目→ナデ 凹面：布目→ナデ 小口・側面：ヘラケズリ 一枚作り	-	-	3.5	1/6	多層域分類：平瓦B C類	3312
10	瓦・平瓦	4層	凸面：縄タタキ目 凹面：布目 小口・側面：手持ちヘラケズリ 一枚作り	-	-	2.8	1/4	多層域分類：平瓦B C類、平面形：台州	3310
11	瓦・平瓦	4層	凸面：縄タタキ目 凹面：布目 側面：ヘラケズリ 一枚作り	-	-	2.6	2/3	多層域分類：平瓦B C類、内面に傷痕	3309

図版415 SE12205井戸跡出土遺物2



图版416 SE12205井戸跡出土遺物3

〔出土遺物〕(図版414～416)

すべての層から出土したが、特に上層からの出土量が多い。下層からは土師器環・高台碗(3)・大型甕(5)、須恵器環・甕・壺、赤焼土器環(1)・小皿、平瓦などが出土した。須恵器環は回転糸切りである。

上層からは土師器環・高台環(2)・高台碗(4)・大型甕(7)・三足土器(6)、須恵器環・甕・壺、製塩土器深鉢、赤焼土器環・高台環・高台皿、丸瓦・平瓦(9～11)、磨石(8)などが出土した。土師器環は回転糸切り、甕はすべてロクロ調整である。平瓦は多賀城第三期のⅡB類(9)と多賀城第四期のⅡC類(10・11)が認められる。

9. 土坑

土坑は90基確認し、そのうち78基を完掘または半掘した。以下、33基について断面図を提示し(図版417～422)、主な出土遺物は図版567～572に示した。うち、6基(SK11914・12001・12266・12307・12308・12325)について説明を行うこととし、すべての土坑の属性は表45にまとめている。

【SK11914土坑】(図版374・417)

調査区中央部で確認した土坑である。

〔重複〕(新)SF12085

〔規模・断面形・堆積土〕長軸1.0m、短軸0.7mの不整形円で、深さは0.1m、断面は浅い皿形である。堆積土は、炭化物を多く含む黒褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕(図版423)

堆積土から非ロクロ調整の土師器両黒環(1・2)や蓋、非ロクロ調整の土師器甕、回転ケズリの須恵器環(3)・壺・甕のほか、須恵器円盤(4)などが出土した。

【SK12001土坑】(図版359・418)

調査区北部西側で確認した土坑である。

〔重複〕(古)SF12085

〔規模・断面形・堆積土〕長軸1.9m、短軸1.2mの隅丸長方形で、深さは0.2m、断面は浅い皿形である。堆積土の下層は暗灰黄色砂質シルトで、上層は炭化物や土器片を多く含む褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕(図版424)

堆積土から非ロクロ調整の土師器環・小型甕(24)・大型甕(26)・甕(25)、須恵器環・甕などが出土した。大型甕は、胴部最大径が上半にあり底部へ向けてすぼまる。

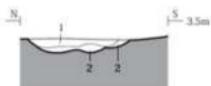
【SK12266土坑】(図版359・420)

調査区北部西側で確認した土坑である。

〔重複〕(新)SB12279

〔規模・断面形・堆積土〕径1.2mほどの円形で、深さは0.4m、断面は皿形である。堆積土は、中～下層が褐灰色や黒褐色のシルトや砂質シルトの互層で、上層は黄灰色や褐灰色の砂質シルトで埋戻されている。

SK11913
平面図：図版 374

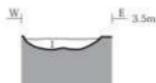


層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	しまり強、炭化物・遺物を含む	人為堆積土
2	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	しまり強、地山ブロックを多く含む	



SK11913 断面 (西から)

SK11914
平面図：図版 374

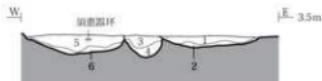


層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色 (7.5YR3/1)	砂質シルト	炭化物を多く含む、土器出土	人為堆積土



SK11914 断面 (南から)

SK11918・SP12063・SK11917
平面図：図版 374



遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SK11917	1	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	炭化物・地山ブロック・遺物を含む	人為堆積土
	2	にがい黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト	粘性弱、地山ブロックを含む	
SP12063	3	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	地山ブロックを含む	
	4	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	砂質シルト	粘性弱、地山ブロックを含む	
SK11918	5	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	炭化物・地山ブロック・遺物を含む	人為堆積土
	6	褐色 (10YR4/4)	砂質シルト	しまり弱・粘性弱、地山砂を含む	



SK11918・11917、SP12063 断面 (南から)

SK11919
平面図：図版 374



層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色 (2.5Y3/1)	粘土質シルト	しまり強・粘性強、炭化物・地山ブロック・遺物を多く含む	人為堆積土
2	オリーブ褐色 (2.5Y4/6)	砂質シルト	地山ブロック・遺物を多く含む	



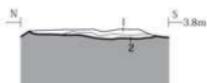
SK11919 断面 (東から)



図版417 J区土坑 1

SK11937

平面図：図版 374



層位	土色	土性	混入物など	備考
1	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	炭化物・焼土塊を多く含む	人為堆積土
2	灰黄褐色 (2.5Y6/3)	砂質シルト	1層を覆膜に含む	



SK11937 断面 (西から)

SK11944

平面図：図版 359



層位	土色	土性	混入物など	備考
1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	粘性弱。マンガンを含む。ブロック土・炭化物顆粒を少し含む	人為堆積土
2	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	粘性弱。マンガンを含む。ブロック土をわずかに含む	
3	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	粘性弱。マンガンを含む。ブロック土をやや多く含む	潜水下堆積？
4	黒褐色 (10YR3/1)	粘土	ブロック土をやや多く含む。灰白色顆粒をフナ状に含む	



SK11944 遺物出土状況 (南から)

SK12001

平面図：図版 359



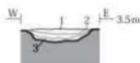
層位	土色	土性	混入物など	備考
1	黒灰色 (10YR4/1)	砂質シルト	炭化物・土器片を多く含む。土器だまり状を呈す	人為堆積土
2	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	砂質シルト	1のブロック及び炭化物を少し含む	



SK12001 断面 (南西から)

SK12005

平面図：図版 360



層位	土色	土性	混入物など	備考
1	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	陶器・マンガン粒・砂粒を含む。火山灰粒をわずかに含む	自然堆積土
2	黒褐色 (10YR3/2)	粘質土	粘性強。砂粒・火山灰粒をわずかに含む	
3	黒灰色 (10YR4/1)	砂質・粘質土	2層と砂が混じった層	



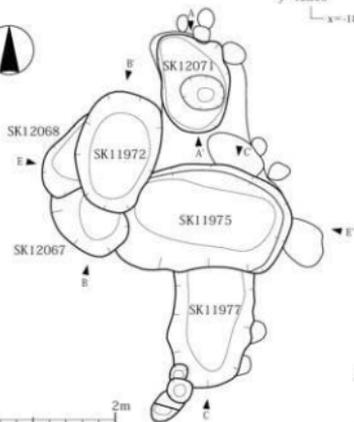
SK12005 断面 (南から)

図版418 J区土坑2

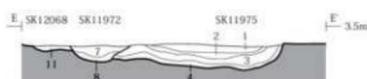
SK11972・11975・11977・12067・12068・12071

平面図：図版 374

y=12.852

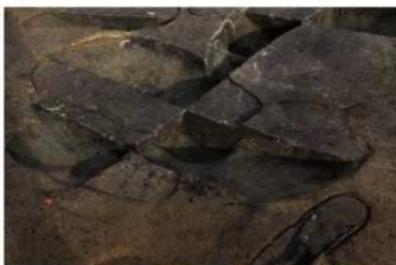


y=12.856
x=-188.531.4



x=-188.536.8

遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SK12071	1	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	地山ブロックを含む	
	2	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	しまり弱。地山ブロックを含む	
	3	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	しまり弱。地山砂を多く含む	
SK11975	1	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	炭化物・遺物を含む	
	2	オリーブ褐色 (2.5Y4/4)	砂質シルト	粘性強。地山ブロックを多く含む。炭化物を少し含む	人為増殖土
	3	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)	砂質シルト	炭化物・遺物・地山ブロックを含む	
	4	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	地山砂を多く含む	
SK11977	5	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	しまり強・粘性強。地山ブロック・炭化物を含む	人為増殖土
	6	暗褐色 (10YR4/1)	砂質シルト	しまり弱。地山砂を多く含む	
SK11972	7	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	炭化物・遺物・地山ブロックを含む	人為増殖土
	8	灰黒褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	
SK12067	9	黒色 (10YR2/1)	砂質シルト	地山ブロックを含む	
	10	暗オリーブ褐色 (2.5YR3/3)	砂質シルト	しまり弱・粘性強。地山砂を多く含む	
SK12068	11	黒褐色 (2.5Y3/2)	砂質シルト	地山砂を多く含む	



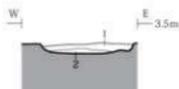
SK11972・12067 断面 (西から)



SK12015 断面 (南から)

SK12015

平面図：図版 374



層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	炭化物を多く含む	人為増殖土
2	にじみ褐色 (2.5YR/3)	砂質シルト	1層を覆原に含む	自然増殖土

図版419 J区土坑3

SK12194
平面図：図版 10

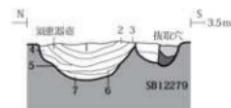


層位	土色	土性	遺人物など	備考
1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	しまり強。陶器を散状に含む	人為堆積土
2	黒色 (7.5YR2/1)	シルト	黒褐色ブロックを含む	人為堆積土
3	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト		
4	褐色 (10YR4/4)	シルト	3層とのまぎり	



SK12194 断面 (東から)

SK12266
平面図：図版 359

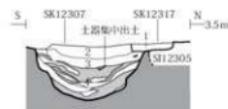


層位	土色	土性	遺人物など	備考
1	黄褐色 (2.5Y4/1)	シルト質砂	炭化物・焼土塊・地山ブロックを含む	人為堆積土
2	黒褐色 (10YR4/1)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む。土器を含む	
3	黒褐色 (2.5Y3/1)	砂質シルト	地山ブロックを含む	
4	にがみ漬色 (2.5Y6/3)	シルト質砂	地山に類似。黒褐色ブロックを含む	
5	黒褐色 (10YR4/1)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	
6	黒褐色 (2.5Y3/1)	シルト		
7	灰黄色 (2.5Y3/1)	砂質シルト	黒褐色土ブロックを含む	



SK12266 断面 (西から)

SK12307・SK12317
平面図：図版 367



層位	土色	土性	遺人物など	備考
1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	焼土・炭化物を含む	人為堆積土
2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	炭化物・土器片を含む	
3	黒褐色 (10YR4/1)	シルト	土器片を含む	
4	黒色 (10YR2/1) 灰色 (7.5Y6/1)	粘質土・シルト	黒色粘質土と灰色シルトのレンス状堆積。黒色粘質土に木片・種子を含む	



SK12307・12317 断面 (東から)



SK12307 4 普通物出土状況 (東から)



図版420 J区土坑4

SK12308
平面図：図版 371

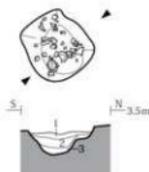
y=12.867



y=12.870



x=-188.513.4



x=-188.515.8

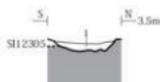


SK12308 遺物出土状況 (北西から)

層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	遺物・炭化物を多く含む	
2	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。遺物を含む	人為堆積土
3	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	シルト	地山砕を多く含む	

SK12316

平面図：図版 367



SK12305

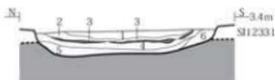
層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	粘土・炭化物を含む	人為堆積土



SK12316 断面 (東から)

SK12332

平面図：図版 370



SK12331

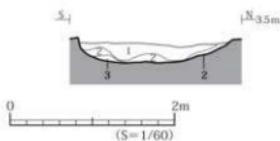
層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色 (10YR2/3)	粘質シルト	炭化物を含む	自然堆積土
2	黒色 (2.5Y2/1)	粘土		灰白色火山灰層
3	暗灰褐色 (2.5Y4/2)			
4	オリーブ黒色 (5Y3/2)	粘土	陥跡を含む	自然堆積土
5	黒褐色 (2.5Y3/1)	粘土	地山ブロックをわずかに含む	
6	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山ブロックを少し含む。炭化物を含む	人為堆積土



SK12332 断面 (北西から)

SK12325

平面図：図版 370



0

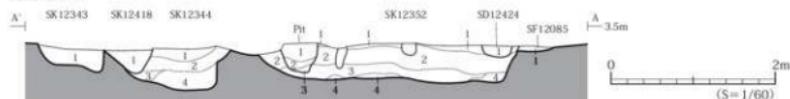
2m

(S=1/60)

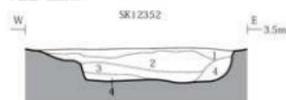
層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒色 (2.5Y2/1)	粘質シルト	地山ブロックをやや多く含む	
2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	粘質シルト	地山ブロックを多く含む	人為堆積土
3	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	炭化物を含む	

図版421 J区土坑 5

SK12343・12418・12344・12352
 平面図：図版 367



平面図：図版 361



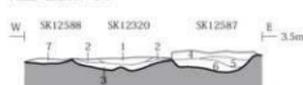
SK12352・12418・12344 断面 (南東から)



SK12587 遺物出土状況 (北東から)

遺構名	層位	土色	土性	混入物など	備考
SK12343	1	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)	砂質シルト	黒層土・地山ブロックをわずかに含む。腐炭を含む	人為堆積土
SK12418	1	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	地山ブロックをやや多く含む。炭化物を含む	
SK12344	1	暗褐色 (10YR3/4)	砂質シルト	地山ブロックを少し含む。腐炭を含む	
	2	暗灰褐色 (2.5Y4/2)	砂質シルト	地山ブロックをやや多く含む。腐炭を含む	
SK12344	3	黒褐色 (2.5Y3/1)	粘土	地山ブロックを少し含む	人為堆積土
	4	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山ブロックを多く含む	
SD12424	1	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	地山ブロックをわずかに含む	人為堆積土
SK12352	1	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	炭化物・焼土をやや多く含む	
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	地山ブロックをやや多く含む。黒層土を少し含む	
SK12352	3	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	黒層粘土と灰黄褐色砂質土の互層。焼土をわずかに含む	
	4	暗灰褐色 (2.5Y5/2)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む。黒層土をわずかに含む	

SK12587・SK12320・SK12588
 平面図：図版 367・370

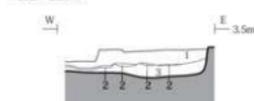


層位	土色	土性	混入物など	備考
1	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト	遺物・地山ブロックを含む	人為堆積土
2	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む	人為堆積土
3	暗灰褐色 (2.5Y4/2)	砂質シルト	地山砂を多く含む	
4	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む	人為堆積土
5	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト		人為堆積土
6	暗褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む	
7	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト	地山ブロックを縦横に含む	



SK12521 炭化物層検出 (北から)

SK12521
 平面図：図版 367



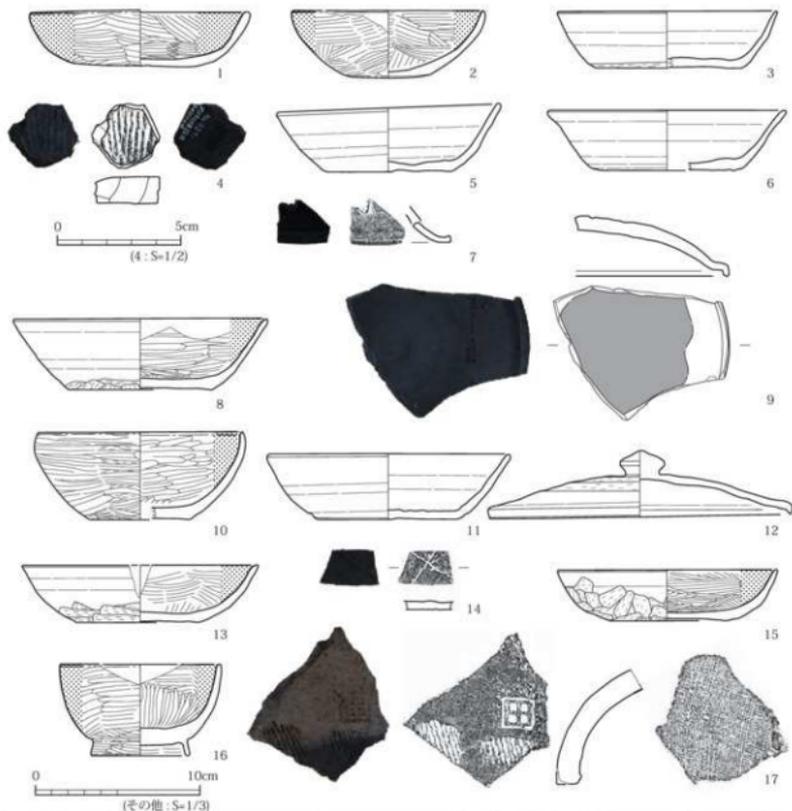
層位	土色	土性	混入物など	備考
1	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	砂質シルト	地山ブロック・灰白色火山灰ブロックを少し含む。炭化物を含む	人為堆積土
2	黒色 (S2/1)	シルト	炭化物層	人為堆積土
3	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)	シルト	地山ブロックをやや多く含む	

SK12578
 平面図：図版 367



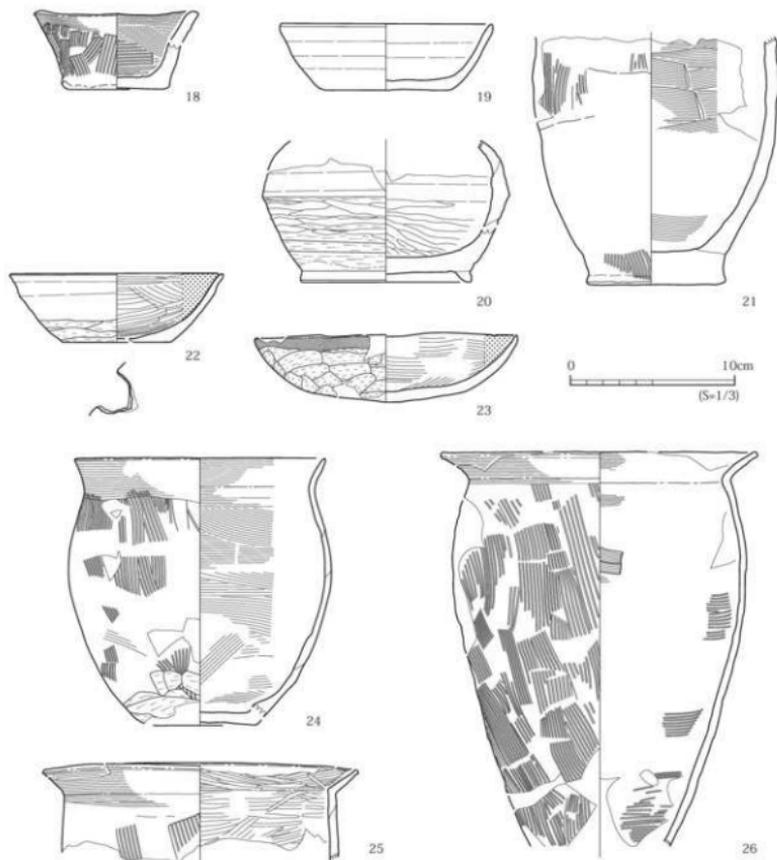
層位	土色	土性	混入物など	備考
1	黒褐色 (2.5Y3/2)	シルト	焼土・炭化物を含む	人為堆積土

図版422 J区土坑6



No.	器種	出土場所	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・坪	SK11914	埴	内外面:ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底面:ヘラ切り→ヘラミガキ→黒色処理	13.4	6.4	3.4	完形		3268
2	土師器・坪	SK11914	埴	内外面:ヘラミガキ→黒色処理 底面:切離し不明→ヘラミガキ→黒色処理	(11.8)	(5.8)	(4.1)	1/2		3269
3	土師器・坪	SK11914	埴	内外面:ロクロナデ 底面:切離し不明→回転ヘラケズリ	(13.2)	(8.8)	(3.5)	1/4	内外面火押痕	3270
4	土師器:行脚	SK11914	埴		—	—	—	—	磨製部を転用	3271
5	土師器・坪	SK11918	埴	内外面:ロクロナデ 底面:ヘラ切り→ナデ	(13.6)	7.6	4.2	2/3		3272
6	土師器・坪	SK11918	埴	内外面:ロクロナデ 底面:ヘラ切り→ナデ	(14.6)	(8.2)	3.7	1/2		3273
7	土師器:行脚	SK11919	埴	内外面:ロクロナデ 底面:スナシ	—	—	—	—		3276
8	土師器・坪	SK11919	埴	外面:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面:ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底面:切離し不明→手持ちヘラケズリ	(15.5)	(8.8)	(4.3)	1/3		3274
9	土師器:転用	SK11919	埴	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ→アマミ持→ナデ 内面:ロクロナデ	—	—	—	1/6	蓋を転用。アマミ打ち欠き。内面に磨痕。使用痕	3275
10	土師器・坪	SK11937	埴	外面:手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(12.9)	(6.0)	5.3	1/3		3285
11	土師器・坪	SK11937	埴	内外面:ロクロナデ 底面:ヘラ切り→ナデ	14.8	9.0	4.5	完形	内面に漆付着	3286
12	土師器・蓋	SK11937	埴	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ→アマミ持→ナデ 内面:ロクロナデ	(18.5)	—	4.2	1/2	宝珠形ツマミ径:3.7cm。扁平	3287
13	土師器・坪	SK11972	埴	外面:ロクロナデ (右側) 内面:ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底面:回転ヘラ切り→手持ちヘラケズリ	(14.4)	(7.6)	3.5	1/4		3289
14	土師器・坪	SK11975	埴	内外面:ロクロナデ 底面:切離し不明→手持ちヘラケズリ	—	—	—	一部	底面にヘラ書き「※」	3291
15	土師器・坪	SK11975	埴	外面:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	13.5	7.0	3.2	1/2		3290
16	土師器・高台坪	SK11977	埴	内外面:ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底面:切離し不明→高台形付け→ヘラミガキ→黒色処理	(9.8)	(6.0)	5.6	1/2		3292
17	丸・瓦瓦	SK11977	埴	凸面:縄身手打目→ロクロナデ→切離し「田」 凹面:布目 側面:ヘラケズリ→粘土層付き	—	—	—	一部	本質域分類:丸瓦目B類。凸面に切離し「田」	3293

図版423 J区土坑出土遺物 1



No.	器種	出土遺構	層位	図説	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	備考	登録
18	土師器・ミニチュア	SK12015	埋	外面：ハケメ→ヨコナデ 内面：ハケメ・ナデ 底部：木葉痕	(10.0)	(6.0)	(4.8)	2/3	鉢形	3298
19	銅器器・杯	SK12015	埋	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切りナデ	13.0	7.8	4.1	2/3		3299
20	銅器器・甕	SK12266	3層	外面：ロクロナデ→〔体下〕斜線ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ロクロナデ 底部：切離し不明→高台部分→ロクロナデ	—	10.2	—	1/3	焼成不良	4009
21	土師器・大型甕	SK12266	2層	外面：ハケメ 内面：ヘラナデ→ナデ 底部：木葉痕	—	7.8	(15.1)	1/2		4010
22	土師器・杯	SK12307	埋	外面：ロクロナデ→〔体下〕斜線ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色包埋 底部：切離し不明→手持ちヘラケズリ	13.0	6.6	4.2	1/2	底面穿孔	4012
23	土師器・IF	SK12307	4層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色包埋	(16.0)	11.2	4.2	2/3		4011
24	土師器・小型甕	SK12001	埋	外面：〔口〕ヨコナデ〔体〕ハケメ→ナデ〔底〕ハケメ→ヘラケズリ 内面：ヨコナデ・ナデ 底部：木葉痕	(15.2)	—	—	1/2		3297
25	土師器・甕	SK12001	埋	外面：ハケメ→ヨコナデ 内面：ヘラミガキ	(19.2)	—	—	一部		3295
26	土師器・大型甕	SK12001	1層	外面：〔口〕ヨコナデ〔体〕ハケメ 内面：〔口〕ヨコナデ〔体〕ナデ→ハケメ	(19.2)	—	—	2/3		3294

図版424 J区土坑出土遺物2



No.	器種	出土遺構	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	深高 (cm)	残存	備考	登録
27	土師器・坪	SK12308	埋藏層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	16.0	10.4	4.7	2/3		4014
28	土師器・椀縁	SK12308	埋土	内外面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：切離し不明→高行割付	—	7.5	—	1/3	内面に漆付着	4015
29	土師器・坪	SK12308	埋土	外面：ヘラミガキ→黒色処理 内面：ヘラミガキ→黒色処理	13.2	6.2	3.7	2/3	内面に漆付着	4013
30	土師器・坪	SK12317		外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(13.4)	(6.8)	5.8	1/3		4017
31	石製品・砥石	SK12325			—	—	—	—	重さ：841.0 g	4018
32	土師器・坪	SK12325	3層	外面：手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色処理 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(11.4)	—	(2.9)	1/4		4032
33	土師器・坪	SK12325	2層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(13.8)	(9.2)	2.9	1/4	底部内面にヘラ書き「一」。口縁部に油障紙付着物	4033
34	土師器・坪	SK12325	3層	外面：[口] ヨコナデ [底] ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.8)	(3.6)	(5.4)	1/2		4035
35	石製品・砥石	SK12325	埋藏層		—	—	—	—		4034
36	土師器・壺	SK12325	4層	外面：ヨコナデ→ナデ 内面：ヨコナデ→ヘラナデ	5.5	—	—	2/3	石材：凝灰岩。重さ：624.0 g	4019

図版425 J区土坑出土遺物 3



1



2



3



5



6



8



10



11



12



13



15



16



18



19

图版426 J区土坑出土遗物4



图版427 J区土坑出土遗物 5

〔出土遺物〕(図版424)

堆積土から非ロクロ調整の土師器環・大型甕(21)や須恵器環・壺などが出土した。須恵器壺は胴部中央に稜線を持ち、その下に部分的にミガキが入る小壺(20)である。

【SK12307土坑】(図版367・420)

調査区北部中央で確認した土坑である。

〔重複〕(新)SK12317

〔規模・断面形・堆積土〕長軸1.5m、短軸0.9mの楕円形で、深さは0.7m、断面は椀形である。炭化物や焼土、土器を多く含む褐灰色や黒色のシルトで埋戻されている。

〔出土遺物〕(図版424)

埋土から非ロクロ調整の土師器環・甕、須恵器壺・短頸壺、平瓦、凝灰岩製切石、確認面からロクロ調整の土師器環などが出土した。非ロクロ調整の土師器環は丸底状の平底(23)で、ロクロ調整の土師器環は逆台形、手持ちヘラケズリで、底部が穿孔されている(22)。

【SK12308土坑】(図版371・421)

調査区北部中央で確認した土坑である。

〔規模・断面形・堆積土〕一辺0.8mほどの不整形方で、深さは0.3m、断面は逆台形である。地山ブロックや炭化物、土器を多く含む褐色シルトや黒褐色粘土質シルトなどで埋戻されている。

〔出土遺物〕(図版425)

埋土から非ロクロ調整の土師器環・甕、ロクロ調整の土師器椀、須恵器環・甕、丸瓦、鉄滓などが出土した。土師器環は内黒・無段の丸底風平底で、内面に漆が付着している(27)。土師器椀は両黒で、こちらも内面に漆が付着している(28)。また、確認面から非ロクロ調整で両黒、無段平底の環



図版428 J区土坑出土遺物6

が出土した(29)。

【SK12325土坑】(図版370・421)

調査区北東部で確認した土坑である。

〔規模・断面形・堆積土〕長軸1.9m、短軸1.1mの不整楕円形で、深さは0.3m、断面は浅い皿形である。

炭化物を含む暗褐色粘土質シルト、にぶい黄褐色や黒色粘土質シルトで埋戻されている。

〔出土遺物〕(図版425)

埋土や確認面から非ロクロ調整の土師器環・壺・甕、須恵器環、石製品砥石(31・35)などが出土した。土師器環は無段で丸底風平底(32)と平底(34)があり、前者は両黒である。須恵器環は皿形で、手持ちヘラケズリが施される(33)。

遺構名	調査	平面形	断面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	堆積土	新旧関係	出土遺物	
									平底	断面
SK11913	確認	楕円形	—	1.3	1.0	0.2	人為堆積	SF12085→SK11913	土師器壺(甕)、須恵器へう切→ナデ 環(白粉付着)・甕	374 417
SK11914	完掘	不整形円形	浅い皿形	1.0	0.7	0.1	人為堆積	SK11914→SF12085	土師器ロクロ両面環・非ロクロ両面環・ 甕(甕)・甕(甕)、須恵器回転ケズリ 環・片甕(甕)・壺(甕)	374 417
SK11915	完掘	不整形円形	浅い皿形	1.4	1.1	0.1	自然堆積		須恵器環(甕)	29・359 —
SK11916	確認	楕円形	—	0.9	0.6	—	—	SK11916→SF12085		374 —
SK11917	完掘	圓九方形	浅い皿形	1.2	0.9	0.1	人為堆積		土師器環(甕)・甕(甕)、須恵器環(甕)・ 甕(甕)	374 417
SK11918	完掘	不整形円形	浅い皿形	1.2	0.9	0.2	人為堆積		土師器環(甕)・ロクロ甕(甕)、須恵 器へう切→ナデ環・高台環(甕)	374 417
SK11919	完掘	不整形円形	不整レンズ形	1.8	1.6	0.3	人為堆積	SB12026→SK11919	土師器環・甕(甕)、土師器 器脚部施陶・転写環・環(甕)・甕 (甕)・知照点(甕)	374 417
SK11920	確認	不整形円形	—	1.1	1.0	—	—	SI11980→SK11920	土師器環(甕)、須恵器環(甕)	360 —
SK11921	完掘	不整形円形	浅い皿形	1.1	0.7	0.1	自然堆積			29・359 —
SK11922	完掘	圓九方形	逆台形	0.8	0.7	0.1	自然堆積		土師器環(甕)	29 —
SK11923	完掘	楕円形	逆台形	1.7	0.6	0.1	人為堆積			29 —
SK11937	完掘	不整形円形	浅い皿形	1.6	1.1	0.1	人為堆積	SK11937→SD11910	土師器壺・環(甕)・甕(甕)、 須恵器へう切→ナデ環・甕	374 418
SK11944	完掘	不整形円形	段を持つ逆台 形	1.2	0.8	0.4	自然堆積→ 人為堆積		土師器環(甕)・甕(甕)、 須恵器環(甕)・甕(甕)、 平瓦(甕)	359 418
SK11949	完掘	不整形円形	浅い皿形	1.6	1.4	0.2	人為堆積	SF12008→SK11949	土師器環(甕)・甕(甕)、 須恵器環(甕)・甕(甕)、 平瓦(甕)・丸瓦(甕)	378 —
SK11956	完掘	不整圓九方形	浅い皿形	1.2	0.7	0.1	人為堆積	SI12008→SK11956	土師器環(甕)・甕(甕)、 須恵器環(甕)	378 —
SK11957	完掘	不整形円形	逆台形	1.1	0.7	0.4	人為堆積		土師器環(甕)・甕(甕)、 須恵器環(甕)・甕(甕)	378 —
SK11958	平底	不整形円形	不整レンズ形	1.7	1.4	0.2	自然堆積	SK11958→SX12092 →SD11959	須恵器高台環(甕)・甕(甕)	29 —
SK11972	完掘	不整形円形	浅い皿形	1.5	1.0	0.2	人為堆積	SK11975→SK12067 →SK12008→ SK11972	土師器回転系切环・回転ケズリ環 (甕)・甕(甕)、 須恵器環(甕)・甕(甕)	374・ 419 419
SK11974	完掘	楕円形	不整レンズ形	0.9・	1.0	0.1	人為堆積	SB12023→SK11974 →SE11967	土師器環(甕)、須恵器環(甕)・甕(甕)	374 —
SK11975	完掘	不整形円形	浅い楕形	2.1	1.3	0.4	人為堆積	SK11977→SK11975 →SK12067→ SK11972	土師器静非系切?・手持ケズリ 環・ロクロ甕(甕)、 須恵器環(甕)	374・ 419 419
SK11977	完掘	不整形円形	浅い皿形	1.5・	1.0	0.2	人為堆積	SK11977→SK11975	土師器ロクロ両面高台環・环(甕)・ 甕(甕)、須恵器環(甕)、丸瓦(多 数)・期師瓦(甕)	374・ 419 419
SK11996	完掘	不整形円形	逆凸形	0.8	0.7	0.4	自然堆積	SF12085→SK11996		361 —
SK11997	完掘	不整形円形	浅い皿形	1.8	1.2	0.1	人為堆積	SF12085→SK11997	土師器環(甕)	361 —
SK12001	完掘	圓九長方形	浅い皿形	1.9	1.2	0.2	人為堆積	SF12085→SK12001	土師器環(甕)・非ロクロ人型甕・小 型甕・甕、須恵器環(甕)・甕(甕)	359 418
SK12002	完掘	不整形円形	浅い皿形	1.0	0.9	0.2	自然堆積			360 418
SK12010	完掘	不整形円形	不整形	0.6	0.5	0.2	人為堆積	SI11979→SK12010		360 —
SK12014	平底	不整形円形	皿形	0.8	0.5	0.1	自然堆積	SI11978→SK12014		360 —
SK12015	完掘	不整形円形	皿形	1.1	0.7	0.1	自然堆積→ 人為堆積		土師器ミニチュア鉢形・ 環(甕)・甕(甕)・甕(甕)、 須恵器へう切→ナデ環・环(甕)・高 台環(甕)・甕(甕)	374 419

表45-1 J区土坑属性表1

遺構名	調査	平面形	断面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	堆積土	新旧関係	出土遺物	段階	
										平面	断面
SK12430	実測	不整形円形	楕形	0.7	0.5	0.3	人海増積・ 自然増積		土師器片(破)・土(破)	367	—
SK12444	実測	不整形円形	浅い楕形	0.9	0.5+	0.1	自然増積	SK12444→SK12342		361・367	—
SK12450	実測	圓九長方形	浅い楕形	1.1	0.8	0.1	人海増積			367	—
SK12458	実測	楕円形	浅い楕形	0.4+	0.3+	0.1	自然増積	SK12458→SF12085		361・367	—
SK12494	実測	圓九方形	浅い楕形	0.8	0.8	0.1	自然増積	SK12494→SK12310・ 12311		367	—
SK12500	実測	円形	浅い楕形	0.9	0.6+	0.1	人海増積	SK12500→SK12344・ 12352		361・ 367	—
SK12501	実測	不整形円形	浅い楕形	1.9+	1.1	0.2	人海増積	SK12518→SK12501→ SD12487		361・ 367	—
SK12510	実測	不明	逆台形	0.8+	—	0.2	自然増積	SK12510→SK12343・ 12344→SK12418		367	—
SK12512	実測	不整形円形	楕形	0.3	0.2	0.1	自然増積			367	—
SK12521	実測	圓九長方形	逆台形	1.9+	1.2	0.4	人海増積・ 自然増積	SF12235→SK12521		367	422
SK12529	実測	不整形円形	楕形	0.3	0.1	0.0	自然増積			367	—
SK12557	確認	不整形円形	—	3.3	1.6	—	—	SF12085→SK12557		371	—
SK12560	実測	不整形円形	楕形	0.8	0.7	0.2	人海増積		土師器片(破)	367・371	—
SK12561	平瓦	不整形円形	楕形	0.6	0.6	0.1	自然増積			367・371	—
SK12562	確認	不整形円形	—	1.2	1.0	—	—			371	—
SK12578	実測	楕円形	浅い楕形	0.5	0.5	0.1	人海増積	SK12305→SK12578	土師器片(破)・土(破)・ 須恵器片(破)・丸瓦(破)	367	422
SK12587	実測	楕円形	逆台形	1.1	0.6	0.3	人海増積	SK12587→SK12320・ SD12324AB	土師器非ロコロ首	370	422
SK12588	実測	不整形円形	浅い楕形	0.8	0.6+	0.1	人海増積	SK12588→SD12594		367	422

・規格が不明なものは、数値に+を加えている
 ・(出土遺物) (破)：遺構確認面出土、(埋)：堆積土出土、(破)：破片資料

表45-3 J区土坑属性表3

10. 畑跡

調査区北側で6面、南側で4面を確認した。以下、SF12085・12149・12237・12238の4面について説明を行い、すべての畑跡の属性は表46にまとめている。

【SF12085畑跡】(図版361・371・429)

調査区北部で確認した東西29m、南北25mに広がる畑跡である。小溝跡は111本確認した。小溝跡の方向と切り合い関係から、畑跡はA群からH群のグループに分かれ8～9時期の変遷がある。各グループのうち、北側の本調査対象範囲にかかるB2群・D～H群以外は確認調査のみにとどめている。

〔重複〕(古) SB12053・12258・12497・12585・12586・12643、SD11905・12000、SK11914・12265、SX12538・12566

(新) SB12022・SK11913・11997・12070・12079

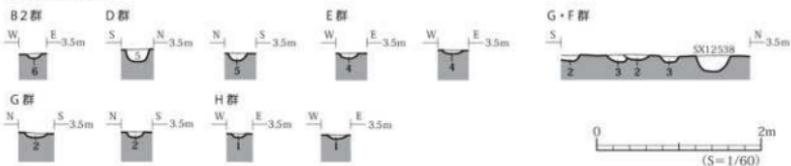
〔規模・堆積土〕A群は南北方向にのびる10本の小溝跡からなる。長さ0.9～3.5m、幅0.2～0.3mで、深さと断面形は不明である。検出面での堆積土は暗褐色シルトである。

B群はB1群とB2群に分かれる。B1群は南北方向にのびる5本の小溝跡からなる。長さ0.8～6.2m、幅0.1～0.2mで、深さと断面形は不明である。検出面での堆積土は暗褐色シルトである。B2群は南北方向にのびる5本の小溝跡からなる。B1群との新旧関係は不明である。長さ1.8～6.0m、幅0.2～0.7mで、深さは0.1m程度である。断面形はレンズ形である。堆積土は地山ブロックを多く含むふい黄褐色砂質シルトである。

C群は東西方向に延びる11本の小溝跡からなる。長さ2.5～3.7m、幅0.2～0.4mで、深さと断面形は不明である。検出面での堆積土は暗褐色シルトである。

D群は東西方向にのびる4本の小溝跡からなる。長さ0.5～7.4m、幅0.2～0.6mで、深さは0.3mである。断面形はレンズ形から逆台形である。堆積土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

平面図：図版 361・371



層位	土色	土性	混入物など	備考
1	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	粘性弱。マンガン・銩鉄を含む。地山ブロックをわずかに含む	H群
2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	粘性弱。地山ブロック・マンガンをわずかに含む	G群
3	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)	粘質シルト	地山ブロックを少し含む。炭化物含む	F群
4	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	粘性弱。地山ブロック・マンガンをわずかに含む	E群
5	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	粘性弱。地山ブロック・マンガンをわずかに含む	D群
6	にぶい黄褐色 (10Y4/3)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	B2群

図版429 SF12085畑跡断面図



SF12085 横出状況 (東から)



SF12237 横出状況 (南から)

図版430 SF12085・12232畑跡

E群は南北方向にのびる20本の小溝跡からなる。長さ0.5～9.7m、幅0.2～0.7mで、深さは0.1～0.2mである。断面形はレンズ形である。堆積土は地山ブロックを含む灰黄褐色シルトである。

F群は東西方向にのびる14本の小溝跡からなる。長さ0.8～4.3m、幅0.1～0.5mで、深さは0.1～0.2mである。断面形は逆台形である。堆積土は地山ブロック・炭化物を含む暗オリーブ褐色粘土質シルトである。

G群は東西方向にのびる38本の小溝跡からなる。長さ0.7～9.0m、幅0.2～0.4mで、深さは0.1～0.2mである。断面形はレンズ形・椀形である。堆積土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

H群は南北方向にのびる4本の小溝跡からなる。長さ3.0～9.0m、幅0.2～0.3mで、深さは0.1m程度である。断面形はレンズ形である。堆積土は地山ブロックを含む黒褐色砂質シルトである。

〔方向〕各グループの方向はA群：N-4～15°-E、B1群：N-4～8°-W、B2群：N-24～31°-E、C群：E-2～16°-N、D群：E-2～3°-S、E群：N-2～7°-E、F群：E-7～12°-SおよびE-5°-N、G群：E-6～13°-S、H群：N-1°-Wである。

〔出土遺物〕E～F群の堆積土から、土師器環・甕、須恵器環・甕が出土している。

【SF12237畑跡】(図版337・431・433)

調査区中央部西側で確認した東西10m、南北12.5mに広がる畑跡である。SX11900・SX12089整地層の下で確認した。東西方向にのびる小溝跡が6本ある。

〔重複〕(新)SD12004、SX11900・12089

〔規模・堆積土〕小溝の規模は、長さ5.0～9.5m・幅0.3～0.8mで、深さは最も深いところで0.2mである。断面形は逆台形・漏斗形である。堆積土は地山ブロックを多く含む黄灰色シルトである。

〔方向〕方向はE-10～21°-Sである。

〔出土遺物〕堆積土から土師器環、須恵器環・甕が出土した。須恵器環には、手持ちヘラケズリとヘラ切りが認められる。

【SF12238畑跡】(図版432・433)

調査区中央部西側で確認した東西8m、南北8.5mに広がる畑跡である。小溝跡は9本確認し、切り合い関係から南北方向にのびるA群と、東西方向にのびるB群の2つのグループに分かれる。B群が新しい。

〔重複〕(古)SD11982 (新)SD12004A・B、SX11900・12089

〔規模・堆積土〕A群は、南北方向にのびる4本の小溝跡からなる。長さ3.1～4.4m、幅0.2～0.3mで、深さと断面形は不明である。検出面での堆積土は灰黄褐色砂質シルトである。

B群は、東西方向にのびる5本の小溝跡からなる。長さ2.3～4.6m、幅0.2～0.4mで、深さは0.1m程度である。断面形はレンズ形・椀形である。堆積土は黄灰色砂質シルトである。

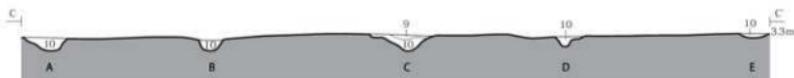
〔方向〕各グループの方向はA群がN-7～15°-E、B群がE-3～17°-Sである。

〔出土遺物〕B群の堆積土から土師器環・甕、須恵器環が出土した。

【SF12149畑跡】(図版379・434)

調査区南西部で確認した。隣接する多賀城市の第21・24次調査を含めると、東西13m、南北24m

平面図：図版 433



層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黄灰色 (2.5Y5/1)	シルト	地山ブロックを少し含む	人為堆積土
2	黄灰色 (2.5Y5/1)	シルト	地山ブロックを多く含む	



A 溝断面 (南東から)



B 溝断面 (南東から)



C 溝断面 (南東から)



D 溝断面 (南東から)

図版431 SF12237畑跡

平面図：図版 360・433



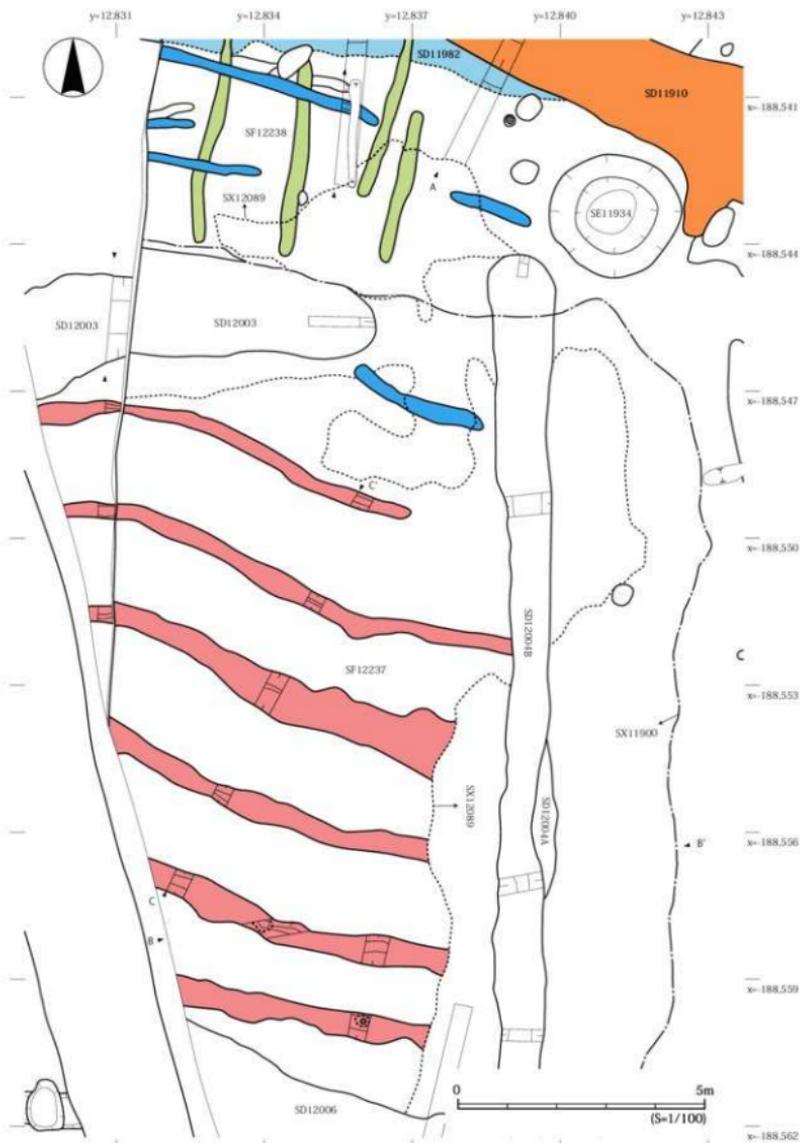
遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SF12238	1	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト		
	2	灰黄褐色 (10YR6/2)	砂質シルト	地山ブロック・黄灰色砂質シルトブロックを複数に多く含む	
SD12089	3	灰黄色 (2.5Y6/2)	砂質シルト	黄灰色砂質シルトブロックを複数に多く含む	人為堆積土
SD11982	4	黄灰色 (2.5Y5/1)	砂質シルト	陶器を含む。地山ブロックを多く含む	人為堆積土

図版432 SF12238畑跡断面図

以上広がる畑跡である。南北方向にのびる小溝跡を31本確認した。A群からD群に分けられ、D期が新しい。

〔重複〕(古) SD12178 (新) SE12192

〔規模・堆積土〕A群は南北方向にのびる1本の小溝跡を確認した。多賀城市の調査を含めると8本になる。長さ2.5m、幅0.2mで、深さ・断面形は不明である。検出面での堆積土は地山ブロックをやや多く含む黒褐色シルトである。



(J区の図例は図版336を参照)

図版433 J区平面図15

B群は南北方向にのびる6本の小溝跡からなる。多賀城市の調査を含めると20本以上になる。長さ1.5～3.0m・幅0.2～0.3mで、深さ・断面形は不明である。検出面で確認した堆積土は地山ブロックを多く含む黒褐色のシルトである。

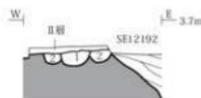
C群は南北方向にのびる22本の小溝跡からなる。多賀城市の調査を含めると36本になる。長さ0.7～5.6m、幅0.2～0.5mで、深さは0.1～0.2mである。断面形は浅い皿形・レンズ形である。堆積土は地山ブロックを少し含む褐色粘土質シルトである。

D群は南北方向にのびる2本の小溝跡からなる。多賀城市の調査を含めると4本になる。長さ1.8～2.0m・幅0.2～0.5mで、深さは0.2mである。断面形は楕円形である。堆積土は地山ブロックを少し含む褐色粘土質シルトである。

〔方向〕各グループの方向はA群：N-2°-E、B群：N-25°-30°-E、C群：N-10°-W、N-7°-E、D群：N-4°-15°-Eである。

〔出土遺物〕なし。

平面図：図版379



層位	土色	土質	遺人物など	備考
1	褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト	地山ブロックを少し含む	D群
2	褐色 (10YR5/1)	粘土質シルト	地山ブロックを少し含む	C群



図版434 SF12149畑跡断面図

遺構名	調査	経度 東向き座標(m)	グループ	検出 構造	方向	規模 (m)			断面形	新旧関係	出土遺物	位置			
						長さ	幅	深さ				平面	断面		
SF12085	一部 完備	29.0 × 25.0			A	10	N-4°-15°-E	0.9 ~ 3.5	0.2 ~ 0.3	—	SB12585 → SB12258 + 12843 → SB12200 + SK12255 → SK11905 + SF12085 → SK11907 + 12070 + 12079 + SK12566 → SK12538 + SF12065 + SB12107 + 12585 → SF12805	[注] F群埋土跡跡 環・費、須磨器 環・費	361 + 371	429	
					B1	5	N-4°-8°-W	0.8 ~ 6.2	0.1 ~ 0.2	—					
					B2	5	N-24°-31°-E	1.8 ~ 6.0	0.2 ~ 0.7	0.1					レンズ形
					C	11	E-2°-16°-N	2.5 ~ 3.7	0.2 ~ 0.4	—					—
					D	4	E-2°-3°-S	0.5 ~ 7.4	0.2 ~ 0.6	0.3					レンズ形 逆台形
					E	20	N-2°-7°-E	0.5 ~ 9.7	0.2 ~ 0.7	0.1 ~ 0.2					—
					F	14	E-7°-12°-S E-5°-N	0.8 ~ 4.3	0.1 ~ 0.5	0.1 ~ 0.2					逆台形
					G	38	E-6°-13°-S	0.7 ~ 9.0	0.2 ~ 0.4	0.1 ~ 0.2					レンズ形 楕円形
H	4	N-1°-W	3.0 ~ 9.0	0.2 ~ 0.3	0.1	レンズ形									
SF12148	確認	6.5 × 9.3 (市 調査区含む)			A	5	N-3°-W N-2°-E	0.6 ~ 5.1	0.2 ~ 0.4	—	—	—	385	—	
					B	6	N-25°-30°-E	1.5 ~ 3.0	0.2 ~ 0.3	—	—	—	—	—	—
SF12149	一部 完備	13.0 × 24.0 (市調査区外)			A	1	N-2°-E	2.5	0.2	—	—	—	—	—	
					C	22	N-10°-W N-7°-E	0.7 ~ 5.6	0.2 ~ 0.5	—	—	—	—	—	379
SF12224	一部 完備	30.0 × 7.4			A	9	0°-N-7°-E	1.4 ~ 7.5	0.3	0.2	楕円形	—	—	—	—
					B	5	E-2°-N	1.9 ~ 7.4	0.3	—	—	—	—	—	—
SF12232	確認	11.1 × 9.2			A	6	E-4°-14°-N	0.7 ~ 3.2	0.1 ~ 0.2	—	—	—	—	—	
					B	10	E-3°-N	0.5 ~ 5.9	0.2 ~ 0.6	—	—	—	—	—	—
SF12233	確認	6.0 × 4.8			A	2	N-3°-7°-E	3.0 ~ 3.6	0.2 ~ 0.4	—	—	—	—	—	
					B	9	E-3°-8°-S	0.6 ~ 3.2	0.1 ~ 0.3	—	—	—	—	—	—
SF12234	確認	4.0 × 6.5			A	4	E-7°-S	1.7 ~ 2.5	0.1 ~ 0.3	—	—	—	—	—	
					A2	4	E-10°-14°-N	0.9 ~ 3.1	0.1 ~ 0.4	—	—	—	—	—	—
SF12235	一部 完備	10.0 × 12.5			A	6	E-10°-21°-S	5.0 ~ 9.5	0.3 ~ 0.8	0.2	逆台形 楕円形	—	—	—	—
					A	4	N-7°-15°-E	3.1 ~ 4.4	0.2 ~ 0.3	—	—	—	—	—	—
SF12238	一部 完備	8.0 × 8.5			A	4	E-3°-17°-S	2.3 ~ 4.6	0.2 ~ 0.4	0.1	レンズ形 楕円形	—	—	—	—
					B	5	E-3°-17°-S	2.3 ~ 4.6	0.2 ~ 0.4	0.1	—	—	—	—	—

・〔出土遺物〕〔埋〕：遺構確認出土。〔埋〕：埋積出土。〔破〕：破片資料

表46 J区畑跡属性表

第Ⅸ章 L 区



L区全景（北西から）



西4道路跡(SX750)（南から） 奥は多賀城跡五万崎地区



図版435 L区全体図

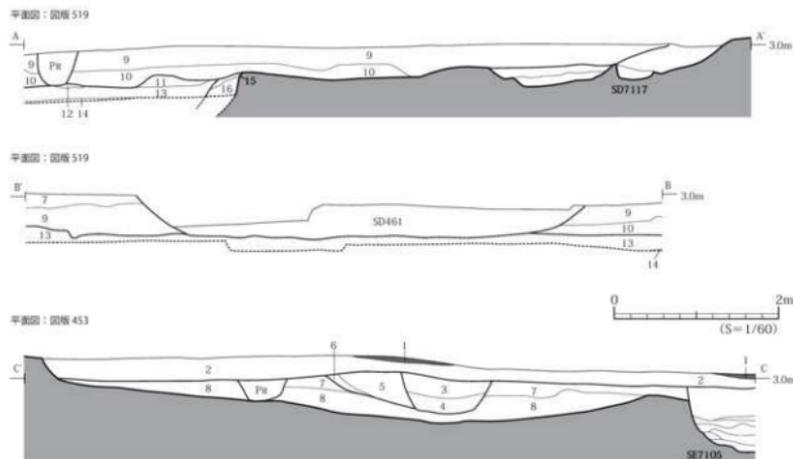
Ⅰ区では道路跡1条、整地層2面、区画溝跡13条（掘直しを含む）、溝跡27条、材木堀跡9条、掘立柱堀跡2条、掘立柱建物跡69棟、竪穴住居跡65棟、井戸跡5基、土坑76基、畑跡5面などを確認した（図版435）。本区は、橋脚PA1・PB1・PB2の部分のみ本発掘調査を行った。その他については確認にとどめ、必要に応じて断割りを行った。以下、調査した遺構について種別ごとに説明する。なお、〔重複〕の（古）・（新）は記載している遺構に対しての前後関係を表している。

1. 整地層

調査区の東側で、ほぼ同位置で重複する整地層を2面確認した。

〔SX7103整地層〕（図版436・452・453・496・519）

SX750南北道路跡（西4道路）の西側で確認した整地層である。本層はSD2050B河川跡に沿って広がり、SB7144やSK7204、SF7277が掘り込まれたことから、埋没した河川跡の上の土地利用を目的



遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SX7103 整地層	1	灰白色 (2.5Y7/1)	シルト		灰白色丸山灰層
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	
SK7125	3	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物を多く含む	人為堆積土
	4	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	しまり面。炭・炭化物中（豆粒）	自然堆積土
SD7262	5	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化物をわずかに含む	自然堆積土
	6	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	炭化物をわずかに含む。地山ブロックを少し含む	自然堆積土（崩壊土）
	7	褐色 (10YR4/4)	シルト	炭化粒・土器・細片を含む	
	8	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト		人為堆積土
SX7124・7128 整地層	9	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	炭化物を少し含む	
	10	灰色 (5Y4/1)	細砂	砂質	砂質
	11	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	細砂	黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土ブロックを含む	水性砂質
	12	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト	炭化物を含む	
SD2050B	13	灰黄色 (2.5Y6/2)	細砂		
	14	オリーブ灰色 (10Y3/1)	粘質土	炭化物を含む	
SD2050A	15	黄褐色 (2.5Y5/3)	細砂		
	16	にぶい黄褐色 (10YR5/4) ~ 黒褐色 (10YR3/2)	粗砂		自然堆積土

図版436 SX7103・7124・7128整地層断面図

とした整地と考えられる。また、本層の下でSX7124・7128整地層を確認している。同じく河川跡の整地を目的とするが、両者の間にはSD7262が存在することから、時期が異なる。

〔重複〕(古) SB7144、SD461・7100A・B・7262、SE7105・7292、SF7358、SI7808、SK7291・7762、SX7124・7128

(新) SF7274・7277、SK7139・7191・7204

〔規模・埋土〕東西7m以上・南北30mに広がる。層厚は最も厚いところで0.3mほどである。埋土は地山ブロックを含む灰黄褐色粘土質シルトである。上面には灰白色火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕(図版437～446)

埋土(1・2層)や確認面から土師器環(1～13)・高台杯(14)・盤(15)・小型甕(16)・大型甕(17～19)、須恵器壺蓋(21)・蓋(23～26)・ミガキ須恵器蓋(22)・杯(30～44)・高台杯(45)・双耳杯(27～29)・埴(46)・長頸壺(47～49・51・53・56・59)・短頸壺(60～62)・壺(50・52・54・55・57・58)・甕(63)・提瓶(65)・円面硯(64)・風字硯(66)・転用砥(70～73)・円盤(85～88)、赤焼土器三足土器(20)、灰釉陶器埴(67～69)、軒丸瓦(83)・軒平瓦(81・84)・平瓦(図版80・82)、土製紡錘車(74)・管玉(75)・羽口(76・77)、鉄鏝(78)、鉄洋(79)、火打石(89)・砥石(90～92・95)・磨石(93・94)などが出土した。

このうち、1・2・7・13・21・38-40はヘラ記号、13・30・33・37は底面に刻書(13:「上」、30:「大」、33:「二」、37「尼」)、4・33・45は底面に墨書(4:「井」、45:「丁」)、5は体部に墨書、80は凸面に刻印「物」が認められる。

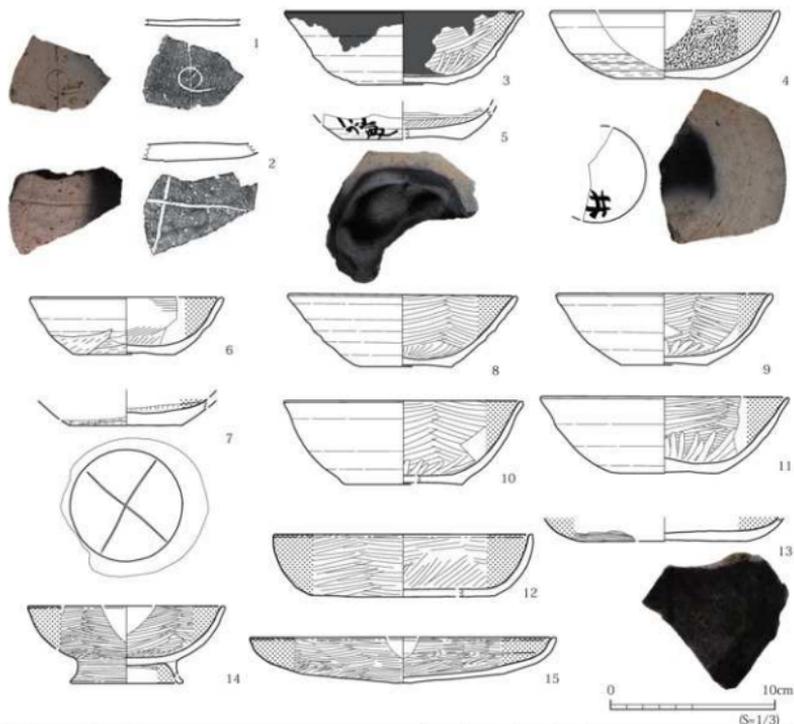
土師器環はすべてロクロ調整で、回転糸切りや糸切り後手持ちヘラケズリ調整、切離し不明で体下部まで回転ヘラケズリされているものがある。甕はすべてロクロ調整で、胴上半から底部にかけてヘラケズリが施された。須恵器環はヘラ切り、回転糸切り、切離し不明で回転ヘラケズリ調整がある。長頸壺や壺には、大戸産や猿投産が含まれる。灰釉陶器埴は猿投産でK14窯式期のものである。軒丸瓦は多賀城第I期の八葉重弁蓮花文(多賀城分類121)で、軒平瓦には多賀城第I期の重弧文(多賀城分類511)と第II期の単弧文(多賀城分類640)がある。

〔SX7124・7128整地層〕(図版436・452・453・496・519)

SX750南北道路跡(西4道路)の直下から西側で確認した整地層である。本層はSD2050B河川跡に沿って広がり、SB7380・7409の柱穴が掘り込まれたことから、埋没した河川上面の土地利用を目的とした整地と考えられる。また、本層の上にはSX7103整地層があるが、両者の間にはSD7262が存在することから、時期が異なる。

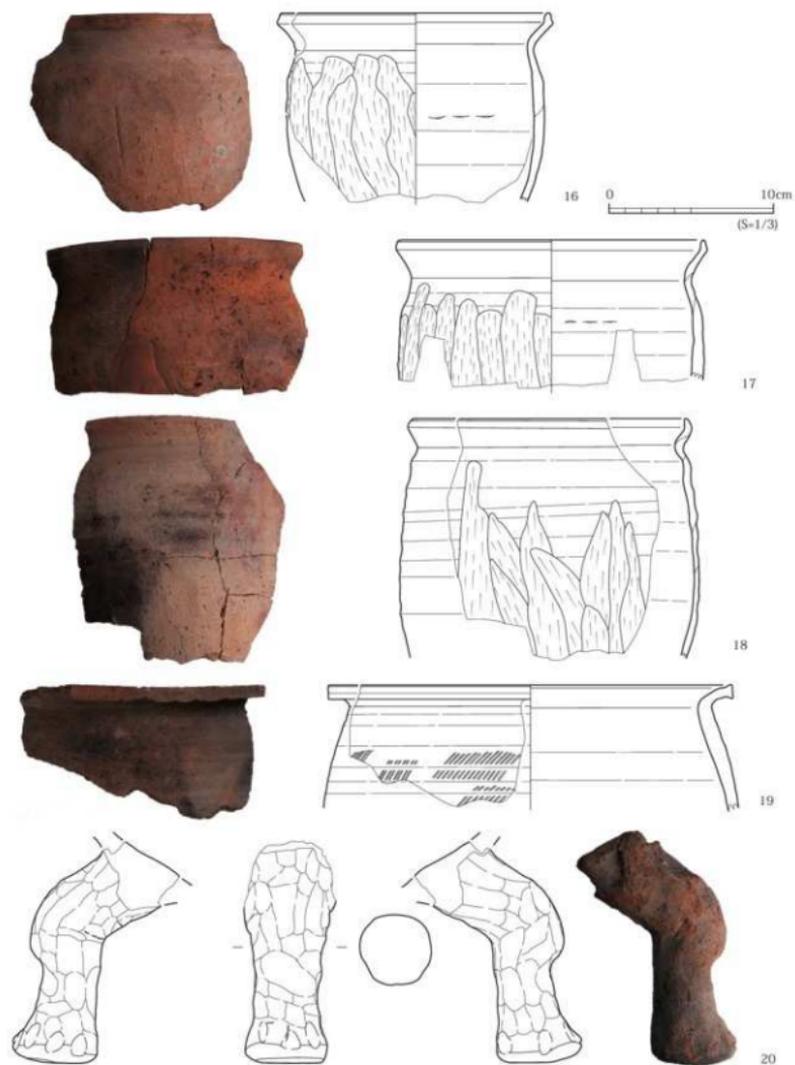
〔重複〕(古) SD7117、SI7275

(新) SB7144・7380・7381・7409、SD461・7100A・B・7344、SE7105・7292、SF7274・7277・7358、SI7171、SK7127・7204・7291・7425、SX7103



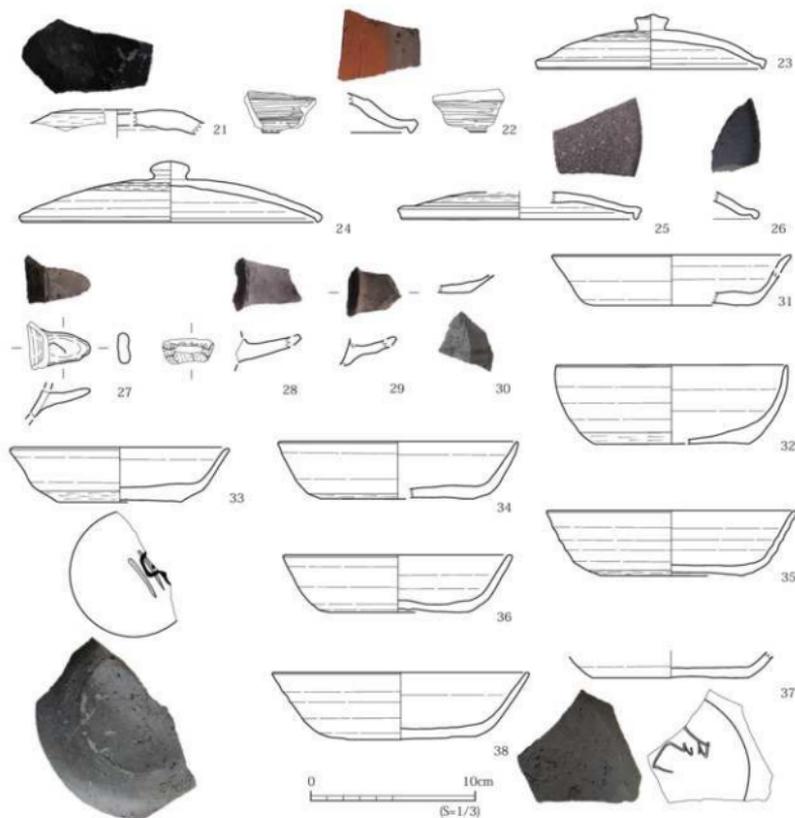
No.	器種	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・杯	確認層	内面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転ヘラケズリ	—	—	—	一部	底部にヘラ書き「㊦」	1934
2	土師器・杯	埋土	内面：ロクロナデ→黒色処理 底部：手持ちヘラケズリ	—	—	—	一部	底部にヘラ書き「㊦」。散土に海輪骨針を含む	1873
3	土師器・杯	埋土	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り	(14.4)	(5.4)	4.5	1/2	内外面に油煙・煤付着（可明燭）	1770
4	土師器・杯	埋土	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り→回転ヘラケズリ	(13.8)	(5.8)	4.2	1/4	底部外面に煤煙・骨付着。内面に漆付着	1999
5	土師器・杯	埋土	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り→回転ヘラケズリ	—	7.2	—	一部	体部に黒書「㊦」（正位）。散土に海輪骨針を複数含む	1850
6	土師器・杯	埋土	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り→手持ちヘラケズリ	(11.4)	(6.0)	3.5	1/2		1768
7	土師器・杯	埋土	外面：手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：ヘラ取り→手持ちヘラケズリ	—	6.8	—	一部	底部にヘラ書き「㊦」	3073
8	土師器・杯	確認層	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り	13.7	5.5	4.5	完形		1892
9	土師器・杯	埋土	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り	(12.8)	5.3	4.3	1/3		1764
10	土師器・杯	埋土	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り	(14.3)	(7.0)	5.2	1/4		1765
11	土師器・杯	埋土	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り	(15.0)	(6.4)	4.7	2/3		2046
12	土師器・杯	確認層	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色処理 内面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転ヘラケズリ	(15.6)	(11.2)	3.8	1/3	内面、散土に海輪骨針を多量に含む	1902
13	土師器・杯	埋土	内外面：ヘラミガキ→黒色処理	—	(10.0)	—	一部	底部にヘラ書き「㊦」→黒書「上」	1875
14	土師器・高台杯	埋土	内外面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理	(11.9)	(6.6)	4.7	1/3	底部：高台内面に漆付着	3076
15	土師器・甕	確認層	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色処理 内面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理	(18.4)	—	2.8	1/3		1898

図版437 SX7103整地層出土遺物 1



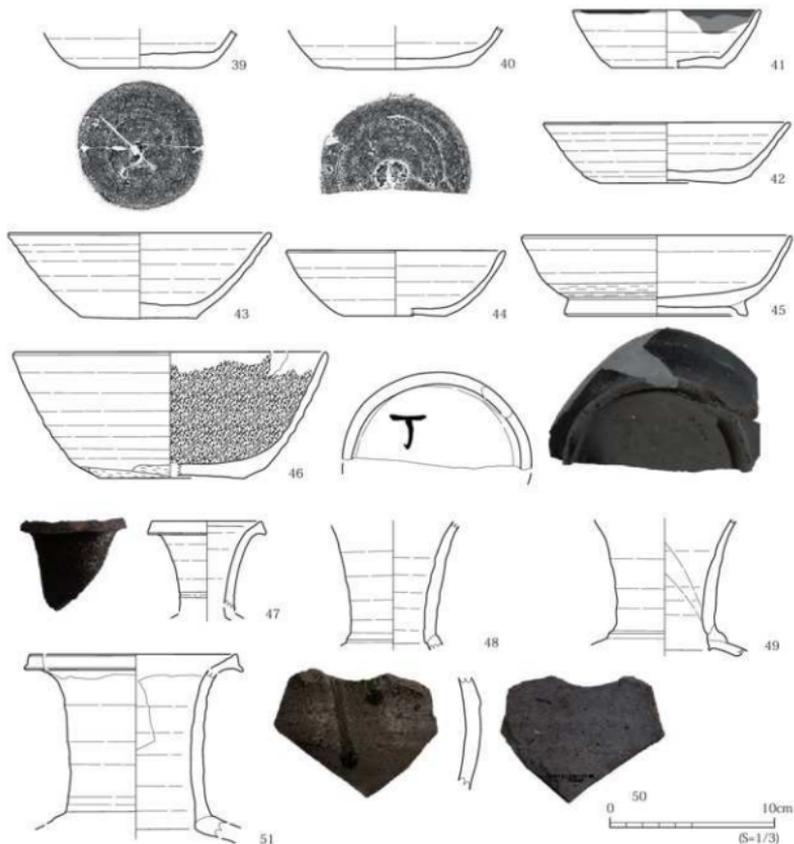
No.	器種	層位	説明	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
16	土師器・小型罎	縄遺跡	外面：ロクロナデ→〔体+体下〕手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(16.2)	-	-	一部		1899
17	土師器・大型罎	縄遺跡	外面：ロクロナデ→〔体〕手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(18.0)	-	-	一部		1900
18	土師器・大型罎	現土	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(16.6)	-	-	一部		1863
19	土師器・大型罎	現土	外面：平行タタキ→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	(24.4)	-	-	一部		3077
20	赤褐色土器・二足土器	現土	外面：手持ちヘラケズリ→ナデ・オサエ	-	-	-	一部	罎の部々、接合の部に二重に粘土層付	1782

図版438 SX7103整地層出土遺物2



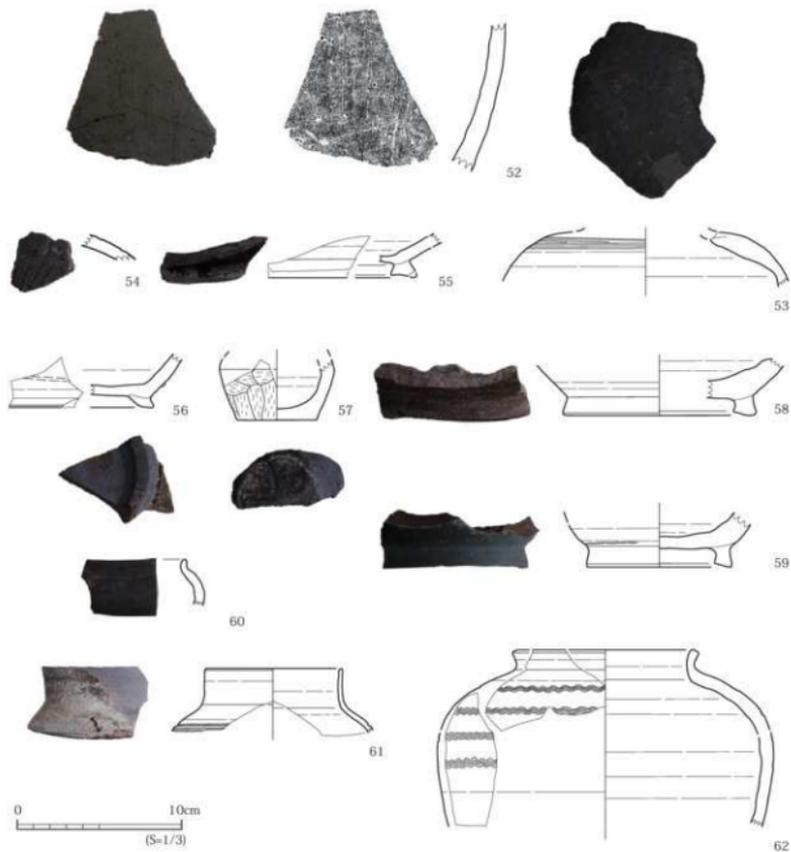
No.	器種	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
21	須恵器・古高	埋土	外面: 臼形ヘラ切り→ナデ→臼形ヘラケズリ 内面: ロクロナデ	(8.0)	—	—	一部	天井にヘラ書き「一」	1880
22	須恵器・高	竊盗層	内外面: ロクロナデ→ヘラミガキ	—	—	—	一部	ミヤ半須恵器。個人品	1903
23	須恵器・高	埋土	外面: ロクロナデ→臼形ヘラケズリ→ツマミ留付→ナデ 内面: ロクロナデ	(13.6)	—	3.3	1/2	靑定体ツマミ; 径2.0cm	1792
24	須恵器・高	埋土	外面: ロクロナデ→臼形ヘラケズリ→ツマミ留付→ナデ 内面: ロクロナデ	(18.0)	—	3.7	1/4	空席ツマミ; 径2.6cm	1793
25	須恵器・高	埋土	外面: ロクロナデ→臼形ヘラケズリ→自然釉 内面: ロクロナデ	(14.2)	—	—	一部	器内底。外面全体に自然釉	1836
26	須恵器・高	埋土	内外面: ロクロナデ	—	—	—	一部	大戸産	1825
27	須恵器・灰田坪	埋土	外面: ナデ・オサエ 内面: ロクロナデ	—	—	—	一部	—	1805
28	須恵器・灰田坪	竊盗層	内外面: ヘラケズリ	—	—	—	一部	—	1905
29	須恵器・灰田坪	埋土	外面: ヘラケズリ 内面: ロクロナデ	—	—	—	一部	耳部: 靴状	2041
30	須恵器・坪	埋土	内外面: ロクロナデ	(3.2)	(3.1)	—	一部	底部に横溝「大」	1809
31	須恵器・坪	埋土	内外面: ロクロナデ 底部: ヘラ切り→ナデ	(14.4)	(9.4)	(3.1)	1/4	大戸産	2040
32	須恵器・坪	竊盗層	内外面: ロクロナデ 底部: 切履し不明→臼形ヘラケズリ	(14.2)	(9.2)	4.8	1/3	胎土に海綿骨針を含む	1888
33	須恵器・坪	埋土	外面: ロクロナデ→(体下) 臼形ヘラケズリ 内面: ロクロナデ 底部: 臼形糸切り→臼形ヘラケズリ	(13.2)	(7.6)	3.3	1/2	底部外面に斜書「二」。墨書「三」	1761
34	須恵器・坪	埋土	内外面: ロクロナデ 底部: 臼形ヘラケズリ	(14.4)	(9.4)	3.5	1/3	—	1790
35	須恵器・坪	埋土	内外面: ロクロナデ 底部: 臼形ヘラケズリ	(14.8)	(8.6)	4.0	1/2	胎土厚産。内面に大溝	1789
36	須恵器・坪	竊盗層	内外面: ロクロナデ 底部: ヘラ切り→ナデ	(13.7)	(9.4)	3.5	1/2	大戸産	1889
37	須恵器・坪	埋土	内外面: ロクロナデ 底部: ヘラ切り→ナデ	—	(9.6)	—	一部	底部に斜書「尾」	1807
38	須恵器・坪	竊盗層	内外面: ロクロナデ 底部: ヘラ切り→ナデ	(15.5)	9.0	4.1	2/3	底部にヘラ書き「一」	1894

図版439 SX7103整地層出土遺物3



No.	器種	層位	説明	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
39	須恵器・环	縄文層	内外面：ロクロナデ 底面：へら切り→ナデ	—	7.6	—	一部	底面にへら書き「一」	1895
40	須恵器・环	縄文層	内外面：ロクロナデ 底面：へら切り→ナデ	—	(9.0)	—	1/4	底面にへら書き「一」	1896
41	須恵器・环	縄文層	内外面：ロクロナデ 底面：へら切り→ナデ	(11.5)	(6.8)	3.5	1/2	内外面に付着物	1893
42	須恵器・环	埋土	外面：へら製工具によるロクロナデ 内面：ロクロナデ 底面：へら切り→ナデ	(14.8)	8.2	3.7	1/3	粘土に海貝殻針を微量含む	1871
43	須恵器・环	埋土	内外面：ロクロナデ 底面：切磨し不明→手持ちヘラケズリ	(15.8)	7.2	5.2	1/3	外面に火傷	3087
44	須恵器・环	縄文層	内外面：ロクロナデ 底面：別体糸切り	(13.0)	(6.0)	4.0	1/4	—	1887
45	須恵器・高台付	縄文層	外面：ロクロナデ→別体ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底面：高台製付→ロクロナデ	(15.1)	10.8	4.9	1/2	底面外面に書き「丁」	1886
46	須恵器・碗	埋土	内外面：ロクロナデ 底面：静止糸切り→手持ちヘラケズリ	(13.8)	(7.8)	7.7	1/4	内面に漆付箱（漆パレット）	1769
47	須恵器・長瀬谷	埋土	内外面：ロクロナデ	(6.6)	—	—	—	胎程度，1-101併用期，フラスコ型 皿付，全体に自然釉	1783
48	須恵器・長瀬谷	埋土	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	大戸産，自然釉，胴径：4.2cm	2047
49	須恵器・長瀬谷	埋土	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→段目→ナデ	—	—	—	一部	大戸産，自然釉	2042
50	須恵器・岩	埋土	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	大戸産，外面に自然釉	2050
51	須恵器・長瀬谷	埋土	内外面：ロクロナデ	12.6	—	—	一部	胎程度	1799

図版440 SX7103整地層出土遺物4



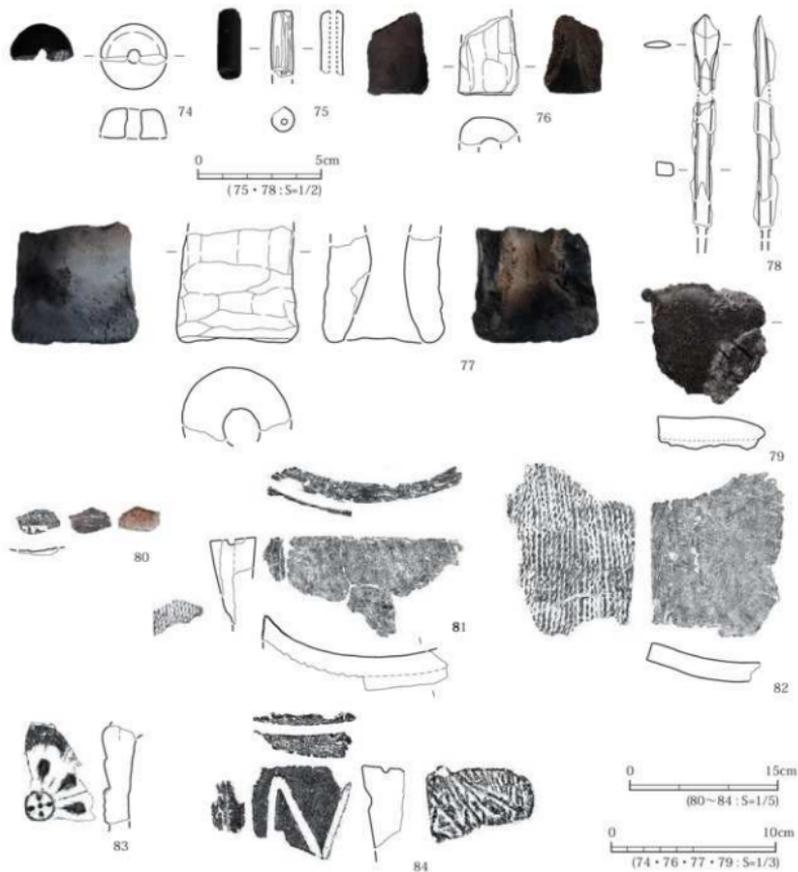
No.	器種	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
52	須恵器・壺	埋土	外面：ロクロナデ→持ちヘラズリ 内面：ロクロナデ	-	-	-	一部	体部にヘラ書き「X」	1762
53	須恵器・長頸瓶	埋土	外面：ロクロナデ→カキメ 内面：ロクロナデ	-	-	-	一部		1884
54	須恵器・壺	埋土	外面：ロクロナデ→磨削列込文・カキメ 内面：ロクロナデ	-	-	-	一部		1803
55	須恵器・壺	埋土	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台附付→ナデ 内面：ロクロナデ	-	-	-	一部	脇投産	1812
56	須恵器・長頸瓶	確認産	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台附付→ナデ 内面：ロクロナデ	-	-	-	一部	大戸産。胴下部に球形後台の痕跡	1923
57	須恵器・壺	確認産	外面：ロクロナデ→持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：持ちヘラケズリ	-	4.4	3.7	一部		1912
58	須恵器・壺	埋土	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台附付→ナデ 内面：ロクロナデ	-	(11.4)	-	一部	脇投産。砂付着	1811
59	須恵器・長頸瓶	埋土	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：回転ヘラケズリ→高台附付→ナデ	-	8.6	-	一部	大戸産。内面中央に自然輪	1772
60	須恵器・短頸瓶	埋土	内外面：ロクロナデ	-	-	-	一部	内面に接付着	1814
61	須恵器・短頸瓶	確認産	内外面：ロクロナデ	(8.3)	-	-	一部	胴内産。口縁から体部に自然輪	1911
62	須恵器・短頸瓶	埋土	外面：[体] 4号1単位磨削面状況文→[体下] 回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	10.6	-	-	一部		1802

図版441 SX7103整地層出土遺物 5



No.	器種	部位	図型	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
63	須恵器・甕	埴土	外面：[口] 4条1単位縹緞状文・5条1単位縹緞状文 内面：ロクロナデ	-	-	-	一部		1801
64	須恵器・片取碗	埴土	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→[側面] 手持ちヘラケズリ→内縁胎付→ナデ	(16.6)	-	-	1/4	側面に縹緞	1788
65	須恵器・片取碗	埴土	外面：カキメ 内面：ロクロナデ・ナデ	-	-	-	一部		1874
66	須恵器・菓子碗	緑泥質	外面：手持ちヘラケズリ 内面：ナデ	-	-	2.3	一部		1890
67	須恵器・埴	埴土	外面：ロクロナデ→胎付ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(14.0)	-	-	1/4		1820
68	須恵器・埴	緑泥質	外面：ロクロナデ→胎付ヘラケズリ 内面：ロクロナデ→胎輪 底部：切離し不明→高台胎付→ナデ	-	-	-	一部	胎付處、K14 式不明	1836
69	須恵器・埴	緑泥質	外面：ロクロナデ→胎付ヘラケズリ 内面：ロクロナデ→胎輪 底部：切離し不明→高台胎付→ナデ	-	-	-	一部	胎付處、K14 式不明	1835
70	須恵器・転用碗	埴土		-	-	-		惣を転用	1809
71	須恵器・転用碗	緑泥質		-	-	-		惣を転用	1910
72	須恵器・転用碗	埴土		-	-	-		惣を転用	1842
73	須恵器・転用碗	緑泥質		-	-	-		惣を転用	1909

図版442 SX7103整地層出土遺物6



No.	器種	層位	図説	直径 (cm)	短軸 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
74	土製品・磁器片	埋土	外面：ナデ→穿孔に伴う横方向の磨痕あり	4.1	—	1.8	1/2	径：4.0cm 孔径：0.8cm	1779
75	土製品・碧玉	礫埋面	表面：ナデ→ヘラミガキ→褐色磨理	(2.7)	0.9	—	3/4	孔径：0.2cm	1936
76	土製品・土口	埋土	外面：ナデ→オヤエ	—	3.6	—	一部	—	3094
77	土製品・土口	埋土	外面：ナデ→オヤエ	—	—	—	1/3	現気部：内径 5.0cm 外径 7.4 cm	3093
78	鉄製品・鐵	埋土	—	(9.7)	1.1	0.5	1/2	—	1785
79	鉄片	埋土	—	7.3	7.2	1.8	—	—	2113
80	瓦・平瓦	埋土	凹面：糸切り→布目→ナデ	—	—	—	一部	凹面に刷印「物」	1881
81	瓦・軒平瓦	埋土	凸面：横筋縄タタキ目・ヨコナデ 凹面：斜め方向糸切り→布目→タテナデ 側面：手持ちヘラケズリ	—	—	—	一部	多数量目録。甲弧文 640	1787
82	瓦・平瓦	埋土	凸面：縄タタキ目 凹面：布目→ナデ 一枚作り	—	—	—	一部	多数量目録：平瓦目 B 類	1781
83	瓦・軒丸瓦	埋土	—	—	—	—	一部	多数量目録。重厚面在文 121。転用観方。内面に使用痕→転用粘着方	1882
84	瓦・軒平瓦	埋土	側面：刷弧文	—	—	—	一部	多数量目録。刷弧文 911	1942

図版443 SX7103整地層出土遺物 7



No.	品種	層位	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	残存	備考	登録
85	須恵器・円盤	埴土	3.0	2.9	1.2	—	—	惣巻包用	1817
86	須恵器・円盤	埴土	3.0	2.9	1.4	—	—	惣巻包用	1816
87	須恵器・円盤	埴土	2.4	2.2	1.3	—	—	惣巻包用	1818
88	須恵器・円盤	埴土	2.8	2.5	0.6~0.7	—	—	惣巻包用	1913
89	石製品・大打石	確認層	5.1	3.3	1.7	27.0	—	—	1940
90	石製品・砥石	埴土	4.1	2.3	1.2	24.0	—	—	1867
91	石製品・砥石	埴土	(4.0)	3.1	0.9	73.0	—	—	1885
92	石製品・砥石	埴土	(5.5)	4.6	3.5	812.0	—	—	2235
93	石製品・磨石	埴土	—	4.8	1.6	43.0	完形	石材：凝灰岩	1865
94	石製品・磨石	埴土	—	—	2.8	129.0	1/2	—	1883
95	石製品・砥石	埴土	—	6.5	4.6	445.0	—	—	3095

図版444 SX7103整地層出土遺物B



3



6



8



9



10



11



12



14



15



23



24



32



34



35

图版445 SX7103整地層出土遺物9



36



38



39



41



42



43



44



45



46



48

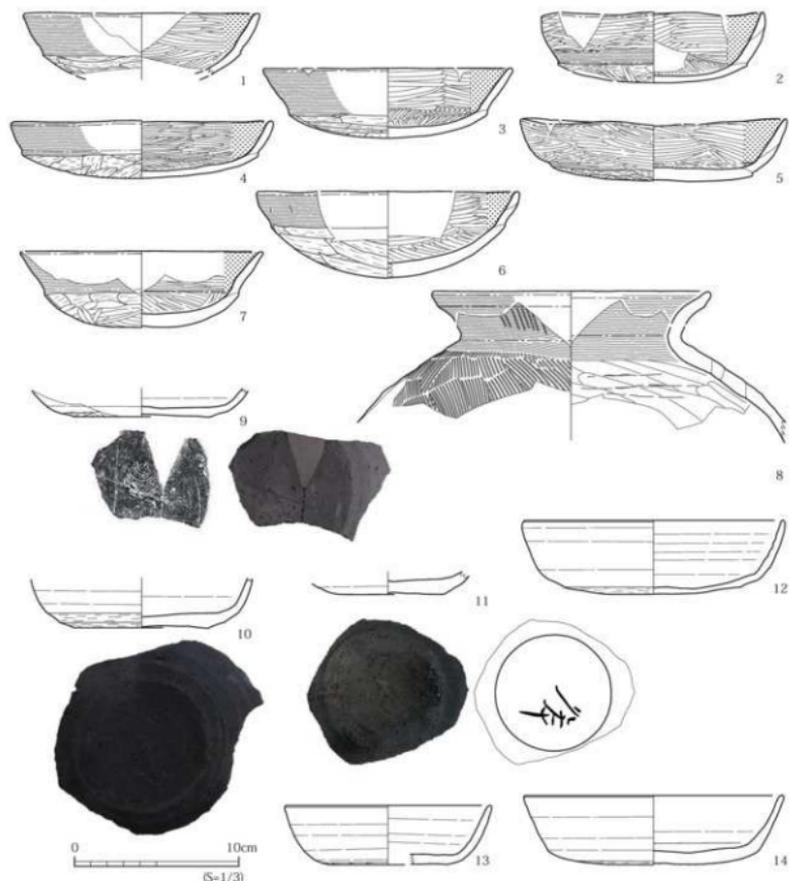


49



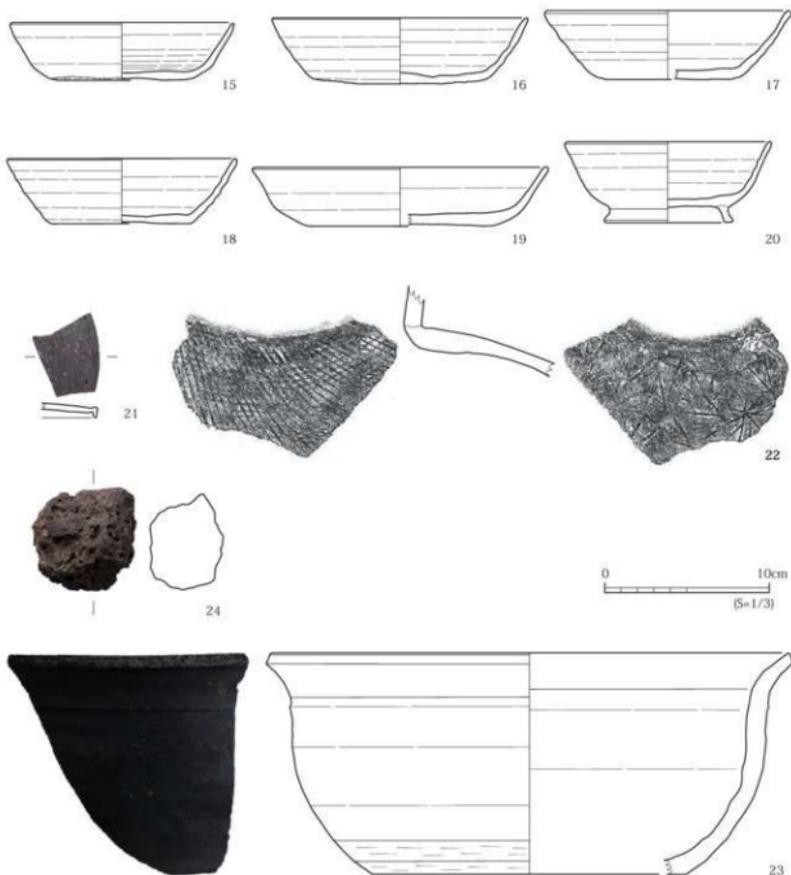
51

図版446 SX7103整地層出土遺物10



No.	器種	層位	説明	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・杯	9・10層	外面：ヨコナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色地層	(14.0)	—	3.7	一部		3068
2	土師器・杯	9層	外面：ヨコナデ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色地層	(13.4)	—	4.3	1/3		2900
3	土師器・杯	9層	外面：ヨコナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色地層	(15.0)	—	4.2	1/3		474
4	土師器・杯	9層	外面：ヨコナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色地層	(15.8)	—	3.5	1/2		2005
5	土師器・杯	9層	外面：ヨコナデ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色地層	16.0	—	4.7	完形		1998
6	土師器・杯	9・10層	外面：ヨコナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色地層	(15.6)	—	5.2	1/3		3067
7	土師器・杯	9・10層	外面：ヨコナデ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色地層 底部：木製版	(14.6)	—	4.3	1/2		3066
8	土師器・広口皿	9・10層	外面：[口] ハケメ→ヨコナデ [底] ハケメ 内面：[口] ヨコナデ [底] ナデ	(16.0)	—	—	—		3084
9	須恵器・杯	10層	内外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り→手持ちヘラケズリ	—	(8.2)	—	一部	底部にヘラ書き「X」	1989
10	須恵器・杯	10層	内外面：ロクロナデ 底部：切摩し不明→回転ヘラケズリ	—	(8.0)	—	一部	下伊場野窯産。底部にヘラ書き「X」。胎土に海綿付針を含む	1985
11	須恵器・杯	9層	内外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り→回転ヘラケズリ	—	7.0	—	一部	底部に墨書「□木」。胎土に海綿付針を含む	2006
12	須恵器・杯	9層	内外面：ロクロナデ 底部：切摩し不明→回転ヘラケズリ	(15.6)	(10.8)	4.5	1/2		1993
13	須恵器・杯	9・10層	内外面：ロクロナデ 底部：切摩し不明→回転ヘラケズリ	(12.4)	19.0	3.6	1/3		3085
14	須恵器・杯	9・10層	内外面：ロクロナデ 底部：切摩し不明→回転ヘラケズリ	(15.6)	(12.8)	4.2	1/3		3086

図版447 SX7128整地層出土遺物 1



No.	器種	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
15	須恵器・環	10 層	内外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り→手持ちヘラケズリ	(13.4)	(7.8)	3.5	1/2	内外面に丸縁。胎土に白色砂子・海綿骨針を含む	1986
16	須恵器・環	9 層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(15.4)	(10.4)	4.0	1/2		1992
17	須恵器・環	10 層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(14.6)	(7.6)	4.2	1/3		1987
18	須恵器・環	10 層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(13.8)	(8.2)	4.0	2/3		1988
19	須恵器・環	9 層	内外面：ロクロナデ 底部：静止糸切り→回転ヘラケズリ	(17.7)	(10.4)	3.6	1/4	胎土に海綿骨針を含む	1994
20	須恵器・高付片	10 層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→高付底付→ナデ	(12.4)	(7.8)	4.9	1/3	人が産	1982
21	須恵器・蓋	10 層下	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	胎土織布	1983
22	須恵器・蓋	10 層	外面：ロクロナデ→平行タタキ 内面：ロクロナデ→平行タタキ→縦紋状アテ具	(13.6)	(9.4)	—	一部	縦紋産	1990
23	須恵器・鉢	9 層	外面：ロクロナデ→(体下) 回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：切離し平明→ナデ	(32.0)	(13.0)	13.5	一部	内面：口縁部・体下部から底部にかけて戻付着	1995
24	鉄片	10 層		—	—	—	—	長軸：6.7cm 短軸：6.2cm 厚さ：4.9cm	2025

図版448 SX7128整地層出土遺物2



图版449 SX7128整地层出土遺物3



18

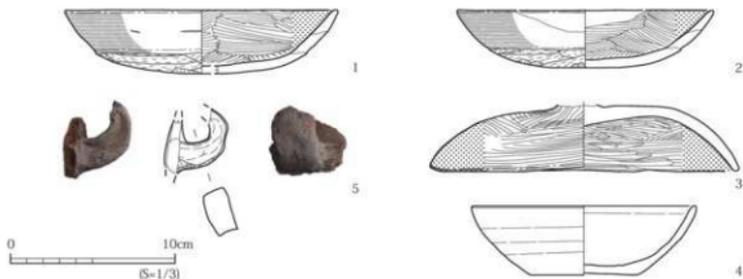


20



8

図版450 SX7128整地層出土遺物4



1



2



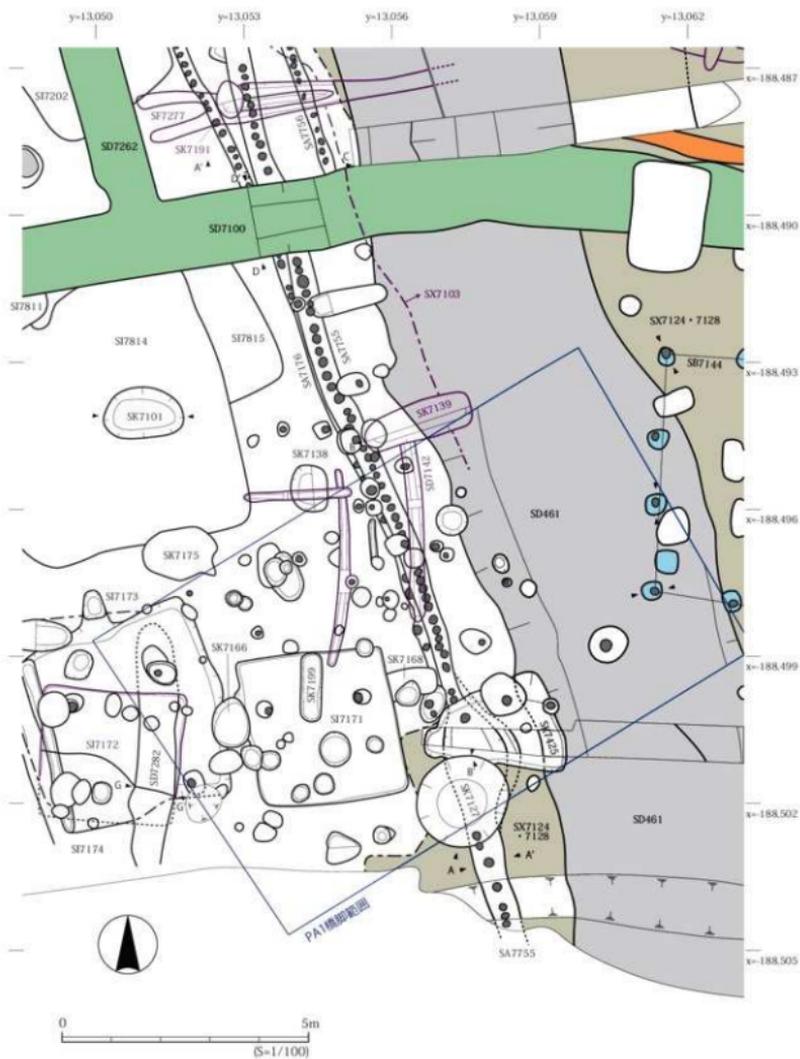
3



4

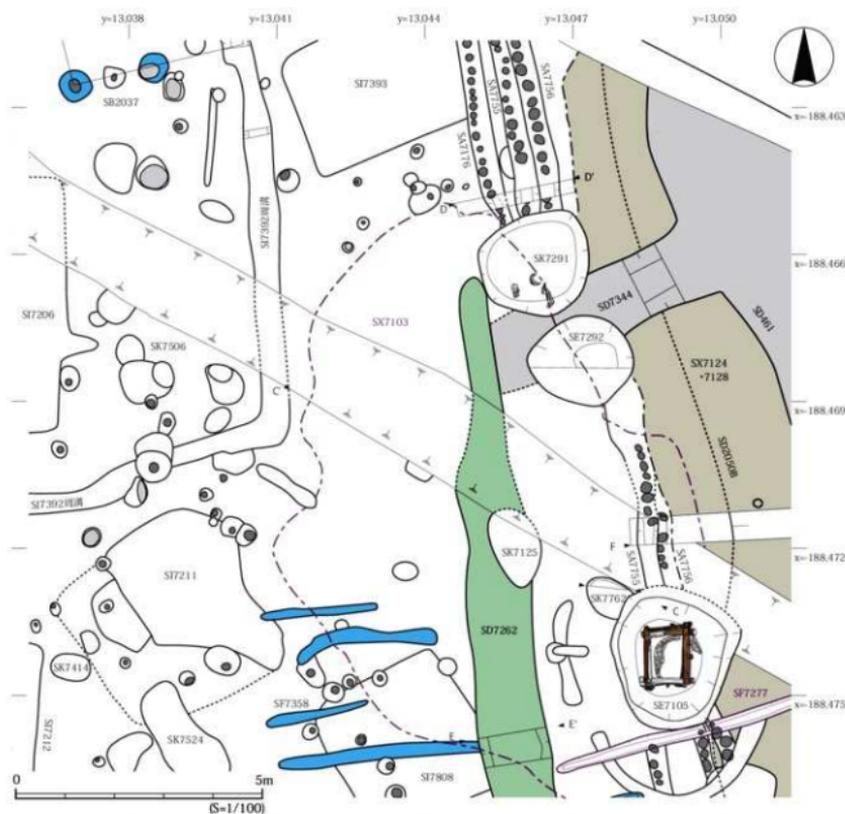
No.	品種	遺物番号	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・杯	SX7124	7層	外面：ヨコナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(16.6)	—	3.9	1/2		2102
2	土師器・杯	SX7124	7層	外面：ヨコナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.6)	—	3.5	1/4		2103
3	土師器・杯	SX7125	4層	内外面：ヘラミガキ→黒色処理	18.6	—	—	2/3		2038
4	須恵器・杯	SX7125	3層	外面：ロウロナデ 内面：ロウロナデ→コ字仕上げ 底部：回転糸切り	(13.6)	6.4	4.2	1/3	断面がサンドイッチ状	2105
5	須恵器・ 把手付壺	SX7125	3層	外面：手持ちヘラケズリ・ナデ	—	—	—	一部	把手は本体に嵌め込込	2106

図版451 SX7124整地層、SK7125土坑出土遺物



*紫色は新しい遺構
(L区の図割は図版435を参照)

図版452 L区平面図1



*紫色は新しい遺構
(L区の図例は図版435を参照)

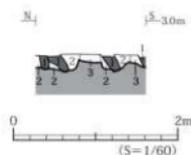
図版453 L区平面図2

〔規模・埋土〕東西12m以上・南北42m以上に広がる。層厚は最も厚いところで0.5mあり、埋土は黒褐色や灰色などの細砂である。

〔出土遺物〕(図版447～451)

埋土から土師器環(1～7、図版451-1・2)・広口壺(8)、須恵器環(9～19)・高台杯(20)・蓋(21)・鉢(23)・甕(22)・鉄滓(24)などが出土した。土師器は非口クロ調整で、環には有段丸底(1～4・6・7、図版451-1・2)・有段平底(5)がある。須恵器環は皿形が主体で(9～16)、逆台形が伴う(17～18)。切り離しと再調整は、回転ヘラケズリ調整(10～14)と回転系切りののち手持ちヘラケズリ(9・15)、ヘラ切り(16～18)が認められる。高台杯は大戸産である。このうち、9の底面にヘラ記号、11の底面には墨書「□本」が認められる。

平面図：図版 457



層位	土色	土性	混入物など	備考
1	黒色 (10YR1.7/1)	粘土	地山ブロック含む	材崩跡
2	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	粘土	地山ブロック多く含む	
3	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	粘土	地山ブロックを少し含む	掘方埋土



SA7784断面(北から)

図版454 SA7784材木堀跡

2. 区画施設跡

材木堀跡9条、区画溝跡13条(掘直しを含む)を確認した。

〈材木堀跡〉

【SA7784材木堀跡】(図版454～457)

調査区西部で確認した、布掘り掘方の中に材木を立て並べた南北方向の材木堀跡である。検出長は25.4mで、方向はN-35°-Eである。北側の県道調査区で確認したSA2547と一連の遺構で、南側は多賀城市調査区で確認したSA5577と同じとみられる。南半で掘方内に材痕が2列認められることから、一部補修が行われたと考えられる。本堀の西側にSD7844・SD7845・SD7881が併行しており、両者はセットと考えられる。

〔重複〕(新) SA7838、SB7822、SD7767・7778・7779・7836

〔掘方〕上幅0.2～0.5m、下幅0.2m、深さ0.1～0.2mで、断面はU字形～逆台形である。埋土は地山ブロックを含むにぶい黄褐色粘土である。

〔材痕跡・材抜取穴〕材材は抜き取られているが、直径0.1～0.2mの円形とみられる。

〔出土遺物〕遺物は出土していない。接続するSA2547からは、非クロロ調整の土師器の破片が数点出土している。

【SA7781材木堀跡】(図版456～458・466・586)

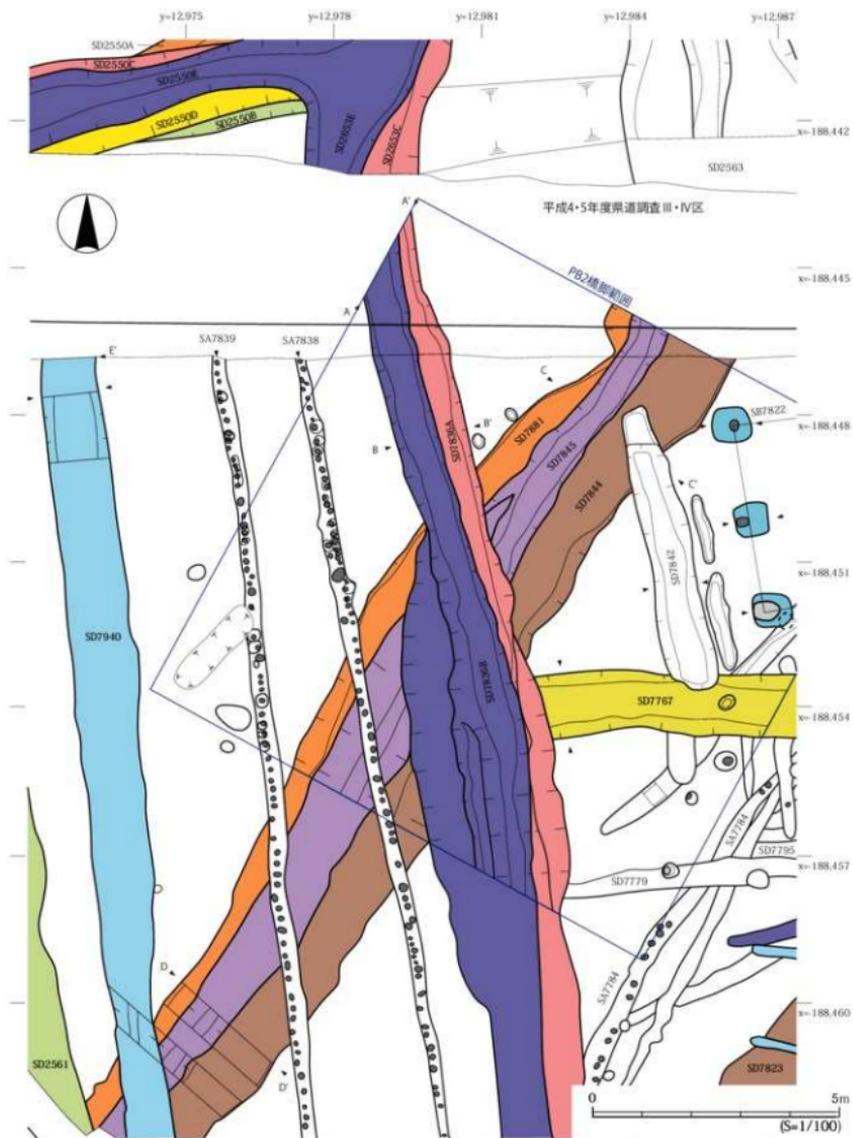
調査区西部で確認した、布掘り掘方の中に材木を立て並べた東西方向の材木堀跡である。検出長は25.1mで、方向はE-24°-Nである。東端の北には南北方向のSA7851・SA7852があり、一連の遺構とみられる。本堀の方向は、G区で確認したSD3014・11011区画溝跡とほぼ同じである。両者の間には、方向を同じくする掘立柱建物跡があることから、SA7781はSA3158・5226やSD180・3014・11011で構成される区画施設と同時期とみられる。

〔重複〕(古) SA7782、SD7767・7823・7848

(新) SB7938、SD7615・7836・7847

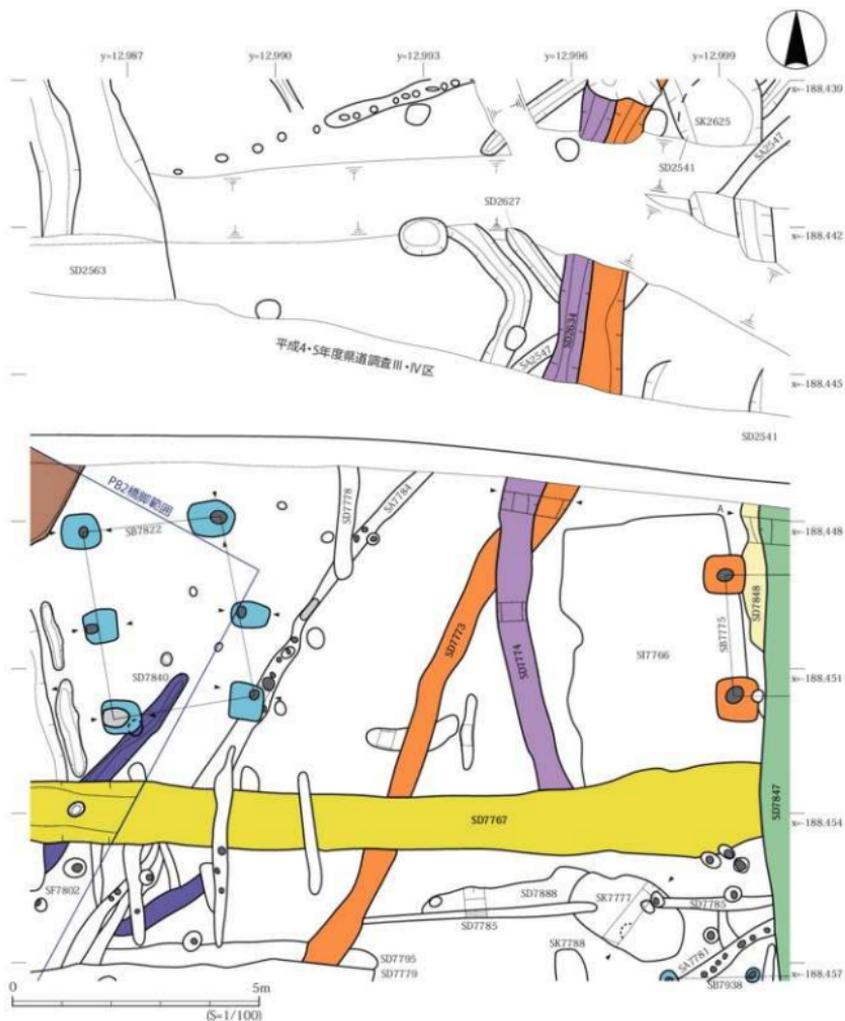
〔掘方〕上幅0.2～3.5mで、深さは0.4m前後である。縦方向の断割り調査のみであるため、下幅や断面形は不明である。埋土は地山ブロックを多く含む暗褐色粘土である。

〔材痕跡・材抜取穴〕掘方内を蛇行する溝状の抜取穴の底面で材痕跡を確認した。痕跡は直径0.1～

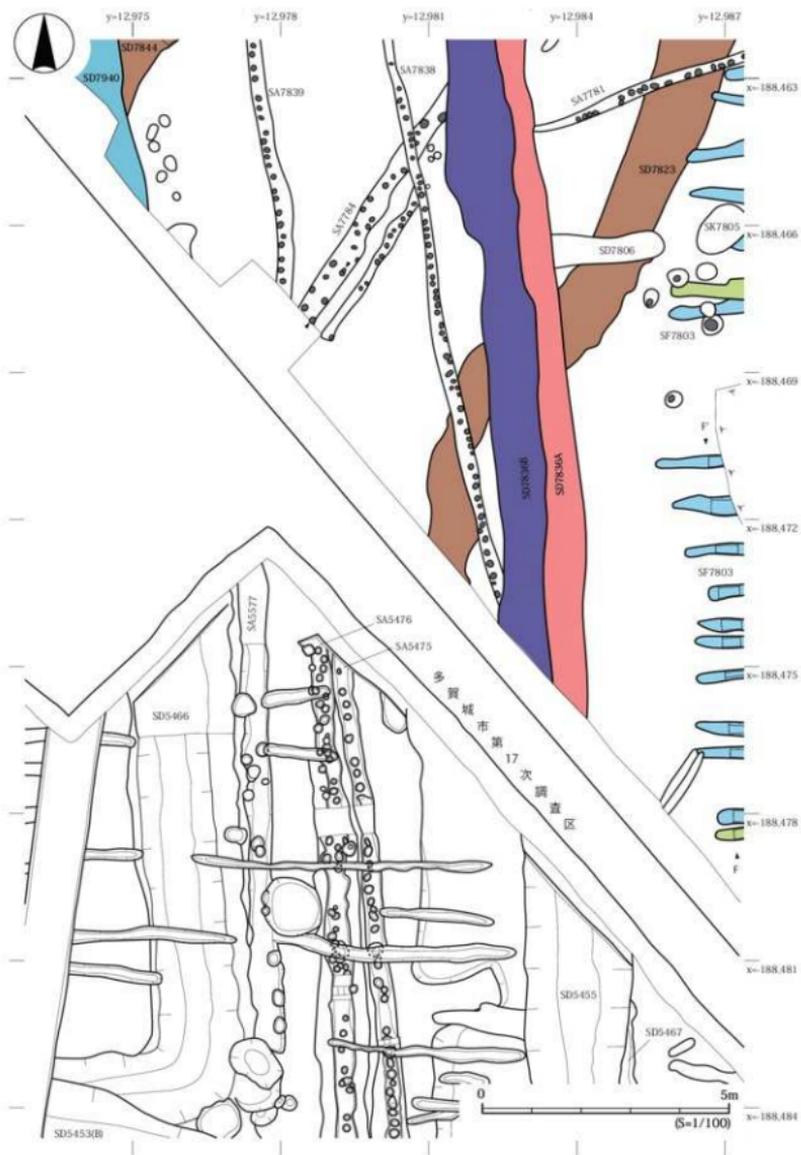


図版455 L区平面図3

(L区の色別は図版435を参照)



図版456 L区平面図4



(L区の図例は図版435を参照)

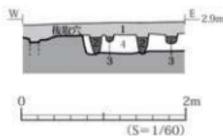
図版457 L区平面図5

0.2mの円形や楕円形である。

〔出土遺物〕(図版460)

材杖取穴から非クロロ調整の土師器環・甕(1)、須恵器甕などが出土した。

平面図：図版586

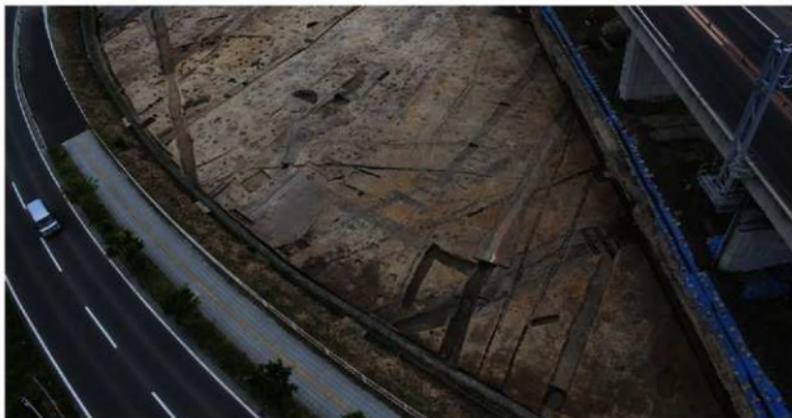


層位	土色	土性	混入物など	備考
1	黒褐色(10YR2/2)	粘土	地山ブロック含む	杖取穴
2	暗褐色(10YR3/3)	粘土	地山ブロック含む	材痕跡
3	にぶ・黄褐色(10YR4/3)	粘土	地山ブロック含む	
4	暗褐色(10YR3/3)	粘土	地山ブロックを多く含む	製方埋土



SA7781断面(南から)

図版458 SA7781材木塚跡

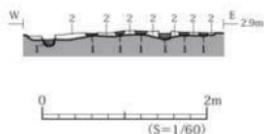


図版459 L区西部空撮写真(北上空から)



No.	品種	層位	図説	保存	備考	登録
1	須恵器・甕	杖取穴	外面：平行タタキ 内面：同心円状タタキ	一部		3102

図版460 SA7781材木塚跡出土遺物



層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色 (10YR2/2)	粘土	地山ブロック含む	材痕跡
2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	粘土	地山ブロックを多く含む	埋方埋土

SA7782 断面 (南から)

図版461 SA7782材木堀跡



No.	図種	層位	図説	残存	備考	登録
1	須恵器・炭	埋方埋土	外面：平行タタキ 内面：同心円状アタリ	一		3108

図版462 SA7782材木堀跡出土遺物

【SA7782 材木堀跡】 (図版 461・586)

調査区西部で確認した、布掘り掘方の中に材木を立て並べた東西方向の材木堀跡である。検出長は6.2mで、方向はE-6°-Nである。

〔重複〕(新) SA7781

〔掘方〕上幅0.3m前後、下幅0.2m、深さは0.2mで、断面は椀形である。埋土は、地山ブロックを多く含むにぶい黄褐色粘土である。

〔材痕跡〕直径0.1～0.15mの円形や楕円形で、間隔は0.3～0.5mである。一部の痕跡は掘方底面より下がる。

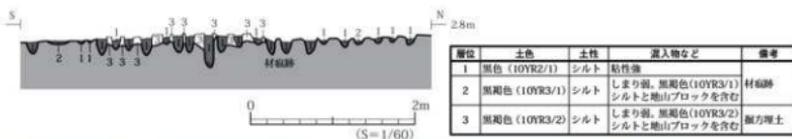
〔出土遺物〕(図版 462)

掘方埋土から須恵器甕(1)が出土した。

【SA7838 材木堀跡】 (図版 455・457・463)

調査区西部で確認した、布掘り掘方の中に材木を立て並べた南北方向の材木堀跡である。検出長は27.4mで、方向はN-11°-Wである。南側の多賀城市第17次調査L区で確認したSA5509、県調査C区のSA549、多賀城市調査F区のSA5226と同一遺構である。これらを含めた検出長は85.4m以上となる。SA5226はSD180とセットであり、一定範囲を「L」字状に区画した(宮城県教委2009)。また、北側の県道調査区で確認したSA2521とは、互いの延長線上に堀が認められないこと、両者はほぼ直交することから一連の遺構であり、SA7838は東に折れてSA2521に繋がるとみられる。

平面図：図版 455



SA7838 断面 (東から)



SA7838 断面 (南東から)

図版463 SA7838材木堀跡

〔重複〕(古) SA7784、SD7823・7844・7845・7881

(新) SD7836

〔掘方〕上幅0.2～0.4m、下幅0.1～0.2m、深さは0.2mほどで、断面はU字形である。埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色のシルトである。

〔材痕跡〕直径0.1m前後の円形で、材の下部が残存するものがある。堀材は底面が掘方埋土より深く、先が尖ることから打込まれたとみられる。

〔出土遺物〕なし。一連とみられるSA2521からは、非ロクロ調整の土師器と須恵器が出土した。

【SA7839材木堀跡】(図版455・457・464)

調査区西部で確認した、布掘り掘方の中に材木を立て並べた南北方向の材木堀跡である。検出長は20.8mで、方向はN-7°-Wである。北側の県道調査区で確認したSA2564、南側は多賀城市第17次調査L区で確認したSA5475・SA5476のいずれかに対応する。本堀は県調査C区で確認したSA670A・Bと同一で、SD2561区画溝跡とセットになる。北に向けてコ字状に開く区画施設の西辺を構成しており(宮城県教委1997)、SA2564・7839・SA670A・Bの検出長は、108m以上となる。

〔重複〕(古) SD7841・7845・7881

〔掘方〕上幅0.3～0.4m、下幅0.3～0.2m、深さは0.3mほどで、断面は椀形である。埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色のシルトである。

〔材痕跡〕堀材はすべて抜き取られているが、直径0.1mほどの円形とみられる。材抜き取穴の間隔は0.1～0.5mで、掘方の西壁よりに設けられ、やや蛇行する。

〔出土遺物〕なし。一連の遺構であるSA2564からは、非ロクロ調整の土師器環・裏、SA5475では有段丸底杯が出土している。

〔SA7621 材木堀跡〕 (図版465・466・507・510)

調査区中央南側で確認した、布掘り掘方の中に材木を立て並べた南北方向の材木堀跡である。検出長は45.3mで、調査区北端付近で東に屈折しており、方向は北から3.5mまでがN-4°-Eで、その南はN-2°-8°-Wである。本堀の西側には、併行してSD7848区画溝があることから、両者は一体の区画施設と考えられる。

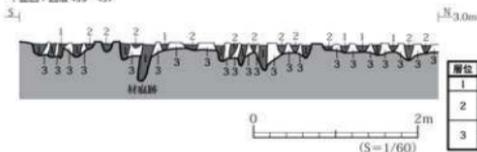
〔重複〕 (古) SI7864

(新) SB7763、SD7100、SK7710、SI7861・7862・7866・7870・7873

〔掘方〕 上幅0.3～0.4mで、深さは0.2m前後である。縦方向の断面調査を行ったのみであるため、下幅・横断面形は不明である。埋土は地山ブロックを含むにぶい黄褐色シルトである。

〔材痕跡・材採取穴〕 材痕跡は、直径0.10～0.15mの円形や楕円形である。採取穴は、北側と南側が0.2～0.5m間隔と密集するが、中央付近は0.7～2.0m間隔とまばらである。

平面図：図版455・457



層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒色 (10YR2/1)	シルト	粘性強	
2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	しまり弱、黒褐色(10YR3/1)シルトと地山ブロックを含む	材痕跡
3	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	しまり弱、黒褐色(10YR3/1)シルトと地山ブロックを含む	掘方埋土



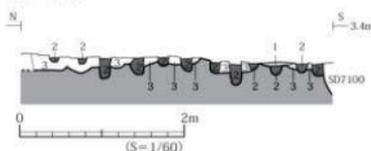
SA7839 断面 (東から)



SA7839 断面 (南東から)

図版464 SA7839材木堀跡

平面図：図版510

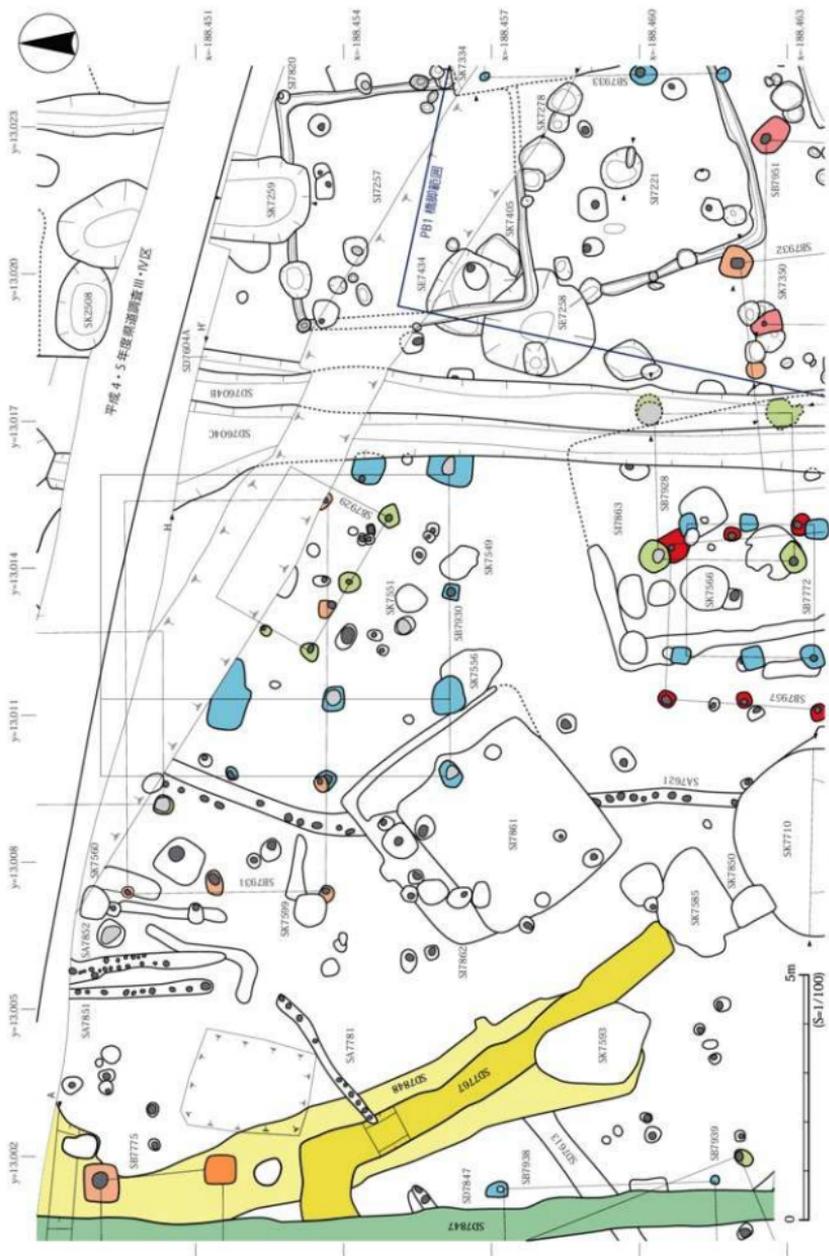


層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロック含む	採取穴
2	黒褐色 (10YR3/3)	シルト	地山ブロック含む	材痕跡
3	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロック含む	掘方埋土



SA7621 断面 (西から)

図版465 SA7621材木堀跡



図版466 L区平面図6 (L区の部分は図版435を参照)

〔出土遺物〕 掘方埋土から土師器甕が出土した。

【SA7176 材木堀跡】 (図版452・453・467・496・519)

調査区東部で確認した、布掘り掘方の中に材木を立て並べた南北方向に延びる材木堀跡である。検出長は41.1mで、方向はN-15°-Wである。ほぼ同じ位置で重複するSA7755・7756材木堀跡は造り替えと考えられる。堀は併行するSD461区画溝とセットとなり、北に開くコ字状区画の東辺を構成する。

また、3条の材木堀跡は北側に隣接する県道調査区のSA2089・2092・2096に対応しており、SA7176はSA2089と同一である。県道調査区では、SA2092→SA2096→SA2089と解釈したが(宮城県教委1994)、今回の調査で、SA2096に対応するSA7755が最も新しいことを確認した。SA7176とSA7756の新旧関係は不明である。

〔重複〕 (古) SI7393、SX7124・7128

(新) SA7755、SE7105、SK7168・7204・7291・7425、SD7100・7142、SF7277、SX7103

〔掘方〕 上幅0.2～0.5m、下幅0.4m前後、深さは0.2m、断面は逆台形である。埋土は地山ブロックを多く含む明黄褐色砂質シルトである。

〔材痕跡・材採取穴〕 溝状の採取穴の底面で材痕跡を確認した。材痕は直径0.1m前後の円形や楕円形である。採取穴の間隔にはバラツキがあるが、0.1～0.4m前後である。

〔出土遺物〕 (図版468・469)

掘方埋土から土師器杯・甕、凝灰岩切石と、材採取穴から土師器杯(1～3)・大型甕(4)などが出土した。このうち1は、関東系土師器である。

【SA7755 材木堀跡】 (図版452・453・467・496・519)

調査区東部で確認した、布掘り掘方の中に材木を立て並べた南北方向に延びる材木堀跡である。検出長は45.6mで、方向はN-16°-Wである。ほぼ同じ位置で重複するSA7176・7756材木堀跡は造り替えであり、堀は併行するSD461区画溝跡とセットとなり、北に開くコ字状区画の東辺を構成する。また、3条の材木堀跡は北側に隣接する県道調査区のSA2089・2092・2096にそれぞれ対応しており、SA7755はSA2096と同一である。

〔重複〕 (古) SA7756、SI7393、SX7124・7128

(新) SD7100・7142、SE7105・7292、SF7277、SK7127・7139・7191・7204・7291・7425、SX7103

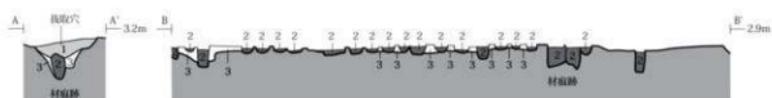
〔掘方〕 上幅0.5～1.0m、下幅0.3m、深さは0.3m前後、断面は逆台形である。埋土は地山砂を含む明黄褐色・褐色などの砂～シルトである。

〔材痕跡・材採取穴〕 溝状の採取穴の底面で材痕跡を確認した。材痕は直径0.2m前後の円形で、底面は掘方より深いものがある。

〔出土遺物〕 (図版468)

掘方埋土から、土師器杯・高杯・甕、須恵器壺蓋(6)、磨石(7)などが出土した。また、一連の

平面図：図版 452



平面図：図版 453



遺構名	層位	土色	土性	遺人物など	備考
SA7755	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト質砂	炭化跡少し含む、地山ブロック含む	後取穴
	2	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	炭化粘・地山ブロックを少し含む	材痕跡
	3	明黄褐色 (10YR6/6)	砂	炭灰色 (10YR4/1) シルトを含む	掘方埋土
SA7756	4	暗褐色 (10YR3/2)	シルト	地山小ブロック含む	
	5	にぶい・黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山小ブロックと遺物を含む	後取穴
	6	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	地山小ブロック含む	材痕跡
SA7176	7	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	地山ブロックと炭化物を含む	
	8	にぶい・黄褐色 (10YR6/3)	粘土質シルト		後取穴



SA7176・7755・7756 材木掘跡断面 (南から)



SA7755 材木掘跡断面 (南から)

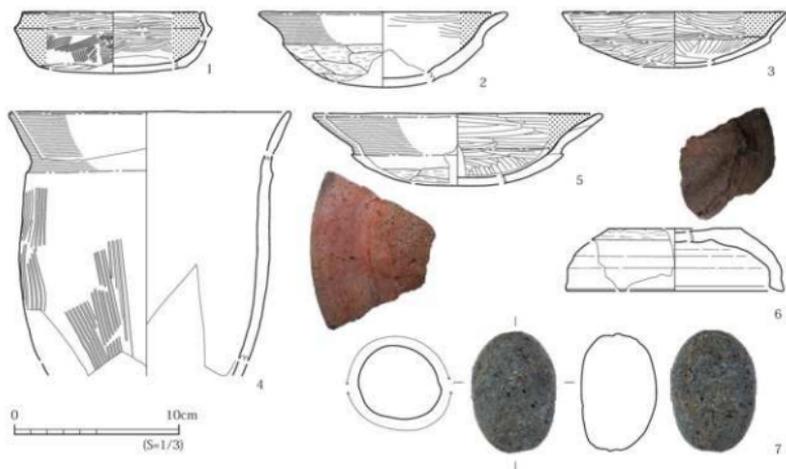


SA7755 掘出状況 (南から)



SA7755 遺物出土状況 (北から)

図版467 SA7176・7755・7756材木掘跡



No.	品種	遺物番号	部位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	分類	備考	登録
1	土師器・杯	SA7176	採取穴	外面：ハケメ→ヘラミガキ→黒色処理 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(11.0)	—	—	1/3	C1	関東系土師器	2224
2	土師器・杯	SA7176	採取穴	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.2)	—	—	1/2	D	—	2225
3	土師器・杯	SA7176	採取穴	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(13.8)	—	—	1/2	B1	—	2227
4	土師器・大型椀	SA7176	採取穴	外面：ハケメ→ヨコナデ 内面：ヨコナデ→ナデ	(17.2)	—	—	1/2	—	—	2226
5	土師器・杯	SA7756	採取穴	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(17.4)	—	—	1/3	B1	—	3160
6	灰土器・壺蓋	SA7755	腹方埋土	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 天井部：ヘラ切り→ナデ	13	—	3.8	一部	—	粘土に海綿骨針を埋入 含む	3158
7	石製品・磨石	SA7755	腹方埋土	—	—	—	—	完形	—	重量：222.0g	3159

図版468 SA7176・7755・7756材木堀跡出土遺物



図版469 SA7176材木堀跡出土遺物

遺構であるSA2089の掘方埋土と採取溝からは、非ロクロ調整の土師器と須恵器が出土している。

【SA7756 材木堀跡】 (図版452・453・467・496・519)

調査区東部で確認した、布掘り掘方の中に材木を立て並べた南北方向に延びる材木堀跡である。検出長は29.5mで、方向はN-17°-Wである。ほぼ同じ位置で重複するSA7176・7755材木堀跡は造り替えて、堀は併行するSD461区画溝とセットとなり、北に開くコ字状区画の東辺を構成する。また、3条の材木堀跡は北側に隣接する県道調査区のSA2089・2092・2096にそれぞれ対応しており、SA7756はSA2092と同一である。

〔重複〕(古) SX7124・7128

(新) SA7755、SE7105、SK7204・7291、SD7100、SF7277、SX7103

〔材痕跡・材採取穴〕溝状の材採取穴の底面で直径0.2m前後の円形や楕円形の材痕跡を確認した。材痕の間隔は0.1～0.3mで、少し蛇行しながら並んでおり、地山へ沈下したのも認められる。採取穴は上幅0.2～0.5m、下幅0.3m、深さ0.3m前後である。

〔出土遺物〕(図版468)

材採取穴から土師器有段丸底杯(5)・高杯・甕などが出土した。また、SA2092の採取穴からは非ロクロ調整の土師器が比較的多く出土している。

〈区画溝跡〉

【SD2561 区画溝跡】 (図版455・470・472)

調査区西端で確認した南北溝跡で、検出長は16.2m、方向はN-8°-Wである。多賀城市第17次調査L区のSD5458と同一遺構である。本溝はSA670A・B・2564・7839材木堀跡を内側に伴う区画施設で、北に開くコ字状の西辺を構成する(宮城県教委1997)。なお、区画の南辺と東辺はSD461区画溝跡であり、SA7176・7755・7756材木堀跡を内側に伴う。

〔重複〕(古) SD7881

(新) SX2651

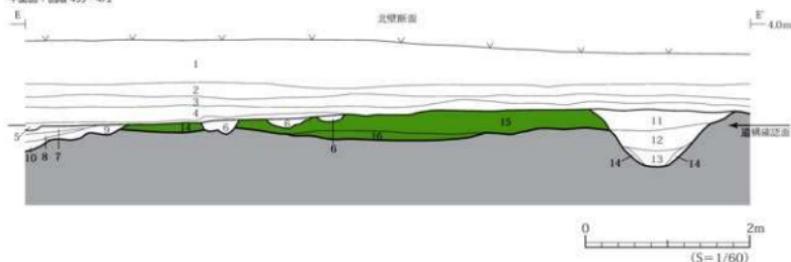
〔規模・堆積土〕確認面の上幅は2.0～2.7mであるが、北壁断面では5.5m以上ある。下幅は1.8～2.3m、北壁断面での深さは0.3mで、断面は浅い皿形である。堆積土は灰黄褐色や褐灰色などのシルトで、自然堆積である。

〔出土遺物〕なし。なお、SD5458では非ロクロ調整の土師器杯・高台杯・高杯などが出土した。

【SD7940 区画溝跡】 (図版455・457・471)

調査区西端で確認した南北溝跡である。検出長は17.8mで、方向はN-5°-Wである。多賀城市第17次調査L区で確認したSD5466・5469、M区のSD11781A期と同一遺構である。SD5466・5469はSD7100と一連のSD5453より古い。したがって、M区のSD11781B・C期、L区の7・SD5455・7836・7847・7100に先行する区画溝と考えられる。また、北側の県道調査区ではSX2651東西道路跡(北3道路)より古い。さらに、その北延長上には北3道路跡より古いSD2562があり、これも同一遺構とみられる。

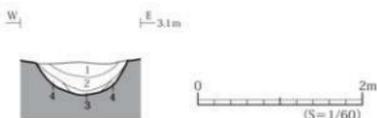
平面図：図版 455・472



遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
瓦葺・盛土層	1				
	2				
	3				水田耕作土
第I層	4	黒褐色 (10YR3/1)	シルト		
	5	黒色 (10YR2/1)	粘土		
Ph	6	褐色色 (10YR4/1)	シルト		
	7	灰黄褐色 (10YR5/2)	砂質シルト		
北3道路 南側溝 (SD2550)	8	黄灰色 (2.5Y4/1)	シルト		
	9	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	シルト		
	10	灰黄色 (2.5Y6/2)	砂	黄灰色 (2.5Y5/1) シルトのブロックを含む	
	11	黒褐色 (10YR2/2)	粘土	地山ブロックを少し含む	
SD7940	12	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	ラミナ状堆積	
	13	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト		自然堆積土
	14	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト		
SD2561	15	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト		自然堆積土
	16	褐色色 (10YR4/1)	シルト		

図版470 SD2561区画溝跡断面図

平面図：図版 465



SD7940 断面 (南から)

層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色 (10YR2/2)	粘土	地山ブロックを少し含む	
2	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	ラミナ状堆積	自然堆積土
3	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト		
4	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト		

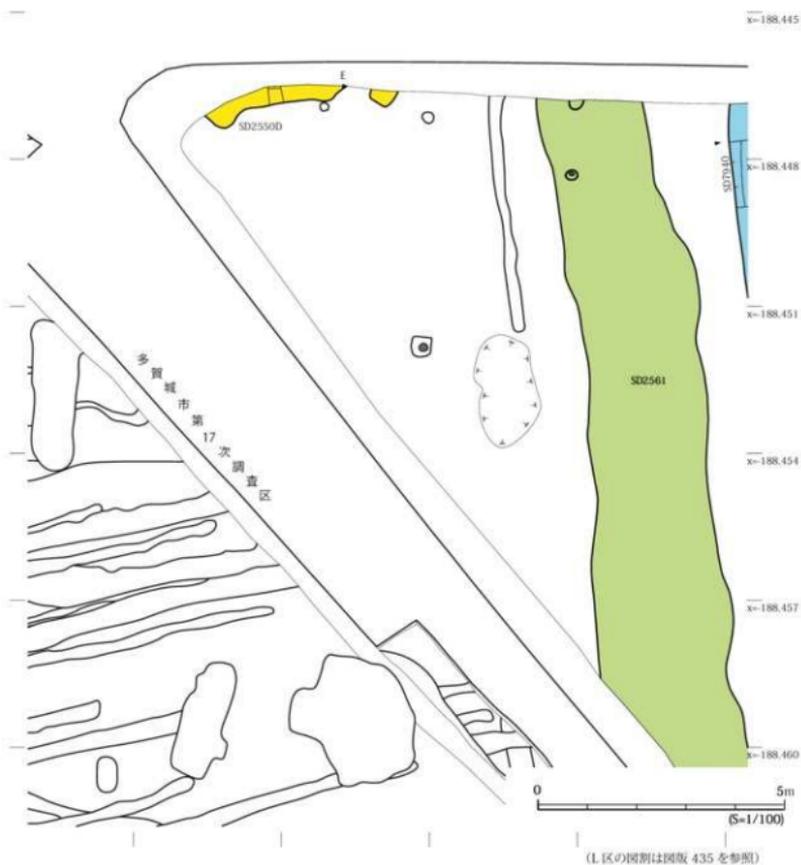
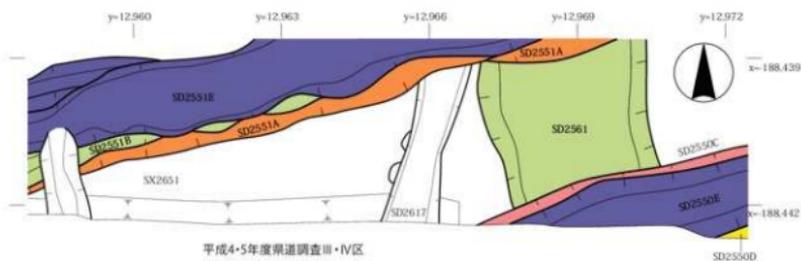
図版471 SD7940区画溝跡

〔重複〕(古) SD7844・7845・7881

〔規模・堆積土〕上幅0.9～1.1m、下幅0.5～0.8m、深さは0.4mであるが、北壁の断面では、上幅1.7m、深さは0.7mある。断面形は梯形～逆台形である。堆積土はにぶい黄褐色・黒褐色の砂質シルト～粘土で、自然堆積である。

〔出土遺物〕(図版473)

堆積土から土師器甕・甗、須恵器甕、砥石(1)などが出土した。このうち砥石を図示した。なお、南側のSD5466からは、非ロクロやロクロ調整の土師器環などが出土した。



図版472 L区平面図7



図版473 SD7940区画溝跡出土遺物



SD7836A・B 検出状況 (南から)



SD7836A・B 断面 (南から)

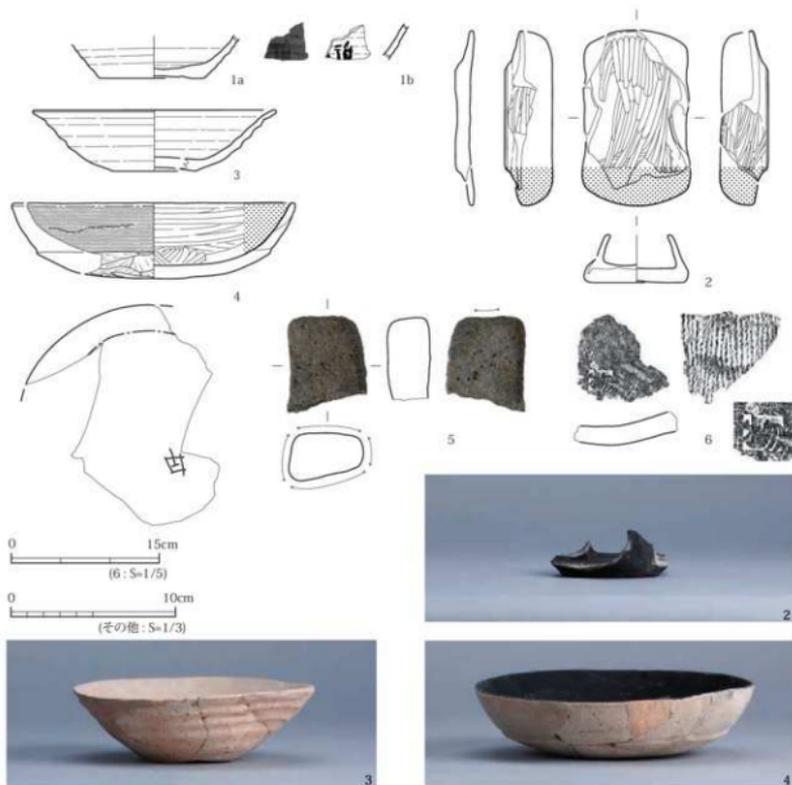
遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SD7836B	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	灰白色火山灰含む	2次堆積
	2	赭灰色 (10YR5/1)	シルト	灰白色火山灰含む	
	3	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	地鉄をわずかに含む。上半部では地鉄の沈着が著しく褐色を呈す	自然堆積土
	4	灰黄褐色 (10YR6/2)	シルト	期灰色土 (10YR4/1) をブロック状に含む	崩壊土
SD7836A	5	期灰色 (10YR4/1)	シルト	上半部では地鉄の沈着が著しく褐色を呈す	自然堆積土
	6	期灰色 (10YR4/1)	シルト	地鉄をわずかに含む	
	7	灰黄褐色 (10YR6/2)	シルト	期灰色土 (10YR4/1) をブロック状に含む	崩壊土

図版474 SD7836A・B区画溝跡

【SD7836A・B区画溝跡】(図版455・457・474)

調査区西部で確認した南北溝跡である。検出長は31.9mで、方向はN-12°-Wである。2時期あり、B期が新しい。北側の県道調査区で確認したSD2550・2653、南側は多賀城市第17次調査L区のSD5455A・Bと同一遺構である。これらを含めた南北長は、45.7mほどである。

北側は、SX2651東西道路跡(北3道路)南側溝C・E期に接続する。SX2651の南側溝A期に対応する時期は確認していないが、南側溝A期が本溝の北延長線上でクランク状に曲がることから、A期から接続していたとみられる。一方、南側はSD5455A・BがSD5453A・Bに接続する(多賀城市教委1997)。SD5453は今回調査したSD7100と同じで、街区(北3西5区)内部を南北に分割する。さらに、SD7100に接続する南北溝は、西からSD7836・7847・7262の3条あり、街区北半を東西に細分



図版475 SD7836A・B区画溝跡出土遺物

している。

〔重複〕(古) SA7781・7784・7838、SD7767・7779・7806・7823・7844・7845・7881

〔規模・堆積土〕B期は上幅1.0～1.5m、下幅0.4～0.6m、深さは0.6mで、断面は逆台形である。堆積土は、灰黄褐色などのシルト層の上で灰白色火山灰層を確認した。A期は上幅0.6m以上、下幅0.4m、深さは0.6mで、断面は逆台形である。堆積土は褐色などのシルトで、自然堆積である。

〔出土遺物〕(図版475)

A期堆積土から土師器環・甕、須恵器環・甕などが出土した。B期は火山灰下の堆積土(3・4層)から土師器環(4)・甕、須恵器環(1)、馬歯、平瓦(6)など、火山灰降下以後の堆積土(1・2層)からは、ロクロ調整の土師器環、耳皿(2)、須恵器環・甕、丸瓦・平瓦、砥石(5)などが出土した。確認面からは赤焼土器環(3)、ロクロ調整の土師器甕などが出土している。このうち、2の土師器耳皿は無台で、両黒である。4の土師器環は底部に刻書「由」、1の須恵器環は体部に墨書、平瓦は凹面に刻印「物」が認められる。

【SD7847区画溝跡】(図版456・466・476・477・507)

調査区西部で確認した南北溝跡である。検出長は44.5mで、方向は $N-4^{\circ}-W$ である。南端はSD7100区画溝に接続する。北側の県道調査区のSD2541と同一遺構で、両者を合わせた南北長は50.5mになる。SD7100に接続する南北溝は、西からSD7836・7847・7262の3条あり、街区(北3西5区)北半を東西に細分している。

〔重複〕(古) SA7781、SB7659・7660・7939・7948、SD7613・7767・7785・7848、SI7766、SX7945

(新) SB7902、SK7622

〔規模・堆積土〕上幅1.0m、下幅0.6m、深さ0.1m、断面は皿形である。

〔出土遺物〕堆積土から土師器環・高環・甕、須恵器環・蓋、平瓦、置瓦などが出土した。土師器環には、回転糸切りののち手持ちヘラケズリが含まれる。

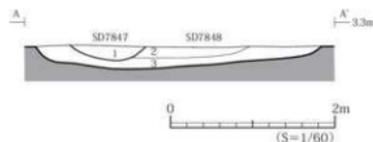
【SD7848区画溝跡】(図版456・466・476・507・510)

調査区西部で確認した南北溝跡で、中央が途切れるが、本来は繋がっていたと考えられる。検出長は北側が12.8m、南側は19.5mである。方向は北側で $N-18^{\circ}-W$ 、南側は $N-7^{\circ}-W$ である。本溝は、調査区北端で東に折れており、その先にある県道調査区のSD2524と同一遺構と考えられる。南側は、残りが悪いが、C・D区で確認したSD503が延長線上にあり、同一遺構と考えられる。また、本溝の東側には併行するSA7621材木堀跡があり、両者は一体の区画施設と考えられる。

〔重複〕(古) SD7620、SI7871・7872

(新) SA7781、SB7763・7764・7775・7926、SD7100・7767・7847、SK7593

平面図：図版456・466

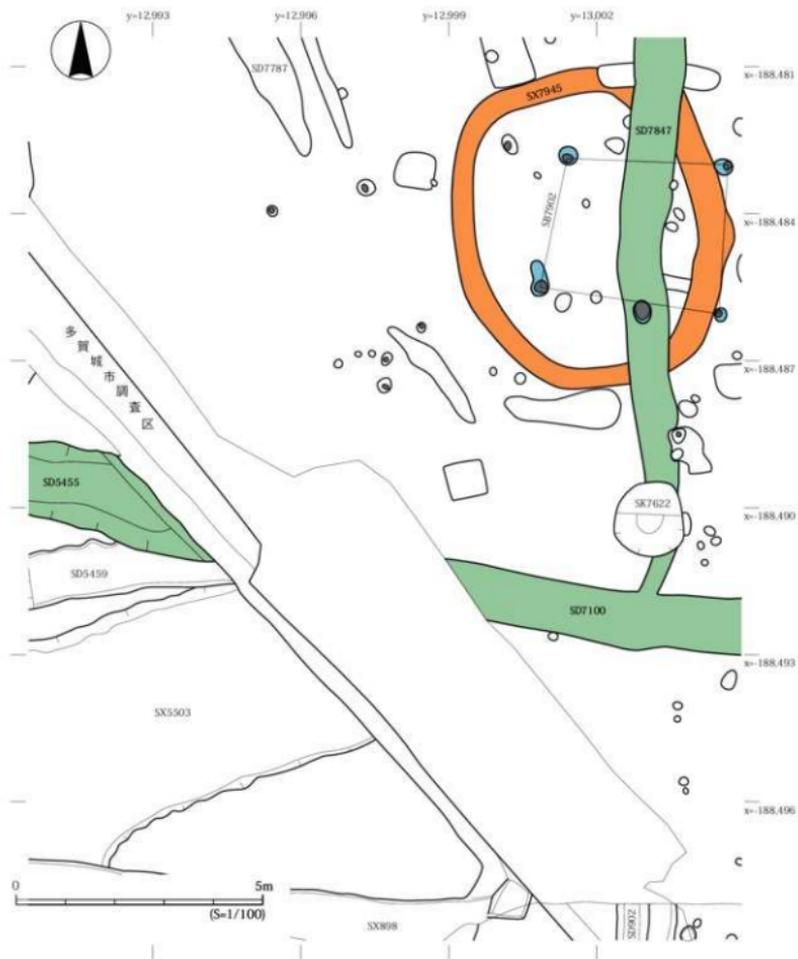


層位	土色	土性	遺入物など	備考
2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	地山アロック片等	自然堆積土
3	黒褐色(10YR2/2)	砂質シルト	地山アロック片等、遺物等	



SD7847・7848断面(南から)

図版476 SD7847・7848区画溝跡



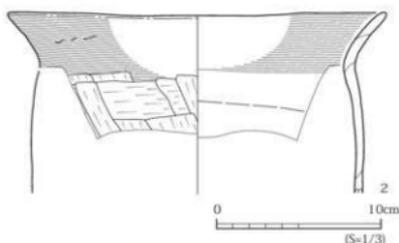
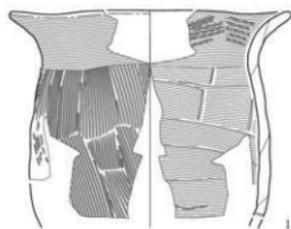
(L 区の図例は図版 435 を参照)

図版477 L区平面図8

〔規模・堆積土〕残りの良い部分でみると、上幅3.3m・下幅3.1m、深さ0.3mで、断面は皿形である。堆積土は黒褐色やにぶい黄褐色の砂質シルトで、自然堆積である。

〔出土遺物〕(図版478)

確認面から土師器小型甕(1)・大型甕(2)などが出土した。また、同一遺構のSD503・2524は、栗園式期のSI746・747より古い。



No.	器種	部位	図型	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・小字甕	確認品	外面：□□ヨコナデ [株] ハケメ 内面：□□ハケメヨコナデ [株] ヘラナデ	(16.0)	-	-	1/4		3155
2	土師器・大字甕	確認品	外面：□□ヨコナデ [株] ヘラケズリ 内面：□□ヨコナデ [株] ヘラナデ	(22.0)	-	-	1/4		3154

図版478 SD7848区画溝跡出土遺物

【SD7844・7845・7881区画溝跡】(図版455・457・479)

調査区西部で確認した南北溝跡である。検出長は20.5mで、方向はN-33°-E前後である。3時期あり、A期(SD7881)→B期(SD7844)→C期(SD7845)とみられる。北側の県道調査区SD2563は同一遺構であるが、南側の多賀城市第17次調査L区では該当する遺構が確認されていない。また、本溝の東側にはSA7784材木堀跡が併行しており、両者はセットと考えられる。

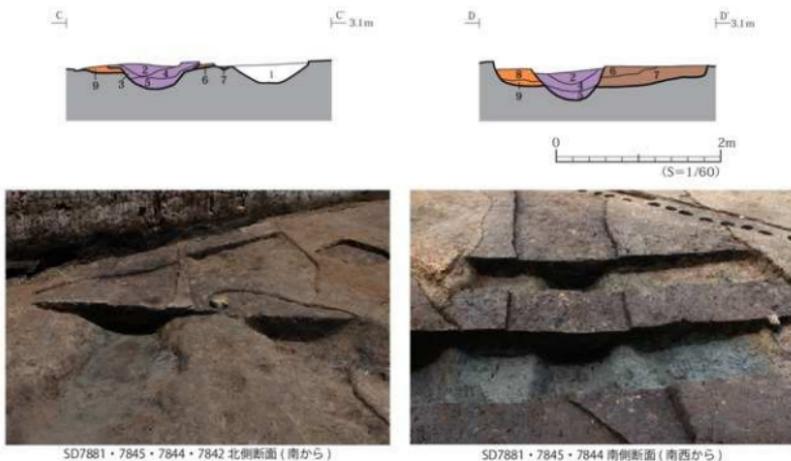
〔重複〕(新) SA7838・7839、SD2561・7836・7842・7940

〔規模・堆積土〕SD7845は上幅0.7～1.3m、下幅0.3～0.4m、深さは0.4mで、断面はU字形である。堆積土は黒褐色・暗褐色などの粘土～シルトで、上層は人為堆積である。SD7844は上幅1.3m以上、下幅0.8m以上、深さは0.3mで、断面は浅い皿形である。堆積土は地山ブロックを含む黒褐色などの粘土質シルト～砂質シルトである。SD7881は上幅0.8m以上、下幅0.4m以上、深さは0.3m前後で、断面は浅い皿形である。堆積土は地山ブロックを含む暗褐色の粘土～粗砂である。

〔出土遺物〕(図版480・481)

SD7845の堆積土からは、土師器環(1～4)・高環(5)・甕・ミニチュア(6)、須恵器環(8)・甕、土製紡錘車(7)などが出土した。土師器環はいずれも内外に段を有する。SD7844の堆積土からは、

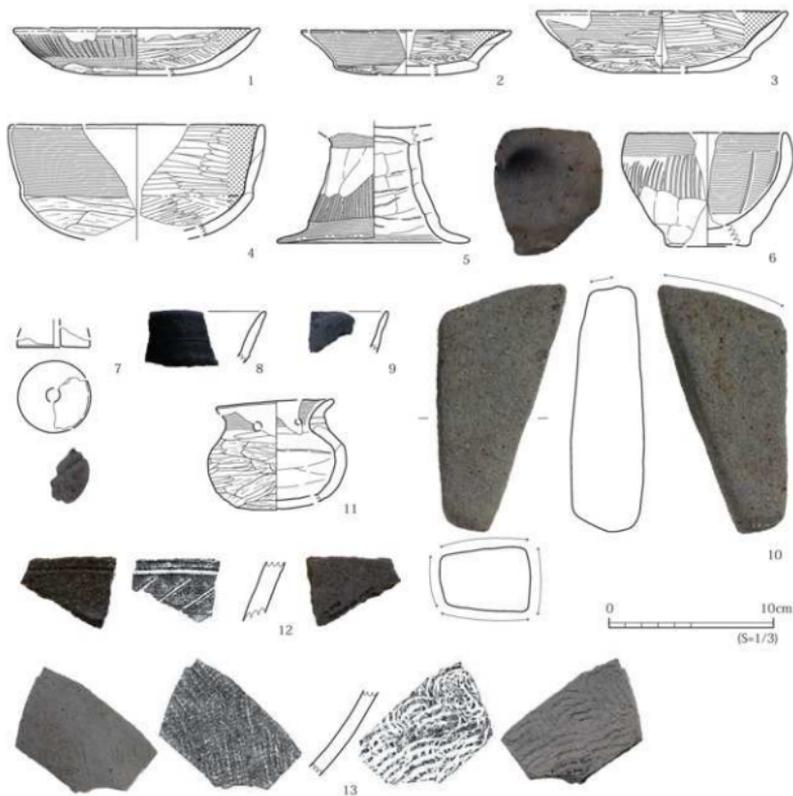
SD7881・7845・7844・7842 平面図：図幅 455



遺構名	層位	土色	土性	遺人物など	備考
SD7842	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト		
	2	暗褐色 (10YR3/3)	シルト		埋戻し土
SD7845	3	黒褐色 (10YR3/1)	粘土	炭化物含む	
	4	黒褐色 (10YR3/4)	シルト	粗砂含む	
	5	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト		
SD7844	6	黒褐色 (10YR2/3)	粘質シルト	地山(ブロック)含む	
	7	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	砂質シルト	地山(ブロック)を多く含む	
SD7881	8	暗褐色 (10YR3/3)	粘土	地山(ブロック)含む	
	9	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	シルト～粗砂	地山(ブロック)を多く含む	

 SD7881・7845・
7844・7842
完照状況 (南西から)


図版479 SD7842・7844・7845・7881区画溝跡



No.	器種	通帳番号	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	分類	備考	登録
1	土師器・杯	SD7845	2層	外面：ヨコナデ→ナメ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.8)	—	2.4	1/3	F		3147
2	土師器・杯	SD7845	2層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(12.6)	—	2.7	1/3	B1	粘土に海綿骨針を微量含む	3150
3	土師器・杯	SD7845	2層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.0)	—	3.7	1/3	B1	粘土に海綿骨針を微量含む	3148
4	土師器・杯	SD7845	2層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.2)	—	6.8	1/3	C2	粘土に海綿骨針を微量含む	3149
5	土師器・高坪	SD7845	5層	外面：[器] ハケメ→ナデ→ヨコナデ 内面：[器] ナデ [底] ヘラミガキ→黒色処理	—	11.7	—	一部	A		3145
6	土師器・ミニチュア	SD7845	4層	外面：[口] ヨコナデ [体] ハケメ→下部ナデ・オサエ 内面：ヨコナデ→ヘラナデ	(94.0)	(52)	6.9	1/3	—	鉢形。粘土に海綿骨針を微量含む	3146
7	土製品・陶練車	SD7845	2層		(4.2)	—	—	1/3	—	孔径：0.8cm	3151
8	須恵器・杯	SD7845		内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	—	坏Gか高坪	3153
9	須恵器・提壺	SD7842	堆	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	—		3141
10	石製品・砥石	SD7881	8・9層		—	—	—	完形	—	重量：677.0g	3157
11	土師器・ミニチュア	SD7844	堆	外面：[口] ヨコナデ [体] ヘラケズリ→暗いヘラミガキ 内面：[口] ヨコナデ [体] ナデ	(7.2)	—	6.7	2/3	—	透形。胴部に穿孔	3142
12	須恵器・瓶	SD7844	堆	外面：方キメ・沈痾・懸濁状点文 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	—	外面に自然釉	3143
13	須恵器・壺	SD7844	堆	外面：平リタタキ 内面：同心状アナ景	—	—	—	一部	—	焼成不良(灰白色)	3144

図版480 SD7842・7844・7845・7881区画溝跡出土遺物1



図版481 SD7842・7844・7845・7881区画溝跡出土遺物2

非ロクロ調整の土師器環・甕・ミニチュア（11）、須恵器甕（12・13）などが出土した。SD7881の堆積土からは、非ロクロ調整の土師器環・甕、砥石（10）などが出土した。

【SD461区画溝跡】（図版436・452・453・482・519・521）

調査区東部で確認した南北溝跡である。検出長は43.6mで、方向はN-16°-Wである。本溝は北側の県道調査区のSD2124と同一遺構であり、SA7176・SA7755・SA7756材木堀とともに北に開くコ字状区画の東辺を構成する。

〔重複〕（古）SX7124・7128

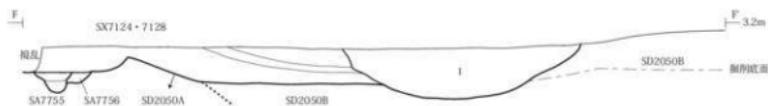
（新）SB7144・7380、SD7100、SF7277、SK7139・7425、SX750・7103

〔規模・堆積土〕上幅2.8～3.2m、下幅1.2～1.5m、深さは0.6m前後、断面はレンズ形である。堆積土は薄い砂層や炭化物を多量に含む黒褐色シルト質粘土で、自然堆積と考えられる。

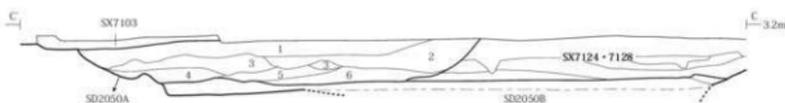
〔出土遺物〕（図版483～494）

4～6層から土師器環（8・9・14・16・19・20）・埵（23・25～27）・甕・広口壺・小型広口壺（32）・甗・ミニチュア（1）、須恵器環（40・42）・埵（57）・壺（59）・短頸壺（62）・提瓶（66）・

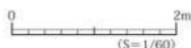
平面図：図版 453・519



平面図：図版 452・521



層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	オリーブ黒色 (5Y3/1)	粘土質シルト		自然埴輪土
2	オリーブ黒色 (7.5Y 3/1)	粘土質シルト	炭化物を少し含む	
3	灰色 (5Y4/1)	シルト		
4	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト		
5	オリーブ黒色 (7.5Y 3/1)	粘土質シルト	炭化物を少し含む	
6	灰色 (7.5Y 4/1)	粘土質シルト		



SD461, SX7128 断面 (北から)



SD461 遺物出土状況 (西から)

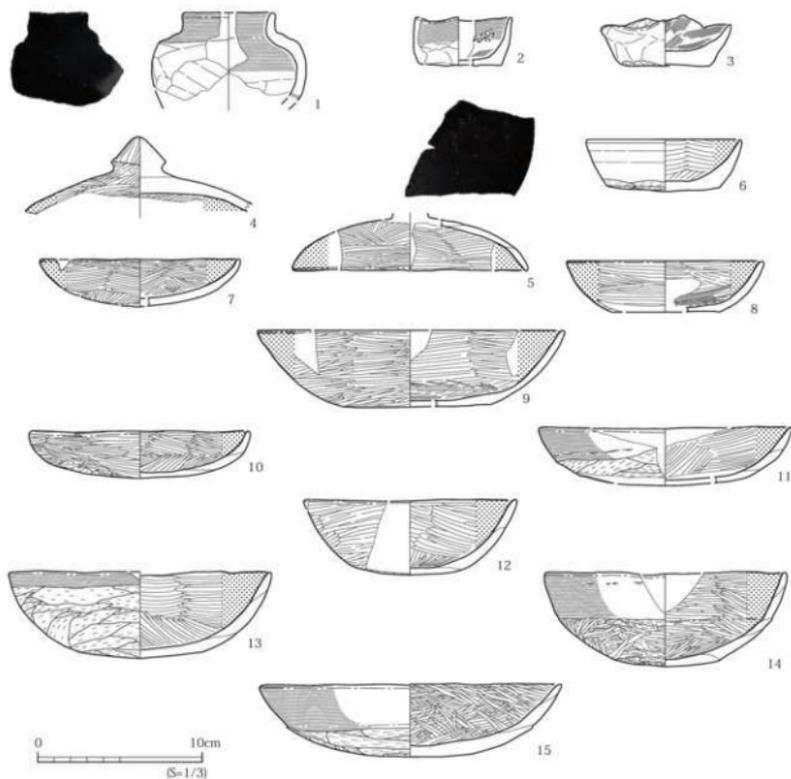
図版482 SD461区画溝跡

甕 (68・69)・中甕 (70)、平瓦 (77) などが出土した。土師器環は非ロクロ調整の無段平底が主体で、両黒となるものが多い。ロクロ調整はわずかで、20の底部には刻書「官」が認められる。土師器埴は無段平底である。須恵器環・埴は切離し不明で、回転ヘラケズリや手持ちヘラケズリが施される。平瓦は多賀城分類IC類で、第1期のものである。

1～3層から土師器小型環 (6)・環 (7・10～13・17・18)・盤 (22)・埴 (24)・稜埴 (21)・蓋 (4・5)・小型甕 (28・29・31)・大型甕 (30)・甕 (63・64)・ミニチュア (2・3)、須恵器環 (36・37・39・41・43～55)・高台環 (34・35)・埴 (56・58)・蓋 (33)・短頸壺 (61)・長頸壺 (60)・甕 (67)・中甕 (71)・円盤 (72)・転用砥 (75)、軒丸瓦 (76)、砥石などが出土した。

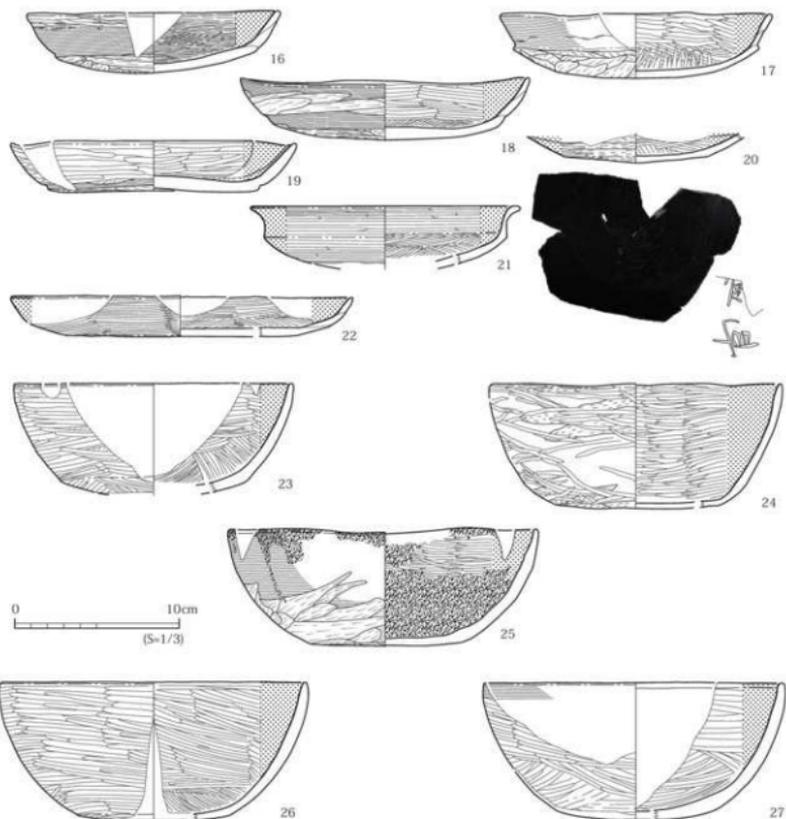
土師器小型環・稜埴はロクロ調整で、後者は両黒である。土師器環は無段平底が主体で、有段のものも段の位置が下がり、扁平・平底化の傾向が進んでいる。土師器小型甕 (28) は、内外に漆が付着しており、最終的に漆容器として使われた。

須恵器環は血形が主体である。環や埴は再調整が施されるものとヘラ切りのものとが半々である。環 (55)・高台環 (34) は大戸産で、長頸壺 (60) は猿投産である。軒丸瓦には、多賀城第1期の八



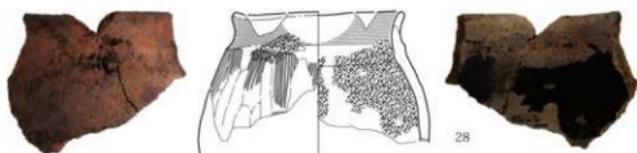
No.	器種	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・ミニチュア	4~6層	外面：[口] ヨコナデ [体] 手持ちヘラケズリ→ナデ 内面：ヨコナデ [体下部] ナデ	(5.4)	—	—	1/3	赤沢、新土に海綿付針を露出含む	455
2	土師器・ミニチュア	1~3層	内外面：ユビナデ→ヨコナデ 底面：ナデ	(5.8)	5	2.9	1/2	坏形、内面に漆付着	2181
3	土師器・ミニチュア	1~3層	内外面：ユビナデ 底面：手持ちヘラケズリ	7.9	5.3	3.1	完形	坏形	2156
4	土師器・器	1~3層	内外面：ヘラミガキ→黒色処理	—	—	—	1/2	宝珠ツマミ種：3.3cm	2154
5	土師器・器	1~3層	内外面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.1)	—	—	一部		420
6	土師器・小型杯	1~3層	外面：ロケロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底面：切離し不明→手持ちヘラケズリ	(9.3)	(6.8)	3.2	2/3		404
7	土師器・杯	1~3層	内外面：ヘラミガキ→黒色処理	(12.2)	—	—	1/3		2157
8	土師器・杯	4~6層	外面：ロケロナデ [体下] 斜紋ヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色処理 内面：ロケロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底面：切離し不明→斜紋ヘラケズリ→ヘラミガキ	11.8	6.6	3.1	2/3		456
9	土師器・杯	4~6層	外面：ロケロナデ [体下] 斜紋ヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色処理 内面：ロケロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底面：切離し不明→斜紋ヘラケズリ→ヘラミガキ	18.5	8.9	4.7	1/2		441
10	土師器・杯	1~3層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(13.0)	—	2.9	1/2		430
11	土師器・杯	1~3層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.2)	—	(3.3)	1/4		408
12	土師器・杯	1~3層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(12.8)	—	4.6	2/3	新土に海綿付針を少量含む	445
13	土師器・杯	1~3層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.8)	—	5.4	1/4		403
14	土師器・杯	6層	外面：[口] ヨコナデ [体下] 手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ [底] 手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.5)	—	5.8	1/4		2148
15	土師器・杯	確認層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ	(18.2)	—	4.4	1/2		2186

図版483 SD461区南溝跡出土遺物 1



No.	器種	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
16	土師器・杯	4～6層	外面：ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ（片断状） 内面：ヘラミガキ→黒色処理	15.2	—	3.8	2/3		443
17	土師器・杯	1～3層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(16.3)	—	3.9	1/2		406
18	土師器・杯	1～3層	外面：ヨコナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	17.4	—	3.8	2/3	胎土に海綿骨針を微量含む	440
19	土師器・杯	4～6層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底面：手持ちヘラケズリ	(17.2)	(12.8)	3.1	1/3	胎土に海綿骨針を微量含む	2139
20	土師器・杯	4～6層	外面：ロクロナデ→削肌・ヘラケズリ→ミガキ→黒色処理 内面：ミガキ→黒色処理	—	(8.4)	—	一部	焼成後、底面に割傷「竇」(2カ所)	444
21	土師器・楕円	1～3層	外面：ロクロナデ→削肌・ヘラミガキ→黒色処理 内面：ロクロナデ→[底]ヘラミガキ→[体]削肌・ヘラミガキ→黒色処理	(16.0)	—	—	1/3	高脚	2182
22	土師器・甕	1～3層	内外面：ヘラミガキ→黒色処理	(20.6)	(14.0)	2.1	一部		433
23	土師器・甕	4～6層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(16.8)	(11.4)	6.6	一部		447
24	土師器・甕	1～3層	外面：手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(17.5)	(9.9)	7.5	1/2		432
25	土師器・甕	6層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(18.5)	4.2	7.1	2/3	内外面に漆付着（漆パレット）	2147
26	土師器・甕	4～6層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(18.4)	9.2	8.4	1/3	胎土に海綿骨針を微量含む	452
27	土師器・甕	4～6層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	17.8	—	8.3	1/2		2140

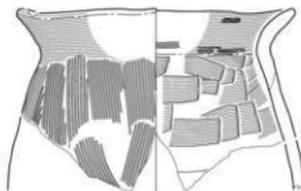
図版484 SD461区画溝跡出土遺物2



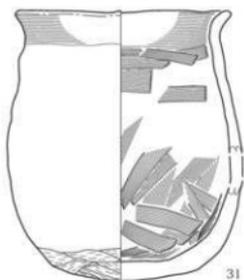
28



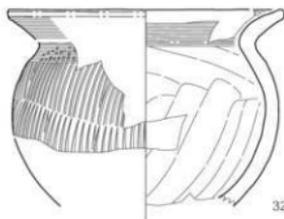
29



30



31

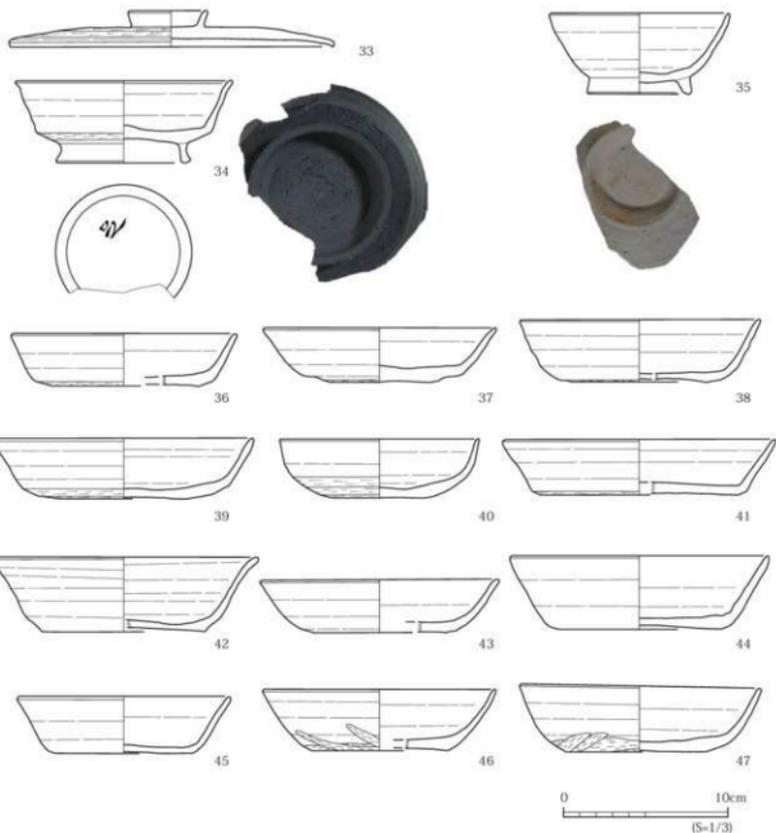


32

 0 10cm
 (5=1/3)

No.	器種	層位	調整	口径(cm)底径(cm)高さ(cm)	残存	備考	登録
28	土師器・小型甕	1～3層	外面：[口]ヨコナデ [体]ハケメ→ナデ 内面：[口]ヨコナデ	(10.0) — —	一部	内内面に漆付痕。漆付器	2158
29	土師器・小型甕	1～3層	外面：[口]ヨコナデ [体]～[底]縦ハケメ→横ハケメ 内面：[口]ヨコナデ [体]ヘラナデ [底]ナデ	11.7 7.2 10.8	完形		401
30	土師器・大型甕	1～3層	外面：[口]ヨコナデ [体]ハケメ 内面：[口]ハケメ→ヨコナデ [体]ヘラナデ	(16.7) — —	一部		405
31	土師器・小型甕	1～3層	外面：[口]ヨコナデ [体]裏戻 [底]手持ちヘラケズリ 内面：[口]ヨコナデ [体]ヘラナデ	12.7 (8.4) 16.5	完形		409
32	土師器・小型口付甕	4～6層	外面：[口]ハケメ→ヨコナデ [体]ハケメ 内面：[口]ヨコナデ [体]ナデ	(16.6) — —	一部		459

図版485 SD461区西溝跡出土遺物3



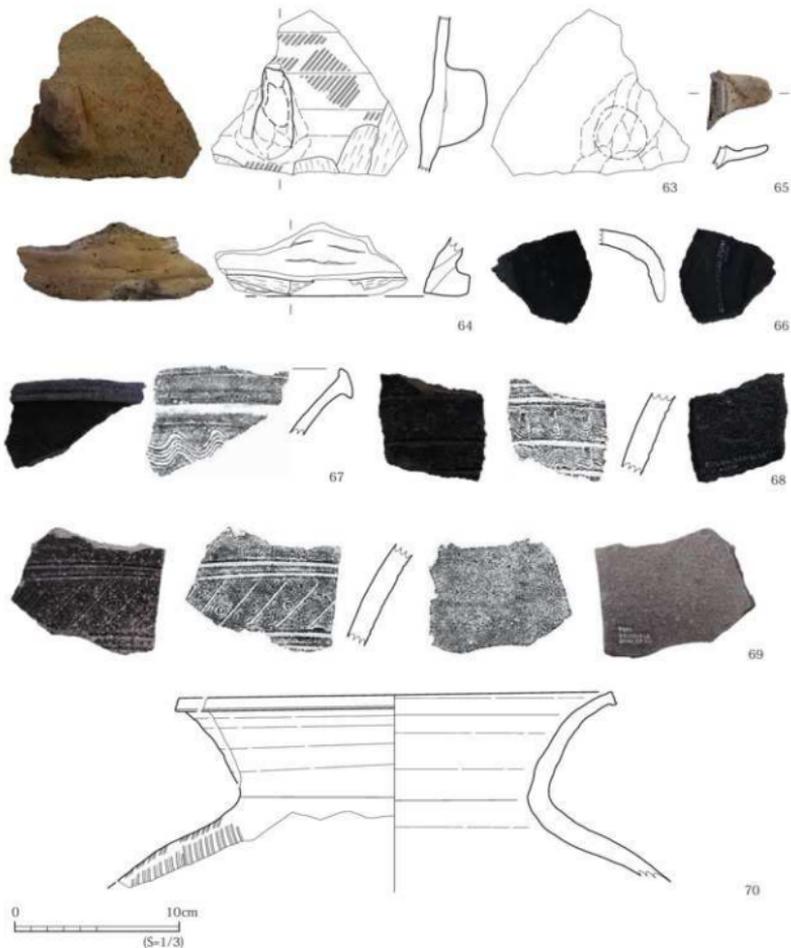
No.	器種	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
33	須恵器・器	1～3層	外面：ロクロナデ→白胎ヘラケズリ→ツマミ足付→ナデ 内面：ロクロナデ	19.6	—	2.2	完形	大戸底。器状ツマミ：径：4.6cm。肩平	413
34	須恵器・高台杯	1～3層	外面：ロクロナデ→白胎ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：高台足付→ロクロナデ	(12.8)	(7.7)	5.0	2/3	大戸底。底部に墨書「足」	2151
35	須恵器・高台杯	1～3層	外面：ロクロナデ→〔体下〕ナズリ 内面：ロクロナデ 底部：ロクロナデ→白胎ヘラケズリ→高台足付→ロクロナデ	(10.7)	6.0	4.9	2/3	底部に墨書「口」	2176
36	須恵器・杯	1～3層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→白胎ヘラケズリ	(13.4)	(8.6)	3.2	1/2		429
37	須恵器・杯	1～3層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→白胎ヘラケズリ	(13.0)	(6.1)	3.3	2/3		2171
38	須恵器・杯	焼結土	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→白胎ヘラケズリ	(14.4)	(8.1)	3.8	1/2	内面に漆付痕	2153
39	須恵器・杯	1～3層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→白胎ヘラケズリ	15.6	7.3	3.7	2/3	胎土に海綿状針を含む	415
40	須恵器・杯	4～6層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→白胎ヘラケズリ	(12.0)	(5.8)	3.6	1/3	胎土に右角付針を多数含む	448
41	須恵器・杯	1～3層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→白胎ヘラケズリ	(16.3)	(12.0)	3.4	1/4	胎土に右角付針を含む	427
42	須恵器・杯	4～6層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→白胎ヘラケズリ	(16.2)	(10.0)	4.5	1/3	胎土に海綿状針を微量含む	449
43	須恵器・杯	1～3層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→白胎ヘラケズリ	(14.3)	(8.0)	3.2	1/3	内外面に火傷	412
44	須恵器・杯	1～3層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→白胎ヘラケズリ	(15.6)	9.7	4.5	2/3	口の山突座。焼成不良	425
45	須恵器・杯	1～3層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→白胎ヘラケズリ	(12.8)	(8.0)	3.5	2/3	内面に火傷	2169
46	須恵器・杯	1～3層	内外面：ロクロナデ 底部：静止系切り→手持ちヘラケズリ	(14.0)	(8.3)	3.7	1/2		2170
47	須恵器・杯	1～3層	内外面：ロクロナデ 底部：へら切り→手持ちヘラケズリ	14.3	8.4	4.2	1/2		428

図版486 SD461区画溝跡出土遺物4



No.	器種	層位	特徴	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
48	須恵器・杯	1~2層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→手持ちヘラケズリ	14.4	9.6	4.0	完形		2150
49	須恵器・杯	1~3層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→手持ちヘラケズリ	15.2	9.8	4.2	完形		426
50	須恵器・杯	1~3層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(13.3)	8.3	4.1	1/2		2173
51	須恵器・杯	1~3層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(13.2)	7.8	3.6	1/2		2174
52	須恵器・杯	1~3層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(13.6)	(7.0)	4.1	2/3		2155
53	須恵器・杯	1~3層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	14.4	9.0	3.5	1/2	底部に捺文字「□」	2149
54	須恵器・杯	1~3層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	14.0	7.8	4.0	完形	内面に大摩	2168
55	須恵器・杯	1~3層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(14.2)	(6.0)	3.8	一部	大7号	2175
56	須恵器・碗	1~3層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	16.0	(7.4)	7.0	1/3		2172
57	須恵器・碗	4~6層	外面：ロクロナデ・(鉢下) 手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：切離し不明→手持ちヘラケズリ	(18.3)	(10.9)	7.3	1/2		431
58	須恵器・碗	1~3層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→回転ヘラケズリ	(17.7)	(10.5)	8.8	1/3		439
59	須恵器・壺	4~6層	内外面：ロクロナデ 底部：高行版付→ナデ	—	8.1	—	一部	底部に捺文字「□」	2142
60	須恵器・瓦葺壺	1~3層	外面：回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：回転ヘラケズリ→高行版付→ナデ	—	7.8	—	一部	量程未	437
61	須恵器・短頸壺	1~3層	内外面：ロクロナデ	(10.0)	—	—	一部		434
62	須恵器・短頸壺	4~6層	内外面：ロクロナデ	10.8	—	—	1/3		436

図版48 SD461区南溝跡出土遺物5



No.	器種	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
63	土師器・甕	1～3層	外面：平行タタキ→ロクロナデ→手打ちヘラズリ→把手貼付→削ナデ 内面：ロクロナデ→把手貼付→削ナデ	—	—	—	一部	把手の周囲のみ	2183
64	土師器・甕	1～3層	外面：手打ちヘラズリ	—	—	—	一部		2150
65	須恵器・灰口環	藤原宮	外面：ナベメ 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	耳部は板状	2187
66	須恵器・甕	4～6層	外面：ナベメ 内面：ロクロナデ→斜目 (接合部：円板厚縁)	—	—	—	一部		2144
67	須恵器・甕	1～3層	外面：ロクロナデ→端部に縞縞状文 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部		418
68	須恵器・甕	4～6層	外面：ロクロナデ→平行波線→縞縞状文 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部		2145
69	須恵器・甕	4～6層	外面：ロクロナデ→平行波線→縞縞状文・明点文+円形文 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部		454
70	須恵器・中甕	4～6層	外面：□(1) 平行タタキ→ロクロナデ (裏) 平行タタキ 内面：ロクロナデ	26.2	—	—	一部		450

図版488 SD461区画溝跡出土遺物6



No.	品種	層位	図案	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
71	須恵器・中甕	1～3層	外面：平行タタキ 内面：同心ア字瓦ノナデ	—	—	—	一部	胴部に割書「月」(横位)	2160
72	須恵器・付屬	1～3層	—	—	—	—	—	燻冬転用	2165
73	石製品・砥石	破断面	—	—	—	—	—	重さ：12g 最大幅：3.0cm	2191
74	石製品・砥石	1～3層	—	—	—	—	—	重さ：24g 最大幅：4.9cm	2167
75	須恵器・転用瓶	1～3層	—	—	—	—	—	燻冬転用	2164
76	瓦・軒丸瓦	1～3層	側一背面：ハツケズリノナデ	—	—	—	一部	多賀城1期。垂序蓮花文121	2185
77	瓦・平瓦	1～6層	凸面：格子タタキ目 凹面：布目ノナデ 縁巻き作り	—	—	—	一部	多賀城分館：平瓦1C類	2146
78	木製品・柄杓	埋輪土	—	—	—	—	—	破板	2615

図版489 SD461区南溝跡出土遺物7



图版490 SD461区画满跡出土遺物 8



15



16



17



18



19



21



23



24



25



26



27



29

图版491 SD461区画满跡出土遗物9



图版492 SD461区画满跡出土遺物10



图版493 SD461区画满迹出土遗物11



56



57



58



62



60



70

図版494 SD461区画溝跡出土遺物12

葉重弁蓮花文（多賀城分類121）（76）や第Ⅱ期の単弧文がある。文字資料としては34・35の墨書、53の漆文字、59・71の刻書があり、34は底面に「足」、71は胴部に「月」が認められる。なお、ロクロ調整で胴下端が外へ張出す甔（63・64）は、混入と考えられる。

このほか、堆積土から土師器環・甕、須恵器環（38）・甕、柄杓（78）、確認面から土師器環（15）・甕、須恵器環・双耳環（65）・甕、砥石（73）などが出土した。

【SD7100 A・B区画溝跡】(図版452・477・495・496・510・513・521)

調査区南部で確認した東西溝跡で、南へ緩やかに湾曲する。2時期あり、B期が新しい。検出長は85.0mで、方向はE-8°-S-E-8°-Nである。東側でSX750南北道路跡(西4道路)西側溝に接続し、西側は同一遺構である多賀城市第17次調査L区のSD5453A・B、M区のSD11781B・CがSX400南北道路跡(西5道路)東側溝B・C期に接続する。これらを合わせた総長は、115.6mになる。

本溝は、北2a道路から北へ53~61mの地点で南北道路側溝に接続しており、台形状となる街区(北3西5区)を南北に分割している。さらに、その北半は本溝に接続する3条の南北溝(西からSD7836・7847・7162)で細分されている。

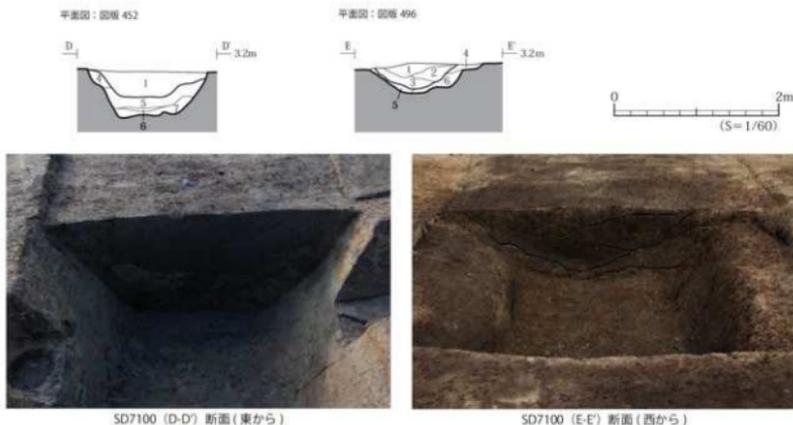
〔重複〕(古) SA7176・7621・7755・7756、SB7776・7941、SD461・7848、SI7255・7261・7811・7814・7815・7821、SX7124・7128

〔新〕 SB7295、SD7604、SK7719、SX7103

〔規模・堆積土〕A期が上幅1.1~2.4m、下幅0.4~1.1m、深さは0.4~0.6mである。B期は上幅1.0~2.4m、下幅0.3~0.6m、深さは0.3mほどである。断面形両時期とも逆台形である。堆積土はA期が地山砂を多く含む黄灰色などのシルト~細砂で人為堆積、B期は黄灰色などの粘土質シルト~粗砂で自然堆積である。

〔出土遺物〕(図版497・498)

堆積土から土師器環(2)・高環(3・4)・甕、須恵器環(5)・甕・鳥形硯(1)、丸瓦・平瓦、砥石、



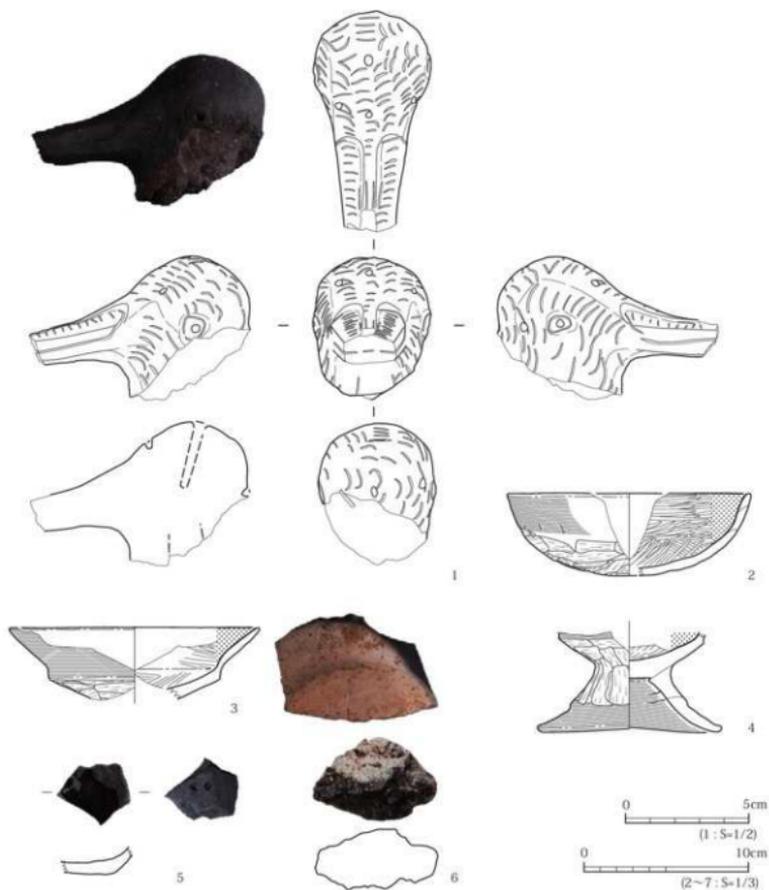
溝構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SD7100B	1	黄灰色 (2.5Y4/1)	粘土質シルト	炭化粒を含む	自然堆積土
	2	黄灰色 (10YR4/1)	砂質シルト	にぶい黄褐色 (10YR7/3) シルトを含む	
	3	黄褐色 (2.5Y3/1)	細砂~粗砂	炭化物を少し含む	
SD7100A	4	にぶい黄褐色 (2.5Y6/3)	砂質シルト	地山ブロックを少し含む	人為堆積土
	5	灰色 (5Y4/1)	シルト	灰白色 (5Y7/2) シルト・灰色 (5Y3/1) 細砂を含む	
	6	黄灰色 (2.5Y5/1)	細砂		
	7	黄灰色 (2.5Y3/1)	細砂	灰白色 (5Y7/2) シルトを多く含む	

図版495 SD7100区画溝跡



*紫色は新しい遺構
(L区の図別は図版435を参照)

図版496 L区平面図9



No.	品種	層位	図説	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	残存	分輪	備考	登録
1	須恵器・形象瓶	1層	外面：手持ちヘラケズリ→ナデ→竹管による斜毛の表現・ 底部に穿孔	—	—	—	一部	—	高形、高さ：(5.8cm) 長軸： (8.9cm) 短軸：(4.8cm)	3046
2	土師器・杯	1～3層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.6)	—	5.0	1/2	F	—	2201
3	土師器・高杯	1～3層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.0)	—	—	一部	B1	—	2202
4	土師器・高杯	4層	外面：[環] ヨコナデ→手持ちヘラケズリ [脚] ヨコナデ →手持ちヘラケズリ 内面：[環] ヘラミガキ→黒色処理	—	11.2	—	一部	A	—	2203
5	須恵器・杯	埋	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	—	—	—	一部	—	内面に漆付着、漆パレット	2204
6	漆片	埋	—	—	—	—	一部	—	長軸：7.8 短軸：3.3 厚さ：3.7mm	3048

図版497 SD7100区画溝跡出土遺物 1



図版498 SD7100区画溝跡出土遺物2

鉄滓（6）などが出土した。土師器甕はロクロ調整を含み、須恵器環は漆パレットに転用された。鳥形硯は頭部のみであるが、長い嘴を持つことから水鳥を表現したとみられ、羽毛が丁寧に表現されている。

【SD7262区画溝跡】（図版436・453・496・499）

調査区東部で確認した南北溝跡である。検出長は24.0mで、方向はN-26°-Wである。南端はSD7100区画溝に接続する。SD7100に接続する南北溝は、西からSD7836・7847・7262の3条あり、街区（北3西5区）北半を東西に細分している。

〔重複〕（古）SD7344、SF7358、SI7202・7808・7809・7813

（新）SK7125、SX7103

〔規模・堆積土〕上幅1.0～1.4m、下幅0.4～1.1m、深さ0.3mで、断面は椀形もしくは逆台形である。堆積土は、地山ブロックを含む黄褐色や黄橙色のシルトで人為堆積である。

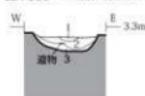
〔出土遺物〕（図版501）

堆積土から土師器環・高環・埴・甕、須恵器環・提瓶・長頸壺・壺・中甕（9）、丸瓦（8）などが出土した。土師器環には回転糸切りが含まれる。須恵器長頸壺や中甕には大戸産があり、丸瓦は多賀城第Ⅱ期のⅡB類で、凸面に刻印「伊」が認められる。

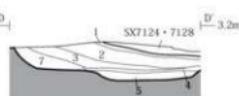
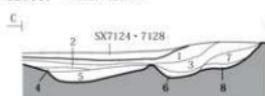
3. 溝跡

溝跡は27条確認した。すべての溝跡の属性は表47にまとめている。

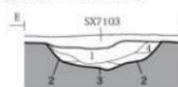
SD7095 平面図：図版 522



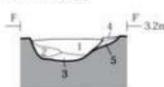
SD7117 平面図：図版 519



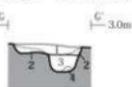
SD7262 平面図：図版 453



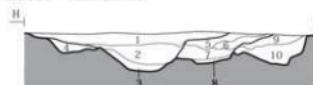
平面図：図版 496



SD7282 平面図：図版 452



SD7604 平面図：図版 466



平面図：図版 510



遺構名	層位	土色	土性	遺人物など	備考
SD7095	1	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山ブロックと炭化物を含む	人為堆積土
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	炭化粒を少し含む	自然堆積土
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山ブロックを多く含む。炭化物を含む	
SD7117	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	中に薄い砂層がある	自然堆積土(水成堆積)
	2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト質砂		
	3	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	砂		
	4	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト		自然堆積土(水成堆積)
	5	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト		
	6	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト		
	7	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト質砂		
	8	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	砂		自然堆積土(水成堆積)
SD7262	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化粒をわずかに含む	
	2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	炭化粒をわずかに含む。地山ブロックを少し含む	
	3	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	シルト質砂	地山ブロックを多く含む	人為堆積土
	4	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	炭化物をわずかに含む。地山ブロックを少し含む	
	5	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	シルト質砂	地山ブロックを多く含む	
SD7282	1	地灰色 (7.5 YR 4/1)	砂質シルト		自然堆積土
	2	地灰色 (10YR4/1)	砂質シルト	地山ブロック含む	
	3	黄灰色 (2.5Y5/1)	砂質シルト		下層 Pa 堆積土
	4	黄灰色 (2.5Y5/3)	細砂		
SD7604C	1	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	粘性強	自然堆積土
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	φ 30mmの細砂ブロックと炭化粒子をまばらに含む	人為堆積土
	3	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山シルトブロックと炭化粒子をまばらに含む	人為堆積土
SD7604B	4	黒褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト	炭化粒子・地山小ブロックをまばらに含む	
	5	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト	地山・灰黄色砂質シルトブロックを多く含む	人為堆積土
	6	黒褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト	粘性強く炭化粒をまばらに含む	
	7	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	6層との界面に薄い砂層が入る。炭化物を少し含む	自然堆積土(水成堆積)
	8	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	細砂粒の混入が多く粘性は弱い。炭化物をまばらに含む	人為堆積土
SD7604A	9	黒褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト	地山シルト大ブロックを含む	人為堆積土
	10	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	まめの殻が粘土層。粘性強	自然堆積土



SD7117 断面 (南東から)



SD7262 断面 (南から)

図版499 L区溝跡 1

SD7615 平面図：図版 586



SD7767 平面図：図版 455

SD7773・SD7774 平面図：図版 456

SD7842 平面図：図版 455



遺構名	層位	土色	土性	混入物など	備考
SD7615	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	黒褐色 (10YR3/1) を多く含む	自然堆積土
	2	灰黄色 (2.5Y7/3)	シルト	黒褐色 (10YR3/1) をブロック状に含む	
	3	灰黄色 (2.5Y7/3)	シルト	黒褐色 (10YR3/1) をブロック状に含む	
SD7767	1	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山ブロックを含む	自然堆積土
	2	暗褐色 (10YR4/1)	粘質シルト	灰白色粒をわずかに含む	
	3	灰黄色 (10YR4/2)	粘質シルト	暗褐色 (10YR4/1) 粘質シルトに地山ブロックを含む	
	4	黒褐色 (10YR3/1)	粘質シルト	粘性強	
	5	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	黒褐色 (10YR3/1) 粘質シルトに地山ブロックを含む	
SD7773	1	オリーブ黒色 (10Y3/1)	シルト	粗砂混じる。黒褐色 (10YR3/1) 粘質シルトに地山ブロックを含む	自然堆積土
	2	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	砂質粘土	地山ブロックを含む。炭化物含む	
	3	暗褐色 (10YR3/3)	砂		
	4	暗褐色 (10YR2/3)	砂		
	5	暗褐色 (10YR3/3)	砂		
SD7774	6	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂		崩壊土
	7	暗褐色 (10YR3/3)	粘土	地山ブロックを多く含む	
SD7842	1	暗褐色 (10YR3/3)	粘質シルト	灰白色火山灰 (2次堆積) を含む	崩壊土
	2	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山ブロックを含む	



SD7615 断面 (南から)



SD7767 断面 (東から)

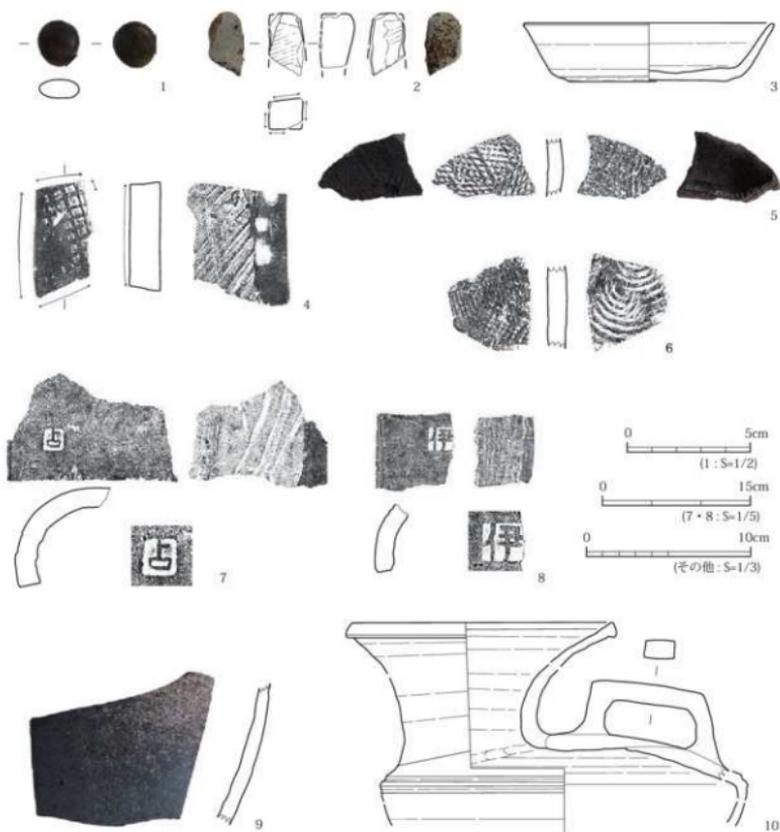


SD7773・7774 断面 (南から)



SD7842 断面 (南から)

図版500 L区溝跡2



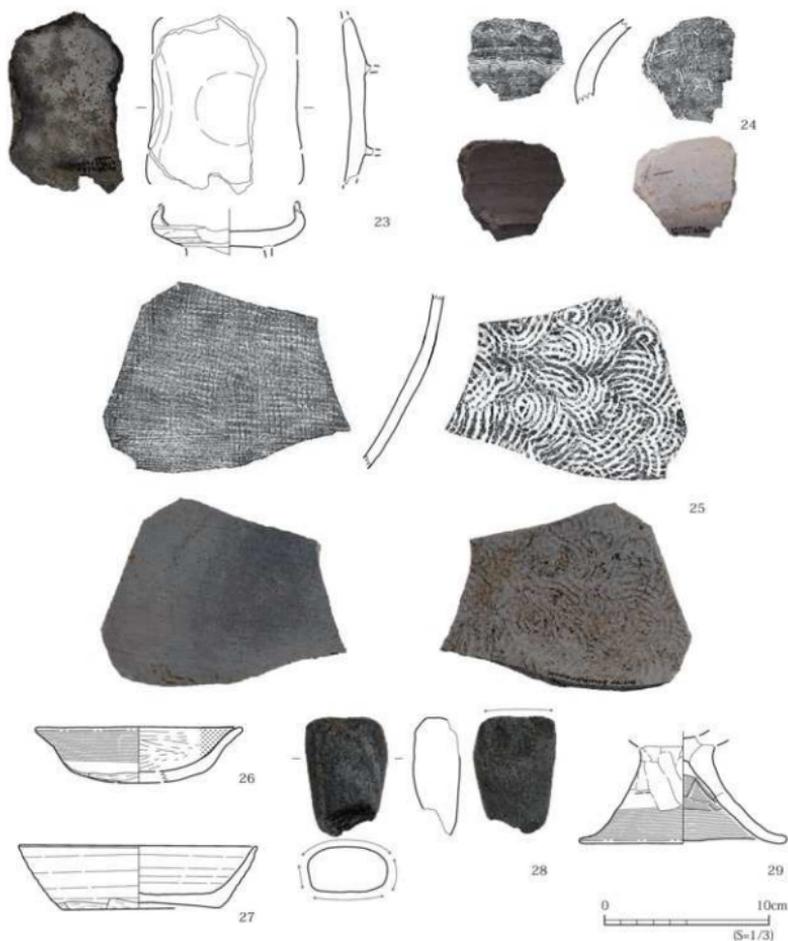
No.	器種	遺構番号	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	量値
1	石製品・鉄石	SD7095	埋		-	-	-	完群	重さ: 4.0 g	2199
2	石製品	SD7095	埋		-	-	-	1/2	重さ: 21.0 g	2200
3	須恵器・灰	SD7117	5層	内外面: ロクロナデ 底部: 切離し不明→凹坑ヘラケズリ	(15.0)	9.6	3.6	1/2	鏡沢灰産	1945
4	瓦・転用瓦	SD7117	確認層	格子タタキ目 軸巻き作り	-	-	-	一部	多賀城分庫: 平瓦1C類を転用	1947
5	須恵器・灰	SD7117	5・6層	外面: 平行タタキ 内面: 同心円状アテ具	-	-	-	一部		1944
6	須恵器・灰	SD7117	5・6層	外面: 平行タタキ 内面: 同心円状アテ具	-	-	-	一部		1943
7	瓦・丸瓦	SD7117	2層	凸部: 軸明き目→ロクロナデ 凹部: 布目 断面: ヘラケズリ 軸巻き作り	-	-	-	一部	多賀城分庫: 丸瓦B類, 凸面に 朝田「占」	1946
8	瓦・丸瓦	SD7262	1層	凸部: タタキ目不明→ロクロナデ 凹部: 布目 断面: 手持ちヘラケズリ	-	-	-	一部	多賀城分庫: 丸瓦B類, 凸面に 朝田「伊」	2219
9	須恵器・中灰	SD7262	1層	外面: 平行タタキ→ロクロナデ→凹坑ヘラケズリ 内面: ロクロナデ	-	-	-	一部	大口産	2218
10	須恵器・平瓦	SD7344	1層	外面: ロクロナデ→凹坑産→凹部融合→ナデ(equal) 手持ちヘラケズリ 内面: ロクロナデ→凹坑産→凹部ナデ	(15.8)	-	-	1/2	胎土に海綿骨針を多量に含む	2221

図版501 L区溝跡出土遺物 1



No.	器種	遺構番号	層位	図説	口径 (cm)	直径 (cm)	器高 (cm)	残存	備考	登録
11	土師器・杯	SD7604		外面：ヨコナデ・ハマツ 内面：ヘラミ穿キ→黒色処理				一部		2206
12	須恵器・円面碗	SD7604		内外面：ロクロナデ→円筒スカシ	(13.0)	—	—	一部	外面にヘラ書き「□」	2211
13	三彩・碗	SD7604		外面：ロクロナデ・露筋 内面：黄色釉や厚くかかる 底面：回転ヘラケズリ・三叉トシ筋あり・平底行	—	4.1	—	一部	奈良二彩	2216
14	ロクロかわらけ・小皿	SD7604	埋	外面：ロクロナデ→一部ナデ 内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り→ナデ	(8.0)	(5.8)	2.0	1/3		3054
15	須恵器・碗	SD7604		外面：薄く釉がかかる 内面：洗線	—	—	—	一部		2209
16	須恵器・高杯	SD7604	埋	外面：ロクロナデ→洗線 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	長脚2段3窟スカシ	3056
17	須恵器・壺	SD7604	埋	内面：ナデ	—	—	—	一部	須津産。外面：自然釉	3053
18	須恵器・磨研碗	SD7604	埋	内外面：ロクロナデ→磨輪	—	—	—	一部	大塚和鳴産 (18世紀)	3051
19	須恵器・大鉢	SD7604	埋	内外面：ロクロナデ→磨輪	—	—	—	一部	唐津産 (17世紀後半)	3050
20	須恵器・碗	SD7604	埋	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→削り出し高台 内面：磨輪・内面転自輪削ぎ	—	4.4	—	一部	近世	3052
21	石製品・磨製石斧	SD7604			—	—	—	—	重さ：1300 g	2213
22	石製品・鏃	SD7604			—	—	—	—	重さ：406.0 g	2212

図版502 L区溝跡出土遺物 2



No.	器種	遺物番号	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録	
Z3	灰輪陶器・耳皿	SD7615	確認層	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ→マメツ 内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り→高台船付→ツナデ	-	-	-	1/2	中濃色。丸台2号型式形。底面にヘラ書き「一」。内面：自然釉	3065	
24	須恵器・甕	SD7615	Ⅲ	外面：櫛目状文 内面：ロクロナデ	-	-	-	-	内面にヘラ書き「□」。粘土に海陸骨針を微量含む	3064	
25	須恵器・甕	SD7773	1層	外面：平行タキキ→カキメ 内面：同心円状アテ具	-	-	-	-	一部	3106	
26	土師器・杯	SD7773	1層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(12.4)	-	3.3	1/3		3105	
27	須恵器・杯	SD7767	確認層	内外面：ロクロナデ 底面：静止糸切り→手持ちヘラケズリ	14.3	9.5	4.0	2/3		3104	
28	石製品・磨石	SD7767	1+2層		-	-	-	-	重さ：156.0 g	3103	
29	土師器・高杯	SD7847		内面：[環]ヘラミガキ→黒色処理 [脚]ヨコナデ→ヘラナデ 外面：[脚]ヨコナデ→ナデ	-	12.6	-	-	一部		3101

図版503 L区溝跡出土遺物3



図版504 L区溝跡出土遺物 4

4. 掘立柱建物跡・掘立柱崩跡

掘立柱建物跡を69棟、掘立柱崩跡を2条確認した。以下、全体を確認し、柱穴の断割り調査を行った39棟について説明する。すべての建物跡や崩跡の属性は表48・49にまとめている。

【SB7822 掘立柱建物跡】(図版456・505)

調査区西部北側で確認した桁行2間・梁行1間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SA7784、SD7840

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から2.0m・1.9mで、総長は3.9mである。

梁行は、北妻でみると3.1mである。方向は、西側柱列で測るとN-15°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形で、南西隅柱には抜取穴が認められる。

〔柱穴〕一辺0.7～1.0mの隅丸方形で、深さは0.3mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕・ミニチュア土器、須恵器甕が出土した。

【SB7928 掘立柱建物跡】(図版466・505)

調査区中央部で確認した桁行1間・梁行1間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古) SB7957、SI7863 (新) SD7604

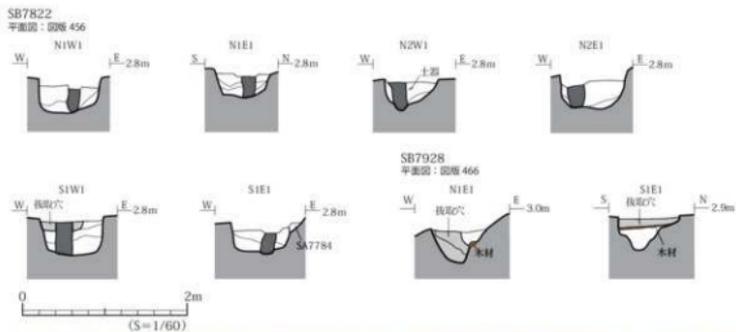
遺構名	調査	積出長 (m)	断面形	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	方向	地層土	新旧関係	出土遺物		数量	
										平面	断面	平面	断面
SD461	断面	43.6	レンズ形	2.8～3.2	1.2～1.5	0.6	N-16°-W	自然堆積土	SK7124・7128→SD461→ SK750・SD7100・ SK7144・7300・ SK7139・7425→SK7103 →SF7277	[埋] 土師器環・小型杯・高杯・蓋・壺・ 甕・甗・小型甕・大型甕・壺・小型 広口壺・壺・甗・ヒコノ子土器・ 須恵器環・高台杯・双耳杯・小型杯・陶 輪・甕・壺・甗・長頸甕・短頸甕・ 中甕・甕・蓋・壺・甗・円盤・丸用瓦 ・長頸陶器土師壺(空投形)・右製品陶 石・軒瓦瓦・軒平瓦・平瓦・木製品 類行	452・ 453・ 519・ 521	436・ 482	
SD2021	断面	10.7	逆台形	2.4～2.8	0.9	0.4	N-17°-N	自然堆積土	SD7437→SD7439-7439→ SD2021→SD7286		517	—	
SD2561	断面	16.2	浅い面形	5.5	1.8～2.3	0.3	N-8°-W	自然堆積土	SD7881→SD2561→ SK2651		455・ 472	470	
SD7095	完測	17.1	レンズ形	0.6～0.8	0.3～0.6	0.2	N-2°-12°- W	自然堆積土 人海埋積土	SD7093→SK7093→ SD7095	土師器回転車切形・ロケ口甕(破)・ 須恵器環・高台杯・甕(破)・右製品 陶石・丸瓦(破)	522	499	
SD7096	完測	15.6	レンズ形	0.7～0.9	0.4～0.6	0.2	N-12°-E	自然堆積土	SD7440・SK7189・ 7320・SK7272→SD7096 →SD7096		522	—	
SD7100A・ B	断面	85.0	逆台形	A:1.1～ 2.4,B:1.0 ～2.4	A:0.4～ 1.1,B:0.3 ～0.6	A:0.4～ 0.6,B:0.3	E-8°-5° ～E-8°-N	人海埋積土 自然堆積土	SK7124・7128→ SK7176・7021・7755・ 7567・SD7255・7261・ 7811・7814・7815・ 7821・SK7776・7941・ SD461・7846→SD7100AB →SK7295・SD7004・ SK7719・SD7100AB→ SK7103	[埋] 土師器加段丸底杯・高杯行(破)・ 杯・高杯・ロケ口甕(破)・須恵器環 (漆付形)・鳥取甕・甕(破)・右製品 陶石・丸瓦・軒平瓦(破)・陶片	452・ 477・ 496・ 510・ 513・ 521	495	
SD7117	完測	16.3	レンズ形	2.0～2.6	1.3～2.0	0.5	E-11°-5° ～N-2°-E	自然堆積土	SD2050B→SD7117→ SK7124・7128→ SD7100→SK730	土師器非ロケ口杯・高杯・甕(破)・ 須恵器壺・甗(破)・短頸ハケ式口杯・ 丸瓦(多質類非期形)・占・丸用瓦 破(平瓦)C類陶石・陶片	519・ 521	499	
SD7260	完測	19.2	箱形	0.5～0.8	0.4～0.5	0.2	E-12°-N	自然堆積土	SK7261・7811・7289→ SD7295		496・ 513	—	
SD7262	断面	24.0	箱形→逆 台形	1.0～1.4	0.4～1.1	0.3	N-26°-W	人海埋積土	SD7202・7808・7809・ 7813・SD7314→SK7308 →SD7262→SK7125→ SK7103	[埋] 土師器回転車切形(破)・壺・ 高杯(破)・ロケ口甕(破)・須恵器環 ・陶石(人瓦)・壺(破)・小甕(人瓦) ・甕・壺・甗(破)・右製品陶石・平 瓦(非B類[多質類非期形]伊ノ) 丸瓦(破)	453・ 496	436・ 499	
SD7279	確認	2.8	—	0.6	—	—	E-8°-5°	—	SK7192→SD7279	土師器壺・甕(破)・須恵器壺(破)	521	—	
SD7282	完測	3.5	逆台形	1.1	1.0	0.1	N-4°-E	自然堆積土	SD7174→SD7282→ SD7172	土師器穿孔鉢形壺・杯(破)・甕(破)・ 右製品陶器片切石(破)	452	499	
SD7344	断面	3.0	箱形→逆 台形	0.9～1.3	0.4～1.1	0.3	E-29°-N～ N-26°-W	自然堆積土	SK7124・7128→SD7344 →SK7291・SD7292	[埋] 土師器非ロケ口杯(破)・非ロケ 口壺(破)・非ロケ口甕(破)・須 恵器壺・甕・甗(破)・壺(破)・クマ 骨	453	—	
SD7604A ・B・C	完測	44.7	箱形→逆 台形	A:4.3 B:2.6 C:2.5	A:3.6 B:1.9 C:1.4	A:0.4 B:0.4 C:0.5	N-9°-W ～N-13°-E	自然堆積土 人海埋積土	SD7327・7821・7863・ 7865・7868・7873・ 982283・7307・7454・ 7776・7927・7928・ 7930・7941・7942・ 7943・7950・7953・ 7955・SK7513・ SD7100・SK7946→ SD7604ABC	土師器環・甕(破)・壺(破)・須 恵器高杯・甕(破)・壺(破)・円形甕・ 多口甕・長頸陶器壺・首付磁罎・ 奈良三耳甕・須恵器陶器・須恵器陶 器丸瓦・丸瓦(多質類非期形)・陶石 陶器碗・かわらけ小皿・右製品陶石・ 磨製石斧・破石・丸瓦・平瓦(破)・ 瓦口・瓦筒(破)	466・ 510・ 512	499	
SD7612	確認	16.9	—	0.7～1.0	—	—	N-W-W	—	SD7612→SD7609・ 7760		507・ 586	—	
SD7613	確認	15.7	—	0.5～0.7	—	—	E-29°-N	—	SD7613→SD7648→ SD7847・SD7613→ SD7786→SD7787・ SD7613→SD7615		466・ 586	—	
SD7615	断面	23.3	箱形	0.9～1.0	0.7～1.0	0.2～ 0.25	N-2°-W	自然堆積土	SD7613・7823・7773・ SD7803・SA781→ SD7615		586	500	
SD7620	確認	6.6	—	0.6～0.7	—	—	E-10°-N～ N-5°-W	—	SD7871→SD7626→ SD7848		507	—	
SD7767	断面	28.1	逆台形	0.6～1.8	0.6～0.8	0.4	E-1°-S～ N-38°-W	人海埋積土 自然堆積土 人海埋積土	SD7766→SD7773・ 7774・SA784・SF7802 →SD7767→SD7830・ 7842・7847		455・ 456	500	

表47-1 L区溝跡属性表1

遺構名	調査	検出長 (m)	断面形	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	方向	堆積土	前日関係	出土遺物		
										平均	数量	
SD7773	断削	16.6	矩形	0.8	0.6	0.25	N-38°-E → N-18°-E	自然堆積土 → 人為堆積土	SD7795 → SD7773 → SD7774・7615・7779・ SF7803	土師器有段丸底杯・甕(甕)、須恵器 甕・埴(甕)	456・ 586	500
SD7774	断削	6.4	楔形→ 矩形	0.6~0.8	0.3~0.4	0.1~0.3	N-10°-E → N-13°-W	人為堆積土	SD7773 → SD7774 → SD7767	土師器坪(甕)・甕(甕)、須恵器甕(甕)・ 埴(甕)	456	500
SD7778	確認	2.3	—	0.4	—	—	N-3°-E	—	SD7784 → SD7778	土師器坪(甕)・甕(甕)	456	—
SD7779	確認	9.4	—	0.7~0.9	—	—	E-7°-N → E-6°-S	—	SD7795 → SD7773 → SD7779 → SD7836	土師器坪(甕)・甕(甕)	586	—
SD7785	断削	8.3	矩形	0.2	0.1	0.1	E-3°-N	自然堆積土	SD7888 → SK7777 → SD7785 → SD7773・7847	土師器甕(甕)	456	—
SD7786	確認	13.9	—	0.1~ 0.5*	—	—	N-2°-E → N-19°-W	—	SD7613 → SD7780 → SD7787	土師器甕(甕)	586	—
SD7787	確認	14.3	—	0.6	—	—	N-2°-E → N-19°-W	—	SD7799 → SD7787 → * A7781	土師器坪(甕)・高坪(甕)・甕(甕)・ ミニチュア坪(甕)・ミニチュア高坪(甕)	477・ 586	—
SD7795	完整	2.6	—	0.5*	—	—	E-1°-S	—	SD7795 → SD7773 → SD7779	土師器甕(甕)	586	—
SD7799	確認	2.3	—	0.8	—	—	E-4°-N	—	SD7799 → SD7787	—	586	—
SD7806	確認	4.8	矩形	0.4	0.2	0.15	N-35°-E → N-30°-E	自然堆積土	SD7823 → SD7906 → SA7838 → SD7836	土師器甕(甕)・甕(甕)	457	—
SD7823	確認	17.0	—	0.7~1.5	—	—	N-30°-E → N-5°-E	—	SD7823 → SA7781 → 7838 → SD7615・7806・ 7830・穿7803	土師器甕(甕)	457・ 586	—
SD7836 ・B	確認	31.9	逆台形	A:0.6・ B:1.0~ 1.5	A:0.4 B:0.4~ 0.6	0.6	N-12°-W	自然堆積土	SD7767・7779・7806・ 7823・7844・7845・ 7881・SA7781・7784・ 7830 → SD7836AB	[溝] 土師器高段(転車)切取皿・有段 丸底杯(朝唐(由))・同転車切取(甕)・ ロウ口甕(甕)、須恵器同転車切取(甕) 甕(口)、同転車切取(甕)・ 甕(甕)、赤土師器坪、白磁器石、 平瓦(多数城目形・朝日「物」・丸 瓦(甕)、当南	455・ 457	474
SD7842	完整	5.6	箱形	0.9	0.4	0.3	N-12°-W	自然堆積土 → 人為堆積土	SD7767 → SD7842	土師器坪(甕)・甕(甕)、須恵器埴 器(甕)・坪(甕)	455	479・ 500
SD7844	断削	20.2	浅い矩形	1.3*	0.8*	0.3	N-33°-E	人為堆積土	SD7844 → SD7845 → SD7836・SD7844 → SA7838・7839・ SD7842・7940	[溝] 土師器坪(甕)・甕(甕)・ミニ チュア逆形、須恵器甕	457	479
SD7845	断削	20.5	U字形	0.7~1.3	0.3~0.4	0.4	N-33°-E	人為堆積土	SD7844・7881 → SD7845 → SD7836・SD7845 → SA7838・7839 → SD7940	[溝] 土師器高坪・ミニチュア鉢形・ 有段丸底杯・甕(甕)、須恵器坪・甕 (甕)、土製品鉛線串	455・ 457	479
SD7847	断削	44.5	矩形	1.0	0.6	0.1	N-4°-W	人為堆積土	SD7766 → SB7659・ 7660・7660・7930・ 7948 → SA7781・ SD7613 → 7767・7785・ 7848 → SK7945 → SD7847 → SB7832・SK7622	[溝] 土師器同転車切取手持ちヘラケ ズリ坪(甕)・高坪・甕(甕)、須恵 器坪(甕)・甕・甕(甕)、甕(甕)・ 平瓦(甕)	456・ 466・ 477・ 507	476
SD7848 (北側)	断削	12.8	矩形	3.3	3.1	0.3	N-18°-W	自然堆積土	SD7848 → SD7787 → SA7781 → SD7847 → SD7848 → SD7775・ SK7993	[溝] 土師器坪(甕)・小型甕・大型甕・ 甕(甕)、須恵器甕(甕)	456・ 466	476
SD7848 (南側)	確認	19.5	—	2.3~2.7	—	—	N-7°-W	—	SD7872 → SD7871 → SD7620 → SD7848 → SB7763・SD7848 → SB7764 → SB7926・ SD7100	—	507・ 510	—
SD7881	断削	20.0	浅い矩形	0.8*	0.4*	0.3*	N-32°-E → N-41°-E	人為堆積土	SD7844・7881 → SD7845 → SD7836・SD7881 → SA7838・7839 → SD7940	[溝] 土師器坪(甕)・甕(甕)、石製 品磁石	455	479
SD7888	確認	3.4	逆台形	0.5	0.4	0.3	E-7°-N	自然堆積土	SD7888 → SK7777 → SD7785	土師器甕(甕)	456	—
SD7940	断削	17.8	楔形→ 逆台形	0.9~1.1	0.5~0.8	0.4	N-5°-W	自然堆積土	SD7881・7844 → SD7845 → SD7940	[溝] 土師器甕・甕(甕)、須恵器甕(甕)・ 石製品磁石	455・ 457	471

・規模が不明なものは、数量に「を」加している
・(出土遺物) [溝]: 遺構確認面出土、[溝]: 堆積土出土。(甕): 破片資料

表47-2 L区溝跡属性表2



SB7822-N1W1 断面 (南から)



SB7928-S1E1 断面 (東から)



SB7822 検出状況 (南から)

図版505 SB7822・7928掘立柱建物跡

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると3.0m、梁行は西妻でみると2.8mである。方向は、南側柱列で測るとE-1°-Nである。

〔柱痕跡〕柱はすべて抜き取られているが、直径0.2mほどの円形とみられる。

〔柱穴〕径0.6～0.7mの円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを多く含む暗灰黄色などのシルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB7659掘立柱建物跡】(図版506～508)

調査区中央部で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟総柱建物跡である。すべての柱抜取穴で焼土ブロックが多く認められることから、焼失後に取り壊されたと考えられる。

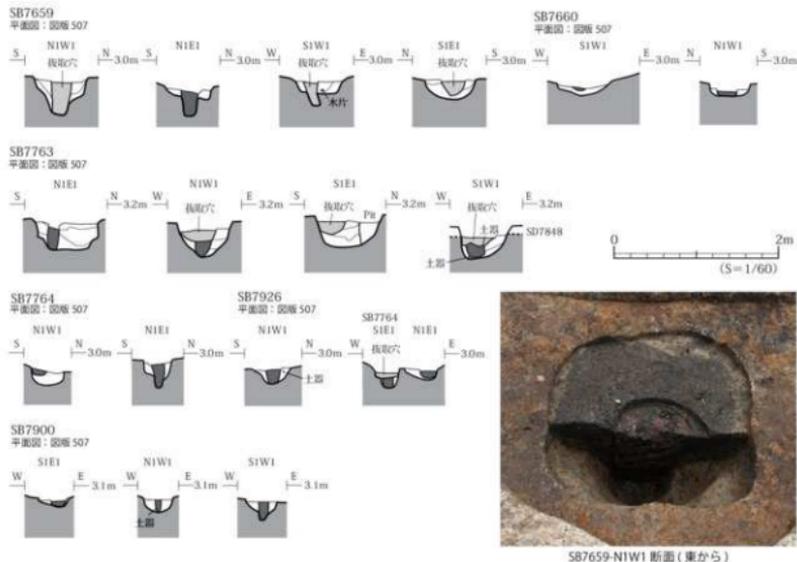
〔重複〕(古)SD7612 (新)SD7847

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から1.5m・3.2m(2間分)で、総長は4.7mである。梁行は、北妻でみると西から1.7m・1.9mで、総長は3.6mである。方向は、東側柱列で測るとN-8°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形で、すべて抜き取られている。

〔柱穴〕一辺0.5～0.8mの方形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器杯・甕、須恵器杯・甕が出土した。須恵器杯はヘラ切りである



図版506 SB7659・7660・7763・7764・7900・7926掘立柱建物跡

【SB7660 掘立柱建物跡】 (図版 506～508)

調査区中央部で確認した東西・南北とも 2 間の総柱建物跡である。

〔重複〕(古) SB7947・7948、SD7612 (新) SD7847

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、東西・南北とも 2.0m 等間で、総長は 4.0m である。方向は、西側柱列で測ると $N-1^{\circ}-W$ である。

〔柱痕跡〕直径 0.2m ほどの円形である。

〔柱穴〕一辺 0.5～0.7m の方形で、深さは 0.1m である。掘方埋土は、地山ブロックを多く含む黒褐色のシルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕、須恵器環が出土している。須恵器環は切離しが不明で回転ヘラケズリ調整である。

【SB7763 掘立柱建物跡】 (図版 506・507)

調査区中央部で確認した桁行 3 間・梁行 2 間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SA7621、SD7848、SI7870・7871・7872

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると、北から 2.2m・2.0m・2.2m で、総長は 6.4m とみられる。梁行は南妻でみると西から 2.2m・2.0m で、総長は 4.2m とみられる。方向は、西側柱列で測ると $N-5^{\circ}-E$ である。

〔柱痕跡〕柱採取穴の底面で直径 0.2m 前後の柱痕跡を確認した。一部の柱穴では柱材の下部が残存していた。

〔柱穴〕一辺 0.5～0.8m の隅丸方形で、深さは 0.4m である。掘方埋土は、地山ブロックを多く含む暗褐色などのシルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕、須恵器甕、瓦、管玉が出土した。

【SB7764 掘立柱建物跡】 (図版 506・507)

調査区中央部で確認した桁行 2 間・梁行 2 間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古) SD7848 (新) SB7926

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から 1.2m 等間で、総長は 2.4m である。梁行は西妻でみると北から 1.1m 等間で、総長は 2.2m である。方向は、西妻で測ると真北を向く。

〔柱痕跡〕直径 0.2m ほどの円形で、南東隅柱には採取穴が認められる。

〔柱穴〕径 0.4～0.6m の隅丸方形や楕円形で、深さは 0.3m である。掘方埋土は、地山ブロックや炭化物を多く含む褐灰色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕が出土した。

【SB7900 掘立柱建物跡】 (図版 506・507)

調査区中央部で確認した桁行 3 間、梁行は西妻で 2 間、東妻で 3 間の東西棟建物跡である。本建物は梁間が東西で異なり、東妻が 3 間であることから妻入りと考えられる。

〔重複〕(古) SI7864

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から 1.5m・1.6m・1.6m で、総長は 4.7m



SB7659・7660 建物跡 (南から)



L区西部全景 (南から)

図版508 L区西部の建物跡

である。梁行は西妻でみると北から1.3m・1.9mで、総長は3.2mである。方向は、南側柱列でみるとE-2°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.1m前後の円形である。

〔柱穴〕径0.3～0.4m円形や楕円形で、深さは0.2mである。掘方埋土は、地山ブロックを多く含む褐灰色シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB7926掘立柱建物跡】(図版506・507)

調査区中央部で確認した桁行5間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SB7764、SD7620・7848

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から1.1m・0.8m・1.5m・1.0m・1.1mで、総長は5.5mである。梁行は、北妻でみると西から1.2m・1.5mで、総長は2.7mである。方向は、西側柱列で測るとN-3°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.1～0.2mの円形である。

〔柱穴〕径0.3～0.7m円形や楕円形で、深さは0.1mである。掘方埋土は、地山ブロックを多く含む褐灰色シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB7760掘立柱建物跡】(図版509・510)

調査区中央部南側で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SB7942、SI7870・7871・7872

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から1.7m・1.8m・1.7mで、総長は5.2mである。梁行は、南妻でみると西から1.9m・2.1mで、総長は4.0mである。方向は、西側柱列で測ると真北を向く。

〔柱痕跡〕柱抜取穴の底面で、直径0.2mの柱痕跡を確認した。

〔柱穴〕一辺もしくは径が0.4～0.6mの隅丸方形や楕円形で、深さは0.5mである。掘方埋土は、地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕柱痕跡から土師器甕、掘方埋土から土師器杯・甕が出土した。

【SB7776掘立柱建物跡】(図版509・510)

調査区中央部南側で確認した桁行5間・梁行3間の東西棟建物跡と考えられる。

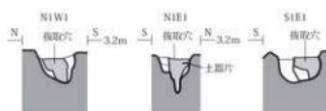
〔重複〕(古) SI7873 (新) SD7100・7604

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると、西から2.0m・1.3m・1.2m・1.6m・1.9mで、総長は8.0mである。梁行は、西妻でみると北から2.9m(2間分)・1.7mで、総長は4.6mとみられる。方向は、南側柱列で測るとE-5°-Sである。

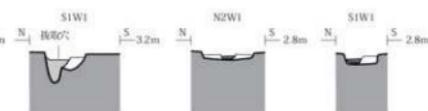
〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕一辺0.4～0.6mの隅丸方形で、深さは0.2mである。掘方埋土は、地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。

SB7760 平面図：図版510



SB7776 平面図：図版510



SB7760 - NIW1 断面 (西から)



SB7776 - NZW1 断面 (西から)

図版509 SB7760・7776掘立柱建物跡

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕、須恵器環が出土した。

〔SB7251 掘立柱建物跡〕 (図版511・512・513)

調査区中央部で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SI7223・7224・7254・7327

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から2.0m・1.7m・2.0mで、総長は5.7mである。梁行は、南妻でみると西から1.9m・2.3mで、総長は4.2mである。方向は、東側柱列で測るとN-5°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.1～0.2mの円形である。

〔柱穴〕一辺0.4～0.7mの隅丸方形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを多く含む黒褐色などのシルトである。

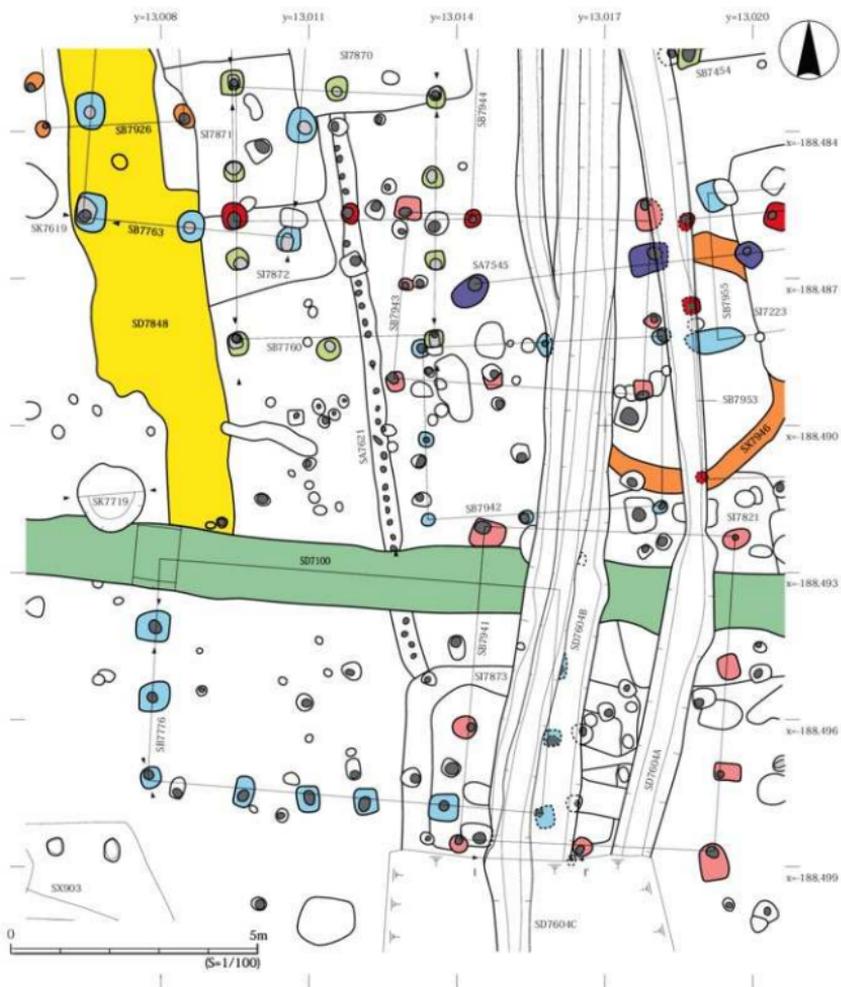
〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕、須恵器環・甕、丸瓦が出土した。

〔SB7283 掘立柱建物跡〕 (図版511・512)

調査区中央部で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡で、南側のSB7757とは東側柱列を揃える。

〔重複〕(古) SI7219 (新) SB7951、SD7604

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から2.6m・2.6m・2.7mで、総長は7.9m



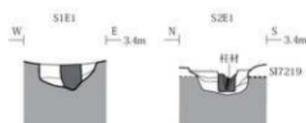
図版510 L区平面図11

(L区の図例は図版435を参照)

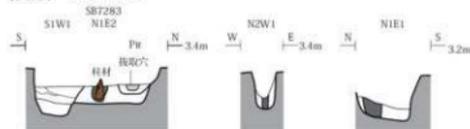
SB7251 図版：平面図 512・513



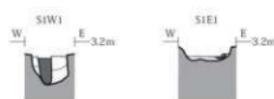
SB7283 図版：平面図 512



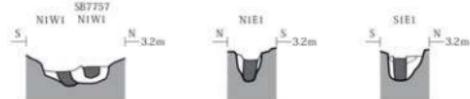
SB7951 図版：平面図 512



SB7757 図版：平面図 512



SB7454 図版：平面図 512



SB7932 図版：平面図 466・512



SB7927 図版：平面図 512



図版511 SB7251・7283・7454・7757・7927・7932・7951掘立柱建物跡断面図

である。梁行は、南表でみると西から2.4m・2.7mで、総長は5.1mである。方向は、東側柱列で測るとN-5°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形で、南東隅柱から北に1間目と、北東隅柱から西へ1間目の柱穴には柱材が残存していた。

〔柱穴〕一辺0.6～0.8mの隅丸方形で、深さは0.3m前後である。掘方埋土は、地山ブロックを多く含む褐色砂質シルトなどである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・壺・甕、須恵器環・甕が出土した。

【SB7454掘立柱建物跡】(図版511・512)

調査区中央部で確認した桁行4間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SE7758、SI7254・7327 (新) SB7757

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から1.6m・1.2m・1.4m・1.8mで、総長は6.0mである。梁行が北表でみると西から2.1m・2.3mで、総長は4.4mである。方向は、東側柱列で測るとN-4°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.2mの円形である。

〔柱穴〕一辺0.4～0.5mの隅丸方形で、深さは0.4m前後である。掘方埋土は、地山ブロックを含む

暗褐色のシルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕が出土した。

【SB7757 掘立柱建物跡】(図版511・512)

調査区中央部で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡で、北側のSB7283とは東側柱列を揃える。また、桁行の中央間が脇間に較べて広いことから、平入りの建物と考えられる。

〔重複〕(古) SB7454、SE7758、SI7254・7327

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると、北から1.7m・2.7m・1.8mで、総長は6.2mである。梁行は、南妻でみると西から2.0m・2.2mで、総長は4.2mである。方向は、東側柱列で測るとN-5°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。

〔柱穴〕一辺0.4～0.6mの隅丸方形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕が出土した。

【SB7927 掘立柱建物跡】(図版511・512)

調査区中央部で確認した桁行4間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SB7367・7932、SI7219・7865・7868 (新) SD7604

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から1.9m・1.8m・1.9m・1.8mで、総長は7.4mとみられる。梁行は、北妻でみると西から2.5m・1.9mで、総長は4.4mとみられる。方向は、東側柱列で測るとN-2°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕長径0.4～0.6mの楕円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB7932 掘立柱建物跡】(図版466・511・512)

調査区中央部で確認した桁行2間・梁行1間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古) SI7219・7221 (新) SB7927、SD7604

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から2.1m・2.8mで、総長が4.9mとみられる。梁行は東妻で4.2mである。方向は、南側柱列で測るとE-7°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。

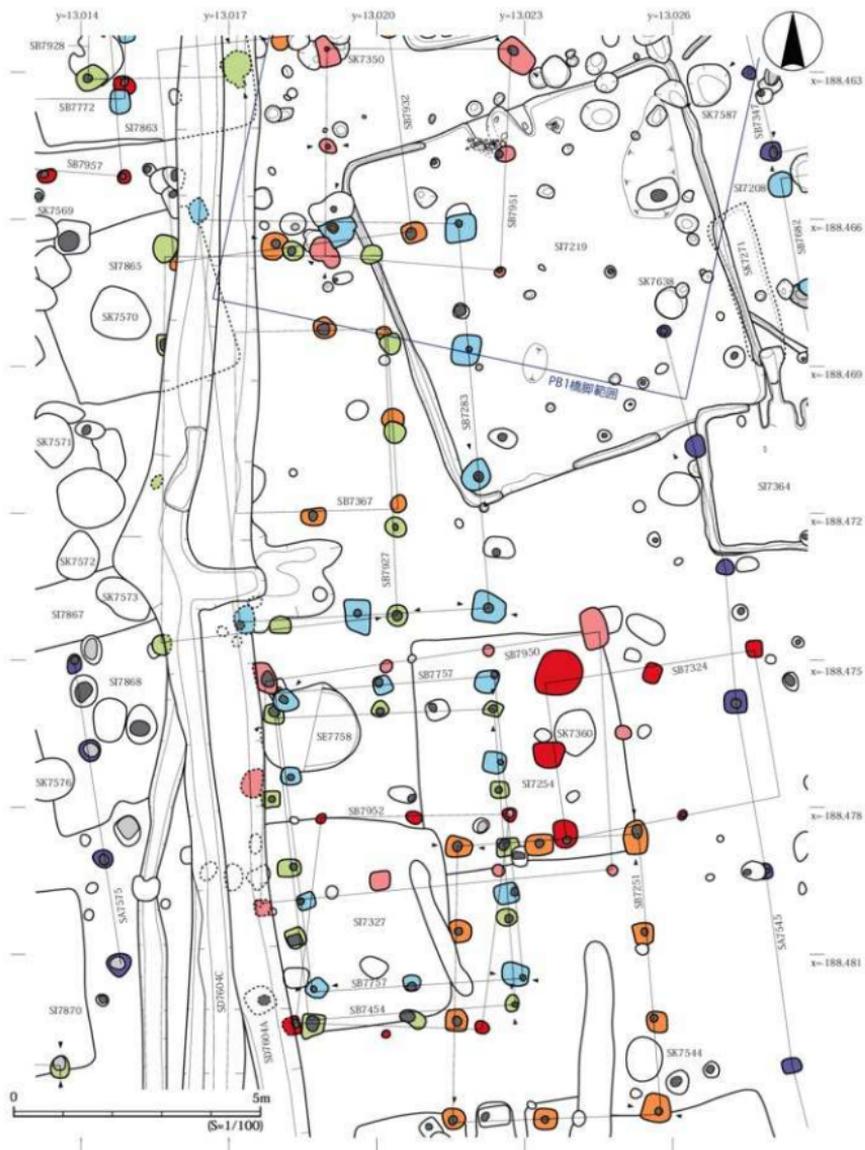
〔柱穴〕長軸0.4～0.7mの隅丸方形や楕円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む褐色シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB7951 掘立柱建物跡】(図版511・512)

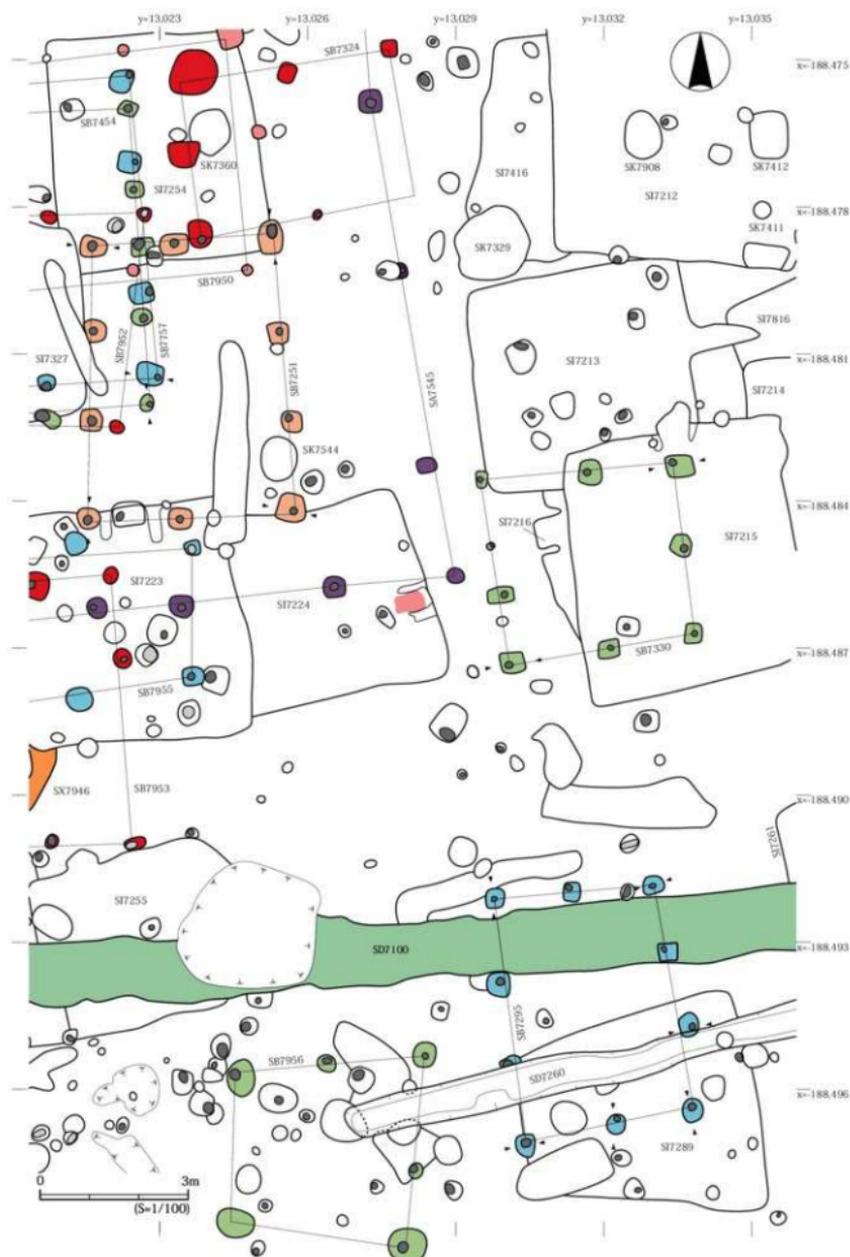
調査区中央部で確認した桁行2間・梁行1間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SB7283、SI7219、SK7350



(L区の図別は図版 435 を参照)

図版512 L区平面図12



図版513 L区平面図13 (L区の図割は図版435を参照)

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から4.5m（2間分）である。梁行は北妻でみると3.7mである。方向は、東側柱列で測るとN-4°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕長軸が0.2～0.8mの楕円形・隅丸方形で、深さは0.6mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む暗褐色粘土質シルトなどである。

〔出土遺物〕なし。

【SB7295 掘立柱建物跡】（図版513・514）

調査区中央部で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕（古）SI7289、SD7100（新）SD7260

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から1.7m・1.7m・1.6mで、総長は5.0mである。梁行は、北妻でみると1.6m等間で、総長は3.2mである。方向は、西側柱列で測るとN-7°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.1～0.2mの円形である。

〔柱穴〕一辺0.4～0.5m隅丸方形で、深さは0.3mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む褐色砂質シルトである。

〔出土遺物〕柱痕跡から土師器甕が出土した。

【SB7330 掘立柱建物跡】（図版513・514）

調査区中央部で確認した桁行2間、梁行は西妻で3間、東妻で2間の東西棟建物跡である。本建物は梁間が東西で異なり、西妻が3間であることから妻入りと考えられる。

〔重複〕（古）SI7213・7215

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列で西から2.1m・1.8mで、総長は3.9mである。梁行は、西妻でみると北から1.9m・1.0m・1.9mで、総長は3.8mである。方向は、西妻で測るとN-9°-Wである。

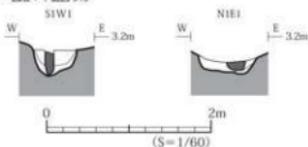
〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕一辺0.3～0.6m隅丸方形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを含む褐色砂

SB7295 図版：平面図 513



SB7330 図版：平面図 513



SB7295-N1W1 断面（西から）

図版514 SB7295・7330掘立柱建物跡

質シルトである。

〔出土遺物〕 掘方埋土から土師器裏が出土した。

【SB7347 掘立柱建物跡】(図版515・516)

調査区中央部北側で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SI7208 (新) SK7679

〔柱間寸法・方向〕 柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から1.9m・1.5m・1.8mで、総長は5.2mとみられる。梁行は、南妻でみると西から1.6m・2.2mで、総長は3.8mである。方向は、東側柱列で測るとN-13°-Wである。

〔柱痕跡〕 直径0.2～0.3mの円形である。

〔柱穴〕 長軸0.3～0.5mの楕円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕 なし。

【SB7448 掘立柱建物跡】(図版515・516)

調査区中央部北側で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔柱間寸法・方向〕 柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から3.7m(2間分)・1.8mで、総長は5.5mとみられる。梁行は、東妻でみると北から1.6m・1.8mで、総長は3.4mとみられる。方向は、南側柱列でみると真東を向く。

〔柱痕跡〕 直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕 長径0.3～0.4mの円形や楕円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む褐灰色シルトである。

〔出土遺物〕 なし。

【SB7682 掘立柱建物跡】(図版515・516)

調査区中央部北側で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SB7458、SI7206・7208・7364・7392、SK7372

〔柱間寸法・方向〕 柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると、北から2.3m・2.9mで、総長は5.2mとみられる。梁行は、南妻でみると西から2.9m・2.2mで、総長は5.1mとみられる。方向は、西側柱列で測るとN-10°-Wである。

〔柱痕跡〕 直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕 長軸0.4～0.7mの楕円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む黒褐色砂質シルトである。

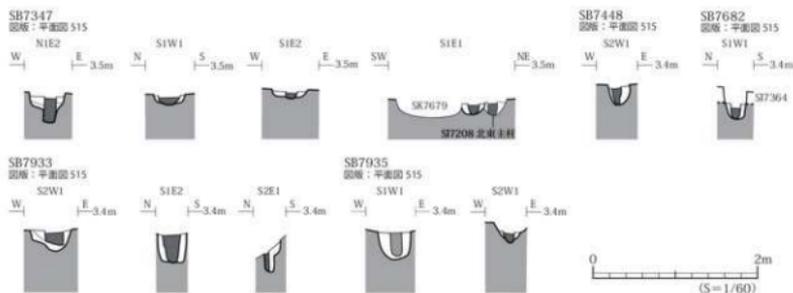
〔出土遺物〕 なし。

【SB7933 掘立柱建物跡】(図版515・516)

調査区中央部北側で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SI7208、SI7221 (新) SK7334

〔柱間寸法・方向〕 柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から3.2m(2間分)・1.7mで、総長は4.9m



図版516 SB7347・7448・7682・7933・7935掘立柱建物跡断面図

とみられる。梁行は、南妻でみると西から2.1m・1.6mで、総長は3.7mとみられる。方向は、西側柱列で測るとN-1°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.1～0.2mの円形である。

〔柱穴〕長軸0.2～0.6mの楕円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB7935掘立柱建物跡】(図版515・516)

調査区中央部北側で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟総柱建物跡である。

〔重複〕(古) SB7447、SI7818・7819

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から1.6m・1.7mで、総長は3.3mとみられる。梁行は、南妻でみると西から1.8m・1.4mで、総長は3.2mとみられる。方向は、東側柱列でみるとN-6°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。

〔柱穴〕長軸0.2～0.8mの楕円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む褐色シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB2037掘立柱建物跡】(図版435・515)

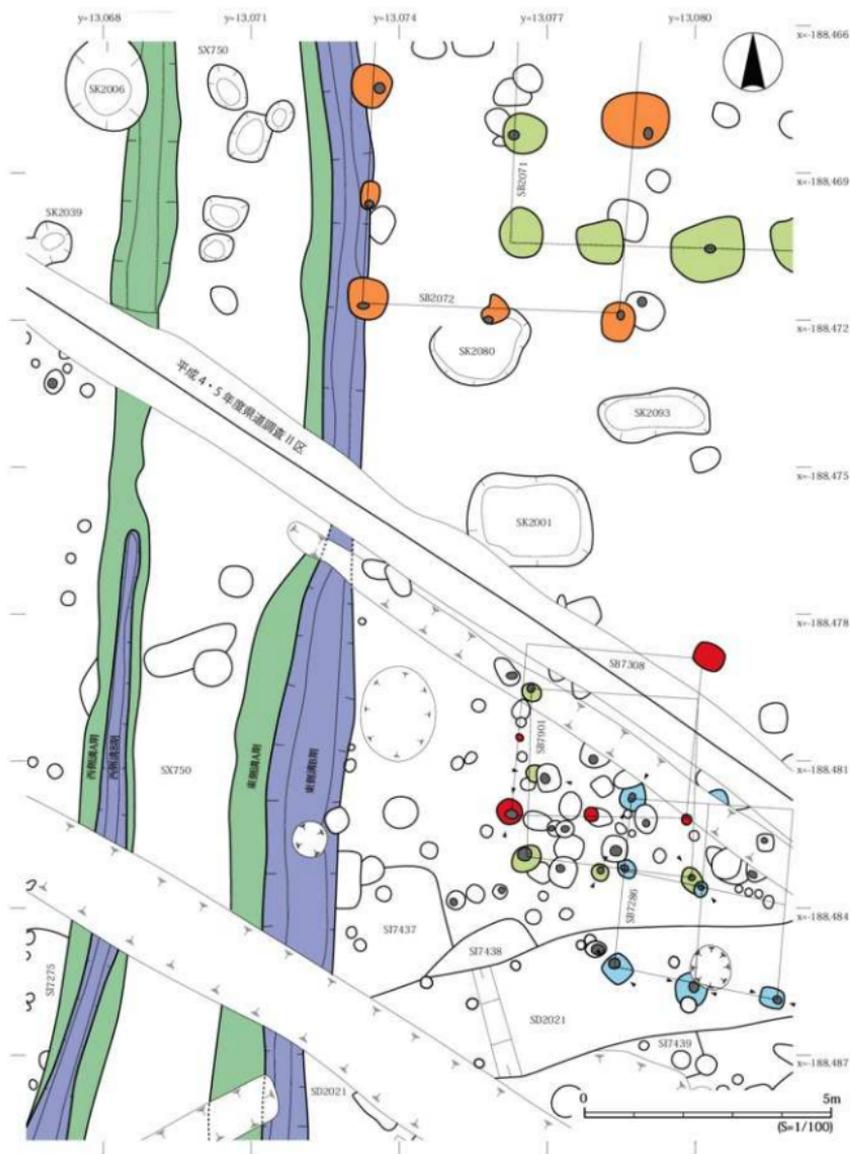
調査区中央部北側で確認した桁行6間・梁行2間とみられる南北棟建物跡である。北側の県道調査区で北妻付近を検出していたが、今回の調査で全体が確認できた。

〔重複〕(古) SI7817 (新) SD2025

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から1.6m・1.7m・5.0m(2間分)・1.7mで、総長は10.0mとみられる。梁行は、北妻でみると西から1.7m・1.6mで、総長は3.3mとみられる。方向は、東側柱列で測るとN-13°-Wである。

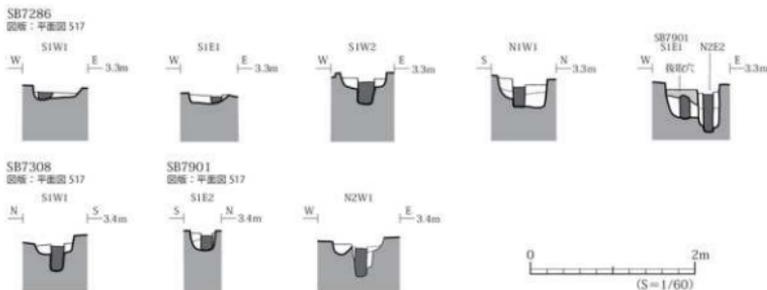
〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。

〔柱穴〕一辺0.6～0.8mの隅丸方形で、深さは0.5mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む褐色



(L区の図別は図版435を参照)

図版517 L区平面図15



図版518 SB7286・7308・7901掘立柱建物跡断面図

色シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB7286掘立柱建物跡】(図版517・518)

調査区北東部で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟総柱建物跡である。

〔重複〕(古) SB7901、SD2021

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から1.4m・2.0mで、総長は3.4mである。梁行が南妻でみると西から1.7m・1.6mで、総長は3.3mである。方向は、西側柱列で測るとN-5°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.2～0.3mの円形で、沈下している。

〔柱穴〕一辺0.4～0.6mの隅丸方形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む灰黄褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器甕が出土した。

【SB7308掘立柱建物跡】(図版517・518)

調査区北東部で確認した桁行2間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から1.6m・1.9mで、総長が3.5mとみられる。梁行は、西妻でみると北から1.8m・1.5mで、総長は3.3mである。方向は、南側柱列で測るとE-1°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形で、沈下しているものがある。

〔柱穴〕径0.2～0.6mの円形で、深さは0.5mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む暗褐色粘土質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB7901掘立柱建物跡】(図版517・518)

調査区北東部で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(新) SB7286

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると1.7m等間で、総長は3.4mとみられる。梁

行は、南妻でみると西から1.5m・1.8mで、総長は3.3mである。方向は、西側柱列で測るとN-2°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形で、沈下している。

〔柱穴〕長軸0.4～0.7m楕円形で、深さは0.5mである。掘方埋土は、地山ブロック・炭化物を含む暗褐色粘土質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB7380 掘立柱建物跡】(図版519・520)

調査区東部北側で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古)SB7381、SD461、SX7124・7128

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から2.0m・2.0m・2.3mで、総長が6.3mである。梁行は、西妻でみると北から2.2m・2.5mで、総長は4.7mとみられる。方向は、南側柱列で測るとE-5°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.3mほどの円形である。

〔柱穴〕一辺0.7～1.1mの隅丸方形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む暗褐色粘土質シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土からロクロ調整の土師器環・甕、須恵器環・甕、丸瓦・平瓦が出土した。

【SB7381 掘立柱建物跡】(図版519・520)

調査区東部北側で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古)SX7124・7128 (新)SB7380

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から1.7m・1.8mで、総長は3.5mとみられる。梁行は、南妻でみると西から1.5m・1.7mで、総長は3.2mとみられる。方向は、東側柱列で測るとN-14°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.2～0.3mの円形である。

〔柱穴〕長軸0.4～0.8mの楕円形で、深さは0.6mである。

〔出土遺物〕なし。

【SB7409 掘立柱建物跡】(図版519・520)

調査区東部北側で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟建物跡である。

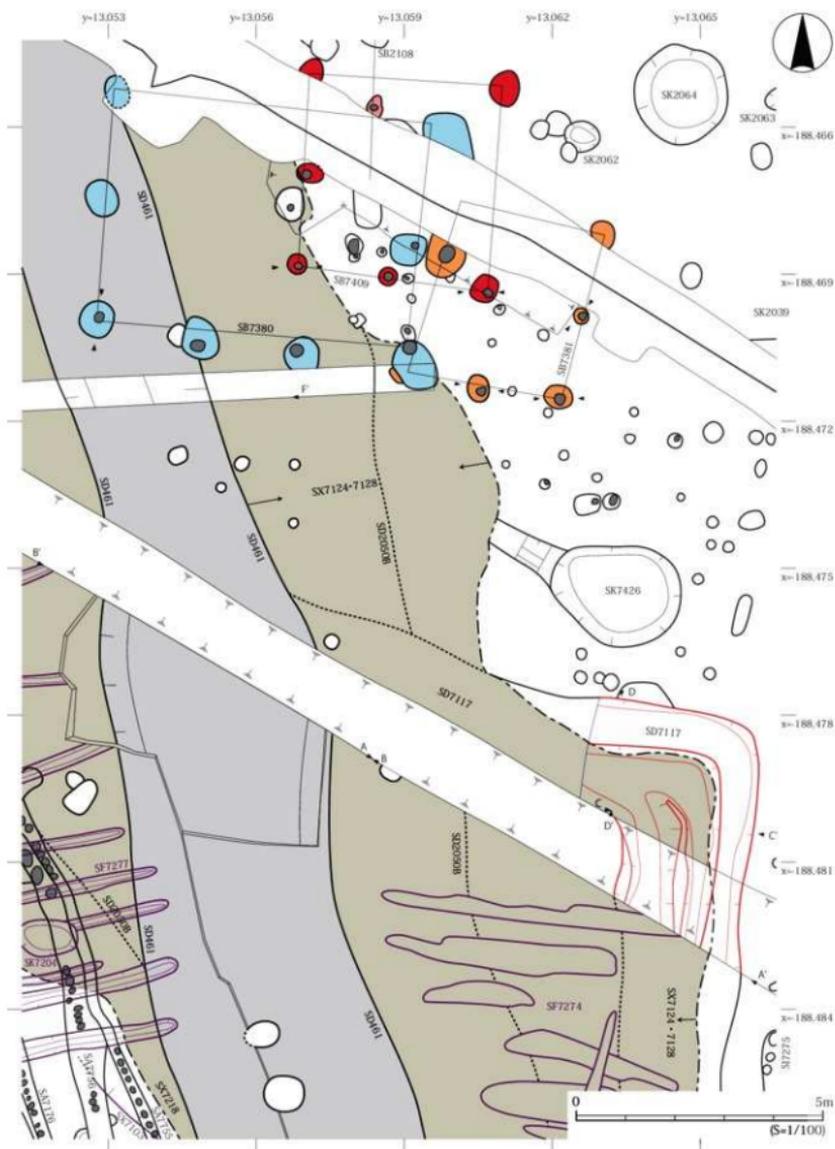
〔重複〕(古)SX7124・7128

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から2.1m・1.9mで、総長は4.0mである。梁行は、南妻でみると西から1.8m・2.0mで、総長は3.8mである。方向は、西側柱列で測るとN-5°-Eである。

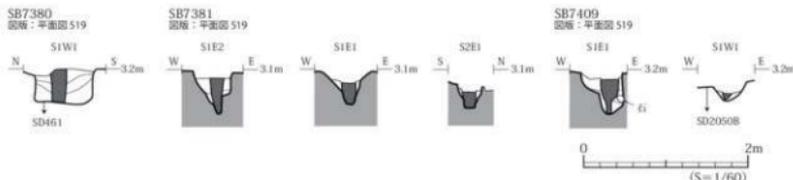
〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕長軸0.4～0.6m楕円形で、深さは0.6mである。掘方埋土は地山ブロック・炭化物を含む暗褐色粘土質シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器甕、須恵器甕が出土した。



図版519 L区平面図16



図版520 SB7380・7381・7409掘立柱建物跡断面図

【SB7144 掘立柱建物跡】 (図版452・521・523)

調査区東部で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SD461、SX7124・7128 (新) SX7103

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から1.8m・1.8m・2.0mで、総長は5.6mである。梁行は、北妻でみると西から1.7m・1.1mで、総長は2.8mである。方向は、東側柱列で測るとN-1°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形で、沈下している。

〔柱穴〕一辺0.5mほどの隅丸方形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む黒褐色や黄灰色粘土質シルト～シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕、須恵器甕が出土した。破片のみで図示できるものはない。

【SB7233 掘立柱建物跡】 (図版521・523)

調査区南東部で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古) SB7241・7267

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から1.9m・2.0m・1.5mで、総長は5.4mとみられる。梁行は、北妻でみると西から2.0m・1.5mで、総長は3.5mとみられる。方向は、東側柱列で測るとN-3°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.2～0.3mの円形である。

〔柱穴〕一辺0.7～1.0mの隅丸方形で、深さは0.3mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む灰黄褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕、須恵器環・高台環・蓋・甕が出土した。

【SB7241 掘立柱建物跡】 (図版521・523)

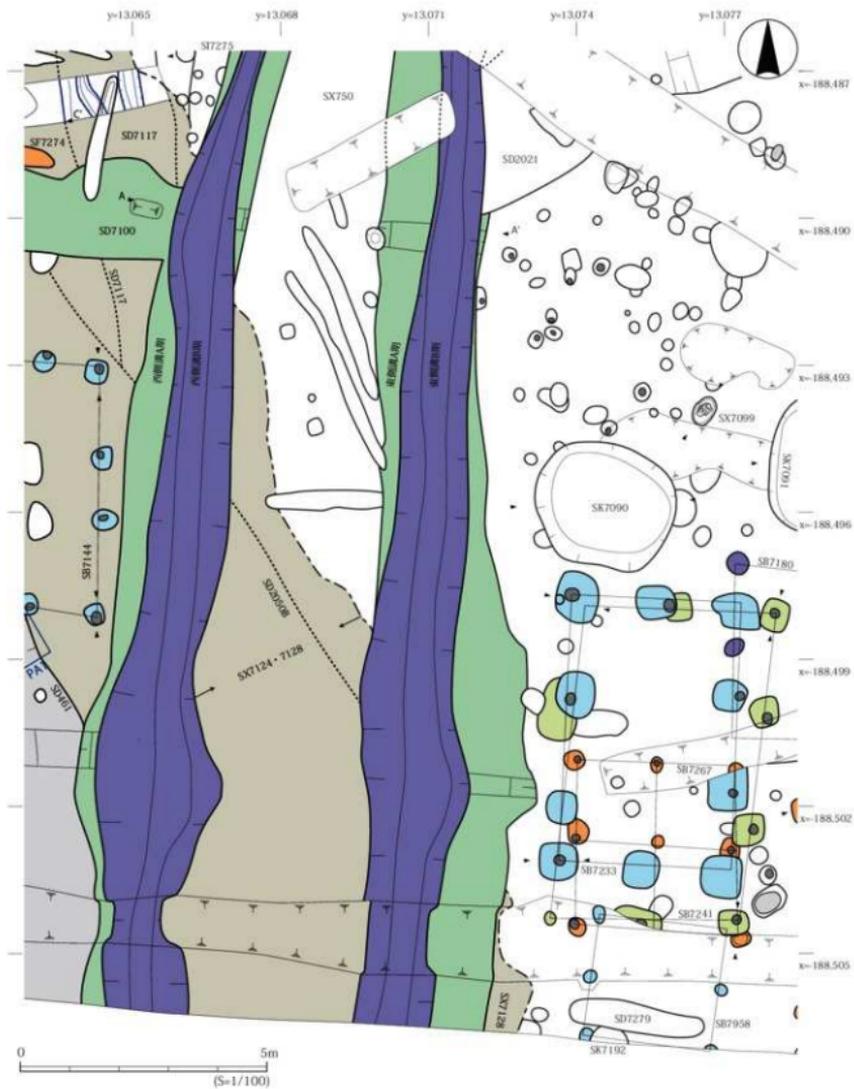
調査区南東部で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟である。

〔重複〕(古) SB7267・7958 (新) SB7233

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると、北から2.2m・2.3m・1.8mで、総長は6.3mである。梁行が南妻でみると西から1.9m・2.0mで、総長は3.9mである。方向は、東側柱列で測るとN-7°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕一辺0.6～1.3mの隅丸方形で、深さは0.2mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む黒褐



(L区の図例は図版435を参照)

図版521 L区平面図17

色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕、須恵器環・甕が出土した。

【SB7267 掘立柱建物跡】(図版521・523)

調査区南東部で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(新)SB7233・7241

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると1.7m等間で、総長は3.4mである。梁行は、北妻でみると1.6m等間で、総長は3.2mである。方向は、西側柱列で測るとN-1°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。

〔柱穴〕径0.3~0.5mの円形で、深さは0.2mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB7236 掘立柱建物跡】(図版522・524)

調査区南東部で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古)SK7281 (新)SD7095

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から1.6m・2.4mで、総長は4.0mとみられる。梁行が北妻でみると西から1.5m・1.7mで、総長は3.2mとみられる。方向は、西側柱列で測ると真北を向く。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕一辺0.4~0.6mの隅丸方形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックや炭化物を含む暗褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕、須恵器環・甕、丸瓦・平瓦が出土した。土師器甕はロクロ調整である。

【SB7266 掘立柱建物跡】(図版522・524)

調査区北東隅で確認した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から1.8m・2.0m・1.9mで、総長は5.7mとみられる。梁行は、南妻でみると西から1.9m・2.1mで、総長は4.0mである。方向は、西側柱列で測るとN-1°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕長軸0.4~0.6m隅丸方形や楕円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む灰黄褐色やにぶい黄褐色のシルトである。

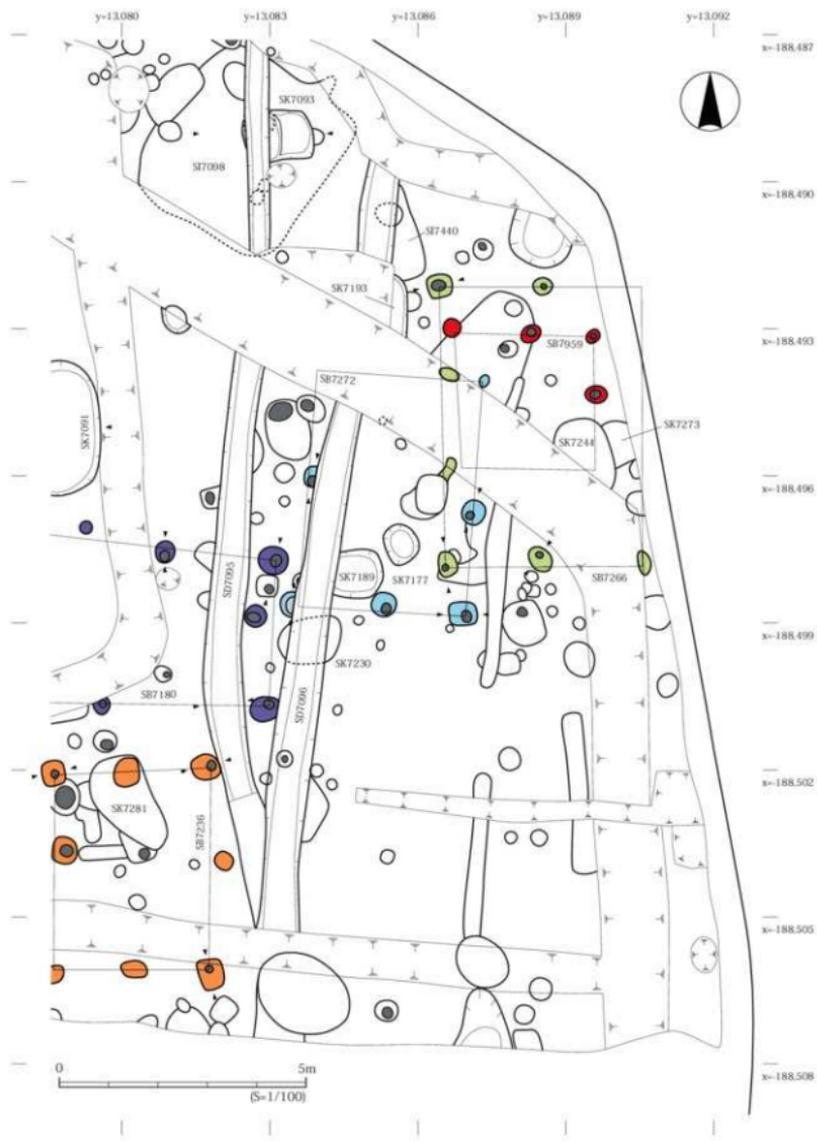
〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環、須恵器甕が出土した。

【SB7272 掘立柱建物跡】(図版522・524)

調査区北東隅で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(新)SD7096

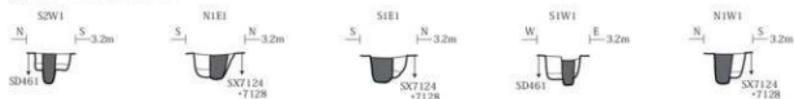
〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から2.7m・2.0mで、総長は4.7mとみ



(L区の図例は図版435を参照)

図版522 L区平面図18

SB7144 図版：平面図 452・521



SB7233 図版：平面図 521



SB7144-N1E1 断面 (東から)



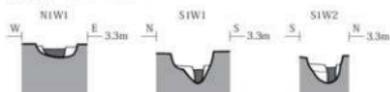
SB7233-S1W1 断面 (南から)

図版523 SB7144・7233・7241・7267掘立柱建物跡

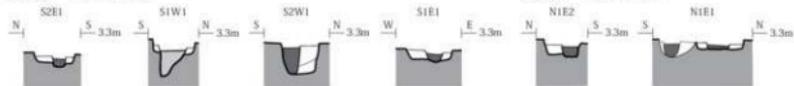
SB7236 図版：平面図 522



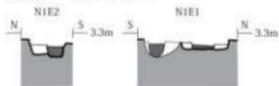
SB7266 図版：平面図 522



SB7272 図版：平面図 522



SB7180 図版：平面図 522



SB7236-N1W1 断面 (北から)



SB7266-N1W1 断面 (南から)

図版524 SB7180・7236・7266・7272掘立柱建物跡

楼栋名	楼层	单元	房号	方位	平面面积 (m ²)				结构形式	柱截面	柱间距 (m)	柱方位	柱截面	柱方位	新旧情况	层高				
					前厅		后厅									角度	计算柱列	平面形	平面	层高
					面积	长度	面积	长度												
SB2037	标准	6	2	南北	10.0	东	1.6+1.7+5.0 (2间分)+1.7	3.3	北	1.7+1.6	N-13°-W	东	0.2	0.6-0.8	隅九方形	SF7817 → SB2037 → SD2025	435.513	-		
SB7144	平层	3	2	南北	5.6	东	1.8+1.8+2.0	2.8	北	1.7+1.1	N-1°-W	东	0.2	0.5	隅九方形	SX7124 + 7128 → SD461 → SF7144 → SX7103	452.523	523		
SB7180	平层	3	2	东西	5.9	北	(3.7 (2间分))+2.2	3.5	西	1.7+ (1.8)	E-6°-S	北	0.2	0.3-0.6	隅九方形+梯四形	SB7180 → SD7096	521.522	524		
SB7233	完层	3	2	南北	5.4	东	1.9+2.0+1.5	3.5	北	2.0+1.5	N-3°-E	东	0.2	0.3-0.7-1.0	隅九方形	SB7267 → SB7241 → SB7233	521.523	523		
SB7236	完层	3	2	南北	4.0	西	1.6+2.4	3.2	北	1.5+1.7	N-0°-E	西	0.2	0.4-0.6	隅九方形	SB7281 → SB7236 → SD7095	522.524	524		
SB7241	完层	3	2	南北	6.3	东	2.2+2.3+1.8	3.9	南	1.9+2.0	N-7°-E	东	0.2	0.6-1.3	隅九方形	SB7267 + SB7959 → SB7241 → SB7233	521.523	523		
SB7251	平层	3	2	南北	5.7	东	2.0+1.7+2.0	4.2	南	1.9+2.3	N-5°-E	东	0.1	0.4-0.7	隅九方形	SF7224 → SF7223 → SB7251, SF7234 → SF7327 → SB7251	512.513	511		
SB7266	完层	3	2	南北	5.7	西	(1.8)+(2.0)+(1.9)	4.0	南	1.9+(2.1)	N-1°-W	西	0.2	0.4-0.6	隅九方形+梯四形		522.524	524		
SB7267 [柱柱]	完层	2	2	南北	3.4	西	1.7等间	3.2	北	1.6等间	N-1°-E	西	0.2	0.3-0.5	梯四形	SB7267 → SB7241 → SB7233	521.523	523		
SB7272	完层	2	2	南北	4.7	东	(2.7)+2.0	3.3	南	1.8+1.5	N-5°-E	东	0.2	0.4-0.6	隅九方形	SB7272 → SD7096	522.524	524		
SB7283	完层	3	2	南北	7.9	东	2.6+2.6+2.7	5.1	南	2.4+2.7	N-5°-W	东	0.2	0.6-0.8	隅九方形	SF7219 → SB7283 → SB7951 + SD7604	512.511	511		
SB7286	平层	2	2	南北	3.4	西	1.4+2.0	3.3	南	1.7+1.6	N-5°-E	西	0.2	0.4-0.6	隅九方形	SB7901 + SD2021 → SB7286	517.518	518		
SB7295	平层	2	2	南北	5.0	西	1.7+1.7+1.6	3.2	北	1.6等间	N-7°-W	西	0.1	0.4-0.5	隅九方形	SF7289 + SD7100 → SB7295 → SD7260	513.514	514		
SB7308	平层	2	2	东西	3.5	南	1.6+1.9	3.3	东	1.8+1.5	E-1°-S	南	0.2	0.2-0.6	梯四形		517.518	518		
SB7324	平层	2	2	东西	4.3	北	(2.2)+(2.1)	3.2	西	1.5+1.7	E-7°-N	北	0.2	0.3-0.8	隅九方形+梯四形	SF7234 → SK7360 → SB7324	512.512	512		
SB7330	平层	2	3	东西	3.0	北	2.1+1.8	3.8	西	1.9+1.0+1.9	N-9°-W	西	0.2	0.3-0.6	隅九方形	SF7213 → SF7215 → SB7330	513.514	514		
SB7347	完层	3	2	南北	5.2	东	1.9+1.5+1.8	3.8	南	1.6+2.2	N-13°-W	东	0.2	0.3-0.5	梯四形	SF7608 → SB7347 → SK7679	515.516	516		
SB7367	完层	2	1+	南北	3.7	东	1.9+1.8	1.7+	南	1.7	N-3°-W	东	0.2	0.3-0.5	梯四形	SB7927 → SB7367 → SD7604	512.512	512		
SB7380	完层	3	2	东西	6.3	南	2.0+2.0+2.3	4.7	西	(2.2)+(2.5)	E-5°-S	南	0.3	0.7-1.1	隅九方形	SX7124 + 7128 → SD461 → SB7381 → SB7380	519.520	520		
SB7381	完层	2	2	南北	3.5	东	(1.7)+1.8	3.2	南	(1.5)+1.7	N-14°-E	东	0.2	0.3-0.8	梯四形	SX7124 + 7128 → SB7381 → SB7380	519.520	520		
SB7409	完层	2	2	南北	4.0	西	(2.1)+1.9	3.8	南	1.8+2.0	N-5°-E	西	0.2	0.4-0.6	梯四形	SX7124 + 7128 → SB7409	519.520	520		
SB7447	标准	2	2	南北	3.9	东	1.9+(2.0)	3.7	北	1.7+(2.0)	N-8°-E	东	0.2	0.2-0.6	隅九方形+梯四形	SF7392 → SB7447 → SB7935	515.515	515		
SB7448	标准	3	2	东西	5.5	南	3.7 (2间分)+1.8	3.4	东	1.6+1.8	E-0°-N	南	0.2	0.3-0.4	梯四形+梯四形		515.516	516		
SB7454	平层	4	2	南北	6.0	东	(1.6)+(1.2)+(1.4)+(1.8)	4.4	北	(2.1)+(2.3)	N-4°-W	东	0.2	0.4-0.5	隅九方形	SF7254 → SF7327 + SF7758 → SB7454 → SB7757	512.511	511		
SB7458	标准	2	1+	东西	3.2	北	2.3+1.9	4.0	西	(4.0)	E-3°-S	北	0.3	0.5-1.0	梯四形	SF7206 → SF7392 → SF7208 → SB7458 → SB7682 + SK7679	515.515	515		
SB7659 [柱柱]	平层	3	2	南北	4.7	东	(1.5)+(3.2 (2间分))	3.6	北	(1.7)+(1.9)	N-8°-W	东	0.2	0.5-0.8	方	SD7612 → SB7659 → SD7847	507.506	506		
SB7660 [柱柱]	平层	2	2	-	4.0	西	2.0等间	4.0	南	2.0等间	N-1°-W	西	0.2	0.5-0.8	方	SB7948 → SB7947 → SB7660 → SD7847, SD7612 → SB7660	507.506	506		
SB7682	完层	2	2	南北	5.2	西	2.3+2.9	5.1	南	2.9+(2.2)	N-10°-W	西	0.2	0.4-0.7	梯四形	SF7206 + SF7392 → SF7208 → SF7364 → SB7458 + SK7372 → SB7682	515.516	516		
SB7757	平层	3	2	南北	6.2	东	1.7+2.7+1.8	4.2	南	2.0+2.2	N-5°-W	东	0.2	0.4-0.6	隅九方形	SF7254 → SF7327 + SF7758 → SB7454 → SB7757	512.511	511		
SB7760	平层	3	2	南北	5.2	西	(1.7)+(1.8)+(1.7)	4.0	南	(1.9)+(2.1)	N-0°-E	西	0.2	0.4-0.6	隅九方形+梯四形	SF7872 → SB7871 → SB7870 → SB7760, SB7942 → SB7760	510.509	509		
SB7763	平层	3	2	南北	6.4	西	(2.2)+(2.0)+(2.2)	4.2	南	(2.2)+(2.0)	N-5°-E	西	0.2	0.5-0.8	隅九方形	SF7872 → SB7871 + SB7763, SA7621 → SB7870 → SB7763	507.506	506		
SB7764	平层	2	2	东西	2.4	南	1.2等间	2.2	西	1.1等间	N-0°-E	西	0.1	0.4-0.6	隅九方形+梯四形	SD7848 + SB7764 → SB7926	507.506	506		
SB7772	标准	1	2	东西	2.7	南	2.7	2.6	西	1.3+1.3	N-1°-E	西	0.1	0.4-0.3	隅九方形	SB7843 → SB7957 → SB7772	466.466	466		
SB7775	标准	1	1	南北	2.5	东	2.5	2.5	南	2.5	N-6°-W	东	0.3	0.6-0.9	隅九方形	SF7766 + SD7848 → SB7775	456.466	466		
SB7776	平层	5	2	东西	8.0	南	2.0+1.3+1.2+1.6+1.9	4.6	西	(2.9) (2间分)+1.7	E-5°-S	南	0.2	0.4-0.6	隅九方形	SF7873 → SB7776 → SD7100 → SD7604	510.509	509		
SB7822	完层	2	1	南北	3.0	西	2.0+1.9	3.1	北	-	N-15°-W	西	0.2	0.7-1.0	隅九方形	SD7840 + SA7784 → SB7822	456.505	505		
SB7899	标准	3	1	东西	4.6	北	3.0 (2间分)+1.6	2.4	东	2.4	E-34°-N	北	0.1	0.2-0.3	梯四形	SF7864 + SB7899	507.507	507		

表48-1 L区掘立柱建物附属性表1

遺構名	調査	建物形状	方位	平面規模 (m)						柱位置 計測 柱列	柱断面 (m)	柱形状	新旧関係	図面			
				前行			後行							角度	断面	平面	断面
				延長	測定	柱間寸法	延長	測定	柱間寸法								
SB7900	半壊	3	2	東西	4.7	南	1.5+1.6+1.6	3.2	西	1.3+1.9	E-2°-N	0.1	0.4	円形	SB7804 → SB7900	507	506
SB7901	完壊	2	2	南北	3.4	西	1.7等間	3.3	南	1.5+1.8	N-2°-E	0.2	0.7	楕円形	SB7901 → SB7286	517	518
SB7902	確認	2	1	東西	3.7	南	2.2+1.5	2.7	南	-	N-11°-E	0.2	0.4	楕円形	SK7945 → SD7847 → SB7902	477	507
SB7903	半壊	1+	2	南北	4.7	東	4.7	4.3	北	2.2+2.1	N-1°-E	0.1	0.3	隅丸方形・楕円形	SB7809・7812 → SB7903	496	-
SB7924	半壊	2	2	南北	3.3	西	1.7+1.6	3.2	北	1.6+1.6	N-20°-W	0.1	0.4	円形	SB7218 → SB7812 → SB7909 → SB7924	496	-
SB7926	半壊	5	2	南北	5.5	東	1.1+0.8+1.5+1.0+1.1	2.7	北	1.2+1.3	N-3°-W	0.1	0.3	円形	SD7620 → SD7748 → SB7764 → SB7926	507	508
SB7927	完壊	4	2	南北	7.4	東	(1.9)+(1.8)+(1.9)+(1.8)	4.4	北	(2.5)+(1.9)	N-2°-W	0.2	0.4	楕円形	SB7803・7865・7868 → SB7967・7932 → SB7927 → SD7604	512	511
SB7928	完壊	1	1	東西	3.0	南	-	2.8	西	-	E-1°-N	0.2	0.6	円形	SB7863 → SB7957 → SB7928 → SD7604	466	505
SB7929	確認	2	1+	東西	3.2	南	1.6+1.6	1.0	西	1.0	E-30°-S	0.1	0.3	楕円形	-	466	-
SB7930 (内蔵)	確認	3	3	南北	6.2 (7.1)	西/東	(2.6)+(2.0+2.5)	6.2	南	1.6+2.2+2.4	E-0°	0.1	0.3	隅丸方形・楕円形	SB7862 → SB7861・SK7556 → SB7930 → SB7931・SD7604	466	-
SB7931	確認	3	2	東西	8.0	南	2.2+3.6+2.2	4.0	西	1.8+2.2	E-0°	0.1	0.3	楕円形	SB7930 → SB7931 → SK7560・7599	466	-
SB7932	確認	2	1	東西	4.9	南	2.1+2.8	4.2	東	-	E-7°-N	0.2	0.4	隅丸方形・楕円形	SB7219・7221 → SB7932 → SB7927 → SD7604	466・512	511
SB7933	完壊	3	2	南北	4.9	西	3.2 [2間分] +1.7	3.7	南	2.1+1.6	N-1°-W	0.2	0.6	楕円形	SB7208・7221 → SB7933 → SK7334	515	516
SB7935 (埋柱)	完壊	2	2	南北	3.3	東	1.6+1.7	3.2	南	1.8+1.4	N-6°-E	0.2	0.8	楕円形	SB7819 → SB7818 → SB7935, SB7447 → SB7935	515	516
SB7938	確認	3	2	南北	4.3	西	3.0 [2間分] +1.3	3.3	北	1.7+1.6	N-1°-W	0.2	0.3	円形	SA7781 → SB7938	466・586	-
SB7939	確認	3	2	南北	4.7	西	-	3.7	南	1.6+2.1	N-18°-W	0.2	0.4	円形	SB7939 → SD7847	466・586	-
SB7941	確認	3	2	南北	6.4	東	(2.7) + (2.2) +1.5	5.2	南	2.5+2.7	N-3°-E	0.2	0.4	隅丸方形・楕円形	SB7873・7821 → SB7941 → SD7100 → SD7604	510	-
SB7942	確認	2	2	東西	4.9	北	2.5+2.4	3.5	西	1.9+1.6	E-3°-N	0.2	0.3	楕円形	SB7821 → SB7492 → SB7760	510	-
SB7943	確認	2	2	東西	5.1	南	(2.0) + (3.1)	3.4	西	1.5+1.9	E-4°-S	0.3	0.7	隅丸方形	SB7943 → SD7604	510	-
SB7944	確認	2	1	東西	4.8	南	-	3.8	西	-	E-1°-N	0.2	0.3	楕円形	SB7872 → SB7871 → SB7870 → SB7944, SA7621 → SB7944	507・510	-
SB7947 (埋柱)	確認	2	2	南北	3.3	西	(1.7) + (1.6)	3.4	南	1.7等間	N-18°-W	0.1	0.2	円形・楕円形	SB7948 → SB7947 → SB7660	507	-
SB7948	確認	2	2	南北	2.8	東	[2間分] 2.8	1.7	南	(1.7)	N-15°-W	0.1	0.4	隅丸方形	SB7948 → SB7947 → SB7660 → SD7847	507	-
SB7949	確認	2	2	南北	4.0	東	(1.7) + (2.3)	3.8	南	[2間分] 3.8	N-9°-W	0.2	0.5	楕円形	SB7866・7867 → SB7940	507	-
SB7950	確認	3	2	東西	6.8	北	(2.5) + (2.0) + (2.3)	4.5	西	[2間分] 4.5	E-5°-N	0.3	0.3	隅丸方形・楕円形	SB7254 → SB7327 → SB7950 → SD7604	512	-
SB7951	完壊	2	1	南北	4.5	西	4.5 [2間分]	3.7	北	-	N-4°-E	0.2	0.8	隅丸方形・楕円形	SB7219 → SK7350・SB7283 → SB7951	512	511
SB7952	確認	1	2	南北	4.4	東	4.4	3.8	北	(1.9)+(1.9)	N-7°-E	0.2	0.4	隅丸方形・楕円形	SB7254 → SB7327 → SB7952 → SD7604	512	-
SB7953	確認	2+	2	南北	5.5	東	(1.7) +3.8	3.4	北	1.8+ (1.6)	N-3°-W	0.2	0.5	隅丸方形・楕円形	SD7946 → SB7233 → SB7953 → SD7406	510・513	-
SB7955	確認	2	1	東西	4.6	北	[2間分] 4.6	2.6	東	2.6	E-3°-N	0.2	1.2	隅丸方形・楕円形	SB7233 → SB7955 → SD7604	510・513	-
SB7956	確認	2	2	南北	3.9	東	2.3+1.6	3.8	北	1.7+2.1	N-5°-E	0.2	0.3	円形・楕円形	-	513	-
SB7957	確認	3	2	南北	4.3	西	1.6+1.5+1.2	3.8	南	2.3+1.5	N-4°-E	0.1	0.3	円形・楕円形	SB7863・7864 → SB7957 → SB7928 → SB7772, SB7957 → SB7628	466・507	-
SB7958	確認	1	2	南北	2.6	南	2.6	2.5	西	(1.3)+(1.3)	N-7°-E	0.1	0.2	円形	SB7958 → SB7241・SK7192	521	-
SB7959	確認	2	1+	東西	2.9	北	(1.6) +1.3	1.2+	東	1.2	E-1°-S	0.2	0.4	円形	SB7959 → SK7244	522	-

・柱間寸法は東西方向が西から、南北方向は北から行った。ただし、西側や東側が不明な場合は東から、南から計測している
 ・柱断面が異なり、または柱間から柱断面が1つ以上手れる場合は、2間(場)によって3区間の総和を表記している
 ・柱間寸法の表記で柱位置が不明な場合は、() 書きとしている
 ・建物全体の規模が不明なものは、数字値に+を加えている

表48-2 L区掘立柱建物跡属性表2

られる。梁行は、南妻でみると西から1.8m・1.5mで、総長は3.3mである。方向は、東側柱列で測るとN-5°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.2~0.3mの円形である。

〔柱穴〕一辺0.4~0.6mの隅丸方形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む灰黄褐色シルトである。

〔出土遺物〕なし。

遺構名	調査	柱間 (m)		方向	柱間距 (m)	柱穴		柱間関係	図版	
		柱間延長	柱間寸法			縦横 (m)	平面形		平面	断面
SA7545	確認		南北側: 7.7 (3 間分) + 3.5 (6.3 (2 間分)) 東西: 14.6	南北: N - 10° - 西 東西: E - 6° - 北	0.2	0.3 ~ 0.8	相円形・ 隅丸方形	SI7224・SX7946 → SI7223 → SA7545 → SD7604, SI7219 → SI7364 → SA7545	510・ 512・ 513	—
SA7575	確認	6.3	1.9・2.3・2.1	N - 9° - W	0.2 ~ 0.3	0.4 ~ 0.6	相円形	SI7808 → SA7575	512	—

・柱間寸法は東西方向が西から、南北方向は北から行った。ただし、西側や北側が不明な場合は東から、南から計測している
・柱間距が異なる、または柱間から柱間距が1つ以上異なる場合は、2間(場合によっては3間分)の距離を表記している
・柱間寸法の表記で柱間距が不明な場合は、() 裏きとしている

表49 L区掘立柱礎跡属性表

【SB7180掘立柱礎跡】(図版521・522・524)

調査区南東部で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(新) SD7096

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から3.7m(2間分)・2.2mで、総長5.9mとみられる。梁行は、西妻でみると1.7m・1.8mで、総長は3.5mとみられる。方向は、北側柱列で測るとE-6°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。

〔柱穴〕径0.3~0.6mの隅丸方形や円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを含む灰黄褐色やにぶい黄褐色のシルトである。

〔出土遺物〕なし。

5. 竪穴住居跡

竪穴住居跡は65棟確認した。このうち、精査を行った11棟について説明する。すべての竪穴住居跡の属性については表50にまとめている。竪穴住居跡の平面形については、直交する両辺の長さが0.5m以上異なる場合は長方形、0.5m未満の場合は正方形、並行する両辺の長さが0.5m以上異なる場合は台形とした。

【SI7171竪穴住居跡】(図版452・525)

調査区東部南側にある。カマドや周溝は確認していない。

〔重複〕(古) SK7168, SX7124・7128 (新) SK7166, 7199

〔平面形〕一辺3.0mの正方形である。

〔壁〕北壁で5cmほど残存する。

〔床面〕掘方全体を灰黄色シルトで埋め戻して床としている。掘方は北側から東側側が深い。

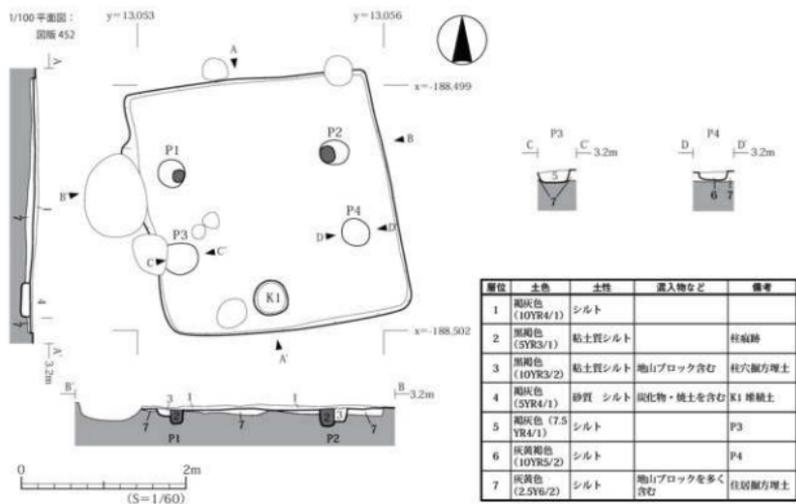
〔柱穴〕中央の東西壁際で、主柱穴4基(P1~P4)を確認した。P1・P2には径0.2mの柱痕跡があり、掘方より沈下していた。掘方は径0.3~0.4mの円形で、深さは0.2mである。

〔付属施設〕南側中央で土坑(K1)を確認した。径0.4mの円形で、深さは0.1mである。

〔方向〕東辺で測るとN-10°-Wである。

〔出土遺物〕(図版526)

1層から非ロクロ調整の土師器環・大型甕(2)・ミニチュア(1)、掘方埋土からは非ロクロ調整の土師器環・大型甕などが出土した。土師器環は有段丸底である。

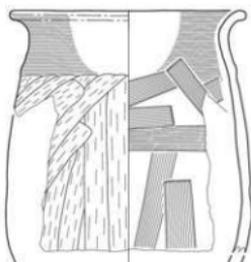


S17171 全景 (北から)

図版525 S17171 竪穴住居跡



1



2



0 10cm
(5=1/3)

No.	名称	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	分體	備考	登録
1	土師器・ミニチュア	1層	内外面：オサエ 底面：ナデ	(8.0)	(5.6)	3.3	1/3	—	環形	468
2	土師器・大型壺	1層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヨコナデ・ヘラナデ	(14.4)	—	—	1/3	A		461

図版526 SI7171竪穴住居跡出土遺物

【SI7172竪穴住居跡】(図版452・527)

調査区東部南側にある。カマドや周溝は確認していない。

〔重複〕(古) SD7282、SI7173・7174

〔平面形〕東西2.9m、南北2.1m以上であり、一辺が2.9mの正方形とみられる。

〔壁〕北壁で0.2m残存する。

〔床面〕北半は、掘方を黒褐色シルトで埋め戻して床としている。南半は掘方底面と同じレベルであることから、地山を床としたとみられる。

〔方向〕北辺で測るとE-3°-Sである。

〔出土遺物〕(図版528)

1層から非ロクロ調整の土師器環(2)・広口壺・大型甕・ミニチュア(1)などが出土した。環は有段丸底である。

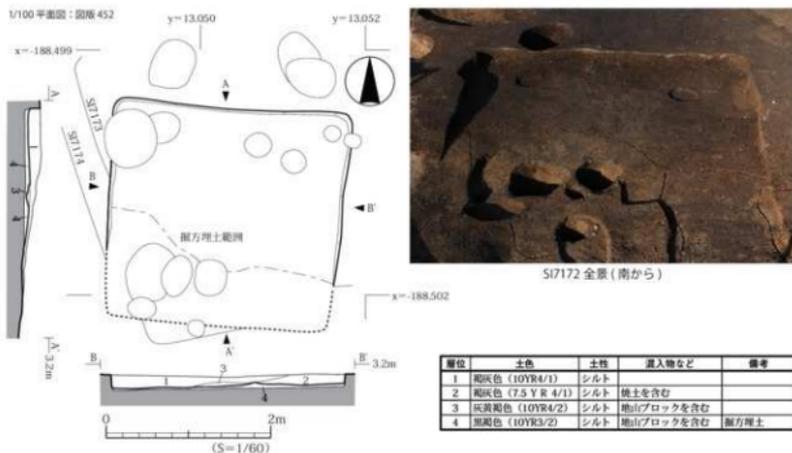
【SI7173竪穴住居跡】(図版452・530)

調査区東部南側で確認した。

〔重複〕(古) SD7282、SI7174 (新) SI7172、SK7166

〔平面形〕一辺が3.6mの正方形である。

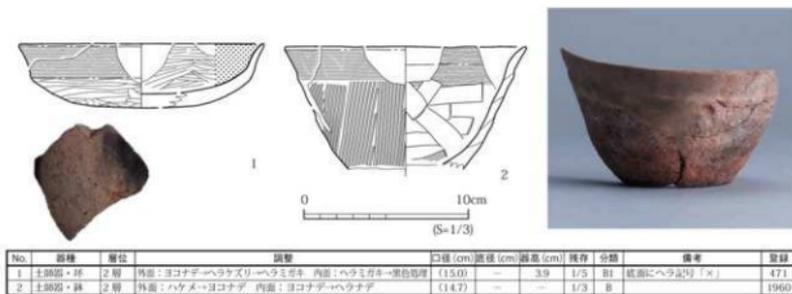
〔周溝〕西辺で確認した。幅0.2m、長さ3.4mで、断面は逆台形である。壁材痕は認められない。堆



図版527 SI7172竪穴住居跡

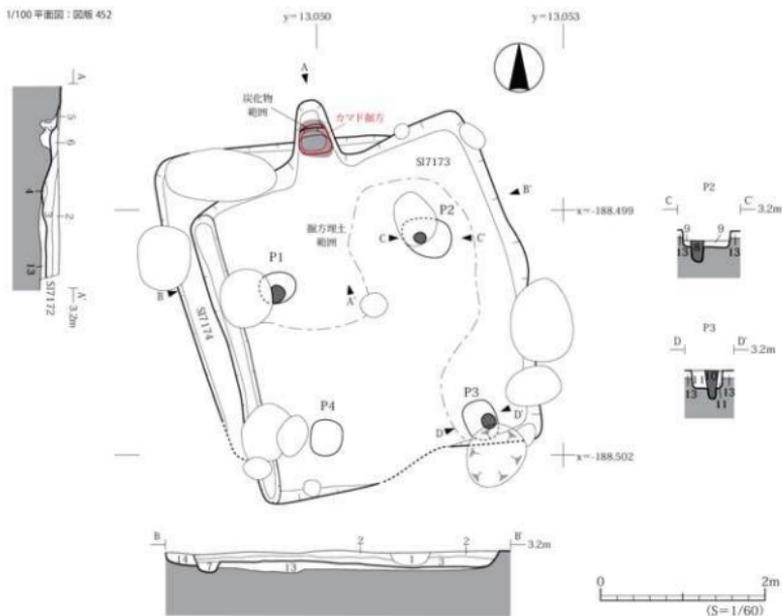


図版528 SI7172竪穴住居跡出土遺物



図版529 SI7173竪穴住居跡出土遺物

1/100平面図：図版 452



遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考	遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考	
SI7173	1	灰褐色 (7.5 Y R 4/2)	シルト	焼土を多く含む	P11	SI7173	8	灰黄褐色 (10YR5/2)	砂質シルト	地山ブロックを含む	P2 竈方埋土	
	2	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト				9	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	シルト	地山ブロックを含む	P2 竈方埋土	
	3	黄灰色 (2.5Y4/1)	シルト				10	灰黄褐色 (10YR5/2)	砂質シルト	地山ブロックを含む	P3 竈方埋土	
	4	灰黄褐色 (10YR5/2)	砂質シルト				11	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	シルト	地山ブロックを含む	P3 竈方埋土	
	5	黄褐色 (10YR5/1)	シルト	炭化物を多く含む	カマド内燻土		12	黄灰色 (2.5Y4/1)	シルト			カマド内燻土
	6	黄灰色 (10YR4/1)	砂質シルト	炭化物・地山ブロックを含む	カマド内燻土		13	灰黄褐色 (2.5Y5/2)	シルト	しまり流。地山ブロック含む		住居竈方埋土
	7	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	砂質シルト				14	灰黄褐色 (10YR5/2)	砂質シルト			



SI7173・7174 全景 (南から)



SI7173 南東主柱断面 (南から)

図版530 SI7173・7174竈穴住居跡

積土はにぶい黄褐色砂質シルトである。

〔壁〕東壁で0.2m残存する。

〔床面〕掘方全体を暗灰黄色シルトで埋め戻して床としている。掘方底面は凹凸が著しく、北辺から東辺側にかけて深い。

〔カマド〕北辺中央に付設されており、燃焼部と煙道部を確認した。本体は北壁から0.7m張出し、燃焼部の幅は焚口付近で0.7mである。奥壁と側壁は地山である。煙道は長さ0.4m、幅0.3～0.4mの短煙道で、底面は燃焼部より一段高い。燃焼部下には一辺0.4m、深さ0.2mの掘方があり、黄灰色シルトで埋め戻された。

〔柱穴〕主柱穴は4基あり、カマド側を避けて南壁よりに配置された(P1～P4)。柱痕跡は直径0.2mの円形で、掘方底面より沈下している。掘方は一辺0.4～0.6mの隅丸方形で、深さは0.4mである。

〔方向〕西辺で測るとN-18°-Wである。

〔出土遺物〕(図版529)

カマド内から土師器環・甕、周溝と床面から土師器環・甕などが出土した。また、掘方埋土から土師器環・小型環・甕、2層から土師器環(1)・鉢(2)・甕などが出土している。土師器はすべて非ロクロ調整で、環は有段丸底である。1の底面にはヘラ記号「×」が認められる。

【SI7174 竪穴住居跡】(図版452・530)

調査区東部南側で確認した。大半をSI7173に壊されており、北辺と西辺の一部のみ確認した。周溝やカマドは認められない。

〔重複〕(新)SD7282、SI7172・7173

〔平面形〕南北3.2m、東西2.9m以上の方形である。

〔壁〕西辺で0.2m残存する。

〔床面〕西側では地山を床としている。

〔柱穴〕確認していない。規模が小さいこと、SI7173の掘方下でも本住居に伴う柱が確認できなかったことから、主柱がない構造とみられる。

〔方向〕西辺で測るとN-15°-Wである。

〔出土遺物〕なし。

【SI7208 竪穴住居跡】(図版515・531・532)

調査区中央部北側で確認した。北壁と南西隅付近は削平されている。

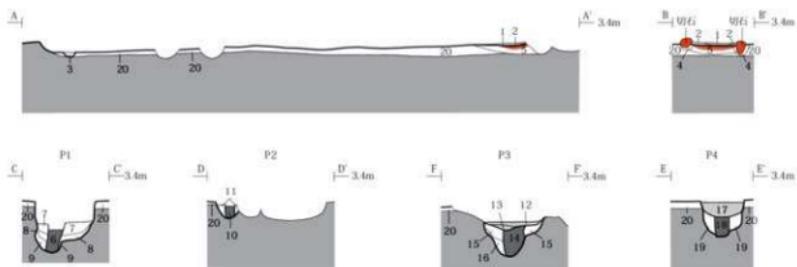
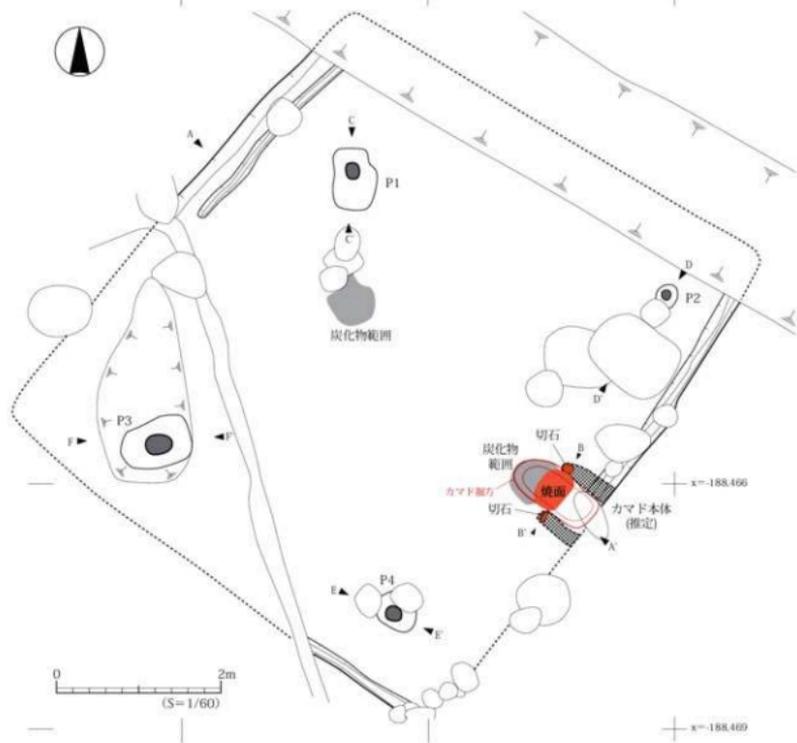
〔重複〕(古)SI7206・7392、SK7271

(新)SB7347・7458・7682、SI7219、SK7346・7587・7679

〔平面形〕東西5.7m・南北6.3m以上の長方形である。

〔周溝〕北辺以外の3辺で確認しており、本来は全周していたと考えられる。東辺と南辺では壁の直下、西辺では壁から0.3m内側に位置する。幅は0.1～0.3m、深さは0.1mで、壁材痕は認められない。断面形は椀形で、堆積土は地山ブロックを含む暗褐色シルトである。

〔壁〕西辺で0.2m残存する。



図版531 SI7208竪穴住居跡 1

層位	土色	土性	混入物など	備考
1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	炭化物を多く含む	
2	赤褐色 (5YR4/6)	シルト	焼土粒を多く含む	カマド内埋積土
3	暗褐色 (10YR3/4)	シルト	焼山ブロックを多く含む	河浜埋積土
4	にぶ・黄褐色 (10YR4/3)	シルト	焼山ブロック・炭化物・焼土を含む	明石堀方埋土
5	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	焼山ブロック・沼裏土を含む	カマド埋方埋土
6	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	下等に柱材が埋存	P1 柱痕跡
7	にぶ・黄褐色 (10YR4/3)	砂質土	炭化物を含む	
8	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト		P1 堀方埋土
9	暗褐色 (10YR3/3)	シルト		
10	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)	砂質シルト		P2 柱痕跡
11	にぶ・黄褐色 (10YR3/3)	シルト	暗褐色・黄褐色土ブロックを含む	P2 堀方埋土
12	にぶ・黄褐色 (2.5Y6/4)	シルト	炭化物等を含む	
13	黄褐色 (2.5Y5/4)	砂質シルト	暗褐色粘土ブロック・炭化物を多く含む	P3 採取穴
14	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)	砂質シルト		P3 柱痕跡
15	灰黄色 (2.5Y6/2)	シルト	黒色粘土ブロックをまばらに含む	P3 堀方埋土
16	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	砂	ややグライ化して苦味を帯びる。黒色粘土小ブロックを含む	
17	褐色 (10YR4/4)	砂質シルト	焼山ブロックを含む	P4 採取穴
18	暗褐色 (10YR3/2)	粘土	焼山ブロック・炭化物を含む	P4 柱痕跡
19	にぶ・黄褐色 (10YR4/2)	シルト質粘土	焼山ブロックを含む	P4 堀方埋土
20	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	焼山ブロックを含む	柱痕跡埋方埋土

SI7208 全景
(西から)

カマド全景 (西から)



カマド断面 (西から)

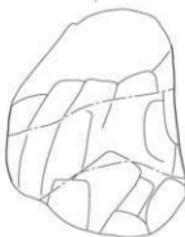
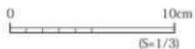
図版532 SI7208竪穴住居跡 2



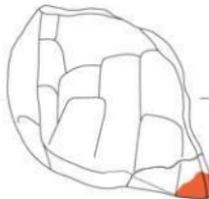
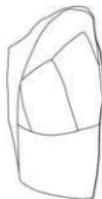
1



2



3



4



No.	名称	層位	調査	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	分類	番号	登録
1	土師器・杯	掘方埋土	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘタミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	15.6	—	4.4	1/3	B1		1964
2	銅器類・鏝	床面	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	—		3003
3	石製品・ 燧石切石	カマド右壁		—	—	—	—	—	カマド構築材	3001
4	石製品・ 燧石切石	カマド右壁		—	—	—	—	—	カマド構築材	3002

図版533 SI7208竪穴住居跡出土遺物

〔床面〕掘方全体を灰黄褐色シルトで埋め戻して床としている。中央西側で魚骨を含む炭化物層が認められた。

〔カマド〕東辺中央に付設されている。燃焼部底面と焚口補強材の凝灰岩切石のみを確認した。切石や焼面の位置からみて、本体は住居内にあり、奥行き0.7m、焚口幅は0.5mと考えられる。焼面は長軸0.5m・短軸0.3mの楕円形で、浅く窪む。

カマドの構築にあたっては、一旦、その部分の周溝は埋め戻され、燃焼部の下に掘方が設けられた。長軸1.1m・短軸0.5m・深さ0.1mの楕円形で、褐色粘土質シルトで埋め戻されている。

〔柱穴〕壁よりの対角線状に配置された主柱穴4基を確認した（P1～P4）。柱痕跡は直径0.2～0.3mの円形で、P3・P4は基部を残して抜き取られていた。掘方は長軸0.3～0.9mの楕円形で、深さは0.6mである。

〔方向〕東辺で測るとN-39°-Eである。

〔出土遺物〕(図版533)

床面から須恵器甕（2）と砥石、掘方埋土から土師器坏（1）や須恵器甕などが出土した。土師器は非クロク調整で、坏は有段丸底である。ほかにカマド構築材の凝灰岩切石がある（3・4）。

【SI7219竪穴住居跡】(図版512・534・535)

調査区中央部北側で確認した。

〔重複〕(古) SI7208、SK7271

(新) SA7545、SB7283・7927・7932・7951、SI7364、SK7638

〔平面形〕東西7.0m・南北7.4mの正方形である。

〔周溝〕壁の直下で確認した。北辺中央と南辺の一部で途切れるが、本来はカマド部分を除いて全周したと考えられる。幅は0.2～0.4mで、深さは0.2mである。壁材痕は認められない。堆積土は炭化物を含む黒褐色シルトなどである。

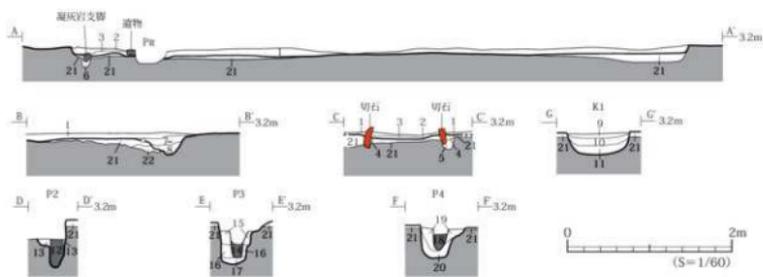
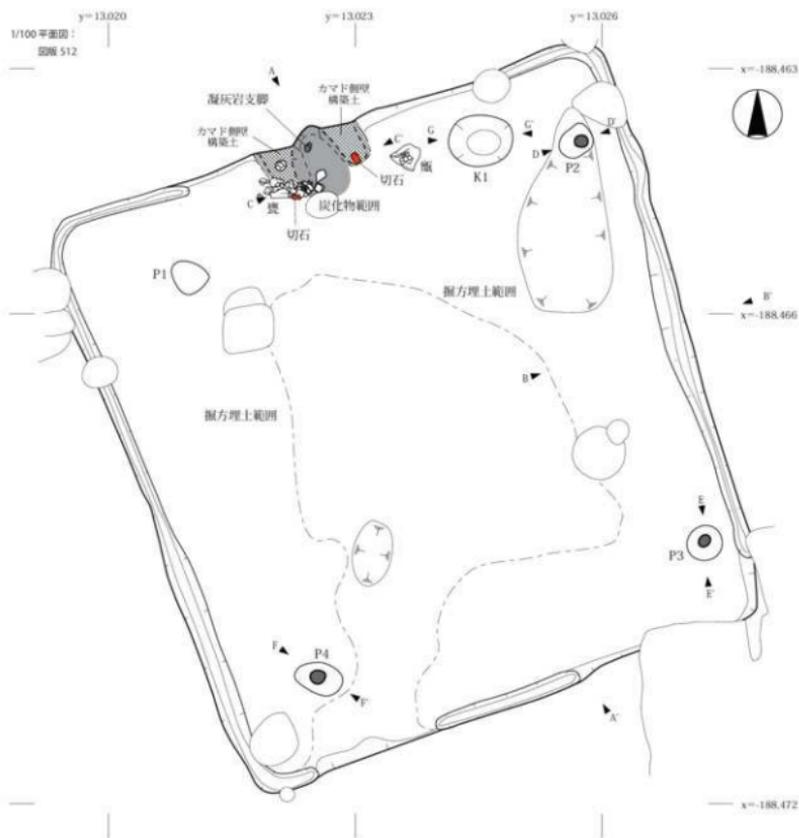
〔壁〕北辺と南辺で0.2m残存する。

〔床面〕中央部分を除いて設けられた掘方を、暗褐色～にぶい黄褐色シルトで埋め戻して床としている。中央は地山を床とした。

〔カマド〕北辺中央に付設された。削平されており、燃焼部底面と本体下部、凝灰岩切石の焚口補強材、支脚のみを確認した。本体は北壁内側にあり、奥壁付近が壁外に張出す。規模は焚口が幅0.8m、奥行き0.8mである。側壁は暗褐色粘土質シルトで構築しており、燃焼部底面は焚口から奥壁に向けてわずかに下る。支脚は凝灰岩切石で、焚口から0.5m奥の左よりの掘方に据えられていた。奥壁は地山で、燃焼部底面から急に立ち上がる。

側壁基部の残りが悪く、左壁と切石の上から土師器大型甕（図版536-4）、右壁の脇で土師器甕（図版536-3）が出土した。このため、住居廃絶にあたってカマドが壊され、掛け口に装着された大型甕と甕が周辺に捨てられたと考えられる。

〔柱穴〕壁よりの対角線状に配置された主柱穴4基を確認した（P1～P4）。柱痕跡は直径0.2mの円形である。掘方は長軸0.4～0.6mの円形や楕円形で、深さは0.5mである。



図版534 SI7219竪穴住居跡 1

層位	土色	土性	遺人物	備考
1	暗褐色 (7.5YR3/4)	砂質シルト	黒褐色粘ブロックを含む	
2	暗褐色 (7.5YR3/4)	砂質シルト	黒褐色粘ブロックを含む	カマド内埋積土
3	黒色 (10YR1 7/1)	シルト	粘性強、焼土・炭化物を多く含む。灰色シルトを含む	
4	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	黒色土ブロック・焼土を含む	切石層/埋土
5	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	シルト	粘性強、第4層ブロックを含む	
6	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	焼山ブロックを含む	支脚層/埋土
7	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	炭化物を含む	両溝埋積土
8	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	炭化物を多く含む	
9	暗褐色 (7.5YR3/4)	砂質シルト		
10	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト		K1 埋積土
11	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	砂質シルト	焼山ブロック含む	
12	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	粘性強	P2 柱痕跡
13	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	黒色粘土ブロック・炭化物を多く含む	P2 側方埋土
14	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	灰黄褐色シルトを含む	P3 柱痕跡
15	褐色 (10YR4/4)	砂質シルト	焼山ブロック含む	
16	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	砂質シルト	焼山ブロック含む	P3 側方埋土
17	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	焼山ブロック含む	
18	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)	シルト		P4 柱痕跡
19	黄褐色 (2.5Y5/3)	砂質シルト	黒色粘土ブロック・炭化物を含む	
20	オリーブ褐色 (2.5Y4/4)	シルト	黒色粘土ブロック・炭化物を含む	P4 側方埋土
21	暗褐色 (10YR3/4)	シルト	シルト・灰色粘ブロックを含む	
22	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	シルト	砂まじりシルト	住居層/埋土

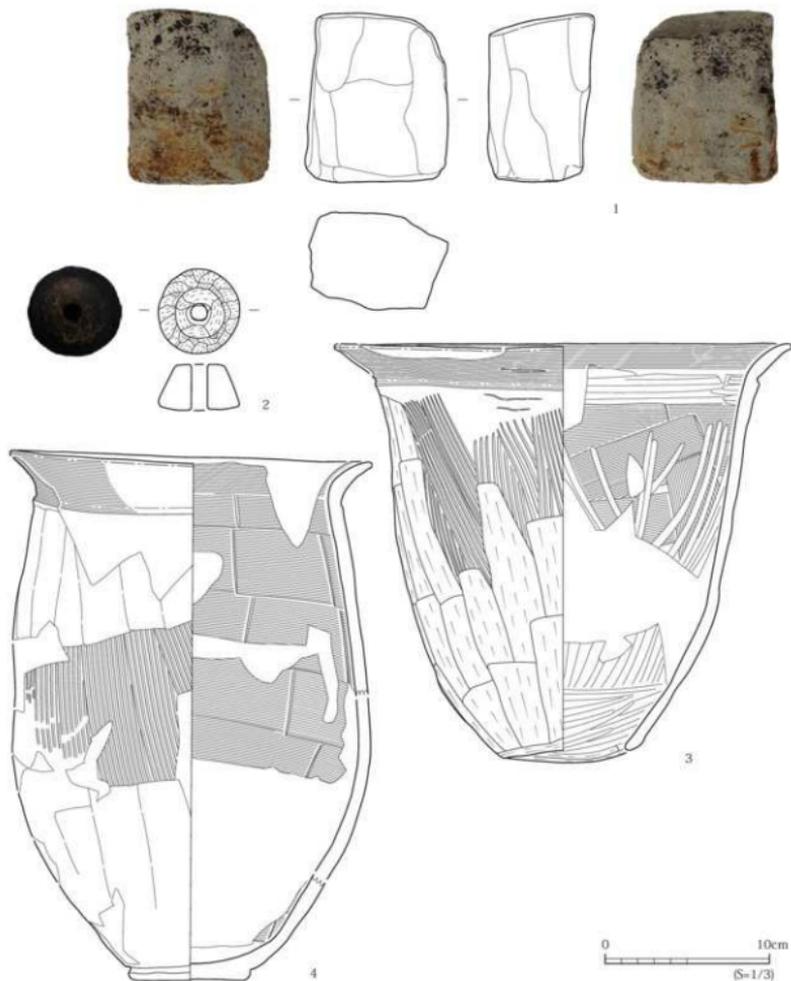
SI7219 全景
(南から)

掘出土状況 (東から)



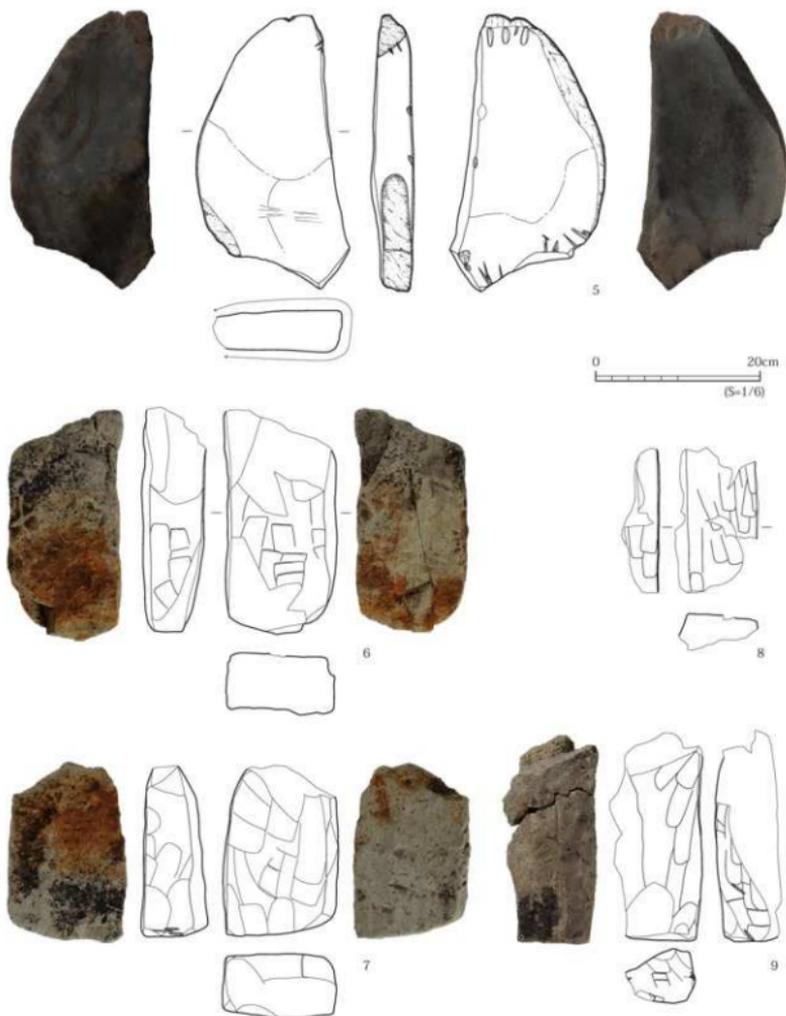
カマド新割り (東から)

図版535 SI7219竪穴住居跡2



No.	品種	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	分體	備考	登録
1	石製品・石器	カマド	外面：ヘラケズリ	-	-	-	完形	-	切G. 右材：濁灰VI. 重さ：464.0 g	1972
2	土製品・陶器類	竈方埋土	外面：ヘラケズリ	-	-	-	完形	-	上径：2.9cm 下径：4.8cm 厚さ：2.7cm 孔径：1.0cm	1973
3	土器類・甕	床面 カマド	外面：ヨコナデ→ハケメ→ヘラケズリ 内面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミカキ	(27.4)	7.8	25.5	2/3	8	深鉢形。無底	1977
4	土器類・大型甕	カマド 左軸1	外面：ハケメ→ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ→ヘラナデ	(21.9)	6.4	31.7	2/3	8		1978

図版536 SI7219竪穴住居跡出土遺物 1



No.	名称	層位	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	残存	備考	登録
5	石英片・磁石	洞溝	33.7	15.7	5.0	—		1971
6	石英片・凝灰岩質石	カマド左壁	(26.7)	13.1	6.6	—	カマド構築材	2233
7	石英片・凝灰岩質石	カマド右壁	(20.6)	13.7	7.8	—	カマド構築材	2232
8	石英片・凝灰岩質石	カマドF	(17.7)	9.8	4.5	—	カマド構築材	2234-2
9	石英片・瓦礫	カマドF	(25.3)	10.0	7.6	—	カマド構築材に転用。右材：凝灰岩。	2234-1

図版537 SI7219竪穴住居跡出土遺物2



図版538 SI7219竪穴住居跡出土遺物 3

〔付属施設〕カマドの右脇で貯蔵穴1基(K1)を確認した。長軸0.8mの楕円形で、深さは0.3mである。堆積土は灰黄褐色などのシルトである。

〔方向〕西辺で測るとN-20°-Wである。

〔出土遺物〕(図版536~538)

カマド左側壁の上から土師器大型甕(4)、カマド脇の床面から土師器環・大型甕・甌(3)、周溝堆積土から土師器環・甕・大型甕、砥石(5)、掘方埋土から土師器高環・甕、土製紡錘車(2)、須恵器環などが出土した。このほか、凝灰岩切石のカマド焚口補強材(6~9)や支脚(1)が出土している。土師器はすべて非ロクロ調整である。環は有段丸底で、甕や甌の頸部には段が認められる。

【SI7221 竪穴住居跡】(図版466・539・540)

調査区中央部北側で確認した。北側はSI7257で壊されている。壁は削平のため残っていない。

〔重複〕(古)SE7258、SK7278 (新)SB7932・7933、SI7257、SK7334

〔平面形〕東西4.2m・南北3.5m以上あり、一辺が4.2mほどの正方形とみられる。

〔周溝〕北辺周辺を除いて確認しており、本来は全周していたと考えられる。幅は0.2~0.4mで、深さは0.1mである。壁材痕は確認していない。堆積土は炭化物や地山ブロックを含む灰黄褐色シルトである。

〔床面〕掘方を褐色シルトで埋め戻して床としたとみられる。

〔カマド〕カマドは確認していない。SI7257で壊された北辺にあったとみられる。

〔柱穴〕対角線上に配置された主柱穴4基(P11~14)を確認した。柱痕跡は直径0.2m前後の円形である。掘方は長軸0.5m楕円形で、深さは0.5mである。P13の柱痕跡は掘方より沈下する。

〔方向〕南辺で測るとE-18°-Nである。

〔出土遺物〕(図版541)

床から土師器環・甕、須恵器甕、掘方埋土から土師器環・高環(1)・甕が出土した。いずれも非ロクロ調整で、環は有段丸底である。

【SI7257 竪穴住居跡】(図版466・539・540)

調査区中央部北側で確認した。壁は削平のため残っていない。

〔重複〕(古)SE7258・7434、SI7221・7820、SK7405

(新)SK7259・7334

〔平面形〕一辺4.8mの正方形である。

〔周溝〕壁直下を全周したとみられる。掘方の規模は幅0.2m、深さは0.2mほどで、黒褐色シルトの材痕は幅が5cmあり、壁側に沿って巡る。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

〔床面〕掘方底面には緩やかな起伏があり、黄褐色や黒褐色シルトで埋め戻して床としたとみられる。

〔カマド〕カマドは確認していない。SK7259で壊された北辺中央にあったと考えられる。

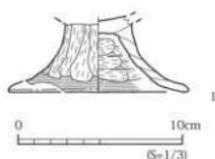
〔柱穴〕主柱穴3基(P1~P3)と、壁柱穴7基(P4~10)を確認した。主柱は、柱痕跡が直径0.2mほどの円形で、壁寄りの対角線上で配置された4本で構成されたとみられる。掘方は長径0.4~0.6mの円形や楕円形で、深さは0.3mである。

遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SI7257	1	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト		埋材面
	2	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト		埋溝埋土
	3	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト		P2 柱基礎
	4	暗褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを含む	P2 版方埋土
	5	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物を含む	P3 柱基礎
	6	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山ブロックを含む	P3 版方埋土
	7	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む	P3 版方埋土
	8	暗褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを含む	P4 柱取穴
	9	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山ブロック・炭化物を含む	P4 柱基礎
	10	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山ブロックを含む	P4 版方埋土
	11	暗褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロック・炭化物を含む	P5 柱基礎
	12	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山ブロックを含む	
	13	にぶい・黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロックを含む	P5 版方埋土
	14	暗褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロックを含む	P6 柱取穴
	15	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む	P6 柱基礎
	16	暗褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを含む	P6 版方埋土
	17	にぶい・黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロックを含む	
18	暗褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロック・田表土粒を含む	P7 柱基礎	
19	暗褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックや多く含む。田表土粒を含む	P7 版方埋土	
20	暗褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロック・田表土粒を含む		
21	にぶい・黄褐色 (10YR5/3)	砂質シルト	地山ブロックを含む	住居版方埋土	
22	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト			
SI7221	23	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化物・地山ブロックを少量含む	埋溝埋土
	24	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	焼土を少量含む	P14 柱基礎
	25	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む	
	26	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	地山ブロックを含む	P14 版方埋土
	27	黄褐色 (2.5Y5/3)	砂質シルト	炭化物・黒色粘土粒まばらに含む	P11 柱基礎
	28	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	砂質シルト	暗灰色粘土小ブロック含む	P11 版方埋土
	29	黄褐色 (2.5Y5/6)	砂質シルト		
	30	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	炭化物を含む	P13 柱取穴
	31	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	シルト	炭化物を含む	P13 柱基礎
	32	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	地山ブロックを含む	P13 版方埋土
	33	褐色 (10YR4/4)	砂質シルト	地山ブロックを含む	住居版方埋土

SI7257 全景 (南から)



図版540 SI7221・7257 竪穴住居跡 2



No.	器種	方位	図型	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・高杯	掘方埋土	内外面：(器) ココナデ→ヘラケズリ 内面：(杯) ヘラミガキ→栗色処理	—	(11.0)	—	一部		3005

図版541 SI7221竪穴住居跡出土遺物

壁柱穴は、柱痕跡が直径0.1mほどの円形で、四隅とカマドが設けられない3辺の中央に配置されたと考えられる。そのあり方は、西辺・南辺と東辺では異なり、前者は中央に1基ずつ認められる。これに対し、東辺では3基認められることから (P6～8)、P6とP7の間が入口で、近接するP7・P8はどちらかが補修と考えられる。壁柱穴は長軸0.3m前後の楕円形で、深さは0.5mである。

〔方向〕西辺で測るとN-5°-Wである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・甕、須恵器壺・甕、丸瓦、周溝掘方埋土から土師器環・甕、須恵器環・甕が出土した。土師器はすべて非ロクロ調整である。

〔SI7364 竪穴住居跡〕(図版515・542)

調査区中央部北側で確認した。

〔重複〕(古) SI7219、SK7271 (新) SA7545、SB7682

〔平面形〕東西3.2m・南北3.0mの正方形である。

〔周溝〕北辺中央のカマド周辺を除いて全周する。壁材痕は確認していない。幅0.2m前後で、深さは0.2mである。堆積土は地山ブロックを含む褐色シルトである。

〔壁〕壁は北辺で0.1m残存していた。

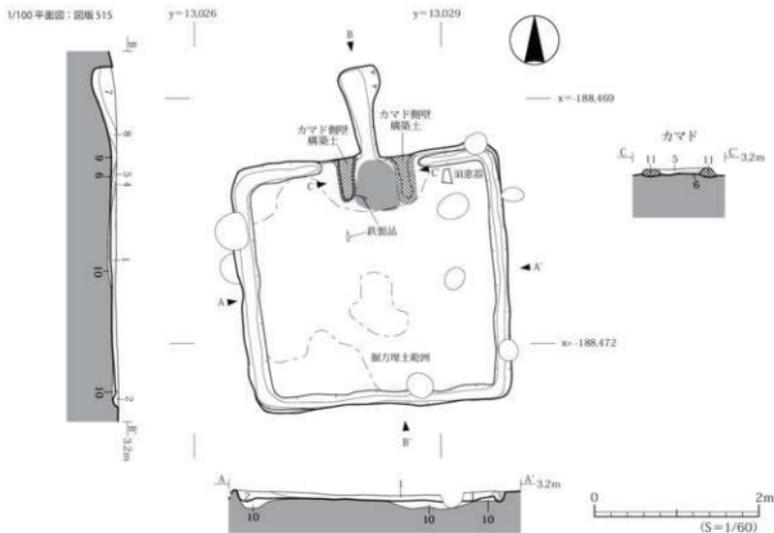
〔床面〕南西隅とカマドを除いて掘方が認められ、黄褐色シルトで埋め戻して床とした。南西隅は地山を床とする。床はほぼ平坦である。

〔カマド〕北辺中央にあり、本体は住居内側につくられた。本体は焚口の幅0.5m、奥行き0.6mで、側壁は地山ブロックを含むにぶい黄褐色シルトで構築された。燃焼部底面は平坦である。煙道部は長さが1.1m、幅は0.2～0.3mで、先端に向かって幅が広がり、底面も深くなる。焚口付近から鉄鏝、奥壁付近の堆積土から須恵器環が出土した。

〔方向〕西辺で測るとN-6°-Wである。

〔出土遺物〕(図版543)

カマド内堆積土から鉄鏝(1)と須恵器環(4・6)、床面から須恵器環・甕などが出土した。このほか、カマド掘方埋土から土師器甕、掘方埋土から土師器環・甕、須恵器環、堆積土から土師器環(3)、須恵器環(5)・壺(2)などが出土した。土師器環は非ロクロ調整の両黒・平底、須恵器環はいずれもヘラ切りで、須恵器壺は猿投産とみられる。

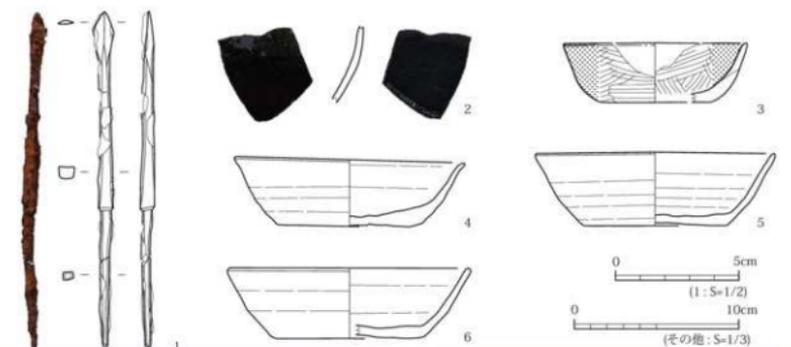


層位	土色	土性	遺入物	備考
1	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山ブロック・炭化物を含む	
2	褐色 (10YR4/4)	シルト	焼土粒・炭・炭化物を含む	住居内埋積土
3	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山ブロックを含む	
4	黒色 (10YR1.7/1)	シルト	炭化物を含む	
5	褐色 (10YR4/4)	シルト	焼土粒・炭・炭化物を含む	カマド内埋積土
6	黒色 (10YR1.7/1)	シルト	炭化物を多く含む	
7	褐色 (10YR4/4)	シルト		
8	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	炭化物を含む	溝内埋積土
9	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山ブロックを含む	
10	にぶ・黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロックを含む	掘方埋土
11	にぶ・黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロックを含む	カマド留壁

S17364全景(南から)



図版542 S17364竪穴住居跡



No.	器種	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	鉄製品・鉄錐	カマド 埋		—	—	—	—	長軸:13.6 短軸:0.6 厚さ:0.6cm	3007
2	須恵器・甕	埋	内外面:ロクロナデ	—	—	—	一部	器得産力。自然釉	3008
3	土師器・杯	埋	内外面:ヘラミガキ→黒色処理 底面:切離し不明→ヘラミガキ→黒色処理	(11.2)	(6.8)	3.6	1/5		3012
4	須恵器・杯	カマド 埋	内外面:ロクロナデ 底面:ヘラ切り→ナデ	14.0	9.0	4.0	完形	外面:垂ね焼き類 内外面:火輝	3009
5	須恵器・杯	埋	内外面:ロクロナデ 底面:ヘラ切り→ナデ	14.6	8.6	4.5	1/3	焼成不良(灰白色)	1981
6	須恵器・杯	カマド 埋	内外面:ロクロナデ 底面:ヘラ切り→ナデ	(13.8)	(8.8)	4.1	1/5	焼成不良(灰白色)	3010

図版543 SI7364竪穴住居跡出土遺物

【SI7212竪穴住居跡】(図版435・513・545)

調査区中央部で確認した。隣接する竪穴住居跡の中で最も新しい。検出段階でカマド燃焼面と貯蔵穴を確認したことから、壁は残らず床面が露出した状況と考えられる。周溝は確認していない。

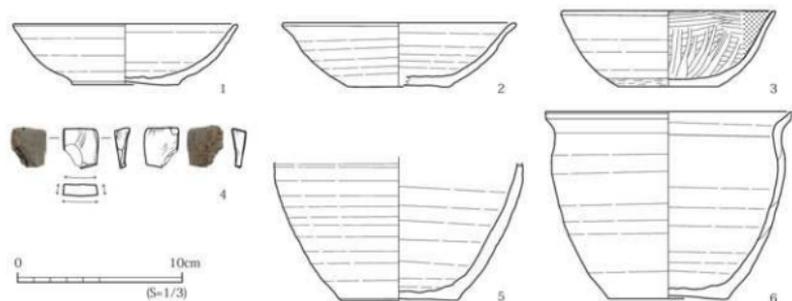
〔重複〕(古) SI7210・7213・7416 (新) SK7412・7908

〔平面形〕東西5.4m・南北5.3mの正方形である。

〔床面〕掘方全体をにぶい褐色シルトで埋め戻している。

〔カマド〕東辺南側に付設されており、本体は住居壁から0.5m外側に張り出す。焼面は規模が径0.4mの円形である。煙道部は幅が0.2mあり、本体奥壁から1.4m外に延びる。

〔貯蔵穴〕カマド右側の住居南東隅にあり、長軸0.6m、短軸0.3mの楕円形である。



No.	器種	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	標準	登録
1	須恵器・埴	確認面	内外面：ロクロナデ 底部：回転車切り→ナデ	13.6	6.4	3.7	1/4		1968
2	須恵器・埴	確認面	内外面：ロクロナデ 底部：回転車切り	14.2	6.2	3.9	1/3		1969
3	土師器・埴	確認面	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色焼埋 底部：切離し不明→回転ヘラケズリ	13.0	6.0	4.6	2/3		1965
4	石製品・砥石	確認面		—	—	—	一部	重さ：5.0 g	1967
5	土師器・甕	確認面	外面：ヘラ状工具によるロクロナデ 内面：ロクロナデ 底部：回転車切り→ナデ	—	7.0	—	1/4		1966
6	土師器・小平埴	確認面	内外面：ロクロナデ 底部：回転車切り	15.0	7.3	11.4	1/2		1970

図版544 S17212竪穴住居跡出土遺物

〔方向〕北辺で測るとE-7°-Sである。

〔出土遺物〕(図版544)

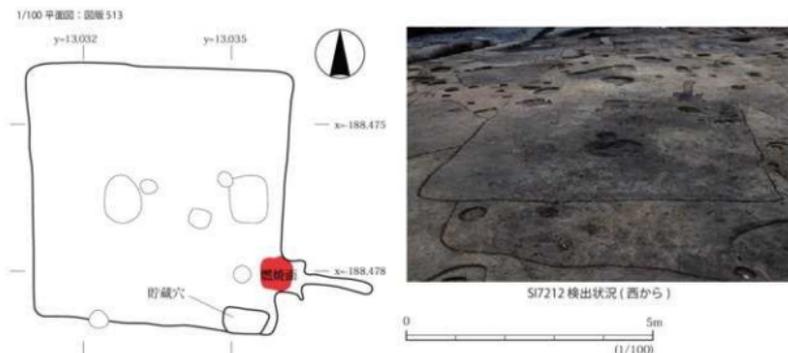
確認面から土師器環(3)・甕(5)・小型甕(6)、須恵器環(1・2)・甕、砥石(4)、平瓦が出土した。これらは本来、床面もしくはその近くに帰属する遺物と考えられる。土師器は環がロクロ調整・埴形で、1・2には回転糸切り、3の内面には放射状ミガキ、甕は回転糸切りが認められる。平瓦は多賀城第四期のII C類である。

【SI7098 竪穴住居跡出土遺物】(図版548)

SI7098は調査区北東隅で確認した竪穴住居跡である(図版522)。床面まで削平された状態で確認したため、東隣のSI7440との新旧関係は不明である。一辺2.2mほどの正方形で、カマドは北辺東側に付設された。方向は西辺で測るとN-36°-Eである。床面周辺から土師器環(2)・甕(3)、砥石(4)・磨石(1)などが出土した。

【その他の竪穴住居跡出土遺物】(図版546・547)

SI7202・7206・7215・7222・7224・7275・7392・7393・7811 竪穴住居跡から出土した遺物を図版546・547に示した。



図版545 SI7212竪穴住居跡

遺構名	調査	平面形	規模 (m) 東西×南北	方向/ 計基	床	主柱 (m)			カマド			階段	新旧関係	出土遺物	図版		
						西	柱間形 状/径	柱数/位	位置	構築材	本体				煙道	平面	断面
SI7098	確認	正方形	2.2×2.2	N-36°-E/西	-	-	-	-	北辺東側	-	内側	知?	-	SI7098→SK7093→SD7095	〔床面〕土師器環(間束系)・甕(非ロクロ無底)・環(甕)・甕(甕)・甕(甕)、須恵器甕(甕)、右側は砥石・磨石	522	-
SI7171	完掘	正方形	3.0×3.0	N-10°-W/東	個別埋土	4	丸/0.2	×	-	-	-	-	土坑	SK7168→SK7124・7128→SI7171→SK7166・7199	〔1層〕土師器有段丸底環・大型甕・ミニチュア(円形)、須恵器環(甕)〔埋土〕土師器有段丸底環・大型甕	452・525	525
SI7172	完掘	正方形	2.9×2.1	E-3°-S/北	個別埋土	0	×	×	-	-	-	-	×	SI7174→SI7173→SD7282→SI7172	〔1層〕土師器有段丸底環・非ロクロ環(甕)・広口甕・非ロクロ甕(甕)・大型甕・ミニチュア(円形)、須恵器環(甕)	452・527	527
SI7173	完掘	正方形	3.6×3.6	N-18°-W/西	個別埋土	4	丸/0.2	×	北辺中央	地山	張出	知/0.4	埋溝	SI7174→SI7173→SK7166・SD7282→SI7172	〔カマド内〕土師器環(甕)・甕(甕)〔埋土〕土師器環・甕〔床面〕土師器環・甕〔埋土〕土師器環(甕)・大型甕・ミニチュア(円形)・甕、小型甕	452・530	530

表50-1 L区竪穴住居跡属性表1

遺構名	調査	平面形	規模 (m) 東西×南北	方向/ 針高図	床	主柱 (m)			方下ド				階段	新旧関係	出土遺物	階高	
						数	柱礎形 状/径	柱取穴	位置	構築材	本体	埋没				平面	断面
S1714	完結	方形	2.0×3.2	N-15° W/西	地山	0	×	×	-	-	-	-	×	S1714 → S1713 → S17262 → S1712		452- 530	530
S17202	確認	正方形	2.8×2.9	N-28° W/西	-	-	-	-	-	-	-	-	-	S17202 → S17262	土師器環(破)・甕(破)。須恵器片(破)・灰(破)。	406	-
S17206	確認	正方形	5.0×5.6	E-2° N/南	-	-	-	-	東辺 中央	-	内側	期?	-	S1720 → S1710 → S17206 → S17302 → S17208 → S17372 → S17458 → S17682 → S17679、S17266 → S17392 → S17355 → S17354	土師器環(破)・甕(破)。須恵器環(破)。鉄製品釘	515	-
S17208	完結	長方形	5.7×6.3	N-39° E/東	版方埋土	4	丸/0.2 ~0.3	×	東辺 中央	凝灰岩切石	内側	×	埋没	S17206 → S17302・ SK7211 → S17208 → S17219、S17347・ 7458 → S17682 → SK7679、S17208 → SK7346・7387	[床面] 須恵器甕。灰石(埋土) 土師器有段丸底環。須恵器甕「台 字」。	515- 531	531
S17210	確認	長方形	3.4×3.0	E-33° N/南	地山	-	-	-	-	-	-	-	-	S17720 → S17210 → S17392・S17212・ SK7490	土師器甕(破)	515	-
S17211	確認	-	2.1×3.8	N-39° W/東	-	-	-	-	-	-	-	-	-	S17211 → S17358	土師器環(破)・甕(破)。須恵器片(破)・灰(破)。丸瓦(破)	453	-
S17212	確認	正方形	5.4×5.3	E-7° S/北	版方埋土	-	-	-	東辺 南側	地山	突出	長 1/4	期破穴 (方下ド)	S17210・7213・ 7416 → S17212 → SK7412・7308	[破] 土師器口付白灰・口付口甕 (破)。小形口付甕。須恵器片 粘糸切石(破)。右製成石。 平瓦(ⅡC 非数智城IV期)・破	435- 513- 545	-
S17213	確認	正方形	4.3×4.1	E-10° N/北	-	-	-	-	東辺 中央	-	内側	長 1/4	-	S17216・S17816 → S17213 → S17212・ S17215 → S17330		513	-
S17214	確認	正方形	4.2×4.3	N-2° W/東	-	-	-	-	-	-	-	-	-	S17218 → S17812 → S17214 → S17215・ S17816 → S17214		496- 513	-
S17215	確認	正方形	4.8×3.2	N-8° W/西	-	-	-	-	北辺 中央	-	突出	×	-	S17216 → S17213・ S17214 → S17215 → S17330	土師器無段丸底環	513	-
S17216	確認	-	0.5×3.2	N-10° W/西	-	-	-	-	西辺 中央	-	内側	×	-	S17218 → S17213 → S17215		513	-
S17217	確認	長方形	2.3×3.6	N-4° W/西	-	-	-	-	東辺 南側	-	突出?	-	-	S17261・S17810 → S17812 → S17217	土師器環(破)・甕(破)	496	-
S17218	確認	長方形	3.1×3.0	E-16° N/北	-	-	-	-	北辺 中央	-	内側	長 1/3	-	S17218 → S17812 → S17214 → S17924	土師器甕(破)	496	-
S17219	完結	正方形	7.0×7.4	N-20° W/西	版方埋土 ・地山	4	丸/0.2	×	北辺 中央	粘土質シル ト・凝灰岩 切石	突出	×	埋没 期破穴(方 下ド)	SK7271 → S17208 → S17219 → S17364 → SA7545、S17219 → S17283 → S17951・ S17219 → S17392 → S17922、S17219 → SK7638	[方下ド] 土師器大型甕。凝灰岩 切石・支脚(床面)土師器環・ 大卒甕・甕(埋没)土師器環・甕・ 大卒甕。灰石(埋土)土師器高片 環。土製鉛筆環。須恵器環	512- 534	534
S17221	完結	正方形?	4.2×3.5	E-18° N/南	版方埋土	4	丸/0.2	×	北辺 中央?	-	-	-	埋没	SE7258・SK7278 → S17221 → SK7334・ S17257・S17933・ S17932	[床] 土師器片甕。須恵器甕(埋 土)土師器高片・井口口(破)。 井口口甕(破)	466- 539	539
S17223	確認	正方形	4.6×4.7	N-7° W/東	-	-	-	-	北辺 中央	-	内側	-	-	S17224・SK7946 → S17223 → S17251・ S17933・S17955・ SA7545		513	-
S17224	確認	長方形	4.1×3.9	E-15° N/南	版方埋土	-	-	-	東辺 中央	-	内側	-	-	S17224 → S17223 → S17251・SA7545	土師器環(破)・井口口甕(破)。 須恵器環(破)・甕(破)・甕(破)。 灰石(埋土)	513	-
S17254	確認	長方形	3.8×4.5	N-6° W/東	-	-	-	-	-	-	-	-	-	S17254 → S17327 → S17357・7454・ 7950・7952・ 7251、S17254 → SK7360 → S17324		513	-
S17255	確認	長方形	3.9×3.3	E-17° N/北	-	-	-	-	北辺 中央	-	突出	-	-	S17821 → S17255 → S17100		513	-
S17257	完結	正方形	4.8×4.8	N-5° W/西	版方埋土	4	丸/0.2	×	北辺 中央?	-	-	-	埋没 柱取穴(7 期)	SK7405 → S17434 → S17258 → S17221・ 7258 → S17257 → SK7334・7959	[埋土] 土師器片甕。須恵器甕・ 甕。丸瓦(埋没) 須恵器環・甕。 須恵器片甕	466- 539	539
S17261	確認	正方形	4.9×5.5	E-24° N/北	-	-	-	-	東辺 中央	-	突出	-	-	S17261 → S17217・ S17100・S17260	須恵器四耳甕(大戸甕)	496	-
S17275	確認	-	0.9×3.5	N-2° E/西	-	-	-	-	-	-	-	-	-	S17275 → SK7124・ 7128 → SK750	土師器環部有段高片・井口口甕 (破)。須恵器甕(破)	517- 519- 521	-

表50-2 L区竪穴住居跡属性表2

遺構名	調査	平面形	規模 (m) 東西×南北	方向/ 射線図	深	主柱 (m)			カマド			施設	新設関係	出土遺物	記録		
						柱 数	柱 形状/ 径/径	柱 数/柱	位置	構築材	本体				煙道	平面	断面
SF7260	確認	台形	4.6 × 4.4	E-14° N/北	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7289 → SF7295 → SD7260		513	-	
SF7327	確認	正方形	3.7 × 3.8	N-2° W/東	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7254 → SF7327 → SB7454、7990・ 7952 → SD7604、 SF7327 → SB7251・ 7757		512	-	
SF7364	発掘	正方形	3.2 × 3.0	N-6° W/西	側方埋土 +地山	0	×	×	北道 中央	シムト+地 山	内側	長 1/1	周溝	SK7271 → SF7219 → SF7364 → SA7545・ SB7682	[方マド埋] 須恵器環、鉄鏝 [方 マド埋土] 土師器甕 (灰皿) 須 恵器器環・甕 (埋土) 土師器環・ 甕、須恵器環 [埋] 土師器環・ 甕、丸底平底小型環・非口ク口 甕 (銅)、須恵器環・甕 (銅)、 香 (銅段座?)、丸瓦 (銅)、磁材?	515・ 542	542
SF7392	確認	正方形	9.3 × 8.9	E-5° N/北	地山	4	?	○	-	-	-	-	周溝	SF7210 → SF7206 → SF7392 → SK7355・ SF7208、SD7458 → SB7682、SF7202 → SB2037・7447	土師器非口ク口環 (銅)、非口ク 口甕 (銅)、須恵器環 (銅)・甕 (銅) 香 (銅)、和瓦 (銅) (雙配座)	515・ 453	-
SF7393	確認	長方形	3.6 × 2.5	E-22° N/南	-	-	-	-	北道 中央	-	-	-	-	SF7393 → SA7176	土師器内面平底小型環・甕 (銅)、 須恵器甕 (銅)	453	-
SF7416	確認	-	4.3 × 1.0	N-10° E/西	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7416 → SF7212・ SK7329		513	-
SF7437	確認	-	0.9 × 1.7 ×	N-11° W/東	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7437 → SF7438 → SD2021、SK750		517	-
SF7438	確認	-	2.2 × 0.6 ×	E-32° N/北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7437 → SF7438 → SD2021、SK750		517	-
SF7439	確認	-	0.5 × 0.9 ×	N-16° W/東	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7439 → SD2021		517	-
SF7440	確認	-	0.5 × 1.9 ×	N-16° W/東	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7440 → SK7193・ SD7096		522	-
SF7729	確認	長方形	2.3 × 2.5	N-7° W/西	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7720 → SF7210 → SF7208 → SF7392		515	-
SF7766	確認	長方形	3.2 × 5.3	N-5° W/西	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7766 → SD7767 → SD7847、SF7766 → SB7775	土師器環 (銅)・甕 (銅)、須恵 器環 (銅)・甕 (銅)、小型静土 系切ヘラケ文片持	456	-
SF7808	確認	正方形	3.7 × 3.7	N-25° W/西	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7808 → SF7358 → SD7262 → SK7103		496	-
SF7809	確認	長方形	3.1 × 4.3	E-24° N/北	-	-	-	-	東道 中央	-	-	長?	-	SF7812 → SF7809 → SB7903、SF7809 → SF7813 → SD7262		496	-
SF7810	確認	台形	2.8 × 2.9	E-10° N/南	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7811 → SF7810 → SF7217		496	-
SF7811	発掘	正方形	4.7 × 4.5	N-29° W/東	-	-	-	-	北道 中央	-	内側	短?	貯蔵穴	SF7814 → SF7811 → SF7810、SD7100・ SD7200・SK7102・ 7910	土師器有段丸底環・有段丸底 甕・甕	496	-
SF7812	確認	正方形	4.1 × 4.4	N-17° W/東	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7218 → SF7812 → SF7809・7214・ 7217 → SB7903・ SB7924		496	-
SF7813	確認	正方形	1.3 × 2.1	N-18° W/西	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7809 → SF7813 → SD7262		496	-
SF7814	確認	台形	4.5 × 5.3	N-13° W/東	-	-	-	-	北道 西側	-	-	-	-	SF7815 → SF7814 → SF7811 → SD7100・ SK7103・7175		452・ 496	-
SF7815	確認	-	1.3 × 2.5	N-25° W/東	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7815 → SF7814 → SD7100		452	-
SF7816	確認	正方形	3.9 × 3.0	E-24° N/北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7816 → SF7213・ SF7214		496・ 513	-
SF7817	確認	長方形	5.7 × 6.1	N-6° E/東	側方埋土	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7817 → SB2037	土師器有段丸底環・甕 (銅)	515	-
SF7818	確認	-	1.7 × 0.8 ×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7819 → SF7818 → SB7935		515	-
SF7819	確認	-	1.9 × 1.4 ×	E-7° N/南	-	-	-	-	東道 中央?	-	内側	短?	-	SF7819 → SF7818 → SB7935		515	-
SF7820	確認	-	1.5 × 7	E-27° N/南	-	-	-	-	東道 中央?	-	内側	短?	-	SF7820 → SF7257		515	-
SF7821	確認	長方形	3.5 × 4.0	N-11° W/西	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SF7821 → SF7255・ SK7940・SB7941 → SD7100 → SD7604		510	-
SF7861	確認	長方形	3.1 × 3.4	E-39° N/南	-	-	-	-	東道 中央	-	-	-	-	SA7621 → SF7862 → SF7861 → SB7930		466	-
SF7862	確認	正方形	3.9 × 3.9	E-39° N/北	-	-	-	-	北道 中央	-	-	-	-	SA7621 → SF7862 → SF7861 → SB7930		466	-

表50-3 L区竪穴住居跡属性表3

遺構名	調査	平面形	規模 (m) 東西×南北	方向/ 針高角	床	主柱 (m)			カマド			階段	新旧関係	出土遺物	図番	
						数	柱形状/ 径	柱取穴	位置	構築材	本体				煙道	平面
S17863	確認	長方形	2.7 × 5.1	N-12° W/西	地山?	2	丸/φ2	-	-	-	-	-	S17863 → S17957 → S17772・7928 → S17604	466・ 512	-	
S17864	確認	長方形	4.4 × 3.2	E-32° N/南	-	-	-	-	東辺 中央	-	張出	-	S17864 → SA7621 → S17900・7899・ SK7628・7710	507	-	
S17865	確認	正方形	3.1 × 3.5	N-19° W/西	-	-	-	-	-	-	-	-	S17865 → SK7570・ SK7932 → S17927 → S17604	512	-	
S17866	確認	台形	3.4 × 3.8	E-20° N/北	-	-	-	-	東辺 南側	-	内照	長 /L2	SA7621 → S17866 → S17926・7949	507	-	
S17867	確認	-	2.5 × 1.3*	E-15° N/北	-	-	-	-	-	-	-	-	S17867 → S17808・ SK7572・7573・ S17949・S17604	507・ 512	-	
S17868	確認	正方形	2.9 × 3.8	N-15° W/西	-	-	-	-	-	-	-	-	S17867・7869 → S17968 → SK7576・ S17604	507・ 512	-	
S17869	確認	-	1.9 × 2.0*	N-27° W/西	-	-	-	-	-	-	-	-	S17869 → S17868 → SK7576	507	-	
S17870	確認	正方形	3.4 × 3.6	N-5° W/東	-	-	-	-	西辺 中央	-	-	-	S17871・SA7621 → S17870 → S17763・ 7760・7944	507・ 512	-	
S17871	確認	正方形	2.6 × 3.0	E-7° N/北	-	-	-	-	-	-	-	-	S17872 → S17871 → S17870 → S17760・ 7763・7926・ 7944・S17871 → S17620	507・ 510	-	
S17872	確認	正方形	2.7 × 1.4*	E-14° N/南	-	-	-	-	-	-	-	-	S17872 → S17871 → S17870 → S17763・ S17872 → S17760・ 7944	510	-	
S17873	確認	長方形	4.7 × 3.7	E-2° S/北	地山?	4	丸/φ2	-	-	-	-	-	S17873 → S17776・ 7941 → S17604	510	-	

・ 規模が不明なものは、数値に * を加えている ・ カマド本体が住居内部にあるものを内照、外へ張り出すものを外照とする
 ・ 長さが 0.9 m 以上を長煙道、0.7 m 以下を短煙道とする ・ (出土遺物) [編]: 遺構確認面出土、[用]: 磨蝕土出土、[破]: 破片資料

表50-4 L区竪穴住居跡属性表4



1



2



3



4

図版546 L区竪穴住居跡出土遺物 1



No.	器種	遺物番号	層位	図説	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	残存	分類	備考	登録
1	土師器・杯	SF7811	準	外面：ヨコナデ→ハラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(19.4)	—	5.6	1/2	B1		3016
2	土師器・杯	SF7215	確認面	外面：ヨコナデ→ハラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(12.8)	—	5.4	1/2	F		3004
3	土師器・杯	SF7393	確認面	内外面：ヘラミガキ→黒色処理	(11.4)	5.6	3.4	1/3	—		1979
4	土師器・高坪	SF7275	床	外面：ハマメ→ヨコナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底面：ナデ→ハラケズリ	(13.4)	(5.9)	8.4	1/2	A		1976
5	石製品・砥石	SF7222			—	—	—	—	—	長さ：126.0 g	1974
6	陶器器・転用砥	SF7224	確認面		—	—	—	—	—	磨底部を転用	1975
7	陶器器・転用砥	SF7392	確認面	外面：ロクロナデ→斜格子タタキ→ナデ 内面：ロクロナデ→同心円状アテ具	—	—	—	—	—	磨を転用	1980
8	陶器器・転用砥	SF7202	確認面	外面：ロクロナデ→平行タタキ→断面接合後のロクロナデ 内面：ロクロナデ→同心円状アテ具→無文アテ具	—	—	—	—	—	磨を転用	1962
9	鉄製品・鉄錐	SF7206	確認面		—	—	—	1/3	—	長軸：10.7cm 短軸：2.0cm 厚さ：0.5cm	1963

図版547 L区竪穴住居跡出土遺物2



No.	種類	層位	図解	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	残存	分節	重量	登録
1	石製品・磨石	床間切		—	—	—	—	—	重量: 132.0 g	1957
2	土師器・杯	床間切	外面: ヨコナデ・ヘラケズリ 内面: ヨコナデ・ヘラミガキ	(12.5)	—	4.6	3/5	G2	徳栄系土師器	1954
3	土師器・壺	床間切	外面: ハケヌ→ [1] ヨコナデ・[瀬下部] 手持ちヘラケズリ 内面: [1] ヨコナデ→ [瀬] ヘラナデ	(20.0)	(8.2)	(27.1)	3/4	B	深鉢形, 無底	1958
4	石製品・砥石	床間切		—	—	—	—	—	重量: 539.0 g	1959

図版548 S17098竪穴住居跡出土遺物

6. 円形周溝跡

円形または楕円形に巡る溝跡で、内部に柱穴等の明確な付属施設は認められない。2基確認したが、両者とも遺構精査は行っていない。類似する遺構はJ区のSX11905・12173・12538円形周溝跡のほか、仙台市長町駅東遺跡（仙台市教委2014a）や加美町壇の越遺跡（加美町教委2004）などに認められる。内部に柱穴を伴う、もしくは溝自体が壁の据え方となる平地建物とみられる。

【SX7945円形周溝跡】（図版477）

調査区南西部で確認した。遺物は出土していない。

〔重複〕（新）SB7902、SD7847

〔規模・堆積土〕溝で囲まれた内径は南北5.6m、東西4.5mほどである。溝の上幅は0.4～0.7mである。

【SX7946円形周溝跡】（図版510）

調査区南西部で確認した。遺物は出土していない。

〔重複〕（古）S17821（新）SA7545、SB7953、SD7604、S17223

〔規模・堆積土〕溝で囲まれた内径は4.5m前後とみられ、溝の上幅は0.4～0.5mである。堆積土は暗褐色砂質シルトである。

7. 井戸跡

井戸側を有するもの2基、素掘りのもの3基を確認した。これらの属性は表51にまとめている。

〈側を有するもの〉

【SE7105井戸跡】（図版453・549）

調査区東部で確認した、横板組の側の下に例抜き材の水溜部を持つ井戸跡である。SX7103整地層の下で確認した。

〔重複〕（古）SA7755・7756、SK7762、SX7124・7128

（新）SF7277、SX7103

〔堆積土〕8～10層が側内堆積土で自然堆積、11～14層は裏込土である。

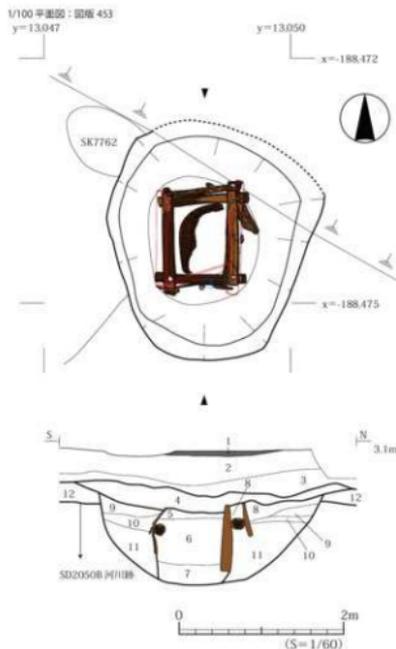
〔掘方〕長軸2.9m、短軸2.4mの不整形で、深さは1.7m、断面は逆台形である。

〔側〕（図版554～558）

側は、水溜部の上に内法が0.9m×0.6mの井桁を組み、組合せ部に柄穴を開けて隅柱を立て、その外に横板を井籠組しており、2段残存していた（30～33）。井桁は芯持ち材や割材を用い、組合せ面を四角に彫り込んで互いに組み合わせている（26～29）。隅柱は芯持ち材を用い、下端の仕口は包込柄とし、井桁に差し込んだ。水溜部は井戸桁から0.7m下がり、東壁の縦板に対して例抜き材をU字形にあてている。こうした側の底側には、裏込めの際、縦板を並べて土圧を減らす工夫が施された。

〔出土遺物〕（図版550～553）

底面からは土師器環（3・4）、須恵器環（5～8・10）・甕（17）・横瓶（14・15）、土製管玉（1）骨角製品鹿角素材（20）・骨素材（21）、鉄鎌（22）などが出土した。土師器環は回転ヘラケズリが施

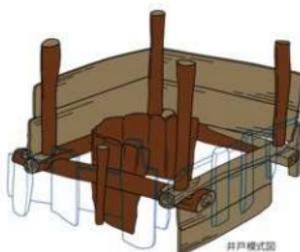


井戸側視出状況(南から)



井戸側視出状況(東から)

層位	土色	土性	遺人物など	備考
1	灰白色 (2.5Y7/1)	シルト		灰白色が山底
2	暗灰色 (10YR4/1)	シルト	粘性強。炭化穀・マンガンを含む	SK7103 惣地層
3	黒褐色 (10YR3/1)	粘土	炭化物を少し含む	
4	暗灰色 (N3-0)	シルト	瓦出土	側視取穴
5		粘土		
6		粘土～砂		側内堆積土
7		細砂		
8	暗緑灰色 (10G4/1)	細砂	地山ブロック含む	
9	暗緑灰色 (5G4/1)	粗砂～細砂	地山ブロック含む	
10	明オリーブ灰色 (2.5GY7/1)	細砂	地山ブロック含む	表込土
11	黒色 (5Y2/1)	粘土	地山ブロック含む	
12	黒色 (7.5Y2/1)	粘土		SK7124・7128 惣地層



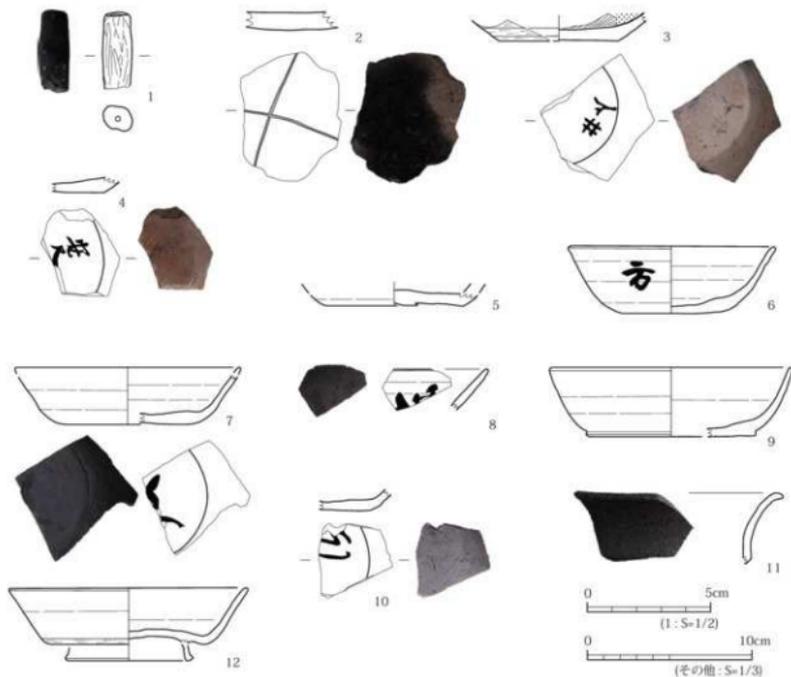
井戸復元図

図版549 SE7105井戸跡

され、須恵器環はヘラ切りと回転系切りがある。

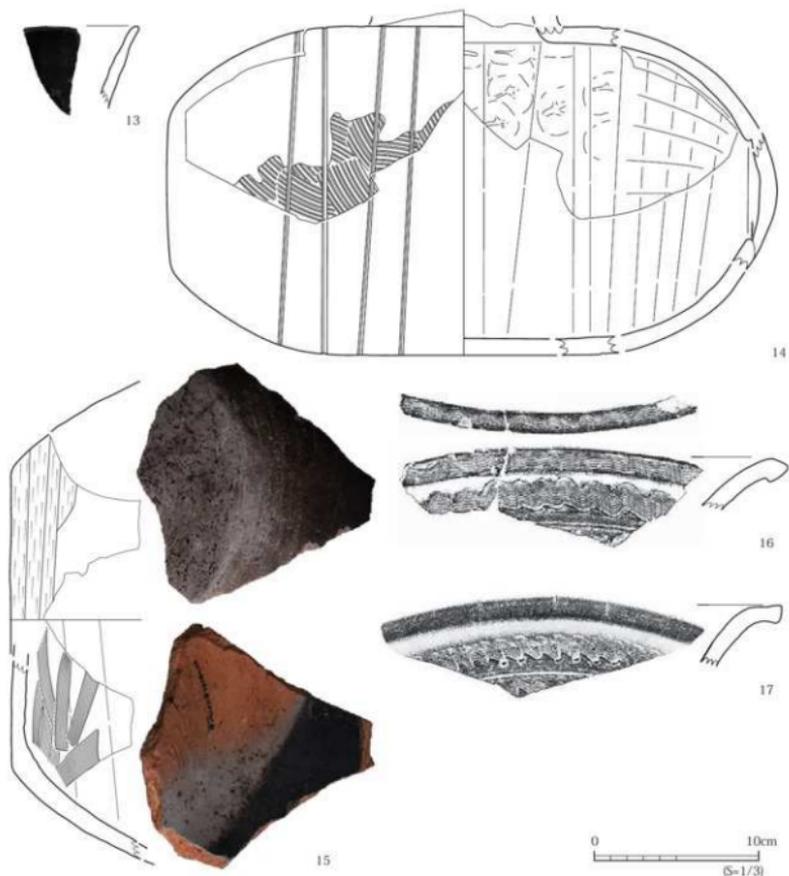
側内堆積土(5～7層)からは、土師器環(2)・蓋、須恵器環・双耳環・稜碗(11)・長頸壺・壺(13)・甕(16)、灰釉陶器壺、柄杓底板(24)、銅鏡(23)などが出土した。土師器環は回転系切りで、須恵器稜碗は大戸産である。

裏込土(8～11層)からは、土師器環・高台埴、須恵器環(9)・高台環(12)・甕(18)、軒平瓦(19)、木皿(25)、鉄滓などが出土した。須恵器高台環には大戸産が認められる。軒平瓦は多賀城第Ⅱ期の単



No.	品種	部位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土製品・碧玉	底面	表面: ナデ→ヘラミガキ→黒色処理	—	—	—	3/4	径軸: 3.1cm 胎軸: 1.2cm 孔径: 0.3cm	2019
2	土師器・坏	胴内縁	内面: ヘラミガキ→黒色処理	—	—	—	一部	底部外面にヘラ書き「×」	2045
3	土師器・坏	底面	外面: ロクロナデ 内面: ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底面: 切離し不明→回転ヘラケズリ	—	(7.2)	—	一部	底部に墨書「井上」	2023
4	土師器・坏	底面	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転車切り→回転ヘラケズリ	—	—	—	一部	底部に墨書「寛尺」	2015
5	須恵器・坏	底面	内外面: ロクロナデ 底面: ヘラ切り→ナデ	—	(8.2)	—	一部	底部に墨書「□」, 胎土に海輪付針を 残存含む	2009
6	須恵器・坏	底面	内外面: ロクロナデ 底面: ヘラ切り→ナデ	(12.4)	(6.0)	4.2	1/3	体部外面に墨書「方」(正位)	2008
7	須恵器・坏	底面	内外面: ロクロナデ 底面: ヘラ切り→ナデ	—	(8.4)	—	一部	底部外面に墨書「□」	2017
8	須恵器・坏	底面	内外面: ロクロナデ	—	—	—	一部	体部に墨書「□」, 胎土に海輪付針を 残存含む	2021
9	須恵器・坏	裏込	内外面: ロクロナデ 底面: 切離し不明→ナデ	(14.8)	(10.0)	4.2	1/5	—	2024
10	須恵器・坏	底面	内外面: ロクロナデ 底面: 切離し不明→ナデ	—	—	—	一部	底部に墨書「□」, 胎土に海輪付針を 残存含む	2010
11	須恵器・ 高台杯	胴内縁	内外面: ロクロナデ	—	—	—	一部	大戸産	2035
12	須恵器・ 高台杯	裏込	内外面: ロクロナデ 底面: ヘラ切り→回転ヘラケズリ→高台 取付→ナデ	(14.6)	(7.7)	(4.4)	1/2	大戸産	2026

図版550 SE7105井戸跡出土遺物 1



No.	器種	部位	図案	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
13	須恵器・甕	胴内埴	内外面：ロウロナ字	-	-	-	一部		2037
14	須恵器・椀	底面	外面：平行タタキ→カキメ→椀底状沈線 内面：「十」字状ア字具	-	-	-	1/3	SE7105 - 底面と接合。 最大幅：28.1cm	2014
15	須恵器・椀	底面	外面：回輪ヘラケズリ→ナデ 内面：同心ヨオサエ→ヘラナデ	-	-	-	一部		2011
16	須恵器・甕	胴内埴	外面：回輪ヘラケズリ→ナデ	-	-	-	一部		2036
17	須恵器・甕	底面	内外面：ロウロナ字→椀底状沈文 口縁上縁に椀底状沈文	-	-	-	一部		2012

図版551 SE7105井戸跡出土遺物2



No.	品種	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
18	須弥器・甕	裏込	外面：ハケメー一部手持ちヘラケズリ 内面：ハケメ	—	—	—	一部		2028
19	瓦・軒平瓦	裏込		—	—	—	一部	多賀城瓦部、甲風文 (640)	2032
20	骨角製品・鹿角素材	底面	切断面・全体に整形痕	—	—	—	—	素材：シカ・枝角先端、ビブアナイド付着。長軸：5.6 短軸：2.5 厚さ：1.1cm	77
21	骨角製品・鹿角素材	底面	切断面	—	—	—	—	素材：ウマ・中足骨IV (L)。長軸：11.7 短軸：2.3 厚さ：1.1cm	78
22	鉄製品・鍔	底面		—	—	—	2/3	長軸：11.04 短軸：1.0 厚さ：0.3cm	2013
23	銅製品・筒	筒内埋		—	—	—	一部		2034
24	木製品・柄杓	筒内埋		—	—	0.6	一部		2617
25	木製品・皿	裏込		17.2	12.0	1.5	2/3		2619

図版552 SE7105井戸跡出土遺物3



6



9



12



25



14



21a

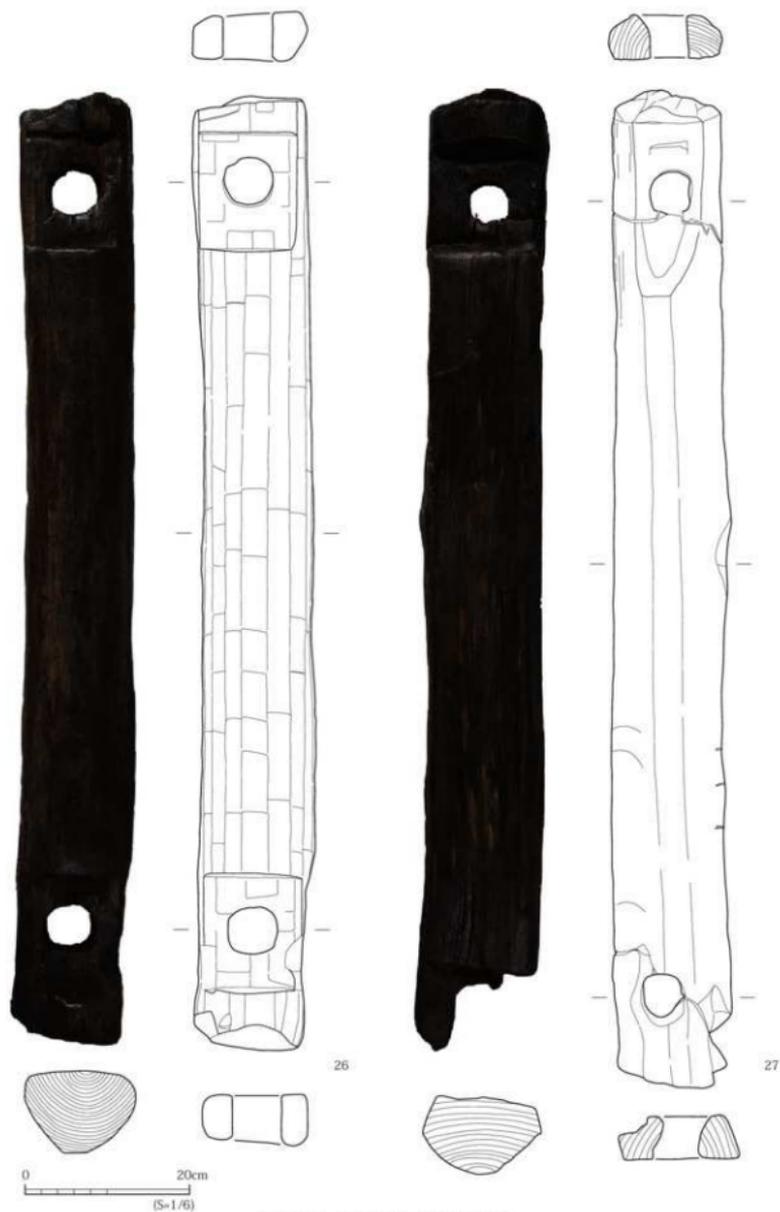


21b



20

図版553 SE7105井戸跡出土遺物 4



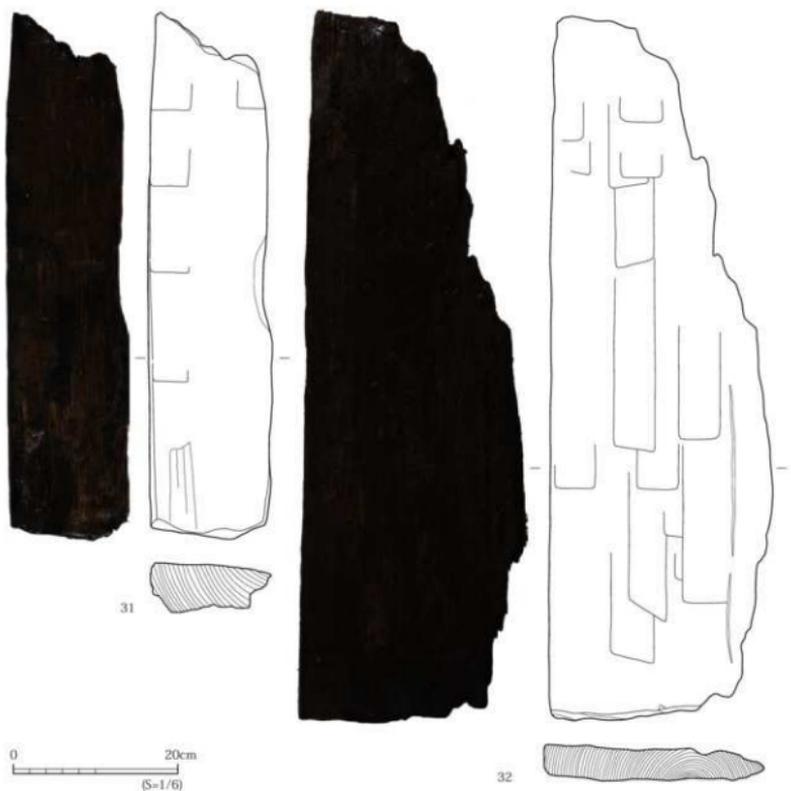
図版554 SE7105井戸跡出土遺物5



図版555 SE7105井戸跡出土遺物6



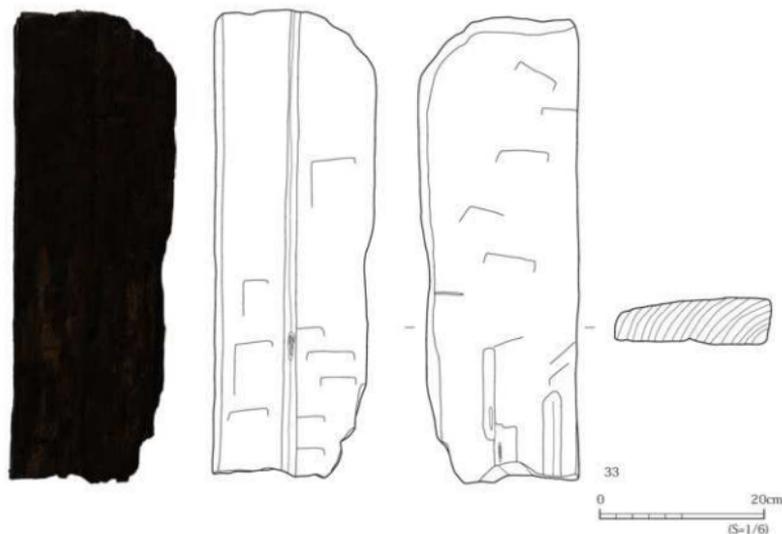
図版556 SE7105井戸跡出土遺物7



図版557 SE7105井戸跡出土遺物8

弧文（多賀城分類640）である。

また、2は底面にヘラ記号「×」、3・5・7・10には底面に墨書、6・8には体部に墨書が認められる。読みがわかるものとしては、「井上」（3）、「安尺」（4）、「方」（6）がある。



No.	種類	位置	長軸 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	径 (cm)	残存	備考	登録	図版
26	井戸桁	東辺	116.8	13.4	14.0	—	完形	両端に溝柱用の納穴	2637	554
27	井戸桁	西辺	121.0	14.3	9.5	—	完形	両端に溝柱用の納穴	2641	554
28	井戸桁	南辺	114.5	10.7	—	9.8	完形	両端に溝柱用の納穴	2642	555
29	井戸桁	北辺	95.3	11.8	—	11.9	完形	両端に溝柱用の納穴	2643	556
30	井戸桁・横板	東辺下段	121.5	23.8	4.0	—	—	—	2638	556
31	井戸桁・横板		63.2	14.8	5.4	—	—	—	2640	557
32	井戸桁・横板		86.0	26.7	4.0	—	—	—	2650	557
33	井戸桁・横板		56.1	18.8	5.6	—	—	—	2639	558

図版558 SE7105井戸跡出土遺物9

【SE7434井戸跡】(図版466・559)

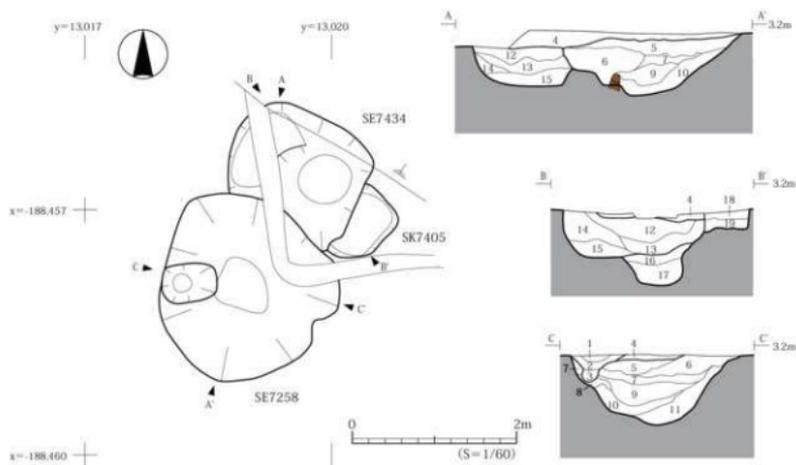
調査区中央部北端で確認した、側を有する井戸跡とみられる。SE7258・7434は人為的に埋め戻され、その上を整地して、SI7221・7257竅穴住居が建てられた。

〔重複〕(古) SK7405 (新) SE7258、SI7221・7257

〔規模・堆積土〕長軸1.7m以上の不整楕円形で、深さは1.3mある。断面は漏斗形である。堆積土は上層(13～15層)が地山ブロックを含む灰黄褐色・褐灰色などの砂質シルトで、埋戻し土である。下層(16・17層)は褐灰色・黒褐色の砂質シルト～粘土質シルトで、自然堆積である。こうしたことから、本井戸は水溜部を有した木組みであり、上層は側抜き取り後の埋め戻しと考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から土師器環・甕が出土した。

SE7258・SE7434 1/100平面図：図版 466



遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
Pit	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	炭片が多く住居	
	2	黒褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	地山ブロックをかたまりで多く含む	
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	均一で凝り少ない	
惣地層	4	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	炭化物・土器小片・白色骨片を点々と含む	埋土 (惣地層)
	5	黒褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	炭化物・黄灰色砂質シルトブロックを少し含む	人為堆積土 (埋戻し土)
SE7258	6	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	黄灰色砂質シルトブロックを多く含む	
	7	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	黒色土と黄灰色砂の混合土	
	8	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	黒色土と黄灰色砂の混合土	
	9	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト		自然堆積土 (井戸内堆積土)
	10	黒褐色 (2.5Y3/2)	砂質シルト		
	11	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	粘性強。均一層	
SE7434	12	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト		自然堆積土
	13	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	砂質シルト	炭化物含む	
	14	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	人為堆積土 (埋戻し土)
	15	黒灰色 (10YR4/1)	シルト	地山ブロックを含む。炭化物を少し含む	
	16	黒灰色 (10YR4/1)	粘土質シルト	地山ブロックを含む	
SK7405	17	黒褐色 (2.5Y3/1)	砂質シルト	地山ブロック・炭化物を含む	自然堆積土 (井戸内堆積土)
	18	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	地山ブロックを含む	人為堆積土
	19	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む	

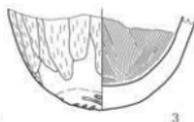
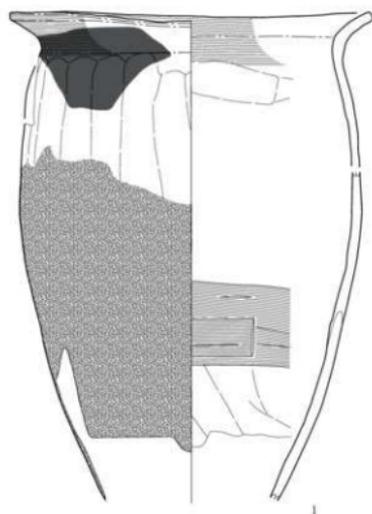


SE7258 断面 (南から)



SE7258・7434, SK7405 断面 (南から)

図版559 SE7258・7434井戸跡



No.	器種	層位	図説	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・大型甕	7～11層	外面：ココナデ・ナデ 内面：ココナデ・ナデ・オサエ・ヘラナデ	22.0	—	—	1/3	胴中央部：カマド装着時の粘土層	2111
2	須恵器・模印	7～11層	外面：ナデ→平行タタキ→胴部接合後ナデ 内面：ロクロナデ→アケ目不明→胴部接合後ナデ	—	—	—	一部		2112
3	須恵土器・鉢	7～11層	外面：手持ちヘラケズリ・ナデ 内面：ナデ	—	—	—	一部	乾燥時の糠状圧痕	2216

図版560 SE7258井戸跡出土遺物

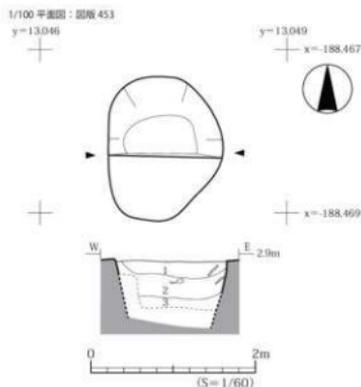
〈素掘りのもの〉

【SE7258 井戸跡】(図版466・559)

調査区中央部北端で確認した素掘りの井戸跡である。

〔重複〕(古) SE7434、SK7405 (新) SI7221・7257

〔規模・堆積土〕長軸2.1mの楕円形で、深さは0.8m、断面は椀形である。堆積土は上層(5・6層)が地山ブロックを含む暗褐色・黒褐色などの砂質シルト～シルトで埋戻し土である。下層(7～11層)は灰黄褐色・黒褐色などの砂質シルトで、自然堆積である。本井戸は埋め戻された後、SE7434とともに整地層で覆われる。その上にはSI7257竪穴住居がつけられたことから、住居構築に伴って窪地が整



SE7292 断面 (北から)

層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	炭化物を少し含む	
2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	炭化物・地山殻を少し含む	自然堆積土
3	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	炭化物を少し含む	

図版 561 SE7292井戸跡

地されたと考えられる。

〔出土遺物〕(図版 560)

下層から土師器大型甕(1)・甕、須恵器横瓶(2)、製塩土器(3)などが出土した。土師器は非ロクロ調整である。大型甕の胴中央には、カマドに装着した際の粘土が付着していた。製塩土器は底部が丸底で、焼成前の簾状圧痕が認められる。

【SE7292 井戸跡】(図版 453・561)

調査区東部北側で確認した素掘りの井戸跡である。半葺した上、堆積土の途中で調査を止めている。

〔重複〕(古) SA7755、SD7344、SX7124・7128 (新) SX7103

〔規模・堆積土〕1.8m×1.4mの不整楕円形で、深さは0.6m以上、断面は円筒形とみられる。堆積土は暗褐色や黒褐色のシルトで、自然堆積とみられる。

〔出土遺物〕(図版 562)

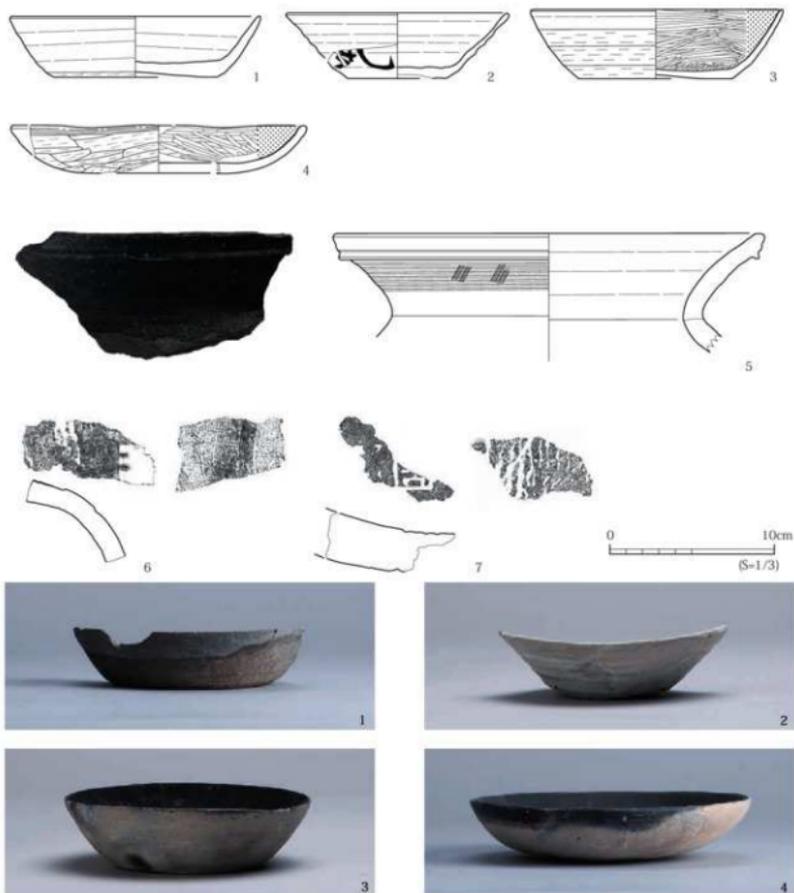
堆積土から土師器杯(3)・盤(4)・甕、須恵器杯(1・2)・高台杯・中甕(5)、丸瓦(6)・平瓦(7)などが出土した。土師器杯は逆台形で、静止糸切り後回転ヘラケズリが施される。須恵器杯はヘラ切りや回転糸切りがある。丸瓦や平瓦は多賀城第Ⅱ期のⅡB類である。また、1の底面にはヘラ記号「×」、2は体部に墨書、6は凸面に刻印「伊」、7は凹面に刻印「矢」が認められる。

【SE7758 井戸跡】(図版 512・563)

調査区中央部で確認した素掘りの井戸跡である。

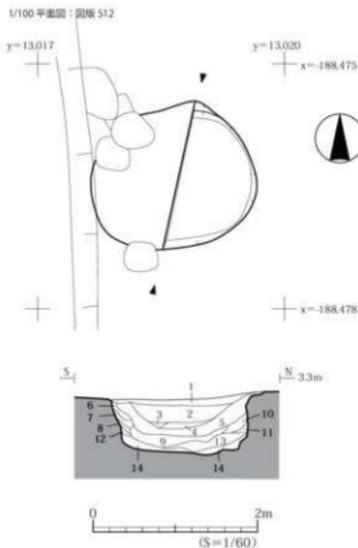
〔重複〕(新) SB7454・7757・7950、SD7604

〔規模・堆積土〕直径2.0mの円形で、深さは0.7m、断面形は浅い円筒形である。堆積土は上層(1～5層)が、地山ブロックを含む褐灰色などのシルトで人為堆積、下層(6～14層)はにぶい黄褐色の砂～シルトで、自然堆積である。



No.	器種	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	須恵器・坪	埴	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→回転ヘラケズリ	(15.0)	(9.8)	3.7	1/2	内部に火跡。底部に刻書「十」	3030
2	須恵器・坪	1 層	内外面：ロクロナデ 底部：回転系切り	(13.4)	5.0	4.0	1/3	体部外面に刻書「□」(正位)	2053
3	土師器・坪	2 層	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底面：静止系切り→回転ヘラケズリ	(15.3)	(9.4)	4.2	1/2		2052
4	土師器・製	埴	外面：ヨコナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(17.6)	—	3.0	一部		3031
5	須恵器・中畿	埴	外面：平行タタキ→ロクロナデ→突帯貼付→カキメ 内面：ロクロナデ→ナデ	(25.8)	—	—	一部	外面に自然釉	3032
6	瓦・丸瓦	埴	凸面：縄タタキ目→ロクロナデ 凹面：布目 黏土練香き作り	—	—	—	一部	多質成分類：丸瓦ⅡB類。凸面に研印(伊)	3033
7	瓦・平瓦	埴	凸面：縄タタキ目→布目 凹面：布目→ナデ 一枚作り	—	—	—	一部	多質成分類：平瓦ⅡB類。凹面に研印(瓦)	3034

図版562 SE7292井戸跡出土遺物



2層遺物出土状況(東から)



最下層遺物出土状況(東から)

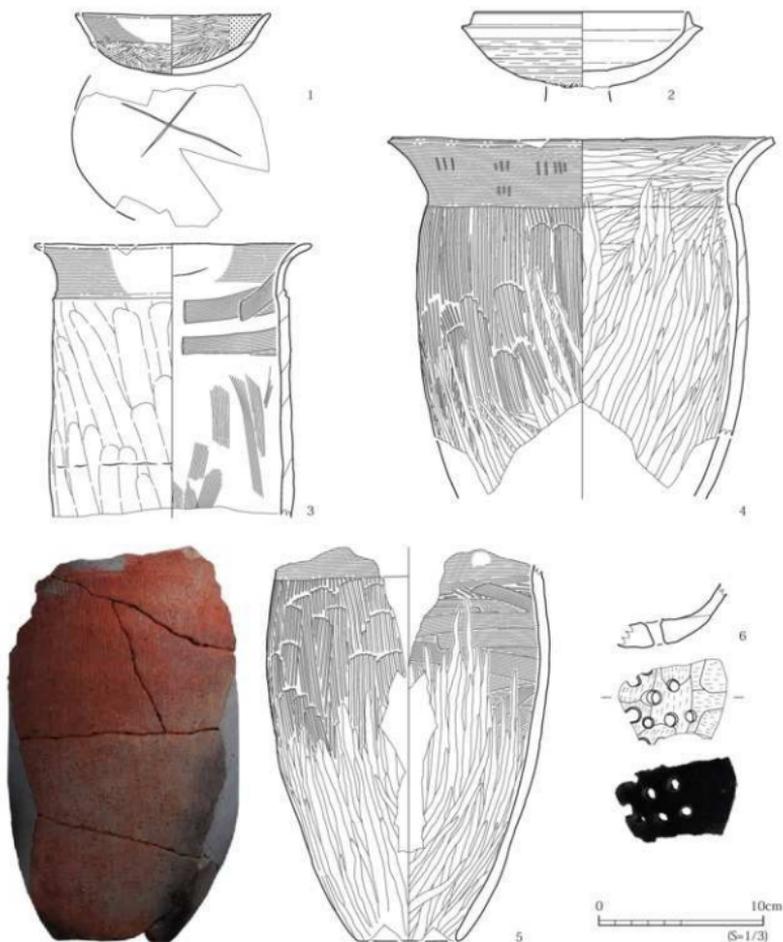
層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト質砂	細～中粒。瓦片を含む。下底にシルトブロック多しを含む	人為堆積土
2	褐色 (10YR4/1)	シルト質砂	中粒砂礫物、炭化物・黄灰色シルトブロックを含む	
3	褐色 (10YR4/1)	シルト質砂	灰色シルトブロックを多く含む	
4	褐色 (10YR4/1)	シルト質砂	中粒砂	
5	褐色 (10YR5/1)	シルト質砂	シルトブロックを多く含む。細砂～中粒砂・黄灰色シルトブロックを含み層上部に多い。炭化物を含む。土の遺物が出土	自然堆積土
6	にぶい・黄褐色 (10YR6/3)	シルト質砂	中粒砂シルトブロック状を呈し暗灰色シルトを含む	
7	にぶい・黄褐色 (10YR6/3)	中～粗粒砂	ラミナ状堆積。層理に平行する	
8	にぶい・黄褐色 (10YR6/3)	シルト～極細粒砂	土色は層底を含む	
9	黄褐色 (10YR3/1)	砂～シルト	黄灰色シルトブロックを多く含む下底に木材片が多く出土。遺出土	
10	にぶい・黄褐色 (10YR6/3)	中粒砂	ラミナ状堆積	
11	にぶい・黄褐色 (10YR6/3)	砂状じりシルト		
12	褐色 (10YR4/1)	中粒砂		
13	褐色 (10YR5/1)	砂	シルトブロック状じり極細粒砂。黄灰色シルト、灰色シルト、砂ブロックを多く含む。層底片出土	
14	褐色 (10YR6/1)	中粒砂		

図版563 SE7758井戸跡

〔出土遺物〕(図版564～566)

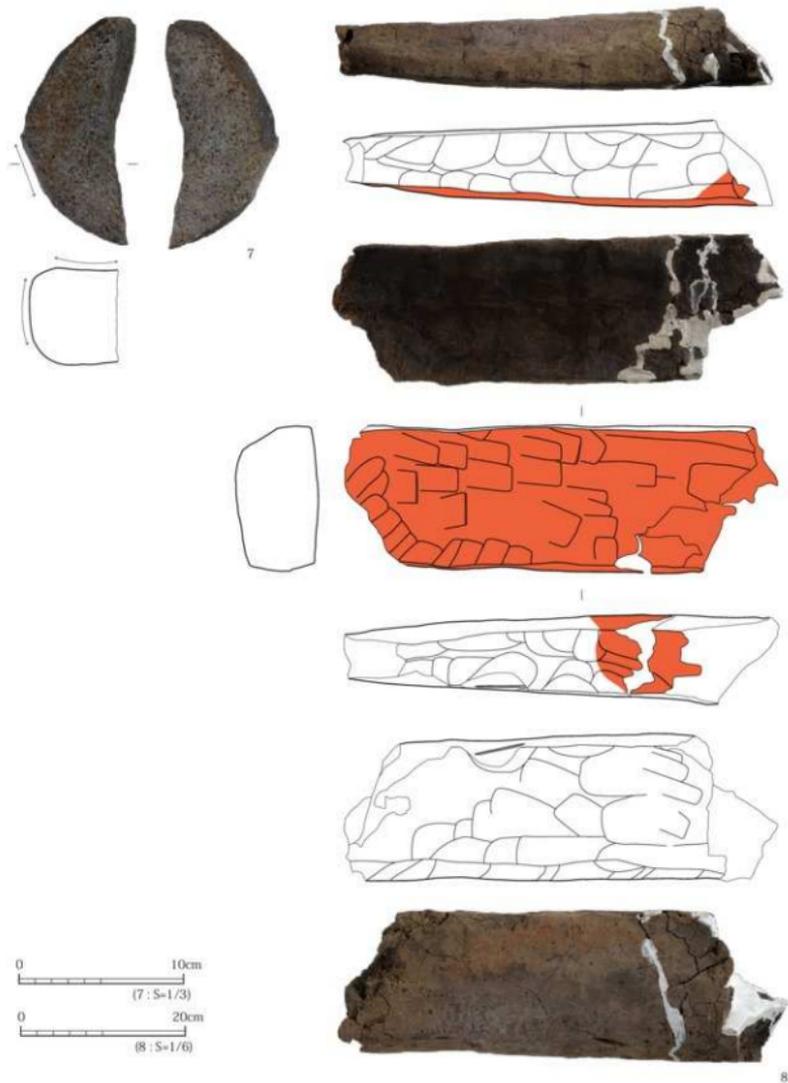
堆積土から土師器環(1)・大型甕(3)・甕(4～6)、須恵器高環(2)、砥石(7)、凝灰岩切石(8)などが出土した。このうち、1の底面にはヘラ記号「×」が認められる。

土師器環は有段丸底で、大型甕や甕は頸部に段を有する。甕は無底と多孔が認められる。須恵器高環はTK209窯式期である。凝灰岩切石は、外面にススが附着していることから、カマド焚口部の天井石として使用されたと考えられる。



No.	器種	部位	図型	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	分類	備考	登録
1	土師器・杯	埴	外面：ヨコナデ→ヘラタズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色塗布	(11.7)	—	3.6	2/3	B1	底面にヘラ書き「×」	3125
2	土師器・高杯	埴	外面：ロクロナデ→〔黒〕刻痕ヘラタズリ 内面：ロクロナデ	13.0	—	—	1/2	—	TK200 梁式刷、器面に漆による程度痕。胎土に海綿骨針を少量含む	30357
3	土師器・大型甗	埴	外面：〔黒〕ナデ→〔口〕ヨコナデ 内面：〔口〕ヨコナデ→〔黒〕ナデ→ヘラナデ	(16.5)	—	—	1/4	D	胎土に海綿骨針を少量含む	3126
4	土師器・甗	埴	外面：〔口〕ハケメ→ヨコナデ〔黒〕ハケメ→ヘラミガキ 内面：ヨコナデ→ヘラミガキ	(23.2)	—	—	1/3	C	図録収。無底付	30355
5	土師器・甗	埴	外面：〔口〕ヨコナデ〔黒〕ハケメ〔黒下〕ヘラミガキ 内面：ハケメ→ヨコナデ→ヘラナデ→〔黒→黒下〕ヘラミガキ	—	(5.1)	—	1/3	B	図録収。無底	3036
6	土師器・甗	埴	外面：手付ヒヘラタズリ 内面：ヘラナデ 底面：1種瓦工具による塗布	—	—	—	一部	A3	図録収。多孔	3127

図版564 SE7758井戸跡出土遺物 1



No.	品種	層位	図説	長軸 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	登録
7	石英片・燧石	埋		13.7	6.0	6.0	702	断面	3038
8	石英片・燧石(切石)	埋		—	17.7	—	6700	分マ下横断面、片面全体に被熱。	3030

図版565 SE7758井戸跡出土遺物 2



図版566 SE7758井戸跡出土遺物3

遺物名	調査	構造	平面形	断面形	規模 (m)			埋積土	新旧関係	出土遺物	図版	
					幅	高さ	深さ				平面	背面
SE7105	完製	横板直胴 柱止め	不整円形	逆台形	2.9 × 2.4	2.5	1.7	自然埋積	SK7124・7128 → SA7735 → SA7755 → SK7762 → SK7105 SK7103 → SF277	[底面] 土師器丸底切环・甕、須恵器へう切环・同 転車切环・甕・横板、菅玉、鉄鏃、鹿角素材、骨素 材 [裏込土] 土師器环・高台碗、須恵器环・高台杯・甕、 軒平瓦 (多賀城前期/半瓦文)、木道、鉄洋 [胎内埋積土] 土師器环・蓋、須恵器环・双耳杯・横 板・瓦筒形・壺・甕、灰地陶器形、納内泥板、銅鏡 [2層] 土師器丸底切环、須恵器形 (大戸碗)・瓦筒形・ 中型甕、灰地陶器形 (段足釜) [3層] 土師器井口ウケ环、須恵器形 (大戸碗)・双耳杯・ 甕・瓦筒形 [4層] 土師器蓋、須恵器环・甕、提梁 [5層] 土師器横板 [7層] 土師器环、銅鏡	453・ 549	549
SE7258	完製	素製	楕円形	桶形	2.1		0.8	自然埋積 → 人為埋積	SK7405 → SE7434 → SE7258 → SF221 → SF257	[7 - 11層] 土師器人型甕・甕、須恵器横板、須恵 土師器	466・ 550	559
SE7292	半製	素製	不整 楕円形	円筒形	1.8 × 1.4		0.6	自然埋積	SK7124・7128 → SA7735・SK7344 → SE7292 → SK7103	[1層] 須恵器丸底切环 [2層] 土師器静止系切环・甕 (破)、須恵器へう切环・ 高台杯・甕 (破)、丸瓦 (破) [3層] 土師器ウケ环・甕 (破)、須恵器环・甕 (破)、 丸瓦・平瓦 (破)	453・ 561	561
SE7434	完製	木製?	不整 楕円形	筒斗形	1.7・	0.8	1.3	自然埋積 → 人為埋積	SK7405 → SE7434 → SE7258 → SF221 → SF257	[埋] 土師器环 (破)・甕 (破)	466・ 559	559
SE7758	半製	素製	円形	浅い円筒 形	2.0		0.7	自然埋積 → 人 為埋積	SE7758 → SE7454 → SK7757・7950 → SD7604	[埋] 土師器丸底杯・人型甕・銅鉢形無蓋甕・多孔式 甕、須恵器高杯 (SF G/TR209 式用)、右製品瓦石、 鹿角切石	512・ 563	563

・規模が不明なものは、数値に・を加えている
 ・(出土遺物) [裏]: 遺構確認品出土、[埋]: 埋積土出土、(破): 破片資料

表51 L区井戸跡属性表

8. 土器埋設遺構

2基確認した。

【SX7099 土器埋設遺構】(図版521・567)

調査区東部中央で確認した。

〔規模・断面形・堆積土〕長軸0.6m、短軸0.4mの楕円形で、深さは0.1m、断面は皿形である。掘方中央に土師器大型甕を横位に据え、地山を主体とする土で埋戻されている。

〔出土遺物〕(図版576)

据えられた土師器大型甕は、非ロクロ調整で頸部に段を持ち、最大径が胴部下半にある(47)。ほかに、埋土から土師器甕や須恵器環の破片が出土した。

【SX7841 土器埋設遺構】(図版567・586)

調査区西部南側で確認した。

〔重複〕(新)SF7803

〔規模・断面形・堆積土〕一辺0.8mの隅丸方形で、深さは0.2m、断面は皿形である。掘方の北東隅にぶい黄褐色粘土を敷き、その上に土師器大型甕を横位に据え、地山ブロックを含む暗褐色や黒褐色シルト質粘土で埋戻された。

〔出土遺物〕(図版577)

据えられた土師器大型甕は、非ロクロ調整で頸部に段を持ち、最大径が胴部下半にある(54)。

9. 土坑

土坑は76基確認し、そのうち34基を完掘または半裁・断割りを行った。主な出土遺物は図版573～584に示し、すべての土坑の属性は表52にまとめている。ここでは、4基(SK7090・7093・7102・7710)について説明を行う。

【SK7090 土坑】(図版521・568)

調査区東部中央で確認した土坑である。

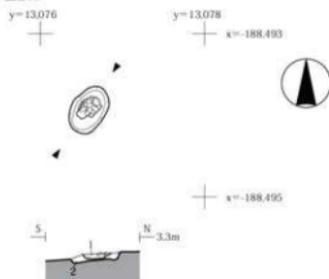
〔規模・断面形・堆積土〕長軸2.8m、短軸2.5mの不整形円形で、深さは0.3m、断面は皿形である。堆積土は、地山ブロックや炭化物を含む褐色シルトで人為堆積である。

〔出土遺物〕(図版573・574)

埋土から土師器環(1・3)・埴(2)・小型甕(12・13)・甕、須恵器環(4～11)・高台環・蓋・壺・甕・転用砥(14)、砥石(15～17)・火打石(18)などが出土した。土師器環・埴は内黒で、前者は無段平底、後者が有段丸底である。小型甕は頸部に段がなく、外面調整はナデである。須恵器環は皿形で、底部切り離しと再調整は静止糸切り後手持ちケズリ、ヘラ切り後回転ケズリや手持ちケズリ、回転糸切り後回転ケズリ、切り離しが不明で回転ケズリや手持ちケズリがあり、再調整が施されるものが主体である。このうち、1の底面に格子状、5の底面に「|」のヘラ記号が認められる。

SX7099

平面図：図版 521

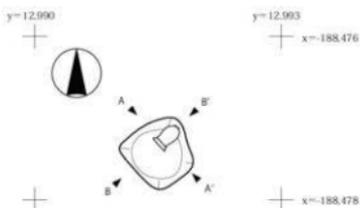


SX7099 土器埋納状況 (東から)

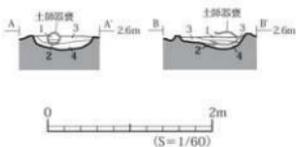
層位	土色	土性	埋入物など	備考
1	黄灰色 (12.3)B(1)	シルト	マンガン粒・炭化物を少し含む	人為堆積土
2	黄灰色 (10YR5/1)	シルト～細砂	マンガン粒・炭化物を少し含む	

SX7841

平面図：図版 586



SX7841 断面 (南西から)



SX7841 土器埋納状況 (南東から)

層位	土色	土性	埋入物など	備考
1	黄褐色 (10YR2/3)	シルト質粘土	地山ブロックを含む	人為堆積土
2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト質粘土	地山ブロックを多く含む	
3	黄褐色 (10YR2/2)	シルト質粘土	黒色粘土ブロックを含む	
4	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	

図版567 L区土器埋設遺構

【SK7093 土坑】 (図版 522・568)

調査区北東隅で確認した土坑である。

〔重複関係〕(古) SI7098 (新) SD7095

〔規模・断面形・堆積土〕長軸 1.4m、短軸 1.1m の長方形で、深さは 0.4m、断面は浅い逆台形である。堆積土は、地山ブロックや炭化物を含む黒褐色や黒色の粘土質シルトで人為堆積である。

〔出土遺物〕(図版 574・575)

堆積土から土師器環・高台環 (22)・小型甕 (23)・甕、須恵器環 (26～32)・小型環 (25)・埴 (33・34)・稜埴 (35)、ミガキ須恵器蓋 (24)、凝灰岩製切石 (36・37) などが出土した。土師器には非ロクロ調整とロクロ調整があり、後者の環には回転ケズリが認められる。須恵器環は皿形と逆台形があり、後者が多い。底部切り離しと再調整はヘラ切りが主体である。稜埴は大戸産である。また、ミガキ須恵器蓋は扁平な擬宝珠つまみが付く。このうち、29 の底面に漆書き「十」が認められる。

【SK7102 土坑】 (図版 496・569)

調査区東部南側で確認した土坑である。

〔重複関係〕(古) SI7811

〔規模・断面形・堆積土〕長軸 1.8m、短軸 1.0m の不整形円形で、深さは 0.2m、断面は浅い皿形である。堆積土は、褐灰色砂質シルトで人為堆積とみられる。

〔出土遺物〕(図版 576)

埋土から土師器環 (39～42)・高環 (43・44)、鉢 (45)、小型広口壺 (46)、須恵器壺蓋 (38) などが出土した。土師器は非ロクロ調整、環や高環の環部は有段丸底である。須恵器壺蓋は厚手で、天井部にヘラ切り痕が認められる。このうち、41 の底面にはヘラ記号「井」が認められる。

【SK7710 土坑】 (図版 466・507・572)

調査区中央部で確認した土坑である。

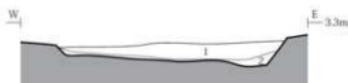
〔重複関係〕(古) SA7621、SI7864 (新) SK7850

〔規模・断面形・堆積土〕3.7m×3.3m の円形で、深さ 0.6m、断面は皿形である。堆積土は、3 層が窪地への廃棄層である他は自然堆積である。

〔出土遺物〕(図版 577・578)

堆積土から土師器環 (58～61)・鉢 (62)・広口壺 (64・65)・小型甕 (63)・甕 (66)、砥石 (57)・剥片石器 (55)・雲母片 (56) などが出土した。土師器は非ロクロ調整で、環は有段丸底、鉢は環を拡大したものである。また、64 は在地産ではなく、口縁部の特徴から駿東型甕と考えられる。

SK7090
平面図：図版 S21



層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黄灰色 (7.5YR5/1)	シルト	炭化物を多く含む。鉄製品出土	人為堆積土
2	黄灰色 (10YR5/1)	シルト	地山ブロック含む	



SK7090 断面 (南から)

SK7091
平面図：図版 S21・S22

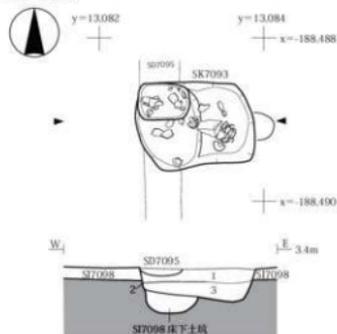


層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黄灰色 (2.5Y4/1)	シルト～ 細砂	地山ブロックを少し含む。マン ガン粒・炭分・炭化物をわず かに含む	人為堆積土



SK7091 断面 (南から)

SK7093
平面図：図版 S22



層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト		人為堆積土
2	黒色 (10YR1.7/1)	炭化物層		
3	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物を多く含む。地山ブロッ クを少し含む	

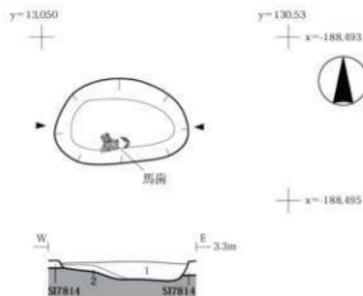


SK7093 断面 (南から)



SK7093 遺物出土状況 (南から)

図版568 L区土坑 1

SK7101
 平面図：図版452


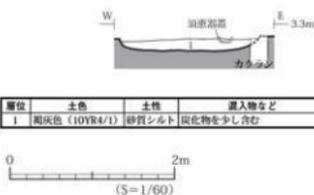
層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	炭化物を少し含む	人為増積土
2	黒灰色 (7.5YR4/1)	砂質シルト	炭骨片を多く含む	



SK7101 馬歯出土状況 (南から)



SK7101 断面 (南から)

 SK7102
 平面図：図版496


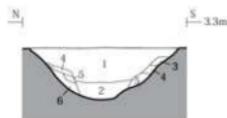
層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒灰色 (10YR4/1)	砂質シルト	炭化物を少し含む	人為増積土



SK7102 遺物出土状況 (北から)

図版569 L区土坑2

SK7127
平面図：図版 452

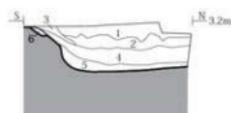


層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト		自然堆積土
2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		
3	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	砂質シルト		
4	黄灰黄色 (2.5Y4/2)	シルト		人為堆積土
5	にぶい黄褐色 (2.5Y6/3)	細砂		
6	黄灰黄色 (2.5Y5/2)	シルト	にぶい黄褐色 (2.5Y6/3) 砂を帯状に含む	



SK7127 断面 (西から)

SK7259
平面図：図版 466

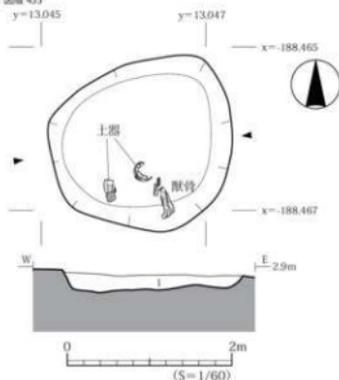


遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SK7259	1	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	黄灰色砂質シルトブロックをまばらに含む	人為堆積土
	2	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	粘性弱。黄灰色砂質シルトを北側に多く含む。南側黒褐色粘土質シルト主体。下部に酸化層の沈着層が形成される	自然堆積土
	3	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	均一層	
	4	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	木質遺物・土器類を含む均一層	人為堆積土
	5	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	黒色土と灰黄色砂質シルトブロックを多く含む	人為堆積土
SK7257	6	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト		層方埋土



SK7259 断面 (南東から)

SK7291
平面図：図版 453



SK7291 断面 (南西から)

層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化粒・地山ブロックを少し含む。下部に炭化物・炭化物を多く含む	人為堆積土

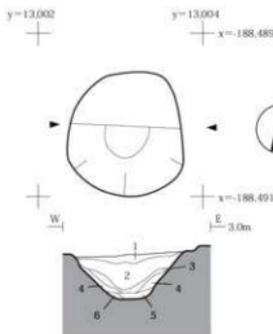
図版570 L区土坑3

SK7334
平面図：図版 515

層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	炭化物をやや多く含む	人為堆積土
2	黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	地山ブロック含む	



SK7334 北半部断面 (北から)

SK7622
平面図：図版 477

SK7622 断面 (北から)

層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒色 (10YR2/1)	粘土		自然堆積土
2	黒灰色 (10YR4/1)	粘土	塊状無機物、細砂含む	
3	黒灰色 (10YR5/1)	シルト	地山ブロック含む	人為堆積土
4	黒灰色 (10YR5/1)	シルト	極細粒砂、ワミナ状に細粒砂が入る	
5	黒灰色 (10YR4/1)	粘土~シルト	シルトブロック混じり粘土、黄灰色シルトブロックを含む	
6	黄褐色 (10YR6/2)	シルト	地山ブロック含む	



SK7622 遺物出土状況 (東から)

SK7719
平面図：図版 510

層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒灰色 (10YR5/1)	卵混じりシルト		人為堆積土
2	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト	地山ブロック含む	
3	黒色 (10YR2/1)	シルト~極細粒砂	炭化物・炭を含む。φ 50mm 程度の灰色シルトブロックを含む。炭化物が全体の 80% を占める炭層。炭化種子含む	
4	黒灰色 (10YR6/1)	シルト	黄灰色シルトブロック含む	
5	黒灰色 (10YR5/1)	シルト	灰色~黄灰色シルトブロックを多く含む	



SK7719 断面 (南から)



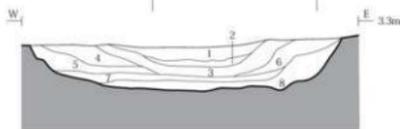
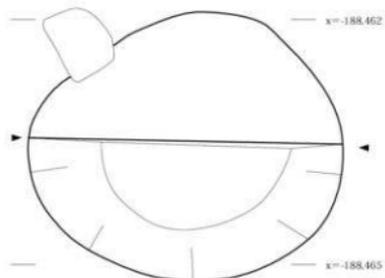
図版 571 L区土坑 4

SK7710
平面図：図版 466・507



y=13,008

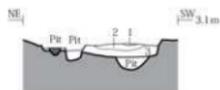
y=13,010



SK7710 断面 (南から)

層位	土色	土性	混入物など	備考
1	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	細～中粒砂	下底に黄灰色凝灰岩片角礫含む	自然増積土
2	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	シルト質砂	細粒砂礫とシルトブロック層が互層状に堆積	
3	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト質砂～中粒砂	灰を多く含む、土器片を多く含む	人為増積土
4	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト質砂		自然増積土
5	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	黄灰色シルトブロックを含む	埋戻土
6	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト質砂	細～中粒砂、黄灰色シルトブロック点状	
7	黒灰色 (10YR5/1)	シルト～中粒砂	炭化物点状。塊状無層理	人為増積土
8	黒灰色 (10YR6/1)	シルト～中粒砂	黄灰色シルトブロックを多く含む	埋戻土

SK7777
平面図：図版 456

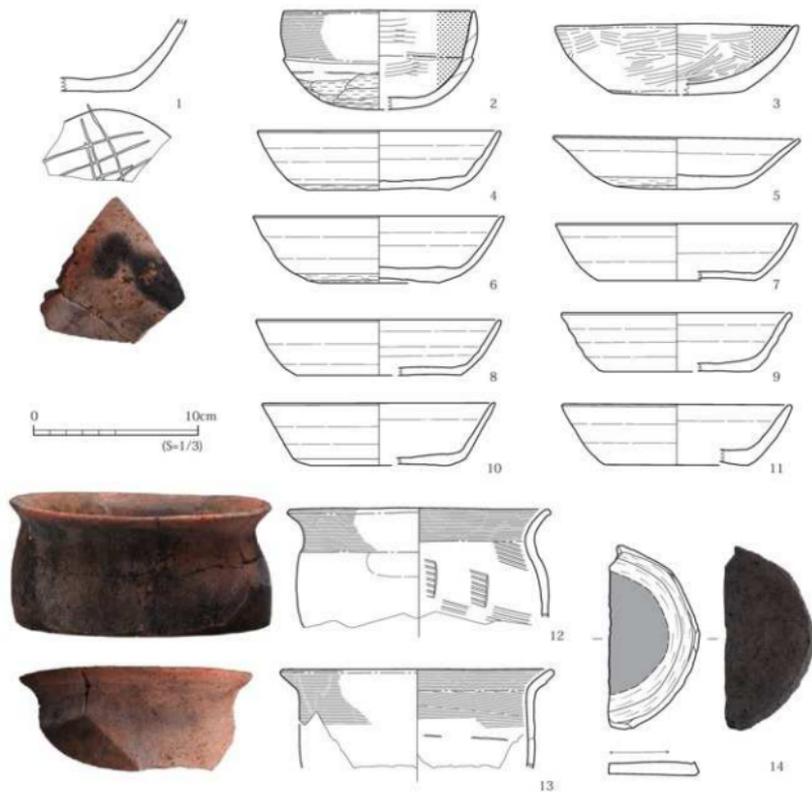


層位	土色	土性	混入物など	備考
1	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロック含む	
2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	焼土粒・炭化物を多く含む	人為増積土
3	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	シルト	地山ブロックを多く含む	



SK7777 断面 (西から)

図版572 L区土坑 5



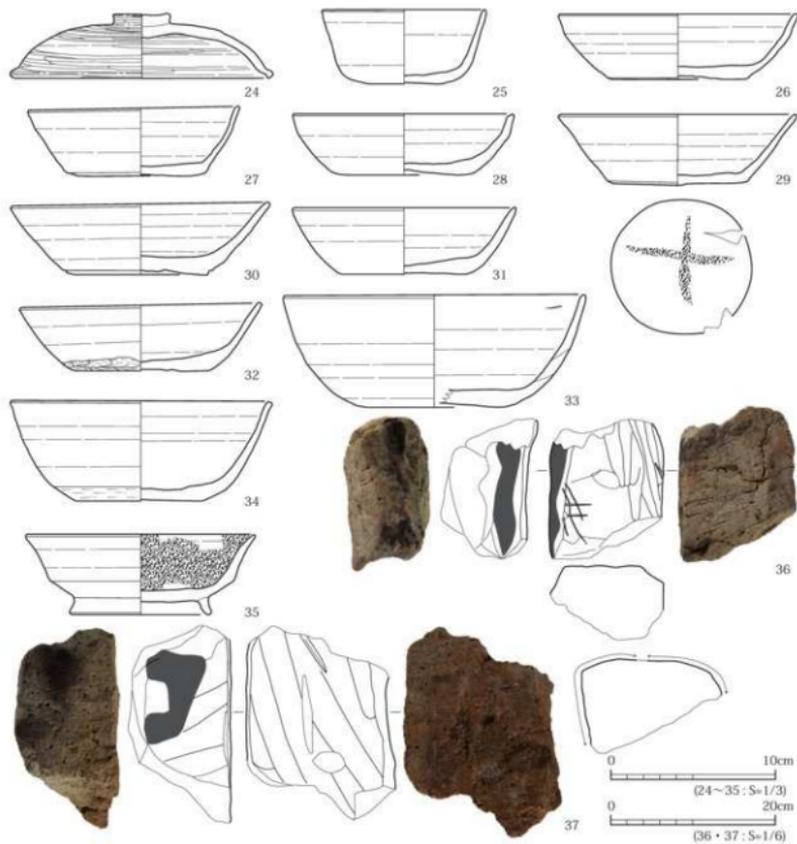
No.	器種	遺物番号	層位	装飾	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・杯	SK7090	1層	外面：ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底面：ヘラケズリ→ヘラミガキ	-	-	-	1/5	底面にヘラ書き「口」	2055
2	土師器・碗	SK7090	1層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(11.6)	-	6	1/3	胎土に海陸片針を含む	2054
3	土師器・杯	SK7090	1層	外面：手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底面：手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ	(14.8)	(8.0)	4.3	1/2		2064
4	須恵器・杯	SK7090	1層	内外面：ロクロナデ 底面：回転車切り→焼ヘラケズリ	(14.8)	(8.5)	3.6	1/2		2050
5	須恵器・杯	SK7090	1層	外面：ロクロナデ（体下）回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ底面：ヘラ切り→焼ヘラケズリ	(15.0)	(7.4)	3.2	1/4	底面にヘラ書き「1」、内外面に火傷	2058
6	須恵器・杯	SK7090	1層	内外面：ロクロナデ 底面：回転車切り→焼ヘラケズリ	(15.2)	7.2	4.1	1/2		2062
7	須恵器・杯	SK7090	1層	内外面：ロクロナデ 底面：切離し不明→焼ヘラケズリ	(14.7)	9.5	3.5	2/3	胎土に火傷	2056
8	須恵器・杯	SK7090	1層	内外面：ロクロナデ 底面：切離し不明→焼ヘラケズリ	(14.9)	(10.0)	3.4	1/4		2061
9	須恵器・杯	SK7090	1層	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り→手持ちヘラケズリ→ナデ	(14.0)	(9.4)	3.6	1/2		2060
10	須恵器・杯	SK7090	1層	外面：ロクロナデ→（体下）ナデ 内面：ロクロナデ 底面：切離し不明→手持ちヘラケズリ→ナデ	(14.2)	(8.2)	3.8	1/3		2057
11	須恵器・杯	SK7090	1層	内外面：ロクロナデ 底面：静止車切り→手持ちヘラケズリ	(14.0)	(8.6)	3.7	1/4		2069
12	土師器・小皿	SK7090	1層	外面：ナデ→ヨコナデ 内面：ハケメ→ヨコナデ	(16.0)	-	-	-	外面に煮こぼれ痕。胎土に海陸片針を含む	2065
13	土師器・小皿	SK7090	1層	外面：ナデ→ヨコナデ 内面：ヨコナデ	(16.6)	-	-	-	外面に煮こぼれ痕。胎土に海陸片針を含む	2066
14	須恵器・灰用碗	SK7090	1層		-	-	-	-	高台杯を転用。底外面に使用痕	2063

図版573 L区土坑出土遺物1



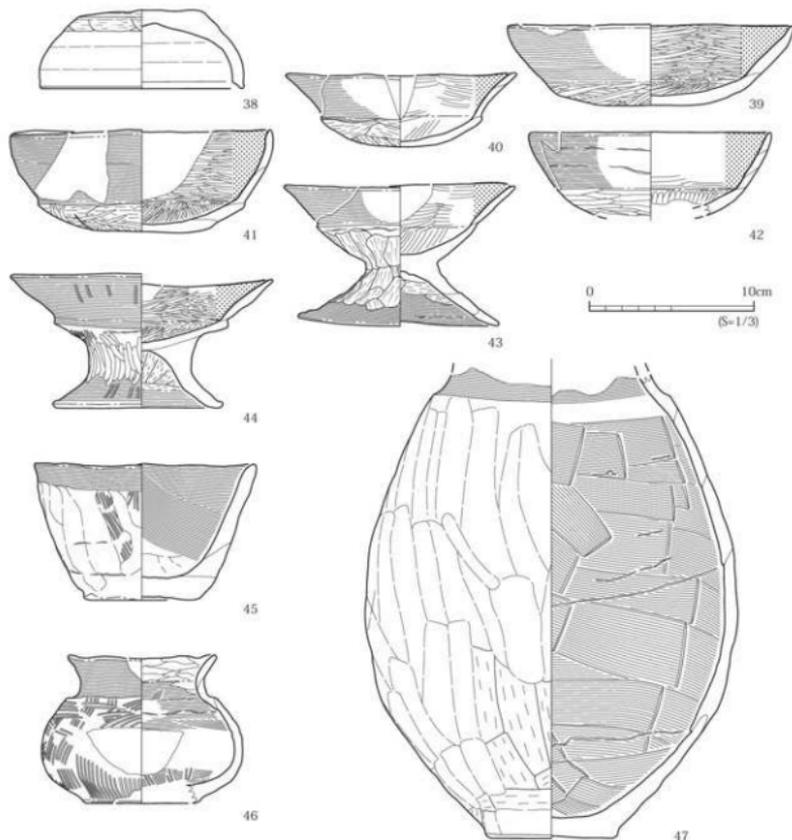
No.	器種	遺跡番号	層位	図型	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
15	石製品・ 破石	SK7090	1層		-	-	-	-	原研。重さ：904.0 g	2067
16	石製品・ 破石	SK7090	1層		-	-	-	-	原研。右側：短辺研。 重さ：1142.0 g	2068
17	石製品・ 破石	SK7090	1層		-	-	-	-	石材：砂岩。 重さ：84.0 g	2070
18	石製品・ 欠打石	SK7090	1層		-	-	-	-	重さ：15.0 g	2071
19	土師器・ 杯	SK7091	確認層		(16.2)	7.8	5.0	2/3	内面に漆付跡	2072
20	灰陶器・ 埴	SK7091	確認層		-	-	-	一部		2073
21	陶器器・ 埴	SK7091	確認層		-	-	-	一部	外面に自然釉	2074
22	土師器・ 高台杯	SK7093	3層		16.6	10.2	5.7	4/5		2077
23	土師器・ 小皿盤	SK7093	1層		(16.0)	-	-	一部		2093

図版574 L区土坑出土遺物2



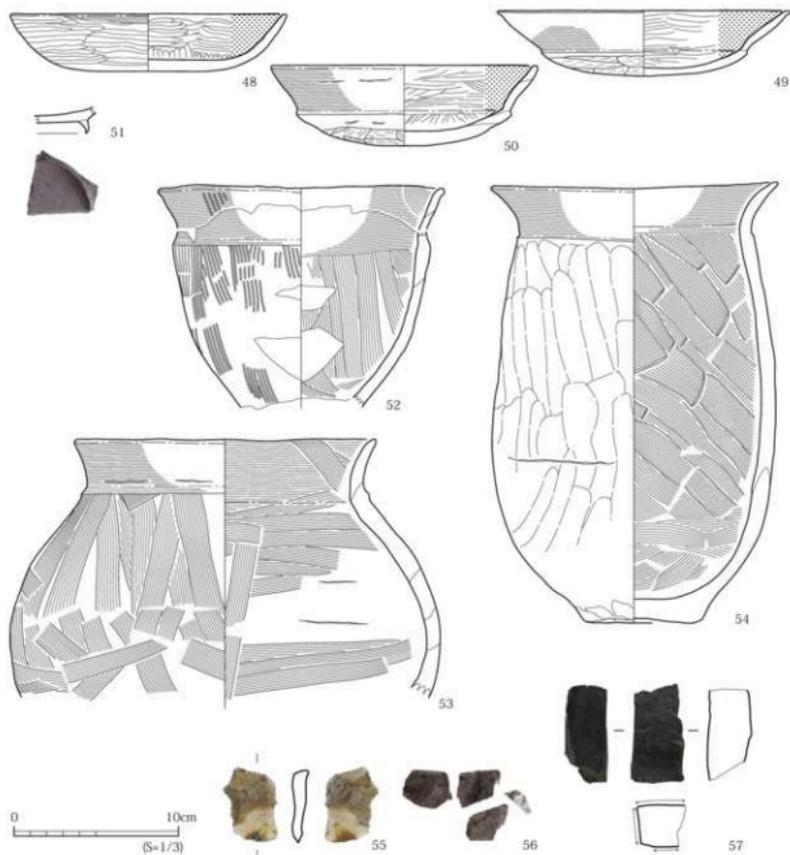
No.	名称	遺物番号	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
24	須恵器・皿	SK7093	1層	外面：ロクロナデ→ヘラケズリ→ツマミ転付→ナデ→ヘラミガキ 内面：ロクロナデ→ヘラミガキ	15.4	—	3.9	完形	ミガキ面破断。開元株ツマミ径：3.4cm	2092
25	須恵器・小皿	SK7093	3層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→回転ヘラケズリ	(9.8)	(4.8)	4.5	1/4	自然破	2079
26	須恵器・杯	SK7093	1層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	14.6	8.0	4.0	4/5		2088
27	須恵器・杯	SK7093	1層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(12.9)	6.9	(4.3)	3/4	火傷	2089
28	須恵器・杯	SK7093	1層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(13.6)	(7.2)	3.7	一部		2094
29	須恵器・杯	SK7093	3層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	14.5	8.4	4.3	完形	底部外面に漆書き「十」	2081
30	須恵器・杯	SK7093	3層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(15.7)	8.0	4.4	3/4		2082
31	須恵器・杯	SK7093	3層	内外面：ロクロナデ 底部：静止糸刷り→手持ちヘラケズリ	13.4	7.6	4.1	完形		2085
32	須恵器・杯	SK7093	3層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→手持ちヘラケズリ	14.8	8	4.2	完形		2084
33	須恵器・碗	SK7093	1層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(18.4)	(8.4)	6.9	2/5		2090
34	須恵器・碗	SK7093	3層	外面：ロクロナデ→(体下)回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：切離し不明→回転ヘラケズリ	15.6	7.8	6.1	完形		2083
35	須恵器・椀	SK7093	3層	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：高台転付→ロクロナデ	(16.8)	(8.2)	4.0	1/2	人戸面。内面全体に漆付前。KA12層	2080
36	石製品・麻灰質砂石	SK7093	3層		—	—	—	—	カマド構築材。重さ：1298.0g	2231
37	石製品・麻灰質砂石	SK7093	3層		—	—	—	—	カマド構築材。重さ：2400.0g	2230

図版575 L区土坑出土遺物3



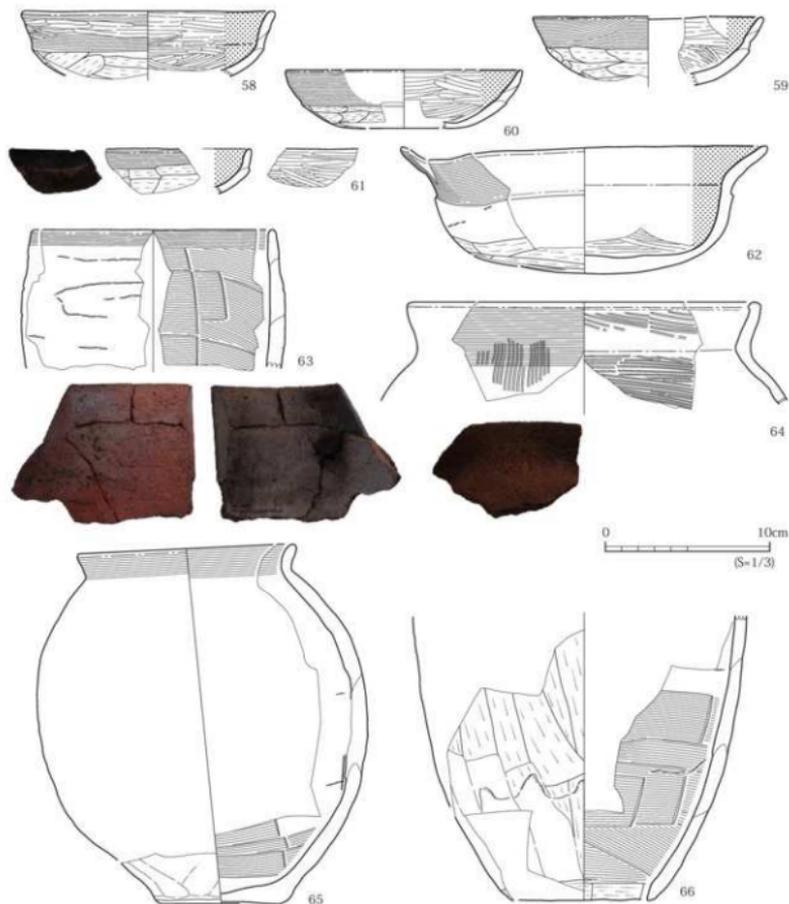
No.	器種	遺積番号	層位	調整	口径 (cm)	胴径 (cm)	高さ (cm)	残存	分類	備考	登録	
38	須恵器・蓋	SK7102	1層	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	12.2	—	4.8	完形	—	赤黒	332	
39	土師器・杯	SK7102	1層	外面：ヘラケズリ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	17.2	—	5.0	完形	B1		325	
40	土師器・杯	SK7102	1層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.0)	—	4.4	1/3	B1		2094	
41	土師器・杯	SK7102	1層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	15.3	—	6.3	2/3	B2		324	
42	土師器・杯	SK7102	1層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.6)	—	—	1/3	B1	底部にヘラ書 「片」	2005	
43	土師器・高杯	SK7102	1層	外面：[口] ヨコナデ [体下～台] 手持ちヘラケズリ [底] ヨコナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 [付麗] ヨコナデ→手持ちヘラケズリ	(13.8)	12.2	8.7	1/2	A			326
44	土師器・高杯	SK7102	1層	外面：[杯] ハケメ→ヨコナデ [脚] ハケメ→ヨコナデ→ヘラミガキ 内面：[杯] ヘラミガキ→黒色処理 [脚] ヨコナデ→ヘラケズリ	16.0	10.1	8.2	完形	A			327
45	土師器・鉢	SK7102	1層	外面：ハケメ→ヨコナデ→ナデ 内面：ナデ→ヨコナデ 底部：木炭痕	12.2	6.9	8.2	完形	B			2097
46	土師器・広口壺	SK7102	1層	外面：[口] ヨコナデ [体] ハケメ 内面：[口] ヨコナデ→ヘラミガキ [体] ナデ [底] ハケメ→ヨコナデ	(8.8)	—	9.0	1/2	—			2096
47	土師器・大型甕	SK7099	一括	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ナデ 内面：ヘラナデ 底部：ヘラケズリ→ナデ	—	8.0	—	1/3	B			2223

図版576 L区土坑出土遺物4、土器埋設遺構出土遺物



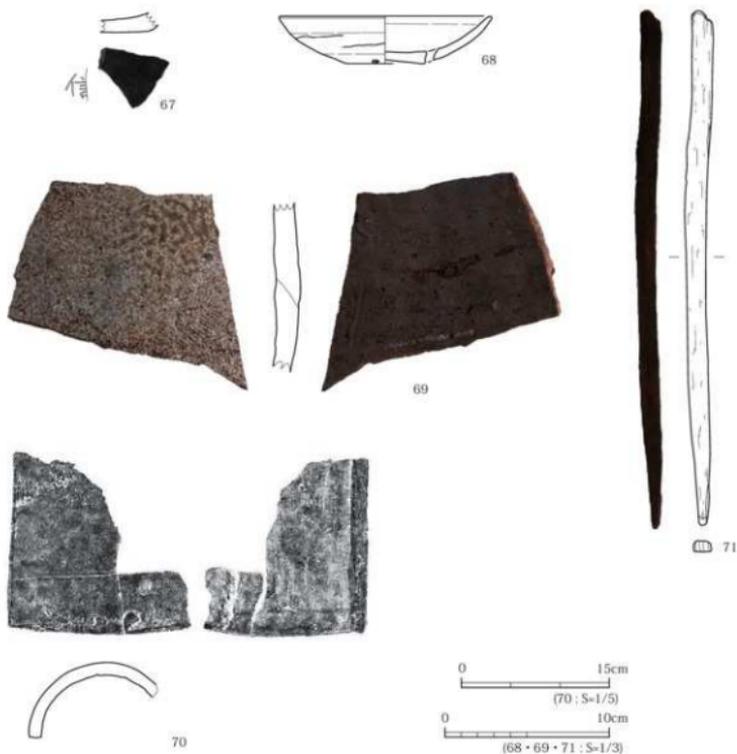
No.	器種	遺構番号	層位	説明	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	分級	備考	登録
48	土師器・杯	SK7291	1層	外面：ヨコナデ→ヘラミガキ 内面：ミガキ→黒色肌理 底部：ヘラミガキ	16.8	10.6	3.5	1/3	—	底部にヘラミガキ「□」、 胎土に海緑質斜を穿む	2132
49	土師器・杯	SK7291	埋	外面：ヨコナデ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色肌理	(18.0)	—	4.0	1/2	B+		3113
50	土師器・杯	SK7291	埋	外面：ヨコナデ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色肌理	(16.0)	—	4.9	2/3	B+	底部にヘラミガキ「×」	3114
51	灰釉陶器・碗	SK7291	1層	内外面：ロクロナデ 底部：切履し不明→高台胎付付→ロクロナデ	—	—	—	—	一部	一段段。K90 窯式明	2134
52	土師器・鉢	SK7291	埋	外面：ハケメ→「□」ヨコナデ 内面：ヘラナデ→「□」ヨコナデ	(17.0)	—	—	3/5	A		3115
53	土師器・広口壺	SK7291	1層	外面：ヘラナデ→ヨコナデ 内面：ヨコナデ→ヘラナデ	(18.4)	—	—	一部	B		2133
54	土師器・大甕	SK7841	埋	外面：ヨコナデ→ナデ 内面：ヘラナデ→ヨコナデ 底部に木炭痕	17.4	6.3	27.0	完形	B		3131
55	石器・削片石器	SK7710	埋		—	—	—	—	—	重量：12.2 g	3025
56	器母片	SK7710	埋		—	—	—	—	—		3024
57	石製品・砥石	SK7710	埋		—	—	—	—	—	重量：80.0 g	3026

図版577 L区土坑出土遺物5、土器埋設遺構出土遺物



No.	器種	遺物番号	層位	図型	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	分壜	備考	登録
58	土師器・杯	SK7710	埋	外面：[□] ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.0)	—	—	1/3	C1		3028
59	土師器・杯	SK7710	埋	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	13.8	—	—	2/3	C1		3019
60	土師器・杯	SK7710	埋	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.2)	—	3.5	1/3	B1		3020
61	土師器・杯	SK7710	埋	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	—	—	—	一部	C1	新土に南縁付片含む	3021
62	土師器・鉢	SK7710	埋	外面：[□] ヨコナデ (体下→底) 手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	21.9	—	7.8	1/2	A1		3018
63	土師器・小型甕	SK7710	埋	外面：[□] ヨコナデ (体) オサエ 内面：[□] ヨコナデ (体) ヘラナデ	(14.6)	—	—	一部	B		3029
64	土師器・広口壺	SK7710	埋	外面：[□] 縦ハケメ→ヨコナデ [脚] 縦ハケメ 内面：横ハケメ	(20.4)	—	—	一部	—	甕表面型	3023
65	土師器・広口壺	SK7710	埋	外面：[□] ヨコナデ (体下) 手持ちヘラケズリ 内面：[□] ヨコナデ (体下) ヘラナデ→ナデ	(13.0)	7.0	22.0	1/4	B		3027
66	土師器・甕	SK7710	埋	外面：コハケメ→ヘラケズリ→ナデ 内面：ヘラナデ→ヘラケズリ	—	—	—	1/2	B	窪鉢形、無底	3022

図版578 L区土坑出土遺物6



No.	種類	遺物番号	層位	遺物	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
67	土師器・杯	SK7127	1期	内外面：ヘウミガキ→黒色処理	—	—	—	一部	底部に横成後切跡7枚。	2107
68	赤統土器・杯	SK7719	埴	外面：ロウロナデ 内面：ロウロナデ→コシ住土F 底面：回転車切り	13.0	—	2.9	1/2	体部下端穿孔	3124
69	陶器・壺	SK7259		外面：タタキ目 内面：ハケメ→ナデ	—	—	—	一部	頸通差	2118
70	瓦・丸瓦	SK7777	埴	外面：黒タタキ目→ナデ 内面：布目→ナデ 水口・断面：ヘラケズリ 粘土焼き作り	—	—	—	1/4	多割減分製：丸瓦ⅡB類	3130
71	木製品・部材	SK7622	埴		—	—	—		直径：31.5cm 短軸：0.9cm 厚さ：0.6cm	3462

図版579 L区土坑出土遺物7



图版580 L区土坑出土遗物 8



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



39



38



40

图版581 L区土坑出土遗物9



图版582 L区土坑出土遗物10



图版583 L区土坑出土遗物11



図版584 L区土坑出土遺物12

遺構名	調査	平面形	断面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	埋積土	新旧関係	特徴・出土遺物	辺長	
										平面	断面
SK7090	完備	不整形円形	皿形	2.8	2.5	0.3	人為堆積		[1層] 土器部有段丸底環・非口ク口環・高環(破)・浅・非口ク口小型甕・非口ク口甕(破)・須恵器環・赤(破)・甕(破)・胎用甕(高台環胎用)・石製品削砥・扇灰岩切石(破)・火打石・砥石・平瓦・丸瓦(破)	521	368
SK7091	完備	楕円形	浅いレンズ形	2.7	1.6	0.2	人為堆積		(破) 土器部環・須恵器碗・灰陶陶器碗	521・522	568
SK7093	完備	長方形	浅い逆台形	1.4	1.1	0.4	人為堆積	SK7098 → SK7093 → SK7095	[1層] 須恵器へろ切・十字形・同軸糸切環(破)・小型甕・浅・甕・甕(破) [3層] 土器部環・高台環・浅・非口ク口甕(破)・須恵器環・小型環・浅・甕(破)・扇灰岩切石・平瓦(破)	522・568	568
SK7099	完備	楕円形	逆台形	0.6	0.4	0.1	人為堆積	SK7814 → SK7101	土器埋設遺構。土器部広口甕。大型甕。甕(破)。須恵器環(破)	521・567	567
SK7101	完備	楕円形	逆台形	1.2	1.0	0.2	人為堆積	SK7811 → SK7102	土器部環(破)・甕(破)・胎用	452	569
SK7102	完備	不整形円形	浅い皿形	1.8	1.0	0.2	人為堆積	SK7262 → SK7125 → SK7103	土器部有段丸底環(へろ書き「片」)・丸底環・環部有段高環・小型広口甕・浅・甕(破)。須恵器器蓋	496	569
SK7125	断割	楕円形	逆台形	1.7・	1.0・	0.5	人為堆積	SK7124・7128 → SK7755 → SK7176 → SK7425 → SK7127	土器部同軸糸切・同軸へろクズリ環(へろ書き「×」)・同軸糸切環(破)・甕(破)。須恵器環・甕(破)・扇灰岩切石。丸瓦(破)・平瓦(破)	453	—
SK7127	完備	円形	楕形	1.9	1.8	0.6	人為堆積・自然堆積	SK7176 → SK7103 → SK7142 → SK7139	土器部平底内形環(へろ書き「目」)・口ク口環(破)・甕(破)・須恵器環(破)・甕(破)・平瓦(破)	452	570
SK7138	平葦	楕丸長方形	?	0.9	0.7	—	—	SK7171・SK7173 → SK7166	土器部甕(破)。須恵器環(破)	452	—
SK7139	平葦	不整形長方形	逆台形	2.2	0.8	0.2	自然堆積	SK7176 → SK7103 → SK7142 → SK7139	土器部環(破)・甕(破)	452	—
SK7166	完備	楕円形	楕形	1.1	0.9	0.2	人為堆積	SK7171・SK7173 → SK7166	土器部環(破)・甕(破)	452	—

表52-1 L区土坑・土器埋設遺構属性表1

遺構名	調査	平面形	断面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	堆積土	新旧関係	特徴・出土遺物	位置	
										平面	断面
SK7573	確認	楕円形	—	1.2	0.7	—	—	SI7867 → SK7573 → SD7604	土師器平底丸底杯	512	—
SK7576	確認	楕円形	—	1.1	0.8	—	—	SI7869 → SI7868 → SK7576	—	507・512	—
SK7585	確認	不整形円形	—	2.2	1.5	—	—	SD7710 → SK7585 → SK7850	土師器赤彩ミニチュア・環(鏡)・埴(鏡)・甕(鏡)	466	—
SK7587	完測	不整形円形	浅い楕円形	1.0	0.7	0.1	人為堆積	SI7208 → SK7587	土師器有段丸底杯(鏡)・甕(鏡)	512	—
SK7593	確認	不整形円形	—	2.5	1.6	—	—	SD7848 → SD7767 → SK7593	土師器甕(鏡)	466	—
SK7599	確認	不整形円形	—	0.7	0.6	—	—	SI7931 → SK7599	—	466	—
SK7617	確認	楕円形	—	0.7	0.6	—	—	SI7803 → SK7617	—	586	—
SK7619	確認	楕円形	—	1.1	0.9	—	—	—	—	510	—
SK7622	平復	不整形円形	逆台形	1.5	1.4	0.6	人為堆積 → 自然堆積	SD7847 → SK7622	木製品・部材	477	571
SK7627	確認	不整形円形	—	1.0	0.9	—	—	—	—	507	—
SK7628	確認	不整形円形	—	0.8	0.6	—	—	SI7864 → SK7628 → SI7957	—	507	—
SK7638	完測	円形	楕円形	0.6	0.6	0.4	自然堆積	SI7219 → SK7638	—	512	—
SK7679	完測	楕円方形	楕円形	1.1	0.8	0.2	人為堆積	SI7206 → SI7208 → SI7458 → SK7679	土師器甕(鏡)	515	—
SK7710	平復	円形	楕円形	3.7	3.3	0.6	自然堆積 → 人為堆積	SI7864 → SA7621 → SK7710 → SK7850	[副] 土師器有段丸底杯・楕圓杯・大型杯・高杯(鏡)・広口器・甕・鉢・壺・内付土器、石製品(砥石・丸打石・磨片・磨母片)	466・507	572
SK7719	平復	不整形円形	逆台形	1.4	1.4	0.3	自然堆積 → 人為堆積	SD7100 → SK7719	土師器杯(鏡)、須恵器器(鏡)・甕(鏡)、赤城土器小皿・杯、あむらけ(鏡)、須恵器(陶)・ヘラ・クズリ杯(鏡)・甕(鏡)、丸瓦(多賀屋1期)	510	571
SK7762	平復	楕円形	楕円形	0.9・	0.9	0.3	自然堆積	SK7762 → SE7105 → SK7103	土師器面形有段杯・甕(鏡)	453	—
SK7777	新測	不整形円形	逆台形	2.5	1.6	0.2	人為堆積	SD7888 → SK7777 → SD7785	土師器杯(鏡)・甕(鏡)、須恵器(陶)・ヘラ・クズリ杯(鏡)・甕(鏡)、丸瓦(多賀屋1期)	456	572
SK7788	確認	楕円形	—	0.9	0.6	—	—	—	—	586	—
SK7796	確認	楕円形	—	0.7	0.6	—	—	SI7803 → SK7796	—	586	—
SK7805	確認	楕円形	—	1.1	0.8	—	—	SI7863 → SK7805	土師器杯(鏡)・甕(鏡)	586	—
SX7841	完測	楕円方形	逆台形	0.8	0.8	0.2	人為堆積	SX7841 → SI7803	土師埋込遺構、土師器大型甕	567・586	572
SK7850	確認	不整形方形	—	0.9	0.7	—	—	SK7710・7585 → SK7850	土師器杯(鏡)・甕(鏡)、須恵器甕(鏡)	466	—
SK7908	確認	楕円形	—	1.0	0.7	—	—	SI7212 → SK7908	土師器口杯(鏡)	513	—
SK7910	平復	楕円形	逆台形	1.0	0.9	0.3	人為堆積	SI7811 → SK7910	—	496	—

・規模が不明なもの5は、数値に+を加えている

・(出土遺物) [副]: 遺構確認出土、[埋]: 堆積土出土、(鏡): 鏡片資料

表52-3 L区土坑・土器埋設遺構属性表3

10. 畑跡

L区の西側で2面(SF7802・7803)、東側で3面(SF7274・7277・7358)を確認した。以下、完掘または一部断割りを行った3面について説明する。すべての畑跡の属性は表53にまとめている。

【SF7277畑跡】(図版452・453・496・519・585)

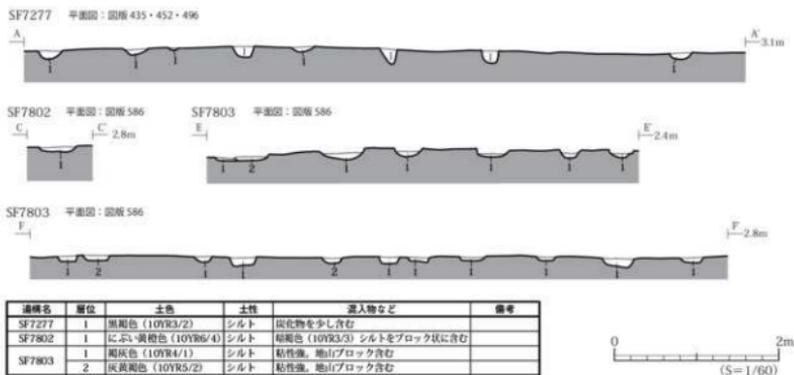
L区の東側、SX7103整地層を掘り込む畑跡である。確認した範囲は東西9.5m・南北13.5mである。小溝跡は10本確認した。

[重複] (古) SA7156・7755・7756、SD461、SI7202、SF7358、SX7124・7128 (新) SK7204

[規模・堆積土] 小溝跡の規模は、長軸3.4～6.0m・幅0.3～0.8mで、深さは0.2m前後である。断面形は逆台形・レンズ形である。堆積土は炭化物粒を含む黒褐色のシルトである。

[方向] 方向は、E-11～15°-Nである。

[出土遺物] 堆積土から、鉄製品刀子・鉄滓、土師器杯・甕、須恵器杯・甕・壺、丸瓦・平瓦、砥石が出土した。土師器杯は回転ヘラケズリ調整である。須恵器杯はヘラ切りである。



SF7277(西から)



SF7803 南側(北東から)

図版585 SF7277・7802・7803畑跡

【SF7802畑跡】(図版585・586)

L区の西側で確認した東西7.5m・南北9.5mに広がる畑跡である。小溝跡は4本確認した。

〔重複〕(新) SD7615・7779

〔規模・堆積土〕小溝跡の規模は、長軸1.7～7.2m・幅0.2～0.4mで、深さは0.1m前後である。堆積土は暗褐色ブロックを含むにぶい黄褐色のシルトである。

〔方向〕方向は、E-18～43°-Nである。

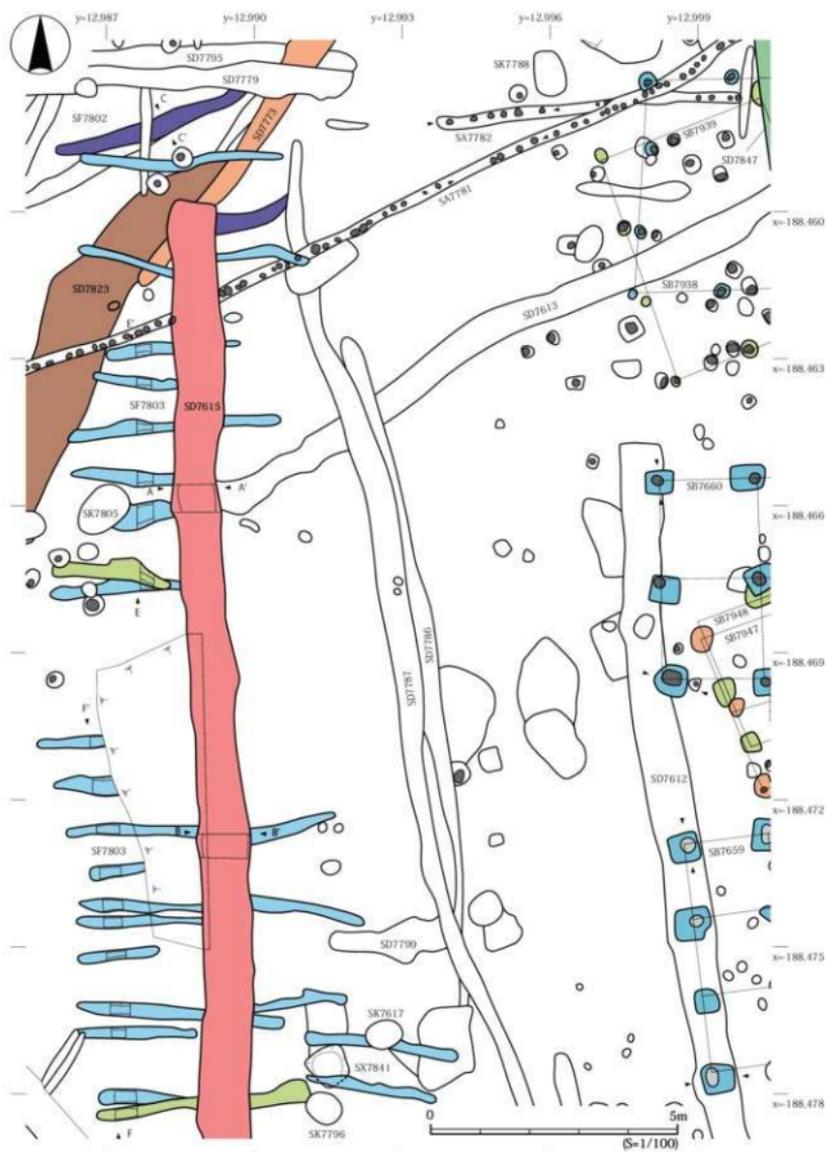
〔出土遺物〕堆積土(1層)から土師器環・甕が出土した。破片のみで図示できるものはない。

【SF7803畑跡】(図版457・585・586)

L区の西側で確認した東西8.5m・南北21.5mに広がる畑跡である。多賀城市第17次調査で確認したSD5455の東側に広がる畑跡と同一である。A群とB群の2つのグループに分かれ、B群が新しい。小溝跡はA群が23本、B群が2本確認した。

〔重複〕(古) SA7781、SD7823 (新) SD7615

〔規模・堆積土〕小溝跡A群の規模は、長軸1.1～5.8m・幅0.2～0.5mで、深さが0.1m前後である。



(L区の図例は図版435を参照)

図版586 L区平面図19

遺構名	調査	範囲 東西×南北 (m)	グループ	検出 深さ	方向	規模 (m)			断面形	新旧関係	出土遺物	図版	
						長軸	短軸	深さ				平面	断面
SF7274	確認	7.0 × 7.5	A	7	E-6°-8°-S	2.3 ~ 6.1	0.3 ~ 0.8	-	-	SD7117 → SK7124・ 7128 → SK7103 → SF7274		519	-
			B	2	N-8°-E	2.5 ~ 3.1	0.2 ~ 0.3	-	-				
SF7277	穴掘	9.5 × 13.5	A	10	E-11°-15°- N	3.4 ~ 6.0	0.3 ~ 0.8	0.2	逆台形- レンズ形	SI7023 → SK7124・ 7128 → SD461 → SA7156・7756・ 7756・SE7105・ SF7358 → SK7103 → SF7277 → SK7204	[補] 土師器回転ヘラケズリ棒・貴 (破), 須磨器ヘラ切棒・貴・市 (破), 丸瓦・平瓦 (破), 砥石, 鉄製品刀 子・鉄片	452・ 453・ 496・ 519	585
SF7358	確認	11.0 × 10.0	A	7	E-4°-7°-N	1.1 ~ 5.2	0.2	-	-	SI7808 → SK7124・ 7128 → SA7176 → SF7358 → SD7262 → SK7103 → SF7277		453・ 496	-
SF7802	一部 掘削	7.5 × 9.5	A	4	E-18°-43°- N	1.7 ~ 7.2	0.2 ~ 0.4	0.1	浅い・曲形	SF7802 → SD7615・ 7779	[補] 土師器棒・貴 (破)	586	585
SF7803	一部 掘削	8.5 × 21.5	A	23	E-3°-5°- E-2°-N	1.1 ~ 5.8	0.2 ~ 0.5	0.1	逆台形- レンズ形	SD7823 → SA7781 → SF7803 → SD7615		457・ 586	585
											B	2	

・(出土遺物) [補]: 遺構確認品出土。(補): 埋積土出土。(破): 破片資料

表53 L区畑跡属性表

SK7291・1層



1(ウマ・下顎骨)

SD7344・2層



2(ウマ・上腕骨 (R))

3(ウマ・脛骨 (L))



(S=1/3)

図版587 L区出土動物遺存体

断面形は逆台形・レンズ形である。堆積土は、地山ブロックを含む褐灰色のシルトである。B群の規模は、長軸2.4~4.3m・幅0.2~0.5mで、深さは0.1m前後である。断面形は逆台形・レンズ形である。堆積土は、地山ブロックを含む灰黄褐色のシルトである。

[方向] 方向は、A群・B群ともにE-3°-SからE-2°-Nである。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

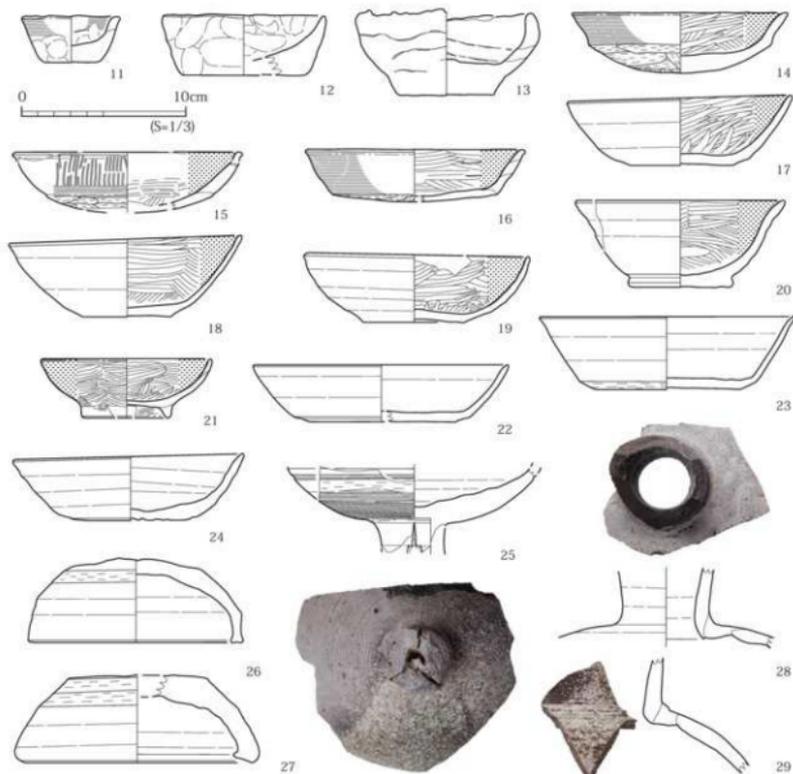
11. 遺構外出土遺物

L区の第I層～第III層（遺構確認面）からは、土師器環・高台環・高環・蓋・壺・ミニチュア、須恵器環・蓋・長頸壺・短頸壺・横瓶・甕・甕・円面硯・転用硯・円盤、赤焼土器小皿、灰釉陶器碗・皿・長頸壺・小型壺、青磁、中世陶器、焼塩壺、瓦、土製品、石製品などが出土した（図版588～591）。



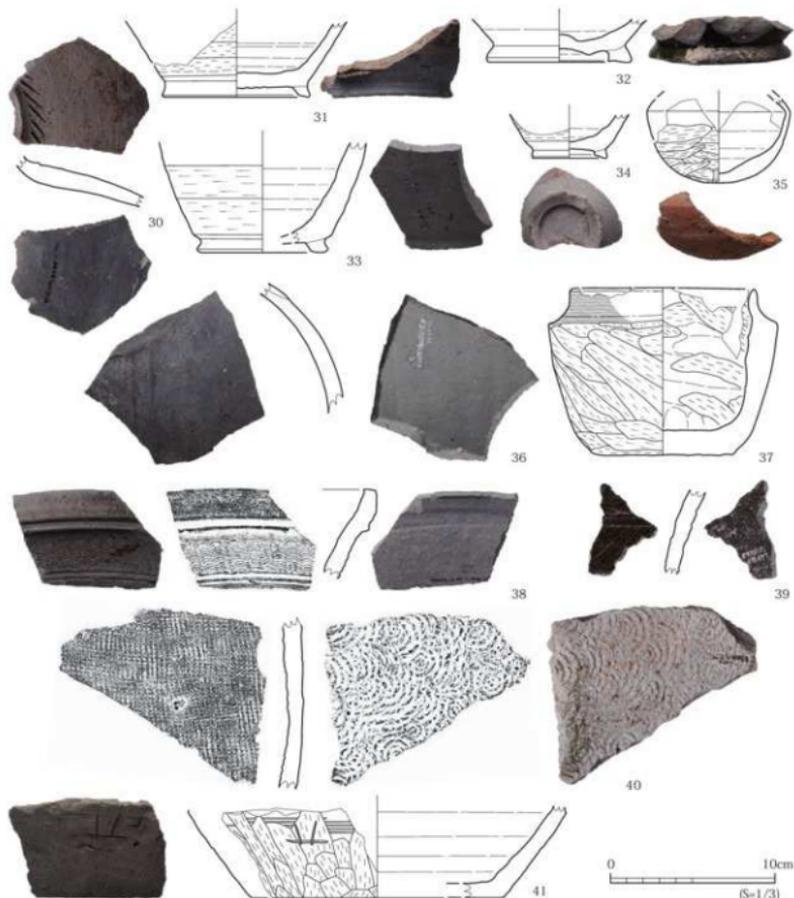
No.	品種	層位	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	残存	備考	登録
1	瓦・軒平瓦	I～III層	四面：布目→瓦周縁ケズリ 製面：縦横文+平行沈線文	—	—	—	一部	多賀城I層、垂弧文511-b	3452
2	瓦・丸瓦	I～III層	凸面：ナデ 凹面：布目→ナデ 端部：ヘラケズリ 粘土継ぎき作り	—	—	—	一部	多賀城分類：丸瓦ⅡB類、凸面に初田（伊）	2410
3	瓦・平瓦	I～III層	凸面：縄タタキ目→ナデ 凹面：布目	—	—	—	一部	凹面にヘラ書き「□」	2411
4	瓦・丸瓦	I～III層	凸面：ナデ 凹面：布目→ヘラケズリ 粘土継ぎき作り	—	—	—	一部	多賀城分類：丸瓦ⅡB類、凸面に初田（伊）	2412
5	土製品・匂土	I～III層	表面：ナデ→ヘラミガキ→黒色処理	—	1.5	1.1	完形	孔径：0.2cm	2420
6	石製品・礫石	I～III層		1.8	1.7	0.9	完形	長さ：4.0g	3455
7	石器・ラウンドスクレーパー	I～III層		—	—	—	完形	黒曜石、周ノ森産、長さ：27.0g 最大幅：3.9cm	2409
8	石製品・硯石	I層		—	—	—	一部	長さ：42.0g	2458
9	石製品・硯石	I～III層		—	—	—	完形	長さ：102.0g	3439
10	石製品・硯石	I～III層		9.3	3.6	1.4	完形	長さ：84.0g	2418

図版588 L区遺構外出土遺物 1



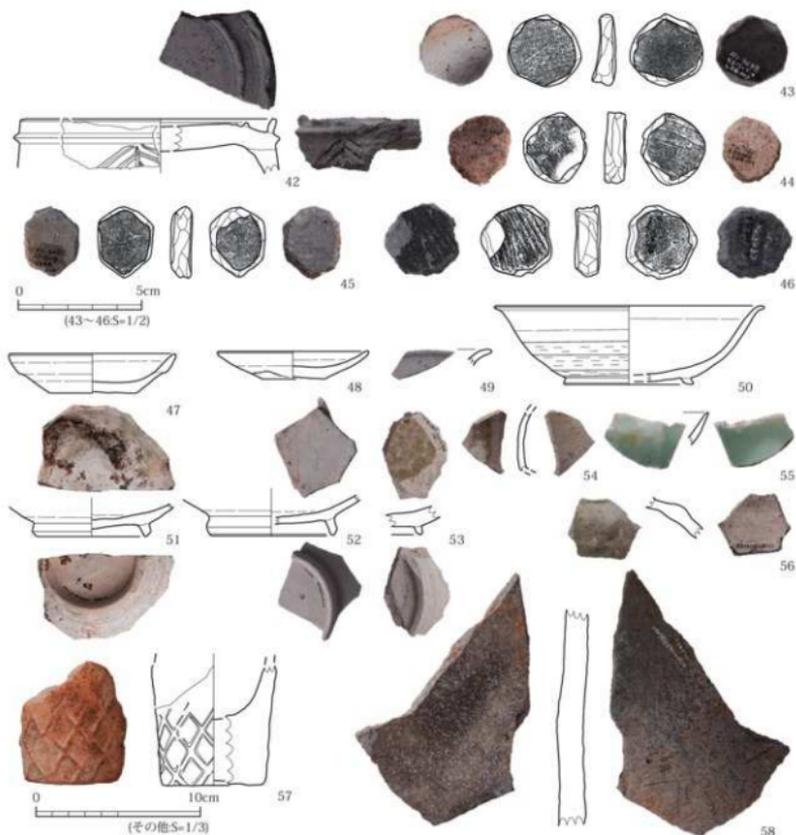
No.	器種	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
11	土師器・ミニチュア	I～II層	内外面：ナデ→指オサエ	(6.0)	3.6	2.8	3/4	球形	3447
12	土師器・ミニチュア	I～II層	内外面：指オサエ	(10.0)	(7.4)	3.6	1/4	球形	3446
13	土師器・ミニチュア	I～II層	外面：軽いナデ 底部に木炭痕	10.0	5.8	5.0	完形	球形	2455
14	土師器・環	I～II層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(13.1)	—	3.7	1/2	—	3442
15	土師器・環	I～II層	外面：ハケメ→ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.0)	—	—	—	—	3436
16	土師器・環	I～II層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(13.4)	—	3.2	1/2	胎土に陶粉屑を含む	3454
17	土師器・環	I～II層	内面：ロクロナデ (右回転) 内面：ミガキ→黒色処理 底部：回転未切り	13.6	6.3	4.3	完形	—	2263
18	土師器・環	I～II層	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転未切り	(14.0)	(5.4)	5.0	2/3	—	2262
19	土師器・環	I～II層	外面：ロクロナデ (右回転) 内面：ミガキ→黒色処理 底部：回転未切り	13.7	6.1	4.3	3/4	—	2264
20	土師器・環	I～II層	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：切離し不明→ナデ	(12.8)	6.2	5.3	1/5	ベタ蓋付	3444
21	土師器・高台杯	I～II層	内外面：ヘラミガキ→黒色処理	(10.4)	(5.4)	3.6	2/5	—	3433
22	土師器・環	I～II層	外面：高台割付→ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理	(15.6)	(8.8)	3.5	1/2	—	3440
23	土師器・環	I～II層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→ナデ→ヘラケズリ	(15.6)	(8.8)	4.5	1/2	—	3441
24	土師器・環	I～II層	内外面：ロクロナデ (右回転) 底部：ヘラ切り→ナデ	14.2	7.4	4.1	3/5	大戸蓋	2431
25	土師器・高台杯	I～II層	外面：ロクロナデ→ヘラケズリ→ハケメ 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	内面と外面に自然釉。器底にスカシ(3割)。最大幅：(17.0cm)	2421
26	土師器・壺	I～II層	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 大井部：ヘラ切り→ナデ	13.0	—	5.2	完形	—	3432
27	土師器・壺	I～II層	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 大井部：ヘラ切り→ナデ	(13.6)	—	5.2	1/2	—	2447
28	土師器・長頸壺	カクタン	内外面：ロクロナデ	—	—	(4.0)	一部	内外面に自然釉	2464
29	土師器・長頸壺	I～II層	内外面：ロクロナデ	—	—	(7.0)	一部	大戸蓋。リング状凸部。外面に自然釉	2427

図版589 L区遺構外出土遺物2



器種	層位	図説	口径 (cm)	口縁径 (cm)	器高 (cm)	残存	備考	登録
30 須恵器・壺	1～3層	外面：カキメ・縞線列点文 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	カキメ・縞線列点文	2422
31 須恵器・長筒壺	1～3層	外面：ロクロナデ→斜梳ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	—	(8.8)	—	一部	大戸産。体下部に耳形燒台の痕跡。内面に自然釉	2428
32 須恵器・壺	1～3層	内外面：ロクロナデ 底部：ロクロナデ→高台彫付→ナデ	—	8.6	—	一部	短段産。内外面に自然釉	2443
33 須恵器・瓦	1～3層	外面：斜梳ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	—	7.5	—	一部	大戸産	2446
34 須恵器・小空壺	カクラン	外面：ロクロナデ→斜梳ケズリ→高台彫付→ナデ 内面：ロクロナデ	—	(4.4)	—	一部	大戸産	2461
35 須恵器・壺	1～3層	外面：ロクロナデ→平持ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	—	3512
36 須恵器・横瓶	1～3層	外面：斜梳ヘラケズリ→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	—	2432
37 須恵器・短頸壺	1～3層	外面：[口] 耳コナデ [体] ヘラケズリ 内面：ナデ→ヘラケズリ 底部：ヘラケズリ	11.4	8.6	10.2	1/2	土師器取組面を模倣	2456
38 須恵器・甕	1～3層	—	—	—	—	一部	—	2430
39 須恵器・甕	1～3層	外面：ロクロナデ→沈灰・縞線列点文 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	—	2439
40 須恵器・甕	1～3層	外面：平行タタキ 内面：同心円状アテ具	—	—	—	一部	—	2450
41 須恵器・中甕	1～3層	外面：ロクロナデ→カキメ→ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	—	(15.2)	—	一部	胴部下にヘラ書き「1」	2424

図版590 L区遺構外出土遺物3



No.	品種	層位	調整	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
42	須恵瓦・ 円形瓦	I～III層	外面：ロクロナデ 内面：カキメ	(16.2)	—	—	一部	方形スカシノ植物文	2429
43	須恵瓦・円形瓦	I～III層	—	—	—	—	一部	環状転用	3438
44	須恵瓦・円形瓦	I～III層	—	—	—	—	一部	環状転用	3450
45	須恵瓦・円形瓦	I～III層	—	—	—	—	一部	環状転用	3451
46	須恵瓦・円形瓦	I～III層	—	—	—	—	一部	環状転用	3437
47	赤埴土器・ 小皿	I～III層	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→コシ仕上げ 底面：回転糸切り	(10.2)	5.2	2.4	2/3	—	3434
48	赤埴土器・ 小皿	I～III層	内外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り	(9.2)	(3.8)	1.7	1/2	—	3435
49	灰釉陶器・ 埴	I～III層	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	脇投産	2442
50	灰釉陶器・ 埴	I～III層	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ→無釉 底面：回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	(16.4)	(7.6)	4.8	一部	脇投産。K14 築式期	2425
51	灰釉陶器・ 埴	I～III層	カクラン 内外面：ロクロナデ 底面：回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	—	(6.6)	—	一部	脇投産。K00 築式期	2450
52	灰釉陶器・ 埴	I～III層	内外面：ロクロナデ	—	(7.4)	—	一部	脇投産。K00 築式期。内面に重ね 焼きの痕跡	2423
53	灰釉陶器・ 埴	I～III層	外面：回転ヘラケズリ 内面：無釉 底面：切離し不明→回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	—	—	—	一部	脇投産。K14 築式期	3448
54	灰釉陶器・ 小皿	I～III層	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	脇投産。把手付	2435
55	青銅・ 銅	I層	内外面：ロクロナデ→青銅 外面文様：織蓮竹文	—	—	—	一部	中国・龍泉原産	2452
56	陶器・ 壺	I～III層	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	瀬戸産	2433
57	土器・ 徳利	I～III層	外面：ナデ→格子タタキ 内面：ナデ	—	(6.2)	—	一部	在地産	2419
58	陶器・ 甕	I～III層	外面：ナデ 内面：タタキ→ナデ	—	—	—	一部	笠浦産	2437

図版591 L区遺構外出土遺物 4



八幡・伏石地区の全景（北西から） 中央右は平成25年度調査のJ区

宮城県文化財調査報告書第246集

山王遺跡Ⅶ

—三陸沿岸道路建設に伴う八幡・伏石地区発掘調査報告書—

第2分冊 F区、G区、J区、L区の調査編

平成30年3月12日印刷

平成30年3月14日発行

発行 宮城県教育委員会

〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号

印刷 東北プリント

〒980-0822 宮城県仙台市青葉区立町24-24
